岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第716集

杉の堂遺跡発掘調査報告書

一般国道 397 号小谷木橋地区地域連携道路整備事業
関連遺跡発掘調査

2020

岩手県県南広域振興局土木部
(公財)岩手県文化振興事業団

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発に当たっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本書は、一般国道397号小谷木橋地区地域連携道路整備事業に関連して平成29年度に行われた奥州市杉の堂遺跡の発掘調査成果報告書です。今回の調査により、縄文時代～平安時代の遺構・遺物が見つかりました。縄文時代では、晩期の墓域、貯蔵域、竪穴建物群、掘立柱建物群が確認されました。また、本遺跡は縄文時代晩期の拠点的集落として既に知られていましたが、その解釈を補完する資料が大量に出土したことも特筆されます。奈良～平安時代では複数の竪穴建物を調査しました。なかでも平安時代の竪穴建物から、当時の高級陶器である緑釉陶器、「寺」、「館」、「舘」、「寛」等の文字のある墨書土器や「西」の刻書土器が出土し、高級官人に関わる施設が隣接地区に存在する可能性が出てきました。これらの成果は、奥州市の縄文社会や古代社会を考察する上で貴重な資料と思われます。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県県南広域振興局土木部をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和２年３月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長　高　橋　嘉　行

例　言

1　本報告書は、岩手県奥州市水沢佐倉河字杉の堂23-1ほかに所在する杉の堂遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2　本遺跡の調査は、「一般国道397号小谷木橋地区地域連携道路整備事業」に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課と岩手県県南広域振興局土木部との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　本遺跡の調査成果の概略は、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第709集『平成29年度発掘調査報告書』に公表しているが、本書の内容を優先するものとする。

4　本遺跡の岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡コード番号並びに遺跡略号は、以下のとおりである。

番号：ＮＥ27-0100　略号：ＳＤ-17

5　本遺跡の調査次数は40次である。

6　本遺跡の調査期間・調査面積（調査対象面積）・担当者は、以下のとおりである。

野外調査

年度	野外調査期間	調査面積	担当者
平成29年度	平成29年6月16日～ 平成29年10月13日	1,160㎡	米田　寛・山川純一・白戸このみ

室内調査

年度	室内整理期間	担当者
平成29年度	平成29年9月1日～ 平成30年3月31日	米田　寛・山川純一・白戸このみ
平成30年度	平成30年6月1日～ 平成31年3月30日	村上絵美

7　野外調査での遺構写真撮影は調査担当者、遺物写真撮影は当センターの写真撮影を専門とする期限付職員が担当した。

8　本報告書の執筆は、Ⅰ章1節を岩手県県南広域振興局土木部が、Ⅱ章を山川、Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ章を村上・米田・山川・白戸で分担執筆し、編集は村上が担当した。

9　出土遺物の鑑定・分析・保存処理は以下の機関・個人に委託した。

AMS炭素年代測定分析 …… （株）加速器分析研究所
炭化種子同定分析 …… 古代の森研究舎
黒曜石分析 …… （株）第四紀地質研究所
石質鑑定 …… 花崗岩研究会
動物遺存体同定 …… 佐々木　務（岩手県教育委員会）
赤色顔料成分分析 …… （株）第四紀地質研究所
炭化材同定 …… 阿部利吉（前岩手県木炭協会）
金属製品保存処理 …… （株）吉田生物研究所

10　石器実測・トレース作業の一部を（株）ラングに委託した。

11　本遺跡の調査及び本書作成に際し、以下の方々の協力を得た（敬称略、順不同）。

高橋千晶・朴沢志津江・重森直人（奥州市教育委員会）、佐久間賢・佐藤良和・遠藤栄一（一般財団法人奥州市文化振興財団埋蔵文化財調査センター）

12　本書で用いた地図は以下のとおりである。

国土交通省国土地理院１：50,000地形図「北上」（ＮＪ-54-14-13）・「水沢」（ＮＪ-54-14-14）

13　本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

凡　　例

１　図版構成

図版は遺構、遺物ともに種類ごとに掲載した。土製品の一部は表掲載のみとした。遺物番号は図版と写真図版とも同一番号とした。

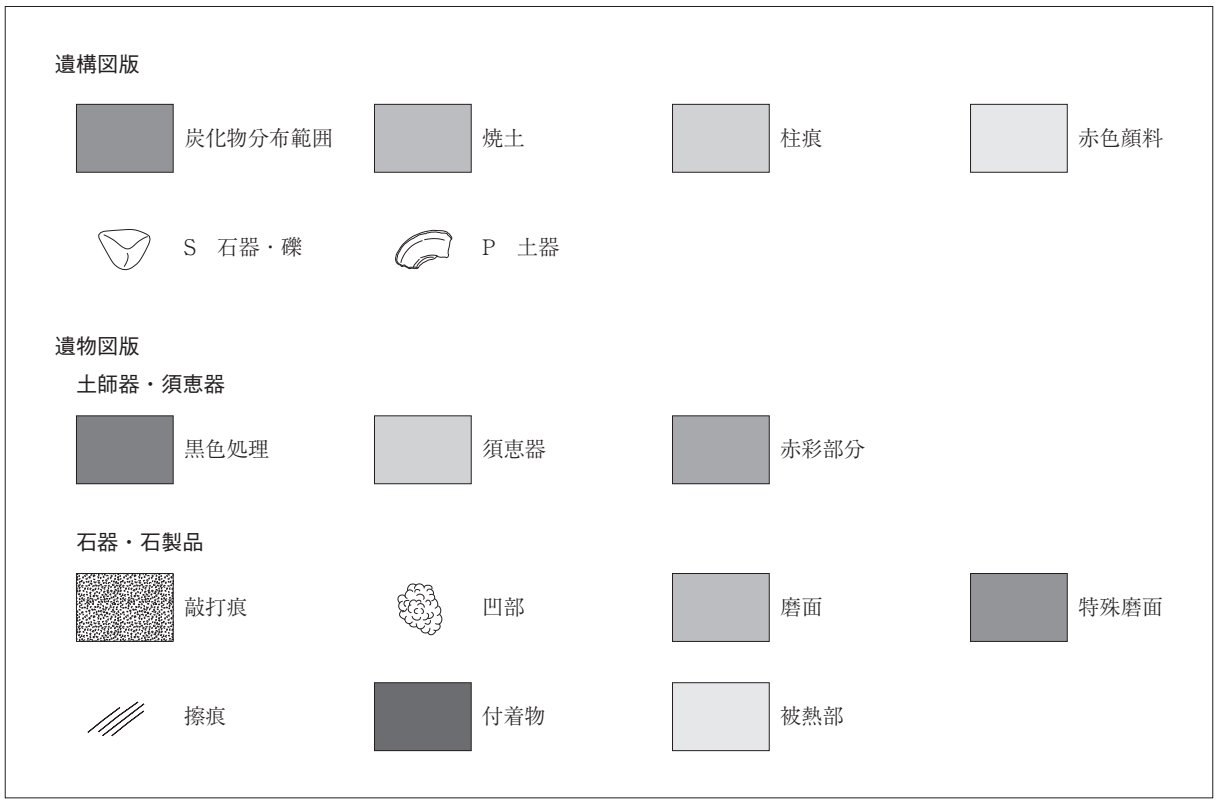
２　図版縮尺

Ａ）遺構図版　遺構平面・断面は１/50を基本とし、版面にスケールを付した。カマドや炉跡の拡大図及び焼土遺構は１/30、土器埋設遺構は１/20で統一した。

Ｂ）遺物図版　縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、礫石器：１/３、土製品、鉄製品：１/２、剥片石器：２/３で掲載した。小形、大形の遺物に関しては個別に縮尺を設けスケールを付した。

Ｃ）写真図版　遺構は縮尺不定である。遺物は図版縮尺とほぼ同縮尺で掲載している。

３　図中に使用した記号とアミ掛け濃度の凡例は以下のとおりである。それ以外については図版ごとに凡例を示している。



本文目次

Ⅰ　調査に至る経過

1　調　査　経　緯 …… 1

2　調　査　経　過 …… 1

Ⅱ　立　地　と　環　境

1　遺　跡　の　位　置 …… 3

2　地　理　的　環　境 …… 3

3　歴　史　的　環　境 …… 6

Ⅲ　調査・整理の方法

1　野　外　調　査 …… 21

2　室　内　整　理 …… 21

Ⅳ　検出遺構と出土遺物

1　概　　要 …… 31

2　基　本　土　層 …… 31

3　遺　　構 …… 32

（1）竪　穴　建　物 …… 32
（2）掘　立　柱　建　物 …… 52
（3）溝　　跡 …… 58
（4）土　坑　類 …… 60
（5）炉　　跡 …… 87
（6）焼　土　遺　構 …… 88
（7）土器埋設遺構 …… 93
（8）性格不明遺構 …… 96
（9）柱　穴　状　土　坑 …… 98
(10) 遺　物　包　含　層 …… 111

4　遺　　物 …… 124

（1）縄文～弥生土器 …… 124
（2）土師器・須恵器 …… 129
（3）陶　磁　器 …… 131
（4）土　製　品 …… 132
（5）石　　器 …… 134
（6）金属製品・鉄滓 …… 150
（7）動　物　遺　存　体 …… 150

Ⅴ　自然科学分析

1　放射性炭素年代（AMS測定）…… 339

2　炭化種実同定…… 342

3　黒曜石分析…… 346

4　Ｘ線回析試験及び化学分析試験…… 355

Ⅵ　総　　括

1　縄文～弥生時代 …… 367

（1）本次調査の成果概要 …… 367
（2）遺　　構…… 367
（3）出土遺物と包含層の形成について…… 370

2　奈良～平安時代 …… 371

（1）奈良時代の遺構と遺物 …… 371
（2）平安時代の遺構と遺物 …… 372

報告書抄録 …… 521

図版目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　遺跡範囲と既調査区 …… 4
第３図　地形分類図 …… 7
第４図　表層地質図 …… 8
第５図　周辺の遺跡 …… 14
第６図　調査区位置図 …… 23
第７図　グリッド配置・区割図 …… 24
第８図　遺構配置図、調査区地形図 …… 25
第９図　遺構分布図（１）…… 26
第10図　遺構分布図（２）…… 27
第11図　遺構分布図（３）…… 28
第12図　遺構分布図（４）…… 29
第13図　遺構分布図（５）…… 30
第14図　基本土層 …… 31
第15図　SI08 …… 33
第16図　SI13 …… 35
第17図　SI14 …… 37
第18図　SI15 …… 38
第19図　SI01 …… 40
第20図　SI02 …… 41
第21図　SI03 …… 43
第22図　SI04 …… 43
第23図　SI04 …… 45
第24図　SI05 …… 45
第25図　SI06 …… 47
第26図　SI07a …… 48
第27図　SI07b …… 49
第28図　SI10 …… 51
第29図　SB01 …… 53
第30図　SB02 …… 54
第31図　SB03 …… 54
第32図　SB04 …… 55
第33図　SB05 …… 57
第34図　SB06 …… 57
第35図　SD01 …… 59
第36図　SD02 …… 59
第37図　SK01～08 …… 61
第38図　SK09～14・P1 …… 65
第39図　SK15～20 …… 67
第40図　SK22～27 …… 71
第41図　SK28～33 …… 73
第42図　SK34～39 …… 77
第43図　SK40～45 …… 79
第44図　SK47・49・54・57・59～62 …… 83
第45図　SK65・67・69～74 …… 85
第46図　SL02 …… 89
第47図　SN01～04 …… 89
第48図　SN05～07 …… 91
第49図　SN01～06全体図 …… 91
第50図　SR01・02 …… 94
第51図　SR03・04 …… 95
第52図　SX01～04・06 …… 97
第53図　P40～50・86・90・92 …… 99
第54図　P87～89・91・93～101・104・161 …… 100
第55図　柱穴状土坑分布図（１）…… 102
第56図　柱穴状土坑分布図（２）…… 103
第57図　柱穴状土坑分布図（３）…… 104
第58図　柱穴状土坑分布図（４）…… 105
第59図　柱穴状土坑分布図（５）…… 106
第60図　遺構外土器類重量分布図 …… 112
第61図　分類別土器出土状況（１）…… 125
第62図　分類別土器出土状況（２）…… 127
第63図　土製品の出土状況 …… 132
第64図　石鏃平面類型 …… 135
第65図　石器の出土状況（１）…… 145
第66図　石器の出土状況（２）…… 146
第67図　石器の出土状況（３）…… 147
第68図　石器の出土状況（４）…… 148
第69図　ギバチ関節長・全長相関図 …… 150
第70～91図　縄文遺構内出土遺物（１）～（22）
…… 151～172
第92～114図　縄文遺構外出土遺物（１）～（23）
…… 173～195
第115図　古代土器（１）…… 196
第116図　古代土器（２）…… 197
第117図　古代土器（３）・陶器・金属製品 …… 198
第118図　古代土器（４）…… 199
第119図　古代土器（５）…… 200
第120図　古代土器（６）…… 201
第121図　古代土器（７）・陶磁器 …… 202
第122～125図　土製品（１）～（４）…… 203～206
第126～152図　遺構内出土石器（１）～（27）
…… 207～233
第153～205図　遺構外出土石器（１）～（53）
…… 234～286
第206図　時期別遺構分布図（縄文～弥生）…… 368
第207図　土坑分布図 …… 369
第208図　時期別遺構分布図（奈良・平安）…… 372

表　目　次

第１表　調査一覧 …… 5
第２表　周辺の遺跡一覧 …… 15
第３表　遺構名一覧 …… 22
第４表　基本土層観察表 …… 31
第５表　SI08土層観察表 …… 33
第６表　SI13土層観察表 …… 35
第７表　SI14土層観察表 …… 37
第８表　SI15土層観察表 …… 38
第９表　SI01土層観察表 …… 41
第10表　SI02土層観察表 …… 41
第11表　SI03土層観察表 …… 43
第12表　SI04土層観察表 …… 45
第13表　SI05土層観察表 …… 45
第14表　SI06土層観察表 …… 47
第15表　SI07土層観察表 …… 49
第16表　SI10土層観察表 …… 51
第17表　SB01土層観察表 …… 53
第18表　SB02土層観察表 …… 54
第19表　SB03土層観察表 …… 55
第20表　SB04土層観察表 …… 55
第21表　SB05土層観察表 …… 57
第22表　SD01土層観察表 …… 59
第23表　SD02土層観察表 …… 59
第24表　SK01～08土層観察表 …… 61
第25表　SK09～14・P01土層観察表 …… 65
第26表　SK15～20土層観察表 …… 67
第27表　SK22～27土層観察表 …… 71
第28表　SK28～33土層観察表 …… 73
第29表　SK34～39土層観察表 …… 77
第30表　SK40～45土層観察表 …… 79
第31表　SK47・49・54・57・59～62土層観察表 83
第32表　SK65・67・69～74土層観察表 …… 85
第33表　SL02土層観察表 …… 89
第34表　SN01～04土層観察表 …… 89
第35表　SN05～07土層観察表 …… 91
第36表　SR01・02土層観察表 …… 94
第37表　SR03・04土層観察表 …… 95
第38表　SX01～04・06土層観察表 …… 97
第39表　P40・41土層観察表 …… 101
第40表　P42～50・86・90・92土層観察表 …… 101
第41表　P87～89・91・93～101土層観察表 …… 101
第42表　P104・161土層観察表 …… 101
第43表　柱穴状土坑一覧 …… 107
第44表　出土地点別土器重量集計 …… 113
第45表　出土地点別石器出土数一覧 …… 117
第46表　器種別掲載率一覧 …… 134
第47表　石器の分類 …… 144
第48表　石器の石質 …… 149
第49表　動物遺存体出土遺構一覧 …… 150
第50表　縄文・弥生土器観察表 …… 287
第51表　古代土器観察表 …… 311
第52表　陶磁器観察表 …… 315
第53表　金属製品観察表 …… 315
第54表　土製品観察表 …… 316
第55表　石器観察表 …… 319
第56表　動物遺存体観察表 …… 337
第57表　土坑一覧 …… 369

写真図版目次

カラー写真図版１　遺跡遠景、調査区遠景 …… 377
カラー写真図版２　SI08a、舟形土製品 …… 378
カラー写真図版３　竪穴建物出土遺物 …… 379
カラー写真図版４　墨書土器、緑釉陶器 …… 380
写真図版１　作業風景、遺物包含層近景、基本土層 …… 381
写真図版２　調査区完掘・全景 …… 382
写真図版３　調査区完掘・全景 …… 383
写真図版４　SI08a・08b、SI13 …… 384
写真図版５　SI08a・08b …… 385
写真図版６　SI08b …… 386
写真図版７　SI08a・08b、SI13 …… 387
写真図版８　SI08 …… 388
写真図版９　SI14 …… 389
写真図版10　SI14 …… 390
写真図版11　SI15 …… 391
写真図版12　SI15 …… 392
写真図版13　SI01 …… 393
写真図版14　SI01 …… 394
写真図版15　SI02 …… 395
写真図版16　SI03 …… 396
写真図版17　SI03 …… 397
写真図版18　SI04 …… 398
写真図版19　SI05 …… 399
写真図版20　SI06 …… 400
写真図版21　SI06 …… 401
写真図版22　SI07a、SI10 …… 402
写真図版23　SI07a・07b、SI10 …… 403
写真図版24　SB01 …… 404
写真図版25　SB01 …… 405
写真図版26　SB02 …… 406
写真図版27　SB03 …… 407
写真図版28　SB04 …… 408
写真図版29　SB05 …… 409
写真図版30　SB06、SD02 …… 410
写真図版31　SD01、SD02、SK01・02 …… 411
写真図版32　SK03～07 …… 412
写真図版33　SK06～10 …… 413
写真図版34　SK11～14 …… 414
写真図版35　SK15～19 …… 415
写真図版36　SK19・20・22・23・25 …… 416
写真図版37　SK24～27 …… 417
写真図版38　SK27～31 …… 418
写真図版39　SK31～34 …… 419
写真図版40　SK34～38 …… 420
写真図版41　SK39～42 …… 421
写真図版42　SK42～45・47 …… 422
写真図版43　SK49・54・57・59 …… 423
写真図版44　SK59～62・65 …… 424
写真図版45　SK65・67・69～71 …… 425
写真図版46　SK71～74、SL02 …… 426
写真図版47　SN01～05 …… 427
写真図版48　SN01～04 …… 428
写真図版49　SN04～06 …… 429
写真図版50　SN06・07、SR01・02 …… 430
写真図版51　SR02～04、SX01・02 …… 431
写真図版52　SX02～04・06、遺構外遺物出土状況 …… 432
写真図版53　遺構外遺物出土状況、現地説明会 …… 433
写真図版54～72　縄文遺構内出土土器（１）～（19） …… 434～452
写真図版73～88　縄文遺構外出土土器（１）～（16） …… 453～468
写真図版89　古代土器（１） …… 469
写真図版90　古代土器（２）・陶器・金属製品 …… 470
写真図版91・92　古代土器（３）・（４） …… 471・472
写真図版93　古代土器（５）・陶磁器 …… 473
写真図版94・95　土製品（１）・（２） …… 474・475
写真図版96～107　遺構内出土石器（１）～（12） …… 476～487
写真図版108～138　遺構外出土石器（１）～（31） …… 488～518
写真図版139　動物遺存体 …… 519

Ⅰ　調査に至る経過

1　調　査　経　緯

「杉の堂遺跡」は「一般国道397号小谷木橋地区地域連携道路整備事業」の施工に伴い、その事業区域内に存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道397号は、岩手県大船渡市を起点とし、奥州市を経由して秋田県横手市に至る岩手県内陸南部を横断する幹線道路であり、東北自動車道釜石秋田線等を補完する道路として、三陸復興道路整備事業における復興支援道路に位置付けされている。奥州市水沢の小谷木橋は、架橋から60年以上が経過し老朽化が著しいほか、幅員が狭く大型車のすれ違いが困難な交通隘路となっており、地震等により度重なる損傷を受けていることから、本工区の整備により、災害に強く円滑な交通を確保するものである。

当事業の施工に係る「杉の堂遺跡」の取扱いについては、県南広域振興局土木部から、平成28年９月５日付県南広土第309号、「一般国道397号小谷木橋地区地域連携道路整備事業における埋蔵文化財の発掘調査について（依頼）」により、岩手県教育委員会に対して試掘調査依頼を行った。

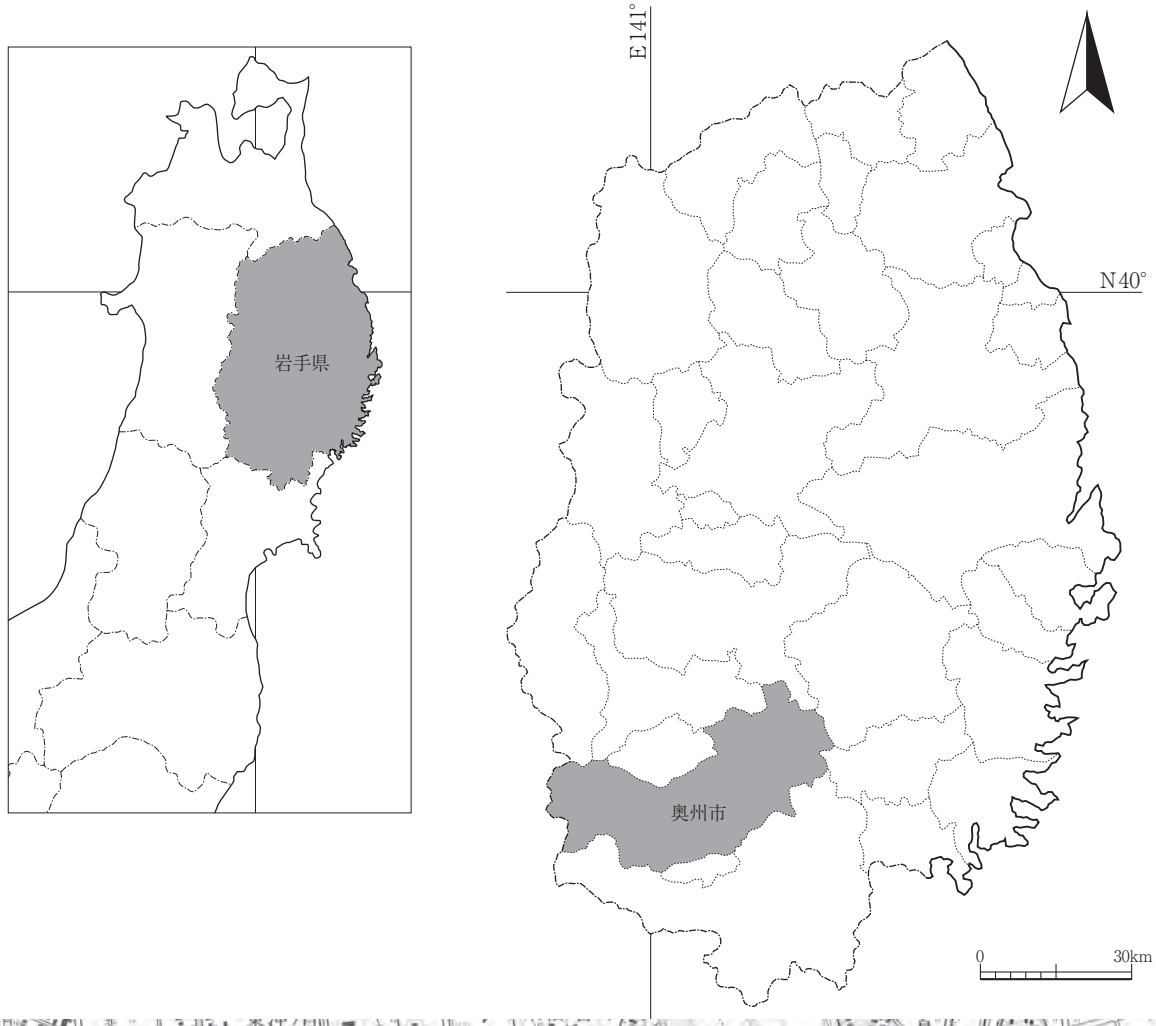
依頼を受けた岩手県教育委員会は、杉の堂遺跡について平成28年９月28日に試掘調査を実施し、工事着手するには、「杉の堂遺跡」の発掘調査が必要となる旨を、平成28年10月11日付教生第1021号、「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により、当土木部へ回答された。

その結果を踏まえて、当土木センターは岩手県教育委員会と協議・調整し、平成29年６月14日付で公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、「杉の堂遺跡」の発掘調査を実施することとなったものである。　（岩手県県南広域振興局土木部）

2　調　査　経　過

本遺跡は周知の遺跡として数多く調査が行われ、今回が第40次調査にあたる。野外調査は平成29年６月16日に開始し、1,160㎡の調査を行った。調査地は南流する北上川西岸に位置し、特に縄文時代晩期と奈良～平安時代の集落に係る遺構が密集する。また、1985年刊行の第５次調査報告書（集計上は第６次調査となる）記載のトレンチ調査範囲が今回の調査区と重なる。当時確認調査が行われた縄文晩期の遺構は今次調査で再検出し、完掘した。

現況は建物基礎、舗装道路、畑地等であった。表土掘削後に現れた遺構は、調査区西側に縄文晩期土壙墓群と古代竪穴建物群、調査区中央にフラスコ状土坑群、調査区東側に縄文晩期竪穴建物群と掘立柱建物群、古代竪穴建物等である。土捨て場を東側に設置し、そこから最も遠い調査区西側の遺構から調査を行った。遺跡の調査成果の一端は、９月９日に周辺住民を対象とした現地説明会で公表し、当日120名の来場者を得た。９月25日には岩手県教育委員会生涯学習文化財課、岩手県県南広域振興局土木部、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる終了確認検査が行われ、調査範囲1,160㎡を終了し、10月13日に撤収した。室内整理は９月１日より多量の土器・石器の遺物洗浄、仕分けから開始し、平成29年度は平成30年３月31日まで、平成30年度は平成30年６月１日から平成31年３月31日まで行った。



25,000 分の 1 「水沢」

第 1 図　遺跡位置図

Ⅱ　立 地 と 環 境

1　遺 跡 の 位 置

杉の堂遺跡（第２・５図①＜以下〇付番号は図版番号を省略＞、第２表）は、岩手県奥州市水沢佐倉河字杉の堂・神明町二丁目、東日本旅客鉄道東北本線水沢駅の東約1.6㎞に所在する。

奥州市水沢地区は、岩手県南部、奥羽山脈と北上山地に挟まれ、南流する東北最長の大河北上川と東流する中小の河川によって開析された低地帯である。県庁所在地盛岡までは約65㎞の距離にあり、北は胆沢郡金ケ崎町、東は奥州市江刺地区、南は同前沢地区、西は同胆沢地区と境を接している。市街地は北上川と胆沢川の合流点にも近く、南北に東北新幹線・東北本線・東北縦貫自動車道・国道４号が、東西に国道343号および397号が走っており、胆江地区（旧胆沢・江刺郡域）の交通の要衝、中心的役割を果たす。

遺跡は、東西約600ｍ・南北約500ｍの範囲に及ぶ、縄文（早期～晩期）・弥生（中期）・古墳（後期）・奈良・平安時代、近世の集落跡である。国土地理院の５万分の１地形図「水沢」（NJ-54-14-14）図幅に含まれ、遺跡の中心は北緯39° 08′ 15″・東経141° 09′ 54″（世界測地系）付近にあたる。西側に接して縄文・奈良・平安時代、中世の集落・城館である跡呂井遺跡群（跡呂井遺跡②・跡呂井中陣場遺跡③・跡呂井館遺跡④・蛇塚遺跡⑤・常盤小学校遺跡⑥の総称）、南側に接して縄文（中・晩期）・弥生（中期）・奈良・平安時代の集落である熊之堂遺跡⑦がある。

今回（第40次調査）の調査区（第１・２図）は、北緯39° 08′ 08″・東経141° 09′ 58″（世界測地系）付近に位置する。現地表の標高は40～43ｍ、東方約300ｍを南流する北上川との比高約10ｍである。水沢花園町・神明町から佐倉河字杉の堂・真城字熊野堂へと続く段丘崖には多数の湧泉があり、周辺には縄文時代以来、数多くの集落が形成された。水沢段丘上位面の表層土が１ｍ前後と薄く、地質も細砂からシルト質の土壌であり、また地下水位が低いことから水田耕作に適さない土地であるとされ、改田による破壊から免れた。遺跡の現況は、宅地、果樹園（リンゴ畑）となっているところが多い。

2　地 理 的 環 境

本遺跡の所在する奥州市水沢地区の地形は、北上川縦谷（中央部）、北上山地西部の丘陵地帯（東部）、胆沢扇状地（西部）に３大別される。

南流する北上川の流路は低地帯の東側に偏り、また北上川に注ぐ支流のうち大きな河川の殆どが奥羽山脈に源をもつことから、扇状地や段丘の発達は奥羽山脈に接する西側で良好である。これらの扇状地は北上川の支流で開析され、発達した河岸段丘や扇状地、河岸平野および起伏量の小さい丘陵地が互いに入り組む構造となっている。

中央部の北上川縦谷は、北上川の河成段丘面で、姉体低地と段丘崖下に広がる北上川の沿岸低地からなる。

東部は北上山地が近くに迫る丘陵地帯で、標高90ｍ以上の浸食面と標高50～90ｍの段丘面が認められ、多くの小支谷によって分断されている。

西部の胆沢扇状地は、奥羽山脈の隆起と胆沢川の浸食・堆積によって形成された。胆沢若柳、市野々を扇頂部とし、扇長約18㎞、扇端幅約19㎞、面積約200㎢である。段丘は、高位段丘（大歩段丘、一

第２図　遺跡範囲と既調査区

第1表　調査一覧（1）

調査次数	調査年	調査主体	時代（時期）	遺　構	遺　物	文献
1	1959	桜井清彦・杉山荘平	縄文（晩期）	遺物包含層	縄文土器、石器、土製品（土偶・土器片製円盤）、石製品（石製円盤）	(097)
2	1960	桜井清彦・杉山荘平	縄文（晩期）	遺物包含層	縄文土器、石器、土製品（土偶・土器片製円盤）、石製品（垂飾）、骨器	(097)
3	1980	水沢市教委	縄文（晩期）	土坑14、埋甕1、配石遺構3	縄文土器、土製品（土偶）、獣骨	(123)
			平安	竪穴建物1	土師器	
			不明	溝1、柱穴1	—	
4	1981	水沢市教委	縄文（晩期）	竪穴建物2、土坑12、埋甕1	縄文土器、石器、石製品（石冠）	(125)
				遺物包含層	縄文土器、石器、石製品（勾玉）	
5	1981	水沢市教委	奈良・平安	竪穴建物17、土坑25、溝2、焼土遺構6	土師器、須恵器、土製品（紡錘車）、石製品（砥石）、鉄製品	(134)
			中世	土坑	陶器（常滑窯産）	
6	1982	水沢市教委	縄文（晩期）	竪穴建物1、土坑9	縄文土器、石器、土製品（土器片製円盤）	(128)
			不明	土坑5、柱穴3	—	
7	1983	水沢市教委	—	なし	縄文土器、石器、土師器、須恵器	(131)
8	1984	水沢市教委	平安	竪穴建物2	土師器、須恵器	—
9	1986	水沢市教委	奈良	竪穴建物2、土坑2	土師器、須恵器、土製品（紡錘車）、石製品（砥石・紡錘車）	(136)
			平安	竪穴建物2、土坑1	土師器、須恵器、須恵系土器、石製品（砥石）、鉄製品	
			不明	土坑6、柱穴状ピット6	—	
10	1987	水沢市教委	平安	竪穴建物2	土師器、須恵器	(138)
			不明	土坑1	土師器	
11	1988	水沢市教委	平安	竪穴建物1	土師器、須恵器	(140)
12	1991	水沢市教委	平安	竪穴建物4、溝状遺構1	土師器、須恵器、須恵系土器	(145)
			不明	土坑1	—	
13	1995	水沢市埋文	平安	竪穴建物4、	土師器、須恵器	(172)
			不明	土坑14、溝1、柱穴状ピット30	—	
14	1996	水沢市埋文	奈良	竪穴建物7	土師器、須恵器、石製品（砥石）	(173)
			平安	竪穴建物3、カマド状遺構2	土師器、須恵器、須恵系土器	
			不明	溝2、土坑3	—	
15	1997	水沢市教委	奈良	竪穴建物1	土師器、須恵器	(155)
			平安	竪穴建物3、溝1	土師器、須恵器、石製品（砥石）	
			不明	竪穴建物状遺構1、平地式建物硬化面？1、溝2、土坑3、柱穴状ピット11	—	
16	1997	水沢市埋文	奈良	竪穴建物1、土坑1	土師器、鉄製品（刀子）	(174)
			平安	竪穴建物3、土坑2	土師器、須恵器	
			不明	焼土遺構1、土坑4、性格不明遺構1、柱穴状ピット37	土師器、須恵器	
17	1998	水沢市教委	奈良	竪穴建物2	土師器、須恵器	(157)
			平安	竪穴建物1、土坑2	土師器、須恵系土器	
			不明	土坑1、柱穴状ピット3	なし	
18	1998	水沢市埋文	奈良	竪穴建物3、井戸1	土師器、須恵器、土製品（勾玉）	(176)
			平安	竪穴建物1、井戸1	土師器、須恵器	
			不明	土坑5、溝1	須恵器	
19	1998	水沢市埋文	縄文（後期）	土坑38	縄文土器、石器、土製品（土偶・耳飾り・腕輪状土製品・土器片製円盤）、石製品（石製円盤）	(074)
			奈良	竪穴建物3、柱列1、土坑2	土師器、須恵器、土製品（紡錘車・羽口）、鉄滓	
			平安	竪穴建物3、土坑6	土師器、須恵器、須恵系土器、土製品（土錘）、石製品（砥石・盲孔のある礫）、鉄製品（刀子）	
			不明	掘立柱建物1、土坑13、柱穴状ピット1	—	
20	1999	水沢市教委	奈良	竪穴建物1、竪穴状遺構1、土坑1	土師器、須恵器、須恵系土器	(159)
			平安	竪穴建物3、溝1、土坑3	土師器	
			不明	溝4、土坑16、柱穴状ピット群	土師器	
21	1999	水沢市教委	縄文（後期）	土坑28	縄文土器、石器、土製品（土器片製円盤）、石製品（円盤）	(159)
			奈良	竪穴建物3、掘立柱建物1、集石1	土師器、土製品（小玉）、石製品（砥石）、鉄製品（刀子・環状鉄製品）	
			平安	竪穴建物7、土坑7	土師器、須恵器、土製品（土錘・紡錘車）、石製品（砥石）、鉄製品（刀子・紡錘車）、鉄滓	
			中世・近世	溝1	古銭、骨片	
			不明	土坑21	—	
22	2000	水沢市教委	奈良	竪穴建物8	土師器、須恵器、土製品（紡錘車）、鉄製品（刀子）	(161)
			平安	竪穴建物5、竪穴状遺構3、溝状遺構1	土師器、須恵器、須恵系土器、鉄製品（紡錘車・刀子・鉄鏃）、銅製品（銙帯金具巡方）、鉄滓	
			不明	竪穴状遺構3、土坑15、溝状遺構2	—	
23	2002	水沢市教委	奈良	竪穴建物2、柱穴状ピット1	土師器	(165)
			平安	竪穴建物2、掘立柱建物3、土坑4、柱穴状ピット1	土師器、須恵器、須恵系土器、緑釉陶器、かわらけ、スサ入り粘土片	
			不明	竪穴状遺構2、土坑8、溝1、柱穴状ピット88	—	
24	2002	水沢市教委	縄文（後期）	土坑9	縄文土器、石器、土製品（土偶・鐸形土製品・土器片製円盤）、石製品（円盤）	(168)
			奈良	竪穴建物5	土師器、須恵器、鉄製品（鉄鏃）	
			平安	竪穴建物2	土師器、須恵器	
			不明	竪穴建物1、土坑29、溝3、柱穴状ピット28	—	
25	2002	岩手県文振	古墳	竪穴建物1	土師器、土製品（紡錘車）	(034)
			奈良	竪穴建物8、遺物集中区1	土師器	
			平安	竪穴建物15、竪穴状遺構4	土師器、須恵器、鉄製品（小刀・鉄鏃）、炭化種子	
			12世紀後半	方形周溝3	かわらけ、陶器（常滑窯産）	
			不明	竪穴状遺構2、土坑7、溝1、柱穴状ピット29	—	

第1表　調査一覧（2）

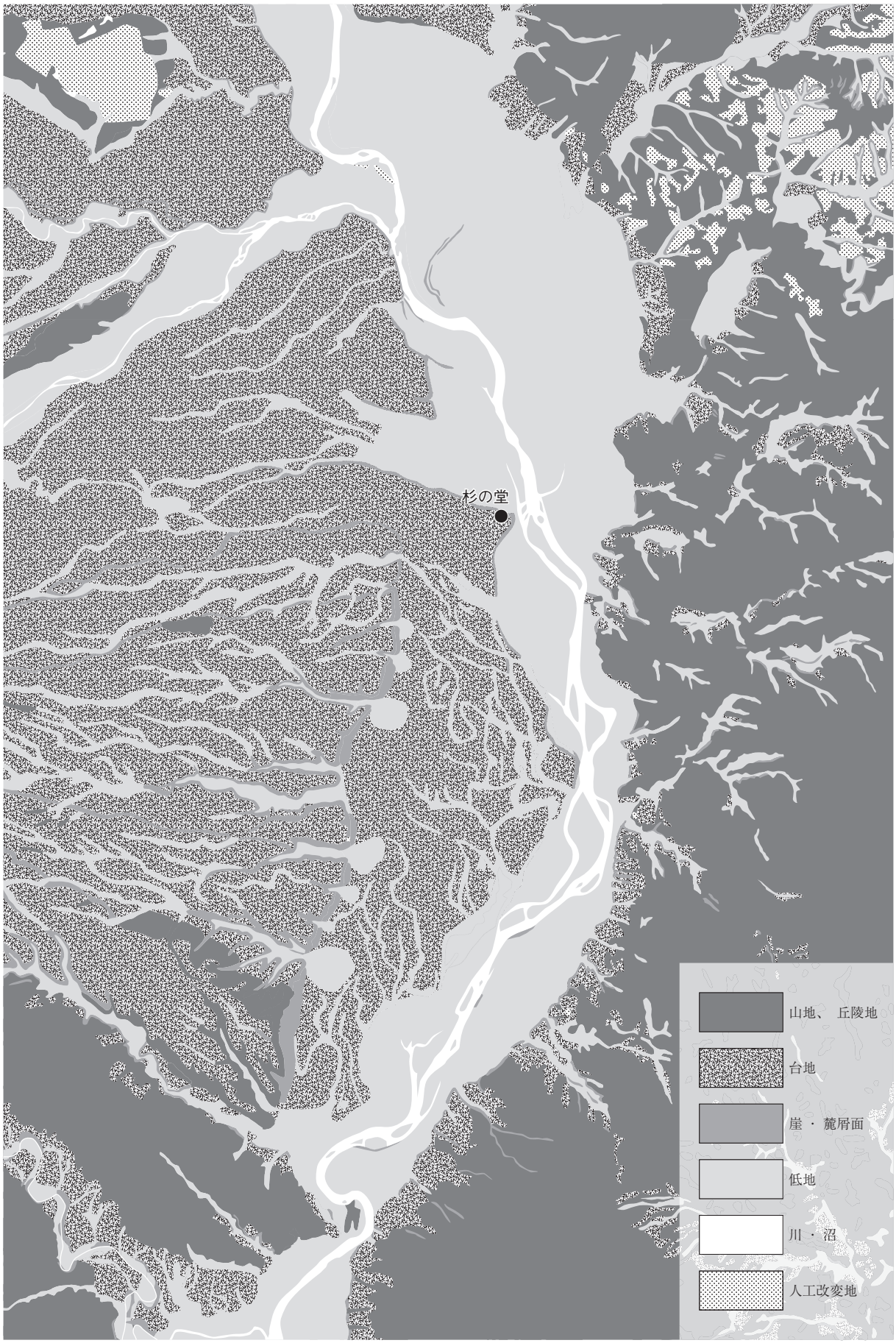
調査次数	調査年	調査主体	時代（時期）	遺　構	遺　物	文献
26	2003	水沢市教委	奈良	竪穴建物3	土師器、須恵器、土製品（勾玉）	(166)
			平安	竪穴建物1、土坑1	土師器	
			不明	土坑1	—	
27	2003	岩手県文振	不明	土坑2、溝11、柱穴状ピット39	—	(037)
28	2003	水沢市教委	奈良	竪穴建物2	土師器	(061)
			平安	竪穴建物8、土坑2	土師器、須恵器、須恵系土器、製塩土器、石製品（砥石）、焼粘土塊	
			不明	竪穴建物2、土坑2	—	
29	2004	水沢市教委	縄文（晩期）	遺物包含層1	縄文土器、石器	(062)
			奈良	竪穴建物2	土師器、須恵器、土製品（紡錘車）	
			平安	竪穴建物4、土坑3	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑優陶器、土製品（土錘·勾玉）、鉄製品（釘·刀子·器種不明）、焼粘土塊	
			不明	土坑5、溝1、柱穴状ピット2	—	
30	2004	水沢市教委	平安	竪穴建物3、溝2、焼土遺構1、性格不明遺構1	土師器、須恵器、須恵系土器、製塩土器、石製品（砥石）	(168)
			不明	性格不明遺構1、溝3、土坑6、柱穴状ピット11	—	
31	2004	岩手県文振	縄文	—	縄文土器·石器	(039)
			平安	土坑1、土器埋設遺構1	土師器·須恵器	
			不明	土坑15、ピット37	—	
32	2009	奥州市教委	奈良·平安	竪穴建物6	土師器·須恵器	—
			不明	土坑6、溝1	縄文土器、石器、土師器、須恵器	
33	2010	奥州市教委	奈良	竪穴建物1	土師器、須恵器、土製品（紡錘車·勾玉）	(064)
			平安	竪穴建物6、性格不明遺構4、土坑3、溝2、柱穴状ピット44	土師器、須恵器、須恵系土器、製塩土器、鉄製品（釘？·刀子·鉄鏃？）、石製品（磨石）、鉄滓	
			不明	性格不明遺構1、土坑1	—	
34	2011	奥州市教委	縄文（晩期）	土坑13	縄文土器、石器、土製品（土偶）、石製品（勾玉）、炭化種子、骨片	—
			平安	竪穴建物1、土坑2	土師器、須恵器	
35	2012	奥州市教委	縄文（中期）	掘立柱建物1、土坑3	縄文土器、石器	—
			奈良	竪穴建物4	土師器	
			奈良·平安	材木柱塀1	—	
			平安	溝2	土師器	
			不明	溝、土坑	—	
36	2013	奥州市教委	奈良	竪穴建物2	土師器、須恵器	—
			平安	竪穴建物1、土坑	土師器、須恵器、緑釉陶器	
			不明	溝、土坑、柱穴状ピット	—	
37	2015	奥州市教委	近世？	塚1	—	—
38	2016	奥州市教委	縄文（後期）	土坑2	縄文土器	—
			奈良	竪穴建物3	土師器、須恵器	
			不明	竪穴状遺構4、土坑5、柱穴状ピット16	—	
39	2017	奥州市教委	縄文	土坑1	—	—
			古代	竪穴建物2		
			不明	土坑、柱穴状ピット		
40	2017	岩手県文振	縄文（早期）	—	縄文土器	
			縄文（中期）	竪穴建物1	縄文土器	
			縄文（晩期）	竪穴建物4、掘立柱建物5、焼土6、炉1、土坑、柱穴状ピット、遺物包含層	縄文土器、石器、土製品（土偶·土版·舟形土製品）、石製品（垂飾）、人骨、鹿角、魚骨、炭化種実	
			奈良	竪穴建物3	土師器	
			平安	竪穴建物6	土師器、須恵器、緑釉陶器、鉄製品（鋌）	
			不明	性格不明遺構5、柱穴状ピット	—	

首坂段丘）、中位段丘（西根段丘、胆沢段丘＜高位から上野原段丘·横道段丘·堀切段丘·福原段丘＞）、低位段丘（水沢段丘＜高位から上位面・下位面＞）の9つに区分されている。また、姉体地区から前沢区白鳥川に至る地区は、国道4号線西方の段丘から流出する小河川による開析が進み、無数の沖積地を形成するとともに削り残された多くの微高地が存在する。低位段丘は、高・中位段丘を取り巻くように北と南、扇端部に広がり、末端には浸食崖を形成する。その堆積物は胆沢川から北股川·衣川、さらに北上低地帯にまで及んでいる。

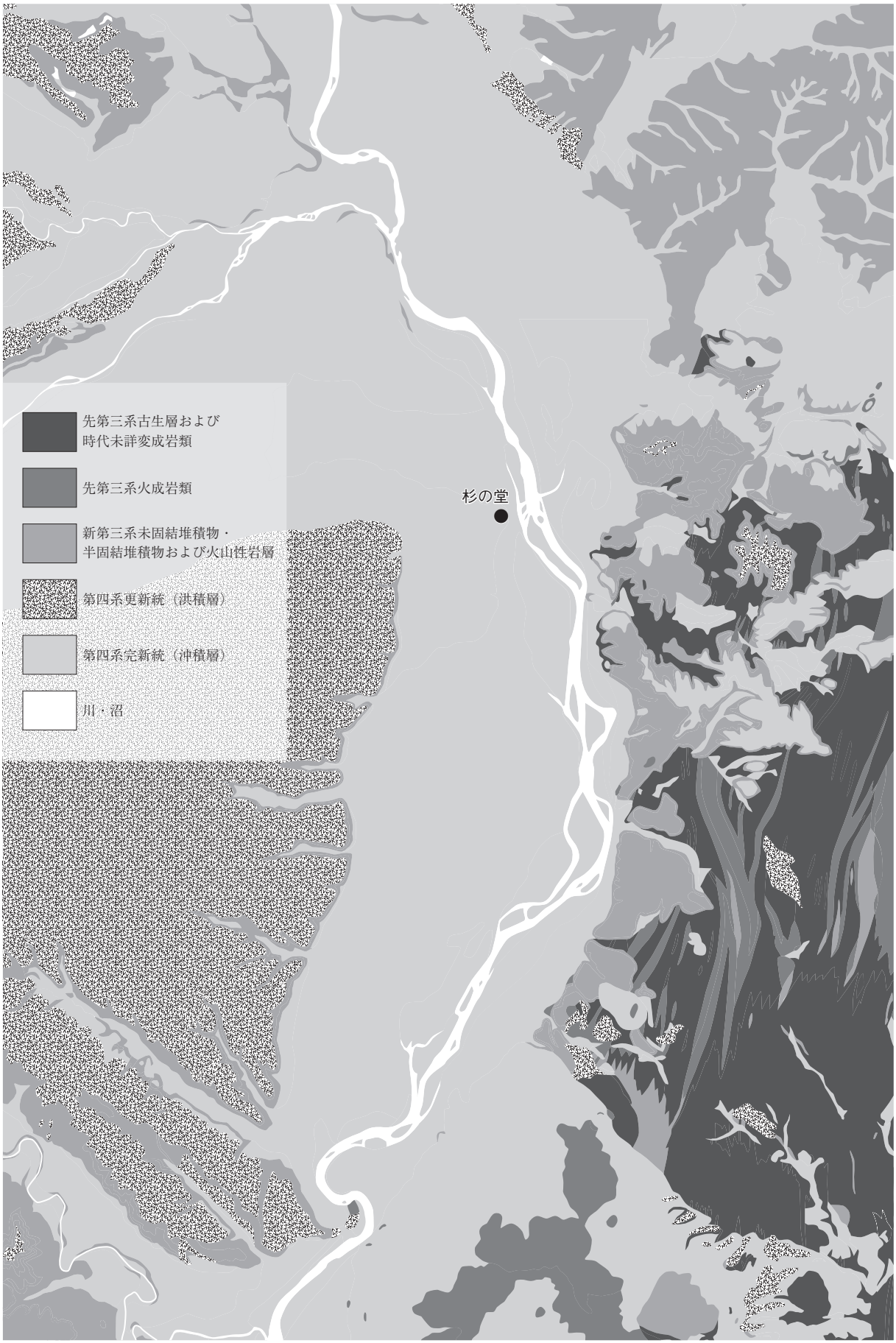
杉の堂遺跡は、北上川西岸の河岸段丘（水沢段丘上位面）上に立地している。

3　歴 史 的 環 境

本遺跡の所在する奥州市水沢地区には、平成28年12月31日現在、326か所の遺跡が登録されている。そのうち最も多いのが平安時代（215か所）、ついで縄文時代（99か所）、中世（48か所）である（岩手県教育委員会　2017）。



第３図　地形分類図


先第三系古生層および
時代未詳変成岩類
先第三系火成岩類
新第三系未固結堆積物・
半固結堆積物および火山性岩層
第四系更新統（洪積層）
第四系完新統（沖積層）
川・沼
杉の堂

第４図　表層地質図

後期旧石器時代前半期の遺跡としては、胆沢扇状地中位段丘にある胆沢地区上萩森遺跡・二の台長根遺跡、低位段丘にある前沢地区水尻遺跡・鵜ノ木遺跡があり、台形石器と打面残置のナイフ形石器が出土している。現在の編年学的研究成果では、後期旧石器時代の前半と後半に分けられる時期頃に降下した姶良・丹沢火山灰（ＡＴ）が約25,000 ～ 26,000yBP（30,000CalyBP）とされており、これらの石器群はそれよりも確実に古い。

また、後期旧石器時代後半期のいわゆる「真正の石刃技法」を保有している石器群は、胆沢扇状地中位段丘にある胆沢地区岩洞堤遺跡・下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡や北上川東岸の前沢地区生母宿遺跡でその存在が明らかとなっている。

縄文時代早期から中期にかけての遺跡分布は胆沢扇状地の上位・中位段丘面を中心とし、次第に山麓、丘陵地帯に拡大・散在する。胆沢地区大清水上遺跡からは、前期後葉（大木５式期）の集落で遺構がまったく存在しない直径約20ｍの中央広場を取り囲むように、長さ10ｍ以上の大形竪穴建物の多くが、その長軸を中央広場の中心部へ向けて直径約110ｍの環状に配置され、さらにその外側には小形竪穴建物や主に貯蔵穴と想定される土坑が確認されている。その他には早期の水沢地区駈上遺跡（第５図⑧＜以下○付番号は図版番号を省略＞）、前期･中期の水沢･胆沢両地区にまたがる中島遺跡⑨、早期～中期の水沢地区鵜ノ木住吉遺跡⑩などがある。また本遺跡①でも早期後半の土器が出土しており、本書で報告する。

後・晩期では低位段丘面への進出が見られ、氾濫原や小河川沿いの自然堤防上にも遺跡が分布するようになる。晩期では本遺跡①が著名であり、今回の調査までに39次にわたって調査が行われ、段丘縁辺に居住域、墓域が区別された集落構造が明らかにされた。水沢地区中半入遺跡からは旧河道周辺から晩期中葉～弥生時代初頭の捨て場が確認され、付近に居住域があることが推測される。また、前沢地区川岸場Ⅱ遺跡からは晩期～弥生時代中期の遺物が出土している。

弥生時代の遺跡は全体に縄文時代に比較し非常に希薄になるが、水田として利用可能な沖積地へと分布が広がっていく。水沢地区常盤広町遺跡⑪は、昭和29年に行われた調査でアメリカ式石鏃を副葬した合口甕棺、管玉・ガラス玉を伴う竪穴建物が確認され、岩手県の弥生時代後期を代表する遺跡として知られてきた。平成元・６年の調査では平安時代の水田遺構の下位から弥生時代の水田が確認されている。また、胆沢地区清水下遺跡では水路改修工事中に粘板岩製の石包丁が２点出土している。共伴土器は不明だが弥生時代中期の可能性があるとされている。この他、常盤広町遺跡、江刺地区兎Ⅱ遺跡⑫では中・後期の籾痕を有する土器が出土しており、沖積地や低位段丘面の後背湿地において広く水稲耕作が行われ農耕を基盤とする弥生文化が浸透していたことは確実である。一方後期の土器が出土する遺跡は胆沢地区下尿前Ⅱ遺跡（報告書刊行時は下尿前Ⅳ遺跡と呼称）など山地～丘陵地帯にも分布し、水稲耕作を基盤とする集落以外に生業をやや異にする集団の痕跡がある。

弥生時代後期以降に東北北半で顕著になる続縄文文化の所産と考えられる遺跡は、岩手県では北上川上流域以北に集中する。当地方（北上川中流域）においては胆沢地区石田Ⅰ・Ⅱ遺跡で後北Ｃ２式土器、中半入遺跡で後北Ｃ２・Ｄ式、北大Ⅰ式土器、胆沢地区沢田遺跡で北大Ⅰ式土器が出土しているが分布は非常に少なく、まとまった遺構も確認されていない。

一方、古墳時代の集落は集中して分布する。竪穴建物が確認されている遺跡としては、古墳時代前期の水沢地区高山遺跡、中半入遺跡、中期の水沢地区西大畑遺跡⑬･面塚遺跡⑭、中半入遺跡がある。これらは胆沢扇状地北端の低位段丘下位面～上位面の低平な地域に集中しており、後背湿地を農耕基盤としていると考えられる。中半入遺跡では、中期後半の堀・柵列で方形に区画された内部から竪穴建物１棟が確認されている。いわゆる「首長居館」と見る向きもあるが、部分的な調査でもあること

から議論が分かれている。

また中期には、現状では日本最北の前方後円墳である胆沢地区角塚古墳が築造される。全長45ｍ、後円部は２段築成で上段に葺石があり、テラスには埴輪列が確認されている。墳丘形態、埴輪の特徴から仙台平野・大崎平野に分布する古墳と密接な関連をもっていることが指摘されている。

後期に入ると相対的に遺跡数は減少し、７世紀後半に至って急激に増加する傾向がある。遺跡の分布は低位段丘や沖積地周辺の自然堤防上に限られる。この時期、低位段丘の地下水位上昇に伴う集落域の変更を余儀なくされたために低地への進出が一時的に衰退した可能性がある。６世紀代で調査された遺跡には、水沢地区膳性遺跡⑮・中半入遺跡、石田Ⅰ・Ⅱ遺跡・沢田遺跡などが挙げられる。前代の立地から継続していると捉えられるが、資料数は少なく未詳である。なお、沢田遺跡からは５世紀末～６世紀の墳墓や土坑墓が確認されている。

７世紀代は畿内勢力の影響が強い地域では、「飛鳥時代」と呼ばれているが、関東以北では従来の研究にしたがい古墳時代後期後半と認識するのが一般的である。当地域の７世紀前半は小規模な遺跡が散見される程度で数も少ないが、７世紀後半から８世紀にかけては集落数も増加していく。この時期は岩手県全域にわたって竪穴建物複数棟から構成される集落が激増するとされる。胆沢扇状地周辺でも従来の段丘縁端部に加えて沖積低地や段丘面内部、北上川東岸の沖積地にも進出し、数多くの遺跡が認められるようになる。水沢地区膳性遺跡・今泉遺跡⑯、金ケ崎町上餅田遺跡・西根遺跡⑰など、規模が大きく且つ数時期にわたって継続する遺跡の調査例が集中している。

８世紀が主体の遺跡としては、水沢地区玉貫遺跡⑱・東大畑遺跡⑲・石田遺跡⑳などがある。これらの遺跡ではほぼ同時期の存在と捉えられる建物数が10棟近くに上り、鉄製農工具類、紡錘車などの出土が普遍的である。集落構造については、建物相互の格差が生じることが特徴となる。膳性遺跡では圭頭太刀柄頭、須恵器高坏を出土した特大規模の建物が存在するなど、遺物の保有量が多く規模の大きい竪穴建物を核として数棟の建物群からなる構成が取られ、社会の階層化と世帯共同体の長を軸とする蝦夷農耕集落の発展を裏付けるものとされている。また、石田Ⅰ・Ⅱ遺跡では、７世紀後半～８世紀の竪穴建物53棟が確認され、その複数から須恵器・馬具・多量の土師器（須恵器模倣坏・透かし孔を有する高坏など）が出土している。一般集落ではこれらの遺物量は少なく、胆沢扇状地内において有力な集落であったと考えられている。

集落数の増加と対応するように、いわゆる「末期古墳」が数多く築造される。金ケ崎町西根（縦街道）古墳群、胆沢地区蝦夷塚古墳群、水沢地区見分森古墳群などが調査されており、７世紀後半～８世紀が主体であるという年代が与えられている。

８世紀後半から９世紀初頭にかけ、当地域は律令政府と蝦夷によって争われたいわゆる「三十八年戦争」の主要な舞台となり、大きく混乱した。その戦乱終結とほぼ時を同じくして、延暦21（802）年、坂上田村麻呂によって軍事・行政の機能を併せ持つ東北支配の拠点として胆沢城㉑（水沢地区）が造営された。外郭の一辺が約670ｍの築地とその内溝・外溝により四辺が囲まれ、それをおよそ十分割した位置に外郭外溝が外側に張り出し門や櫓などが存在する。城内の中央やや南よりには一辺90ｍほどに区画された政庁とその周辺に官衙ブロックがある。以後約150年にわたってこの地を支配しており、この地域の平安時代は胆沢城を中心に発展していったといっても過言ではない。

胆沢城が造られた９世紀初頭以降は集落数が増加して居住域も広がり、同時に集落の形態が大きく変化する。奈良時代までの自然発生的な集落ではなく、計画村落（水沢地区林前＜林前Ⅰ㉒・林前南舘㉓・林前Ⅱ㉔＞遺跡・南矢中遺跡㉕、江刺地区落合遺跡㉖・力石Ⅱ遺跡㉗など）が見られるようになり、規模も大集落よりは中小の集落が中心となる。遺跡の分布も古墳時代以降、低位段丘上位面を

中心だったものが、この時期になると中位段丘、高位段丘にまで広がるようになる。集落の変化と同時に生産に関わる遺跡の増加もみられるようになる。農業生産の面では江刺地区後中野遺跡㉘・宮地遺跡㉙・林遺跡㉚などで畠が、常盤広町遺跡・中半入遺跡からは水田が確認されている。律令体制に伴う高度な土木技術の導入などによる可耕地の拡大が背景にあると推測される。また須恵器・瓦の生産も行われるようになり、官窯とされる江刺地区瀬谷子窯跡や水沢地区見分森窯跡・外浦洗田遺跡（窖窯）㉛などが築かれ、胆沢城などに供給された。また、前沢地区明後沢遺跡㉜からは胆沢城、瀬谷子窯跡群と同笵関係にある瓦が大量に出土している。古くから城柵説、窯跡説、寺院説などの仮説がたてられ、東北古代史研究において重要視されてきた。これまでの調査により、平安時代の集落と粘土採掘坑が確認されている。

10世紀後半頃になり、胆沢城の機能が失われるとともに在庁官人である安倍氏が台頭してくるとされる。これと軌を一にするように周辺遺跡の様相も不明確になる。金ケ崎町鳥海柵跡㉝は、空堀・掘立柱建物などが調査されており、その成立年代は、出土した土器の宮城県植田前遺跡・多賀城跡などとの比較・検討から11世紀前半で、安倍宗任の居館と考えられている。しかし、胆沢城が衰退する10世紀後半から鳥海柵の成立とされる11世紀前半までの遺構・遺物がほとんど認められないことから、胆沢城との関連があるのか否かという問題は依然残されている。安倍氏は「六箇郡の司」として奥六郡を事実上支配していたが、頼良（のちに頼時と改名）の時、領域の南関である衣川を越え南方に進出したとして朝廷と対立し、出羽山北の清原氏の援軍を得た国軍との争い（前九年合戦＜1051～1062年＞）の末、滅亡する。

約20年後、清原氏の内紛に端を発した後三年合戦（1083～1087年）が勃発した。陸奥国守源義家の助力もあり清原清衡が勝利し、父の姓である藤原に復姓し平泉藤原氏の初代となった。江刺郡豊田館㉞（江刺地区）から磐井郡平泉館（平泉町）に本拠を移し、中尊寺を中心とする「都市」の建設を推し進めた。その支配領域は奥六郡の境であった衣川を越え、白河以北の多賀国府の管轄領域を含む陸奥・出羽両国（東北全域）に及んだ。

当地域のこの時代の遺跡には、前沢地区白鳥舘遺跡がある。丘陵部は安倍頼時の子である白鳥八郎の館として築かれ、室町時代まで存続したといわれている。低地部の微高地上には掘立柱建物群、工房群、倉庫と推定される竪穴建物、北上川と旧白鳥川の合流点に向かうと見られる道路などの遺構があり、この一帯が12～14世紀に地点を移動しながら手工業生産が継続していた中世前期の川湊であると考えられている。かわらけ焼成窯、鍛冶工房の存在に加え、銅塊や粘板岩片、水晶製の数珠玉が出土しており、土器、鉄製品のほかに銅製品、石製品の製作・加工が行われていたと想定される。周辺からは多数の中国産・国産陶磁器のほか銭なども出土し、平泉の外周部からとしては遺物にまとまりがある。このような在り方は、中世の川湊遺跡に共通して見られるという。また、前沢地区明後沢遺跡から大規模な掘立柱建物が、前沢地区八反町遺跡から掘立柱建物と道路が確認された。この道路は、奥大道の枝道であり、明後沢（この地域の有力者の居所）・集落・川湊（近世六日入河港の中世版）を結んでいたと推測されている。平泉藤原氏による治世は初代清衡、2代基衡、3代秀衡と続いたが、文治5（1189）年、4代泰衡のとき、鎌倉幕府を開いた源頼朝によって滅ぼされた（奥州合戦）。

その後、陸奥国は鎌倉幕府の統治下となり、岩手県南部から宮城県北部を拝領したのは葛西氏であった。そのなかで伊沢郡を実質的に支配していたのは、金ケ崎町柏山館（大林城）を居城とする柏山氏である。柏山館跡は東西最長約1,300ｍ・南北最大幅約500ｍ・総面積約390,000㎡、当地方最大規模を持ち、南西高位部の城域は堀が巡り、北東低位部の城下を含め全体が段丘崖や切岸で囲まれた総構えの城館である。また、前沢地区中畑城跡は、「風土記御用書出」によると樫山館、また「仙台領古城

書上」には城主樫山彦三郎と記載されており、柏山（樫山）氏の一族が居城としていた可能性が高いとされてきた。近年の調査によって内堀に「畝堀」、外堀に「障子堀」を部分的に取り入れていたことが判明した。年代は出土した遺物から16世紀であり、岩手県内で確認されたのは柏山館跡を含め２例目である。一方、江刺郡は岩谷堂城（江刺地区）を居城とする江刺氏が支配していた。両氏はそれぞれ譜代の家臣を小領主として各地に配置して所領を治めた。

やがて在地領主化した各氏は、主家（葛西氏）以上の勢力を持つようになり、領内で反乱・内乱が続発し、天正17（1589）年の豊臣秀吉による小田原征伐に参陣することができなかった。翌年、奥州仕置が行われ、小田原不参陣の諸氏は追放された。当地方は木村吉清の領地となり、胆沢郡（水沢）に松田太郎左衛門、江刺郡（岩谷堂）に溝口外記が配され統治される。しかし、重税を課すなど悪政を行ったため葛西・大崎一揆が勃発する。これを平定した伊達政宗は、その旧領を手にし、名実ともに東北の覇者となる。

胆江地区の中世後半から近世初頭の特徴として、いわゆる「豪族集落・環濠屋敷」の濃密な分布がある。水沢地区半入屋敷・十日市屋敷などが知られており、十日市屋敷は調査によって礎石建物・土塁・堀・祠・キズマ（薪を積み上げてつくった垣根＜塀＞）・エグネ（居久根＜防風屋敷林＞）からなる屋敷構造が明らかになっている。

中世末には胆沢扇状地の開拓､用水路開発が本格化したことにより仙台藩有数の穀倉地帯となった。扇状地の大部分は三堰・茂井羅堰・寿庵堰によって灌漑される。寿庵堰は元和２（1616）年、後藤寿庵によって､茂井羅堰はその構造や流路が柏山領内を通過することから寿庵堰より遡り､柏山氏によって開削された可能性が高いといわれている。

江戸幕府は一国一城を原則としたが、仙台藩は仙台城のほかに白石城が認められていたほか、政治的・地理的な重要性に応じて各地に要害・所・在所を置き、要所には重臣が配された。南部領との境である胆沢郡・江刺郡には、要害５か所が置かれた。水沢城（のちの水沢要害）㉟は天正年間に白石氏によって修築されたが、慶長６（1601）年の和賀の兵乱の際に登米に移封となる。その後、桑折氏、柴田氏、石母田氏と交代し、寛永６（1629）年に留守宗利（水沢伊達２代）が封ぜられ、以後、12代邦寧の明治維新に至るまで240年間、１万６千石を領し北方警護の重任にあたった。現在に残る町割の設定、留守氏に関係する寺社の水沢への移転、北の盛岡藩に対する折衝、キリシタン対策、百姓一揆対策、胆沢平野の開拓と新田開発、鋳物・漁網・漆・炭焼き・牧畜などの産業奨励、北上川舟運、市日市場の設定･水沢商人の育成、奥州街道･秋田仙北街道の整備、郷学の開設による藩内子弟の教育、寺子屋奨励などの政策が打たれ、現在の水沢の気風の基が形づくられた。金ヶ崎要害には白石氏、桑折氏の後、元和２（1616）年、留守宗利が封ぜられるが、寛永６（1629）年に水沢要害に転封となり、大町氏と交代した。また、岩谷堂要害には、天正19（1591）年に桑折氏、その後、母帯・古田・増田・藤田・古内の各氏と交代し、万治２（1659）年に岩城宗規が封ぜられた。さらに、口内要害（北上市）には瀬上・小梁川・藤田・田手・古内各氏を経て中嶋氏、人首要害（江刺地区）には沼辺氏が配置された。所は、胆沢郡･江刺郡それぞれ１か所ずつ２か所に置かれた。前沢所（前沢地区）は大内･成田･飯坂各氏ののち三沢氏が、野手崎所（江刺地区）は大立目氏ののち中務氏が封ぜられた。これら要害・所の周囲には小城下町が形成され、郷学（水沢の立生館、金ヶ崎の明興館、岩谷堂の比賢館、前沢の進脩館）も設けられた。特に立生館からは、いわゆる「水沢の三偉人」と称される高野長英･後藤新平･斎藤實をはじめ多くの人材が輩出された。

北上川沿岸は舟運で栄え､要所には河港･御蔵場があった｡西根（金ケ崎町）には胆沢郡上伊沢９カ村、下川原（江刺地区）には黒石村を除く江刺郡40カ村、瀬台野（水沢地区）には胆沢郡上伊沢14カ村・

下伊沢２カ村、六日入（前沢地区）には胆沢郡下伊沢12カ村・江刺郡１カ村（黒石村）・磐井郡東山７カ村の年貢（産物）が集積・収納された。当地からは米・麦・大豆・酒・漁網・葉藍・草履・煙管・櫛・温麺・味噌・醤油などが出荷され、石巻方面からは塩・木綿・衣類・陶器・石材（稲井石）・日用雑貨・塩干魚・昆布・甘藷・蜜柑などが入荷した。瀬台野河港のすぐ北側には御蔵場（正保２＜1645＞～享保３＜1718＞年）とその管理･警備にあたる郷士の屋敷群などからなる水沢地区町屋敷遺跡㊱がある。１・２次調査では、掘立柱建物27棟ほかが確認されており、間仕切りのみられない柱穴配置などから蔵である可能性が指摘されている。この御蔵場は北上川の東遷によって跡呂井河港・御蔵場に移された。前沢地区川岸場Ⅱ遺跡には、天正16（1588）年前後に「大室屋敷」と呼ばれた鈴木家の環濠屋敷があった。寛永19（1642）年、屋敷内に仙台藩の御蔵が置かれ、屋敷南側には大曲から移された（六日入）河港が設けられた。

慶応３（1867）年、大政奉還により江戸幕府が終わりを告げると、東北地方は翌年から始まる戊辰戦争に巻き込まれていく。仙台藩は奥羽越列藩同盟に加わり新政府軍と戦ったが敗北し、62万石から28万石に減封され、胆沢郡･江刺郡などは没収地として新政府の直轄地となった。その後、伊沢県、胆沢県、一関県、水沢県、磐井県などの行政区画の変遷を経て、明治９（1876）年、岩手県に編入された。

引用･参考文献

※教委＝教育委員会、岩埋文＝岩手県埋蔵文化財センター、岩文振埋＝岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は略して集数を記載

（001）相原康二 1992「古代の集落と生活－蝦夷の集落」『新版古代の日本』⑨東北･北海道 角川書店
（002）阿部惠彦 1984「水沢及びその周辺の地形･地質と土壌」『水沢の自然と文化Ⅰ』水沢市文化財調査研究年報1984 水沢市教委
（003）池田雅美 1966「胆沢扇状地における開拓過程の歴史地理的研究」『人文地理』18巻1号 人文地理学会
（004）池田雅美 1986『豪族集落の研究』大明堂
（005）胆沢町教委 2003『角塚古墳』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第28集
（006）伊藤博幸 1980「胆沢城と古代村落－自然村落と計画村落－」『日本史研究』215号 日本史研究会
（007）伊藤博幸 1987「七、八世紀エミシ社会の基礎構造」『岩手史学研究』第70号 岩手史学会
（008）伊藤博幸 1997「律令期村落の基礎構造－胆沢城周辺の平安期集落－」『岩手史学研究』第80号 岩手史学会
（009）伊藤博幸 2006「陸奥型甕･出羽型甕･北奥型甕－東北地方の平安期甕の製作技法論を中心に－」『陶磁器の社会史』吉岡康暢先生古希記念論集 桂書房
（010）伊藤博幸 2007「陸奥･出羽の須恵系土器･あかやき土器小論－王朝国家期における二系統の土器型式－」『古代蝦夷からアイヌへ』吉川弘文館
（011）岩手県企画調査部企画開発室（北上山系開発）1976『土地分類基本調査 北上（５万分の１）』
（012）岩手県教委 1957『胆沢城跡－水沢市所在－』文化財調査報告第４集
（013）岩手県教委 1959『長者原廃寺跡･胆沢城跡（第二報）』文化財調査報告第６集
（014）岩手県教委 1965『明後沢古瓦出土遺跡－前沢町古城所在古代城柵跡－』文化財調査報告第14集
（015）岩手県教委 1979「落合Ⅰ遺跡」『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅰ－』岩手県文化財調査報告書第33集
（016）岩手県教委 1980『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅳ－（宮地遺跡）』岩手県文化財調査報告書第48集
（017）岩手県教委 1980「落合Ⅱ遺跡」『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅵ－』岩手県文化財調査報告書第50集
（018）岩手県教委 1981「上餅田遺跡」･「西根遺跡」･「鳥海Ｂ遺跡」･「鳥海Ａ遺跡」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書（金ケ崎地区）－Ｘ－』岩手県文化財報告書第59集
（019）岩手県教委 1981「今泉遺跡」･「西大畑遺跡」･「南矢中遺跡」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅺ－（水沢地区）』岩手県文化財調査報告書第60集
（020）岩手県教委 1981『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅻ－（石田遺跡）』岩手県文化財調査報告書第61集
（021）岩手県教委 2017『岩手県遺跡･埋蔵文化財情報検索システム』バージョン1.05 DVD-ROM
（022）岩埋文 1979『主要地方道一関･北上線関連遺跡発掘調査報告書（力石Ⅱ遺跡･兎Ⅱ遺跡･落合Ⅲ遺跡･朴ノ木遺跡）』岩手県埋文センター文化財調査報告書第８集

⑰西根
㉝鳥海柵（弥三郎館）
⑱玉貫
㉑胆沢城（方八丁）
⑮膳性
⑯今泉
㉚林
㉙宮地
㉞豊田城（豊田館）
㉘後中野
㉖落合
⑫兎Ⅱ
㉗力石Ⅱ
⑭面塚
⑲東大畑
⑬西大畑
⑳石田
㉟水沢城（水沢要害）
⑪常盤広町
④跡呂井館（岩渕館）
⑤蛇塚
⑥常盤小学校
①杉の堂
③跡呂井中陣場
②跡呂井
㉛多浦洗田
⑧駈上
㉕南矢中
跡呂井遺跡群（②～⑥）
⑦熊之堂
㊱町屋敷
⑩鵜ノ木住吉
㉒林前Ⅰ
㉓林前南舘
㉔林前Ⅱ
⑨中島
㉜明後沢
0
1：50000
2km

第５図　周辺の遺跡

第２表　周辺の遺跡一覧（１）

第５図番号	遺跡名	時代（時期）	種別	遺　構	遺　物	文　献	備　考
①	杉の堂	縄文（早・中～晩期）、弥生（中期）、古墳（後期）、奈良～近世	集落跡	竪穴建物、竪穴建物状遺構、掘立柱建物、柱列、井戸、溝、土坑、埋甕、土器埋設遺構、配石遺構、集石、炉、カマド状遺構、焼土遺構、方形周溝、遺物包含層、柱穴状ピット	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、灰釉陶器、緑釉陶器、かわらけ、製塩土器、無釉陶器、土製品（土偶・土版・舟形・土器片製円盤・鐸形・勾玉・小玉・耳飾・腕輪状・錘・羽口・紡錘車）、石器、石製品（岩版・円盤・勾玉・垂飾・石冠・砥石・紡錘車）、鉄製品（釘・刀子・小刀・鏃・紡錘車）、鉄滓、銅製品（銙帯金具巡方・銭貨）、骨器、人骨、獣骨、鹿角、魚骨、炭化種実	(034)(037)(039)(061)(062)(064)(074)(097)(123)(125)(128)(131)(134)(136)(138)(140)(145)(155)(157)(159)(161)(165)(166)(168)(172)(173)(174)(176)	本書第２図、第１表参照
②	跡呂井	縄文、奈良、平安	集落跡	竪穴建物、掘立柱建物、柱列、溝、土坑、焼土遺構、柱穴状ピット	土師器、須恵器、須恵系土器、土製品（レンガ状）、石器、石製品（砥石）、鉄製品（鏃・紡錘車）、炭化種子	(037)(039)(155)(166)	—
③	跡呂井中陣場	奈良～中世	集落跡、城館跡	竪穴建物、掘立柱建物、柱列、溝、土坑、陥穴、焼土遺構、柱穴状ピット	土師器、須恵器、かわらけ、土製品（錘）、鉄製品	(068)(076)(136)(138)(142)	—
④	跡呂井館（岩渕館）	奈良～中世	集落跡、城館跡	竪穴建物、竪穴状遺構、柱穴状ピット	土師器、須恵器、土製品（紡錘車）、石製品（砥石）、鉄製品	(068)(149)	—
⑤	蛇塚	不明	塚跡	—	石製品（勾玉）	(147)	壊滅か
⑥	常盤小学校	奈良	集落跡	竪穴建物、溝、土坑、柱穴状ピット	土師器、須恵器、鉄製品	(142)(147)(157)(171)	—
⑦	熊之堂	縄文（中・晩期）、弥生（中期）、奈良、平安	集落跡	竪穴建物、溝、土坑、石組遺構、焼土遺構、柱穴状ピット	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土製品（勾玉）、石器、石製品（砥石）、鉄製品（刀子・鏃）	(132)(140)(142)(149)(165)	—
⑧	駈上	縄文（早期）	集落跡	竪穴建物、溝、土坑、陥穴、焼土遺構	縄文土器、石器	(126)	—
⑨	中島	縄文（前・中期）、古代	散布地	石囲炉	縄文土器、土師器、石器、炭化種実	(112)	—
⑩	鵜ノ木住吉	縄文（早～中・晩期）、古代	散布地	—	縄文土器、土師器、須恵器、石器、石製品（管玉）	(112)	—
⑪	常盤広町	弥生、奈良～近世	集落跡	溝、土坑、柱穴状ピット、水田	弥生土器、土師器、須恵器、無釉陶器、施釉陶器、土製品（土偶）、石器、石製品（管玉）	(061)(170)	—
⑫	兎Ⅱ	弥生、奈良、平安	集落跡	竪穴建物、溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、須恵系土器、土製品（錘）、石器、鉄製品（鎌・刀子）、鉄滓	(022)	—
⑬	西大畑	縄文（早・前期）、弥生（中期）、古墳、平安	集落跡	竪穴建物、掘立柱建物、溝、陥穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、須恵系土器、土製品（紡錘車）、石製品（砥石・管玉）、鉄製品（直刀）、銅製品（銭貨）	(019)	—
⑭	面塚	縄文（早・前期）、古墳～平安、近世	集落跡	竪穴建物、井戸、溝、土坑	縄文土器、土師器、須恵器、石器、石製品（紡錘車）、銅製品（銭貨）、木製品（漆器・櫛・数珠玉）	(134)(175)	—
⑮	膳性	縄文（晩期）、弥生（中・後期）、古墳～中世	集落跡	竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、溝、土坑、柱穴状ピット	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、須恵系土器、無釉陶器、青磁、白磁、土製品（土偶・勾玉・土玉・紡錘車）、石器、石製品（砥石・切子玉・琥珀玉・紡錘車）、鉄製品（鎌・刀子・斧・手斧・槍鉋・鏃・轡）、青銅製品（圭頭太刀柄頭）、銅製品（銭貨）	(024)(140)	—
⑯	今泉	古墳～平安	集落跡	竪穴建物	土師器、須恵器、須恵系土器、土製品（管玉・土玉・支脚・紡錘車）、石製品（垂飾・錘・砥石）、鉄製品（鎌・刀子・釘・釣針）	(019)	—
⑰	西根	縄文（後・晩期）、古墳～中世	集落跡	竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、古墳、溝、堀、土坑、柱穴状ピット	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、かわらけ、無釉陶器、灰釉陶器、褐釉陶器、白磁、土製品（土玉）、石器、石製品（切子玉）、鉄製品（鎌・刀子・鏃・鎹・釘・鋤先）、羽口、錫製品（環状鈴）、ガラス製品（小玉）、人骨	(018)(023)(077)(092)(093)	—
⑱	玉貫	奈良～中世	集落跡	竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、溝、陥穴、焼土遺構、柱穴状ピット	土師器、須恵器、かわらけ、無釉陶器、土製品（勾玉・紡錘車）、石製品（砥石・紡錘車）、鉄製品（鎌・刀子・手斧・釘・紡錘車・馬具・内耳鍋）、銅製品（銭貨）	(023)	—
⑲	東大畑	縄文（前期）、奈良、平安	集落跡	竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、溝、土坑、合口甕棺、柱穴状ピット	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、土製品（勾玉・土玉・紡錘車）、石器、石製品（砥石・勾玉・紡錘車未成品・石帯）、鉄製品（鎌・刀子・槍鉋状）	(025)(151)	—
⑳	石田	縄文（晩期）、弥生（中期）、古墳～平安、近世	集落跡	竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、柱列、溝、土坑、柱穴状ピット	縄文土器、弥生土器、続縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、かわらけ、陶器、磁器、土製品（円盤状・土玉・錘・紡錘車）、石器、石製品（砥石・岩版）、鉄製品（鎌・鋤先・刀子・鏃・馬具）、鉄滓、銅製品（銭貨）、獣骨、炭化種実	(020)	—

第２表　周辺の遺跡一覧（２）

第５図番号	遺跡名	時代（時期）	種別	遺　構	遺　物	文　献	備　考
㉑	胆沢城（方八町）	縄文（前・後・晩期）、古墳～近世	城柵跡、集落跡	竪穴建物、掘立柱建物、柱列、溝、土坑、道路、焼土遺構、柱穴状ピット、築地、集石遺構	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁、白磁、無釉陶器、かわらけ、磁器、瓦質土器、施釉陶器、漆紙文書、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、鬼瓦、土製品（錘・小玉・土玉・土器片製円盤・瓦片製円盤・羽口・土人形）、石器、石製品（砥石・紡錘車・碁石・石鉢）、木製品（椀・皿・蓋・箸・篦・俎・漆器・曲物・独楽・鍬・定木状・木簡・斎串・人形・剣形・刀形・鳥形・柱材・板材・井戸枠）、竹製品（敷物？）、鉄製品（釘・刀子・斧・鑿？・鋤先・鏃・轡）、鉄滓、銅製品（銭貨・鈴）、坩堝、繊維製品（麻布）、乾漆製品、炭化種実、獣骨	(012)(013)(060)(063)(065)(066)(067)(110)(111)(113)(114)(115)(116)(117)(119)(121)(122)(124)(127)(129)(130)(133)(135)(137)(139)(141)(143)(144)(146)(148)(150)(152)(154)(156)(158)(160)(162)(164)(167)	大正11年国指定史跡
㉒	林前Ⅰ	平安、中世	集落跡	竪穴建物、掘立柱建物、井戸、溝、土坑、焼土遺構、柱穴状ピット	土師器、須恵器、須恵系土器、無釉陶器、石器、石製品（砥石）、木製品（井戸枠）	(134)(138)(151)(153)	—
㉓	林前南舘	縄文（早・晩期）、弥生、平安、中世	集落跡、城館跡	竪穴建物、掘立柱建物、井戸、溝、陥穴、土坑、焼土遺構、柱穴状ピット	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、灰釉陶器、無釉陶器、土製品（錘・鈴・羽口）、石器、石製品（砥石・切子玉）、鉄製品（刀子・釘・穂摘具状・紡錘車）、鉄滓、銅製品（銭貨）	(120)(147)(155)(157)(163)(166)(178)	—
㉔	林前Ⅱ	旧石器～弥生、平安～近世	集落跡	竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、柱列、井戸、溝、陥穴、土坑、鍛冶遺構、畠	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、かわらけ、瓦質土器、中国産陶磁器、施釉陶器、磁器、土製品（錘・水滴・窯道具・羽口・鋳型）、炉壁、石器、石製品（砥石・鉢・硯）、鉄製品（刀子・釘）、鉄滓、銅製品（錫杖・銭貨・柄鏡・煙管）	(120)(179)	—
㉕	南矢中	縄文（早・中・晩期）、平安	集落跡	竪穴建物、陥穴、焼土遺構、方形周溝遺構	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、石器、石製品（円盤状・砥石・紡錘車）、鉄製品（刀子・穂摘具状）	(019)(134)	—
㉖	落合	弥生（中期）、奈良、平安	集落跡	竪穴建物、井戸、溝、土坑、柱穴状ピット、旧河道	弥生土器、土師器、須恵器、須恵系土器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、土製品（錘・羽口）、石器、石製品（砥石）、木製品（皿・椀・漆器椀・箸・曲物・鉤手・槌・槌の子・錘・紡錘車・浮子・下駄・竪杵・槽・転ばし・鋤・木簡）、鉄製品（釘・刀子・鋤先・穂摘具状・鏃）、銅製品（銭貨）、馬骨・馬歯、炭化米・炭化種子・炭化種実	(015)(017)(022)	落合Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを統合
㉗	力石Ⅱ	縄文、弥生、古代～近世	集落跡	竪穴建物	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、須恵系土器、土製品（錘・鈴・羽口）、石製品（砥石・石帯）、鉄製品（鎌・刀子・釘・鑿・鏃・穂摘具状・紡錘具）、鉄滓、銅製品（銭貨・煙管）	(022)	—
㉘	後中野	縄文、奈良	集落跡	畠	縄文土器、土師器、須恵器、石器	(050)	—
㉙	宮地	縄文、奈良～近世	集落跡	竪穴建物、掘立柱建物、井戸、溝、焼土遺構、方形周溝遺構、合口甕棺、溜池、柱穴状ピット	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、かわらけ、灰釉陶器、無釉陶器、土製品（錘・土玉・紡錘車・羽口・土人形）、石器、石製品（砥石・勾玉・切子玉・紡錘車）、鉄製品（鎌・刀子・釘・鑿・鋤・錐・鋲・針・鏃・紡錘車・鉸具・飾金具）、鉄滓、銅製品（銭貨）、金銅製品（鏑金具）、木製品（井戸枠）	(016)(051)(053)(055)(057)	—
㉚	林	奈良～近世	集落跡	竪穴建物、掘立柱建物、溝、土坑、炉、焼土遺構、畠	土師器、須恵器、須恵系土器、無釉陶器、施釉陶器	(056)	—
㉛	外浦洗田	平安	窯跡	窖窯	須恵器	(112)	—
㉜	明後沢	縄文（中・晩期）、弥生（後期）、平安～近世	集落跡、城館跡？	竪穴建物、掘立柱建物、柱列、溝、土坑、陥穴、粘土採掘坑、須恵器窯、土器焼成遺構、柱穴状ピット、鍛冶遺構、畠	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、須恵系土器、かわらけ、灰釉陶器、青磁、白磁、無釉陶器、施釉陶器、磁器、丸瓦、平瓦、軒丸瓦、軒平瓦、鬼瓦、土製品（鈴・羽口）、石器、石製品（砥石）、鉄製品（刀子・釘・鍋・鏃・紡錘車）、鉄滓、銅製品（鋺・銭貨・煙管）	(014)(033)(035)(103)(104)(108)	昭和38年岩手県指定史跡
㉝	鳥海柵（弥三郎館）	縄文、古墳～近世	城柵跡、集落跡	竪穴建物、竪穴状遺構、掘立柱建物、柱列、古墳、溝、堀、土坑、焼土遺構、配石遺構、柱穴状ピット、畠、沢	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、緑釉陶器、かわらけ、施釉陶器、磁器、土製品（鋳型）、石器、石製品（砥石・水晶）、鉄製品（釘・鎌・刀子・楔・紡錘車・鏃・鉸具）、鉄滓、銅製品（銭貨）、木製品（曲物・棒状）	(018)(023)(077)(079)(082)(083)(084)(085)(086)(087)(088)(089)(090)(092)(093)	平成25年国指定史跡
㉞	豊田城（豊田館）	縄文（晩期）、平安～近世	集落跡、館跡	竪穴状遺構、井戸、溝、土坑、鍛冶遺構、柱穴状ピット	縄文土器、土師器、須恵器、須恵系土器、青磁、施釉陶器、磁器、石器、石製品（砥石）、鉄製品（釘）、銅製品（銭貨）	(048)(052)(054)	—
㉟	水沢城（水沢要害）	中世～近世	城館跡	—	—	—	市街地化により詳細不明
㊱	町屋敷	縄文（早・中・晩期）、弥生（中期）、平安、近世	集落跡、御蔵場跡、屋敷跡	竪穴建物、掘立柱建物、柱列、溝、土坑、陥穴	縄文土器、弥生土器、土師器、かわらけ、無釉陶器、中国産陶器、施釉陶器、磁器、石器、銅製品（銭貨）	(177)	—

(023) 岩埋文 1981『金ケ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書(Ⅰ)－水沢市玉貫遺跡・金ケ崎町西根遺跡－』岩手県埋文センター文化財調査報告書第18集
(024) 岩埋文 1982『金ケ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書(Ⅱ)－水沢市膳性遺跡－』岩手県埋文センター文化財調査報告書第34集
(025) 岩埋文 1982「東大畑遺跡」『金ヶ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書(Ⅲ)』岩手県埋文センター文化財調査報告書第44集
(026) 岩埋文 1983『館山遺跡第２次発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集
(027) 岩埋文 1984「岩谷堂城跡」『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(昭和58年度分)』岩手県埋文センター文化財調査報告書第75集
(028) 岩文振埋 1996『柏山館跡発掘調査報告書』岩文振報第242集
(029) 岩文振埋 1996『松本館跡発掘調査報告書』岩文振報第256集
(030) 岩文振埋 1998『下尿前Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩文振報第269集
(031) 岩文振埋 2000『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振報第317集
(032) 岩文振埋 2002『中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書』岩文振報第380集
(033) 岩文振埋 2003『明後沢遺跡群発掘調査報告書』岩文振報第411集
(034) 岩文振埋 2004『杉の堂遺跡発掘調査報告書』岩文振報第425集
(035) 岩文振埋 2004『明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書』岩文振報第442集
(036) 岩文振埋 2004『中半入遺跡第２次発掘調査報告書』岩文振報第443集
(037) 岩文振埋 2004「杉の堂・跡呂井遺跡」『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成15年度)』岩文振報第455集
(038) 岩文振埋 2005『中半入遺跡第４次発掘調査報告書』岩文振報第465集
(039) 岩文振埋 2006『杉の堂遺跡第31次調査・跡呂井遺跡発掘調査報告書』岩文振報第473集
(040) 岩文振埋 2006『大清水上遺跡発掘調査報告書』岩文振報第475集
(041) 岩文振埋 2009『岩洞堤遺跡発掘調査報告書』岩文振報第531集
(042) 岩文振埋 2011『水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・四反田Ⅱ遺跡・古城方八町遺跡発掘調査報告書』岩文振報第587集
(043) 岩文振埋 2013『下嵐江Ⅰ遺跡・下嵐江Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振報第608集
(044) 岩文振埋 2013『八反町遺跡・中畑城跡発掘調査報告書』岩文振報第610集
(045) 岩文振埋 2014『沢田遺跡発掘調査報告書』岩文振報第626集
(046) 岩文振埋 2015『石田Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振報第632集
(047) 江刺市教委 1971『瀬谷子遺跡 第３次緊急調査報告』
(048) 江刺市教委 1995『平成６年度市内遺跡発掘調査報告書(豊田城遺跡)』江刺市埋蔵文化財調査報告書第12集
(049) 江刺市教委 1996『岩谷堂城跡発掘調査報告書』江刺市埋蔵文化財調査報告書第13集
(050) 江刺市教委 1996『平成７年度市内遺跡発掘調査報告書[後中野遺跡・愛宕梁川遺跡』江刺市埋蔵文化財調査報告書第14集
(051) 江刺市教委 1997『宮地Ⅱ遺跡発掘調査報告書(Ａ～Ｄ地区)』江刺市埋蔵文化財調査報告書第15集
(052) 江刺市教委 1997『平成８年度市内遺跡発掘調査報告書(三百刈田遺跡・豊田城遺跡)』江刺市埋蔵文化財調査報告書第16集
(053) 江刺市教委 1999『宮地ⅢＡ遺跡発掘調査報告書』江刺市埋蔵文化財調査報告書第17集
(054) 江刺市教委 1998『豊田城跡・蒼前１号墳発掘調査報告書』江刺市埋蔵文化財調査報告書第19集
(055) 江刺市教委 2004『宮地Ⅱ遺跡発掘調査報告書(Ｅ・Ｆ地区)』江刺市埋蔵文化財調査報告書第21集
(056) 江刺市教委 1999『愛宕林遺跡発掘調査報告書』江刺市埋蔵文化財調査報告書第23集
(057) 江刺市教委 2000『平成11年度市内遺跡発掘調査報告書(栄町遺跡・宮地西遺跡)』江刺市埋蔵文化財調査報告書第26集
(058) 遠藤栄一 2007「胆沢地方における豪族屋敷の成立と展開」『岩手考古学』第19号 岩手考古学会
(059) 及川洵・佐藤靖 1999「古代の畑状遺構について－江刺地域を中心として－」『岩手考古学』第11号 岩手考古学会
(060) 奥州市教委 2006『胆沢城跡－平成16年度発掘調査概報－』
(061) 奥州市教委 2007「杉の堂遺跡(第28次)」・「常盤広町遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成17年度発掘調査概報－』奥州市埋蔵文化財調査報告書第１集
(062) 奥州市教委 2008「杉の堂遺跡(第29次)」『市内遺跡発掘調査報告書』奥州市埋蔵文化財調査報告書第２集
(063) 奥州市教委 2014『胆沢城跡－平成18･19年度発掘調査概報－』奥州市埋蔵文化財調査報告書第23集
(064) 奥州市教委 2015「町屋敷遺跡第５・６次」・「杉の堂遺跡第33次」『市内遺跡発掘調査報告書』奥州市埋蔵文化財調査報告書第25集
(065) 奥州市教委 2015『胆沢城跡－第93･95･97･98･99次発掘調査概報－』奥州市埋蔵文化財調査報告書第26集

(066) 奥州市教委 2016『胆沢城跡－第92次・94次・94次補足・96次・100次発掘調査概報－』奥州市埋蔵文化財調査報告書第28集
(067) 奥州市教委 2016『胆沢城跡－平成21年度発掘調査概報－』奥州市埋蔵文化財調査報告書第30集
(068) 奥州市教委 2017「跡呂井遺跡群第20・21・22次」『市内遺跡発掘調査報告書』奥州市埋蔵文化財調査報告書第31集
(069) 奥州市世界遺産登録推進室 2006『国指定史跡 白鳥舘遺跡発掘調査報告書－第４次調査－』
(070) 奥州市世界遺産登録推進室 2007『国指定史跡 白鳥舘遺跡発掘調査報告書－第５次調査－』
(071) 奥州市世界遺産登録推進室 2008『国指定史跡 白鳥舘遺跡発掘調査報告書－第６次調査－』
(072) 奥州市世界遺産登録推進室 2008『国指定史跡 白鳥舘遺跡発掘調査報告書－第７次調査－』
(073) 奥州市世界遺産推進登録室 2010『国指定史跡 白鳥舘遺跡発掘調査報告書－第８次調査－』
(074) 奥州市埋蔵文化財調査センター 2008『杉の堂遺跡（第19次調査）』奥州市埋蔵文化財調査センター調査報告書第４集
(075) 大上和良・吉田充 1984「北上川中流域、胆沢扇状地における火山灰層序」『岩手大学工学部研究報告』第37巻 岩手大学工学部
(076) 株式会社シン技術コンサル 2005『跡呂井中陣場遺跡－住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』
(077) 金ヶ崎町教委 1959『金ヶ崎町西根遺跡－第１次調査報告－』
(078) 金ヶ崎町教委 1990『柏山館跡遺跡』金ヶ崎町文化財調査報告書第18集
(079) 金ヶ崎町教委 1998『鳥海柵跡遺跡』金ヶ崎町文化財調査報告書第40集
(080) 金ヶ崎町教委 2002『金ヶ崎城跡 平成13年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第44集
(081) 金ヶ崎町教委 2003『金ヶ崎城跡 平成14年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第45集
(082) 金ヶ崎町教委 2004『鳥海柵跡遺跡 平成15年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第48集
(083) 金ヶ崎町教委 2005『鳥海柵跡遺跡 平成16年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第51集
(084) 金ヶ崎町教委 2006『鳥海柵跡遺跡 平成17年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第54集
(085) 金ヶ崎町教委 2007『鳥海柵跡遺跡 平成18年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第58集
(086) 金ヶ崎町教委 2008『鳥海柵跡遺跡 平成19年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第63集
(087) 金ヶ崎町教委 2009『鳥海柵遺跡 平成20年度発掘調査報告書』金ヶ崎町文化財調査報告書第65集
(088) 金ケ崎町教委 2010『鳥海柵遺跡 平成21年度調査報告』金ケ崎町文化財調査報告書第67集
(089) 金ケ崎町教委 2013『鳥海柵跡 平成22・23年度（第18・19次）発掘調査報告書』金ケ崎町文化財調査報告書第70集
(090) 金ケ崎町教委 2017『鳥海柵跡 第20次発掘調査報告書』金ケ崎町文化財調査報告書第78集
(091) 北日本須恵器生産・流通研究会 2010『北日本の須恵器生産－奥州市瀬谷子窯跡群出土須恵器中心に－』北日本須恵器シンポジウム／第３回「北日本須恵器生産・流通研究会」資料集 奥州市埋蔵文化財調査センター
(092) 草間俊一 1962「金ヶ崎町西根遺跡－第四次調査を中心に－」『岩手史学研究』№39 岩手史学会
(093) 草間俊一・伊藤玄三・伊東信雄・伊藤陽夫・菊池郁雄 1968『西根古墳と住居址』金ヶ崎町教委
(094) 経済企画庁総合開発局国土調査課 1963『土地分類基本調査 水沢（５万分の１）』
(095) 斉藤享治 1978「岩手県胆沢川流域における段丘形成」『地理学評論』51巻12号 日本地理学会
(096) 髙橋千晶 2016「胆沢周辺の集落遺跡と墳墓」『アテルイと東北古代史』高志書院
(097) 桜井清彦・杉山荘平 1961「岩手県水沢市杉ノ堂遺跡調査概報」『史觀』第61冊 早稲田大學史學會
(098) 高橋信雄 1985「岩手の古代集落－竪穴建物址の集計にみる問題－」『日高見国－菊池啓治郎学兄還暦記念論集－』菊池啓治郎学兄還暦記念会
(099) 林正之 2015「東北北部「末期古墳」の再検討」『古代』第137号 早稲田大学考古学会
(100) 本堂寿一 2004『北上地方の水田開発史（中編）－伊達藩の新田開発 胆沢・江刺郡を中心に－』北上川流域の自然と文化シリーズ（25）北上市立博物館
(101) 前沢町教委 1976『昭和51年度 明後沢遺跡第３次発掘調査概報』
(102) 前沢町教委 1977『昭和52年度 明後沢遺跡第４次発掘調査概報』
(103) 前沢町教委 1998「明後沢遺跡」『町内遺跡発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第５集
(104) 前沢町教委 1998「明後沢遺跡」『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ 古城・白山地区』前沢町文化財調査報告書第６集
(105) 前沢町教委 1999「白鳥舘遺跡試掘調査報告（平成４年度）」『町内遺跡発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第７集
(106) 前沢町教委 2000『生母宿遺跡発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第12集
(107) 前沢町教委 2002『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書・大室鈴木家墓地調査報告書』前沢町文化財調査報告書第13集
(108) 前沢町教委 2005『明後沢遺跡群第７・10・15次発掘調査報告書』前沢町文化財調査報告書第18集
(109) 前沢町教委 2005『白鳥舘遺跡発掘調査報告書－第２次・第３次調査－』前沢町文化財調査報告書第19集

(110) 水沢市教委 1969『昭和43年12月（第10･11次）鎮守府胆沢城跡（現状変更にともなう発掘調査略報）』
(111) 水沢市教委 1971『昭和45年度（第12･13次）鎮守府胆沢城跡（緊急調査略報）』
(112) 水沢市教委 1971「外浦洗田遺跡（須恵器窯址）」・「中島遺跡（縄文時代遺物包含地）」・「鵜ノ木住吉南高台遺跡」『水沢の原始・古代遺跡－外浦・中島・鵜木３遺跡調査報告－』
(113) 水沢市教委 1972『昭和46年度（第14次）鎮守府胆沢城跡（緊急調査略報）』
(114) 水沢市教委 1973『昭和47年度（第15次）鎮守府胆沢城跡（緊急調査略報）』
(115) 水沢市教委 1975『胆沢城跡－昭和49年度発掘調査概報－』
(116) 水沢市教委 1976『胆沢城跡－昭和50年度発掘調査概報－』
(117) 水沢市教委 1977『胆沢城跡－昭和51年度発掘調査概報－』
(118) 水沢市教委 1978『高山遺跡』水沢市文化財報告書第１集
(119) 水沢市教委 1978『胆沢城跡－昭和52年度発掘調査概報－』
(120) 水沢市教委 1979『林前遺跡』水沢市文化財報告書第３集
(121) 水沢市教委 1979『胆沢城跡 昭和53年度発掘調査概報』
(122) 水沢市教委 1979『胆沢城跡－昭和54年度発掘調査概報－』
(123) 水沢市教委 1981『杉の堂遺跡－第３次発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第４集
(124) 水沢市教委 1981『胆沢城跡－昭和55年度発掘調査概報－』
(125) 水沢市教委 1982『杉の堂遺跡－第４次発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第５集
(126) 水沢市教委 1982『駅上遺跡』水沢市文化財報告書第７集
(127) 水沢市教委 1982『胆沢城跡－昭和56年度発掘調査概報－』
(128) 水沢市教委 1983『杉の堂遺跡－第５次発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第10集
(129) 水沢市教委 1983『胆沢城跡－昭和57年度発掘調査概報－』
(130) 水沢市教委 1984『胆沢城跡－昭和58年度発掘調査概報－』
(131) 水沢市教委 1984『市道前村・杉の堂線改良工事路線内埋蔵文化財発掘調査報告書』水沢市文化財報告書第13集
(132) 水沢市教委 1985「熊野堂遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和59年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第14集
(133) 水沢市教委 1985『胆沢城跡－昭和59年度発掘調査概報－』
(134) 水沢市教委 1986「林前遺跡」・「南矢中遺跡」・「杉の堂坂口遺跡」・「面塚遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和60年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第15集
(135) 水沢市教委 1986『胆沢城跡－昭和60年度発掘調査概報－』
(136) 水沢市教委 1987「杉の堂坂口遺跡」・「跡呂井中陣場遺跡」・「跡呂井中陣場西遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和61年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第16集
(137) 水沢市教委 1987『胆沢城跡－昭和61年度発掘調査概報－』
(138) 水沢市教委 1988「林前遺跡」・「跡呂井中陣場西遺跡」・「杉の堂遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和62年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第18集
(139) 水沢市教委 1988『胆沢城跡－昭和62年度発掘調査概報－』
(140) 水沢市教委 1989「膳性遺跡」・「熊之堂遺跡」・「杉の堂遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－昭和63年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第19集
(141) 水沢市教委 1989『胆沢城跡－昭和63年度発掘調査概報－』
(142) 水沢市教委 1990「熊之堂遺跡」・「跡呂井館跡」・「跡呂井中陣場西遺跡」・「跡呂井二ツ壇遺跡」・「見分森窯跡群」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成元年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第21集
(143) 水沢市教委 1990『胆沢城跡－平成元年度発掘調査概報－』
(144) 水沢市教委 1991『胆沢城跡－平成２年度発掘調査概報－』
(145) 水沢市教委 1992「林前Ⅱ遺跡」・「杉の堂遺跡」・「熊之堂遺跡」・「林前Ⅰ遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成３年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第23集
(146) 水沢市教委 1992『胆沢城跡－平成３年度発掘調査概報－』
(147) 水沢市教委 1993「蛇塚遺跡」・「林前南館跡遺跡」・「常盤小学校遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成４年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第25集
(148) 水沢市教委 1993『胆沢城跡－平成４年度発掘調査概報－』
(149) 水沢市教委 1995「熊之堂遺跡（南・北地区）」・「跡呂井館跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成６年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第29集
(150) 水沢市教委 1995『胆沢城跡－平成６年度発掘調査概報－』

(151) 水沢市教委 1996「東大畑Ⅰ遺跡」・「十日市屋敷跡」・「林前Ⅰ遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成７年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第30集
(152) 水沢市教委 1996『胆沢城跡－平成７年度発掘調査概報－』
(153) 水沢市教委 1997「林前Ⅰ遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成８年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第31集
(154) 水沢市教委 1997『胆沢城跡－平成８年度発掘調査概報－』
(155) 水沢市教委 1998「杉の堂遺跡」・「林前南館跡」・「跡呂井遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成９年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第32集
(156) 水沢市教委 1998『胆沢城跡－平成９年度発掘調査概報－』
(157) 水沢市教委 1999「杉の堂遺跡」・「常盤小学校遺跡」・「林前南館跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成10年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第33集
(158) 水沢市教委 1999『胆沢城跡－平成10年度発掘調査概報－』
(159) 水沢市教委 2000「杉の堂遺跡第20次・21次」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成11年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第34集
(160) 水沢市教委 2000『胆沢城跡－平成11年度発掘調査概報－』
(161) 水沢市教委 2001「杉の堂遺跡第22次」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成12年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第35集
(162) 水沢市教委 2001『胆沢城跡－平成12年度発掘調査概報－』
(163) 水沢市教委 2002「林前南館跡（第19次）」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成13年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第36集
(164) 水沢市教委 2002『胆沢城跡－平成13年度発掘調査概報－』
(165) 水沢市教委 2004「杉の堂遺跡（第23次）」・「熊野堂遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成14年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第37集
(166) 水沢市教委 2005「林前南館跡（第22次）」・「杉の堂遺跡（第26次）」・「跡呂井遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成15年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第38集
(167) 水沢市教委 2005『胆沢城跡－平成15年度発掘調査概報－』
(168) 水沢市教委 2006「杉の堂遺跡（第24・30次）」『水沢遺跡群範囲確認調査－平成16年度発掘調査概報－』水沢市文化財報告書第39集
(169) 水沢市史編纂委員会1981『水沢市史』３近世〈上〉水沢市史刊行会
(170) 水沢市埋蔵文化財調査センター 1995『常盤広町遺跡－東部地区の発掘調査－』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第２集
(171) 水沢市埋蔵文化財調査センター 1995『常盤小学校遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第４集
(172) 水沢市埋蔵文化財調査センター 1996『杉の堂遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第７集
(173) 水沢市埋蔵文化財調査センター 1997『杉の堂遺跡群－跡呂井二ツ壇地区の調査－』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第９集
(174) 水沢市埋蔵文化財調査センター 1998『杉の堂遺跡－市道杉の堂・北田線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集
(175) 水沢市埋蔵文化財調査センター 1999『面塚遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第12集
(176) 水沢市埋蔵文化財調査センター 1999『杉の堂遺跡－市道杉の堂・北田線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅱ』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第13集
(177) 水沢市埋蔵文化財調査センター 2002『町屋敷遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第15集
(178) 水沢市埋蔵文化財調査センター 2003『林前南館跡（第17・18・20・21次調査の報告）』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第16集
(179) 水沢市埋蔵文化財調査センター 2006『林前Ⅱ遺跡・寺ノ西遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第19集
(180) 八木光則 1996「東北北部の終末期古墳群」『岩手考古学』第８号 岩手考古学会
(181) 八木光則 2006「陸奥北半における轆轤土師器の導入」『陶磁器の社会史』吉岡康暢先生古希記念論集 桂書房
(182) 窯業史研究所 1969『瀬谷子窯跡群 緊急調査概報』
(183) 窯業史研究所 1970『瀬谷子窯跡群 第２次緊急調査概報』

Ⅲ　調査・整理の方法

1　野　外　調　査

緯度と経度はGPS測量による電子基準点から算出した。打設した３級基準点をもとに、世界測地系座標（座標系Ｘ）にしたがって測量業務を行った。設置した基準点は以下のとおりである。

３級基準点　　基１：X=－95897.700m、Y=28753.949m、H=42.330m
　　基２：X=－95914.670m、Y=28810.146m、H=39.894m
区　画　点　　補１：X=－95900.257m、Y=28721.364m、H=41.095m
　　補２：X=－95910.000m、Y=28757.000m、H=41.960m
　　補３：X=－95908.000m、Y=28777.000m、H=41.315m
　　補４：X=－95903.000m、Y=28799.000m、H=40.192m

遺構はレベル水準器、光波測量器と電子平板システム（Cubic社製実測支援システム「遺構くん」）を用いて図化した。遺構外出土遺物の取り上げは、40m×40mの大グリッド（Ａ～Ｆ）の中に４×４ｍ（１～100）の小グリッドを設定し、層位ごとに取り上げた。（第７図）

2　室　内　整　理

（1）遺構図・遺物実測図の作成

遺構図面は電子データを加工して、版下を作成した。遺物は洗浄、接合、復元作業を経て実測、計測、実測図トレースを行い、図版の作成を行った。図化は出土遺物のうち、遺構内出土遺物を優先し、その中でも口径推定可能な資料を優先したが、適宜破片資料も掲載した。

（2）遺 構 の 略 号

遺構種別ごとに略号を用い、竪穴建物「SI01」、土坑「SK01」などと命名した。遺構略号は以下のとおりである。

竪穴建物…SI　　掘立柱建物…SB　　溝跡…SD　　土坑…SK　　炉跡…SL　　焼土遺構…SN
土器埋設遺構…SR　　性格不明遺構…SX　　柱穴状土坑…P

（3）遺構名の変更

野外調査時に使用していた遺構名を基本的にはそのまま使用したが、調査及び室内整理を進める過程で遺構種類を変更したものに関しては新規の名称を登録した。また、検出時に命名したが精査の結果遺構と判断されなかったものに関しては欠番扱いとしている。（第３表）

第３表　遺構名一覧

遺構名	掲載遺構名	遺構名	掲載遺構名	遺構名	掲載遺構名	遺構名	掲載遺構名	遺構名	掲載遺構名	遺構名	掲載遺構名
SI01	SI01	SB04	SB04	SK16	SK16	SK36	SK36	SK56	P54	SL02	SL02
SI02	SI02	SB05	SB05	SK17	SK17	SK37	SK37	SK57	SK57	SL03	欠番
SI03	SI03	SB06	SB06	SK18	SK18	SK38	SK38	SK58	P28	SN01	SN01
SI04	SI04	SD01	SD01	SK19	SK19	SK39	SK39	SK59	SK59	SN02	SN02
SI05	SI05	SD02	SD02	SK20	SK20	SK40	SK40	SK60	SK60	SN03	SN03
SI06	SI06	SK01	SK01	SK21	欠番	SK41	SK41	SK61	SK61	SN04	SN04
SI07a	SI07a	SK02	SK02	SK22	SK22	SK42	SK42	SK62	SK62	SN05	SN05
SI07b	SI07b	SK03	SK03	SK23	SK23	SK43	SK43	SK63	P301	SN06	SN06
SI08a	SI08a	SK04	SK04	SK24	SK24	SK44	SK44	SK64	P302	SN07	SN07
SI08b	SI08b	SK05	SK05	SK25	SK25	SK45	SK45	SK65	SK65	SR01	SR01
SI09	欠番	SK06	SK06	SK26	SK26	SK46	欠番	SK66	欠番	SR02	SR02
SI10	SI10	SK07	SK07	SK27	SK27	SK47	SK47	SK67	SK67	SR03	SR03
SI11	欠番	SK08	SK08	SK28	SK28	SK48	欠番	SK68	欠番	SR04	SR04
SI12	欠番	SK09	SK09	SK29	SK29	SK49	SK49	SK69	SK69	SX01	SX01
SI13	SI13	SK10	SK10	SK30	SK30	SK50	P27	SK70	SK70	SX02	SX02
SI14	SI14	SK11	SK11	SK31	SK31	SK51	P29	SK71	SK71	SX03	SX03
SI15	SI15	SK12	SK12	SK32	SK32	SK52	P30	SK72	SK72	SX04	SX04
SB01	SB01	SK13	SK13	SK33	SK33	SK53	P31	SK73	SK73	SX05	欠番
SB02	SB02	SK14	SK14	SK34	SK34	SK54	SK54	SK74	SK74	SX06	SX06
SB03	SB03	SK15	SK15	SK35	SK35	SK55	P33	SL01	欠番		

（4）注記記載事項

色　　調：小山正忠・竹原秀雄編2006『新版　標準土色帖2006年度版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に基づいた。

形成要因：判断可能な限り、備考欄に記載した。例えば「人為堆積」等。

粘　　性：極強・強・やや強・中・弱・微・なしの７段階で区分した。

し ま り：極密・密・やや密・中・やや粗・粗の６段階に区分した。

包 含 物：炭化物、焼土、遺物、礫、植物根、ベースとなる土壌以外の混入土壌・砂・粘土等の量と形状を記載した。混入量等の記載にあたっては、上記の『新版　標準土色帖2006年度版』に従った。

（5）遺　物　番　号

種別ごとに遺物番号を付した。図版・写真図版の各遺物番号は対応している。

種類ごとに１から番号を付しており、先頭に以下の小文字アルファベットをつけて区別している。

縄文・弥生土器…ａ　土師器・須恵器…ｂ　陶磁器…ｃ　土製品…ｄ　石器・石製品…ｅ

金属製品…ｆ　動物遺存体…ｇ

（6）遺物観察表の記載

（　）内の数値は、口径・底径は推定値、それ以外は残存値を示す。

25m
1：1000
0
Y=28860
Y=28820
Y=28780
Y=28740
Y=28700
Y=28660
X=−95860
X=−95900
X=−95940

第６図　調査区位置図

第７図　グリッド配置・区割図

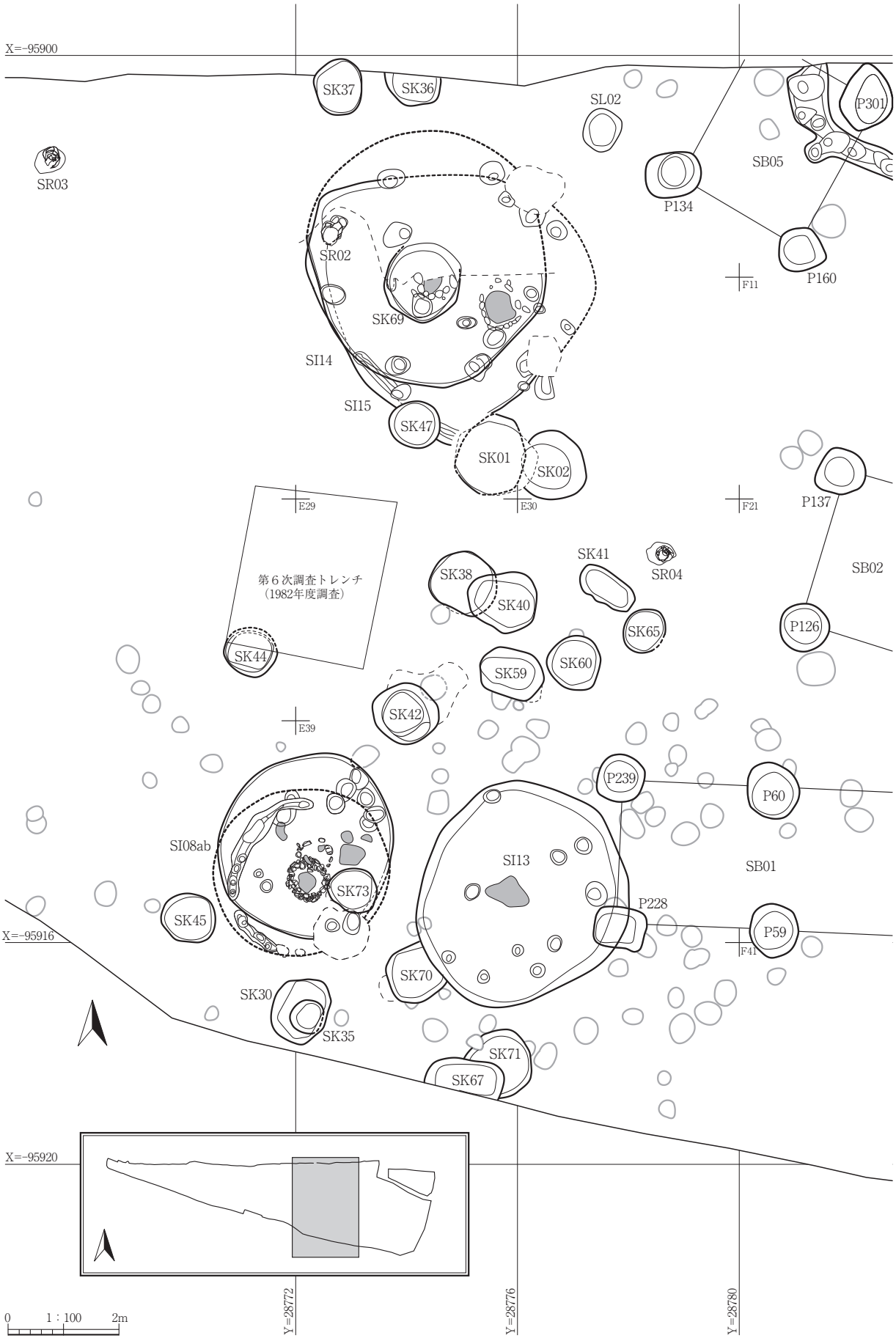
第８図　遺構配置図、調査区地形図

E13
E23
E22
E11
D26
D19
Y=28748
Y=28744
Y=28740
Y=28736
Y=28732
Y=28728
X=−95900
X=−95904
X=−95908
SI02
SI04
SI05
SI06
SI01
SI03
SK74
SK23
SK43
SK57
SK28
SK29
SX04
SK26
SX03
SK16
SN07
SK27
SK14
SK22
SK12
SK25
SK20
SD01
SX01
SX02
SK15
SK03
0
1 : 100
2m

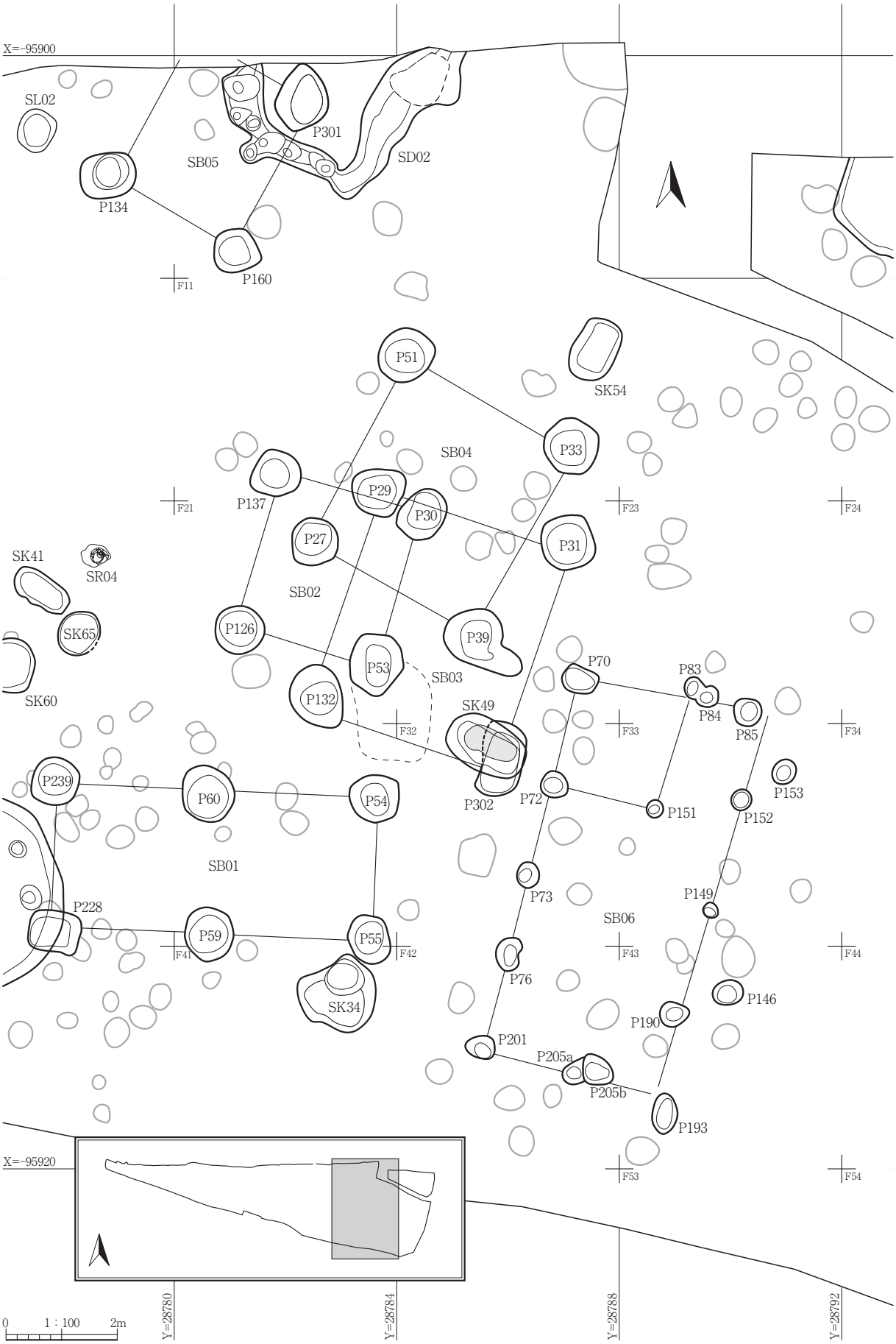
第９図　遺構分布図（１）

SR03
SN04
SN03
SN02
SN06
SN01
SN05
SK39
SK24
SR01
SK04
SK62
SX06
SK33
SK32
SK11
SK61
SK31
SK19
SK13
SK18
SK08
SK10
SK09
SK05
SK07
SK06
SK17
SI02
SI06
SI04
A
A'
基本土層
E18
E28
E38
E17
E27
E37
E16
E26
E36
E15
E25
E14
E24
E13
E23
Y=28764
Y=28760
Y=28756
Y=28752
Y=28748
X=−95900
X=−95912
0
1:100
2m

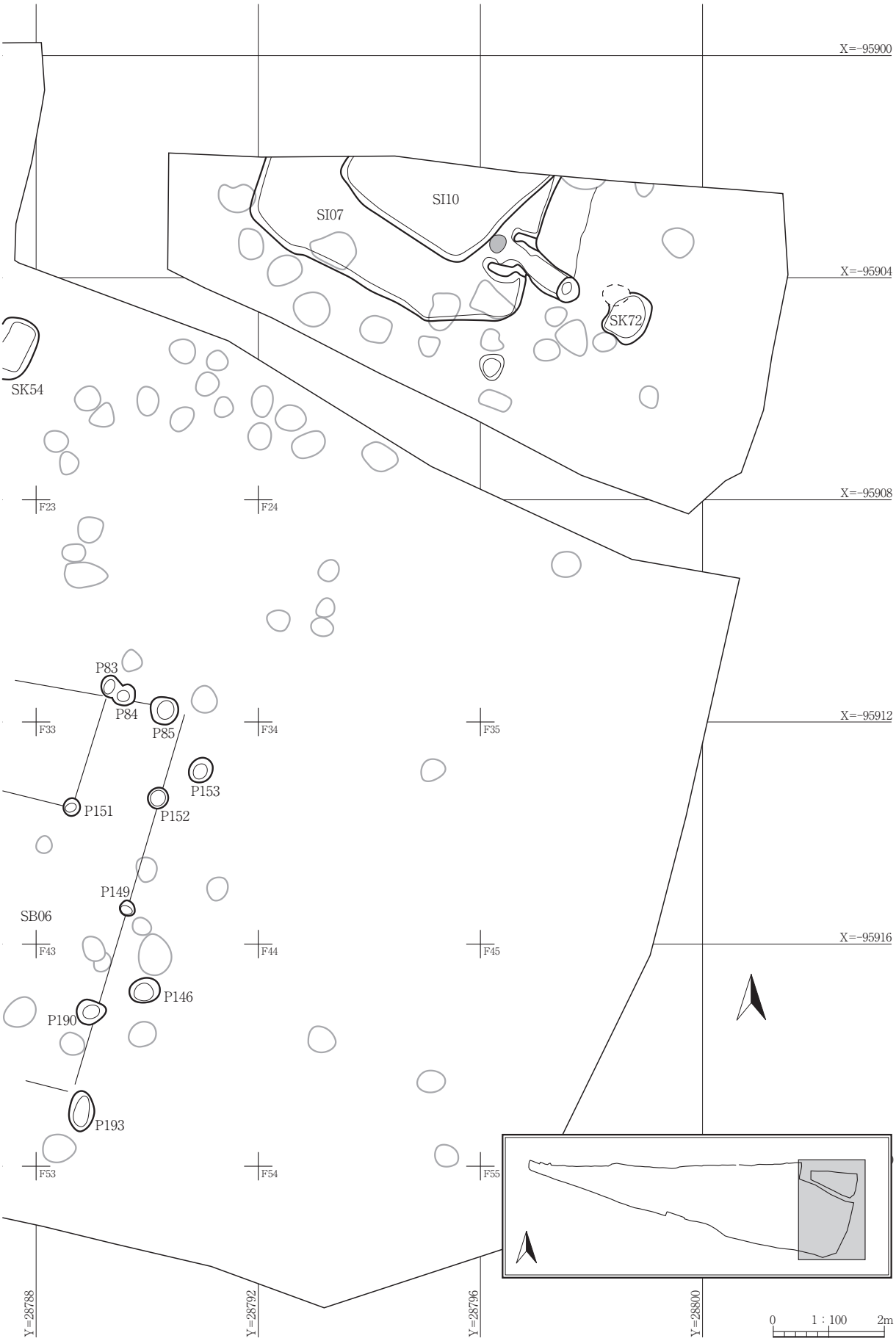
第10図　遺構分布図（2）


X=-95900
SK37
SK36
SL02
P301
SB05
SR03
P134
SR02
P160
F11
SK69
SI14
SI15
SK47
SK01
SK02
E29
E30
F21
P137
第６次調査トレンチ
（1982年度調査）
SK41
SR04
SB02
SK38
SK40
SK65
P126
SK44
SK59
SK60
SK42
E39
P239
P60
SI08ab
SI13
SB01
SK73
P228
SK45
P59
F41
X=-95916
SK70
SK30
SK35
SK71
SK67
X=-95920
0　1：100　2m
Y=28772
Y=28776
Y=28780

第11図　遺構分布図（3）


X=-95900
SL02
P301
SB05
SD02
P134
P160
F11
P51
SK54
SB04
P33
P137
P29
P30
F21
F23
F24
P27
P31
SK41
SR04
SB02
SK65
P126
P39
P53
SB03
P70
P83
SK60
P132
SK49
P84
P85
F32
F33
F34
P239
P60
P54
P302
P72
P153
P151
P152
SB01
P73
P149
P228
SB06
P59
P55
F41
F42
F43
F44
P76
SK34
P146
P190
P201
P205a
P205b
P193
X=-95920
F53
F54
Y=28780
Y=28784
Y=28788
Y=28792
0
1：100
2m

第12図　遺構分布図（4）


X=-95900
X=-95904
X=-95908
X=-95912
X=-95916
SI07
SI10
SK72
SK54
F23
F24
F33
F34
F35
F43
F44
F45
F53
F54
F55
P83
P84
P85
P153
P151
P152
P149
SB06
P146
P190
P193
Y=28788
Y=28792
Y=28796
Y=28800
0
1：100
2m

第13図　遺構分布図（5）

Ⅳ　検出遺構と出土遺物

1　概　　要

今回の調査概要を時代別に記載する。

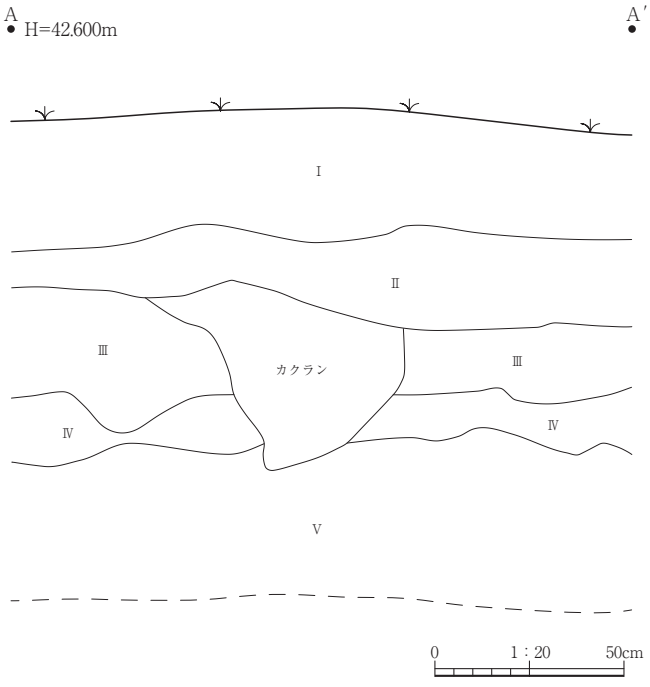
縄文時代は、調査区全域が利用されており、中期の竪穴建物１棟のほか、晩期の竪穴建物４棟、掘立柱建物５棟、土坑58基、炉跡１基、焼土遺構６基、土器埋設遺構４基、遺物は縄文土器、土製品、石器、土器棺墓内人骨片、動物骨（特に魚骨）等が確認された。縄文土器は大コンテナ（42×32×30cm）92箱、石器は中コンテナ（42×32×20cm）39箱出土した。

古代以降は、竪穴建物９棟が確認された。出土遺物の特徴とAMS年代測定値による年代観で８世紀～９世紀と考えられる。遺物は土師器・須恵器の古代土器が大コンテナ（42×32×30cm）３箱、緑釉陶器２点、鞴羽口２点、金属製品が出土した。特に９世紀代の墨書土器と緑釉陶器は、本遺跡の性格を知る上で貴重な資料である。

調査区は東西に長く、E02－22グリッド列より西側の「西部」、E03－23グリッド列からE07－37グリッド列までの「中央部」、E08－47グリッド列より東側の「東部」で遺構の分布種類が異なる。西部では縄文時代の土坑と古代の竪穴建物、中央部は縄文時代の土坑と焼土遺構、東部は縄文時代の竪穴建物・掘立柱建物・土坑、古代の竪穴建物が主に分布している。

2　基　本　土　層

調査区内は東側にむかって標高を下げる高位段丘の縁辺で、基本土層は概ね平均的な層厚と層序を有する。確認された基本土層は以下の５層（Ⅰ層：表土層、Ⅱ層：古代の遺物包含層、Ⅲ層：縄文時代の遺物包含層、Ⅳ層：地山漸移層、Ⅴ層：地山層）で、遺構検出面は、近世・近代～古代がⅢ層上面、縄文時代がⅢ層下部～Ⅳ層である。ここでは、北側調査区境界の北壁（E06グリッド付近 第５・14図参照）の層序を示す。



第14図　基本土層（調査区北壁・E06グリッド）

第４表　基本土層観察表（調査区北壁・E06グリッド）

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　　考
基本土層 A-A′	Ⅰ	10YR2/2黒褐色シルト	なし	極密	砕石･コンクリートガラ･礫多量、ビニール・プラスティック・ガラス微量	表土
	Ⅱ	10YR2/2黒褐色シルト	なし	密	礫（φ３～20cm）少量	Ⅰ層より黒味がかる、古代の遺物包含層
	Ⅲ	10YR2/1黒色シルト	なし	やや密	黄褐色砂極小・小ブロック微量、炭化物粒・焼土粒極微量	縄文時代の遺物包含層、この層の上面が近世･近代～古代の遺構検出面
	Ⅳ	10YR3/3暗褐色シルト	なし	密	下位に礫（φ１～5cm）少量	地山漸移層、この層の上面および直上のⅢ層下部が縄文時代の遺構検出面
	Ⅴ	10YR5/6黄褐色シルト	なし	密	礫（φ１～20cm）中量	地山層

3　遺　　構

（1）竪　穴　建　物

①　縄文時代

5棟の調査を行った。中期が1棟、残り4棟はすべて晩期に属する。調査区西側E09列～E10列付近に集中している。なお、遺構出土遺物の記載は、本章4節遺物の分類にしたがう。

ＳＩ０８ａｂ竪穴建物（第15図、写真図版4～6）

検出状況　E38グリッドに位置する。Ⅰ層を除去後、縄文時代晩期遺物の密集が確認された。Ⅱ層は概ね古代遺物を包含する堆積層であるが、縄文土器が豊富に認められるためⅡ層～Ⅲ層を厚さ数㎝ずつ掘り下げた。Ⅲ層下部～Ⅳ層上面で黒褐色の円～楕円形プランを検出した。またプラン中央部で石囲炉を検出した。ベルトを設定し建物床面までの掘削を行ったところ、さらに1基の石囲炉と建物周溝を検出し、2棟の重複があると判明した。先に検出された石囲炉を中心とする竪穴建物をSI08a、後から検出され、炉石の多くが抜き取られた石囲炉を中心とする竪穴建物をSI08bとして報告する。

－ＳＩ０８ａ－

規模・形状　平面形は楕円形で建物壁は残存しない。規模：3.19×3.03m（推定）、深さ：不明。断面の壁ラインから推定された床面積は7.57㎡である。

構成要素・付属施設　建物構成要素として壁溝とPit 3個を検出した（Pit01・06・10）。付属施設は建物中央部に角礫や長楕円礫を立てて2重に巡らせた石囲炉を伴う。

堆積土　SI08a帰属の堆積土は1・2層と想定され人為堆積の可能性がある。

－ＳＩ０８ｂ－

規模・形状　平面形は楕円形で、規模：3.34×3.08m、深さ：12㎝、床面積7.73㎡である。

構成要素・付属施設　建物構成要素として壁とPit 9個を検出した（Pit02・03・07・09・11～15）。付属施設は建物中央部に長楕円礫長軸を立てて設置された石囲炉を伴うが、炉石の多くは抜き取られていた。

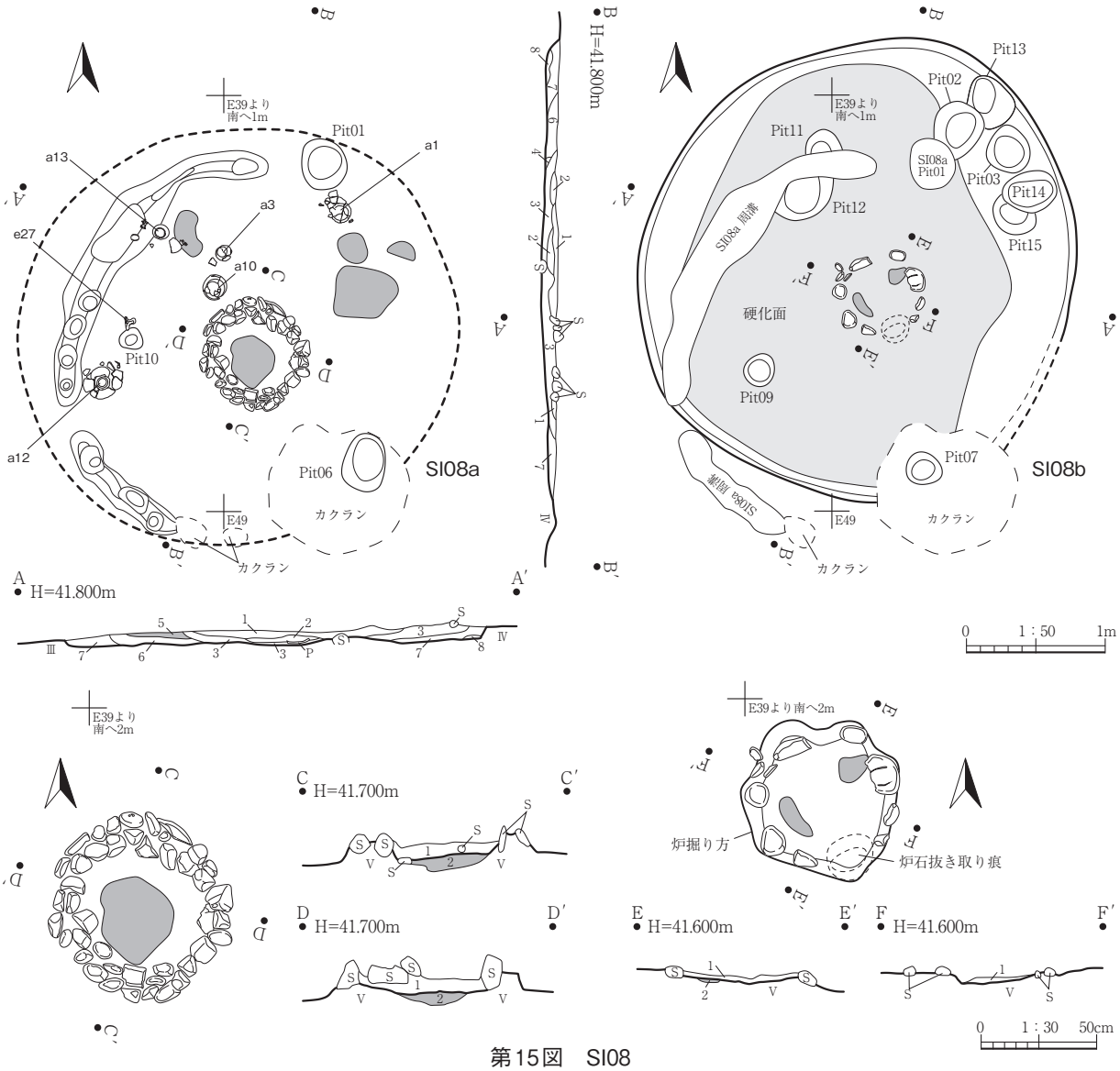
堆積土　SI08b帰属の堆積土は3～8層が想定される。埋没過程は8層が建物壁際を埋めるいわゆる三角堆積状の埋没土で、その次に7、6層が形成される。埋没途中で5層が形成されるが、廃棄焼土か焚火痕（ゴミ焼痕）かは判断できなかった。建物中央の窪みに4、3層が形成され埋没が完了したと考えられる。その後、本遺構上にSI08aが構築されたと想定される。

－ＳＩ０８ａｂ－

重複関係　堆積土と石囲炉の配置から、新旧関係はSI08bが古くSI08aが新しい。SK73は本遺構床面にて検出されたため、床面施設もしくは本遺構より古い土坑の可能性がある。

遺物　縄文土器・土製品・石器・炭化種実・骨片が出土している。大半がSI08aに帰属すると考えられるが、それを明確に判別することが困難なものも多いため、SI08出土遺物として一括して記載する。（第70・71・126～130図、写真図版54・96～98・139）

【縄文土器】出土重量は9,477g。a1～15の15点を図化した。SI08aに帰属するものがa1・3・10・12･13･15、SI08bに帰属するものが、a4～6である。出土地点は床面もしくはそれに近い層である。a1・12は正位で、a3・10・13は逆位で出土した。器種は、深鉢が2点、鉢・台付鉢が9点、壺が4点である。Ⅱ－4類・4～5類に属するものが多い。



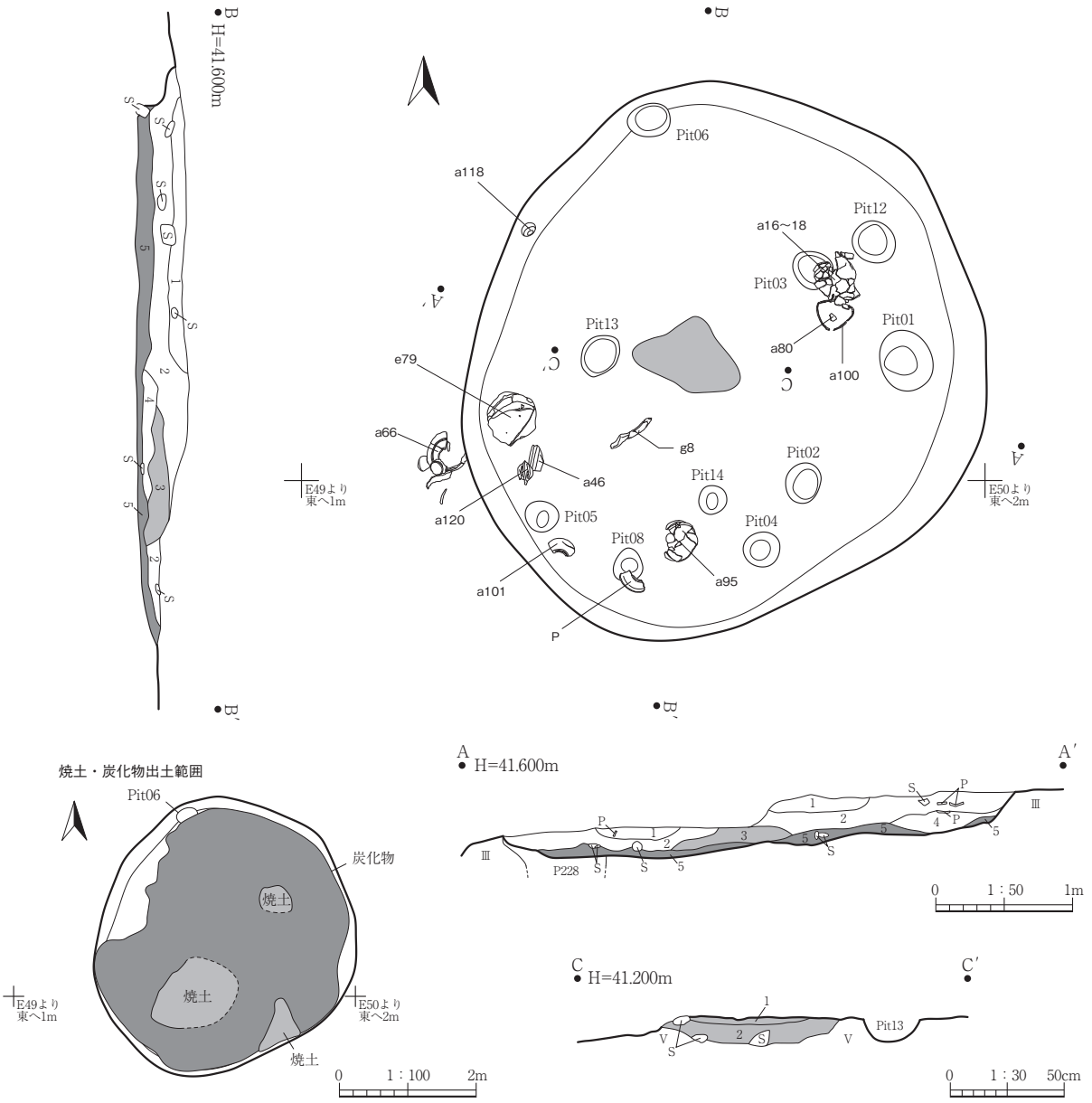
第15図　SI08

第５表　SI08土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI08ab A－A′・B－B′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	密	褐色シルト5%、炭化物(φ1～30㎜)5%	8a
	2	10YR5/6黄褐色砂質シルト	弱	密		8a
	3	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	炭化物(φ1～2㎜)5%	8b
	4	10YR4/6褐色シルト	弱	密	10YR2/2黒褐色シルトとの混合土	8b
	5	5YR4/8赤褐色シルト	なし	密	小礫2%、炭化物(φ1～3㎜)5%	8b
	6	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト1%、炭化物(φ1～2㎜)5%	8b
	7	10YR2/1黒色シルト	弱	中	褐色シルト2%、炭化物(φ1～2㎜)5%	8b
	8	10YR3/4暗褐色砂質シルト	弱	中	黒色シルト5%	8b
SI08a 炉 C－C′・D－D′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	中	明赤褐色焼土3%、炭化物(φ1～15㎜)10%	
	2	5YR4/8赤褐色シルト	弱	中	黒色シルト1%	焼土層
SI08b 炉 E－E′・F－F′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト2%、炭化物(φ1～10㎜)10%	
	2	5YR4/6赤褐色シルト	なし	密		焼土層
SI08a 周溝	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	黄褐色土粒10%	
SI08a Pit01	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト2%、にぶい黄橙色土粒(φ1～2㎜)1%、炭化物(φ1～2㎜)1%	深さ12㎝
SI08b Pit02	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト1%、黄褐色土粒1%	深さ30㎝
SI08b Pit03	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	炭化物(φ1～5㎜)1%	深さ17㎝
SI08a Pit06	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト2%、炭化物(φ1～2㎜)1%	深さ20㎝
SI08b Pit07	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト2%、炭化物(φ1～5㎜)2%	深さ30㎝
SI08b Pit09	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗		深さ5㎝
SI08a Pit10	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密		深さ33㎝
SI08b Pit11	1	10YR3/4暗褐色シルト	なし	密	炭化物(φ1～2㎜)1%	深さ26㎝
SI08b Pit12	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	密	炭化物(φ1～2㎜)1%	深さ20㎝
SI08b Pit13～15	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト1%、黄褐色土粒1%	深さ Pit13：13㎝ Pit14：22㎝ Pit15：22㎝

【土製品】粘土塊が１点出土しているが掲載していない。
【石器】28点出土し、うち27点図化掲載した（e1 ～ 27）。器種は石鏃、石篦、削器、楔形石核、石核、打製石斧、磨製石斧、不定形石器、敲磨器、磨石、敲石、台石、石皿、石製品（石冠）である。
【その他】a10内から炭化したオニグルミ・ムギ類、a13内から炭化したオニグルミ・アワ、SI08aの炉内の堆積土からはイノシシの臼歯が出土している。
遺構の性格　居住施設である。
時期　出土土器から縄文時代晩期の大洞C2式～Ａ式期である。

ＳＩ１３竪穴建物（第16図、写真図版７・８）
検出状況　E39グリッドに位置する。Ⅰ層を除去後、縄文時代晩期遺物の密集が確認された。SI08範囲に隣接する。縄文土器が多量に出土するためⅡ層～Ⅲ層を厚さ数cmずつ掘り下げた。Ⅲ層下部～Ⅳ層上面で黒褐色楕円形プランを検出した。また堆積土中には多量の炭化物と焼土が散在しており、火災建物と予想された。ベルトを設定し建物床面までの掘削を行ったところ、堆積土下部に炭化物包含層（５層）が形成され、床面からは地床炉が確認された。
規模・形状　平面形は楕円形で建物壁の残存状態が良好であった。規模：4.15×3.82m、深さ：39cm、床面積9.76㎡である。
構成要素・付属施設　建物構成要素としてPit10個を検出した。付属施設は建物中央部に地床炉を伴う。
堆積土　火災に伴う形成層は３～５層である。床面直上の５層は焼土粒と多量の炭化物が混入する。４～５層に多量に遺物が含まれており、火災直前まで使用していた道具類と考えられる。３層は火災時の痕跡を示す焼土層で建物内全域にモザイク状に分布する。１・２層は火災後の自然堆積層と考えられる。
重複関係　SI08aと本遺構の重複があったか否かは不明であるが、出土遺物から判断すると本遺構の方が新しい。また、掘立柱建物構成要素のSB01－P228が、本建物床面調査後に検出された。その検出状況からSB01が古く本遺構が新しいと考えられる。
遺物　縄文土器・土製品・石器・炭化種実・骨片が出土している。（第71 ～ 78・126・131 ～ 138図、写真図版55 ～ 62・95・98 ～ 101・139）
【縄文土器】出土重量は34,932g。１遺構内の出土量では最も多く、次いで多いSI08の３倍以上である。そのため掲載点数も多くa16 ～ 121の106点を図化している。器種は深鉢18点、鉢・台付鉢36点、浅鉢23点、壺27点、注口２点、他の遺構に比べ個別の遺存率が高い。床面からの出土はa16 ～ 18の３点、すべて深鉢である。a66の大半は遺構外で出土したが、本遺構堆積土中の破片と接合したため、遺構内の帰属とした。赤色顔料が付着するものは18点、このうち半数の９点が浅鉢である。a69･75･76は同一個体（台付の浅鉢）の可能性が高く、内外面全体に赤色顔料が塗布されている。時期分類は多くがⅡ－５類に属する。a63・91・92・121はⅡ－１～４類に含まれるため、本遺構に伴わない混入した遺物の可能性が高い。
【土製品】土版２点（d27・28）、土製円板２点（d34・54）が出土している。
【石器】56点出土し、すべて図化した（e28 ～ 83）。器種は石錐、石匙、掻器、石篦、R.F.、楔形石核、石核、磨製石斧、石斧未成品、不定形石器、敲磨器、磨石、敲石、台石、スタンプ形石器、円板状石器、有孔石製品である。
【その他】堆積土（主に３・４層）から炭化したオニグルミ、トチノキ、エノキグサ、炉内にはサケ科



第16図　SI13

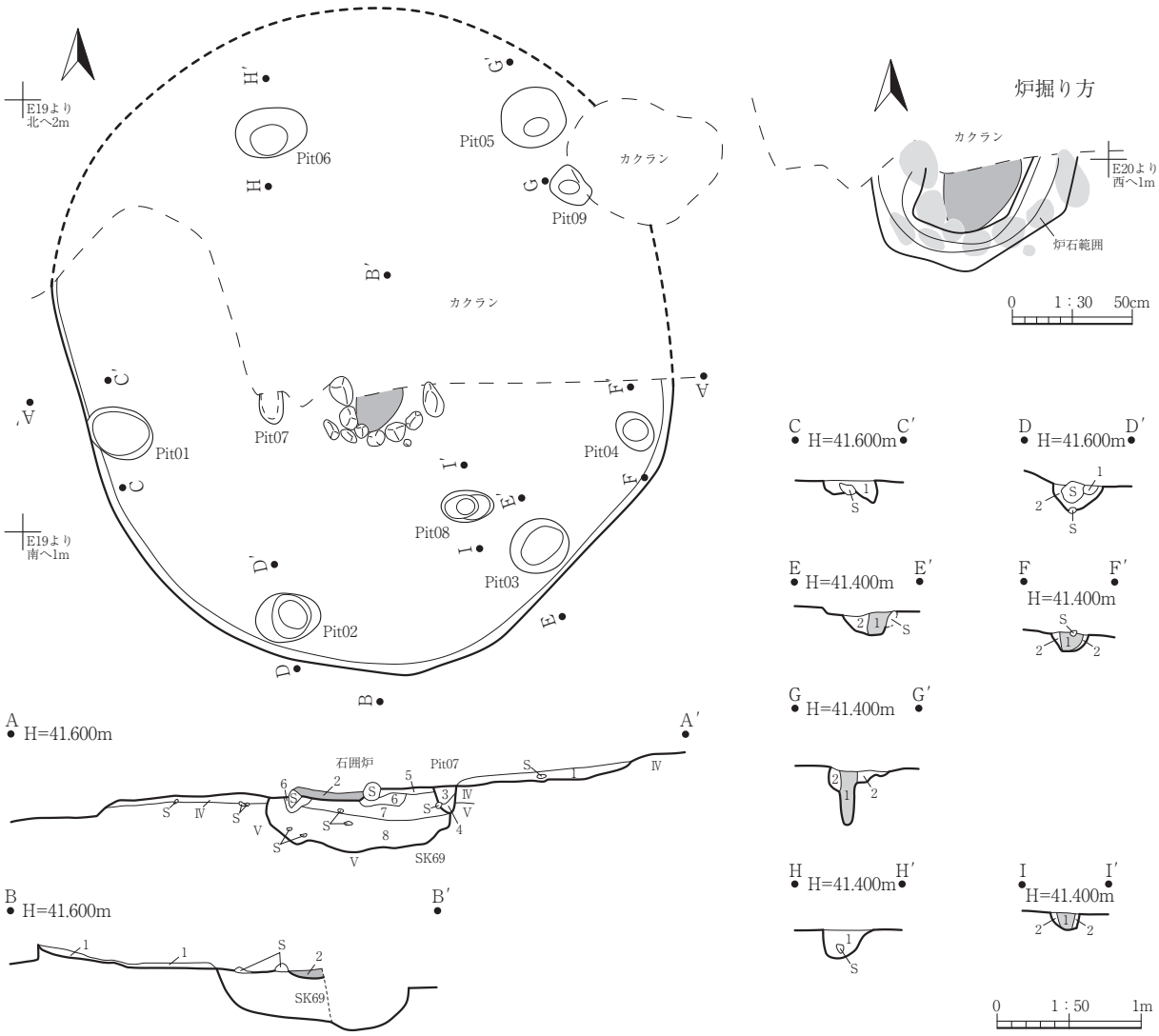
第６表　SI13土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI13 A－A′・B－B′	1	10YR3/2黒褐色シルト	なし	密	黒色シルト(炭)30％と10YR5/8黄褐色シルト30％との互層、小礫中量、土器片多量	自然堆積
	2	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	黄褐色シルト粒10％、小～中礫多量、炭化物(φ１～５㎜)10％、土器片多量	
	3	5YR3/6暗赤褐色シルト	なし	密	7.5YR3/4暗褐色シルトとの混合土、小礫少量、炭化物(φ１～２㎜)２％	焼土層
	4	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	小礫多量、炭化物(φ１～５㎜)10％、土器片多量	
	5	10YR1.7/1黒色シルト	弱	中	小礫少量、焼土粒1％、炭化物(φ１～50㎜)40％、土器片少量	炭層
SI13 炉 C－C′	1	5YR3/4暗赤褐色シルト	弱	中	小礫少量、炭化物(φ１～20㎜)７％	焼土層
	2	5YR4/8赤褐色砂質シルト	弱	やや粗	小礫少量	焼土層
SI13 Pit01	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	10YR2/2黒褐色シルト10％､小礫少量､炭化物(φ１～３㎜)２％	深さ41㎝
SI13 Pit02	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	小礫少量、炭化物(φ１～５㎜)１％	深さ29㎝
SI13 Pit03	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	焼土粒1％、炭化物(φ１～３㎜)１％	深さ21㎝
SI13 Pit04	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	10YR3/4暗褐色シルト10％、炭化物(φ１～50㎜)５％	深さ22㎝
SI13 Pit05	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	小礫少量、炭化物(φ１～２㎜)１％	深さ26㎝
SI13 Pit06	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	焼土粒1％、炭化物(φ１～５㎜)２％	深さ25㎝
SI13 Pit08	1	10YR3/4暗褐色シルト	弱	中	小礫少量、炭化物(φ１～２㎜)１％	深さ13㎝
SI13 Pit12	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	小礫少量、根多量	深さ20㎝
SI13 Pit13	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	焼土粒(φ１～２㎜)１％、炭化物(φ１～２㎜)１％	深さ19㎝
SI13 Pit14	1	10YR3/4暗褐色シルト	弱	粗	炭化物(φ１～２㎜)１％	深さ18㎝

椎骨片・魚綱腹椎、床面からは鹿角が出土している。
遺構の性格　居住施設である。火災により上屋が消失したと考えられる。
時期　出土土器から縄文時代晩期の大洞Ａ式期である。

ＳＩ１４竪穴建物（第17図、写真図版９・10）
検出状況　E19グリッドに位置する。北半部は攪乱に壊され遺存しない。南半部は縄文時代遺物包含層のⅢ層を厚さ数㎝ずつ掘り下げ、Ⅲ層下部～Ⅳ層上面で黒褐色の円形プランを検出した。またプラン中央部やや南側で石囲炉を検出した。
規模・形状　平面形は円形と推測される。建物壁高は５㎝程度しかなく遺存状態は非常に悪い。規模：4.58×4.37ｍ（推定）、深さ：５～10㎝（残存）、床面積：15.06㎡（推定）、うち7.12㎡（残存）である。
構成要素・付属施設　Pit ９個を検出し、Pit01～06が主柱穴とみられる。壁溝は認められない。建物中央やや南寄りに楕円礫長軸を立てて設置された石囲炉を伴う。
堆積土　１層。自然堆積で床面、壁面を覆う。
重複関係　SI15、SK69と重複し、本遺構が新しい。SK69の下部（８層）が自然堆積し窪地となっている段階で本遺構の構築が開始されている。下部を整地し（７層形成）、次に石囲炉を設置（６層部分を掘削、礫を配置して土を充填し礫を固定）する（６層形成）。最後に上部を整地している（５層形成）。
遺物　縄文土器・石器が出土している。（第79図、写真図版62）
【縄文土器】出土重量は817g。a122の１点を図化した。E09・19の包含層内から出土したものに、本遺構の堆積土中に含まれていた小破片が接合している。遺構を認識する前にグリッド一括で取り上げた可能性が高く、本遺構の帰属とした。
【石器】台石？が１点出土したが図化していない。
遺構の性格　居住施設である。
時期　出土土器から縄文時代晩期である。

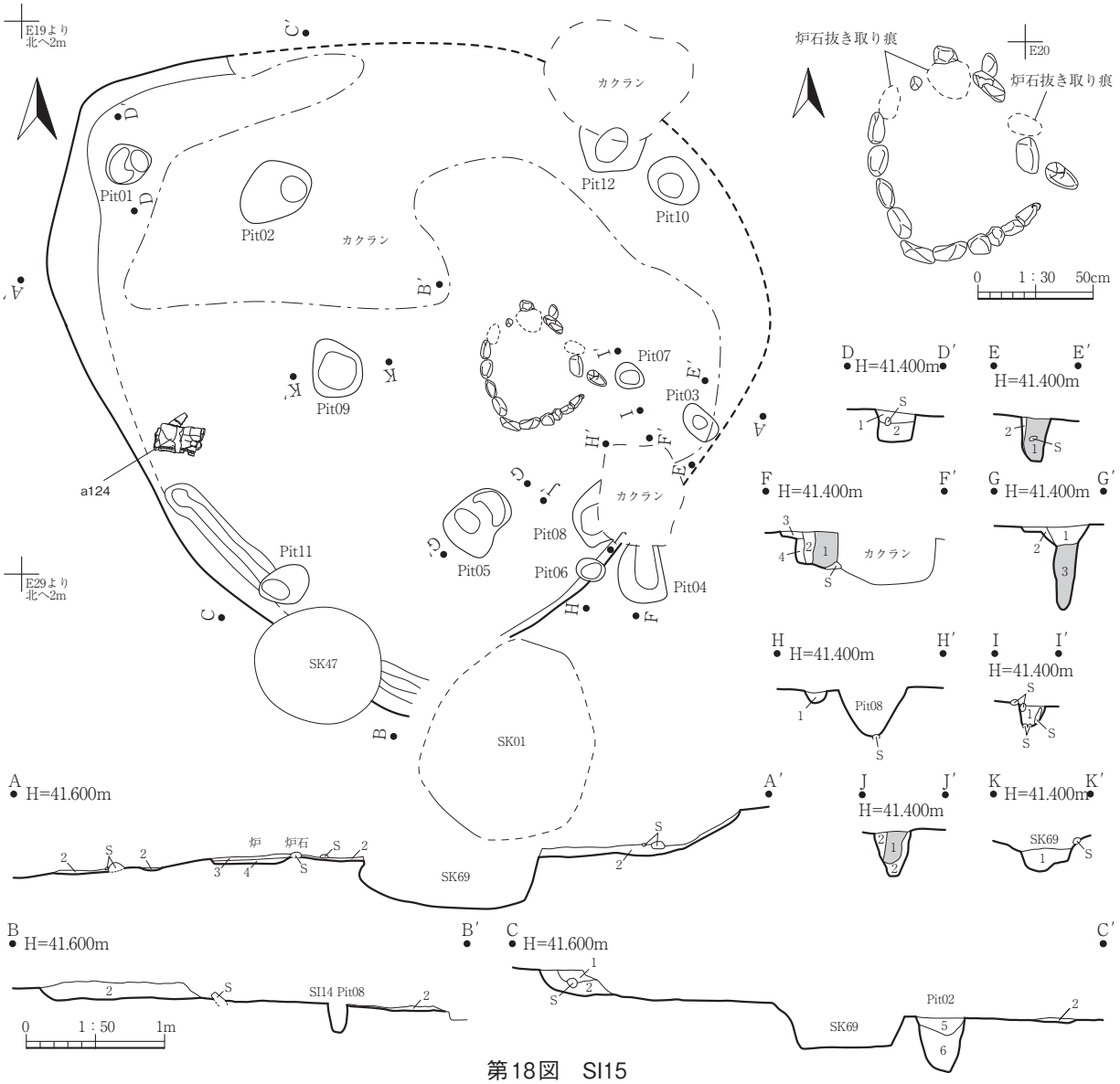
ＳＩ１５竪穴建物（第18図、写真図版11・12）
検出状況　E19グリッドに位置する。北から北東コーナーにかけては攪乱に壊され遺存しない。縄文時代遺物包含層のⅢ層を厚さ数㎝ずつ掘り下げ、Ⅲ層下部～Ⅳ層上面で黒褐色の円形プランを検出した。またプラン中央部東側で石囲炉を検出した。
規模・形状　平面形は楕円形と推測される。建物壁高は10～20㎝で遺存状態は悪い。規模：4.5（推定）×5.0（実寸）ｍ、深さ:10～20㎝（残存）、床面積:16.85㎡（推定）、うち11.30㎡（残存）である。
構成要素・付属施設　Pit12個を検出し、Pit02・05・09・10が主柱穴と考えられる。壁溝は南壁の一部に認められる。建物中央東寄りに楕円礫長軸を横位にして設置（いわゆる小口立ち）された石囲炉を伴う。
堆積土　１・２層。自然堆積で床面、壁面を覆う。
重複関係　SI14、SK01・47・69、SR02と重複し、本遺構が古い。
遺物　縄文土器・石器（剥片のみ）・炭化種実が出土している。（第79図、写真図版62）
【縄文土器】出土重量は1,219g。a123・124の２点を図化した。a123はSI14の床面～SI15堆積土中のため、本遺構の帰属とした。a124は床面から出土。a123は隆帯部分に赤色顔料が付着している。
【その他】炉内堆積土中にオニグルミ、トチノキが含まれていた。



第17図　SI14

第７表　SI14土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI14 A－A′・B－B′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	中	黄褐色砂極小・小ブロック微量、炭化物粒極微量	自然堆積
	2	10YR2/3黒褐色粘土質シルト	中	粗	底面は被熱し5YR4/4にぶい赤褐色に変化し硬化	機能時の石囲炉内部を覆う自然堆積層
	3	10YR3/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂極小～中ブロック多量	Pit07堆積土
	4	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	やや強	中	黄褐色砂中～極大ブロック極多量	Pit07堆積土
	5	10YR2/1黒色砂質シルト	なし	密	黄褐色砂極小～中ブロック微量	竪穴建物構築時に埋没しきっていないSK69を整地した上層
	6	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	やや粗	黄褐色砂極小～中ブロック少量	SI14に伴う石囲炉を構成する礫の掘り方堆積土
	7	10YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや密	礫(φ３～５cm)少量	竪穴建物構築時に埋没しきっていないSK69を整地した下層
	8	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	密	壁際に黄褐色砂小～大ブロック少量	自然堆積、SK69(縄文時代)
SI14 Pit01 C－C′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	中	黄褐色砂極小～大ブロック少量、炭化物粒極微量	
SI14 Pit02 D－D′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	やや粗	黄褐色砂粒極微量含む	
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	強	中	黄褐色砂極小・小ブロック微量、炭化物粒極微量	
SI14 Pit03 E－E′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	中	黄褐色砂粒・極小・小ブロック少量、炭化物粒極微量	柱痕
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	強	密	黄褐色砂極小～中ブロック多量	掘り方堆積土
SI14 Pit04 F－F′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小・小ブロック微量、炭化物粒極微量	柱痕
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	密	黄褐色砂小・中ブロック中量、炭化物粒極微量	掘り方堆積土
SI14 Pit05 G－G′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	中	黄褐色砂小～大ブロック中量、炭化物粒極微量	柱痕
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	強	密	黄褐色砂極小～中ブロック中量、炭化物粒極微量	掘り方堆積土
SI14 Pit06 H－H′	1	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	極密	黄褐色砂小～大ブロック多量、炭化物粒極微量	
SI14 Pit07	1	—	—	—	—	深さ不明
SI14 Pit08 I－I′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	やや密	黄褐色砂極小ブロック微量、炭化物粒極微量	柱痕
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	強	極密	黄褐色砂小・中ブロック少量	掘り方堆積土
SI14 Pit09	1	—	—	—	—	深さ30cm



第18図　SI15

第８表　SI15土層観察表

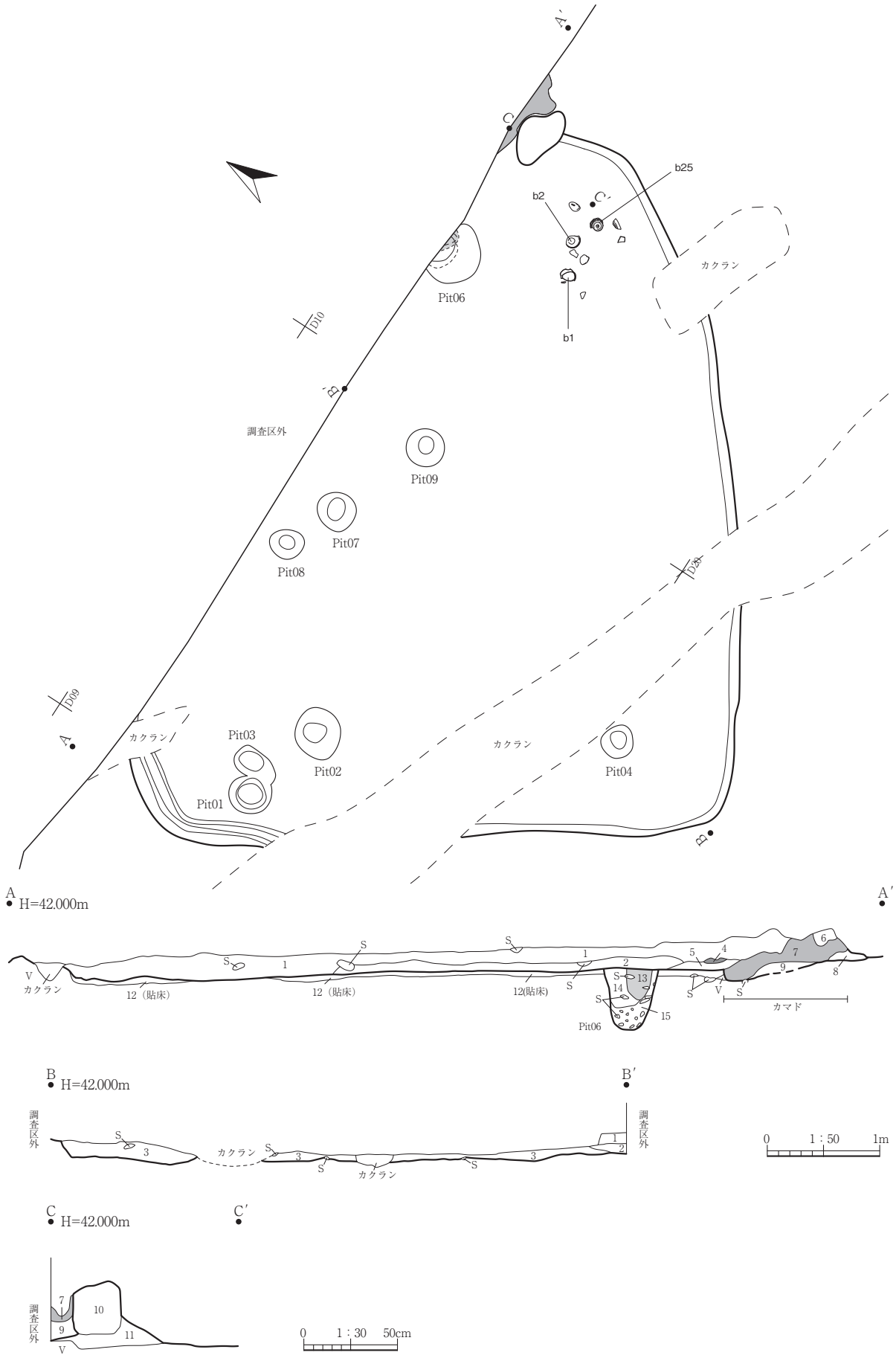
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI15 A－A′～C－C′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	やや強	中	黒褐色粘土質シルト小～大ブロック少量	堆積土
	2	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	中	やや粗	黄褐色砂粒・極小ブロックおよび炭化物粒(φ～1cm)ブロック微量	堆積土
	3	10YR2/3黒褐色砂質シルト	なし	やや密	2層小･中ブロック、黄褐色砂極小～中ブロック少量、焼土粒･炭化物粒微量	炉堆積土
	4	7.5YR3/4暗褐色粘土質シルト	強	中	3層小・中ブロック少量、炭化物粒極微量、底面被熱硬化なし	炉堆積土
	5	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	極密	黄褐色砂小～大ブロック中量、炭化物粒微量	Pit02堆積土
	6	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	弱	中	礫(φ5～15cm)少量	Pit02堆積土
SI15 Pit01 D－D′	1	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	強	粗	炭化物粒極微量	
	2	10YR2/3黒褐色粘土質シルト	強	やや密	黄褐色砂極小・小ブロック少量	
SI15 Pit03 E－E′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	弱	密	炭化物粒極微量	柱痕
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	弱	極密	黄褐色砂小・中ブロック多量	掘り方堆積土
SI15 Pit04 F－F′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	弱	密	礫(φ3～5cm)微量、炭化物粒極微量	柱痕
	2	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	弱	密	黄褐色砂小・中ブロック極多量	掘り方堆積土
	3	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	弱	極密	黄褐色砂小ブロック微量	掘り方堆積土
	4	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	弱	極密	黄褐色砂小・中ブロック中量	掘り方堆積土
SI15 Pit05 G－G′	1	10YR2/3黒褐色粘土質シルト	強	やや密	黄褐色砂極小・小ブロック微量、炭化物粒極微量	柱抜取穴上層
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	強	密	黄褐色砂小～大ブロック少量、炭化物粒極微量	柱抜取穴下層
	3	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	やや強	粗	礫(φ5cm)少量	柱痕
SI15 Pit06 H－H′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	密	黄褐色砂極小～中ブロック少量、炭化物粒極微量	
SI15 Pit07 I－I′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	密	礫(φ5～15cm)少量、黄褐色砂極小ブロック微量	
SI15 Pit08 J－J′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	中	黄褐色砂極小ブロック微量、礫(φ3～5cm)少量、炭化物粒極微量	柱痕
	2	10YR2/3黒褐色粘土質シルト	極強	極密	黄褐色砂極小・小ブロック中量、礫(φ5cm)微量	掘り方堆積土
SI15 Pit09 K－K′	1	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	強	密	黄褐色砂小・中ブロック中量、礫(φ3～5cm)少量、炭化物粒微量	
深さ SI15 Pit02：43cm・Pit10：46cm・Pit11：21cm・Pit12：28cm						

遺構の性格　居住施設である。
時期　出土土器から縄文時代中期の大木８b式期である。

② **奈良時代・平安時代**

９棟の調査を行った。３棟が奈良時代、６棟が平安時代に属する。調査区の西側と北東部に分かれて分布している。

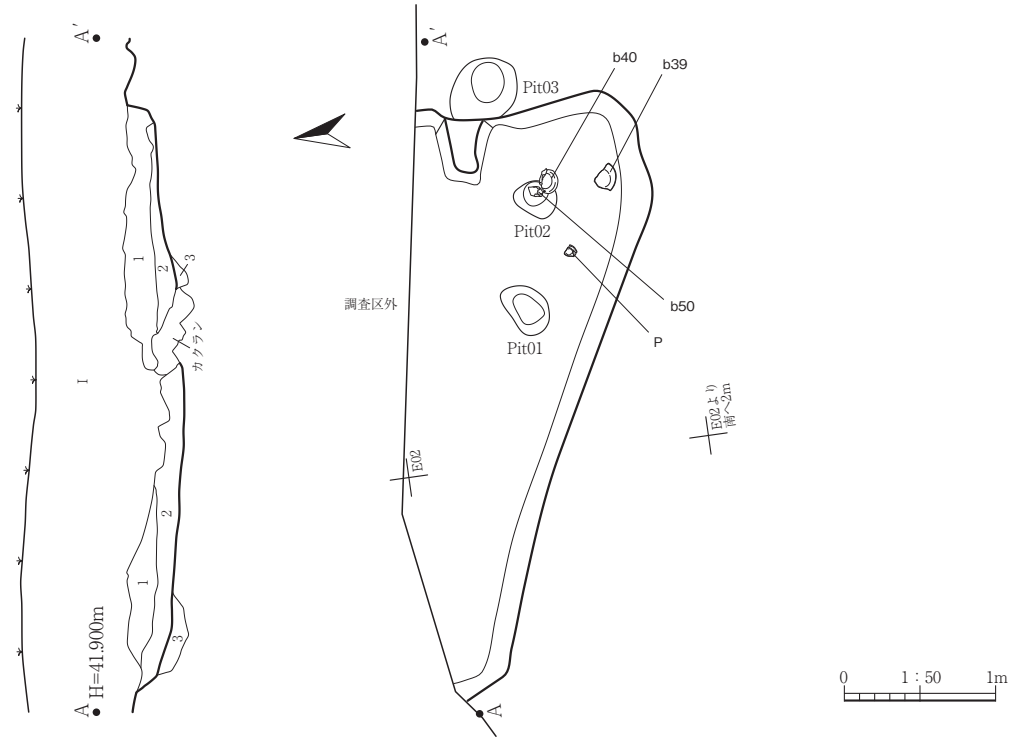
ＳＩ０１竪穴建物（第19図、写真図版13・14）
検出状況　調査区西側のD09グリッドに位置する。調査区西側はⅠ層の堆積が厚く、Ⅱ層～Ⅲ層の残存状態は不良であった。Ⅰ層を除去し、Ⅳ層上面でⅡ層に由来する黒褐色プランを検出した。このプランは、方形を呈し古代竪穴建物の可能性が高く、調査区外を除く３隅が検出されたと判断した。ベルトを設定し建物床面までの掘削を行ったところ、南東側にカマド袖部を検出し、その周辺からは須恵器・土師器が出土した。
規模・形状　平面形は方形で建物壁の残存状態が良好であった。規模：5.9×4.9m、深さ：40㎝、調査区内床面積22.30㎡である。
構成要素・付属施設　建物構成要素としてPit ８個を検出した。このうち、Pit02・04・06が主柱穴の可能性がある。付属施設は建物東壁の南側にカマドを伴う。カマド右袖部は調査区外に存在すると考えられる。袖部は良質な白色粘土で構築されている。
堆積土　カマドの堆積土も含め12細分した。竪穴掘削後、貼床作業が行われて12層が形成される。床面にカマドを設置時に10・11層の袖部が構築され、使用時に９層、廃絶時のカマド崩落によって４～８層が形成された。建物内を広く覆う１～３層は自然堆積層と考えられる。カマド袖部は良質な白色粘土（10層）で構築されている。
重複関係　古代遺構との重複関係はない。縄文時代の土坑SK12･14･16･20･22･25～27と重複する。これらはSK12を除き土坑墓と考えられる。貼床面調査後にプランが認識され、底面に赤色顔料の散布と堆積土内に縄文土器が出土することから本建物より古い。
遺物　縄文土器・土師器・須恵器・石器・炭化種実・骨片が出土しいている。特にカマド周辺の床面上に須恵器坏・土師器坏がまとまって出土した。（第109・115・116・196・200図、写真図版85・89・90・132・134）
【土師器】出土重量は5,532g。坏類がb1～11、壺甕類がb16～24の合計20点を図化している。床面から出土した遺物は、b1～7・16～18である。坏はb11を除きすべて内面黒色処理される。回転ナデ調整後、胴部下端をケズリ調整されるものが多い。底部も回転糸切後全面または周縁がケズリ調整されるものが目立つ。b1～3は胴部に「寛」と墨書される。b1は口縁部に打ち欠いたような痕跡が認められた。b16は堝、b17～24は甕、b16・22～24は回転ナデ調整される。b21は外面が磨かれ赤彩された甕類である。
【須恵器】出土重量は2,196g。b25～28・32が床面から出土した。坏類がb12～15、壺甕類がb25～37の合計17点を図化している。b12とb14の坏は回転ナデ後胴部下端をケズリ調整される。b25～31が壺・甕、b32～37が大甕片である。
【その他】カマド内より炭化したオオムギ、ムギ類、骨片が出土している。
遺構の性格　居住施設である。調査区内古代建物の中で最大規模、隣接するSI02と同時期である。「寛」の墨書土器の存在から、有力者の居館または宗教施設に付属する建物の可能性がある。


A
A′
B
B′
C
C′
b1
b2
b25
Pit01
Pit02
Pit03
Pit04
Pit06
Pit07
Pit08
Pit09
D09
D10
D24
カクラン
調査区外
H=42.000m
12（貼床）
12(貼床)
カマド
0　1：50　1m
0　1：30　50cm

第19図　SI01

第９表　SI01 土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI01 A－A′・B－B′・C－C′	1	10YR3/3暗褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト粒3%、焼土粒（φ1～3㎜）5%、炭化物（φ1～10㎜）7%、小～中礫3%、土器片中量	自然堆積
	2	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト7%、小礫3%、炭化物（φ1～20㎜）10%、土器片中量	自然堆積
	3	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	黄褐色シルト7%、黒褐色シルト5%、小礫5%、焼土粒（φ1～10㎜）10%、炭化物（φ1～10㎜）10%	自然堆積
	4	5YR3/6暗赤褐色シルト	弱	中	赤褐色焼土40%、炭化物（φ1～2㎜）1%	焼土層
	5	10YR2/1黒色シルト	なし	中	黄褐色シルト粒1%、焼土粒（φ1～3㎜）5%、炭化物（φ1～3㎜）5%	炭層
	6	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	焼土粒3%	煙道の崩落土か
	7	5YR3/2暗赤褐色シルト	弱	中	明赤褐色ブロック30%、暗褐色シルト5%、黄褐色、黒色シルト1%、小礫3%、焼土粒40%、炭化物（φ1～3㎜）3%、土器片少量	焼土層
	8	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	焼土粒3%	煙道の崩落土か
	9	7.5YR3/4暗褐色シルト	弱	中	5YR3/2暗赤褐色シルトとの混合土、焼土粒10%	
	10	10YR6/6明黄褐色粘土	あり	密	にぶい黄橙色粘土20%、橙色粘土20%	カマドソデ
	11	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト1%、焼土粒（φ1～10㎜）5%、炭化物（φ1～5㎜）3%	カマドソデ、カマド付近より墨書土器数点出土
	12	10YR3/3暗褐色シルト	弱	密	褐色シルト20%、黄褐色シルト20%、焼土粒1%、炭化物（φ1～2㎜）1%	貼床
SI01 Pit06 （SI01 A－A′）	13	10YR2/3黒褐色シルト	なし	密	10YR5/8黄褐色シルトとの混合土、小～中礫3%	柱痕
	14	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	炭化物（φ1～2m）1%、中礫1%	掘り方
	15	10YR3/3暗褐色シルト	なし	密	黄褐色シルト1%、小～中礫30%	礫層 掘り方
SI01 Pit01	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	中	10YR4/4褐色シルトとの混合土、炭化物（φ1～2㎜）1%	深さ43㎝
	2	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	中礫3%	
SI01 Pit02	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	中		深さ24㎝
	2	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	小礫5%	
	3	10YR2/3黒褐色シルト	なし	中		
	4	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	10YR2/3黒褐色シルトとの混合土	
SI01 Pit03	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	中	中礫1%	深さ15㎝
SI01 Pit04	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	中	小礫7%	深さ17㎝
SI01 Pit07	1	10YR3/4暗褐色シルト	なし	密	炭化物（φ1～10m）3%、小礫3%、土器片少量	深さ31㎝
SI01 Pit08	1	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト粒1%	深さ30㎝
SI01 Pit09	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	10YR3/3暗褐色シルトとの混合土、炭化物（φ1㎜）1%	深さ32㎝



第20図　SI02

第10表　SI02 土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI02 A－A′	1	10YR4/4褐色シルト	なし	粗	黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土	人為堆積
	2	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗	炭化材（φ1～3㎜）1%	床面直上の堆積土
	3	10YR2/3黒褐色シルト	強	やや密	黄褐色シルトと黒褐色シルトの混合土	貼床土
SI02 Pit01	1	—	—	—	—	深さ16㎝
SI02 Pit02	1	—	—	—	—	深さ27㎝
SI02 Pit03	1	—	—	—	—	深さ44㎝

時期　遺構の形態的特徴と出土遺物から、平安時代前期の９世紀中葉である。

ＳＩ０２竪穴建物（第20図、写真図版15）

検出状況　調査区西側のE01グリッドに位置する。本遺構は、平成28年度の県生涯学習文化財課の試掘調査において、竪穴建物の一部と認識された。試掘で多量の須恵器・土師器片と緑釉陶器皿が出土した。本調査によってⅠ層を除去し、Ⅳ層上面でⅡ層に由来する黒褐色プランを検出した。本調査前は古代の高級陶器である緑釉陶器の存在から、漠然と有力者の居館に相応しい大型の建物規模を想定していたが、検出されたプランは方形を呈する小型の建物規模であった。土層堆積状況は調査区壁で観察することとし、建物床面までの掘削を行い、東壁の南東側にカマド袖部を検出した。

規模・形状　平面形は方形と考えられ、その南端部が調査範囲となったと考える。調査区内規模：3.8×1.5m、深さ：34㎝、調査区内床面積3.53㎡である。

構成要素・付属施設　建物構成要素としてPit ２個を検出した。主柱穴か否かは判断できなかった。また、竪穴範囲外の周縁部に複数存在するピットは壁外柱穴の可能性があるが、今回の調査範囲からは判断できなかった。付属施設は建物東壁の南側にカマドを伴う。カマド右袖部は調査区外に存在すると考えられる。

堆積土　竪穴部の堆積土を３細分した。竪穴掘削後に貼床作業が行われて３層が形成され、床面にカマドを設置し、建物廃絶後に１～２層が堆積したものと判断した。なお１層は混合土で構成された人為堆積層である。その後、現代耕作・客土等により削平されて基本土層Ⅰ層が形成された。カマドの残存状況は不良であった。廃絶時にカマドを撤去したと考えられる。

重複関係　古代の竪穴建物SI06と重複し、本遺構の方が新しい。また縄文時代の土坑墓と考えられるSK74と重複する。SK74は床面調査中に長方形もしくは長楕円形プランの南半が検出され、堆積土には多量の赤色顔料を包含する。

遺物　縄文土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・石器・金属製品・炭化種実が出土している。上記のとおりb42・44、c1・2は本遺構調査前の試掘トレンチ内から出土したものであるが本遺構帰属資料として取り扱う。（第106・117・202図、写真図版84・90・136）

【土師器】出土重量は1,444g。b39・40・50が床面から出土した。坏がb38～46、甕がb49の合計10点を図化している。坏はすべて回転ナデで調整され、４点は胴部下端にケズリ痕がみられる。内側は磨かれ黒色処理されている。b38は高台を持つ。墨書・刻書土器が多く、b39は「寺」、b40～42は「館」または「舘」、b43は「館」（か？）と墨書され、b44は「西」と刻書される。

【須恵器】出土重量は167g。b47・48は坏、b50は大甕、合計３点を図化した。

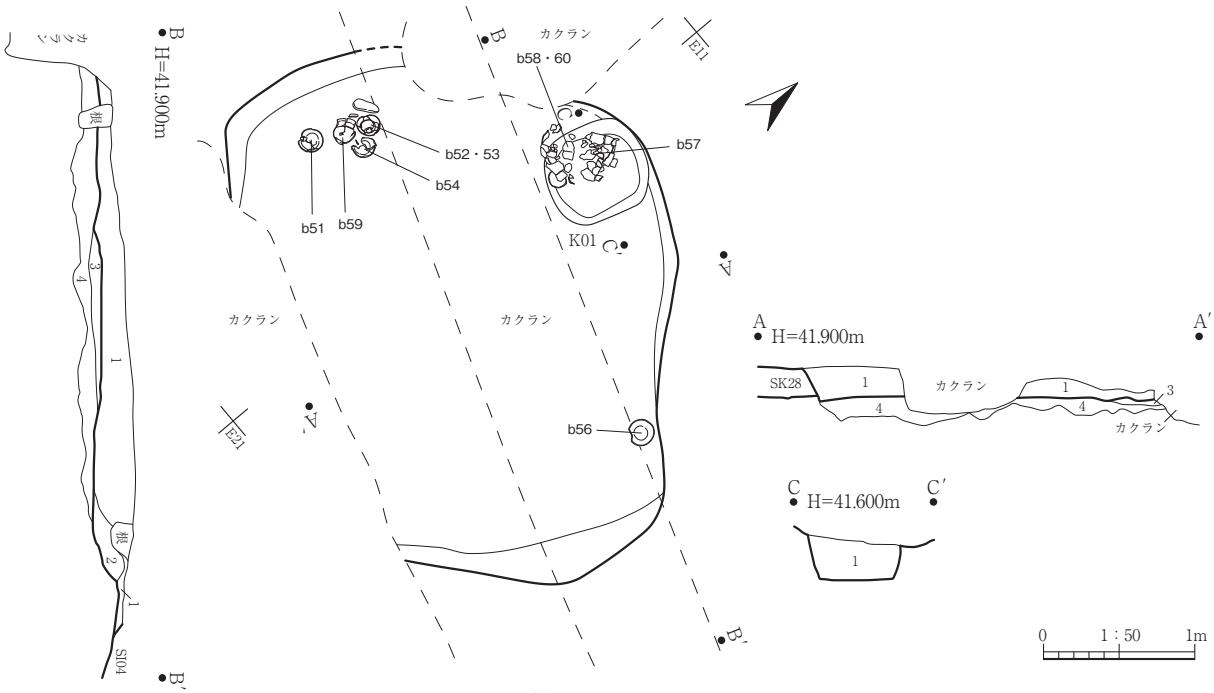
【その他】c1は緑釉陶器埦、c2は緑釉陶器稜埦、いずれも猿投産のK-14～K-90の時期に該当するものである。f1は鉄製の鋏でU字状の形をしている。b40内の土には炭化したイネが含まれていた。

遺構の性格　カマドの存在から居住施設を想定するが、本遺構の全体像を把握できないため不明である。隣接するSI01と同時期である。「舘」「寺」の墨書土器の存在から、有力者の居館または宗教施設に付属する建物の可能性がある。

時期　遺構の形態的特徴と出土遺物から、平安時代前期の９世紀中葉である。

ＳＩ０３竪穴建物（第21図、写真図版16・17）

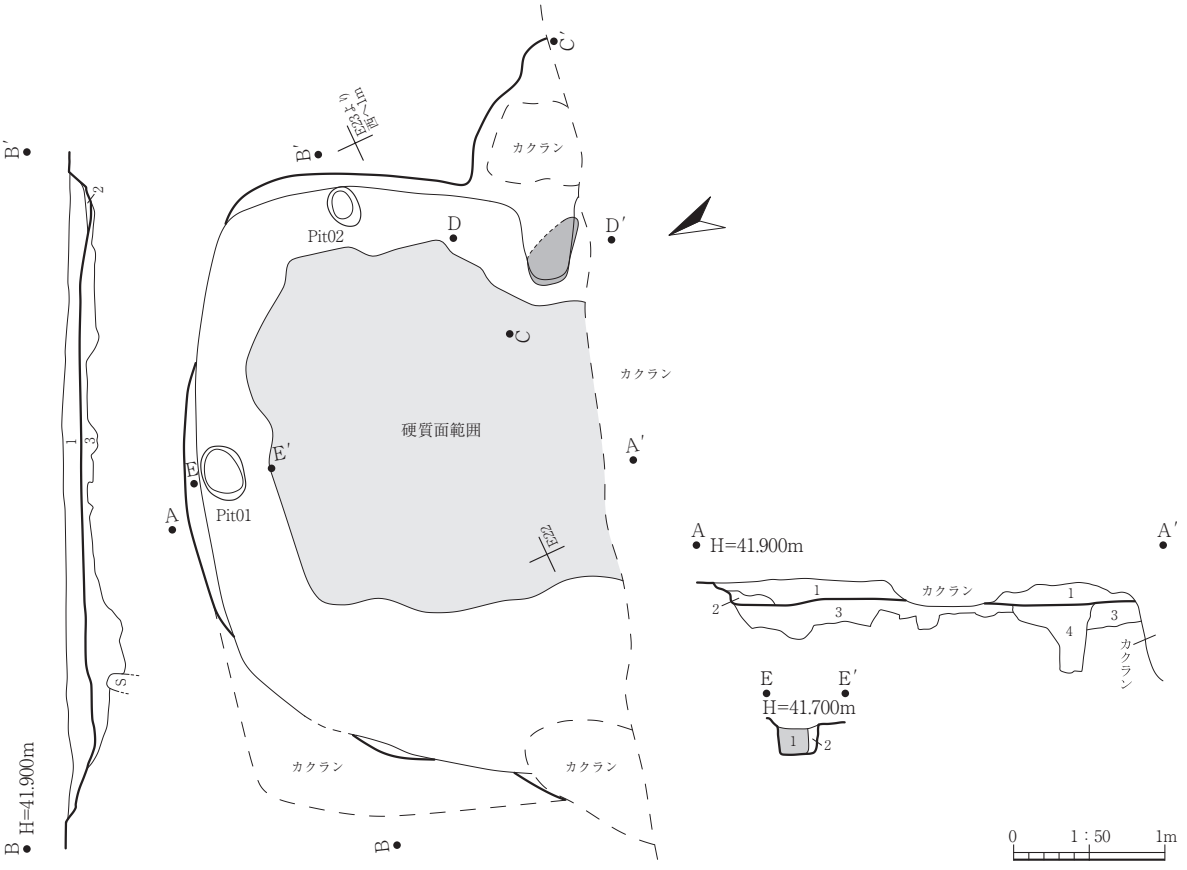
検出状況　調査区西側のE11グリッドに位置する。本遺構は、宅地への進入路に敷設されたアスファルト舗装やそれ以前の道路痕跡等によるカクランが著しく、形状把握が困難であったが、Ⅳ層上面で



第21図　SI03

第11表　SI03土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI03 A－A′・B－B′	1	10YR2/3黒褐色シルト	微	粗	円礫(φ3～5cm)3%、土師器包含	水平、自然堆積
	2	10YR4/4褐色シルト	なし	粗	黄褐色(10YR5/8)シルト10%	
	3	10YR4/4褐色シルト	微	やや密	黄褐色(10YR5/8)シルト40%	貼床土
	4	10YR3/2黒褐色シルト	微	密	黄褐色(10YR5/8)シルト5%	貼床土
SI03 K01 C－C′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	粗	小礫(φ1～3cm)5%	人為堆積



第22図　SI04

Ⅱ層に由来する黒褐色の略方形プランを検出した。ベルトを設定して建物床面までの掘削を行い、北西壁付近に遺物の密集状況が認められた。

規模・形状　平面形は方形と考えられる。規模：2.7×2.6m、深さ：27cm、推定床面積8.04㎡である。

構成要素・付属施設　東側の建物壁の立ち上がりは明瞭であった。付属施設は北端部に土坑1基（K01）を伴う。K01内からは土器が多量に出土した。貯蔵穴と考えられる。北西壁中央は攪乱されており、カマドが消失した可能性がある。

堆積土　竪穴部の堆積土を4細分した。竪穴掘削後に貼床作業が行われて3・4層が形成され、建物廃絶後に2層が壁際に堆積し、1層が全体を覆う。

重複関係　SK28・29と重複し、これらより新しい。

遺物　縄文土器・土師器・須恵器・土製品・石器が出土している。（第99・117・118・124・183・201図、写真図版78・90・91・95・125・135）

【土師器】出土重量は3,108g。北西端に坏と小形の甕、北東端のK01上には大形の甕、南東端には鉢と、出土位置ごとに器種・法量のまとまりがみられる。これらは遺棄の状態をとどめていると考えられ、特にb51・53・54・56は正位で置かれていた。出土土器の中から坏類はb51～56、甕はb57～62、合計12点を図化した。坏類はミガキ・ケズリ等で調整され、内面は黒色処理される。外面には段がわずかにあり、沈線のものと窪むものとに分かれ、b53・56は内面にも同様の窪みが認められる。

【須恵器】出土重量は27g、甕類1点のみの出土である（b63）。

遺構の性格　居住施設を想定する。

時期　遺構の形態的特徴と出土遺物から、奈良時代の8世紀中葉～後半である。

ＳＩ０４竪穴建物（第22・23図、写真図版18）

検出状況　調査区西側のE11グリッドに位置する。Ⅳ層上面でⅡ層に由来する黒褐色方形プランを検出した。また、東側にカマド煙道部と考えられる張出し状の範囲も同時に検出した。検出範囲南部はアスファルト舗装道路敷設時の攪乱に覆われていた。ベルトを設定し建物床面までの掘削を行い、東壁の南東側に袖石の抜き取り痕を伴うカマド袖部を検出した。

規模・形状　平面形は方形と考えられる。残存規模：3.1×2.4m、深さ：16cm、残存床面積9.20㎡である。床面は中央部が硬化している。

構成要素・付属施設　建物構成要素としてPit 2個を検出した。いずれも壁際に配置されている。付属施設は建物東壁の南側にカマドを伴う。カマドは構築土が崩落しており、袖石の抜き取り痕があることから、意図的に破壊されたと考えられる。

堆積土　竪穴部の堆積土を4細分した。竪穴掘削後に貼床作業が行われて3・4層が堆積し、床面上のカマドは設置→使用→破壊の過程を辿り、建物廃絶後に1～2層が堆積したと想定される。カマド範囲の堆積は8細分した。5～7層が袖部の残存で、8層は崩落か破壊による形成と考えられる。1～4層は天井部の破壊・崩落によって形成された堆積土で人為的堆積層である。

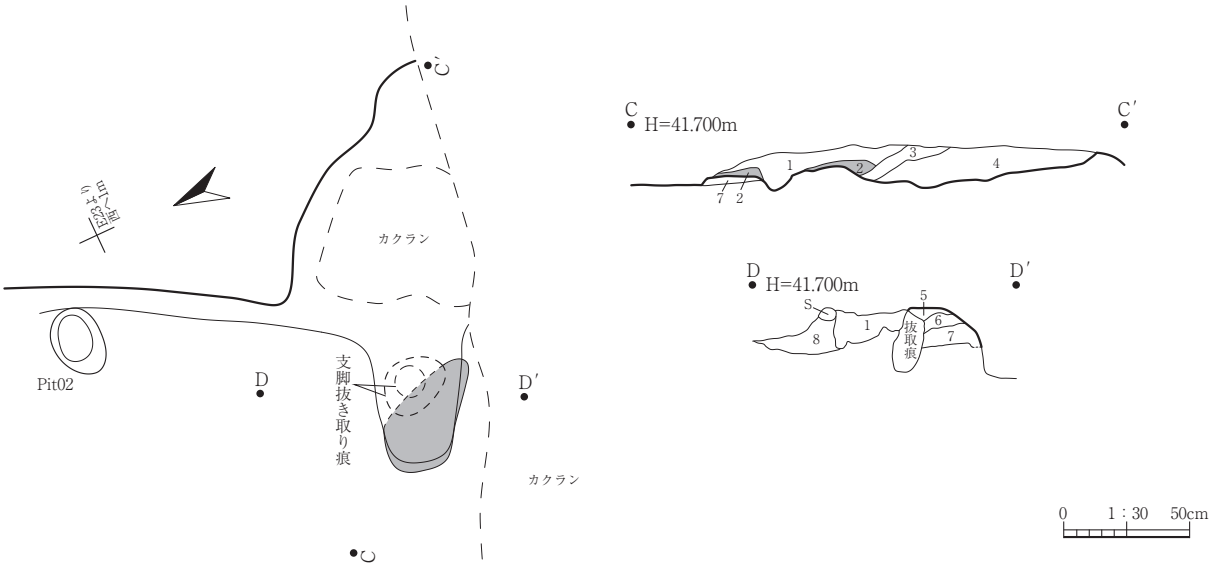
重複関係　SI06、SK29・43と重複しこれよりも新しい。SX04との新旧関係は不明である。

遺物　縄文土器・土師器・須恵器・土製品（粘土塊のみ）・石器が出土している。（第99・118・161・183・202・204図、写真図版78・91・112・125・136・137）

【土師器】出土重量は828g。復元可能な個体が少なくb70の甕1点のみ図化している。

【須恵器】出土重量は204g。坏はb64～69、壺甕類はb71～73、合計9点図化している。

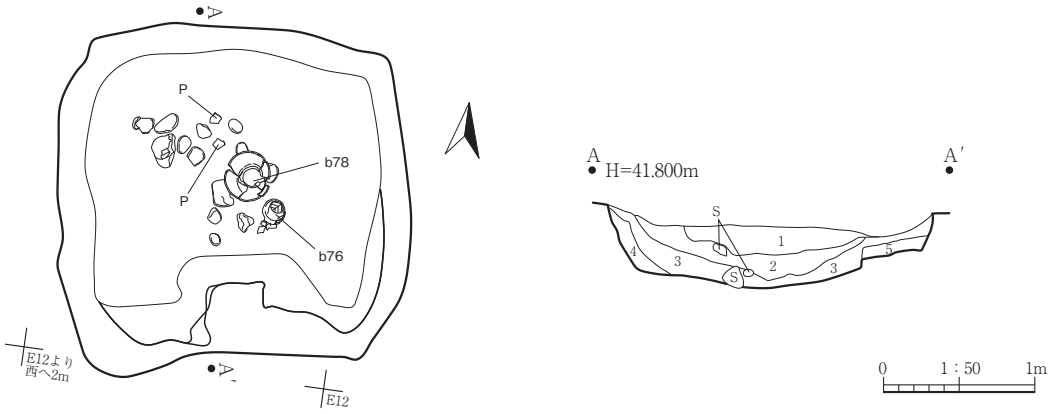
遺構の性格　カマドの存在から居住施設である。



第23図　SI04

第12表　SI04土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI04 A－A′・B－B′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	円礫(φ10～20cm)3%、土器包含	
	2	10YR3/2黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト粒20%	三角堆積
	3	10YR2/3黒褐色シルト	なし	密	黄褐色シルト20%	貼床土
	4	10YR2/3黒褐色シルト	なし	粗	黄褐色シルト5%	
SI04カマド C－C′・D－D′	1	10YR3/3暗褐色シルト	強	やや密	焼土粒10%、炭化材(φ1～3cm)1%	
	2	2.5YR4/6赤褐色シルト	強	密	炭化材(φ1cm)3%	天井崩落土
	3	10YR3/4暗褐色シルト	なし	粗	炭化材(φ5mm)1%	煙道部堆積土
	4	10YR3/3暗褐色シルト	なし	粗	黄褐色シルトブロック(φ1～3cm)5%、炭化材(φ5mm)3%	煙道部堆積土、人為堆積
	5	10YR6/4にぶい黄橙色粘土	強	密	焼土粒3%	袖構築土
	6	5YR3/4暗赤褐色シルト	弱	密	焼土粒30%、炭化材(φ5mm)3%	袖構築土
	7	10YR3/3暗褐色シルト	弱	密	黄褐色シルトブロック(φ5～10mm)5%	
	8	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗		カマド崩落土
SI04 Pit01 E－E′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト10%	柱痕 深さ22cm
	2	10YR3/3暗褐色シルト	弱	密	黄褐色シルト30%	
SI04 Pit02	1	—	—	—	—	深さ10cm



第24図　SI05

第13表　SI05土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI05 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	黄褐色シルト5%、炭化物(φ1～2cm)3%	人為堆積
	2	10YR3/2黒褐色シルト	なし	粗	黄褐色シルト1%	人為堆積
	3	10YR3/1黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト1%、奈良時代の土器出土	人為堆積
	4	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト20%	三角堆積
	5	10YR4/6褐色シルト	なし	密	黒褐色シルト50%、黄褐色シルト50%の混合土で階段を構築	

時期　遺構の形態的特徴と出土遺物から、平安時代前期の９世紀中葉である。

ＳＩ０５竪穴建物（第24図、写真図版19）

検出状況　調査区西側のE01グリッドに位置する。Ⅳ層上面でⅡ層に由来する黒褐色方形プランを検出した。東側はSI06と重複する。堆積土から本遺構がSI06よりも新しいと判断した。ベルトを設定し建物床面までの掘削を行った。

規模・形状　平面形は方形である。規模：2.0×1.9m、深さ：42㎝、床面積2.71㎡である。南壁中央に階段状の硬質面が確認された。

構成要素・付属施設　建物構成要素として階段状ステップ一段を検出した。付属施設はない。

堆積土　竪穴部の堆積土を５細分した。貼床作業は行われていない。ステップ部分の５層は硬化している。竪穴中央の底面～３層にかけて土器と礫が多量に出土した。投げ込まれたと考えられる出土状態で、１～３層も黒褐色シルトをベースとする人為的堆積であった。建物廃絶後にゴミ穴として利用された可能性が考えられる。

重複関係　SI06、SK57と重複し、本遺構の方が新しい。

遺物　縄文土器・土師器・須恵器・石器が出土している。３層上面から２層中に礫と土器（b76・78・他破片）がまとまって出土した。（第104・119・156・175・204図、写真図版82・91・92・110・121・137）

【土師器】出土重量は2,509g。b74が高坏、b76～79が甕類、合計５点図化した。b76・77が長胴甕、b78・79が球胴甕である。

【須恵器】出土重量は４g。b75の坏１点のみ出土し、図化している。

遺構の性格　不明である。ただしPitが確認されず、カマドが付属しない。また底面に明確な貼床面が認められないことや、階段状ステップの存在から、地下室の可能性が考えられる。

時期　出土遺物から、奈良時代の８世紀中葉～後半である。

ＳＩ０６竪穴建物（第25図、写真図版20・21）

検出状況　調査区西側のE02グリッドに位置する。Ⅳ層上面でⅡ層に由来する黒褐色方形プランを検出した。西側にはSI05が重複する。平面の堆積土から本遺構がSI05よりも古いと判断した。ベルトを設定し建物床面までの掘削を行った。カマドが北壁中央に認められる。

規模・形状　平面形は方形である。規模：3.3×2.5m、深さ：20㎝、床面積10.77㎡である。

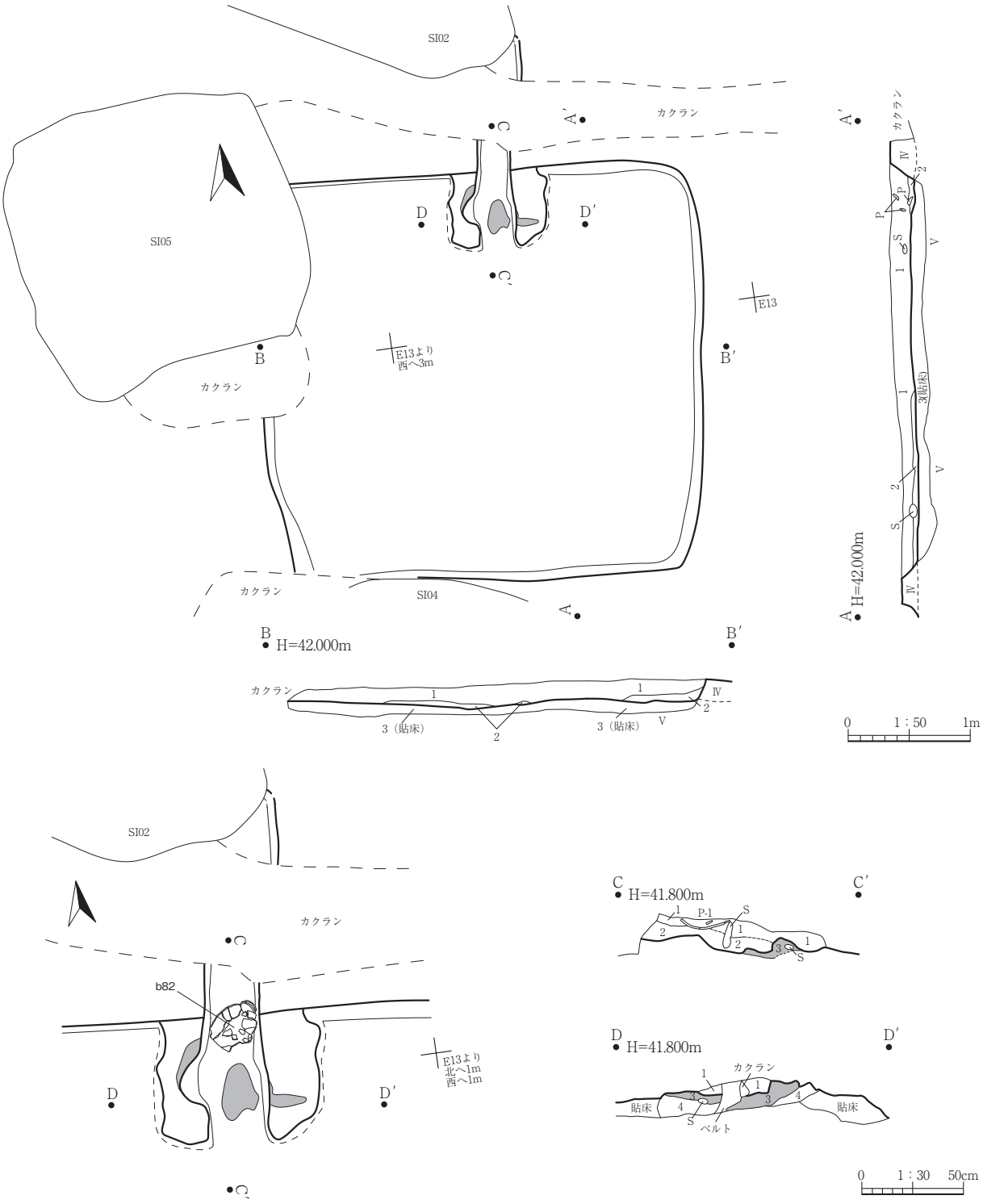
構成要素・付属施設　構成要素としての明瞭なPitは確認されなかった。付属施設は北壁中央にカマドが伴う。

堆積土　竪穴部の堆積土を３細分した。３層が貼床土、床面上の１・２層は自然堆積層と判断した。カマドの堆積土は４細分した。４層が袖部、３層が燃焼部底面や内壁に形成された焼土、２層が煙道部堆積土、１層が天井部崩落土である。燃焼部の奥に土師器甕１個体（b82）が遺棄されていた。

重複関係　SI04・05と重複し、本遺構が古い。またSK43よりは新しい。

遺物　縄文土器・土師器・須恵器・土製品（粘土塊他）・石器・炭化種実が出土している。（第99・106・119・125・153・161・179・202図、写真図版78・84・92・95・108・113・123・136）

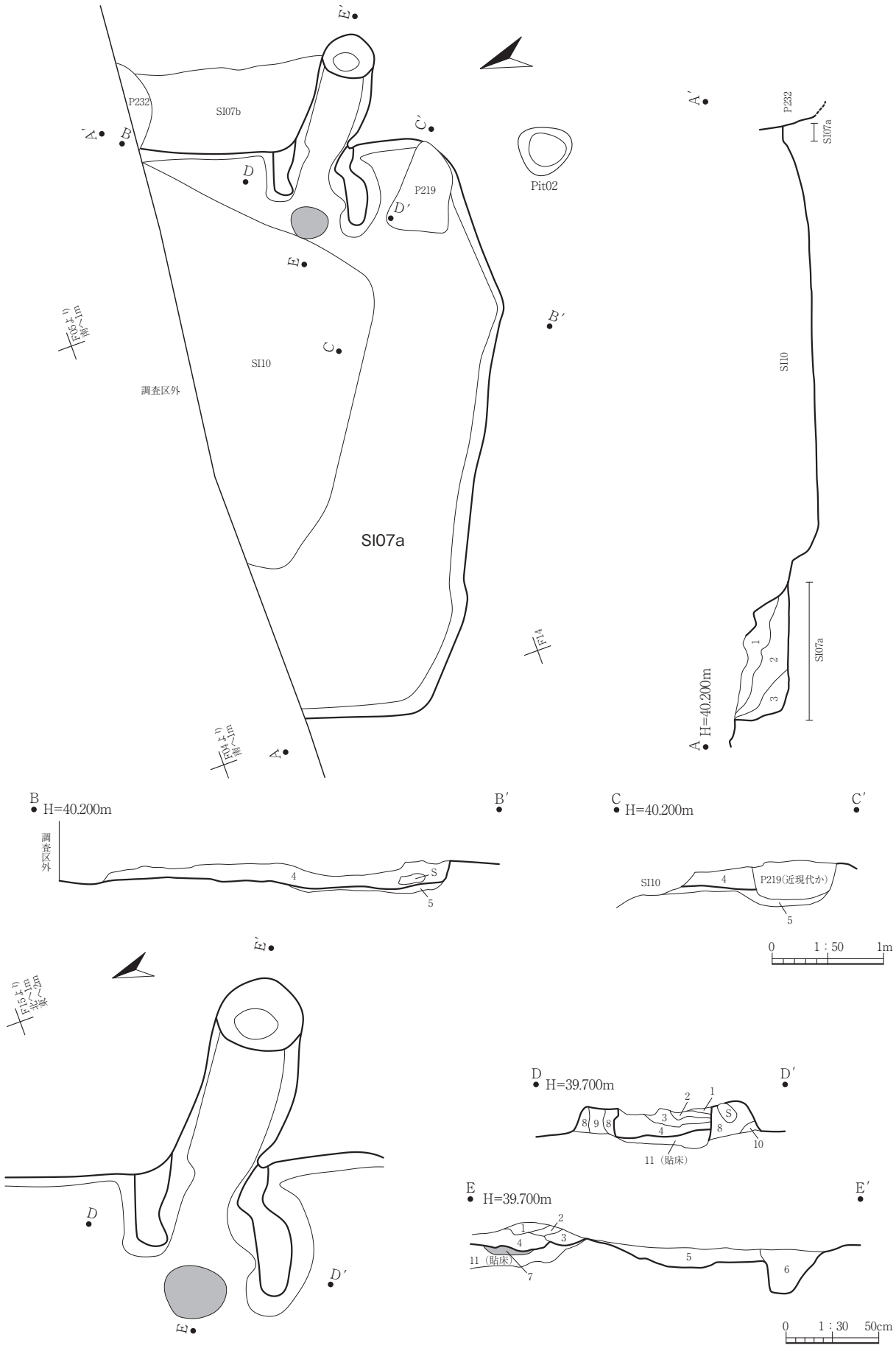
【土師器】出土重量は2,298g。b82は煙道部より出土した。坏類がb80・81、甕類がb82～87、合計８点図化している。b80は高坏で、胴部内外面ともに段を持つ。b82～85は長胴甕、b86･87は球胴甕、b87は赤彩される。



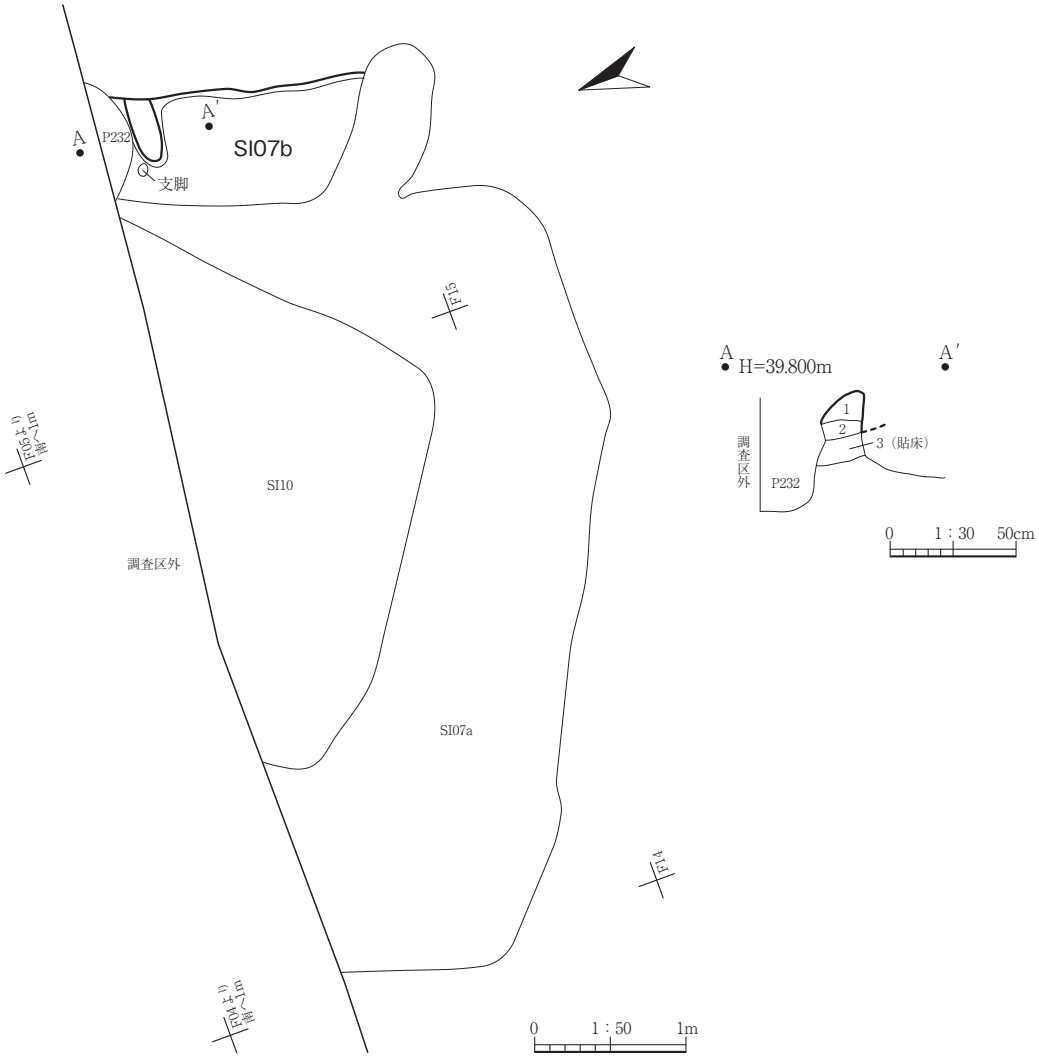
第25図　SI06

第14表　SI06土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI06 A－A′・B－B′	1	10YR5/4にぶい黄褐色シルト	なし	中	褐色シルト2%、小～中礫2%、焼土粒3%、炭化物(φ1～10㎜)5%、土器片多量	自然堆積
	2	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト10%、褐色シルト10%	自然堆積
	3	10YR4/4褐色シルト	弱	中	黒褐色シルト10%	貼床
SI06カマド C－C′・D－D′	1	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	強	密	黒褐色シルト10%、小礫10%、焼土粒5%、炭化物(φ1～2㎜)2%	カマド崩落土
	2	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト2%、炭化物(φ1～25㎜)2%	煙道部堆積土
	3	5YR4/8赤褐色シルト	なし	密	炭化物(φ1～2㎜)3%	燃焼部
	4	10YR6/6明黄褐色粘土質シルト	強	密	黒褐色シルト5%、焼土粒1%	カマドソデ


P232
SI07b
P219
Pit02
SI10
調査区外
SI07a
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
E
E′
H=40.200m
H=39.700m
P219(近現代か)
11（貼床）
0　1：50　1m
0　1：30　50cm

第26図　SI07a



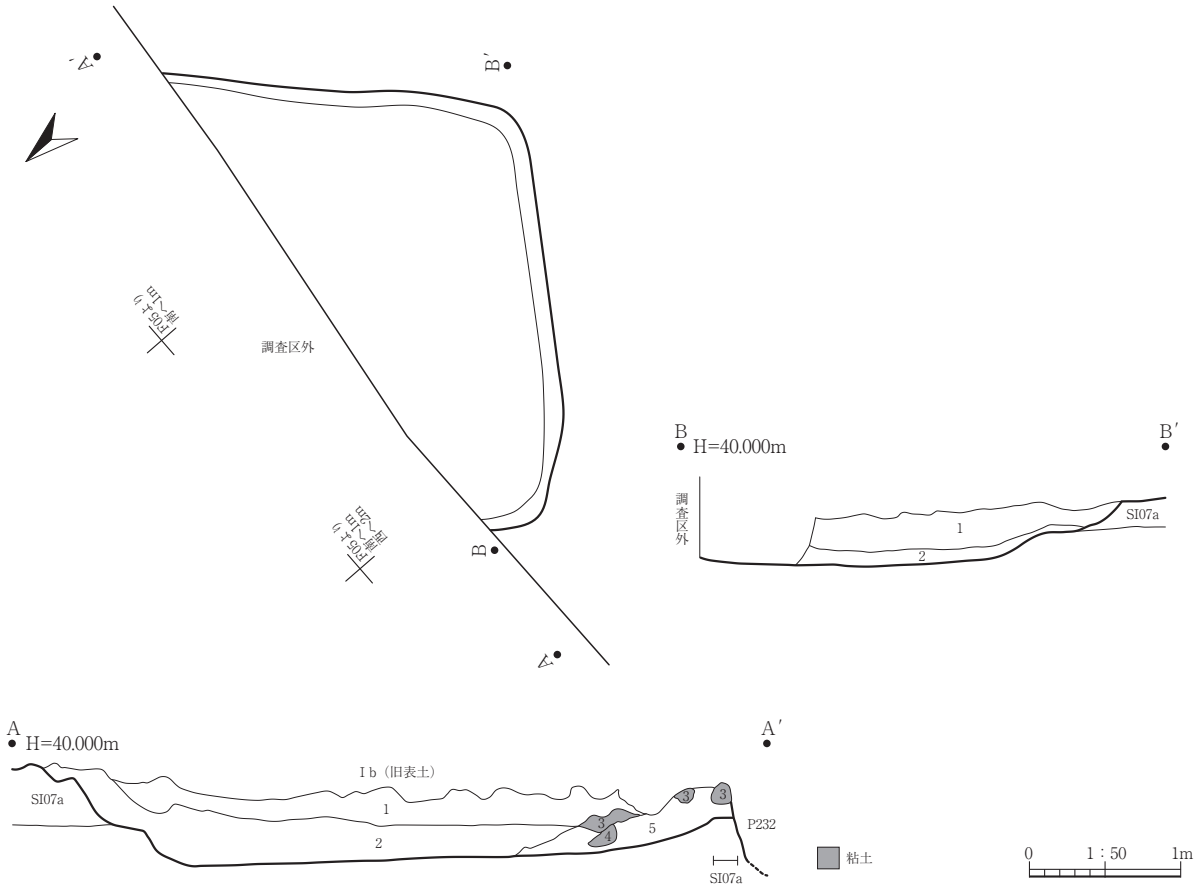
第27図　SI07b

第15表　SI07土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI07a A－A′～C－C′	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	粗	斜行に礫(φ3～5cm)5%	
	2	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	斜行に礫(φ3～5cm)10%	
	3	10YR3/2黒褐色砂	なし	粗	斜行に礫(φ3～5cm)3%	三角堆積
	4	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗	礫(φ3～5cm)5%	1層より礫が少ない
	5	10YR2/2黒褐色シルト	弱	やや密	水平方向に礫(φ3～5cm)	SI07a貼床土
SI07aカマド D－D′・E－E′	1	10TR3/4暗褐色粘土質シルト	強	密	焼土粒(φ10㎜)10%	天井崩落土
	2	10YR4/4褐色粘土質シルト	強	密	焼土ブロック(φ20～30㎜)30%	天井被熱面崩落土
	3	10YR2/3黒褐色砂質シルト	強	やや粗	焼土粒(φ5～10㎜)3%、炭化物粒1%	燃焼部堆積土
	4	10YR4/4褐色砂質シルト	強	やや密	焼土粒(φ10×20cm)10%、炭化物粒(φ10㎜)3%	カマド構築土の崩壊に伴う混合土
	5	10YR3/2黒褐色シルト	なし	粗	粗砂30%	煙道
	6	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	粗砂20%	煙道出部
	7	5YR4/6赤褐色シルト	弱	密	炭化物粒(φ3㎜)1%	燃焼部焼土
	8	10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト	強	密	焼土粒3%、被熱面あり	ソデの残存部
	9	10YR3/1黒褐色シルト	弱	粗		抜き取り痕
	10	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密		ソデ
	11	10YR3/2黒褐色シルト	なし	密	上面に焼土面あり	
SI07bカマド A－A′	1	10YR6/4にぶい黄橙色粘土	強	密	被熱土10%	ソデ
	2	10YR3/3暗褐色粘土	強	密	礫(φ3×4cm)5%	ソデ
	3	10YR2/3黒褐色シルト	弱	やや密	礫(φ1×2cm)5%	貼床
SI07 Pit02	1	—	—	—	—	深さ42cm

【須恵器】出土重量は13g。b88の大甕片１点のみ出土し図化した。
【その他】カマド内から炭化したオニグルミが出土している。
遺構の性格　居住施設である。
時期　出土遺物から、奈良時代の８世紀中葉である。

ＳＩ０７ａｂ竪穴建物（第26・27図、写真図版22・23）
検出状況　調査区東側のF04グリッドに位置する。近現代の攪乱が著しい。Ⅰ層の堆積が厚く、Ⅳ層上面でⅡ層に由来する黒褐色方形プランを検出した。これをSI07とした。さらに、プラン内にやや小規模の黒褐色プランが確認され、これをSI10とした。また、調査区壁付近のプラン東側でカマド袖部を検出し、当初検出したSI07とは別遺構の可能性があることから、SI07をSI07a、その東側の遺構をSI07bとした。調査区壁でこれらの遺構プランの重複確認を行うため、ベルトを設定し建物床面までの掘削を行った。SI07aはカマドが東壁南側に認められる。
－ＳＩ０７ａ－
規模・形状　平面形は方形である。調査区内規模：5.6×2.6m、深さ：43㎝、調査区内床面積11.06㎡である。
構成要素・付属施設　構成要素としての明瞭なPitは確認されなかった。付属施設は東壁南側にカマドが伴う。カマドは残存状態が不良であるが、僅かに袖部の堆積や被熱土が認められた。
堆積土　竪穴部の堆積土を５細分した。５層が貼床土、４層が東側の床面上の堆積土、３層が埋没初期のいわゆる三角堆積土、１・２層は西側の堆積層と判断した。SI10に分断されるため、東側と西側の堆積の比較は困難であったが、堆積状況から４層は１・２層と対応すると考えられる。カマド関連の堆積土は11細分した。11層は建物貼床土、８～10層が袖部、７層が燃焼部焼土、６層が煙出部堆積土、５層が煙道部堆積土、３・４層が燃焼部堆積土、１・２層が天井部崩落土である。
－ＳＩ０７ｂ－
規模・形状　平面形は不明である。古代竪穴建物の残存であることから、方形が想定される。調査区内残存規模：1.7×0.8m、深さ：20㎝、調査区内残存床面積1.04㎡である。
構成要素・付属施設　構成要素としての明瞭なPitは確認されなかった。付属施設は東壁に相当すると考えられる壁面にカマド伴い、礫の支脚が残存する。
堆積土　堆積土は調査区壁と、カマドの断割り調査で確認した。カマド袖部堆積土を３細分した。３層が建物貼床土、１・２層が袖部である。カマドはP232と重複しこれに切られてほぼ消失している。
－ＳＩ０７ａｂ－
重複関係　堆積土の観察から、SI07b→SI07a→SI10の順番で構築されたと考えられる。よって、調査区東側に構築された古代建物の中では、SI07bが最も古い。ほかにP219・232と重複し、これに切られる。
遺物　縄文土器・土師器・須恵器・土製品（粘土塊のみ）・石器が出土している。SI07全体で23点、SI07aで11点（b97～b107）、SI07bで４点（b108～111）、SI07aまたはｂで８点（b89～96）図化している。土師器の出土重量は7,466g、須恵器の出土重量は667g。（第114・120・155・196・203図、写真図版88・92・93・109・132・137）
【SI07a】土師器坏類５点、甕類３点、須恵器坏２点、壺１点。b97は高台坏、b98は皿、b99・100は坏、b99は墨書されるが文字は不明である。いずれも内面が黒色処理される。甕はすべて回転ナデ調整である。須恵器坏（b101・102）は回転ナデ後下端をケズリ、底部も周辺がケズリ調整されている。



第28図　SI10

第16表　SI10土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SI10 A－A′	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	粗	水平方向に礫(φ10～20cm)10%、(φ5～10cm)30%	
	2	10YR3/2黒褐色砂	弱	粗	水平方向に礫(φ3～5cm)10%、(φ5～10cm)20%	
	3	10YR6/3にぶい黄橙色粘土	強	密	焼土粒10%	カマド構築材の崩落による形成か？東側から流入
	4	10YR6/2灰黄褐色粘土	強	密	焼土粒1%	3層同様カマド構築材の崩落による形成か？3層とは色調異なる
	5	10YR3/2黒褐色シルト	弱	粗	2層に似るが、礫は少なく砂も少ない	
SI10 B－B′	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	粗	水平方向に礫(φ10～20cm)10%、(φ5～10cm)30%	
	2	10YR3/2暗褐色砂	弱	粗	水平方向に礫(φ3～5cm)3%	

【SI07b】土師器甕２点、須恵器坏１点、大甕１点。土師器甕b109はタタキ成形後回転ナデ、ケズリ調整される。

【SI07ab】b89の土師器坏胴部に墨書されているが、判読できない。

遺構の性格　居住施設である。

時期　出土遺物から、平安時代前期の９世紀中葉である。

ＳＩ１０竪穴建物（第28図、写真図版22・23）

検出状況　調査区東側のF04グリッドに位置する。本遺構は前述のSI07調査途上でその範囲が確認された。調査区壁付近でSI07aのプランの内側に小規模な方形プラン検出し、これを本遺構とした。調査区壁でこれらの遺構プランの重複確認を行うため、ベルトを設定し建物床面までの掘削を行った。

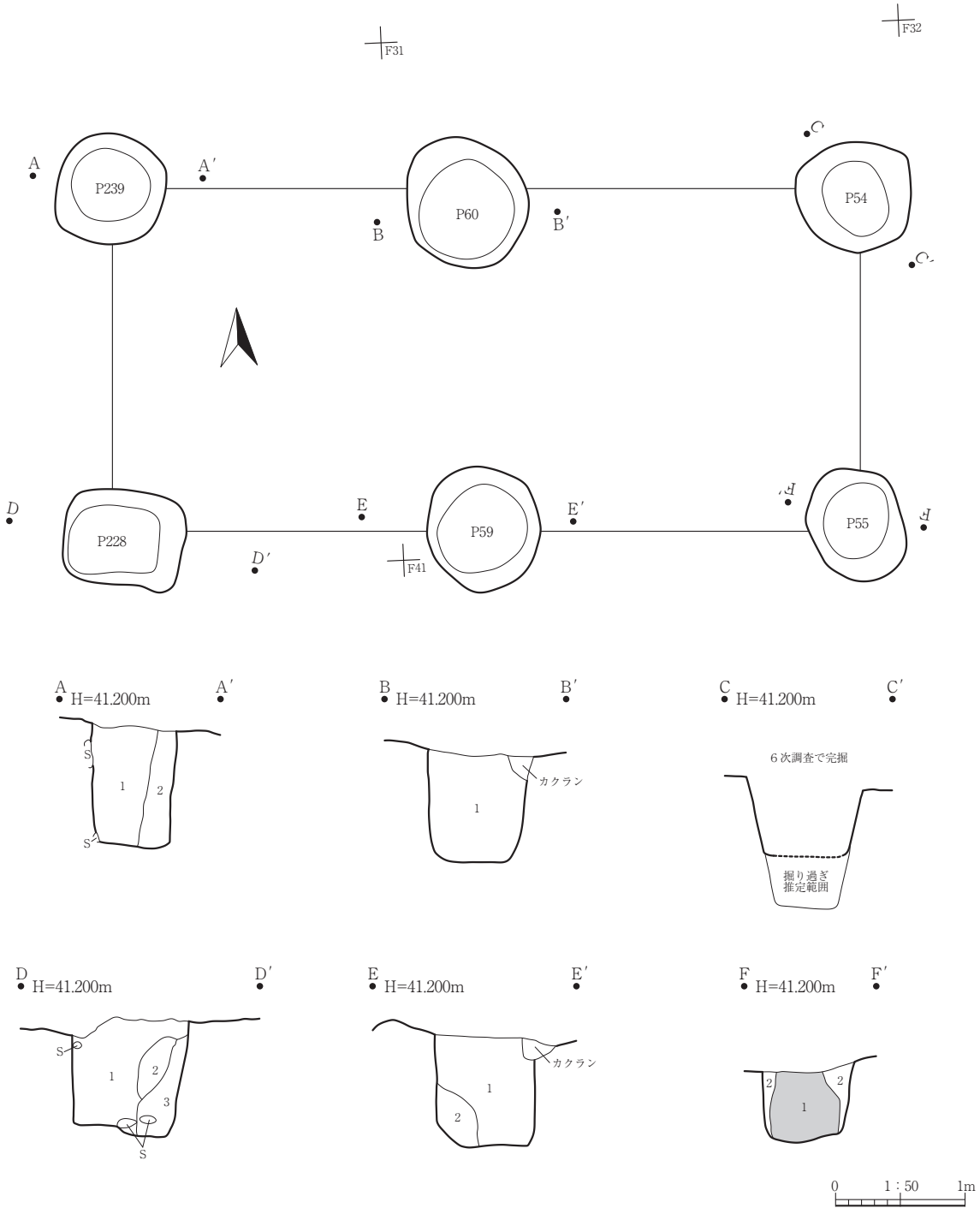
規模・形状　平面形は方形である。調査区内規模：2.7×2.3ｍ、深さ：53㎝、調査区内床面積3.72㎡である。

構成要素・付属施設　構成要素としての明瞭なPitは確認されなかった。付属施設も未検出である。
堆積土　堆積土は５細分した。３～５層はSI07bカマドの崩落土の可能性がある。本遺構構築時に、SI07bを切り、袖石・焼土・袖構築材などが本遺構の周堤として建物外に積み上げられ、それらが本遺構廃棄時崩落して流入した可能性がある。２層は床面上に形成され、１層が建物全体を覆う。
重複関係　堆積土の観察から、SI07b→SI07a→SI10の順番で構築されたと考えられる。これらの中では、本遺構が最も新しい。
遺物　土師器・須恵器・石器（剥片のみ）が出土している。（第121図、写真図版93）
【土師器】出土重量は1,063g。高台坏（b112）１点図化した。
【須恵器】出土重量は320g。b113・114が坏、b115・116が甕、合計４点を図化した。
遺構の性格　居住施設である。
時期　出土遺物から、平安時代前期の９世紀中葉である。

（２）掘 立 柱 建 物

ＳＢ０１掘立柱建物（第29図、写真図版24・25）
検出状況　調査区東部E40グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は東西5.79ｍ、南北2.64ｍ、軸方向はN-87°-Wである。P54・55・59・60・228・239、６個の柱穴で構成される。柱穴の規模は開口部径100㎝前後、深さは63～109㎝と規模が大きく深い。底面標高は40ｍ前後とほぼ揃う。形状は、P228が隅丸方形、それ以外は円形である。P54は第６次調査（第１表参照）で調査が行われている。壁面にわずかに残る堆積土から底面ラインを推定図化した。
堆積土　暗褐色～黒褐色の砂質シルト～シルトを主体とする。P55内には柱痕が確認された。
配置　縄文晩期大洞Ａ式期のSI13と重複しこれよりも古い。またSK34と近接する。
遺物　柱穴内より縄文土器・石器が出土している。（第79・139図、写真図版62・102）
【縄文土器】出土重量は592g。a125～132の８点を図化した。いづれも鉢類の口縁または胴部片である。
【石器】５点出土してすべて図化掲載している（e84～88）。器種は石斧未成品・不定形石器・磨石・敲石である。
時期　重複関係と出土遺物から縄文時代晩期（中葉～後葉）である。

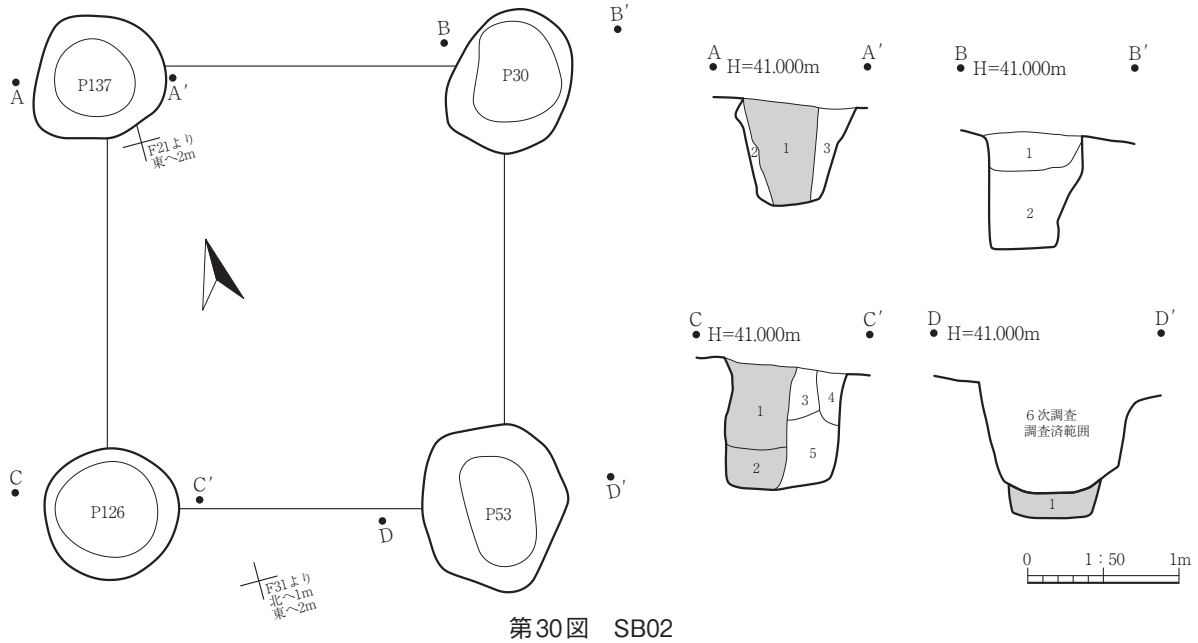
ＳＢ０２掘立柱建物（第30図　写真図版26）
検出状況　調査区東部F21グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は2.94×2.63ｍ、南北方向にやや長い。軸方向はN-75°-Wである。P30・53・126・137、４個の柱穴で構成される。柱穴の規模は開口部径89～113㎝、深さは90㎝前後と規模が大きく深い。底面標高は西側より東側の方が20～30㎝程度低くなる。形状は、円形である。
堆積土　暗褐色～黒褐色のシルト～砂を主体とする。P53・126・137内には柱痕が確認された。
配置　構成する柱穴の重複はないが、掘立柱建物の範囲内にSB03とSB04が存在する。新旧関係は不明である。
遺物　柱穴内より縄文土器・石器が出土している。（第79・139図、写真図版62・102）
【縄文土器】出土重量は528g。a133～137の５点を図化した。すべて鉢類の口縁部片である。



第29図　SB01

第17表　SB01土層観察表

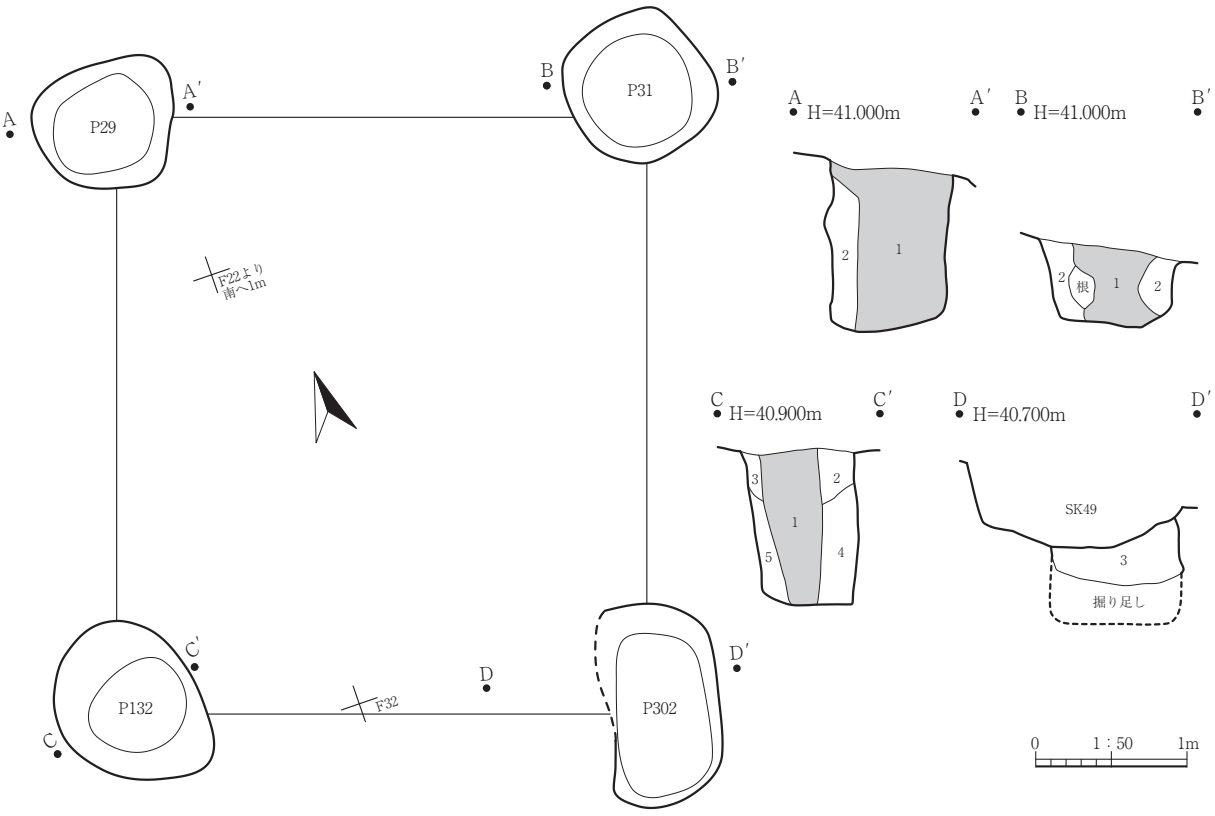
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P239 A－A′	1	10YR2/3黒褐色砂質シルト	なし	粗	小礫少量、草根少量	
	2	10YR3/3暗褐色砂質シルト	なし	粗	小～中礫中量、根多量	
P60　B－B′	1	10YR3/3暗褐色砂質シルト	弱	粗	小～中礫多量、根多量	
P228 D－D′	1	10YR2/3黒褐色砂質シルト	なし	粗	小礫少量、根少量	
	2	10YR3/4暗褐色砂質シルト	なし	粗	小礫中量	
	3	10YR3/3暗褐色砂質シルト	なし	粗	小～中礫中量	
P59　E－E′	1	10YR3/3暗褐色砂質シルト	弱	粗	小～中礫多量、根多量	
	2	10YR2/3黒褐色砂質シルト	弱	粗	小～中礫多量	
P55　F－F′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	礫（φ３～５cm）	柱痕
	2	10YR3/2黒褐色シルト	なし	密		



第30図　SB02

第18表　SB02土層観察表

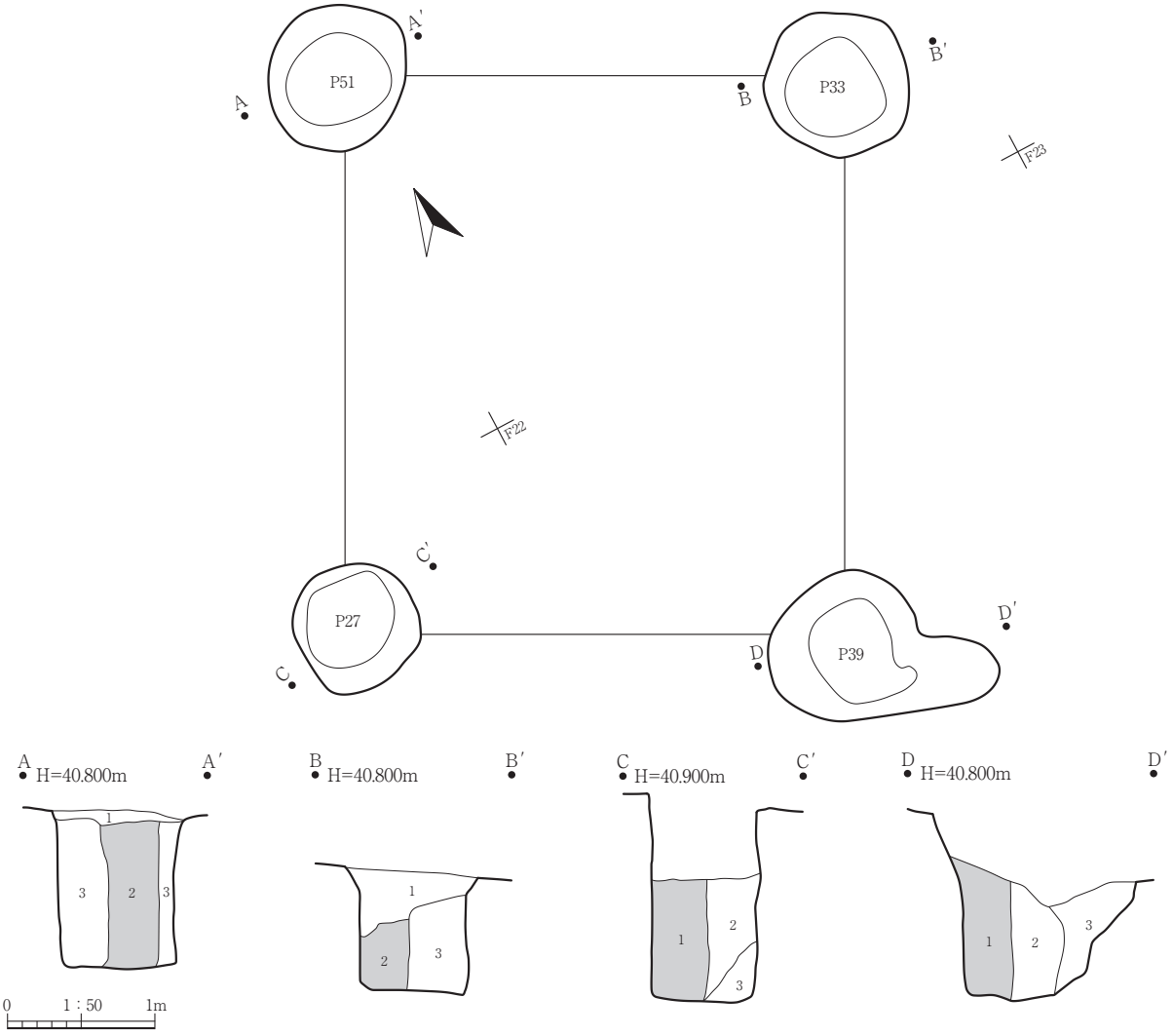
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P137 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	なし		柱痕
	2	10YR3/3暗褐色シルト	なし	やや密	礫（φ5～10cm）30%	
	3	10YR4/4褐色シルト	なし	密		
P30　B－B′	1	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	礫（φ5～20cm）40%	柱痕か
	2	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	礫（φ3～5cm）10%	柱痕か
P126 C－C′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	粗砂5%	柱痕上層
	2	10YR3/3暗褐色砂	なし	粗	礫（φ5～10cm）30%	柱痕下層
	3	10YR3/4暗褐色砂	なし	粗		
	4	10YR3/2黒褐色シルト	なし	密		
	5	10YR2/3黒褐色砂	なし	密		
P53　D－D′	1	10YR4/4褐色シルト	弱	粗	炭化物粒1%含む	柱痕、上部は6次調査で調査済



第31図　SB03

第19表　SB03土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P29　A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	なし	やや粗		柱痕
	2	10YR3/3暗褐色シルト	なし	やや密		
P31　B－B′	1	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	礫（φ5～10cm）5%	柱痕
	2	10YR3/3暗褐色シルト	なし	粗	根多量	
P132 C－C′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	粗		柱痕
	2	10YR3/2黒褐色シルト	なし	やや密	礫（φ5～10cm）を充填	
	3	10YR3/3暗褐色砂	なし	やや密	礫（φ5～10cm）を充填	
	4	10YR3/4暗褐色砂	なし	やや密	礫（φ5～10cm）10%	
	5	10YR4/4褐色砂	なし	やや密	礫（φ5～10cm）5%	
P302 D－D′	1	10YR3/3暗褐色砂	なし	粗		



第32図　SB04

第20表　SB04土層観察表

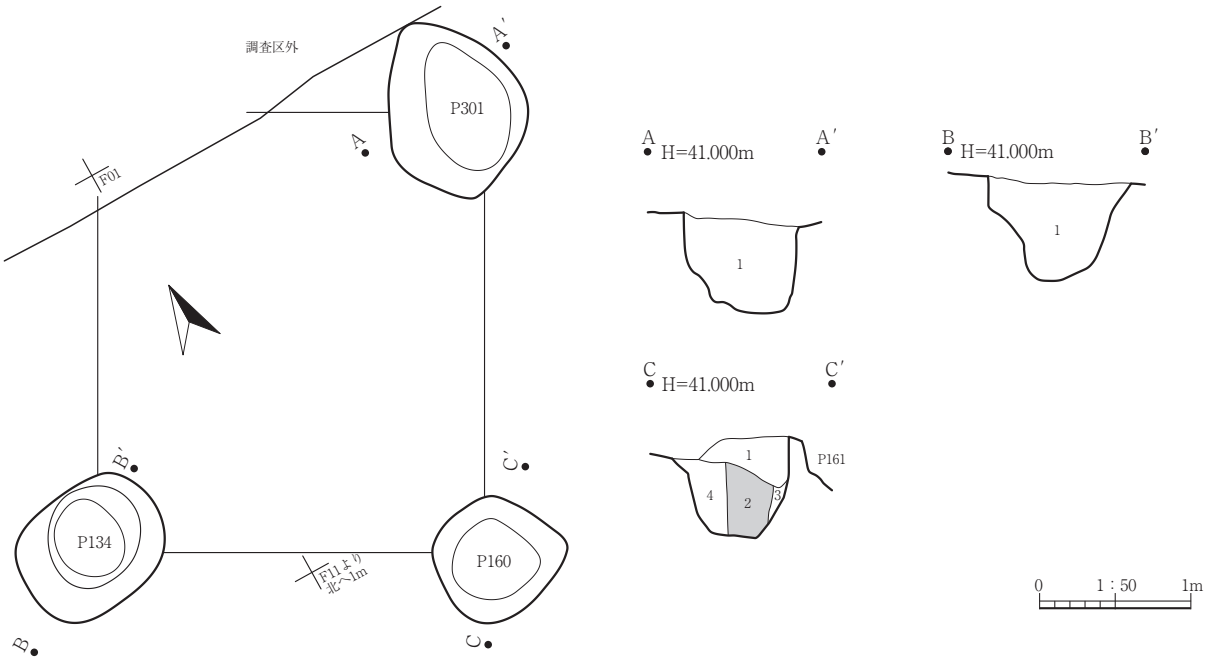
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P51 A－A′	1	10YR3/1黒褐色シルト	弱	やや密		
	2	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	炭化物粒1%	柱痕
	3	10YR3/3暗褐色シルト	弱	密	礫（φ5～10cm）30%を充填	
P33 B－B′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	粗	礫（φ5～10cm）40%	
	2	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗		柱痕
	3	10YR3/3暗褐色シルト	なし	密	粗砂30%	
P27 C－C′	1	10YR4/3にぶい黄褐色砂	なし	やや密		柱痕
	2	10YR4/6褐色砂	なし	密	扁平礫（φ5～10cm）20%	
	3	10YR3/4暗褐色砂	なし	粗		充填されている
P39 D－D′	1	10YR3/2黒褐色シルト	なし	粗	遺物あり	柱痕
	2	10YR3/3暗褐色シルト	なし	粗	礫（φ3～10cm）30%	
	3	10YR3/4暗褐色砂	なし	粗	礫（φ3～5cm）10%	

【石器】石棒が１点出土している（e89）。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（中葉～後葉）である。

ＳＢ０３掘立柱建物（第31図、写真図版27）
検出状況　調査区東部F22グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は3.95×3.51ｍ、南北方向にやや長い。軸方向はN-71°-Wである。P29・31・132・302、４個の柱穴で構成される。柱穴の規模は開口部径99～137㎝と大きい。深さは60㎝程度と120㎝程度のものに分かれるが、底面の標高は39.5ｍ前後とほぼ揃っている。形状は、P302が隅丸方形、それ以外は円形である。
堆積土　暗褐色～黒褐色のシルト～砂を主体とする。P29・31・132内には柱痕が確認された。
配置　SK49とP302が重複し、本遺構の方が古い。また構成する柱穴の重複はないが、掘立柱建物の範囲内にSB02とSB04が存在する。新旧関係は不明である。
遺物　柱穴内より縄文土器・石器（敲石）が出土している。土器出土重量は354g。a138～140の３点を図化した。（第79・139図、写真図版62・102）
時期　出土遺物から縄文時代晩期（後葉）である。

ＳＢ０４掘立柱建物（第32図、写真図版28）
検出状況　調査区東部F21グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は3.79×3.39ｍ、南北方向にやや長い。軸方向はN-62°-Wである。P27・33・39・51、４個の柱穴で構成される。柱穴の規模は開口部径91～157㎝と大きく、深さも97～136㎝と深い。底面の標高は西側が39.4ｍ、東側が39.2ｍと後者の方が深い。形状は、P39が不正形、それ以外は円形である。
堆積土　暗褐色～黒褐色シルト～砂を主体とする。すべての柱穴内で柱痕が確認された。
配置　構成する柱穴の重複はないが、掘立柱建物の範囲内にSB02とSB03が存在する。新旧関係は不明である。
遺物　柱穴内より縄文～弥生土器・石器が出土している。（第79・140図、写真図版62・63・102）
【縄文～弥生土器】出土重量は61g。a141～143の３点を図化した。a143は弥生時代の浅鉢（台付?）である。
【石器】e91の石鏃とe92の磨製石斧、各１点図化している。
時期　出土遺物から縄文時代晩期もしくは弥生時代の可能性がある。

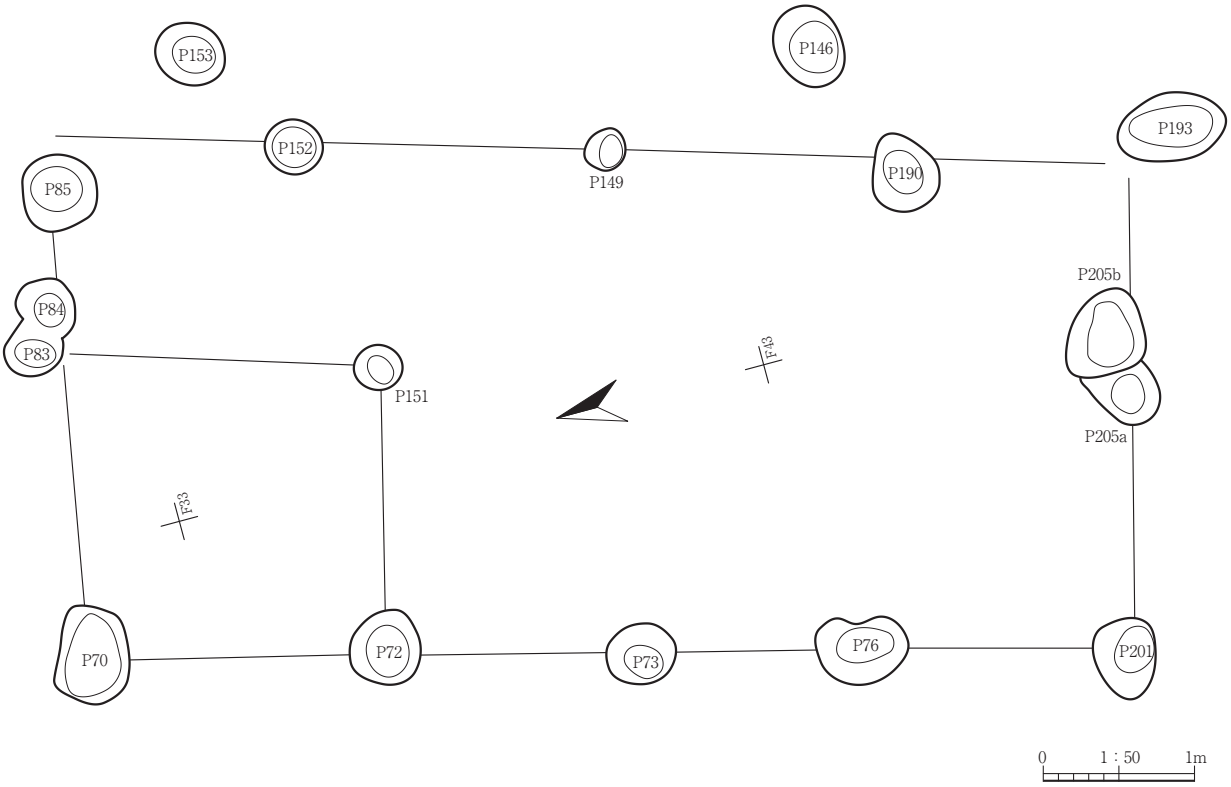
ＳＢ０５掘立柱建物（第33図、写真図版29）
検出状況　調査区東部F01グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は2.92×2.56ｍ、南北方向にやや長い。軸方向はN-61°-Wである。P134・160・301、３個の柱穴で構成され、北西側１個は調査区外に位置すると推測される。柱穴の規模は開口部径90～102㎝と大きく、深さも70㎝程度で比較的深い。底面の標高は39.8～41.1ｍ。形状は、P134が隅丸方形、それ以外はややいびつな円形である。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。P160で柱痕が確認された。
配置　構成する柱穴の重複はないが、掘立柱建物の範囲とSD02が重なる。出土遺物より本遺構の方が古いと判断される。



第33図　SB05

第21表　SB05土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P301 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	やや密	礫（φ3～5cm）5%	
P134 B－B′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	粗		抜き取り痕
P160 C－C′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	粗	粗砂20%	
	2	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	粗砂10%	柱痕
	3	10YR3/3暗褐色砂	なし	やや粗		
	4	10YR4/4褐色砂	なし	やや粗		



第34図　SB06

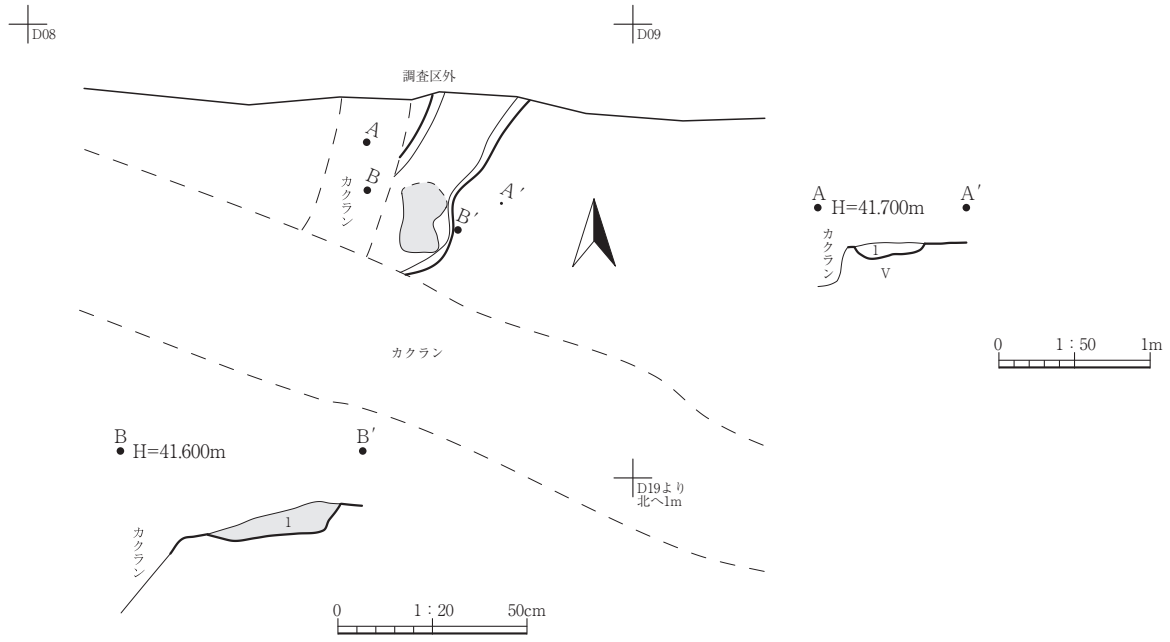
遺物　柱穴内より縄文土器が出土している。出土重量は104g。a144・155の２点を図化した。（第79図、写真図版63）
時期　出土遺物から縄文時代晩期（中葉～後葉）である。

ＳＢ０６掘立柱建物（第34図、写真図版30）
検出状況　調査区東部F32グリッドに位置する。検出面はＶ層。
規模・形状　規模は7.12×3.45ｍ、南北方向に長軸を持つ（N-15°-E）。P70・72・73・76・83～85・149・151・152・190・193・201・205ab、15個の柱穴で構成される。柱穴の規模は開口部径29～67㎝、深さ17～53㎝、SB01～05と比べ規模が小さい。形状はやや不整なものもあるがおおむね円形である。
堆積土　黒褐色シルトの堆積する柱穴が多い。それら柱穴から現代遺物も出土した。
配置　範囲内に柱穴状土坑を多く含むものの、柱穴同士の重複はない。
遺物　柱穴内から縄文土器、土師器が出土している。a450・451・613の３点を図化した。（第99・109図、写真図版78・85）
時期　出土遺物と建物の形状から近世以降と推定される。

（３）溝　　跡

ＳＤ０１（第35図、写真図版31）
検出状況　調査区西部D08グリッドに位置する。検出面はＶ層。
規模・形状　北側は調査区外へと延び、南側は攪乱によって削平されそのまま消失する。全長1.3ｍ、幅は0.5ｍ、検出面からの深さは18㎝である。直線状、南西側がやや外側へ膨らむ。底面は南側へ向かって低くなり高低差は10㎝程度である。
堆積土　暗褐色シルトを主体とする。南側に平面形46×29㎝、深さ18㎝の範囲に暗赤褐色シルト層が広がっており、赤色顔料が含まれている可能性がある。
配置　SI01、SK20に隣接する。
遺物　縄文土器（３g）・土師器（６g）が出土しているが、いずれも小片のため図化していない。
遺構の性格　堆積土中に赤色顔料が含まれており墓坑の可能性もあるが、土師器が出土していることから、溝跡と判断した。周囲にはSK22やSK25のように赤色顔料を含む土坑が分布しているため、これらの遺構の堆積土が本遺構に流入したものと考えられる。
時期　出土遺物から古代以降である。

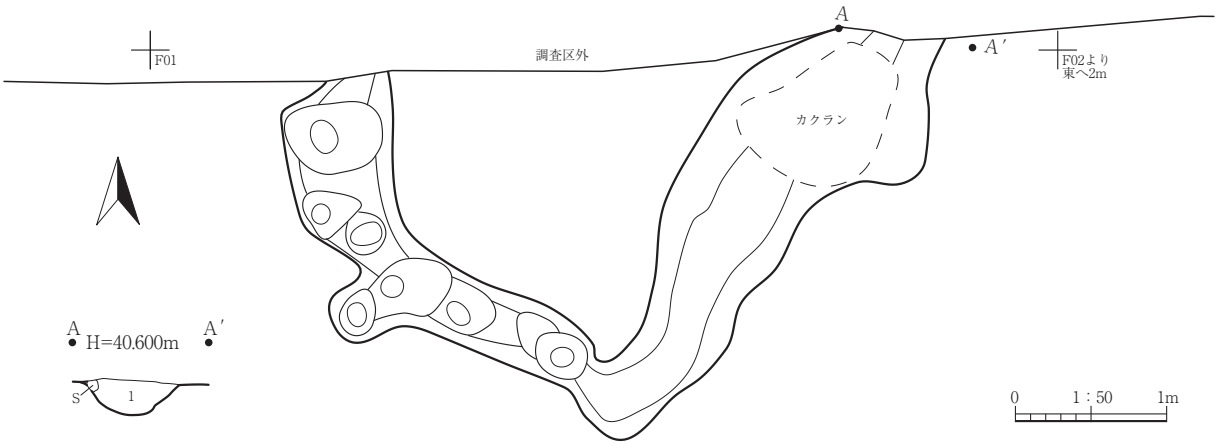
ＳＤ０２（第36図、写真図版30・31）
検出状況　調査区東部F01グリッドに位置する。検出面はＶ層。
規模・形状　半円状に弧を描き、両端は調査区外へと延びる。全長は5.9ｍ、幅は0.3～1.2ｍ、検出面からの深さは北東端部で20㎝程度である。西側底面には複数の小穴が並ぶ。小穴の規模は大小様々で、溝底面からの深さも15～50㎝程度と一定でない。またこの小穴列を境に東側は溝の底面標高が20㎝ほど低くなり、そのまま北東へ向かってさらに下がり、西側底面との最大の標高差は45㎝となる。
堆積土　暗褐色土を主体とする。



第35図　SD01

第22表　SD01土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SD01 A－A′	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	中	赤色顔料（5YR3/6暗赤褐色）微量、小礫5%	
SD01 B－B′	1	5YR3/6暗赤褐色シルト	なし	中	赤色顔料か	



第36図　SD02

第23表　SD02土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SD02 A－A′	1	10YR3/3暗褐色	なし	粗	粗砂30%	人為堆積

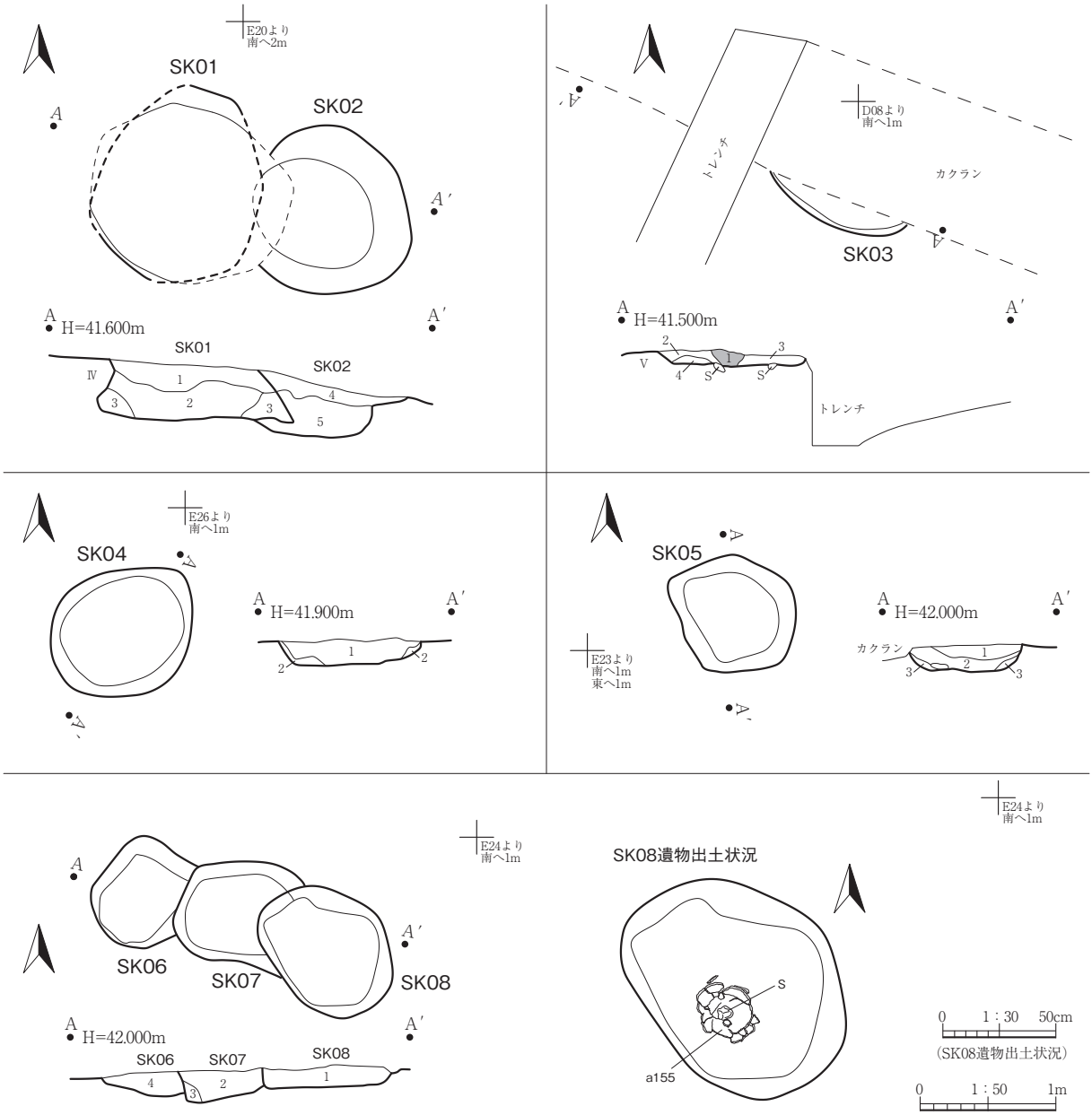
配置　SB05掘立柱建物の範囲と重複する。出土遺物から本遺構の方が新しい。
遺物　縄文土器と石器・土師器が出土している。土師器の出土重量は９g、小片のため図化していない。（第80・140図、写真図版63・102）
【縄文土器】出土重量は1,265g。a146 ～ 148の３点を図化した。
【石器】７点出土し全点図化している（e93 ～ 99）。器種は石鏃、楔形石核、敲磨器、磨石、敲石、異形石器である。
時期　出土遺物より古代以降である。

（４）土　坑　類

60基確認した。調査区全域に分布しており、貯蔵穴、墓、不明に分類される。平面形状が円形で、壁が直立に近い、または内傾するものを貯蔵穴と判断した。同じく平面形状が円形であるが、底面付近のみしか残存していないものも、可能性があると記しこれに含めた。隅丸方形～長方形もしくは長楕円形の平面形状を持ち、堆積土中に略完形の土器または赤色顔料を含むものは墓と判断した。土器や顔料が含まれていなくても、土坑墓の分布域に位置し、形状が上記に当てはまるものも墓の可能性があると記しこれに含めた。

ＳＫ０１土坑（第37図、写真図版31）
検出状況　調査区東部、E19グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　規模は南北が1.46ｍ、東西の残存値は1.16ｍ、深さは40㎝である。平面形は略円形。底面は平坦で、壁は内傾しフラスコ状を呈する。
堆積土　底面壁際に褐色シルトが堆積、その上を暗褐色土、黒褐色土が覆う。
配置　SK02と重複しこれよりも新しい。SI15とも僅かに接しており、重複関係と出土遺物から本遺構の方が新しいと判断される。
遺物　縄文土器・石器（剥片）が出土している。縄文土器の出土重量は251g、a149・150の鉢２点を図化している。（第80図、写真図版63）
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ０２土坑（第37図、写真図版31）
検出状況　調査区東部、E20グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　西側がSK01によって消失する。規模は南北が1.23ｍ、東西の残存値は1.13ｍ、深さは53㎝である。平面形は円形。底面は平坦で、壁下半は直立、上半は大きく外傾して開く。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　SK01と重複しこれよりも古い。
遺物　縄文土器が出土している。出土重量は642g、a151･152の深鉢２点を図化している。（第80図、写真図版63）
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。



第37図　SK01 ～ 08

第24表　SK01 ～ 08土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK01・02 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	微	粗	円礫（φ5～10cm）4点	SK01
	2	10YR3/3暗褐色シルト	微	粗	炭化物粒（φ1～3mm）1%	SK01
	3	10YR4/4褐色シルト	微	粗	炭化物粒（φ1～3mm）1%	SK01
	4	10YR3/2黒褐色シルト	微	粗		SK02
	5	10YR2/3黒褐色シルト	微	粗	炭化物粒（φ1～3mm）1%	SK02
SK03 A－A′	1	5YR3/6暗赤褐色砂質シルト	なし	粗	褐色土砂質シルト20%、炭化物（φ1～3mm）3%	赤色顔料層の可能性あり　土坑墓か
	2	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	なし	粗	小礫5%	
	3	10YR4/4褐色砂質シルト	なし	粗	小礫3%	
	4	10YR3/4暗褐色砂質シルト	なし	なし	小礫5%	
SK04 A－A′	1	10YR1.7/1黒色シルト	弱	粗	礫（φ5～10cm）5点	Ⅱ層由来か
	2	10YR5/6黄褐色シルト	強	やや密		壁崩落土
SK05 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	礫（φ5～15mm）1%	撹乱に切られる
	2	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗		
	3	10YR5/6黄褐色シルト	強	粗		壁崩落土
SK06 ～ 08 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	細砂10%	SK08、人為堆積
	2	10YR3/2黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト10%	SK07、人為堆積
	3	10YR4/4褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト50%	SK07、人為堆積
	4	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト5%	SK06、人為堆積

ＳＫ０３土坑（第37図、写真図版32）

検出状況　調査区西部、D08グリッドに位置する。検出面はⅤ層。

規模・形状　大半を攪乱により消失する。残存部の規模は1.06×0.21ｍ、深さは10㎝である。平面形は、攪乱範囲の北側へ遺構が延びていないことから円形または隅丸方形と推測される。

堆積土　暗褐色・褐色・にぶい黄褐色と様々な色調の土を主体とする。１層には赤色顔料が含まれている可能性がある。

配置　重複する遺構はない。

遺物　出土していない。

遺構の性格　堆積土中に赤色顔料が含まれているとすると土坑墓の可能性がある。

時期　出土遺物がないが、土坑墓であれば周辺の同種類のものと同じく縄文時代晩期と考えられる。

ＳＫ０４土坑（第37図、写真図版32）

検出状況　調査区中央部、E25グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　規模は1.17×0.97ｍ、深さは21㎝である。平面形は円形。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

堆積土　黒色土（Ⅱ層由来か？）を主体とする。壁際には、壁崩落土が堆積している。

配置　重複する遺構はない。

遺物　縄文土器・石器が出土している。（第80・141図、写真図版63・102・103）

【縄文土器】出土重量は264g。a153・154の鉢類２点を図化した。

【石器】敲磨器が２点出土している（e100・101）。

遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。

時期　出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ０５土坑（第37図、写真図版32）

検出状況　調査区中央部、E23グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　規模は1.02×0.87ｍ、深さは22㎝である。平面形は円形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

堆積土　黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。壁際には、壁崩落土が堆積している。

配置　SK06・07と近接するが新旧は不明である。

遺物　出土していない。

遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。

時期　出土遺物はないが、分布位置・形状・堆積土などから縄文時代晩期と考えられる。

ＳＫ０６土坑（第37図、写真図版32・33）

検出状況　調査区中央部、E23グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　東側がSK07と重なり消失する。残存規模は0.84×0.68ｍ、深さは21㎝である。平面形は円形。底面は浅皿状に丸みを帯び、壁は外傾して立ち上がる。

堆積土　黒褐色シルトを主体とし、人為堆積である。

配置　SK07と重複しこれよりも古い。SK05とも近接するが新旧関係は不明である。

遺物　石器（敲石）が２点出土している（e102・103）。（第141図、写真図版103）

遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　遺構の重複関係から縄文時代晩期である。

ＳＫ０７土坑（第37図、写真図版32・33）
検出状況　調査区中央部、E23グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　東側がSK08と重なり消失しており、残存規模は0.71×0.76ｍ、深さは24㎝である。平面形は楕円形。底面は平坦で、壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とし、人為堆積である。
配置　SK06・08と重複し、前者より新しく後者よりも古い。SK05とも近接するが新旧関係は不明である。
遺物　出土していない。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　遺構の重複関係から縄文時代晩期である。

ＳＫ０８土坑（第37図　写真図版33）
検出状況　調査区中央部、E23グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　規模は1.06×0.84ｍ、深さは23㎝である。平面形は楕円形、主軸方向Ｎ－37°－Ｗ。底面は平坦で、壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とし、人為堆積である。
配置　SK07と重複し、本遺構の方が新しい。
遺物　縄文土器・石器（剥片）が出土している。縄文土器の出土重量は1,127g、深鉢２点、鉢１点、a155～157の３点図化した。a155は深鉢の胴～底部で、底面に穿孔が施される。本遺構堆積土中から正位で出土しており、土器内部の底には礫が置かれていた。穿孔は焼成後のもので、外側から内側へ向かって施されている。a157は外面に細隆起線文を持ち、内面には条痕文が施文、早期後葉に位置づけられる。（第80図、写真図版63）
遺構の性格　a155の出土状況から土坑墓と判断した。ただし、土坑形状はSK06・07と類似することから、貯蔵穴が墓に転用された可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期である。

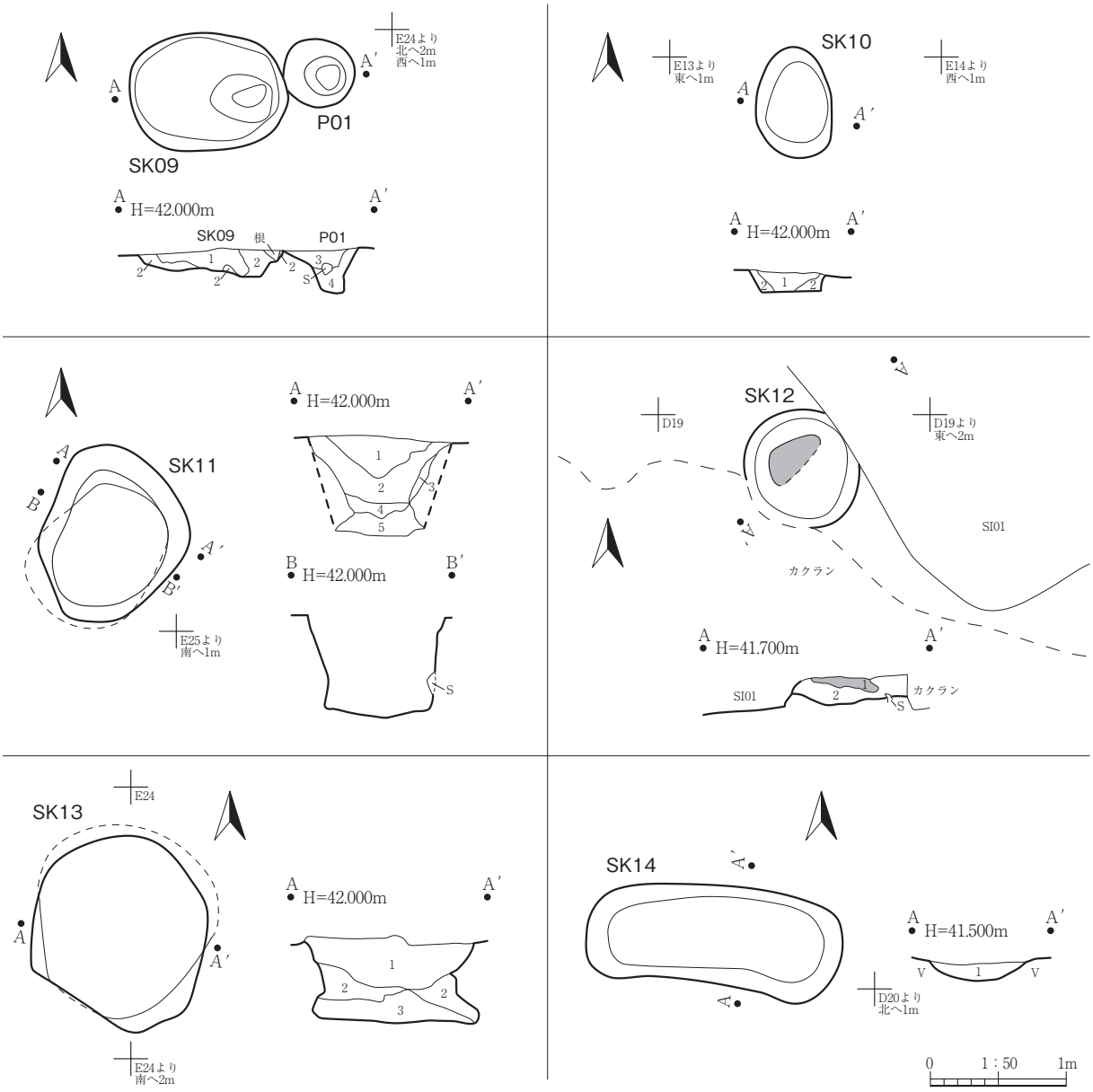
ＳＫ０９土坑（第38図、写真図版33）
検出状況　調査区中央部、E13グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模･形状　規模は1.13×087ｍ、深さは18㎝である。底面は平坦で東側に小穴（径45㎝、深さ17㎝）を設ける。壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。自然堆積である。
配置　P01と近接するが新旧関係は不明である。
遺物　縄文土器･石器（剥片）が出土している。縄文土器の出土重量は７g、a158の鉢１点を図化した。（第80図、写真図版63）
遺構の性格　不明である。
時期　出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ１０土坑（第38図、写真図版33）
検出状況　調査区中央部、E13グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　規模は0.83×0.53ｍ、深さは23㎝である。平面形は円形。底面は平坦で壁は直立する。
堆積土　黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。
配置　SK17・18と近接する。
遺物　縄文土器・石器（剥片）が出土している。縄文土器の出土重量は47g、a159の鉢１点を図化した。（第80図、写真図版63）
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ１１土坑（第38図、写真図版34）
検出状況　調査区中央部、E24グリッドに位置する。検出面はⅢ層中部。
規模・形状　規模は1.31×1.10ｍ、深さは81㎝である。底面は平坦で、壁は下半が内傾し上半が外傾して立ち上がり、フラスコ状を呈する。
堆積土　断面Ａ－Ａ′ラインの設定ミスにより、壁面近くの土層観察となった。底面直上と壁際には壁崩落層（褐色シルト）、混入物の少ない黒褐色シルト層が全体を覆う。
配置　SK61と重複しこれよりも新しい。
遺物　縄文土器・石器・土製品（土偶）が出土している。（第81・122・141図、写真図版63・64・94・103）
【縄文土器】出土重量は2,212g、土坑内では出土量が多い。a160～168の９点を図化した。器種は、深鉢４点、鉢３点、台付鉢１点、注口１点である。a161はⅠ群、縄文中期の深鉢である。これ以外は晩期に属しておりⅡ－２～３群のものが多い。
【石器】敲石が１点出土した（e104）
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉の初め）である。

ＳＫ１２土坑（第38図、写真図版34）
検出状況　調査区西部、D19グリッドに位置する。検出面はＶ層。
規模･形状　SI01及び攪乱により一部欠いており、残存する規模は0.87×0.83ｍ、深さは22㎝である。平面形は円形。底面は平坦で外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。堆積土上部には焼土が混入している。
配置　SI01、SK25と重複し、前者より古く後者より新しい。
遺物　石器（石核）が１点出土している（e105）。（第141図、写真図版103）
遺構の性格　不明である。
時期　出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ１３土坑（第38図、写真図版34）
検出状況　調査区中央部、E23グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　規模は1.45×1.33ｍ、深さは68㎝である。平面形は円形。底面は平坦で、壁は下半が内傾し、上半が外傾、フラスコ状を呈する。



第38図　SK09 ～ 14・P01

第25表　SK09 ～ 14・P01 土層観察表

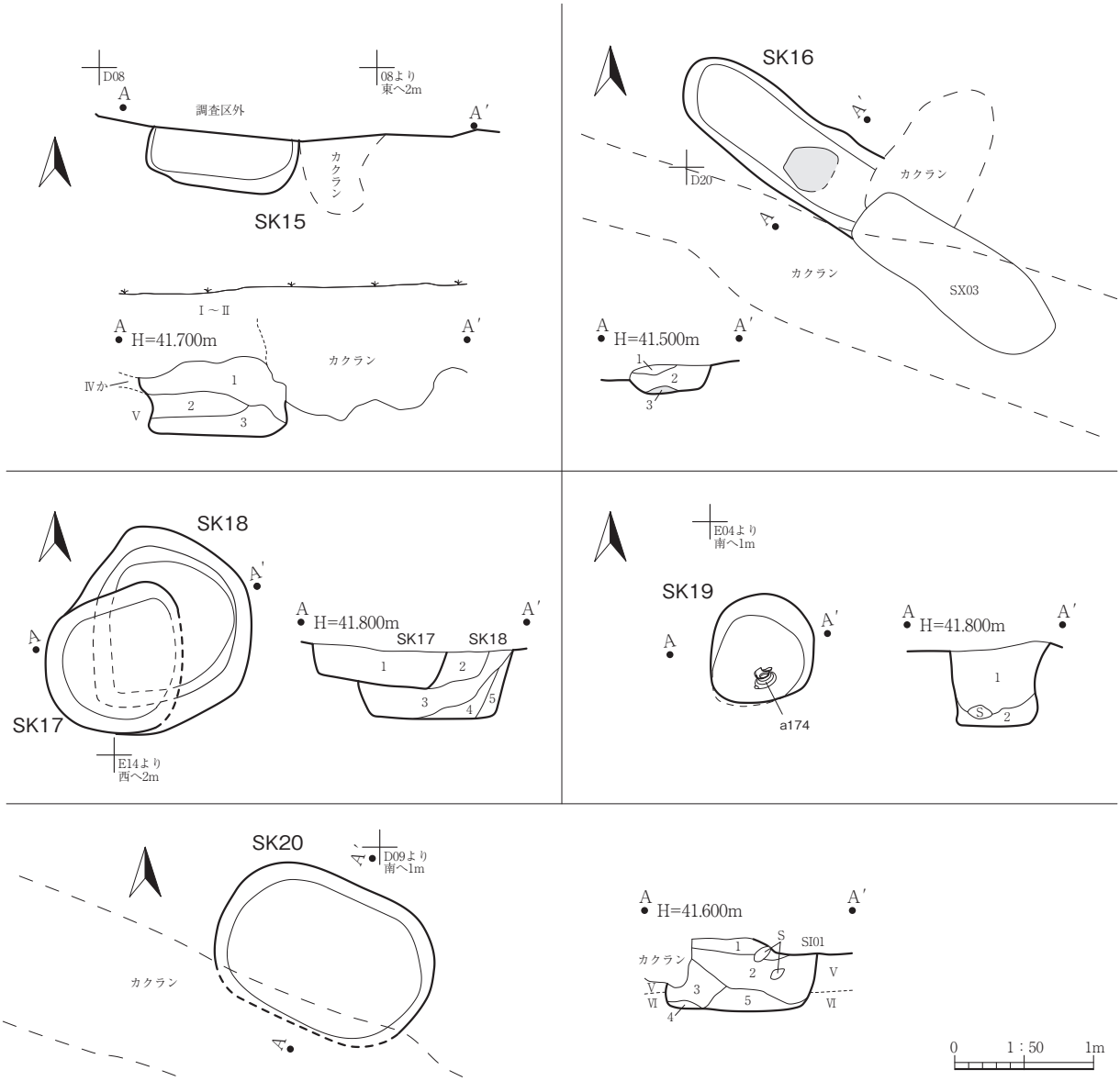
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK09・P01 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	細砂10％含む	SK09、自然堆積
	2	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗	細砂10％含む	SK09、自然堆積
	3	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	礫（φ10㎜）5点（1％）	P01、根固め石あり
	4	10YR3/3暗褐色シルト	やや強	粗		P01
SK10 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	礫（φ30 ～ 50㎜）10％	
	2	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗	礫（φ30 ～ 50㎜）30％	
SK11 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	根少量	
	2	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト粒1％	
	3	10YR4/4褐色シルト	弱	粗		壁崩落土
	4	10YR3/2黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト粒1％	
	5	10YR4/4褐色シルト	強	やや密	黄褐色シルト粒3％	
SK12 A－A′	1	5YR3/6暗赤褐色シルト	なし	中	5YR4/8赤褐色焼土との混合土、黒褐色シルト3％、小礫1％、炭化物（φ1 ～ 2㎜）1％	自然堆積
	2	10YR2/3黒褐色シルト	なし	中	にぶい黄褐色シルト3％、小礫3％、焼土粒1％、炭化物（φ1 ～ 10㎜）1％	
SK13 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	縄文晩期土器包含	自然堆積
	2	10YR2/3黒褐色シルト	なし	粗	黄褐色シルト30％	壁崩落土混合層
	3	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	黄褐色シルト粒5％	水平堆積、中央に凸部あり
SK14 A－A′	1	10YR3/4暗褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト1％、小礫1％、炭化物（φ1 ～ 2㎜）1％	

堆積土　黒褐色シルトを主体とする。壁崩落土を含みながら自然に堆積している。
配置　SK08と近接する。
遺物　縄文土器・石器が出土している。（第81・142図、写真図版64・103）
【縄文土器】出土重量は230g。深鉢（a169）と鉢（a170）の２点を図化した。これらとは別にa171の浅鉢はSK13・15・19から出土した破片が接合した。いずれの接合破片も堆積土上部の出土である。３基の土坑は地点が離れているが、遺構間で接合したものである。a169・170とa171は同時期のものとは考え難く、本遺構廃絶後から埋没するまでに一定の時間を有していたものと判断したい。
【石器】石篦が１点出土した（e106）。
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ１４土坑（第38図、写真図版34）
検出状況　調査区西部、D09グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.89×0.77ｍ、深さは16㎝である。平面形は隅丸方形。主軸方向はN-85°-W。底面は丸みを帯び、断面形は浅皿状となる。
堆積土　暗褐色シルトを主体とする。
配置　SI01と重複しこれよりも古い。
遺物　縄文土器が31g出土しているが小片のため図化していない。
遺構の性格　遺構の形状から土坑墓の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代、遺構の形状・堆積土から晩期と推測される。

ＳＫ１５土坑（第39図、写真図版35）
検出状況　調査区西部、D08グリッドに位置する。検出面はⅣ層またはⅤ層。
規模・形状　北側が調査区外へと延びる。調査区内の規模は1.06×0.41ｍ、深さは56㎝である。平面形は隅丸方形。底面は平坦で、壁は直立する。
堆積土　底面直上に黒褐色シルト、その上に暗褐色シルト、自然堆積である。
配置　重複する遺構はない。
遺物　SK13・15・19から出土した破片が遺構間接合している（浅鉢・a171）。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　形状・堆積土・出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ１６土坑（第39図、写真図版35）
検出状況　調査区西部、D10グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　東側がSX03と攪乱によって消失する。残存する規模は1.55×0.85ｍ、深さは26㎝である。主軸方向はN-54°-W。平面形は隅丸長方形、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。底面直上には直径30㎝ほどの円形範囲に赤色顔料を含む層が堆積している。
配置　SI01・SX03と重複しこれよりも古い。
遺物　縄文土器が２g出土しているが小片のため図化していない。
遺構の性格　遺構の形状及び堆積土中に赤色顔料を含むことから、土坑墓と考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代、遺構の形状・性格から晩期と推測される。



第39図　SK15 ～ 20

第26表　SK15 ～ 20土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK15 A－A′	1	10YR3/4 暗褐色シルト	なし	粗	褐色シルト 10%、黒褐色シルト 5%、黄褐色シルト 1%、小礫 7%、根多量	自然堆積
	2	10YR3/3 暗褐色シルト	なし	粗	褐色シルト 3%、小礫 7%、根多量	
	3	10YR2/3 黒褐色シルト	なし	粗	炭化物（φ 1 ～ 5㎜）1%、小礫 3%	
SK16 A－A′	1	10YR2/3 黒褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト 1%	
	2	10YR3/4 暗褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト 1%、炭化物（φ 1 ～ 2㎜）1%、小礫 1%	
	3	2.5YR3/6 暗赤褐色シルト	なし	中	10YR3/4 暗褐色シルトとの混合土	赤色顔料層
SK17・18 A－A′	1	10YR2/1 黒色シルト	弱	粗	焼土粒 1%、炭化物粒（φ 1 ～ 5㎜）1%	
	2	10YR3/1 黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト 1%、焼土粒 1%	
	3	10YR2/3 黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト 1%、焼土粒 1%	
	4	10YR2/1 黒色シルト	強	粗	黄褐色シルト 10%、焼土粒 1%	
	5	10YR4/4 褐色シルト	強	粗	黄褐色シルト 30%、焼土粒 1%、壁崩落土混入	
SK19 A－A′	1	10YR2/3 黒褐色シルト	弱	粗		礫 7 点、注口土器出土
	2	10YR3/3 暗褐色シルト	弱	粗	細粒砂 1%	
SK20 A－A′	1	10YR4/6 褐色砂質シルト	なし	中	中礫 1%	
	2	10YR4/4 褐色砂質シルト	なし	中	炭化物（φ 1 ～ 2㎜）1%、小～中礫 3%	
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト	なし	中	小礫 2%	
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト	なし	中	小礫 1%	Ⅴ層（地山）起源
	5	10YR4/4 褐色砂質シルト	なし	中	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトとの混合土、にぶい黄褐色砂質シルト 1%、小礫 1%	

ＳＫ１７土坑（第39図、写真図版35）

検出状況　調査区中央部、E03グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　重複するSK18と同時に掘り下げたため東壁推定プランは断面より復元した。規模は1.15×1.02ｍ、深さは34㎝である。形状はやや不整な円形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

堆積土　黒色シルトの単一層である。

配置　SK18と重複しこれよりも新しい。

遺物　出土していない。

遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。

時期　堆積土から縄文時代晩期と推定される。

ＳＫ１８土坑（第39図、写真図版35）

検出状況　調査区中央部、E03グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　SK17に切られ、南西部上半を消失する。残存する規模は1.32×1.30ｍ、深さは59㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がる。

堆積土　壁際に褐色シルトと黒色シルト、遺構全体を黒褐色シルトが覆う。

配置　SK17と重複しこれよりも古い。

遺物　縄文土器が出土している。出土重量は599g、a172・173の深鉢２点を図化した。（第82図、写真図版64）

遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。

ＳＫ１９土坑（第39図、写真図版35・36）

検出状況　調査区中央部、E04グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　規模は0.77×0.73ｍ、深さは58㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁は直立する。

堆積土　黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。大きめの礫以外の混入物（混入土・炭化物・焼土粒など）がほぼない。

配置　重複する遺構はない。

遺物　縄文土器が出土している。出土重量は746g。注口、鉢、壺を各１点、計３点を図化した（a174～176）。a174の注口土器は、口縁部の一部を欠損するのみで略完形の土器である。断面図の礫と同様に２層上面より出土した。土器の文様は頸部が沈線のみ、胴部上半は正面・平面・側面に施されるが連続していない。Ⅱ－１～２群の過渡期に位置づけられる。またSK13・15・19から出土した破片が遺構間接合している（a171）。その他土器内の土に炭化したトチノキが含まれていた。（第81･82図、写真図版64）

遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられるが、堆積土中の遺物出土状況から、廃絶時に意図的に埋め戻されている。墓に転用された可能性が高い。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ２０土坑（第39図、写真図版36）

検出状況　調査区西部、D08グリッドに位置する。検出面はＶ層。

規模・形状　南側上部を攪乱によって消失する。残存する規模は1.59×1.09ｍ、深さは56㎝である。

形状は隅丸長方形。底面は平坦で、壁は直立する。
堆積土　褐色～にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。
配置　SI01と重複しこれよりも古い。また、SK22とは近接する。
遺物　石器が２点（磨石・敲石）出土している（e107・108）。（第142図、写真図版103）
遺構の性格　形状・分布域から土坑墓の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代、遺構の性格から晩期と推定される。

ＳＫ２２土坑（第40図、写真図版36）
検出状況　調査区西部、D09グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.79×1.41ｍ、深さは23㎝である。主軸方向はN-53°-W。形状は隅丸長方形、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色～暗褐色シルトを主体とする。底面西側からは赤色顔料（ベンガラ）を検出した。
配置　SI01と重複しこれよりも古い。またSK20とは近接する。
遺物　縄文土器が306g出土しており、a177を図化した。a177は浅鉢で内外面ともに丁寧に磨かれ、全面に赤色顔料が塗布される。本遺構底面東側から正位で出土した。また堆積土下部には炭化したトチノキが含まれていた。（第82図、写真図版65）
遺構の性格　遺構底面より赤色顔料、赤彩土器が出土したことから土坑墓と判断した。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（中葉）である。

ＳＫ２３土坑（第40図、写真図版36）
検出状況　調査区西部、E01グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模･形状　北側が調査区外へと延び、南側が攪乱によって消失する。残存する規模は0.74×0.67ｍ、深さは33㎝である。形状は円形または楕円形と推定される。底面は平坦、壁は直立する。
堆積土　黒色シルトを主体とする。壁際には黄褐色シルトを多く含む黒褐色土が堆積している。
配置　重複する遺構はない。
遺物　出土していない。
遺構の性格　不明である。
時期　堆積土の色調から縄文時代の可能性がある。

ＳＫ２４土坑（第40図、写真図版37）
検出状況　調査区中央部、E26グリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層。
規模・形状　規模は1.52×1.39ｍ、深さは60㎝である。形状は円形。底面はやや丸みを帯び、壁は下半が内傾、上半が直立するフラスコ状を呈する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする人為堆積である。
配置　重複する遺構はない。
遺物　縄文土器・土師器・石器が出土している。土師器は小片で図化していない。攪乱などからの混入の可能性が高い。（第83・142図、写真図版65・103）
【縄文土器】出土重量は1,873g、土坑内では出土量が多い。a178～191の14点を図化した。a178～180は堆積土下部の２層からの出土である。器種は深鉢３点、鉢５点、台付鉢１点、壺５点。a178は台付鉢の胴～底部で、台部には沈線で三叉文が描かれ、これの端部及び三叉の分岐部に透かし孔が施

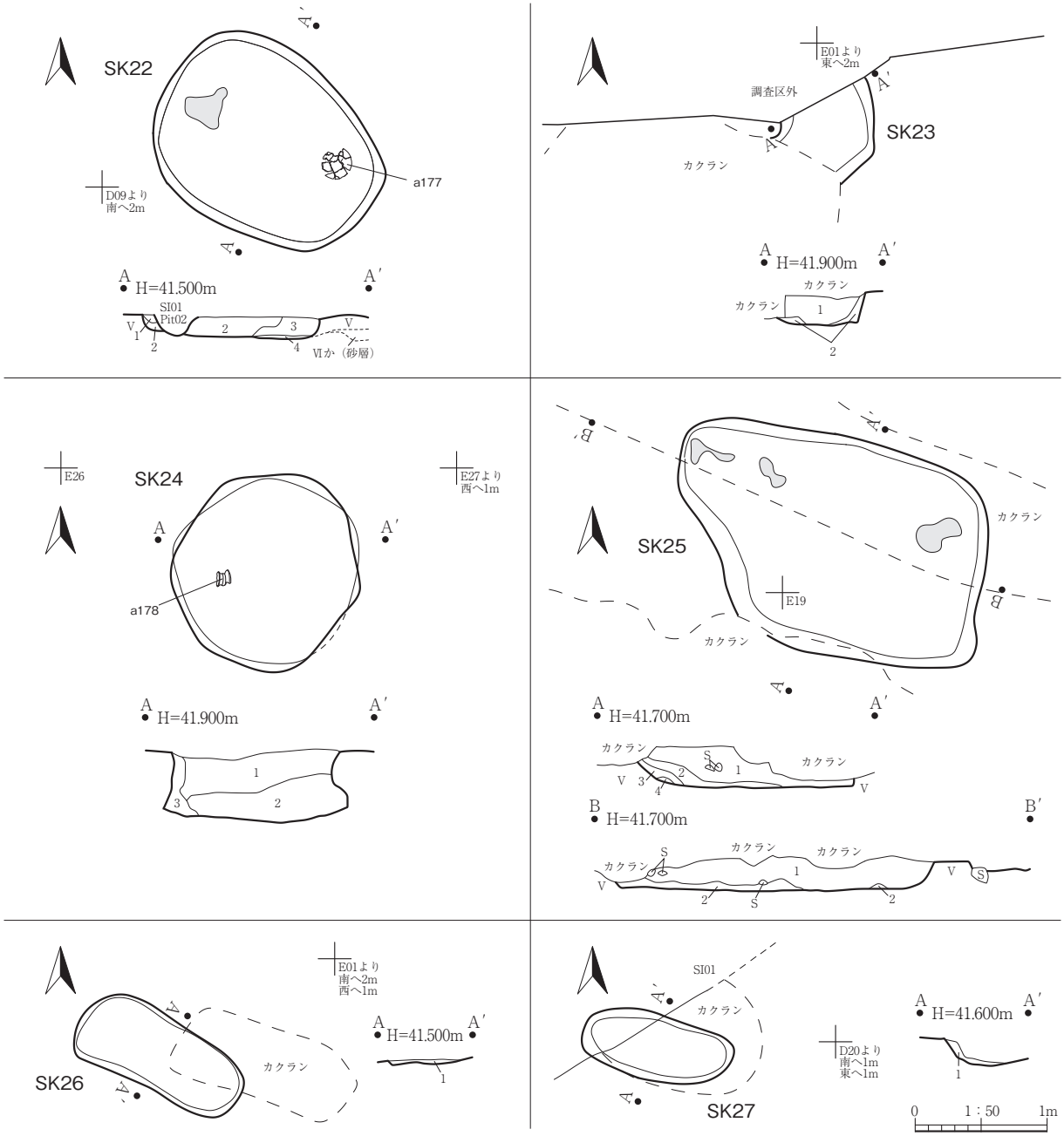
されている。
【石器】剥片が出土しており、うち１点を図化している（e109）。
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ２５土坑（第40図、写真図版37）
検出状況　調査区西部、D09グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　遺構上部を攪乱により一部消失するが全形状は把握できた。規模は2.45×1.65ｍ、深さは35㎝である。主軸方向はN-76°-W。形状は隅丸方形で、北西部が一部張り出す。
堆積土　暗褐色シルトを主体とし、人為堆積である。底面より赤色顔料を検出した。
配置　SI01、SK02と重複し、これらよりも古い。
遺物　縄文土器が28g出土しているが、小片のため図化していない。
遺構の性格　遺構の形状、赤色顔料を含むことから土坑墓と考えられる。
時期　出土遺物および遺構の性格から縄文時代晩期である。

ＳＫ２６土坑（第40図、写真図版37）
検出状況　調査区西部、D10グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.33×0.59ｍ、深さは7㎝である。主軸方向はN-61°-W。形状は隅丸方形、底面はやや凹凸があり、壁は直立する。
堆積土　底面付近まで削平が及んでおり、堆積土は暗褐色シルト層がうすく残るのみである。
配置　SI01と重複しこれよりも古い。
遺物　底面より敲石（e110）が１点出土している。（第143図、写真図版103）
遺構の性格　形状・分布域から土坑墓の可能性が高い。
時期　出土遺物から縄文時代、遺構の性格から晩期と推定される。

ＳＫ２７土坑（第40図、写真図版37・38）
検出状況　調査区西部、D19グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　重複遺構及び攪乱によって北半上部を消失する。残存する規模は1.13×0.49ｍ、深さは26㎝である。主軸方向はN-78°-W。形状は隅丸方形～楕円形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　大半は削平され、南壁から底面にかけてのみ暗褐色シルト層が残存する。
配置　SI01と重複しこれよりも古い。
遺物　縄文土器と石器が出土している。縄文土器の出土重量は12g、小片のため図化していない。石器は敲石が１点出土した（e111）。（第143図、写真図版103）
遺構の性格　形状・分布域から土坑墓の可能性が高い。
時期　出土遺物から縄文時代、遺構の性格から晩期と推定される。

ＳＫ２８土坑（第41図、写真図版38）
検出状況　調査区西部、E11グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　東壁の上部と南壁の一部を消失する。残存する規模は2.42×1.61ｍ、深さは24㎝である。



第40図　SK22 ～ 27

第27表　SK22 ～ 27土層観察表

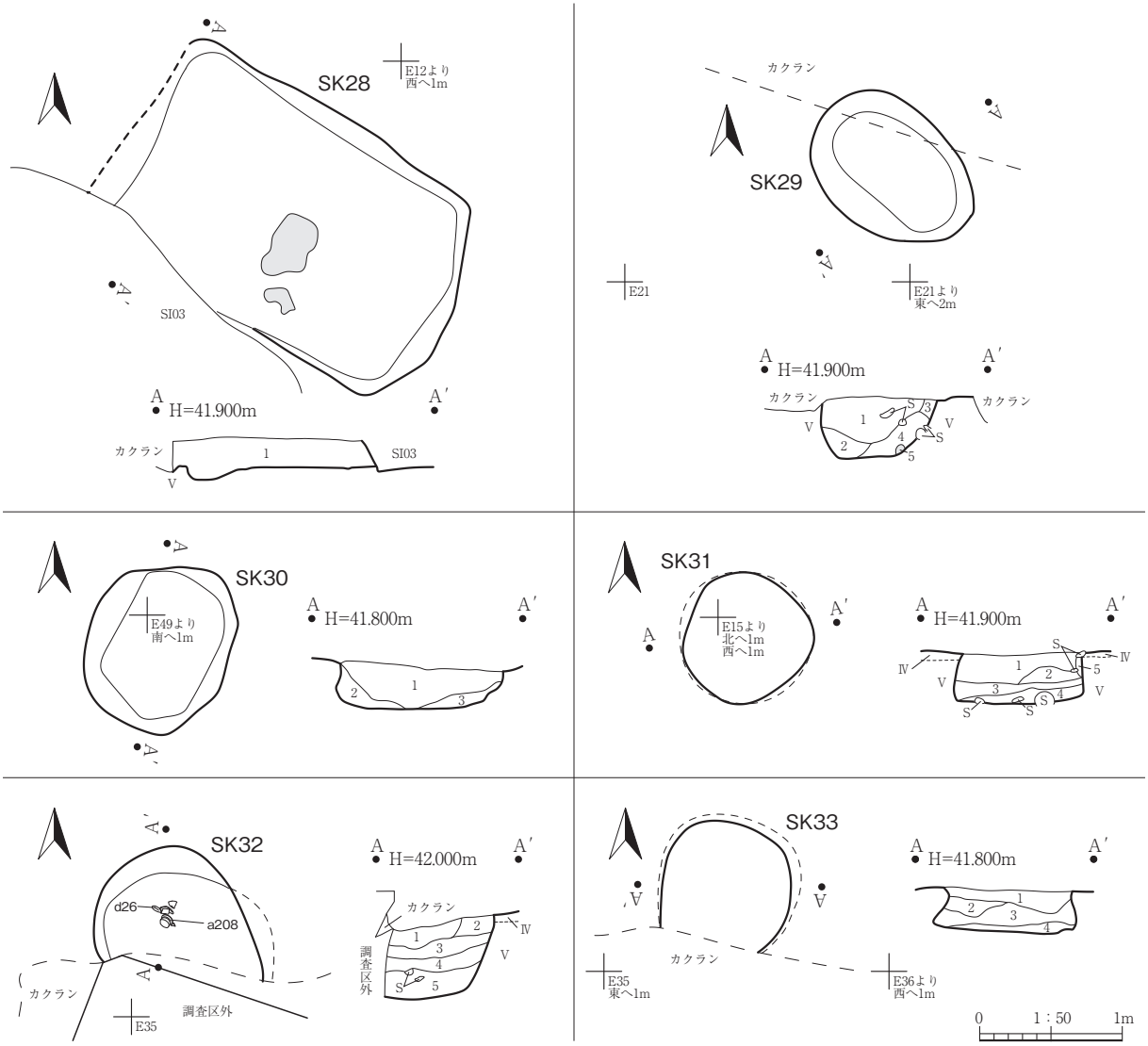
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK22 A－A′	1	10YR4/6褐色シルト	なし	中		人為堆積
	2	10YR3/3暗褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト5%、黒褐色シルト5%、小礫3%、炭化物（φ1～2㎜）1%	
	3	10YR2/3黒褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト粒10%、炭化物（φ1～2㎜）1%	
	4	10YR5/8黄褐色シルト	なし	密		底面より赤彩土器出土 赤色顔料検出
SK23 A－A′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	粗	礫（φ10～30㎜）1%	
	2	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト30%	
SK24 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト3%	人為堆積
	2	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト5%	人為堆積　上面より a178出土
	3	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト30%	人為堆積
SK25 A－A′・B－B′	1	10YR3/4暗褐色シルト	なし	密	褐色シルト3%、小～中礫3%、炭化物（φ1～2㎜）1%	人為堆積
	2	10YR3/3暗褐色シルト	なし	密	褐色シルト1%、炭化物（φ1～2㎜）1%	
	3	10YR4/4褐色シルト	なし	密	暗褐色シルト10%	
	4	10YR3/3暗褐色シルト	なし	密	炭化物（φ1～2㎜）1%	底面より赤色顔料検出
SK26 A－A′	1	10YR3/4暗褐色シルト	弱	密	小礫3%	
SK27 A－A′	1	10YR3/4暗褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト1%	

主軸方向はN-60°-W。形状は長方形。底面は平坦で、壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とし、赤色顔料を混入する。また遺構底面でも赤色顔料を検出した。
配置　SI03・SX04と重複する。SI03よりも古い。SX04は、本遺構の掘り残し、もしくは本遺構より古い遺構の可能性があるが、断定できなかった。SK43・57とは近接する。
遺物　出土していない。
遺構の性格　形状・分布域・赤色顔料の検出から土坑墓と考えられる。
時期　遺構の性格から縄文時代晩期である。

ＳＫ２９土坑（第41図、写真図版38）
検出状況　調査区西部、E11グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.25×0.90ｍ、深さは42㎝である。主軸方向はN-60°-W。形状は楕円形、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色～黄褐色シルトを主体とし、人為堆積である。壁際５層内には赤色顔料が混入する。
配置　SI03・04と重複し、これらよりも古い。
遺物　縄文土器と石器（剥片）・炭化種実が出土している。（第83図、写真図版65）
【縄文土器】出土重量は16g、深鉢１点のみ図化した（a192）。
【その他】４層中に炭化したトチノキが含まれていた。
遺構の性格　堆積土中に赤色顔料を含むことから、土坑墓の可能性が高い。
時期　縄文時代中期の土器片が１点出土しているが、遺構の性格からは縄文時代晩期に属する可能性が高い。

ＳＫ３０土坑（第41図、写真図版38）
検出状況　調査区東部、E49グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模･形状　規模は1.22×1.00ｍ、深さは37㎝である。形状は楕円形。底面は平坦で、壁は内傾気味、または外傾して立ち上がる。
堆積土　黒色～褐色シルトを主体とする。遺物も多く混入しており人為堆積である。
配置　SK35と重複しこれよりも新しい可能性がある。
遺物　縄文土器・石器・炭化種実が出土している。（第83・143図、写真図版65・103・104）
【縄文土器】出土重量は1,396g。a193～199の７点を図化した。器種は深鉢２点、鉢３点、壺２点である。a198は赤彩されている。
【石器】３点出土した（e112～114）。器種は削器、楔形石核、石棒である。
【その他】堆積土中に炭化したオニグルミが含まれていた。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。

ＳＫ３１土坑（第41図、写真図版38・39）
検出状況　調査区中央部、E04グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　規模は0.93×0.91ｍ、深さは44㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がり、フラスコ状を呈する。
堆積土　黒色～暗褐色シルトを主体とする。混入物が少なく、自然堆積である。



第41図　SK28 ～ 33

第28表　SK28 ～ 33土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK28 A－A′	1	10YR3/2黒褐色シルト	微	粗	赤色顔料1%	
SK29 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	密	黄褐色シルト粒2%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）2%、小～中礫2%	人為堆積
	2	10YR4/4褐色シルト	なし	中	10YR3/4暗褐色シルトとの混合土、黄褐色土粒1%、小礫1%	
	3	10YR5/6黄褐色シルト	なし	中	黒色シルト5%	
	4	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	赤色顔料（2.5YR3/6暗赤褐色）微量、黄褐色シルト粒2%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）1%、小礫2%	
	5	10YR3/4暗褐色シルト	なし	粗	赤色顔料（2.5YR3/6暗赤褐色）40%	赤色顔料混入
SK30 A－A′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	粗	土器片混入	Ⅱ層起源、人為堆積
	2	10YR3/2黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト10%混入	
	3	10YR4/4褐色シルト	強	粗	黄褐色シルト60%と黒褐色シルト40%の混合土	
SK31 A－A′	1	10YR3/4暗褐色シルト	弱	中	褐色シルト1%	壁崩落土 自然堆積
	2	10YR2/1黒色シルト	弱	中	炭化物（φ1 ～ 2㎜）1%	
	3	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト粒1%	
	4	10YR2/1黒色シルト	弱	中	黄褐色シルト粒1%、炭化物（φ1 ～ 3㎜）1%	
	5	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト1%、中礫1%	
SK32 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	暗赤褐色土粒1%、炭化物（φ1 ～ 15㎜）5%	舟形土製品出土、人為堆積か
	2	10YR2/1黒色シルト	弱	中	炭化物（φ1 ～ 2㎜）3%	
	3	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト5%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）2%	
	4	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	にぶい黄褐色シルト1%、黄褐色土粒1%、炭化物（φ1 ～ 3㎜）2%	
	5	10YR3/4暗褐色シルト	弱	中	暗褐色シルト7%、小礫2%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）1%	
SK33 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト1%、炭化物（φ1 ～ 10㎜）2%、小礫1%	自然堆積
	2	10YR2/1黒色シルト	弱	中	10YR2/2黒色シルトとの混合土、10YR5/8黄褐色シルト2%、小礫1%	
	3	10YR2/1黒色シルト	弱	中	黄褐色シルト3%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）1%、小礫1%	
	4	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	黄褐色シルト2%	

配置　重複する遺構はない。
遺物　縄文土器・土製品が出土している。（第83・124図、写真図版65・95）
【縄文土器】出土重量は23g、鉢１点を図化した（a200）。
【土製品】土製円板が１点出土している（d35）
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ３２土坑（第41図、写真図版39）
検出状況　調査区中央部、E25グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　南側が調査区外へと延びる。調査区内の規模は0.92×1.03ｍ、深さは63㎝である。形状は円形または楕円形と推定される。底面は平坦で、壁は内傾または外傾して立ち上がる。
堆積土　黒色～暗褐色シルトを主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　縄文土器・土製品・石器が出土している。（第83・84・124・143図、写真図版65・66・95・104）
【縄文土器】出土重量は858g。a201～209の９点を図化した。a205～208までは検出面、それ以外は堆積土中からの出土である。器種は鉢７点、台付鉢１点、壺１点。a208は台付鉢の台部で透かし孔が施されている。a207の鉢と同一個体の可能性がある。
【土製品】d26の舟形土製品は３層上面、倒位で出土している。長さ8.0㎝、幅4.2㎝、図上方先端が突出し、図下方が欠損する。この突出部は舟首部表現と考えられるが、舟本体の内側から突出部へ向かってわずかに盛り上がり、突出部に向かってナデ調整されているのに対して、図下方の舟本体内側には同様の痕跡が認められず、こちらには突出部はついていなかったものと推測される。しかし、側面に比べ下方先端部は厚みを増している。舟外面は磨かれ、底面には細い線刻が施される。内外面は赤色顔料が塗布されている。
【石器】石核と敲石の２点が出土した（e115・116）。
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。堆積土中に舟形土製品が出土していることから、廃絶後意図的に埋め戻されたものと推測される。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ３３土坑（第41図、写真図版39・40）
検出状況　調査区中央部、E25グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　南端を攪乱によって消失する。残存する規模は0.97×0.91ｍ、深さは36㎝である。形状は円形と推定される。底面は平坦で、壁は下部が内傾、上部が直立、フラスコ状を呈する。
堆積土　黒色～黒褐色シルトを主体とし、自然堆積である。
配置　重複する遺構はない。
遺物　縄文土器が出土している。出土重量は26g、a210・211の２点を図化した。a210は細隆起線文を持つ。内面の条痕の有無は摩滅のためはっきりしないが、早期後葉に位置づけられる。（第84図　写真図版66）
遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。
時期　堆積状況及び出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ３４土坑（第42図、写真図版39・40）

検出状況　調査区東部、F41グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　規模は、1.44×1.34ｍ、深さは50㎝である。形状は不整な円形。底面は中心へ向かって深くなり、北側には径70㎝、深さ20㎝程度の副穴を設ける。

堆積土　黒褐色シルトを主体とする。１層は現代のゴミが含まれるため、本遺構の堆積土ではなく攪乱の可能性がある。

配置　重複する遺構はないが、SB01のP55と近接する。

遺物　縄文土器・土製品・石器が出土している。（第84・126・144図、写真図版66・95・104）

【縄文土器】出土重量は2,643g、土坑としては出土量が多い。a212 ～ 220の９点を図化した。器種は鉢４点、台付鉢１点、浅鉢３点、壺１点。a218は浅鉢の胴部で赤彩されている。a216 ～ 219はⅢ群に属する。

【土製品】中心部に孔がある土製円板が出土した（d47）。

【石器】６点出土し図化している（e117 ～ 122）。器種はU.F.、敲磨器、敲石、台石、石皿である。

遺構の性格　不明である。

時期　出土遺物から弥生時代中期である。

ＳＫ３５土坑（第42図、写真図版40）

検出状況　調査区東部、E49グリッドに位置する。SK30底面でプランを確認しこれの副穴の可能性も考えたが、SK30の堆積土と本遺構の堆積土の色調が異なること、本遺構の底面が平坦であることから別以降と判断した。

規模・形状　規模は0.45×0.48ｍ、深さは19㎝である。形状は円形。底面は平坦で外傾して立ち上がる。

堆積土　暗褐色シルトを主体とする。

配置　SK30と重複しこれよりも古い可能性がある。

遺物　出土していない。

遺構の性格　不明である。

時期　重複関係から縄文時代晩期以前の可能性がある。

ＳＫ３６土坑（第42図、写真図版40）

検出状況　調査区東部、E09グリッドに位置する。検出面はＶ層。

規模・形状　北側が調査区外へと延びる。調査区内の規模は1.03×0.57ｍ、深さは23㎝である。形状は円形または楕円形と推定される。底面は平坦で、外傾して立ち上がる。

堆積土　黒褐色シルトを主体とする。

配置　重複する遺構はない。

遺物　出土していない。

遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。

時期　堆積土から縄文時代晩期の可能性がある。

ＳＫ３７土坑（第42図、写真図版40）

検出状況　調査区東部、E09グリッドに位置する。検出面はⅤ層。

規模・形状　規模は1.10×0.86ｍ、深さは49㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁は内傾気味～直立し、フラスコ状を呈する。

堆積土　黒色～暗褐色シルトを主体とする。

配置　重複する遺構はない。

遺物　縄文土器が119g出土しているが、小片のため図化していない。

遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。

時期　堆積土・出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ３８土坑（第42図、写真図版40）

検出状況　調査区東部、E29グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　重複するSK40により東側上部を欠く。残存する規模は1.07×1.08ｍ、深さは38㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁は内傾気味～直立する。

堆積土　黒色～暗褐色シルトを主体とする。

配置　SK40と重複する。検出時より重複を確認していたため、SK40の範囲外と思われる個所で本遺構の堆積状況を確認し（SK38A－A′）、その後再度断面を設定し重複関係を確認（SK40A－A′）したところ、本遺構の方が古いと判明した。

遺物　縄文土器・土製品・石器が出土している。（第84・126・145図、写真図版66・95・104）

【縄文土器】出土重量は4,470g。土坑の中ではSK39に次いで２番目の出土量であるが、遺構の掘り下げ過程でSK40との新旧関係を把握したため、本遺構の出土遺物として取り上げたもののなかにSK40のものが混入してしまっている可能性がある。a221～238の18点を図化した。器種は深鉢１点、鉢14点、壺３点。このうちa234はSK40に帰属する可能性が高い。

【土製品】中心部に孔がある土製円板が出土した（d61）。

【石器】５点出土し図化している（e123～127）。器種は打製石斧と敲石である。

遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ３９土坑（第42図、写真図版41）

検出状況　調査区中央部、E16グリッドに位置する。検出面はⅢ層。

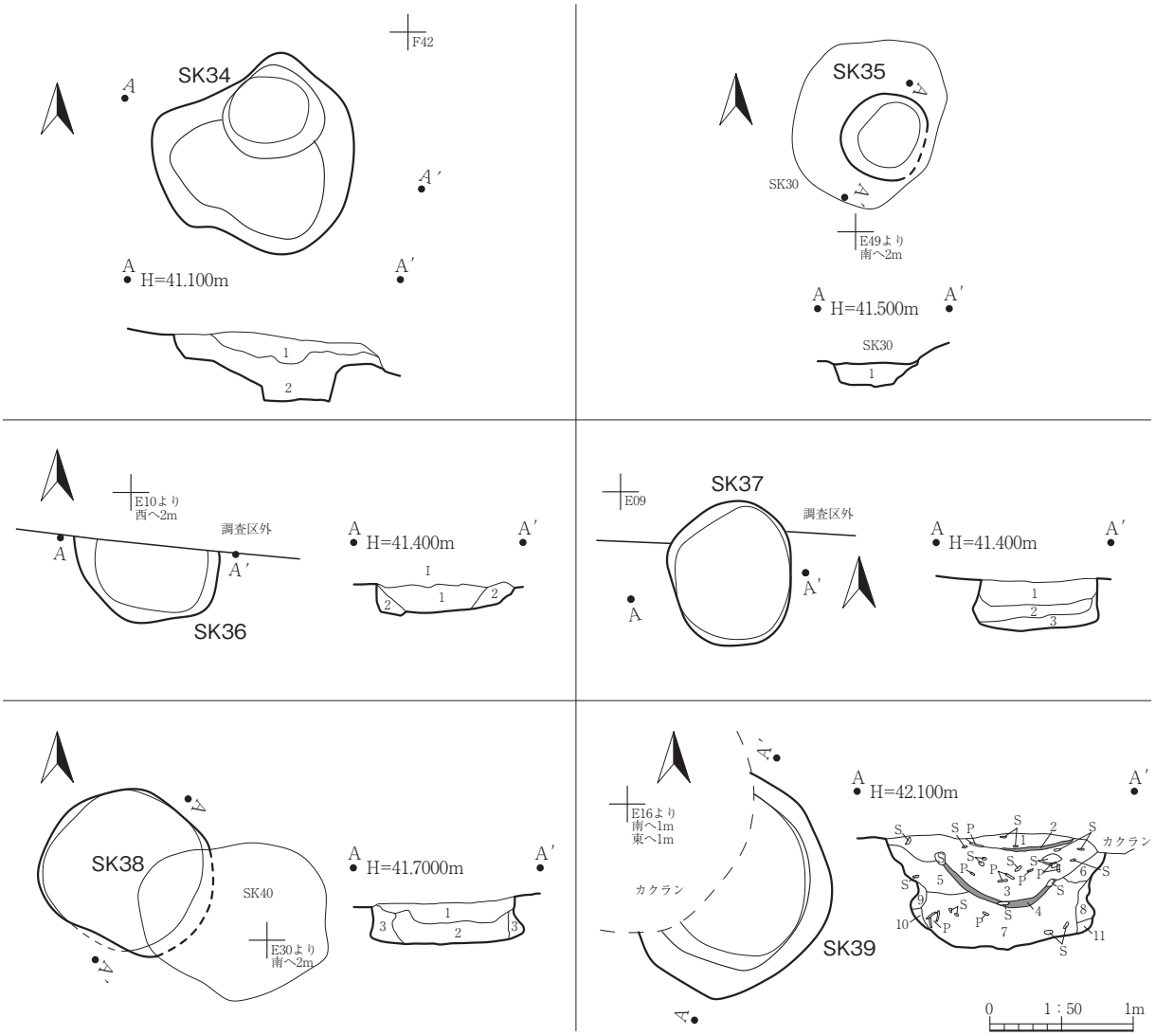
規模・形状　北西部を攪乱により消失する。残存する規模は1.60×0.83ｍ、深さは79㎝である。形状は円形と推定される。底面はやや丸みを帯び、壁は下部が内湾、上部が外傾し、フラスコ状を呈する。

堆積土　黒色～黒褐色粘土質シルトを主体とする。堆積土中に土器や礫などの混入物が多く、人為堆積と考えられる層（３・７層）がある。また炭化物を含む層（２・４層）を挟む。人為堆積である。

配置　重複する遺構はない。

遺物　縄文土器・土製品・石器・炭化種実・骨片が出土している。（第85・86・122・125・145～147図、写真図版66・67・94・95・105）

【縄文土器】出土重量は9,899g、土坑内では最も多く、その出土量はSI08竪穴建物と並ぶ。a239～273の35点を図化した。a239～252は層ごとにとりあげたもので、特に３層のものが多い。器種は、



第42図　SK34 ～ 39

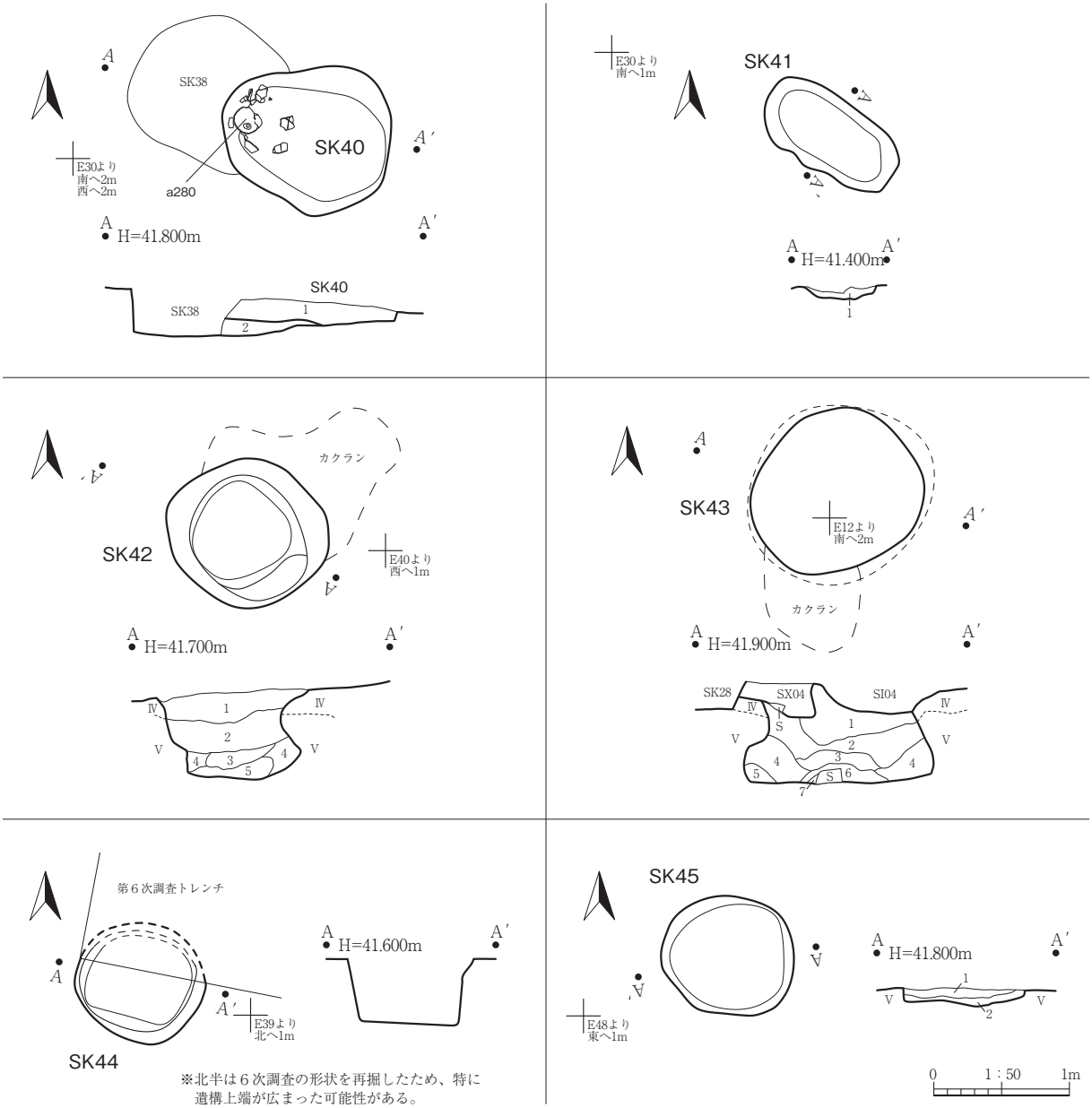
第29表　SK34 ～ 39土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK34 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	なし	粗	現代のゴミ混入	
	2	10YR3/2黒褐色シルト	なし	粗	礫（φ30 ～ 50㎜）10%	
SK35 A－A′	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	粗	礫（φ30 ～ 50㎜）40%	
SK36 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	根少量	Ⅰ層由来か、時期不明
	2	10YR3/2黒褐色シルト	なし	粗	粗砂10%	
SK37 A－A′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	粗	黄褐色土粒1%	
	2	10YR3/4暗褐色シルト	強	やや粗	黄褐色粘土30%	崩落土か
	3	10YR3/1黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色土粒1%	自然堆積か
SK38 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト3%	
	2	10YR2/1黒色シルト	弱	粗	黄褐色シルト1%	
	3	10YR3/3暗褐色シルト	弱	粗	黒褐色シルト60%と黄褐色シルト40%の混合土	人為堆積
SK39 A－A′	1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	やや粗	炭化物粒極微量	自然堆積
	2	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	炭化物粒・小・中ブロック少量	炭化物を含む層
	3	10YR3/1黒褐色粘土質シルト	中	中	炭化物粒・焼土粒微量含む、遺物多量	人為堆積か
	4	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	炭化物粒・小・中ブロック少量	炭化物を含む層
	5	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	中	にぶい黄褐色シルト極小ブロック微量、焼土粒・炭化物粒極微量	自然堆積
	6	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	中	にぶい黄褐色シルト極小ブロック微量、焼土粒・炭化物粒極微量	自然堆積
	7	10YR3/1黒褐色粘土質シルト	中	中	炭化物粒・焼土粒微量、遺物やや多量	人為堆積か
	8	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	中	にぶい黄褐色シルト極小・小ブロック少量	壁崩落土
	9	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	やや粗	にぶい黄褐色シルト粒・極小～中ブロック多量	壁崩落土
	10	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	やや強	中	にぶい黄褐色シルト極小・小ブロック少量	壁崩落土
	11	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	強	やや粗	にぶい黄褐色シルト粒・極小～中ブロック中量	壁崩落土

深鉢１点、鉢18点、台付鉢１点、浅鉢１点、壺12点、注口２点。壺のa240・247・249・270・273の５点は同一個体の可能性が高い。
【土製品】土偶（d2）、土製円板（d62）、粘土塊が出土した。土偶は胴部破片で赤彩されている。
【石器】15点出土し図化している（e128 ～ 142）。器種は、掻器、削器、石核、不定形石器、敲磨器、敲石、台石、円板状石器である。e133の敲磨器は側面部を中心に赤色顔料が付着していた。円板状石器が５点とまとまって出土している。
【その他】堆積土中に炭化したオニグルミとクリが含まれていた。また３・４層中からは哺乳類骨が出土している。
遺構の性格　形状から貯蔵穴と判断した。出土遺物量から廃絶後は土器などの廃棄場所と使用されたものと考えられる。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ４０土坑（第43図、写真図版41）
検出状況　調査区東部、E29グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　規模は1.26×1.13ｍ、深さは17㎝である。形状は楕円形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色シルトを主体とし、遺物を多く含む。人為堆積である。
配置　SK38と重複しこれよりも新しい。
遺物　縄文土器・土師器・石器が出土している。土師器は小片で攪乱等の混入と判断し図化していない。（第86・87・147図、写真図版68・105）
【縄文土器】出土重量は1,861g、前述した通りSK38として取り上げた中にも本遺構に帰属するものが含まれると推測される。a274 ～ 284の11点を図化した。器種は鉢６点、浅鉢５点。a280は大形の浅鉢で、焼成後底面の外側から内側へ向かって穿孔が施される。胴部下半のみ出土状況を把握できたが、正位で置かれていた。
【石器】石核が１点出土し図化している（e143）。
遺構の性格　遺物の出土状況から土坑墓の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期末～弥生時代初頭である。

ＳＫ４１土坑（第43図、写真図版41）
検出状況　調査区東部、E30グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　規模は1.10×0.57ｍ、深さは10㎝である。形状は隅丸方形～楕円形。底面から壁へと浅皿状に立ち上がる。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　縄文土器と石器（剥片）が出土している。縄文土器の出土重量は224g、３点を図化している（a285 ～ 287）。器種は深鉢１点、鉢２点である。（第87図、写真図版68）
遺構の性格　不明である。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（後葉）である。



第43図　SK40 ～ 45

第30表　SK40 ～ 45土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK40 A－A′（SK38）	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト3%、土器多量	ゴミ穴的な遺物分布、人為堆積
	2	10YR2/1黒色シルト	弱	粗	黄褐色シルト1%	SK38
SK41 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	なし	やや密	遺物少量	
SK42 A－A′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	中	小礫1%、焼土粒1%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）5%、土器片中量	人為堆積か
	2	10YR2/1黒色シルト	弱	中	黒色シルト10%、小礫1%、炭化物（φ1 ～ 10㎜）5%	
	3	10YR4/4褐色砂質シルト	なし	粗	小礫10%	
	4	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	暗褐色シルト10%	
	5	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト1%	
SK43 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	褐色シルト7%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）2%	縄文中期の土器1片出土
	2	10YR3/3暗褐色シルト	弱	中	10YR4/4褐色シルトとの混合土、炭化物（φ1 ～ 5㎜）3%	
	3	10YR3/3暗褐色シルト	弱	中	褐色シルト粒5%	
	4	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト7%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）2%	
	5	10YR4/4褐色シルト	弱	中	暗赤褐色シルト2%	
	6	10YR2/1黒色シルト	中	密	褐色シルト2%	
	7	10YR3/4暗褐色シルト	弱	中	10YR4/4褐色シルトとの混合土	
SK45 A－A′	1	10YR2/1黒色シルト	弱	中	褐色シルト2%、炭化物（φ1 ～ 3㎜）5%、根多量	自然堆積
	2	10YR3/3暗褐色シルト	弱	中		地山（Ⅴ層）起源

ＳＫ４２土坑（第43図、写真図版41・42）

検出状況　調査区東部、E29グリッドに位置する。検出面はⅣ層。

規模・形状　規模は1.23×1.09ｍ、深さは69㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁は下部が直立または内傾、上部が外傾し、フラスコ状を呈する。

堆積土　黒色～黒褐色を主体とし、間に壁崩落層を挟む（３層）。１層中には遺物が多く含まれており人為堆積の可能性がある。

配置　P22と重複するが新旧関係は不明である。

遺物　縄文土器・土製品（粘土塊）・石器が出土している。（第87・148図、写真図版68・106）

【縄文土器】出土重量は2,392g、土坑の中では出土量が多い。a288 ～ 298の11点を図化した。器種は鉢８点、壺３点である。a293は赤彩される。

【石器】楔形石核が２点出土した（e144・145）。

遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉から中葉）である。

ＳＫ４３土坑（第43図、写真図版42）

検出状況　調査区西部、E11グリッドに位置する。Ⅳ層および重複する竪穴建物の床面で検出した。

規模・形状　規模は1.29×1.17ｍ、深さは67㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁は内傾しフラスコ状を呈する。

堆積土　黒色～暗褐色シルトを主体とする。

配置　SI04・06、SX04と重複し、これらよりも古い。

遺物　縄文土器・石器が出土している。（第87・148図、写真図版68・106）

【縄文土器】出土重量は357g。深鉢１点、鉢２点、計の３点を図化した（a299 ～ 301）。a299は中期の土器である。

【石器】敲石が１点出土した（e146）。

遺構の性格　形状から貯蔵穴と考えられる。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ４４土坑（第43図、写真図版42）

検出状況　調査区西部、E28グリッドに位置する。検出面はⅣ層。北半は第６次調査時（第１表参照）に精査済みである（C19ピット１）。

規模・形状　今回検出した範囲の規模は0.94×0.52ｍ、深さは54㎝である。形状は円形。底面は平坦で、外傾して立ち上がる。

堆積土　今回の調査では確認できなかったが、第６次調査によると、底面に壁崩落土、全体には地山の小塊を含む黒褐色シルト層が堆積していると記されている。

配置　重複する遺構はない。

遺物　縄文土器・石器が出土している。（第87・148図、写真図版68・106）

【縄文土器】出土重量は988g。鉢２点を図化した（a302・303）。

【石器】打製石斧、石棒が出土している（e147・148）。

遺構の性格　第６次調査時の断面形状がフラスコ状を呈しており、貯蔵穴と考えられる。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ４５土坑（第43図、写真図版42）
検出状況　調査区東部、E38グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.00×0.92ｍ、深さは15㎝である。形状は円形。底面は平坦で壁は直立する。
堆積土　下部が暗褐色シルト、上部が黒色シルトを主体とし、自然堆積である。
配置　重複する遺構はないが、SI08と近接する。
遺物　縄文土器・石器が出土している。（第88・148図、写真図版69・106）
【縄文土器】出土重量は252g。a304 ～ 308の鉢５点を図化した。
【石器】石鏃が１点出土した（e149）。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＫ４７土坑（第44図、写真図版42）
検出状況　調査区東部、E19グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模･形状　規模は0.93×0.84ｍ､深さは37㎝である。形状は円形。底面は丸みを帯び､壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　SI15と重複し、これよりも新しい。SK01と近接する。
遺物　縄文土器が41g出土しa309の鉢１点を図化した。（第88図、写真図版69）
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期である。

ＳＫ４９土坑（第44図、写真図版43）
検出状況　調査区東部、F32グリッドに位置する。検出面はⅤ層。第６次調査時C13ピット１に該当し、南半は調査済みである。今次調査では北半を掘り上げ、全形を記録した。
規模・形状　1.48×0.94ｍ、深さは56㎝である。平面形は隅丸長方形。主軸方向はN-59°-W。底面は東側が若干深くなり、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。底面直上には98×42㎝の楕円形、深さ12㎝程の範囲に赤色顔料を含む層が広がる。
配置　SB03のP302と重複し、これよりも新しい。
遺物　縄文土器・須恵器が出土している。縄文土器は142g、小片のため図化していない。須恵器は大甕片が１点（b117）、第６次調査時の埋め戻し土など攪乱からの混入と推測される。（第121図、写真図版93）
遺構の性格　遺構の形状・赤色顔料の検出から、土坑墓と考えられる。
時期　第６次調査時の出土遺物より縄文時代晩期（後葉）である。

ＳＫ５４土坑（第44図、写真図版43）
検出状況　調査区東部、F12グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.15×0.80ｍ、深さは31㎝である。平面形は隅丸長方形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒色シルトを主体とする。
配置　重複する遺構はない。

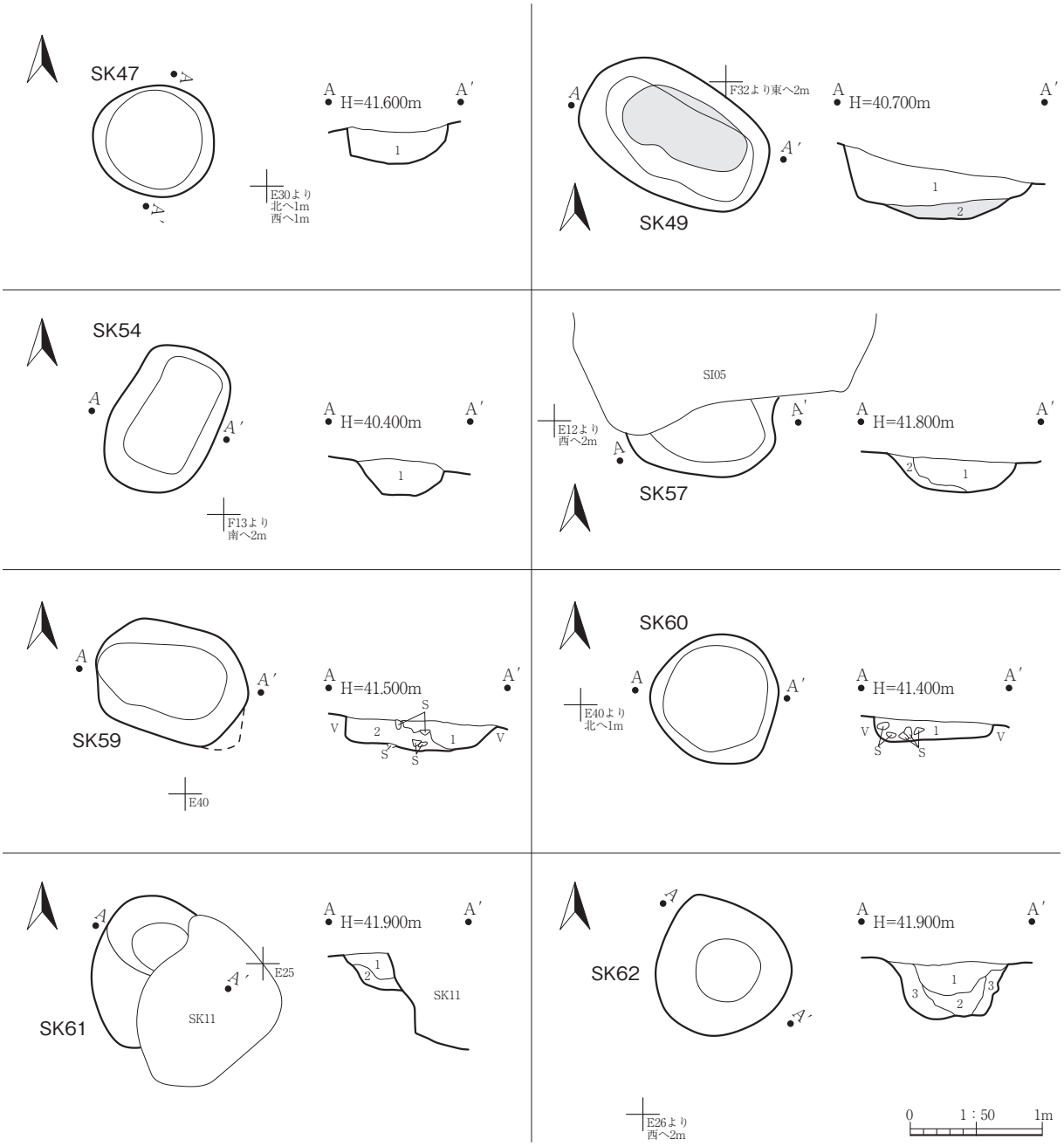
遺物　出土していない。
遺構の性格　不明である。
時期　不明である。

ＳＫ５７土坑（第44図、写真図版43）
検出状況　調査区西部、E11グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　北側をSI05（奈良時代帰属）により消失する。残存する範囲は1.19×0.59ｍ、深さ34㎝である。形状は円形または楕円形。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　暗褐色砂質シルトを主体とする。
配置　SI05と重複し、これよりも古い。
遺物　石器（剥片）が出土している。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　重複関係・出土遺物から縄文時代の可能性がある。

ＳＫ５９土坑（第44図、写真図版43・44）
検出状況　調査区東部、E29グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.18×0.84ｍ、深さは30㎝である。形状は楕円形。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒色～黒褐色シルトを主体とする。
配置　P240と重複しこれよりも新しい。SK60とP246とは近接している。
遺物　縄文土器・石器が出土している。（第88・148図、写真図版69・106）
【縄文土器】出土重量は1,192g。a310～317の８点を図化した。器種は深鉢１点、鉢５点、浅鉢１点、壺１点である。
【石器】敲石と台石各１点出土している（e150・151）。
遺構の性格　不明である。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（後葉）である。

ＳＫ６０土坑（第44図、写真図版44）
検出状況　調査区東部、E30グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.00×0.96ｍ、深さは21㎝である。形状は円形。底面は平坦で壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　P121と重複しこれよりも新しい。SK59とは近接する。
遺物　縄文土器・石器（磨石・e152）が出土している。縄文土器の出土重量は21g、小片のため図化していない。（第149図、写真図版106）
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代である。

ＳＫ６１土坑（第44図、写真図版44）
検出状況　調査区中央部、E14グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　SK11によって東側を消失する。残存する規模は1.15×0.38ｍ、深さは29㎝である。平



第44図　SK47・49・54・57・59 ～ 62

第31表　SK47・49・54・57・59 ～ 62土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK47 A－A′	1	10YR3/2 黒褐色シルト	弱	粗	炭化物粒 1%、遺物あり	
SK49 A－A′	1	10YR2/2 黒褐色シルト	なし	粗	粗砂 30%	
	2	2.5YR3/6 暗赤褐色シルト	なし	粗	粗砂 20%、礫（φ 30 ～ 50㎜）3%	赤色顔料層
SK54 A－A′	1	10YR2/1 黒色シルト	なし	粗	礫（φ 5 ～ 10㎝）10%	
SK57 A－A′	1	10YR3/3 暗褐色砂質シルト	なし	中	黄褐色砂極小～中ブロック中量	
	2	10YR4/4 褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂極小～中ブロック極多量	
SK59 A－A′	1	10YR2/3 黒褐色シルト	弱	中	10YR4/4 褐色シルトとの混合土、炭化物（φ 1 ～ 2㎜）2%、小礫 2%	
	2	10YR2/1 黒色シルト	弱	中	炭化物（φ 1 ～ 2㎜）2%、小礫 3%	
SK60 A－A′	1	10YR2/2 黒褐色シルト	弱	中	炭化物（φ 1 ～ 2㎜）2%、小～中礫 5%	
SK61 A－A′	1	10YR2/2 黒褐色砂質シルト	なし	中	黄褐色砂極小～中ブロック少量	
	2	10YR3/2 黒褐色砂質シルト	なし	粗	黄褐色砂小～大ブロック多量	
SK62 A－A′	1	10YR2/1 黒色砂質シルト	なし	中	黒褐色粘土質シルト（2 層）極小～中ブロック中量	
	2	10YR2/2 黒褐色粘土質シルト	強	やや密	黄褐色砂極小・小ブロック微量含む	
	3	10YR3/2 黒褐色砂質シルト	なし	極密	黄褐色砂極小～中ブロック中量含む	

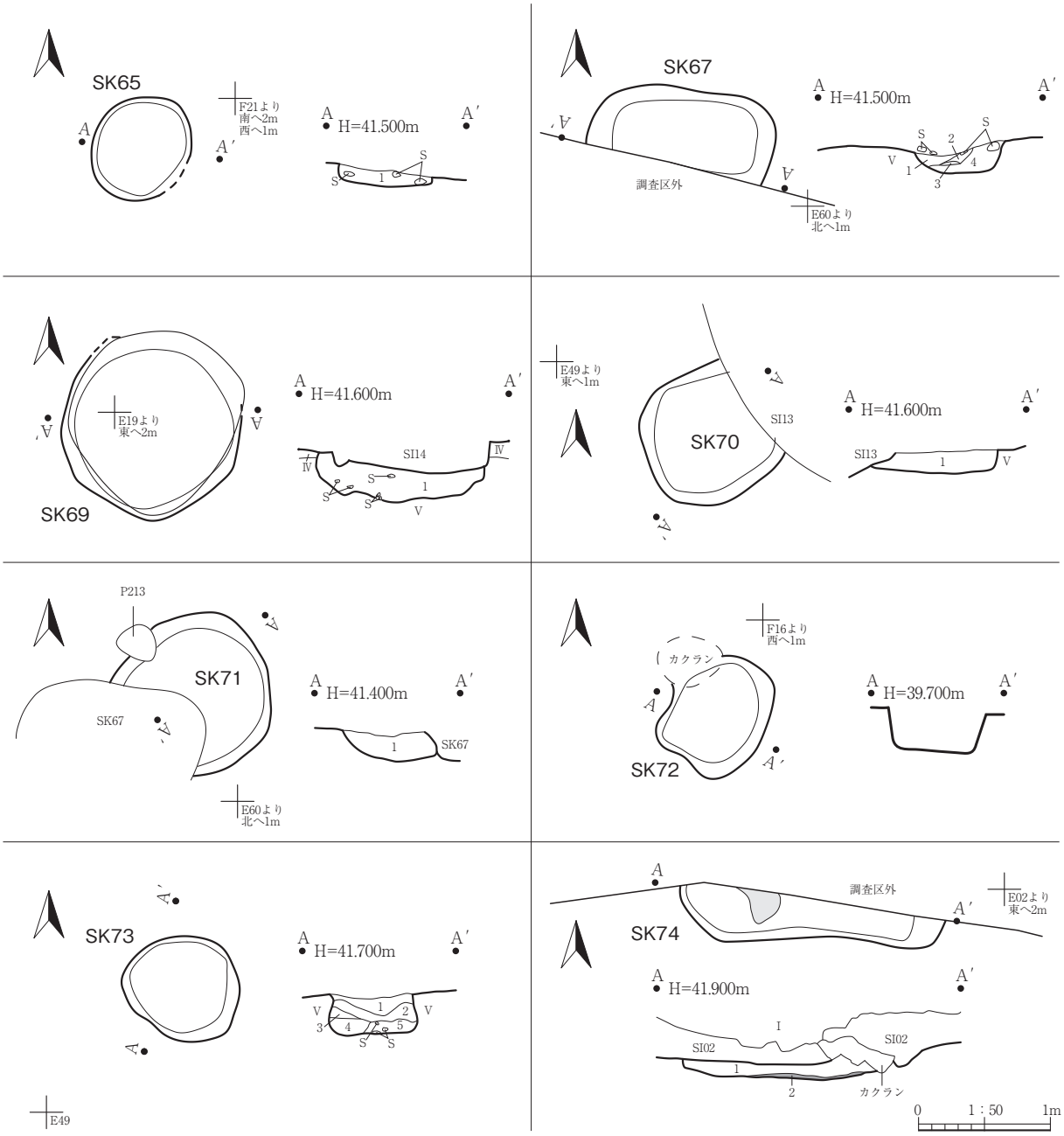
面形は楕円形。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色砂質シルトを主体とする。
配置　SK11と重複しこれよりも古い。
遺物　出土していない。
遺構の性格　不明である。
時期　重複関係から縄文時代晩期（前葉）以前である。

ＳＫ６２土坑（第44図、写真図版44）
検出状況　調査区中央部、E15グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.08×1.03ｍ、深さは51㎝である。平面形は円形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がるが、上部がより開く。
堆積土　黒色～黒褐色シルトを主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　出土していない。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　形状・堆積土の特徴から縄文時代と推測される。

ＳＫ６５土坑（第45図、写真図版44・45）
検出状況　調査区東部、E30グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は0.85×0.65ｍ、深さは20㎝である。形状は円形。底面は平坦で、壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　縄文土器（3.6g）・石器（剥片）が出土しているがいずれも図化していない。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代の可能性がある。

ＳＫ６７土坑（第45図、写真図版45）
検出状況　調査区東部、E49グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　南壁が調査区外へと延びる。調査区内の規模は1.41×0.62ｍ、深さは32㎝である。主軸方向はN-87°-W。形状は隅丸長方形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒色～暗褐色シルトを主体とする。平面範囲は記録できていないが、堆積土中に赤色顔料（ベンガラ）を含む層（３層）が確認できた。
配置　SK71と重複しこれよりも新しい。
遺物　縄文土器が出土している。出土重量は295g、a318～320の３点を図化した。器種は鉢、浅鉢、壺である。（第88図、写真図版69）
遺構の性格　遺構の形状・堆積土中に赤色顔料が含まれることから土坑墓と判断した。
時期　出土遺物から縄文時代晩期末～弥生時代初頭である。

ＳＫ６９土坑（第45図、写真図版45）
検出状況　調査区東部、E19グリッドに位置する。SI14の床面（Ⅳ層）で検出した。



第45図　SK65・67・69 ～ 74

第32表　SK65・67・69 ～ 74土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SK65 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	粗	炭化物（φ 1 ～ 2mm）1%、小礫少量	
SK67 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	粗	中礫少量	
	2	10YR3/4暗褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルト2%	
	3	2.5YR4/8赤褐色シルト	弱	粗		赤色顔料層
	4	10YR2/1黒色シルト	弱	粗	黒褐色シルト30%、炭化物（φ 1 ～ 5mm）3%	
SK69 A－A′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	密	壁際に黄褐色砂小～大ブロック少量	自然堆積
SK70 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	黄褐色シルト3%、炭化物（φ 1 ～ 3mm）3%、土器片中量	
SK71 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	炭化物（φ 1 ～ 10mm）7%、土器片中量、黒耀石出土	
SK73 A－A′	1	10YR4/4褐色シルト	弱	密	10YR3/3暗褐色シルトとの混合土	
	2	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト2%	
	3	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト2%、炭化物（φ 1 ～ 2mm）1%	
	4	10YR2/2黒褐色シルト	弱	中	褐色シルト1%	
	5	10YR3/4暗褐色シルト	弱	中	褐色シルト7%、小礫少量	
SK74 A－A′	1	10YR3/4暗褐色シルト	弱	粗	黄褐色シルトブロック（φ 5mm）3%、炭化材（φ 1 ～ 3mm）1%	墓壙埋設土、人為堆積
	2	5YR3/4暗赤褐色シルト	弱	粗	炭化材（φ 1mm）1%	赤色顔料層

規模・形状　北半上端を一部消失する。残存する規模は1.35×1.26ｍ、深さは26㎝である。平面形は円形。底面は丸みを帯び、壁は直立する。
堆積土　黒色粘土質シルトを主体とし自然堆積である。本遺構が自然に埋没する前に、一部埋め戻してSI14の床面を構築している（SI14土層観察図参照）。
配置　SI14・15と重複し、前者より古く後者より新しい。
遺物　縄文土器が出土している。出土重量は35g、a321の鉢１点を図化した。（第88図、写真図版69）
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　重複関係及び出土遺物から縄文時代中期以降晩期以前である。

ＳＫ７０土坑（第45図、写真図版45）
検出状況　調査区東部、E49グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　北東部がSI13によって消失する。残存する規模は0.92×0.98ｍ、深さは23㎝である。形状は円形～楕円形。底面は平坦で壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　SI13と重複しこれに切られる。
遺物　土器・土製品・石器（剥片）が出土している。（第88・125図、写真図版69・95）
【縄文土器】出土重量は1,333g。a322 ～ 326の５点を図化した。器種は、深鉢１点、鉢３点、壺１点である。a326の壺は外面が赤彩される。
【土製品】中心が穿孔される土製円板が１点出土した（d48）。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。

ＳＫ７１土坑（第45図、写真図版45・46）
検出状況　調査区東部、E49グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　南西部がSK67によって消失する。残存する規模は1.18×0.95ｍ、深さは29㎝である。形状は円形。底面はやや丸みを帯び、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　SK67と重複しこれよりも古い。
遺物　縄文土器と石器が出土している。（第88・149図、写真図版69・106）
【縄文土器】出土重量は433g。鉢２点、注口１点、計３点を図化した（a327 ～ 329）。
【石器】５点出土し図化している（e153 ～ 157）。器種は削器、楔形石核、石棒である。楔形石核は３点出土している。
遺構の性格　形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（中葉）である。

ＳＫ７２土坑（第45図、写真図版46）
検出状況　調査区東部、F15グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　北西部の上端を一部攪乱によって消失する。残存する規模は0.98×0.78ｍ、深さは39㎝である。形状はやや不整な円形。底面は平坦で、壁は直立する。

堆積土　不明である。
配置　重複する遺構はない。
遺物　須恵器の壺胴部破片１点（b118）、縄文土器が出土している。縄文土器は出土重量17g、小片のため図化していない。（第121図、写真図版93）
遺構の性格　不明である。
時期　出土遺物から古代以降である。

ＳＫ７３土坑（第45図、写真図版46）
検出状況　調査区東部、E39グリッドに位置する。SI08床面で検出した。
規模・形状　規模は0.90×0.80ｍ、深さは35㎝である。形状は円形。底面は平坦で壁は内傾気味に立ち上がる。
堆積土　黒褐色～褐色シルトを主体とする。１層は埋め戻しと考えられる。
配置　SI08と重複する。床面で検出したため、SI08に帰属またはそれよりも古い遺構と考えられる。
遺物　縄文土器が13g出土しているが小片のため図化していない。
遺構の性格　単独の遺構と仮定すると形状から貯蔵穴の可能性がある。
時期　SI08帰属であれば縄文時代晩期（中葉～後葉）、単独の遺構であれば、それ以前と判断される。

ＳＫ７４土坑（第45図、写真図版46）
検出状況　調査区西部、E02グリッドに位置する。SI02の床面で検出したため、当初竪穴建物帰属の遺構としていたが、形状、堆積土の状況から単独の土坑と判断した。
規模・形状　北側が調査区外へと延びる。調査区内の規模は2.01×0.42ｍ、深さは12㎝である。形状は隅丸方形～長方形。主軸方向はN-82°-W。底面は平坦で壁は直立する。
堆積土　暗褐色シルトを主体とする。底面直上に赤色顔料を含む層が薄く堆積する。
配置　SI02と重複しこれよりも古い。
遺物　出土していない。
遺構の性格　形状及び赤色顔料が検出されたことから、土坑墓と考えられる。
時期　本遺構と同種類の遺構が周囲に分布しており、これらと同様の縄文時代晩期と推定される。

（５）炉　　跡

１基検出した。竪穴建物に設置された地床炉と考えられるが、建物のプランは確認できなかった。SL01・SL03は欠番とした。

ＳＬ０２炉跡（第46図、写真図版46）
検出状況　調査区東部、E10グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模･形状　残存状態が悪く、焼成範囲の平面形は不明、掘方の範囲のみ記録した。掘方の規模は0.78×0.68ｍ、深さ10㎝、形状は円形である。断面形は浅皿状に窪む。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。３層上面が焼成面である。
配置　重複する遺構はない。
遺物　縄文土器が８ｇ出土しているが小片のため図化していない。竪穴建物の炉と想定するとE10グ

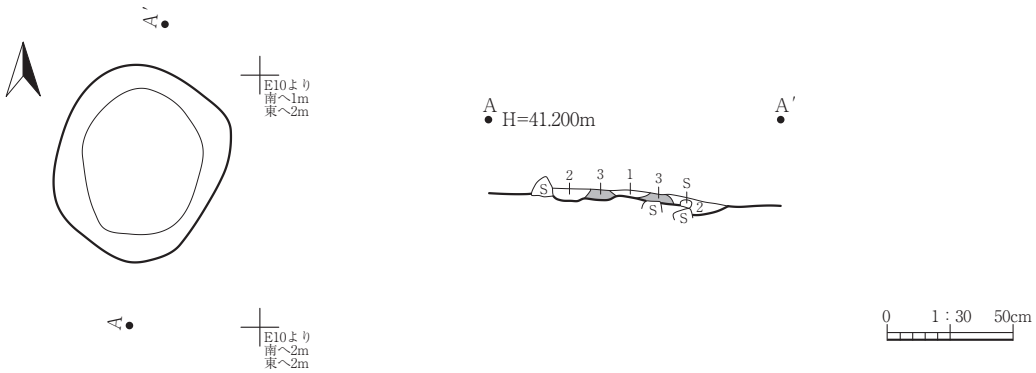
リッド出土のa566・567・590・591・646 ～ 650・686・695の中に本遺構に帰属のものが含まれる可能性がある。
遺構の性格　SI14・15に近く、竪穴建物の分布域に位置することから、建物内に設置された地床炉の可能性がある。
時期　上記の通り竪穴建物の付属施設と想定すると周辺出土の土器から縄文時代晩期（後葉）の可能性がある。

（6）焼　土　遺　構

7基検出した。SN01 ～ 06はE06グリッドに集中しており、一部重複する。SN05 ～ 06上面には土器が集中して出土している（第47 ～ 49図、写真図版47 ～ 50）。

ＳＮ０１焼土遺構（第47図、写真図版47・48）
検出状況　調査区中央部、E06グリッドに位置する。検出面はⅢ層。
規模・形状　規模は1.59 × 1.11ｍ、深さは10㎝である。形状は不整楕円形。底面は凹凸があり断面形は浅皿状に窪む。
堆積土　焼土層と炭層が互層になって堆積する。１・３層、少なくとも２回の焼成が行われていたと判断される。
配置　SN06と重複し、これを切る。SN02 ～ 05とは近接する。
遺物　縄文土器・土製品・石器・炭化種実・骨片が出土している。（第89・125・150・151図、写真図版69・70・95・106・107・139）
【縄文土器】出土重量は3,080gと多い。a330 ～ 336・338 ～ 347の17点を図化した。a337は図作成後にa351と接合したため、接合した図をa351に掲載した（表・写真図版はa337・351で別々に掲載）。器種は、深鉢１点、鉢８点、台付鉢１点、浅鉢２点、壺３点、注口２点である。a333は内面の痕跡から、珊瑚状の突起が貼り付けられていたと思われるが、突起部は剥落し欠損してしまっている。外面が赤彩されている。
【土製品】土製円板（d49）・粘土塊が出土した。
【石器】11点出土した（e158 ～ 168）。器種は、石鏃、石錐、石篦、石核、敲石、台石、石皿、石棒、円板状石器である。円板状石器が３点とまとまっている。出土位置の記録を欠くが、e168の石棒は、両端がSN01の４層から、中央部がSN05の１層から出土している（写真図版47）。e168の上部片は遺構中央に配置されていた。
【その他】堆積土中に炭化したオニグルミ、サワグルミ、クリ、トチノキ、ブドウ属、ミズキ、マメ科の種実が含まれていた。特にオニグルミ・クリ・トチノキは１～４層の各層で大量に出土している。また骨片も多く、カエル類右橈尺骨、キバチ左胸鰭棘・腹椎・尾椎、コイ科尾椎・ニホンジカ末節骨が含まれていた。
遺構の性格　たき火痕であるが大規模であり、多量の遺物を伴う。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

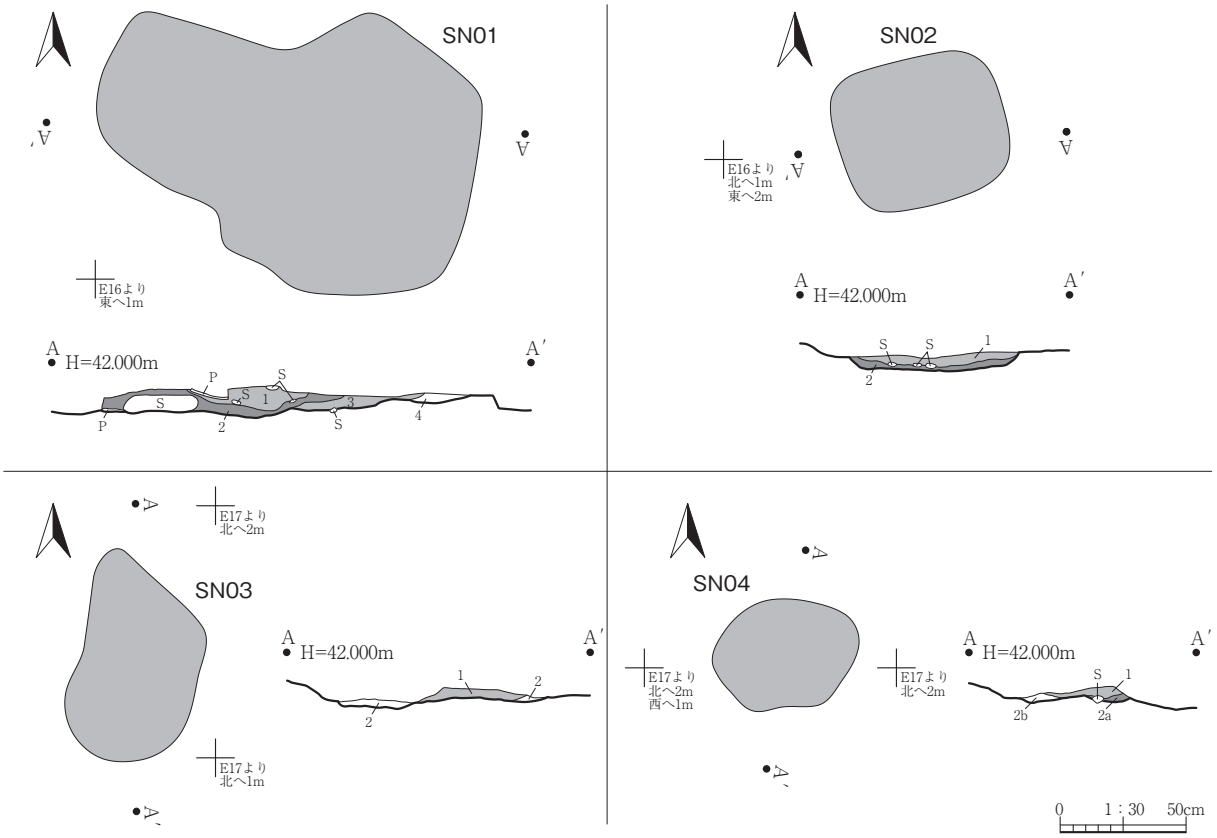
ＳＮ０２焼土遺構（第47図、写真図版47・48）
検出状況　調査区中央部、E06グリッドに位置する。検出面はⅢ層。



第46図　SL02

第33表　SL02土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SL02 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	密	炭化物粒極微量	自然堆積
	2	10YR3/3暗褐色シルト	なし	極密	黄褐色砂小～極大ブロック少量、礫（φ5～10cm）少量、炭化物粒微量	
	3	5YR4/4にぶい赤褐色シルト	なし	極密	暗褐色砂質シルト小・中ブロック少量、黄褐色砂小・中ブロック微量	焼土層



第47図　SN01 ～ 04

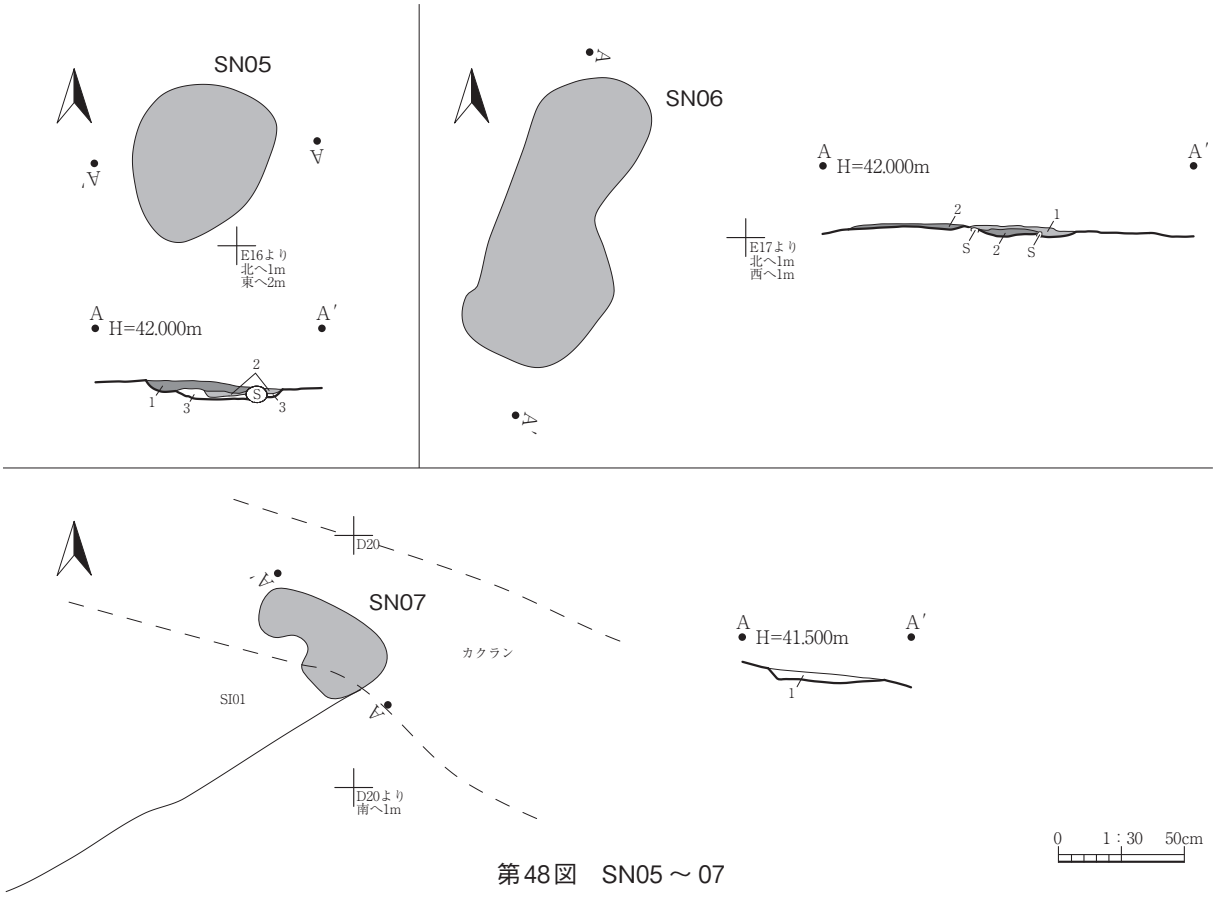
第34表　SN01 ～ 04土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SN01 A－A′	1	7.5YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや粗	黒褐色砂質シルト（2層）小ブロック少量	焼土層
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒および極小・小ブロックやや多量	炭化物層
	3	7.5YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや粗	黒褐色砂質シルト（4層）小・中ブロック中量	焼土層
	4	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒微量	
SN02 A－A′	1	7.5YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや粗	黒褐色砂質シルト（2層）小ブロック少量	焼土層
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒および極小・小ブロックやや多量	炭化物層
SN03 A－A′	1	7.5YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや粗	黒褐色砂質シルト（2層）小ブロック少量	焼土層
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒微量	
SN04 A－A′	1	7.5YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや粗	黒褐色砂質シルト（2層）小ブロック少量	焼土層
	2a	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒および極小・小ブロックやや多量	炭化物層
	2b	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒極微量	

規模・形状　規模は0.74 × 0.68ｍ、深さは８㎝である。形状は隅丸方形。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　下部に炭化物層、上部に焼土層が堆積する。
配置　SN06と重複し、これを切る。SN01・03 ～ 05とは近接する。
遺物　縄文土器・炭化種実・骨片が出土している。（第89図、写真図版70・139）
【縄文土器】出土重量は509g。鉢３点、浅鉢１点の計４点を図化した（a348 ～ 351）。
【その他】炭化したオニグルミ、クリ、トチノキ、ブドウ属の種実が出土している。数量は特にオニグルミが多い。骨類は、カエル類橈尺骨・椎骨・指骨、ヒキガエル上腕骨、ヘビ類椎骨が出土している。
遺構の性格　たき火痕である。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。

ＳＮ０３焼土遺構（第47図、写真図版47・48）
検出状況　調査区中央部、E06グリッドに位置する。検出面はⅢ層。
規模・形状　規模は0.85 × 0.52ｍ、深さは４㎝である。形状は不整楕円形。底面は凹凸があり、断面形は浅皿状に窪む。
堆積土　黒褐色砂質シルトの上に焼土が形成される。
配置　重複する遺構はない。SN01・02・04 ～ 06と近接する。
遺物　縄文土器・石器（剥片）・炭化種実が出土している。（第89図、写真図版70）
【縄文土器】出土重量は173g。a352 ～ 354の鉢３点を図化した。
【その他】炭化したオニグルミ、クリ、トチノキの種実がまとまって出土している。数量は特にトチノキが多い。
遺構の性格　たき火痕である。
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

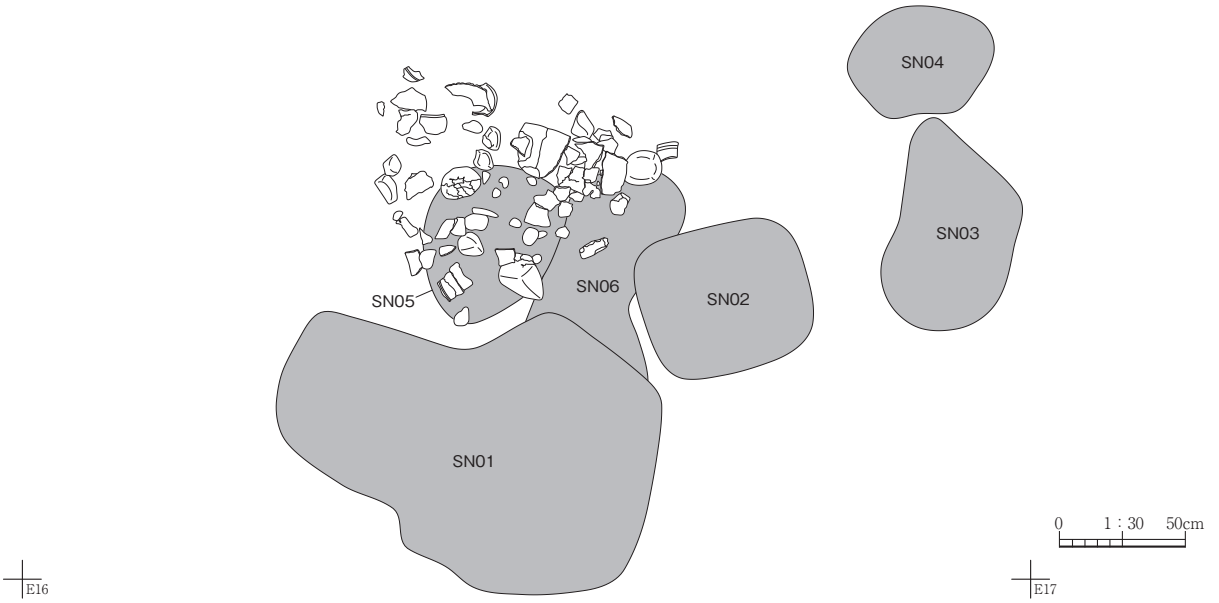
ＳＮ０４焼土遺構（第47図、写真図版47 ～ 49）
検出状況　調査区中央部、E06グリッドに位置する。検出面はⅢ層。
規模・形状　規模は0.59 × 0.44ｍ、深さは８㎝である。形状はやや不整な楕円形。断面形は浅皿状に窪む。
堆積土　下部に炭化物層、上部に焼土層が堆積する。
配置　重複する遺構はない。SN01 ～ 03・05・06と近接する。
遺物　縄文土器・土製品（粘土塊）・石器・炭化種実・骨片が出土している。（第90・152図、写真図版70・107）
【縄文土器】出土重量は109g。a355の浅鉢１点を図化した。
【石器】石鏃と楔形石核が出土した（e169・170）。
【その他】炭化したオニグルミ、クリ、トチノキの種実が大量に出土しており、とくに２層中に多く含まれていた。骨類は小片で種類は不明である。
遺構の性格　たき火痕である。
時期　遺構の性格及び出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。



第48図　SN05 ～ 07

第35表　SN05 ～ 07土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SN05 A－A′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒および極小・小ブロックやや多量	炭化物層
	2	7.5YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや粗	黒褐色砂質シルト（2層）小ブロック少量	焼土層
	3	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒極微量	
SN06 A－A′	1	7.5YR4/4褐色砂質シルト	なし	やや粗	黒褐色砂質シルト（2層）小・中ブロック中量	焼土層
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	炭化物粒および極小・小ブロックやや多量	炭化物層
SN07 A－A′	1	5YR4/6赤褐色シルト	弱	密	黒色シルト1%、暗褐色シルト1%、小礫1%、炭化物（φ1～10㎜）3%	



第49図　SN01 ～ 06全体図

ＳＮ０５焼土遺構（第48図、写真図版47・49）

検出状況　調査区中央部、E06グリッドに位置する。検出面はⅢ層。

規模・形状　規模は0.66×0.53ｍ、深さは８㎝である。形状はやや不整な楕円形。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

堆積土　２層上面を焼成面としその上に炭化物層が堆積する。

配置　SN06と接し、これを切る。またSN01～04と近接する。

遺物　縄文土器・土製品・石器・炭化種実・骨片が出土している。（第90・124図、写真図版70・95・139）

【縄文土器】出土重量は272g。a356の鉢１点を図化した。

【土製品】土製円板が１点出土している（d36）。

【石器】石棒がSN01のものと接合している（e168）。

【その他】炭化したオニグルミ、クリ、トチノキ、ブドウ属の種実が出土している。他の焼土遺構と同様に、オニグルミ・クリ・トチノキの量が多い。また鳥綱の骨片、ニホンジカ末節骨も出土した。

遺構の性格　たき火痕である。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＮ０６焼土遺構（第48図、写真図版49・50）

検出状況　調査区中央部、E06グリッドに位置する。検出面はⅢ層。

規模・形状　規模は1.19×0.54ｍ、深さは６㎝である。形状は不整な楕円形。底面はわずかに窪む程度である。

堆積土　下部に炭化物層、上部に焼土層が堆積する。

配置　SN01・02・05と接しこれらに切られる。また、SN03・04と近接する。

遺物　縄文土器・土師器・石器が出土している。土師器は少量（６g）で攪乱などから混入したものと推測される。（第90・152図、写真図版70・107）

【縄文土器】出土重量は174g。鉢と注口各１点、計２点を図化した（a357・358）。

【石器】楔形石核が１点出土した（e171）。

遺構の性格　たき火痕である。

時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉）である。

ＳＮ０７焼土遺構（第48図、写真図版50）

検出状況　調査区西部、D19グリッドに位置する。SI01貼床調査時にて検出した。

規模・形状　東側を一部消失する。残存する規模は0.52×0.31ｍ、深さは４㎝である。形状は不整な楕円形。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。

堆積土　炭化物・焼土を多く含む。

配置　SI01と重複し、これに切られる。

遺物　遺物は出土していない。

遺構の性格　たき火痕と考えられる。検出位置・焼土の堆積状況・炭化種子を含まないことなどから、SN01～06とは性格が違う可能性が高い。

時期　重複関係から平安時代以前である。

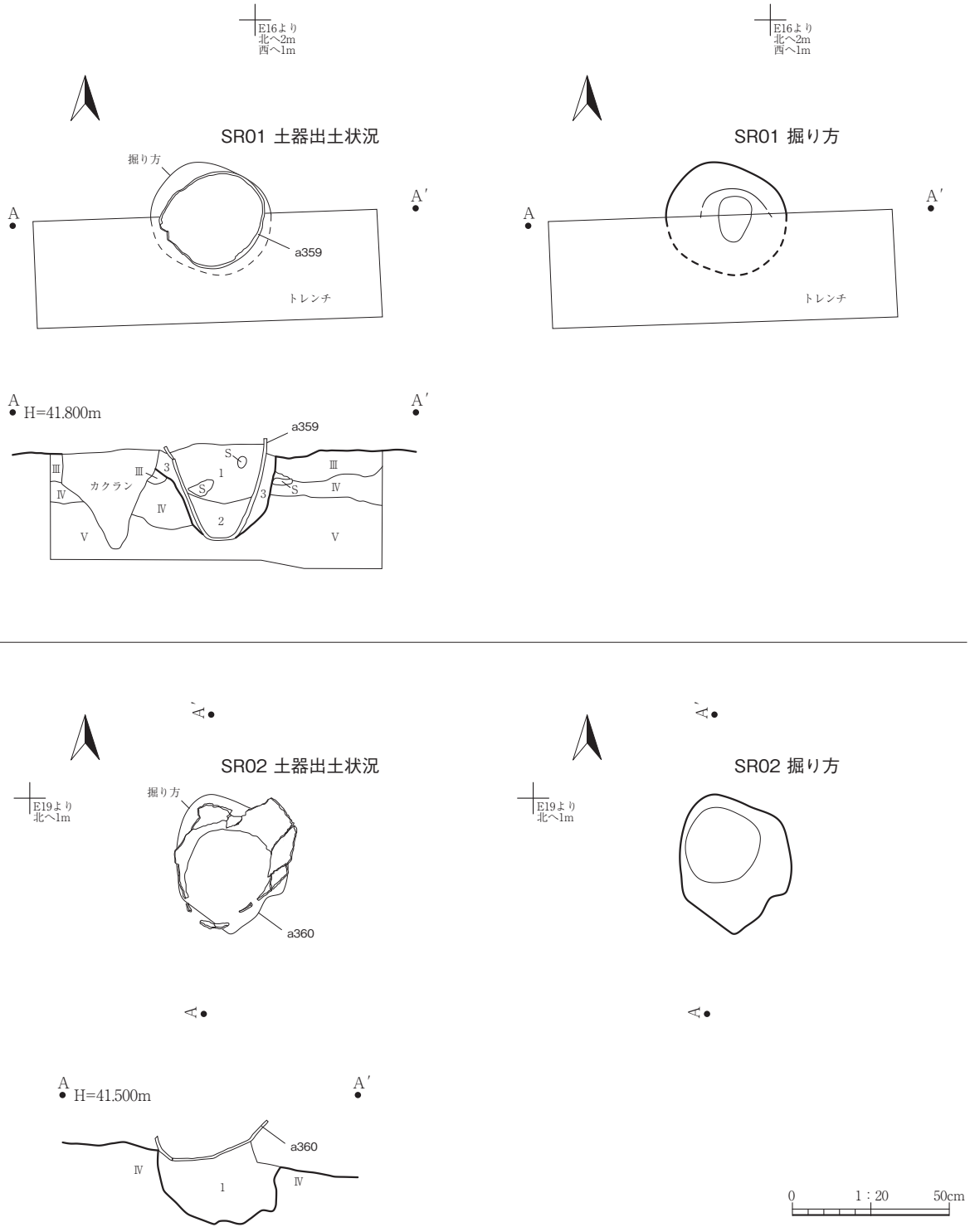
（7）土器埋設遺構

ＳＲ０１土器埋設遺構（第50図、写真図版50）
検出状況　調査区中央部、E05グリッドに位置する。検出面はⅢ層。
規模・形状　深鉢形土器の胴部～底部が正位で埋められている。掘方は土器の形状に沿っており、規模は直径0.38ｍ、深さは27㎝である。
堆積土　黒色～黒褐色シルトを主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　埋設された縄文土器が出土している（a359）。口縁部はないが、胴部以下はほぼ残存する。内面下半部にはススが付着している。土器内の土（２層）にクリ、堆積土中にオニグルミが含まれていた。（第90図、写真図版70）
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。

ＳＲ０２土器埋設遺構（第50図、写真図版50・51）
検出状況　調査区東部、E09グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　深鉢形土器の口縁～底部が斜位で埋められ、土器底部が西側、口縁部が東側へ向く。土器の下部には掘方が存在する。掘方の規模は0.45×0.35ｍ、深さは24㎝である。形状は不整形で、底面は凹凸を持ち壁は直立する。
堆積土　掘方内は黒褐色シルトを主体とする。
配置　SI14・15と重複する。SI14の床面が削平されている範囲内に位置するため、これとの新旧関係は不明、SI15とは出土遺物から本遺構の方が新しい。
遺物　埋設された土器が出土している（a360）。斜位に置かれており、検出面より上の部分は削平により消失したものと推測される。土器内面下半部にはススが付着している。土師器の小片も出土しているが、削平時の混入と判断した。（第90図、写真図版71）
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。

ＳＲ０３土器埋設遺構（第51図、写真図版51）
検出状況　調査区中央部、E07グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　深鉢形土器の口縁～底部が正位に埋められており、口縁側がやや西側へ傾く。掘方の規模は0.55×0.46ｍ、深さは24㎝である。形状は円形。底部は丸みを帯び壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色土を主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　埋設された土器が出土している（a361）。ほぼ完形、内側胴部下端にはススが付着する。土器内の土壌中には、炭化したオニグルミ、トチノキ、ニワトコ属の種実、哺乳綱？（小型？）、鳥綱の骨片が含まれていた。（第90図、写真図版71）
時期　出土遺物から縄文時代晩期（前葉～中葉）である。

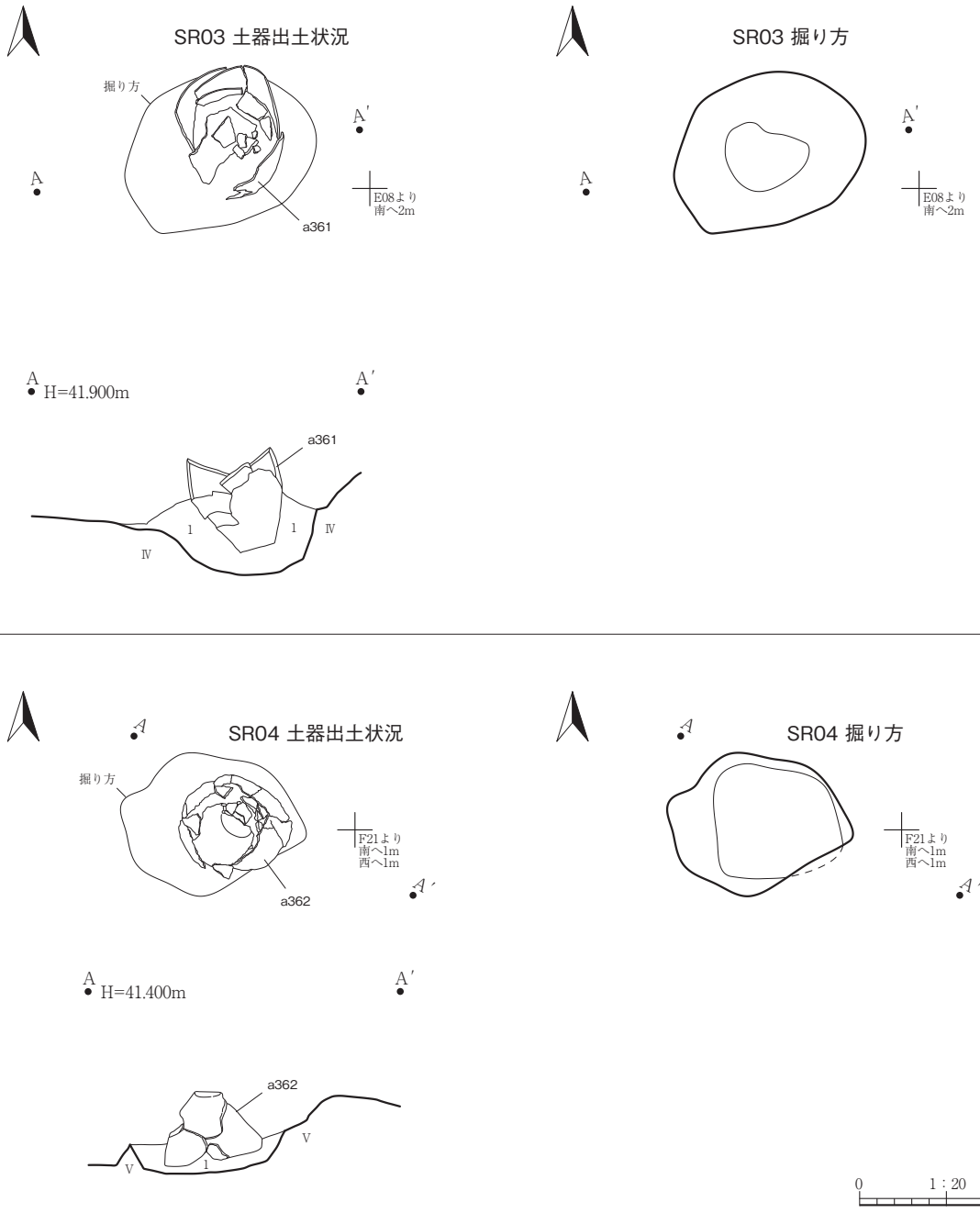
ＳＲ０４土器埋設遺構（第51図、写真図版51）
検出状況　調査区西部、E30グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　鉢形土器の口縁～底部が倒位に埋められている。残存する掘方規模は0.51×0.40ｍ、深



第50図　SR01・02

第36表　SR01・02土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備考
SR01 A－A′	1	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中	10YR4/4褐色シルトとの混合土、黒褐色シルト10%、小～中礫1%	
	2	10YR2/1黒色シルト	弱	粗		
	3	10YR2/3黒褐色シルト	弱	中		掘り方
SR02 A－A′	1	10YR2/2黒褐色	弱	粗	黄褐色シルト粒10%	人為堆積



第51図　SR03・04

第37表　SR03・04土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SR03 A－A′	1	10YR2/3 黒褐色	なし	粗	黄褐色シルト粒 10%	人為堆積
SR04 A－A′	1	10YR2/2 黒褐色	なし	粗	土器内に骨片あり	人為堆積

さは８㎝である。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒褐色土を主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　埋設された土器が出土している（a362）。土器内の堆積土中には、炭化したオニグルミ、クリ、トチノキ、アカネ科の種実、ヒトの下顎右第二大臼歯・上顎右小臼歯・前頭骨片が含まれていた。（第91図、写真図版72・139）
遺構の性格　土器棺墓である。
時期　出土遺物から縄文時代晩期末～弥生時代初頭である。

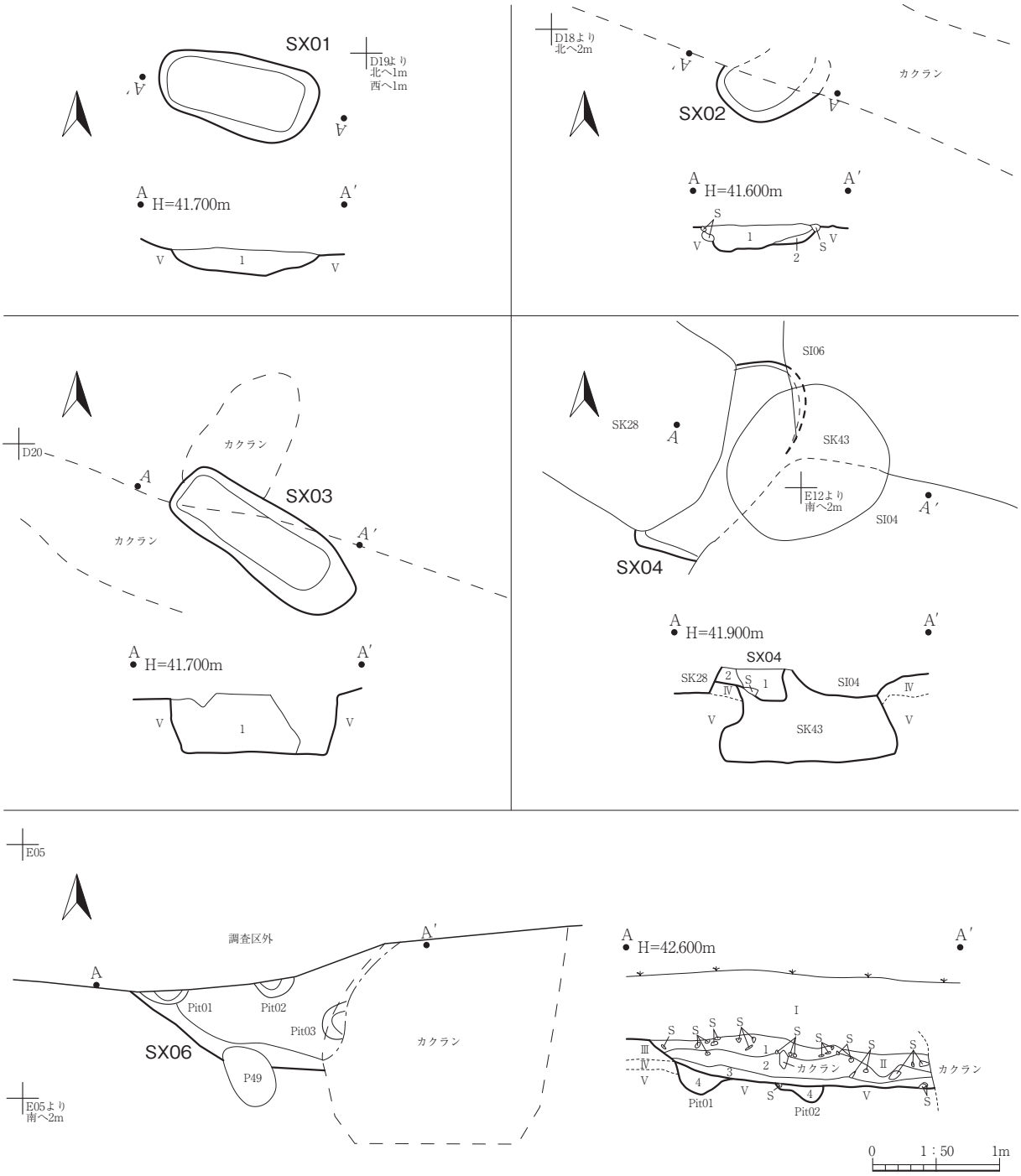
（８）性格不明遺構

時期および遺構の性格がはっきりしないものを便宜的に性格不明遺構（SX）として登録した。

ＳＸ０１性格不明遺構（第52図、写真図版51）
検出状況　調査区西部、D08グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.27×0.63ｍ、深さは24㎝である。形状は隅丸長方形。底面はやや丸みを帯び、壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　暗褐色シルトを主体とする。
配置　重複する遺構はない。
遺物　出土していない。
遺構の性格　形状及び分布域から土坑墓の可能性もあるが、赤色顔料や特徴的な遺物が出土しておらず、性格は不明である。
時期　不明である。

ＳＸ０２性格不明遺構（第52図、写真図版51・52）
検出状況　調査区西部、D08グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　北側が攪乱により削平されており、残存する規模は0.43×0.56ｍ、深さは19㎝である。形状は隅丸方形～長方形。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　暗褐色シルトを主体とする。底面でごく少量の赤色土を確認しており顔料が塗布されていた可能性がある。近現代のアスファルト舗装により攪乱されている。
配置　重複する遺構はない。
遺物　出土していない。
遺構の性格　底面付近の赤色土が顔料であれば分布域も含め土坑墓の可能性があるが、残存範囲が少なく確定できなかった。
時期　不明である。

ＳＸ０３性格不明遺構（第52図、写真図版52）
検出状況　調査区西部、D20グリッドに位置する。検出面はⅤ層。
規模・形状　規模は1.61×0.59ｍ、深さは50㎝である。底面は平坦で壁は直立する。
堆積土　暗褐色シルトを主体とする。堆積土上部が近現代の電柱埋設土に似る。



第52図　SX01 ～ 04・06

第38表　SX01 ～ 04・06土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
SX01 A－A′	1	10YR3/3暗褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト3%、黒褐色シルト1%、小礫5%	人為堆積か
SX02 A－A′	1	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト10%、黒褐色シルト5%、炭化物（φ1 ～ 2㎜）1%	削平されているが、北側底面にわずかに赤色顔料か　人為堆積か
	2	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	褐色シルトとの混合土	
SX03 A－A′	1	10YR3/4暗褐色シルト	なし	中	黄褐色シルト3%、中礫7%	人為堆積か
SX04 A－A′	1	10YR2/2黒褐色シルト	弱	密	暗褐色シルト2%、焼土粒（φ1 ～ 2㎜）1%、炭化物（φ1 ～ 5㎜）2%	SK28の一部か
	2	10YR2/3黒褐色シルト	弱	密	炭化物（φ1 ～ 2㎜）1%	
SX06 A－A′	1	10YR2/3黒褐色	なし	中	黄褐色砂極小・小ブロック微量、礫（φ3 ～ 10cm）中量	自然堆積、縄文の竪穴建物の可能性あり
	2	10YR4/4褐色	なし	密	礫（φ3 ～ 10cm）微量	人為埋土上層、3層とセット
	3	10YR2/1黒色	なし	やや粗	黄褐色砂極小ブロック微量	人為埋土下層、2層とセット
	4	10YR3/3暗褐色	やや強	密	黄褐色砂極小・小ブロック少量	Pit01～03埋土、Pit03：深さ5cm

配置　SK16と重複しこれよりも新しい。
遺物　出土していない。
遺構の性格　不明である。
時期　不明である。

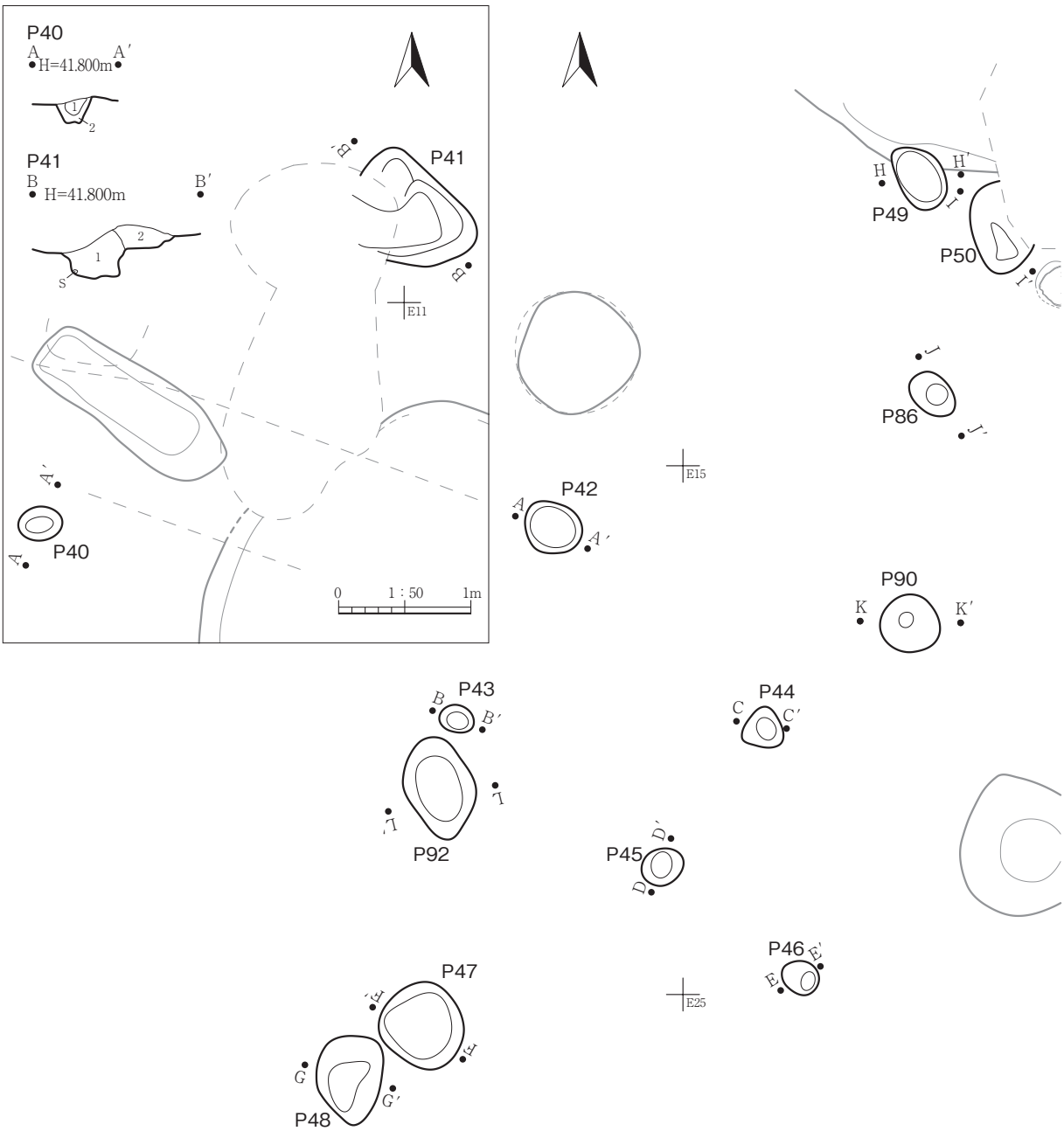
ＳＸ０４性格不明遺構（第52図、写真図版52）
検出状況　調査区西部、E11グリッドに位置する。検出面はⅣ層。
規模・形状　重複遺構により東西壁を消失する。残存する規模は1.72×0.49ｍ、深さは20㎝である。形状は隅丸長方形。底面は平坦で壁は直立する。
堆積土　黒褐色シルトを主体とする。
配置　SI04・06・SK28・43と重複する。竪穴建物調査後に発見したため、これらとの新旧関係は確認できなかった。SK28よりは古い、もしくは本遺構自体がSK28と同一遺構の可能性がある。SK43よりは新しい。
遺物　縄文土器・石器が出土している。土器は小片のため図化していない。石器は楔形石核、石皿が出土している（e172・173）。（第152図、写真図版107）
遺構の性格　不明である。
時期　不明である。

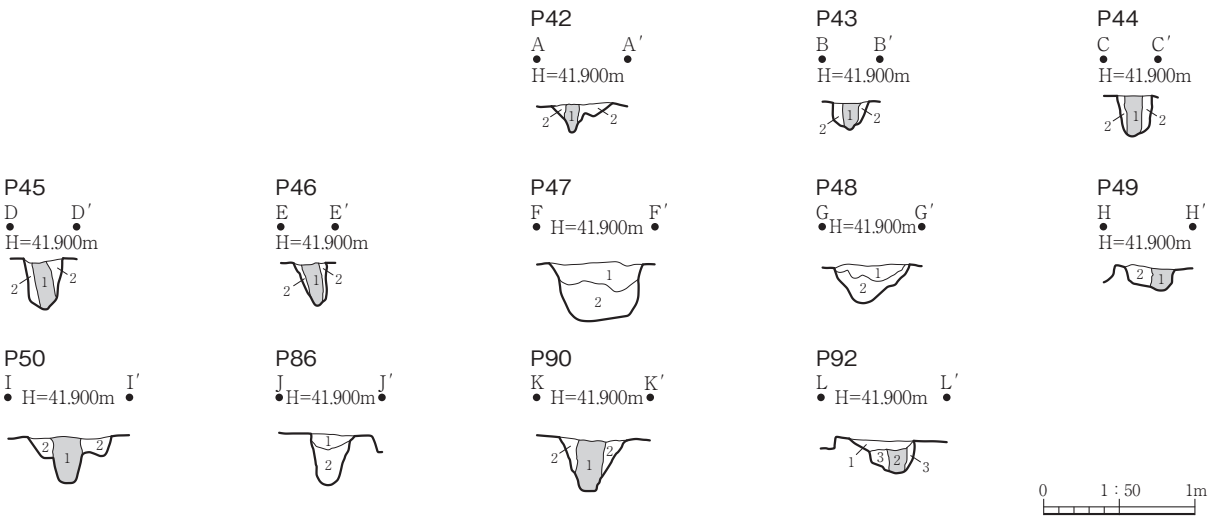
ＳＸ０６性格不明遺構（第52図、写真図版52）
検出状況　調査区中央部、E05グリッドに位置する。検出面はⅢ層。
規模・形状　北側が調査区外へと延び、西側が攪乱により消失する。残存する規模は1.63×0.63ｍ、深さは36㎝である。平面形は不明。底面は平坦で小穴を３つ有する。壁は外傾して立ち上がる。
堆積土　黒色～褐色土を主体とする。
配置　P49と重複するが新旧関係は不明である。
遺物　出土していない。
遺構の性格　不明である。ただし竪穴建物の可能性も否定できない。
時期　不明である。

（９）柱穴状土坑

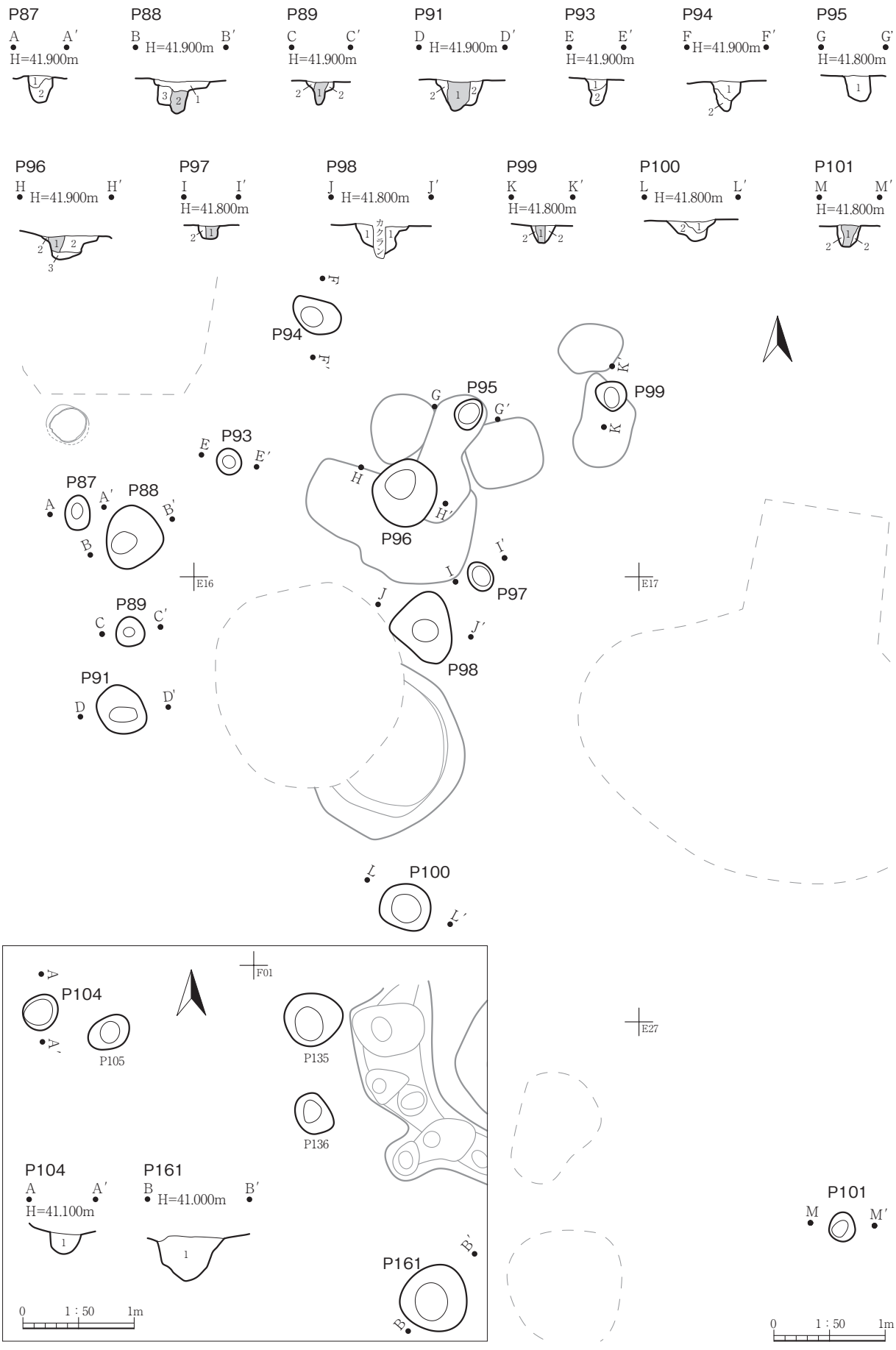
柱穴状土坑として272個登録した（表43）。このうち36個がSB01～06掘立柱建物を構成する柱穴で、26個は調査過程で欠番とした。残る210個は掘立柱建物の柱穴と考えられるが、建物配置を見いだせなかったもので、一括して図示した（第53～59図）。

これら210個の柱穴状土坑の分布域は、調査区西側が少なく、東側に多い。個別の規模は、直径20～70㎝台のものが大半､特に30～50㎝程度のものが多く全体の半数ほどを占める。深さは12～70㎝、９割以上が50㎝以下である。縄文時代の掘立柱建物であるSB01～05は直径90～120㎝、深さは60㎝以上のものがほとんどで、これらと比べると、上記の210個は規模が小さい。一方で近世以降と推定されるSB06は、直径29～73㎝、深さ15～53㎝と、規模が近い。遺物は、縄文土器・土師器・須恵器・石器・骨類が出土している（第91・121・152図、写真図版72・93・107）。土器は縄文時代晩期のものが多いものの、規模から考えるとこれらの柱穴群は縄文時代に属するものではなく、近世以降の掘立柱建物を構成していたものである可能性が高い。





第53図　P40 ～ 50・86・90・92



第54図　P87 ～ 89・91・93 ～ 101・104・161

第39表　P40・41土層観察表

遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P40 A－A′	1	10YR3/2黒褐色砂質シルト	なし	密	黄褐色砂極小・小ブロック微量	近世・近代か
	2	10YR3/3暗褐色砂質シルト	なし	密	黄褐色砂極小～中ブロック少量	
P41 B－B′	1	10YR3/2黒褐色砂質シルト	なし	やや密	黄褐色砂極小～中ブロック微量、炭化物粒極微量	柱痕か
	2	10YR3/3暗褐色砂質シルト	なし	密	黄褐色砂極小～極大ブロック極多量	掘り方堆積土か

第40表　P42～50・86・90・92土層観察表

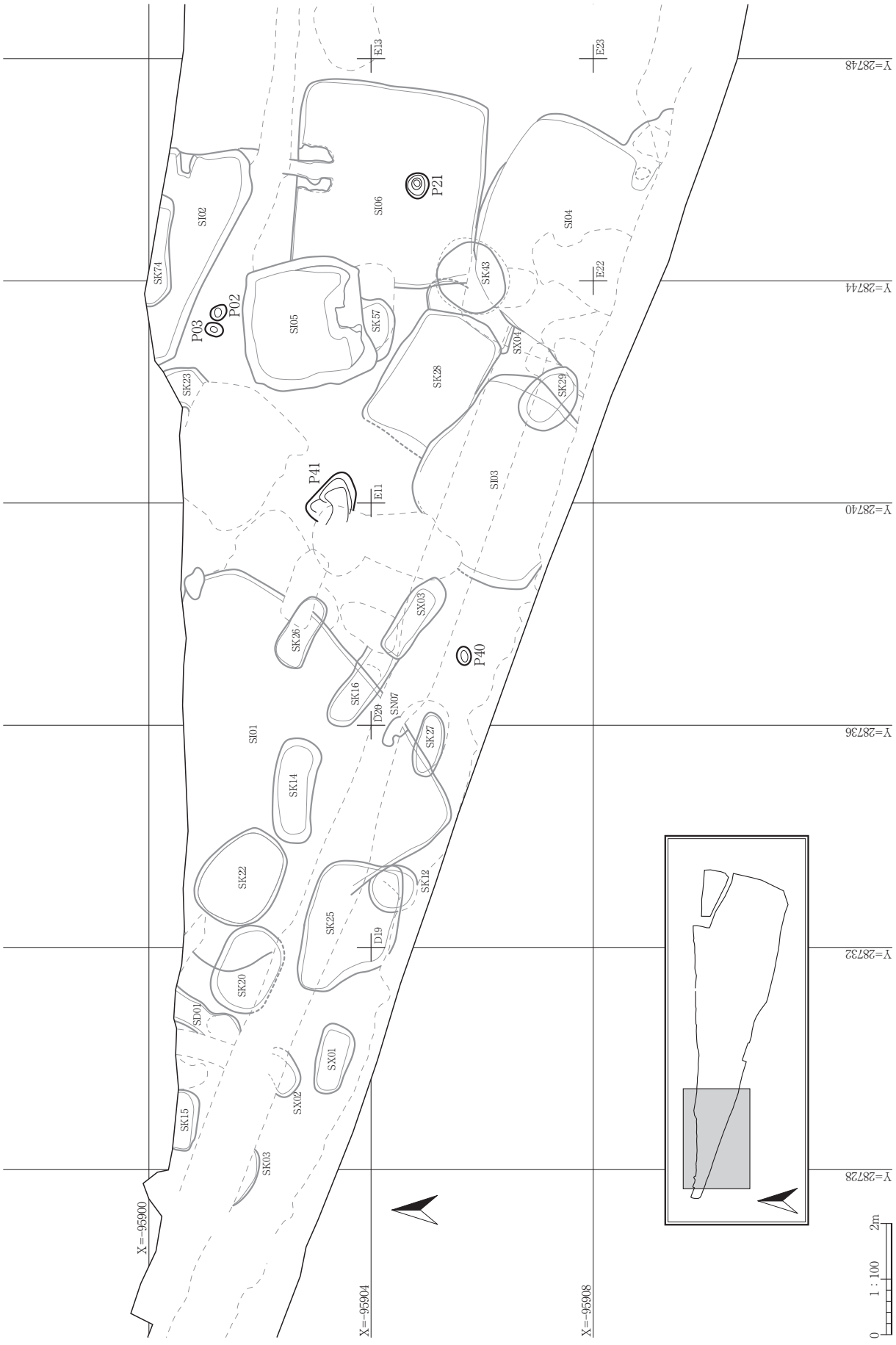
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P42 A－A′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P43 B－B′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P44 C－C′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P45 D－D′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P46 E－E′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P47 F－F′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	中	黄褐色砂極小～中ブロック少量	
	2	10YR3/2黒褐色砂質シルト	なし	粗	黄褐色砂小～大ブロック多量	
P48 G－G′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	中	黄褐色砂極小～中ブロック少量	
	2	10YR3/2黒褐色砂質シルト	なし	粗	黄褐色砂小～大ブロック多量	
P49 H－H′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P50 I－I′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P86 J－J′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴上層か、近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱抜取穴下層か
P90 K－K′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P92 L－L′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴、近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕
	3	10YR3/2黒褐色砂質シルト	なし	密	黄褐色砂小～極大ブロック極多量	掘り方堆積土

第41表　P87～89・91・93～101土層観察表

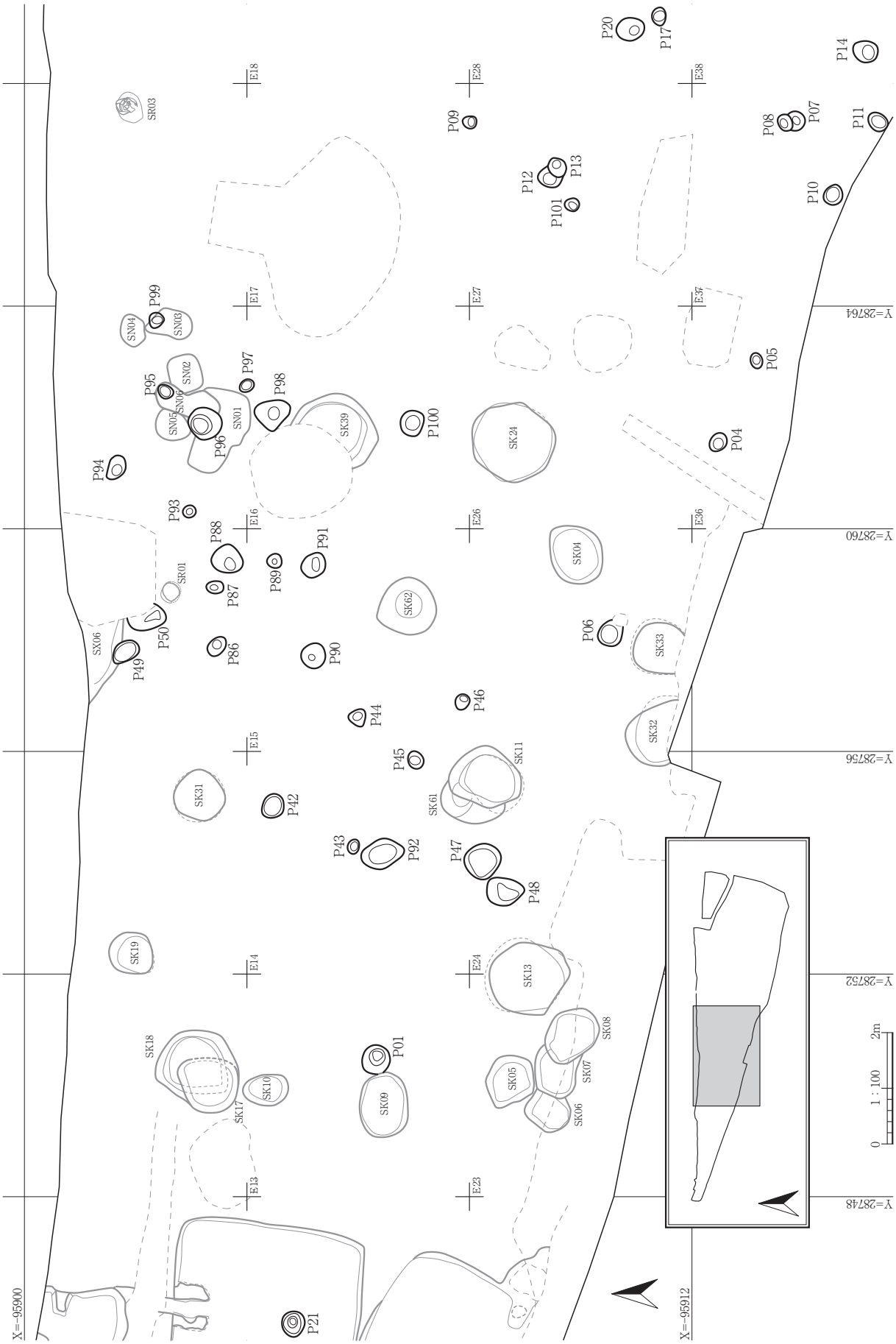
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P87　A－A′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴上層か、近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱抜取穴下層か
P88　B－B′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴、近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕
	3	10YR3/2黒褐色砂質シルト	なし	密	黄褐色砂小～極大ブロック極多量	掘り方堆積土
P89　C－C′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P91　D－D′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P93　E－E′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴上層か、近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱抜取穴下層か
P94　F－F′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴上層か、近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱抜取穴下層か
P95　G－G′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴か、近世・近代か
P96　H－H′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多多量	掘り方堆積土
	3	10YR3/3暗褐色砂質シルト	なし	中	黄褐色砂小・中ブロック極多量	掘り方整形土
P97　I－I′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P98　J－J′	1	10YR2/1黒色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂極小～中ブロック微量	柱抜取穴か、近世・近代か
P99　K－K′	1	10YR2/1黒色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土
P100 L－L′	1	10YR2/1黒色砂質シルト	なし	中	黒褐色砂質シルト（2層）小ブロック少量	近世・近代か
	2	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	中	黄褐色砂小・極大ブロック中量	
P101 M－M′	1	10YR2/2黒褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂小ブロック微量	柱痕、近世・近代か
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	中	中	黄褐色砂小・中ブロックやや多量	掘り方堆積土

第42表　P104・161土層観察表

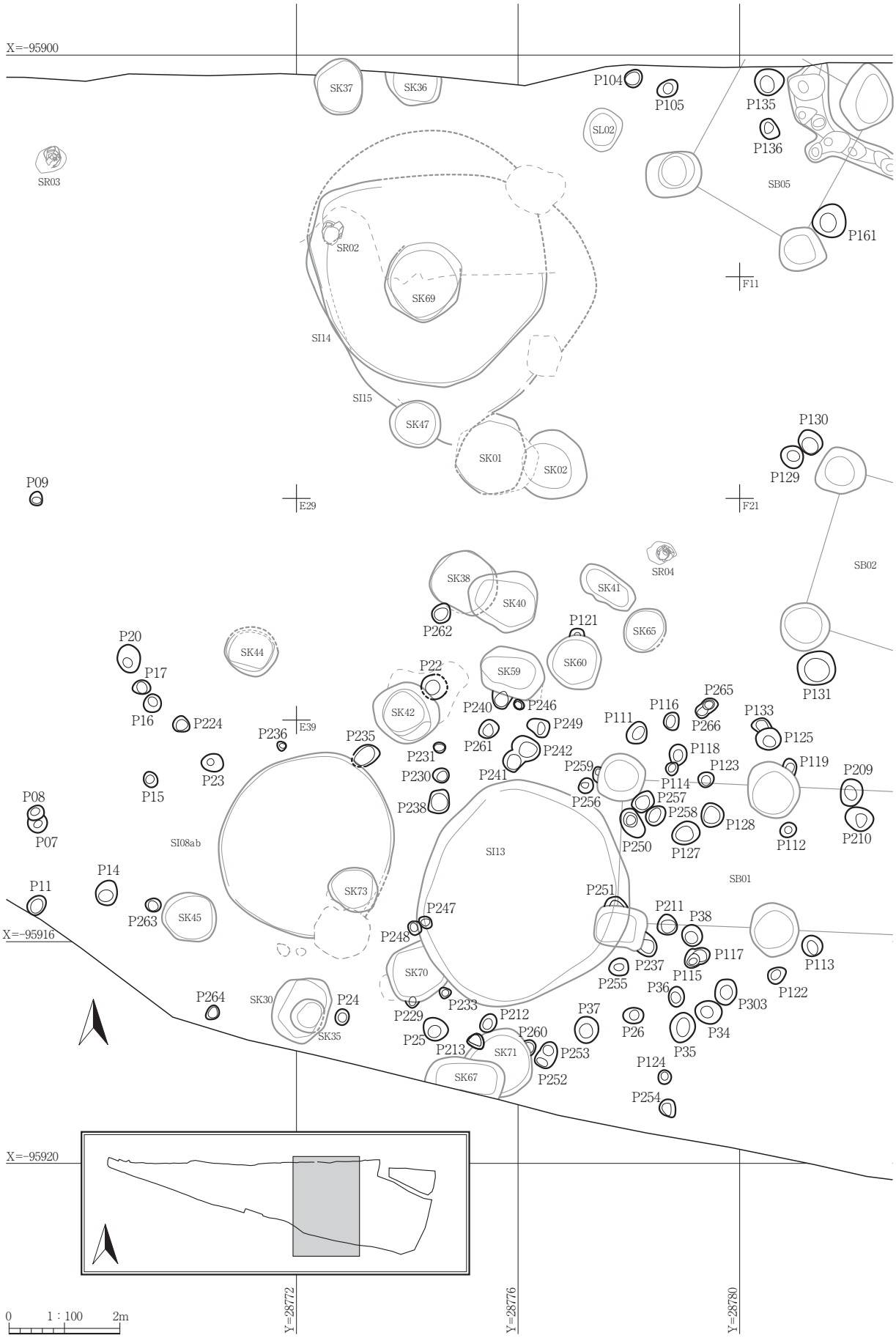
遺　構　名	層	土色・土性	粘性	締まり	混　入　物	備　考
P104 A－A′	1	10YR3/3暗褐色砂質シルト	なし	やや粗	黄褐色砂極小・小ブロック微量、底面付近に礫（φ1～3cm）少量	
P161 B－B′	1	10YR2/3黒褐色シルト	なし	やや粗	粗砂10%	



第55図　柱穴状土坑分布図（1）

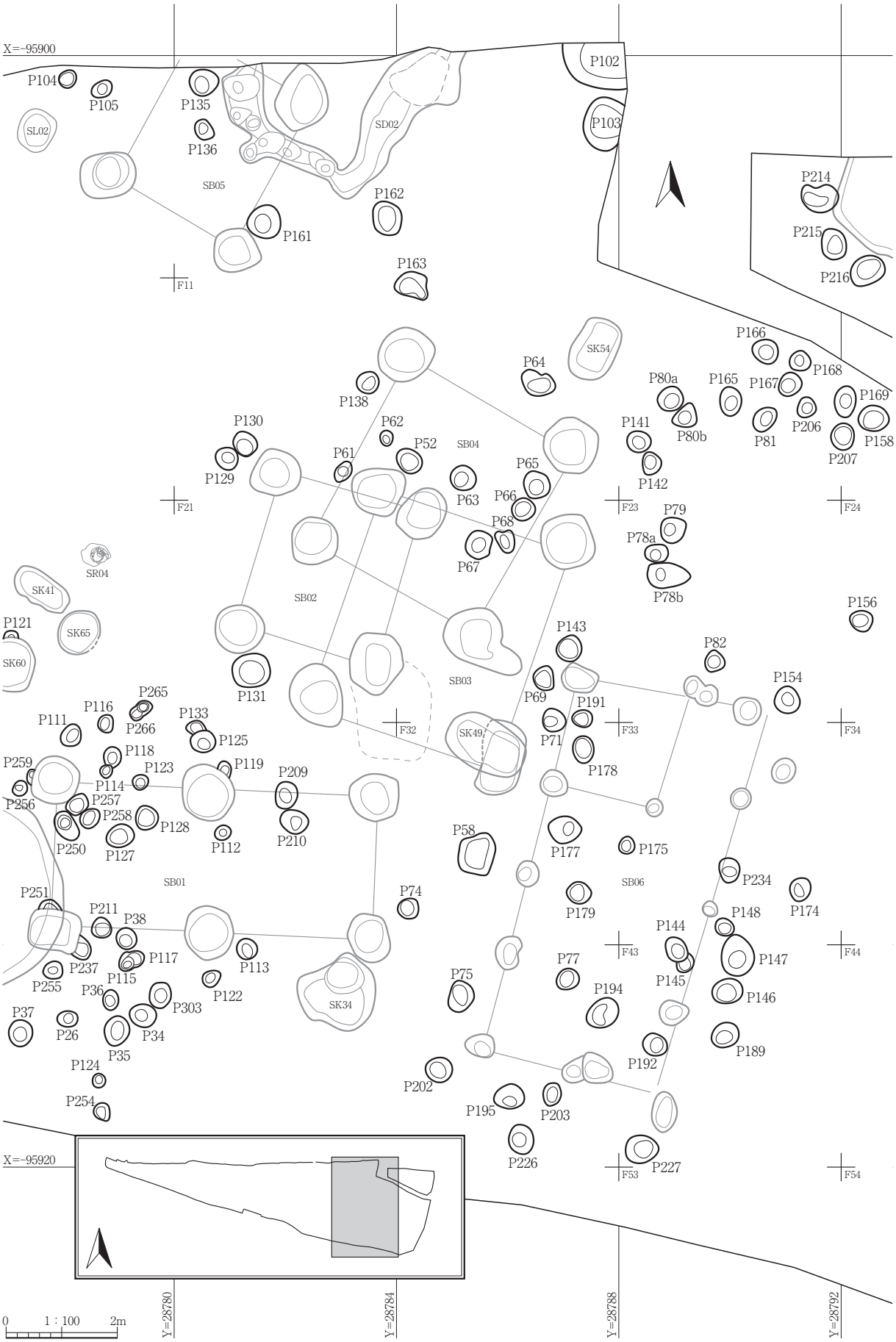


第56図　柱穴状土坑分布図（2）

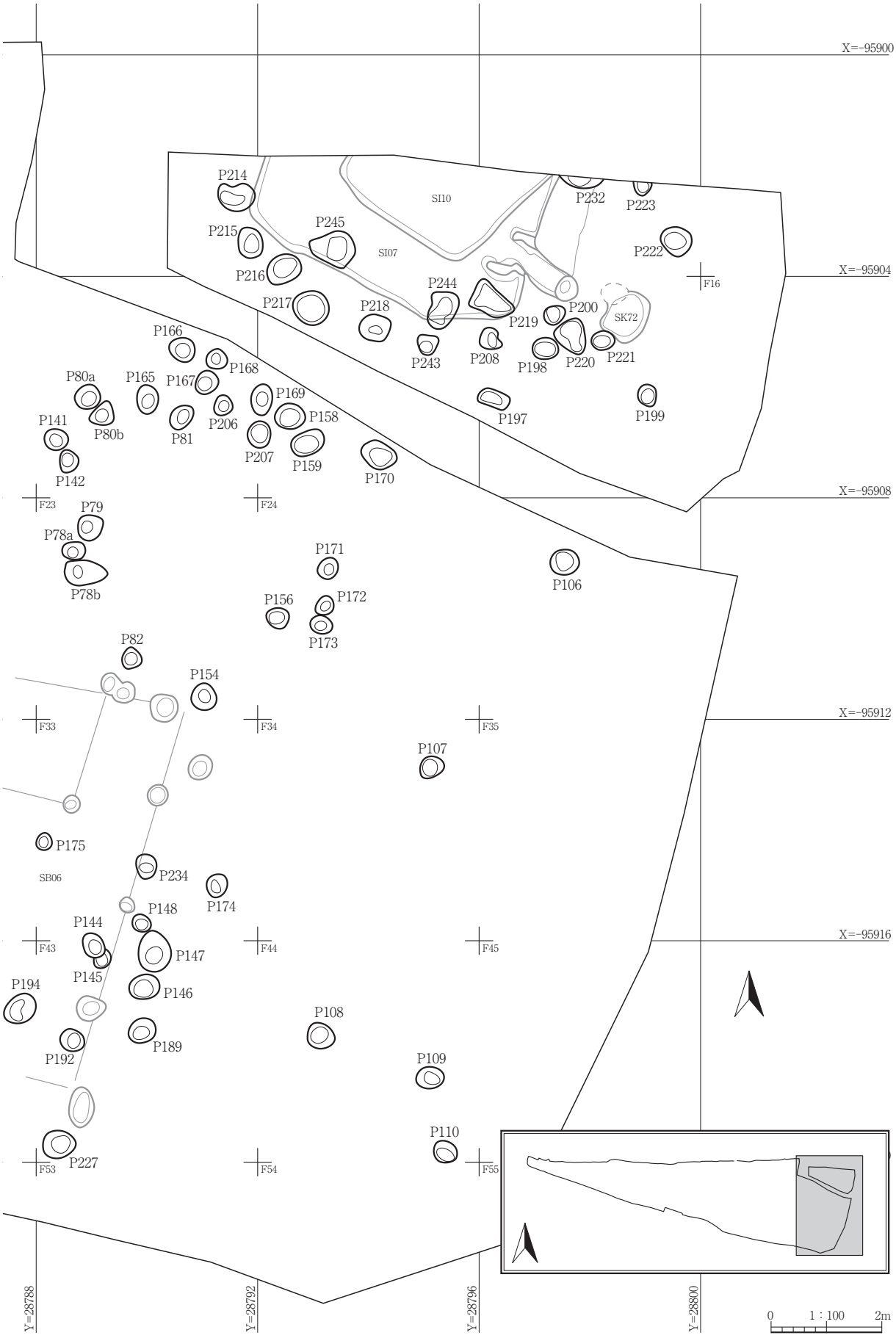


0　1：100　2m

第57図　柱穴状土坑分布図（3）



第58図　柱穴状土坑分布図（4）



第59図　柱穴状土坑分布図（5）

第43表　柱穴状土坑一覧（1）

遺構名	グリッド	規模（cm） 長径・短径・深さ	掲載遺物	色　調	混　入　物	備　考 （帰属遺構、重複等）
P01	E13	53・51・34		断面図あり（SK09と並記）	－	晩期、根固め有
P02	E01	32・25・41		黒褐色	－	
P03	E01	33・24・34		黒褐色	－	
P04	E36	36・29・24	a363	10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトとの混合土、炭化物（φ1～2㎜）1%、根多量	
P05	E36	28・21・27		10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトとの混合土、小礫1%、根多量	
P06	E25	49・45・34		10YR3/3暗褐色シルト	小礫1%	
P07	E37	35・（22）・34	a364～367	10YR2/2黒褐色シルト	暗褐色シルト10%、焼土粒1%、炭化物（φ1～2㎜）1%	P08より古
P08	E37	33・（16）・30	a367・368	10YR2/2黒褐色シルト	褐色シルト2%、炭化物（φ1～2㎜）1%	P07より新
P09	E27	25・23・38		10YR3/3暗褐色シルト	10YR4/4褐色シルトとの混合土、炭化物（φ1～2㎜）1%	
P10	E37	37・33・15	a369・370	10YR2/3黒褐色シルト	小礫1%	
P11	E37	38・30・18		10YR2/1黒色シルト	根少量	
P12	E27	42・（26）・23		10YR2/3黒褐色シルト	－	P13と新旧不明、P13が柱痕P12が掘方か?
P13	E27	36・（21）・28		10YR2/3黒褐色シルト	暗褐色シルト10%	P12と新旧不明、P13が柱痕P12が掘方か?
P14	E38	46・39・27		10YR2/1黒色シルト	－	
P15	E38	29・25・26	a371～373	10YR2/1黒色シルト	炭化物（φ1㎜）1%	
P16	E28	33・31・44	a374、g57	10YR4/4褐色シルト	黄褐色土粒2%、炭化物（φ1～2㎜）1%	
P17	E28	33・25・25		10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトとの混合土、炭化物（φ1㎜）1%	
P18	欠番			－	－	
P19	欠番			－	－	
P20	E28	51・42・26	e174	10YR2/3黒褐色シルト	褐色シルト1%	
P21	E12	46・41・34		10YR3/4暗褐色シルト	10YR4/4褐色シルトとの混合土、炭化物（φ1～3㎜）2%	SI06に伴うものか不明
P22	E29	47・44・40	a375、e175	10YR2/2黒褐色シルト	褐色シルト粒2%、焼土粒1%、炭化物（φ1㎜）1%	
P23	E38	40・32・49	a376	10YR2/3黒褐色シルト	赤褐色土粒1%、炭化物（φ1～2㎜）1%	
P24	E49	29・25・30	a377	10YR2/2黒褐色シルト	褐色シルト2%、炭化物（φ1～2㎜）2%、根多量	
P25	E49	46・40・70	a378	10YR2/3黒褐色シルト	褐色シルト2%、小礫2%、炭化物（φ1～2㎜）2%	
P26	E50	37・29・23		10YR2/2黒褐色シルト	小礫5%	
P27	F21	91・87・135	a141・142、e91	断面図あり	－	SB04
P28	欠番			－	－	
P29	F11	99・93・122	a138・139	断面図あり	－	SB03
P30	F22	96・79・88	a133	断面図あり	－	SB02
P31	F22	105・103・60		断面図あり	－	SB03
P32	欠番			－	－	SK54へ変更
P33	F12	103・99・97	a143	断面図あり	－	SB04、P25と性格似る
P34	E50	49・41・38	a379	10YR2/3黒褐色シルト	小～中礫中量	P25と性格似る
P35	E50	55・45・33		10YR2/2黒褐色シルト	黄褐色土粒2%、小～中礫多量	P25と性格似る
P36	E50	37・28・26		10YR4/4褐色シルト	－	
P37	E50	48・43・57		10YR2/3黒褐色シルト	暗褐色シルト10%、小礫少量、炭化物（φ1㎜）1%	P25と性格似る
P38	E40	39・36・33		10YR2/2黒褐色シルト	小～中礫中量、炭化物（φ1～10㎜）1%	
P39	F22	157・102・136		断面図あり	－	SB04
P40	D20	34・26・19		断面図あり	－	
P41	E01	98・（60）・41		断面図あり	－	
P42	E14	46・40・22		断面図あり	－	
P43	E14	27・20・29		断面図あり	－	
P44	E15	32・31・31		断面図あり	－	
P45	E14	33・28・34		断面図あり	－	
P46	E15	29・25・33		断面図あり	－	
P47	E24	67・64・42		断面図あり	－	
P48	E24	68・48・26		断面図あり	－	
P49	E05	53・35・23		断面図あり	－	
P50	E05	68・（33）・35		断面図あり	－	
P51	F12	105・94・117	e92	断面図あり	－	SB04
P52	F12	50・40・48		10YR3/1黒褐色シルト	－	
P53	F21	113・98・93	a134・135	断面図あり	－	SB02
P54	F31	93・87・109	e84	断面図あり	－	SB01
P55	F31	91・75・63		断面図あり	－	SB01
P56	欠番			－	－	
P57	欠番			－	－	
P58	F32	80・68・48		黒褐色	－	
P59	F31	97・87・93	a125・126、e86	断面図あり	－	SB01
P60	F31	106・95・96	a127・128、e87・88	断面図あり	－	SB01、P119より新
P61	F11	41・27・27		10YR3/2黒褐色シルト	－	
P62	F11	28・23・17		10YR3/2黒褐色シルト	－	
P63	F12	47・44・23	a380	10YR3/2黒褐色シルト	－	
P64	F12	64・43・42		10YR2/2黒褐色シルト	－	
P65	F12	51・47・46		10YR3/1黒褐色シルト	－	
P66	F22	42・41・40		10YR2/1黒色シルト	－	

第43表　柱穴状土坑一覧（2）

遺構名	グリッド	規模（cm） 長径・短径・深さ	掲載遺物	色　調	混　入　物	備　考 （帰属遺構、重複等）
P67	F22	52・50・54		10YR3/1黒褐色シルト	−	
P68	F22	44・32・30		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P69	F22	44・37・23	a381	10YR2/1黒色シルト	−	
P70	F22	67・52・35		10YR2/1黒色シルト	−	SB06
P71	F22	43・40・33		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P72	F32	50・47・26		10YR2/1黒色シルト	−	SB06
P73	F32	47・40・27		10YR2/1黒色シルト	−	SB06
P74	F32	39・38・34		10YR2/1黒色シルト	−	
P75	F42	57・45・28		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P76	F42	62・44・23		10YR2/2黒褐色シルト	−	SB06
P77	F42	42・37・17		10YR2/1黒色シルト	−	
P78a	F23	42・32・31		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P78b	F23	78・46・42		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P79	F23	50・46・50		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P80a	F13	47・44・48		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P80b	F13	48・38・26		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P81	F13	50・36・26		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P82	F23	40・36・24	b119	10YR2/2黒褐色シルト	−	
P83	F23	38・(23)・33		10YR2/2黒褐色シルト	−	SB06
P84	F23	43・(30)・27		10YR2/2黒褐色シルト	−	SB06
P85	F23	52・49・23		10YR2/2黒褐色シルト	−	SB06
P86	E05	39・28・33		断面図あり	−	
P87	E05	31・22・27		断面図あり	−	
P88	E05	59・55・40		断面図あり	−	
P89	E15	27・26・24		断面図あり	−	
P90	E15	51・45・37		断面図あり	−	
P91	E15	55・46・31		断面図あり	−	
P92	E14	79・53・25		断面図あり	−	
P93	E06	24・22・25		断面図あり	−	
P94	E06	47・32・31		断面図あり	−	
P95	E06	29・24・25		断面図あり	−	
P96	E06	61・58・23		断面図あり	−	
P97	E06	32・26・35		断面図あり	−	
P98	E16	69・57・33		断面図あり	−	
P99	E06	29・26・20		断面図あり	−	
P100	E16	52・42・20		断面図あり	−	
P101	E27	26・24・22		断面図あり	−	
P102	F02	(141)・(88)・56		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P103	F02	98・(68)・42		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P104	E10	34・30・21		断面図あり	−	
P105	E10	40・29・44		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P106	F25	52・46・39		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P107	F34	46・37・32		10YR2/2黒褐色砂	−	
P108	F44	51・45・18		10YR2/2黒褐色砂	−	
P109	F44	51・40・33		10YR2/3黒褐色砂	−	
P110	F44	45・39・38		10YR2/3黒褐色砂	−	
P111	E40	42・36・44		10YR2/2黒褐色シルト	黒色シルト1%、小礫少量、根多量	
P112	F31	30・26・40		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量、根多量	
P113	F41	38・36・37		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量、根多量	
P114	E40	25・22・28		10YR2/2黒褐色シルト	黒色シルト1%、小礫少量、根多量	P118より新
P115	E50	34・(27)・45	e176	10YR2/1黒色シルト	炭化物（φ1mm）1%、小礫中量	
P116	E40	32・28・29	a382	10YR2/2黒褐色シルト	黒色シルト1%、小礫少量、根多量	
P117	E50	28・(20)・24	e176	10YR2/1黒色シルト	小礫中量、炭化物（φ1mm）1%	
P118	E40	38・30・24	a383	7.5YR3/4暗褐色シルト	小礫少量	P114より古
P119	F31	27・(19)・21		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	P60より古
P120	欠番			−	−	
P121	E30	27・(19)・32		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	SK60より古
P122	F41	35・29・42		10YR2/3黒褐色シルト	小礫中量、根中量	
P123	E40	29・27・20		10YR2/3黒褐色シルト	小礫中量、草根中量	
P124	E50	25・23・23		10YR4/4褐色シルト	−	
P125	F31	45・40・32		10YR3/3暗褐色シルト	小～中礫少量	P133より新
P126	F21	89・86・90	a136	断面図あり	−	SB02
P127	E40	51・40・39		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	
P128	E40	43・41・26		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	
P129	F11	43・39・48	a384	黒褐色	−	
P130	F11	46・41・20		黒褐色	−	
P131	F21	69・65・47		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P132	F21	120・94・123	e90	断面図あり	−	SB03
P133	F31	34・(21)・26		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	P125より古

第43表　柱穴状土坑一覧（3）

遺構名	グリッド	規模（cm） 長径・短径・深さ	掲載遺物	色　調	混　入　物	備　考 （帰属遺構、重複等）
P134	E10	104・87・73		断面図あり	－	SB05
P135	F01	53・48・46		10YR2/2黒褐色シルト	－	
P136	F01	40・31・48		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P137	F11	94・85・83	a137、e89	断面図あり	－	SB02
P138	F11	41・39・28	a385	10YR2/3黒褐色シルト	－	
P139	欠番			－	－	
P140	欠番			－	－	
P141	F13	43・38・34		黒褐色	－	
P142	F13	41・34・23		黒褐色	－	
P143	F22	48・44・20		黒褐色	－	
P144	F43	48・38・42		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P145	F43	36・(20)・21		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P146	F43	55・44・32		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P147	F43	75・59・32		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P148	F33	35・30・16		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P149	F33	29・26・34		10YR2/3黒褐色シルト	－	SB06
P150	欠番			－	－	
P151	F33	32・30・17		10YR2/3黒褐色シルト	－	SB06
P152	F33	39・36・15		10YR2/3黒褐色シルト	－	SB06
P153	F33	47・41・13		10YR3/2黒褐色シルト	－	
P154	F23	49・46・36		10YR3/2黒褐色シルト	－	
P155	欠番			－	－	
P156	F24	41・37・39		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P157	欠番			－	－	
P158	F14	55・46・33		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P159	F14	62・42・20		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P160	F01	90・83・70	a144・145	断面図あり	－	SB05
P161	F01	61・59・37		断面図あり	－	
P162	F01	65・54・31		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P163	F12	62・45・24		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P164	欠番			－	－	
P165	F13	53・39・44		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P166	F13	48・42・31		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P167	F13	44・39・32		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P168	F13	38・36・23		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P169	F14	56・38・52		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P170	F14	66・49・50		10YR2/3黒褐色砂	－	
P171	F24	40・34・32		10YR2/3黒褐色砂	－	
P172	F24	37・31・25		10YR2/3黒褐色砂	－	
P173	F24	41・33・35		10YR2/3黒褐色砂	－	
P174	F33	44・37・23		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P175	F33	31・28・30		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P176	欠番			－	－	
P177	F32	60・50・48		10YR2/3黒褐色砂	－	
P178	F32	49・38・24		10YR2/3黒褐色砂	－	
P179	F32	45・39・38		10YR2/3黒褐色砂	－	
P180	欠番			－	－	
P181	欠番			－	－	
P182	欠番			－	－	
P183	欠番			－	－	
P184	欠番			－	－	
P185	欠番			－	－	
P186	欠番			－	－	
P187	欠番			－	－	
P188	欠番			－	－	
P189	F43	51・43・35		10YR3/3暗褐色砂	－	
P190	F43	55・45・35		10YR3/3暗褐色砂	－	SB06
P191	F22	37・31・28	a386	10YR2/3黒褐色砂	－	
P192	F43	45・39・15		10YR2/3黒褐色砂	－	
P193	F43	73・45・26		10YR2/3黒褐色砂	－	SB06
P194	F42	63・48・37		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P195	F42	55・44・46	a387・388	10YR2/3黒褐色シルト	－	
P196	欠番			－	－	
P197	F15	59・31・18		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P198	F15	47・39・34		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P199	F15	41・34・51		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P200	F15	40・33・28		10YR2/3黒褐色シルト	－	
P201	F42	54・42・41		10YR2/3黒褐色シルト	－	SB06
P202	F42	48・45・21		10YR2/3黒褐色シルト	－	

第43表　柱穴状土坑一覧（4）

遺構名	グリッド	規模（cm） 長径・短径・深さ	掲載遺物	色　調	混　入　物	備　考 （帰属遺構、重複等）
P203	F42	43・33・19		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P204	欠番			−	−	
P205a	F42	55・(41)・28		10YR2/3黒褐色シルト	−	SB06
P205b	F42	65・52・53		10YR2/3黒褐色シルト	−	SB06
P206	F13	38・33・35		10YR2/3黒褐色砂	−	
P207	F14	48・42・31		10YR2/3黒褐色砂	−	
P208	F15	44・39・39		10YR2/3黒褐色砂	−	
P209	F31	49・40・18		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P210	F31	51・42・36		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P211	E40	37・36・26		10YR2/3黒褐色シルト	小礫中量	
P212	E49	35・27・18		10YR2/3黒褐色シルト	炭化物（φ1～5mm）2%	
P213	E49	31・26・18		10YR2/3黒褐色シルト	炭化物（φ1～5mm）2%	
P214	F03	67・52・47		10YR2/2黒褐色砂	−	
P215	F03	57・47・59		10YR2/2黒褐色砂	−	
P216	F04	65・51・27		10YR2/2黒褐色砂	−	
P217	F14	67・61・47		10YR2/2黒褐色砂	−	
P218	F14	59・51・41		10YR3/3暗褐色砂	−	
P219	F15	83・57・35		10YR2/3黒褐色シルト	炭化物粒1%	
P220	F15	66・55・35		10YR2/2黒褐色砂	−	
P221	F15	42・34・33		10YR3/2黒褐色シルト	−	
P222	F05	57・52・40		10YR3/1黒褐色シルト	−	
P223	F05	32・(24)・20		10YR3/1黒褐色シルト	−	
P224	E38	31・29・16		10YR2/3黒褐色シルト	炭化物（φ1mm）1%	
P225	欠番			−	−	
P226	F42	54・45・56		黒褐色	−	
P227	F43	60・50・55		黒褐色	−	
P228	E40	108・89・86	a129～131 e85	断面図あり	−	SB01、SI13より古か、 P237・251より新
P229	E49	25・20・32	a389	10YR2/2黒褐色シルト	焼土粒（φ1mm）1%	SK70より古
P230	E39	29・26・22		10YR2/3黒褐色シルト	褐色シルト1%、小礫少量、炭化物（φ1mm）1%	
P231	E39	22・19・16		10YR2/3黒褐色シルト	褐色シルト1%、炭化物（φ1mm）1%	
P232	F05	77・(18)・35		黒褐色	−	
P233	E49	21・19・15	a390	10YR2/2黒褐色シルト	炭化物（φ1mm）1%	
P234	F33	45・37・18		黒褐色	−	
P235	E39	(46)・34・12	a391	10YR2/1黒色シルト	炭化物（φ1mm）1%	
P236	E38	17・16・17		10YR2/1黒色シルト	炭化物（φ1mm）1%	
P237	E50	40・(28)・22		10YR2/3黒褐色シルト	赤褐色土粒1%、炭化物（φ1mm）1%	P228より古
P238	E39	47・41・13	a392・393	10YR2/3黒褐色シルト	褐色シルト2%、炭化物（φ1mm）1%	
P239	E40	91・88・104	a132	断面図あり	−	SB01、P259より新
P240	E29	(38)・(31)・25	a394	10YR2/2黒褐色シルト	炭化物（φ1mm）1%	SK59より古
P241	E39	36・32・26	a395	10YR2/1黒色シルト		P242と新旧不明
P242	E40	53・(36)・28		10YR2/2黒褐色シルト	炭化物（φ1～2mm）1%	P241と新旧不明
P243	F14	40・39・35	a396	10YR2/3黒褐色シルト	−	縄文
P244	F14	72・54・32		10YR2/3黒褐色シルト	−	縄文
P245	F04	84・64・62		10YR2/3黒褐色シルト	−	縄文
P246	E30	20・16・16		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P247	E39	26・20・20		10YR2/2黒褐色シルト	褐色シルト2%	P248と新旧不明
P248	E39	26・25・27	a397	10YR3/4暗褐色シルト		P247と新旧不明
P249	E40	41・32・26		10YR2/2黒褐色シルト	炭化物（φ1～5mm）1%	
P250	E40	57・36・46		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	
P251	E40	42・(17)・49		10YR2/3黒褐色シルト	−	P228より古
P252	E50	35・(16)・33		10YR2/3黒褐色シルト	−	P253と新旧不明
P253	E50	34・(25)・27		10YR2/3黒褐色シルト	−	P252と新旧不明
P254	E50	34・30・22		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P255	E50	36・32・58		10YR2/2黒褐色シルト	小礫少量	P25と性格似るか
P256	E40	29・25・21		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	
P257	E40	42・32・17	a398	10YR2/2黒褐色シルト	小礫少量、縄文中期土器1片出土	縄文中期土器1片出土
P258	E40	39・32・25		10YR2/2黒褐色シルト	小礫少量	
P259	E40	27・(11)・18		10YR2/3黒褐色シルト	小礫少量	P239より古
P260	E50	28・(14)・17		10YR2/3黒褐色シルト	−	SK71より古
P261	E39	38・32・26	a399	10YR2/3黒褐色シルト	黄褐色シルト1%、炭化物（φ1mm）1%	
P262	E29	38・33・26		10YR2/3黒褐色シルト	黄褐色シルト1%	
P263	E38	28・24・38		10YR2/3黒褐色シルト	−	
P264	E48	28・22・19		10YR2/2黒褐色シルト	−	
P265	E30	(23)・22・27		10YR3/4暗褐色砂質シルト	−	P266と新旧不明
P266	E30	23・(17)・14		10YR3/4暗褐色砂質シルト	−	P265と新旧不明
P301	F01	122・94・77		断面図あり	−	SB05
P302	F32	137・72・64	a140	断面図あり	−	SB03
P303	E50	47・39・62		10YR2/3黒褐色シルト	小～中礫多量	P33から変更

(10)遺 物 包 含 層

①縄 文 ～ 弥 生

基本土層Ⅱ層下部～Ⅲ層が主要な縄文～弥生時代の遺物包含層である。分布密度は高く特に中央～東側に厚く堆積する。畑耕作による削平を受けているものの層厚30 ～ 70㎝を有する。

土器・土製品・石器・石製品が出土している。それぞれについての詳しい記載は遺構内遺物も合わせて次節で述べ、ここでは概要のみ記載したい。

【土器】遺構外の総出土重量は832kg、グリッドごとの出土量は第44表及び第60図の通りである。縄文時代の遺構が分布する範囲に遺物量が多く、遺構の近くに包含層が形成されていたようである。本次調査区の東端と西南端は後世の削平が大きく、遺構が検出されておらず遺物も出土していない。最も出土量が多いのはE06グリッドで69kg､次いで､E39→E40→E07グリッドである。これらのグリッド内は焼土遺構、竪穴建物が位置する。包含層を掘り下げる過程で遺構を検出したため、本来遺構に伴う(遺構の堆積土上部に含まれる)ものも遺構外として取り上げてしまっている可能性がある。(a400 ～ 702、第92 ～ 114図、写真図版73 ～ 88)

【土製品】掲載した107点中91点が遺構外からの出土である。(第122 ～ 126図、写真図版94・95)

【石器・石製品】遺構外の総出土点数は3,400点(剥片を除くと884点)である。グリッドごとの器種別数量は第45表の通り。土器と同様に、出土数量の多いグリッドと遺構の分布範囲が重なっている。(e177 ～ 552、第153 ～ 205図、写真図版108 ～ 138)

②古 代 以 降

古代以降の遺物は主に基本土層Ⅰ～Ⅱ層上部に包含されていた。土師器・須恵器・土製品・石器・金属製品が出土している。

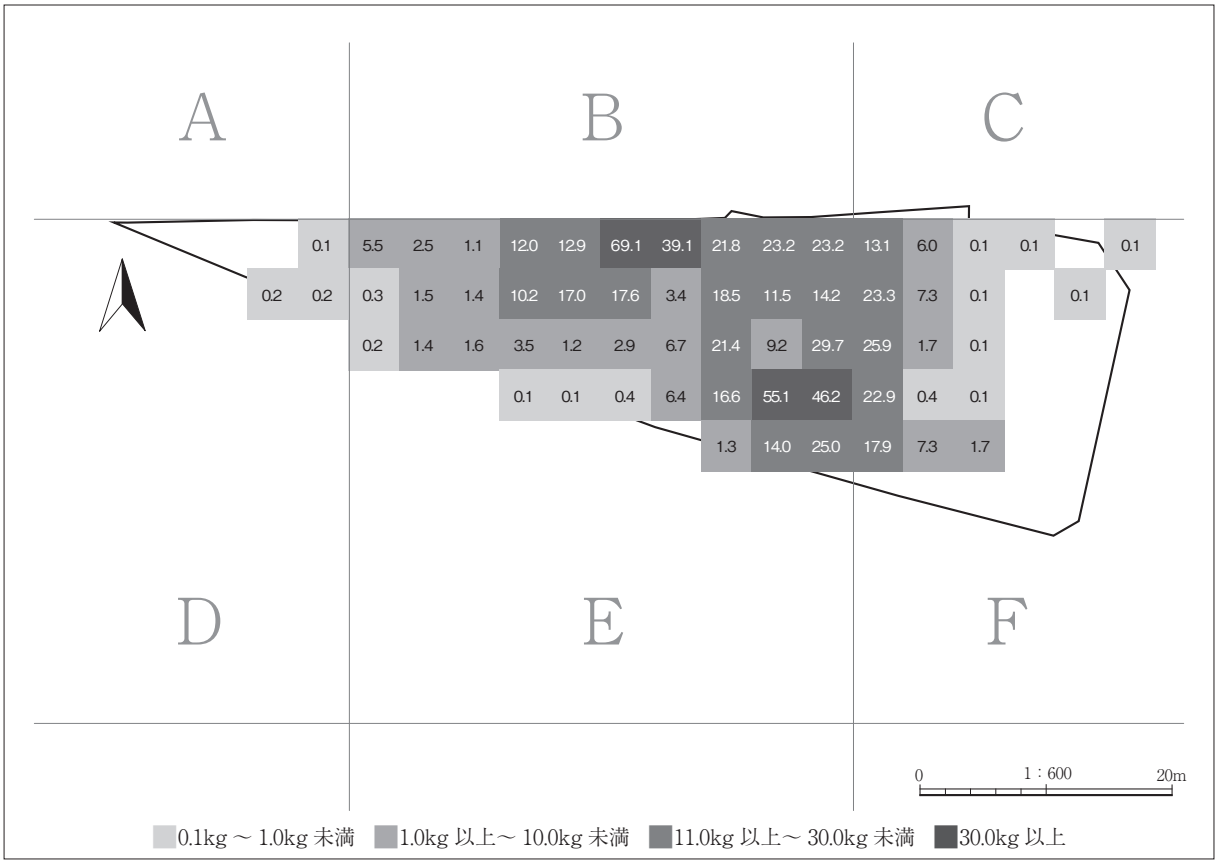
【土師器・須恵器】出土重量は土師器が11,138g、須恵器が4,718g。土師器・須恵器のグリッドごとの出土量は第44表の通りである。両者を合わせた古代土器の重量分布図は第60図に示している。竪穴建物の分布する調査区西側・東側の出土量が多く、１グリッド100g以上出土する場所が多い。特に出土量が多いのは(１グリッド1,000g以上)、E01とE42･43グリッドである。E01グリッドはグリッド内にSI01・02があり、これらに帰属する遺物である可能性が高いが、後者のE42・43グリッド周囲には該期の遺構はない。この周辺は後世の削平が深くまで及んでいるため、本来は周辺に古代の遺構(竪穴建物か？)が存在していた可能性が考えられる。一方で調査区中央部は１グリッド100g以下と少ない。これらの遺構外出土の土器から上記のF42・43グリッドとその周辺から出土したものを中心に合計20点図化した。b120の土師器坏は、胴部に墨書されている。破片のため判読不明であるが、「館」の一部(つくり上部か)の可能性がある。b122 ～ 136は甕類の破片で赤彩されている。15点中12点がF42・43内からの出土しているが、小片のため同一個体かどうかは確認できなかった。(b120 ～ 139、第121図、写真図版93)

【陶磁器】２点を図化した。時期は近世以降である。(c3・４、第121図、写真図版93)

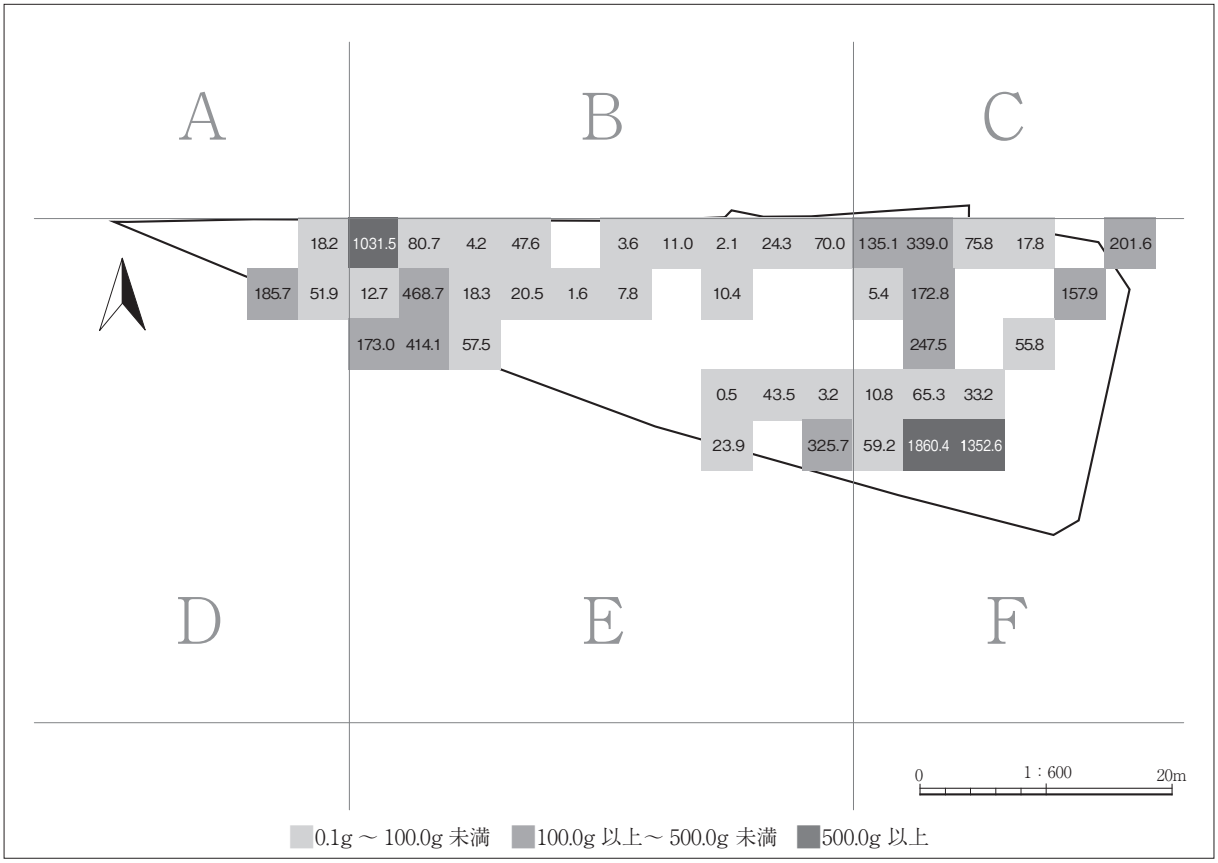
【石器】古代以降の可能性があるのはe454の鉄床石?のみである。これ以外は縄文時代のものとの区別不可能であった。(第194図、写真図版131)

【金属製品】刀子が１点、鉄滓が出土しているが、時期不明のため図化していない。これらの金属製品は古代土器の出土量の少ない調査区中央部から出土しているため､古代よりも新しい可能性がある。

●縄文～弥生



●古代



第60図　遺構外土器類重量分布図

第44表　出土地点別土器重量集計（1）

単位：g

遺構名	土師（坏）	土師（壺甕）	土師合計	須恵（坏）	須恵（壺甕）	須恵合計	古代合計	縄文	土器合計
SI08ab			0.0			0.0	0.0	9477.0	9477.0
SI13			0.0			0.0	0.0	34932.3	34932.3
SI14			0.0			0.0	0.0	816.5	816.5
SI15			0.0			0.0	0.0	1219.4	1219.4
SI01	3,349.5	2,182.1	5531.6	166.4	2,029.9	2196.3	7727.9	1246.2	8974.1
SI02	1,285.8	158.6	1444.4	31.4	135.9	167.3	1611.7	2564.7	4176.4
SI03	1,324.8	1,783.1	3107.9		26.6	26.6	3134.5	1154.6	4289.1
SI04	165.2	662.4	827.6	279.9	203.6	483.5	1311.1	2868.1	4179.2
SI05	68.1	2,440.8	2508.9	3.6		3.6	2512.5	3800.6	6313.1
SI06	311.4	1,986.5	2297.9		13.1	13.1	2311.0	7400.4	9711.4
SI07ab	2,399.8	5,066.6	7466.4	188.8	478.6	667.4	8133.8	579.5	8713.3
SI10	399.7	663.4	1063.1	23.1	297.1	320.2	1383.3	80.4	1463.7
SD01	5.8		5.8			0.0	5.8	2.6	8.4
SD02	4.4	4.8	9.2			0.0	9.2	1264.5	1273.7
SK01			0.0			0.0	0.0	251.4	251.4
SK02			0.0			0.0	0.0	641.7	641.7
SK04			0.0			0.0	0.0	263.7	263.7
SK08			0.0			0.0	0.0	1126.6	1126.6
SK09			0.0			0.0	0.0	7.3	7.3
SK10			0.0			0.0	0.0	46.9	46.9
SK11			0.0			0.0	0.0	2211.6	2211.6
SK13			0.0			0.0	0.0	230.0	230.0
SK13・15・19			0.0			0.0	0.0	200.6	200.6
SK14			0.0			0.0	0.0	31.0	31.0
SK16			0.0			0.0	0.0	2.4	2.4
SK18			0.0			0.0	0.0	599.3	599.3
SK19			0.0			0.0	0.0	745.8	745.8
SK22			0.0			0.0	0.0	306.0	306.0
SK24		6.3	6.3			0.0	6.3	1866.6	1872.9
SK25			0.0			0.0	0.0	27.8	27.8
SK27			0.0			0.0	0.0	11.9	11.9
SK29			0.0			0.0	0.0	15.7	15.7
SK30			0.0			0.0	0.0	1395.9	1395.9
SK31			0.0			0.0	0.0	23.0	23.0
SK32			0.0			0.0	0.0	857.6	857.6
SK33			0.0			0.0	0.0	26.4	26.4
SK34			0.0			0.0	0.0	2643.0	2643.0
SK37			0.0			0.0	0.0	118.7	118.7
SK38			0.0			0.0	0.0	4470.1	4470.1
SK39			0.0			0.0	0.0	9899.0	9899.0
SK40	5.0	4.4	9.4			0.0	9.4	1860.5	1869.9
SK41			0.0			0.0	0.0	224.1	224.1
SK42			0.0			0.0	0.0	2392.1	2392.1
SK43			0.0			0.0	0.0	356.6	356.6
SK44			0.0			0.0	0.0	987.7	987.7
SK45			0.0			0.0	0.0	252.1	252.1
SK47			0.0			0.0	0.0	41.4	41.4
SK49			0.0		28.1	28.1	28.1	142.3	170.4
SK59			0.0			0.0	0.0	1191.6	1191.6
SK60			0.0			0.0	0.0	21.0	21.0
SK65			0.0			0.0	0.0	3.6	3.6
SK67			0.0			0.0	0.0	295.4	295.4
SK69			0.0			0.0	0.0	35.4	35.4
SK70			0.0			0.0	0.0	1332.7	1332.7
SK71			0.0			0.0	0.0	432.7	432.7
SK72		29.3	29.3		29.7	29.7	59.0	17.2	76.2
SK73			0.0			0.0	0.0	12.9	12.9
SL02			0.0			0.0	0.0	8.3	8.3
SN01			0.0			0.0	0.0	3080.2	3080.2
SN02			0.0			0.0	0.0	508.5	508.5
SN03			0.0			0.0	0.0	172.8	172.8
SN04			0.0			0.0	0.0	108.5	108.5
SN05			0.0			0.0	0.0	271.5	271.5
SN06		5.8	5.8			0.0	5.8	173.9	179.7
SR01			0.0			0.0	0.0	2152.5	2152.5
SR02	3.4		3.4			0.0	3.4	2222.5	2225.9
SR03			0.0			0.0	0.0	2665.3	2665.3
SR04			0.0			0.0	0.0	2104.6	2104.6
SX04			0.0			0.0	0.0	15.9	15.9
P01			0.0			0.0	0.0	41.8	41.8
P04			0.0			0.0	0.0	21.0	21.0
P07			0.0			0.0	0.0	89.4	89.4
P07・08			0.0			0.0	0.0	160.5	160.5

第44表　出土地点別土器重量集計（2）

単位：g

遺構名	土師（坏）	土師（壺甕）	土師合計	須恵（坏）	須恵（壺甕）	須恵合計	古代合計	縄文	土器合計
P08			0.0			0.0	0.0	25.8	25.8
P11	2.7	6.8	9.5			0.0	9.5	70.8	80.3
P15			0.0			0.0	0.0	138.6	138.6
P16			0.0			0.0	0.0	88.5	88.5
P17			0.0			0.0	0.0	13.2	13.2
P22	1.9		1.9			0.0	1.9	249.1	251.0
P23			0.0			0.0	0.0	247.8	247.8
P24			0.0			0.0	0.0	111.7	111.7
P25			0.0			0.0	0.0	33.6	33.6
P26			0.0			0.0	0.0	16.8	16.8
P27			0.0			0.0	0.0		0.0
P29			0.0			0.0	0.0	118.7	118.7
P30			0.0			0.0	0.0	137.4	137.4
P31			0.0			0.0	0.0	68.8	68.8
P33			0.0			0.0	0.0	67.6	67.6
P34			0.0			0.0	0.0	11.8	11.8
P35			0.0			0.0	0.0	22.5	22.5
P39			0.0			0.0	0.0	60.7	60.7
P53			0.0			0.0	0.0	284.9	284.9
P54			0.0			0.0	0.0	99.9	99.9
P59			0.0			0.0	0.0	175.6	175.6
P60			0.0			0.0	0.0	254.4	254.4
P63			0.0			0.0	0.0	13.6	13.6
P65	1.4	6.4	7.8			0.0	7.8	7.7	15.5
P69			0.0			0.0	0.0	58.2	58.2
P70			0.0			0.0	0.0	124.5	124.5
P73	5.1		5.1			0.0	5.1	45.6	50.7
P76	7.5		7.5			0.0	7.5		7.5
P77			0.0			0.0	0.0	5.9	5.9
P80ab			0.0			0.0	0.0	30.1	30.1
P82	8.7	10.1	18.8		17.1	17.1	35.9	7.8	43.7
P83			0.0			0.0	0.0	52.4	52.4
P95			0.0			0.0	0.0	29.4	29.4
P96			0.0			0.0	0.0	3.0	3.0
P97			0.0			0.0	0.0	40.8	40.8
P98			0.0			0.0	0.0	154.6	154.6
P99			0.0			0.0	0.0	4.5	4.5
P101			0.0			0.0	0.0	5.3	5.3
P114			0.0			0.0	0.0	2.5	2.5
P115・P117			0.0			0.0	0.0	23.3	23.3
P116			0.0			0.0	0.0	12.0	12.0
P118			0.0			0.0	0.0	80.8	80.8
P125			0.0			0.0	0.0	21.4	21.4
P126			0.0			0.0	0.0	15.3	15.3
P129			0.0			0.0	0.0	47.5	47.5
P132			0.0			0.0	0.0	166.5	166.5
P134			0.0			0.0	0.0	127.9	127.9
P137			0.0			0.0	0.0	89.1	89.1
P138			0.0			0.0	0.0	98.8	98.8
P144			0.0			0.0	0.0	29.7	29.7
P156	13.7	18.8	32.5			0.0	32.5	17.5	50.0
P160			0.0			0.0	0.0	104.4	104.4
P189			0.0			0.0	0.0	28.8	28.8
P191			0.0			0.0	0.0	9.4	9.4
P195			0.0			0.0	0.0	13.5	13.5
P205ab	4.7	5.2	9.9			0.0	9.9	81.3	91.2
P213			0.0			0.0	0.0	3.1	3.1
P228			0.0			0.0	0.0	132.2	132.2
P229			0.0			0.0	0.0	19.1	19.1
P230			0.0			0.0	0.0	15.7	15.7
P233			0.0			0.0	0.0	22.1	22.1
P235			0.0			0.0	0.0	92.4	92.4
P238			0.0			0.0	0.0	22.4	22.4
P239			0.0			0.0	0.0	29.3	29.3
P240			0.0			0.0	0.0	23.1	23.1
P241			0.0			0.0	0.0	33.6	33.6
P242			0.0			0.0	0.0	27.5	27.5
P243			0.0			0.0	0.0	54.9	54.9
P248			0.0			0.0	0.0	33.4	33.4
P257			0.0			0.0	0.0	95.0	95.0
P261			0.0			0.0	0.0	6.1	6.1
P262			0.0			0.0	0.0	79.8	79.8
P302			0.0			0.0	0.0	64.0	64.0
合計	9368.6	15041.4	24410.0	693.2	3259.7	3952.9	28362.9	123428.3	151791.2

第44表　出土地点別土器重量集計（3）

単位：g

グリッド	土師（坏）	土師（壺甕）	土師合計	須恵（坏）	須恵（壺甕）	須恵合計	古代合計	縄文Ⅱ層	縄文Ⅲ層	縄文Ⅳ層以下	縄文その他	縄文合計	土器合計
D10	5.4	5.0	10.4	7.8		7.8	18.2				147.8	147.8	166.0
D19	4.6	129.2	133.8			0.0	133.8				31.3	31.3	165.1
D19・20	25.1	78.6	103.7			0.0	103.7				179.8	179.8	283.5
D20			0.0			0.0	0.0				74.5	74.5	74.5
E01	175.0	709.2	884.2	75.4	71.9	147.3	1031.5	1321.0	1364.1	222.1	740.2	3647.4	4678.9
E01・02			0.0			0.0	0.0				3549.4	3549.4	3549.4
E01・11			0.0			0.0	0.0				44.1	44.1	44.1
E02	8.4	40.3	48.7		32.0	32.0	80.7	231.4	22.2	373.5	13.1	640.2	720.9
E02・12			0.0			0.0	0.0				35.8	35.8	35.8
E03	4.2		4.2			0.0	4.2	548.7	163.7	357.5		1069.9	1074.1
E04	5.3	42.3	47.6			0.0	47.6	11288.6	522.6	147.1		11958.3	12005.9
E05			0.0			0.0	0.0	11823.9	750.9	224.5	120.8	12920.1	12920.1
E06			0.0		3.6	3.6	3.6	51067.2	17705.1		333.4	69105.7	69109.3
E07			0.0		11.0	11.0	11.0	31735.5	7409.5			39145.0	39156.0
E08			0.0		2.1	2.1	2.1	20160.9	1221.0		416.2	21798.1	21800.2
E09	2.6	13.8	16.4			0.0	16.4	22949.1		86.1	77.9	23113.1	23129.5
E09・10		4.4	4.4	11.8		11.8	16.2				42.5	42.5	58.7
E09・19			0.0			0.0	0.0				44.8	44.8	44.8
E10	18.6	40.5	59.1	2.8		2.8	61.9	19647.7	13.9	1806.0	1,651.1	23118.7	23180.6
E11		12.7	12.7			0.0	12.7			39.7	46.8	86.5	99.2
E11・12			0.0			0.0	0.0				163.6	163.6	163.6
E12	59.2	329.5	388.7	17.3	62.7	80.0	468.7		199.5	1082.2		1281.7	1750.4
E13	9.8	3.7	13.5	4.8		4.8	18.3		19.4	1195.4	157.4	1372.2	1390.5
E14	2.6	17.9	20.5			0.0	20.5	8119.0	1214.3	703.9	140.1	10177.3	10197.8
E15			0.0	1.6		1.6	1.6	10896.4	6104.2	29.1		17029.7	17031.3
E16	7.8		7.8			0.0	7.8	15873.8	1726.8		5.0	17605.6	17613.4
E17			0.0			0.0	0.0		3447.6			3447.6	3447.6
E18		3.4	3.4	7.0		7.0	10.4	9042.1	9322.5		104.0	18468.6	18479.0
E19			0.0			0.0	0.0	212.5	9543.4		847.7	10603.6	10603.6
E19・20			0.0			0.0	0.0				1595.0	1595.0	1595.0
E20			0.0			0.0	0.0	810.0	10582.1	1195.6	811.6	13399.3	13399.3
E21	64.3	97.1	161.4		11.6	11.6	173.0				163.3	163.3	336.3
E22	252.4	66.2	318.6	54.1	41.4	95.5	414.1		593.9		765.1	1359.0	1773.1
E23	19.0	22.6	41.6		15.9	15.9	57.5	177.9		102.8	1366.1	1646.8	1704.3
E24			0.0			0.0	0.0	2084.5	1033.7	375.9		3494.1	3494.1
E25			0.0			0.0	0.0			1202.7		1202.7	1202.7
E26			0.0			0.0	0.0	2535.9		323.3		2859.2	2859.2

第44表　出土地点土器重量集計（4）

単位：g

グリッド	土師（坏）	土師（壺甕）	土師合計	須恵（坏）	須恵（壺甕）	須恵合計	古代合計	縄文Ⅱ層	縄文Ⅲ層	縄文Ⅳ層以下	縄文その他	縄文合計	土器合計
E27			0.0			0.0	0.0	1505.0	4068.8	874.6	264.4	6712.8	6712.8
E28			0.0			0.0	0.0		20151.0		1230.5	21381.5	21381.5
E29			0.0			0.0	0.0	391.7	8694.1	15.0	81.2	9182.0	9182.0
E30			0.0			0.0	0.0		27582.2	634.3	1453.2	29669.7	29669.7
E34・35			0.0			0.0	0.0			116.6		116.6	116.6
E36			0.0			0.0	0.0		73.8	239.9	67.9	381.6	381.6
E37			0.0			0.0	0.0	2058.5	3825.2		534.4	6418.1	6418.1
E38	0.5		0.5			0.0	0.5	11523.0	3917.8	35.4	1139.0	16615.2	16615.7
E39	10.4	33.1	43.5			0.0	43.5	14345.5	21023.9		19493.3	54862.7	54906.2
E39・40			0.0			0.0	0.0		304.0			304.0	304.0
E40			0.0	3.2		3.2	3.2	1282.0	44324.7	366.6	56.1	46029.4	46032.6
E48	13.5	10.4	23.9			0.0	23.9	917.4		84.0	287.6	1289.0	1312.9
E49			0.0			0.0	0.0	13617.4	173.5		63.7	13854.6	13854.6
E49・50			0.0			0.0	0.0				30.0	30.0	30.0
E50	5.7		5.7	48.1	271.9	320.0	325.7	16802.9	1265.7	42.0	6781.8	24892.4	25218.1
F01			0.0	6.1	129.0	135.1	135.1	8522.1	4538.0			13060.1	13195.2
F02	105.3	179.5	284.8	2.0	52.2	54.2	339.0	1870.8	1478.3		2623.3	5972.4	6311.4
F03			0.0	75.8		75.8	75.8				147.4	147.4	223.2
F04			0.0		17.8	17.8	17.8				84.2	84.2	102.0
F06	13.0	59.8	72.8		128.8	128.8	201.6				30.0	30.0	231.6
F11	2.3	3.1	5.4			0.0	5.4	1841.5	21346.5		111.9	23299.9	23305.3
F12	34.8	129.6	164.4		8.4	8.4	172.8	5896.2	885.8		512.2	7294.2	7467.0
F13			0.0			0.0	0.0		31.4			31.4	31.4
F15	36.9	103.0	139.9		18.0	18.0	157.9				26.4	26.4	184.3
F21			0.0			0.0	0.0	0.7	24082.6	1849.3		25932.6	25932.6
F22	9.1	232.7	241.8	5.7		5.7	247.5		1730.7			1730.7	1978.2
F23			0.0			0.0	0.0		80.1			80.1	80.1
F24		55.8	55.8			0.0	55.8					0.0	55.8
F31		10.8	10.8			0.0	10.8	1357.4	21492.5	20.4	28.4	22898.7	22909.5
F32	24.2	30.1	54.3	11.0		11.0	65.3		404.6			404.6	469.9
F33	16.9	16.3	33.2			0.0	33.2		59.0			59.0	92.2
F41	4.7	16.1	20.8		38.4	38.4	59.2		14012.2		3928.1	17940.3	17999.5
F42	561.5	1053.9	1615.4	4.1	240.9	245.0	1860.4	259.0	5427.9	697.1	882.3	7266.3	9126.7
F43	215.3	802.6	1017.9	9.7	325.0	334.7	1352.6		1293.7	371.9		1665.6	3018.2
その他	1337.9	2716.2	4054.1	93.6	2113.6	2207.2	6261.3	22901.2	869.7	0.0	131569.1	155340.0	161601.3
合　計	3056.3	7069.4	10125.7	441.9	3596.2	4038.1	14163.8	325618.4	306098.1	14814.5	185094.8	831625.8	845789.6

第45表　出土地点別石器出土数一覧（1）

単位：個

器　種	SI01	SI02	SI03	SI04	SI05	SI06	SI07	SI08	SI10	SI13	SI14	SI15	SB01	SB02	SB03	SB04	SB05	SD02	SK01
石鏃	1							3								1		1	
尖頭器																			
石錐						1				1									
石匙										1									
掻器					1		1			1									
石篦								1		1									
削器								2											
R.F.										2									
U.F.				1															
F	10	13	11	27	23	45	14	46	1	146	6	1	1	4		1	1	11	4
両極剥片	1																		
楔形石核					1	1		1		5								1	
石核		1	1					2		3									
石鍬																			
打製石斧	1							1											
磨製石斧				1		2		1		4						1			
石斧未成品										2			1						
礫器																			
不定形石器	1	1	2	1	1			2		4			1						
敲磨器	1			1		1		2		2								1	
磨石	1							1		3			1					1	
敲石		3	2	7		6		7		20			2		1			2	
台石			1	4	2	1		3		3	1								
石皿	1			1			1	1											
石錘																			
砥石																			
スタンプ形石器										1									
石棒・石棒未成品	2		1											1					
円板状石器		1		2	1	1	1			2									
玉・有孔石製品										1									
石製品								1											
異形石器																		1	
合計①（Fを除く）	9	6	7	18	6	13	3	28	0	56	1	0	5	1	1	2	0	7	0
合計②（Fを含む）	19	19	18	45	29	58	17	74	1	202	7	1	6	5	1	3	1	18	4

第45表　出土地点別石器出土数一覧（2）

単位：個

器　種	SK04	SK06	SK08	SK09	SK10	SK11	SK12	SK13	SK20	SK24	SK26	SK27	SK29	SK30	SK32	SK34	SK38	SK39	SK40
石鏃																			
尖頭器																			
石錐																			
石匙																			
掻器																		1	
石篦								1											
削器														1				1	
R.F.																			
U.F.																1			
F			1	1	1	1	1			6			2	8	3	4	6	20	2
両極剥片																			
楔形石核														1					
石核							1								1			1	1
石鍬																			
打製石斧																	1		
磨製石斧																			
石斧未成品																			
礫器																			
不定形石器																		1	
敲磨器	2															1		2	
磨石									1										
敲石		2				1			1		1	1			1	2	4	3	
台石																1		1	
石皿																1			
石錘																			
砥石																			
スタンプ形石器																			
石棒･石棒未成品														1					
円板状石器																		5	
玉･有孔石製品																			
石製品																			
異形石器																			
合計①(Fを除く)	2	2	0	0	0	1	1	1	2	0	1	1	0	3	2	6	5	15	1
合計②(Fを含む)	2	2	1	1	1	2	2	1	2	6	1	1	2	11	5	10	11	35	3

第45表　出土地点別石器出土数一覧（3）

単位：個

器　種	SK41	SK42	SK43	SK44	SK45	SK57	SK59	SK60	SK65	SK70	SK71	SN01	SN01･05	SN03	SN04	SN05	SN06	SX04	柱穴
石鏃					1							1			1				1
尖頭器																			
石錐												1							
石匙																			
掻器																			1
石篦												1							
削器											1								
R.F.																			
U.F.																			
F	2	8		3		1	2		1	1	1	37		3	3	1	4		15
両極剥片																			
楔形石核		2									3				1		1	1	
石核												1							
石鍬																			
打製石斧				1															
磨製石斧																			
石斧未成品																			
礫器																			
不定形石器																			
敲磨器																			
磨石								1											
敲石			1				1					1							1
台石							1					1							
石皿												1						1	
石錘																			
砥石																			
スタンプ形石器																			
石棒･石棒未成品				1							1		1						
円板状石器												3							
玉･有孔石製品																			
石製品																			
異形石器																			
合計①(Fを除く)	0	2	1	2	1	0	2	1	0	0	5	10	1	0	2	0	1	2	3
合計②(Fを含む)	2	10	1	5	1	1	4	1	1	1	6	47	1	3	5	1	5	2	18

第45表　出土地点別石器出土数一覧（4）

単位：個

器　種	D10	D18	D19	E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E09	E10	E11	E12	E13
石鏃				1					1	2	1					
尖頭器									1							
石錐									1							
石匙				1									1			
掻器								1	1	1	1	1	1			1
石篦			1										1			
削器									1	2	1		1			
R.F.									1							
U.F.							1						2			
F	1		2	58	10	2	19	40	134	104	64	31	44	2	15	10
両極剥片																
楔形石核				3				1	2		2	1				
石核				2			1		5	3		2	2		1	
石鍬																
打製石斧								1	2	2	1		1			
磨製石斧							2		2	1			1			1
石斧未成品												1	2			
礫器									1							
不定形石器								1	4	3	1	1	1			
敲磨器								1	7	4	2					
磨石		1				1	2	1	3	1	2		3			
敲石				1			2	11	29	7	4	7	8			
台石						1		1	6	1	1	2	5			
石皿										1			3			
石錘									1							
砥石																
スタンプ形石器									1							
石棒・石棒未成品								1	4	1			1			
円板状石器				2			1	1	12	7	4	1	3			
玉・有孔石製品										1						
石製品									1				1			
異形石器																
合計①（Fを除く）	0	1	1	10	0	2	9	20	86	37	20	16	37	0	1	2
合計②（Fを含む）	1	1	3	68	10	4	28	60	220	141	84	47	81	2	16	12

第45表　出土地点別石器出土数一覧（5）

単位：個

器種	E14	E15	E16	E17	E18	E19	E20	E21	E22	E23	E24	E25	E26	E27	E28	E29
石鏃			1												3	2
尖頭器	1															
石錐																
石匙			1		1											
掻器	1		1							1						
石篦																
削器			2		3					1					2	
R.F.		1								1						
U.F.					1										1	
F	27	56	62	1	35	9	23		14	7	6	2	3	25	77	44
両極剥片																
楔形石核		1	3		2											1
石核	1	1	2		2		1									
石鍬			1													
打製石斧					1				1					1		
磨製石斧		1											1			1
石斧未成品																
礫器																
不定形石器		2	2	1			1								1	3
敲磨器		4	2													
磨石			1		1	1		1		1					1	
敲石		6	9	1	2		6						1	1	1	1
台石			1		1		2						1			
石皿			1				1		1		1				2	
石錘															1	
砥石																
スタンプ形石器																
石棒･石棒未成品			1				2								1	
円板状石器	1	2	3		4									1	2	
玉･有孔石製品														1		
石製品					1											
異形石器																
合計①(Fを除く)	4	18	31	2	19	1	13	1	2	4	1	0	3	4	15	8
合計②(Fを含む)	31	74	93	3	54	10	36	1	16	11	7	2	6	29	92	52

第45表　出土地点別石器出土数一覧（6）

単位：個

器　種	E30	E36	E37	E38	E39	E40	E48	E49	E50	Eグリッド	F01	F02	F03	F04	F05	F06
石鏃	1			1		1		2							1	
尖頭器																
石錐						2										
石匙																
掻器					1				1							
石篦	1			2					2							
削器					4			1	1		1					
R.F.	2					1						1				
U.F.					1				2		1					
F	91	3	20	57	99	126	9	27	83	2	40	31	4	2	4	1
両極剥片																
楔形石核			2			2			1			1				
石核	2			1		3		1	5		1	1				
石鍬											1					
打製石斧				1		1					3	2				
磨製石斧	1								1							
石斧未成品	1		1					2	1							
礫器																
不定形石器	1			1	2	5			5		3					
敲磨器	2			3	5				1		1	3	1			
磨石	4			1	3			1	1		5	2				
敲石	9		3	6	7	9		2	10		17	4		1		
台石	4			1	5	2		1	3		6	4	1	1		
石皿				1		3			2							
石錘									1							
砥石	1															
スタンプ形石器																
石棒・石棒未成品	2		1		1	1					1					
円板状石器	7			3	1	3			2							1
玉・有孔石製品					2						1					
石製品	1								1		1					
異形石器					1											
合計①（Fを除く）	39	0	7	21	33	33	0	10	40	0	42	18	2	2	1	1
合計②（Fを含む）	130	3	27	78	132	159	9	37	123	2	82	49	6	4	5	2

第45表　出土地点別石器出土数一覧（7）

単位：個

器　種	F11	F12	F13	F15	F21	F22	F23	F31	F32	F41	F42	F43	Fグリッド	その他
石鏃					1									6
尖頭器														1
石錐				1	1					1		1		2
石匙														1
掻器								1				1		2
石篦					1					1	1			5
削器					1					2				1
R.F.		1			1			1		1				
U.F.	3									1				3
F	12	43	1		94	12	1	29	3	47	40	17	10	537
両極剥片														
楔形石核		1			1			1		3			1	2
石核		1			2							1		6
石鍬										1				
打製石斧									1		1			3
磨製石斧										1				8
石斧未成品														1
礫器														1
不定形石器		2			1					2				4
敲磨器					2			1		2				1
磨石					8					1				1
敲石	1	1			12			16		10	1	1		14
台石					6			3		2			1	4
石皿														2
石錘														1
砥石	1													1
スタンプ形石器														
石棒・石棒未成品	1				2			1		1			1	11
円板状石器										1	1			4
玉・有孔石製品														
石製品														2
異形石器														
合計①（Fを除く）	6	6	0	1	39	0	0	24	1	30	4	4	3	87
合計②（Fを含む）	18	49	1	1	133	12	1	53	4	77	44	21	13	624

4　遺　　物

（1）縄文～弥生土器（第70 ～ 114図、写真図版54 ～ 88、第50表）

①概要

今回の調査で出土した縄文～弥生時代の土器は大コンテナ（42×32×30㎝）で92箱、総重量は955kgである。遺構内・外の内訳は、遺構内123kg、遺構外832kg、遺構外が９割ほどを占める。各遺構・グリッドごとの出土量は第44表に記している。遺構内の出土量は、SI13が35kgと群を抜いて多い。次いでSI08・SK39が約10kg、SK38が4.5kg程である。遺構外は第60図で分布量を示しているが、最も多いグリッドがE06で69kg、次いでE07・39・40グリッド、これらのグリッドを囲むように出土量が多く、縄文時代の遺構分布と遺構外遺物の分布範囲が概ね重なっている。

遺物の掲載基準については、遺構内遺物は小片も積極的に掲載しているが、遺構外については器形をある程度復元できるものを中心に選別している。掲載順序は遺構内が、遺構別→出土層位→器種、遺構外は、器種→グリッド→層位としている。器種については図版作成後に器種を変更したものもあり、順序がやや煩雑になっているところがある。

これらの土器のうちほとんどが縄文時代に属するため、一部の表や図版名では「～弥生」を割愛し縄文とのみ記している（第44表、図70 ～ 114）。

②分類

以下の通り土器の時期を基準としてⅠ～Ⅵ群に分類した。個々の遺物の時期決定が目的ではなく、遺構と包含層の形成時期の傾向をみる分類のため、判断が付き難いもの、各群の過渡期に位置づけられるものなどは、「○～○群」と大まかな記載としている。

Ⅰ群　縄文時代早期の土器
Ⅱ群　縄文時代中期の土器
Ⅲ群　縄文時代晩期～弥生時代初頭の土器
　　大洞Ｂ・BC・C1・C2・Ａ・Ａ′～弥生初頭の６つに細分（Ⅲ－１～６群）
Ⅳ群　弥生時代の土器

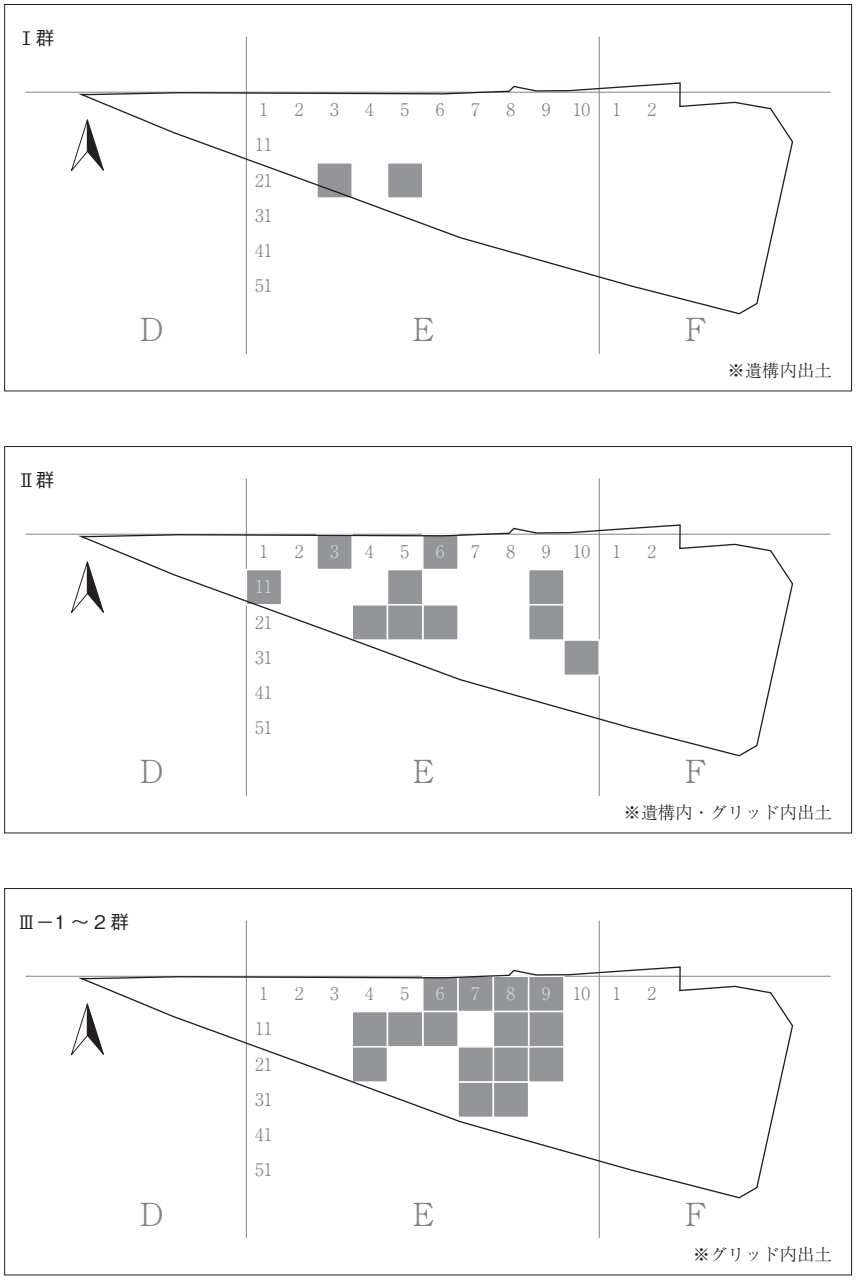
③分類別の特徴（第61・62図）

１）Ⅰ群　縄文時代早期の土器

早期後葉、槻木１式段階の土器が２点出土している（a157・210）。晩期の土坑SK08・33の堆積土中に混入していた。両遺構はE03とE05グリッドと比較的近接しており、本次調査区の中央南端に位置する。２点とも外面に細隆起線文が、a210は平行線状に、a157は梯子状に施文される。a157の内面には横位の条痕が施されている。器壁の厚さは４㎜程度で薄手に作られており、胎土中に石英を含む。繊維の混入は確認できなかった。

２）Ⅱ群　縄文時代中期の土器

中期中葉、大木８b式の土器を18点掲載した。遺構に伴うものはSI15竪穴建物内から出土したa123・124のみである。その他は晩期または近世以降に帰属する土坑・柱穴、遺構外の包含層から出土している。遺構内外を含め、その分布域をみるとＥグリッド内に収まっている。概期の竪穴建物



第61図　分類別土器出土状況（1）

SI15はE19グリッドに位置しており、これよりも西側に遺物が多く分布している。

3）Ⅲ－1～2群　縄文時代晩期前葉の土器

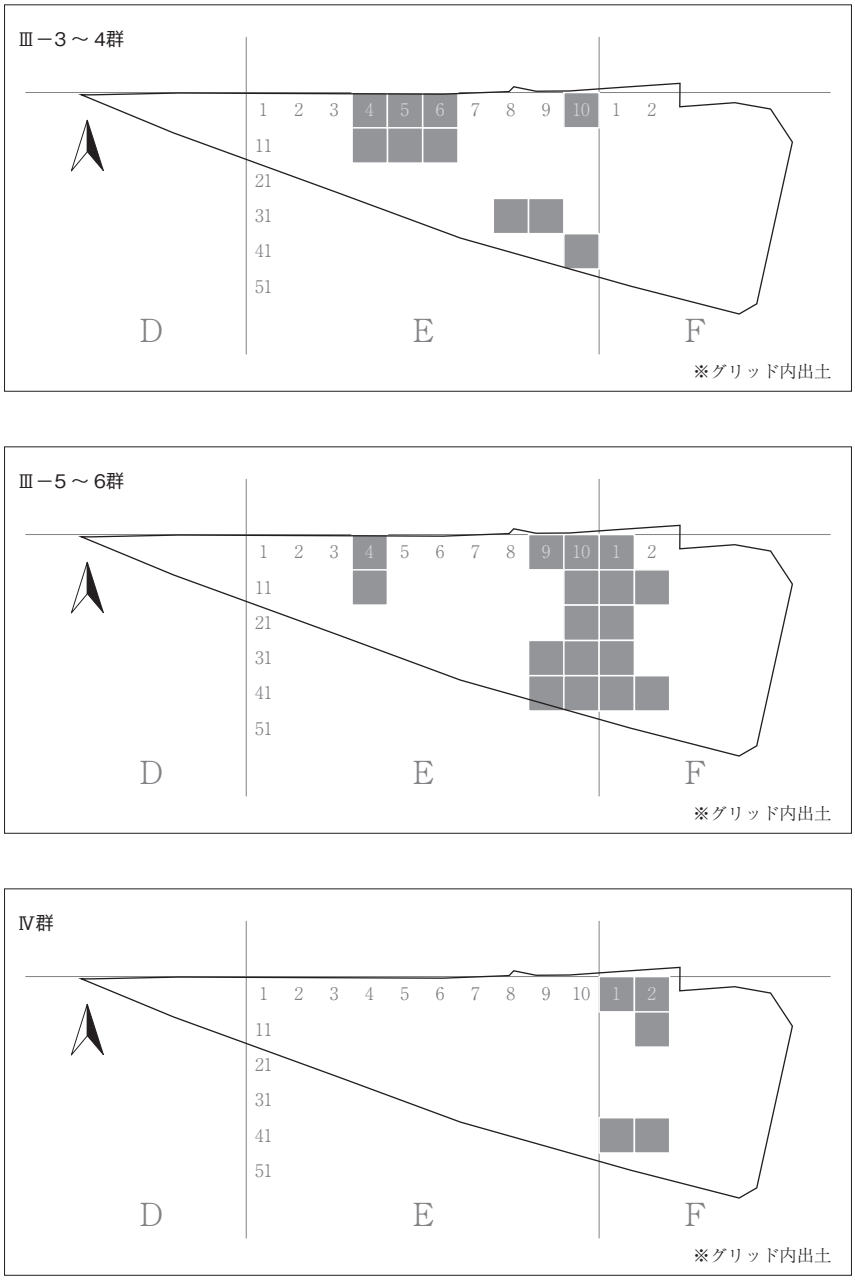
Ⅲ－1群は大洞B式段階相当、三叉文が施文される土器を一括した。遺構内は、SK19で略完形の注口土器（a174）、SK38では複数個まとまっている。遺構外ではE6列～E9列間、層位はⅡ～Ⅲ層中、若干Ⅲ層の方が多く出土している。器種は深鉢・鉢・注口。鉢類の器形は、口頸部で屈曲するものと、しないものに分かれる。口唇部は三山状やB突起、連状縁などで装飾が施されるものが多い。a375・442は弧線文を伴う小波状縁である。三叉文は、一方のみの三叉文が円形刺突を巻き込むものが目立つ（a460・474・473・475・518他）。この他、咬合部が接着せず楕円形を呈するもの（a525）、上下に対向した三叉文を波状の沈線が区画するもの（a483）がある。a184・421・517はC字文が施文さ

れる。a476・486は同一個体であるが、a476の文様帯下端の沈線は、ノの字状に下方へのびる。これら鉢類は、胴部下半が残存する個体が少ない。口～底部まで残存するa474は、胴部下端に無文帯があり、上方を１条の沈線で区画している。a174の注口は、口縁部が皿状を呈し正面突起が配される。その下に巴状の文様を持ちこれを起点に２条の沈線が巡る。頸部は下端が広がり、文様は並行沈線、肩部は上端が陥没する。胴部文様は注口を中心に菱形・巴状のモチーフが描かれる。側面・背面にも文様が施されているが全周はしていない。底部は丸底である。a683の注口もa174と器形は似る。異なる点は肩部の文様が正面・背面のみで側面にはない。体下部の沈線は、a174がほぼ全周するのに対し、a683は注口付近のみである。以上の特徴から本次調査で出土した該期の土器群は、大洞Ｂ式の中でも新しい様相を持つもの（大洞B2式相当）と思われる。

Ⅲ－２群は大洞BC式相当、羊歯状文、截痕列が施文される土器を一括した。三叉文と羊歯状文・截痕列がどちらも描かれるもののうち、口縁～胴部に施文されているもの（a201）はⅢ－１～２群としたが、高台部に施文されているものは本群に含めている。出土地点は、遺構内ではSK24・39、SN01で複数個まとまっている。遺構外ではE4列～ E9列、特にE06・16・07グリッド内に集中しており、該期のグリッド内遺物掲載数の半数以上を占める。層位はⅠ～Ⅳ層、Ⅱ層からの出土が多い。器種は深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・壺・注口。鉢類の器形は、口頸部で屈曲するものと、しないものに分かれる。口唇部はＢ突起、または刻目を入れて小波状縁・珠紋縁などで装飾が施されるものが多い。羊歯状文は末端が咬み合うもの（a164・183・372・469・481・487・521他）と咬み合わないもの（a264・461・470・478他）があり、両者の数量に偏りは見られない。a481・487は入り組み三叉文に沈線が加えられたような文様で、他の羊歯状文よりも古い可能性がある。a306・365は末端が二叉に開いている。その他a523は口端に低い山形突起と小波状縁を配した、平行線文装飾深鉢である（小林2008）。台付鉢は、台部に透かしが穿たれているものが多い（a178・531・536・538・540他）。浅鉢は、SN01とその周辺グリッド（E06）から多く出土している。a333は内面に貼り付け部分が残っており、珊瑚状の突起で装飾されていたものと推測される。a569は別個体であるが、珊瑚状の突起部分である。壺は頸部から胴部上半にかけて文様が描かれている。胴部上半の文様は磨消縄文（a240・331・628・632・635・638他）が多く、羊歯状文（a633・634）は少ない。a635は三山状突起下に小穴があり、胴部は焼成後に穿孔されている。a619は口端部が摩滅しており壺ではなく台の可能性がある。注口土器は、全形を確認できるものはない。a626は口縁部に円状とＸ字状に孔が穿たれている。赤色顔料が塗布されているものは、浅鉢（a333）と壺（a189・190・618・639）で、壺類が多い。

４）Ⅲ－３～４群　縄文時代晩期中葉の土器

Ⅲ－３群は大洞C1式段階相当の土器を一括した。SN群とその周辺（E06グリッド付近）からの出土が多く、掲載数全体の半数近くを占める。a171はSK13・15・19の堆積土中から出土した破片が遺構間接合した。SK22からは内外面ともに全面赤彩された浅鉢（a177）が出土している。器種は鉢・台付鉢・浅鉢・壺・注口。鉢類は、胴部から内湾気味に立ち上がるものと、口頸部で屈曲し口唇が短く外傾するものに分かれる。口唇はＢ突起または小波状縁等で飾られる。文様は平行沈線（a466・532他）、または羊歯状文から変化した平行沈線と区画のある截痕列（a455・462・516他）が施文されているものが多い。胴部下端は沈線によって区切られ（a455・462・466）、底部との間に無文帯を設けている。浅鉢の器形は、胴部から内湾気味に立ち上がるもの、胴部下端が短く直立または胴部下半が内湾し、胴部上半から口縁部にかけて外反しながら立ち上がるものがある。底部が残存するものはすべて平底または丸みのある平底である。口端部は突起や刻目で内面まで飾られ、胴部は磨消縄文が施



第62図　分類別土器出土状況（2）

文されるものが多い。a171・574は底部まで文様が展開する。一方で、a578は口～頸部に平行沈線と細かい截痕列、胴部には羽状縄文のみが施文されている。注口土器a675は、頸部にZ字文とその上下に細かい刻目を配し羊歯状文の様相を持つが、胴部下半全体に磨消縄文が描かれる。a680は頸部に円形と三叉状の刺突が穿たれている。

Ⅲ－4群は大洞C2式段階相当の土器を一括した。SI08・13、土坑等遺構内に多く遺構外からの出土は少ない。器種は鉢・台付鉢・浅鉢・壺・注口・香炉。鉢が多く、器形は頸部が屈曲して口縁部へ向かって内傾もしくは外傾する。口唇は突起と細かい刻目で装飾される。刻目は頸部の沈線内にも施文される（a4･5･39他）。磨消縄文は平滑なものが多く、縄文と磨消部との境界の沈線が目立つ（a10･57・452・454他）。壺は、胴部上半の文様が縦位の沈線に区画され、胴部下半には縄文が施文される（a13・644）。a690は胴部上半に透かし孔があり、香炉の可能性がある。赤色顔料の付着する土器は

a37・38・145・685・686で鉢と注口である。

上記の器種以外に調査区内では粗製の深鉢が多く出土している。器形は、底部から口縁部にかけて直立するものと、頸部が括れるものがある。前者は晩期前葉～中葉、後者は晩期中葉～後葉・弥生時代に概ね相当すると思われるが、Ⅲ－１～６群に細分することは難しいため、Ⅲ群として一括して扱っている。ただし、頸部が括れる器形を持つもののうち、口唇に刻目または押圧を持ち、口唇部直下から肩部にかけて数条の横沈線を持つ「九年橋型深鉢」（藤村1987）（a26・27・34他）と、これに類する､口頸部に横位の沈線が１～２条で沈線間が無文帯になるものについては､Ⅲ－４～５群とした。

５）Ⅲ－５～６群　縄文時代晩期後葉～弥生時代初頭の土器

Ⅲ－５群は大洞Ａ式段階相当、工字文・匹字文を特徴とする土器を一括した。遺構内ではSI13で大量に出土しており、該期の土器が出土する土坑もSI13の周辺に分布する。グリッドでは、E9列～F1列に集中しており、特にE10列が多い。器種は、鉢・台付鉢・浅鉢・壺・注口・蓋。鉢は頸部が屈曲して口縁部へ外傾する器形がほとんどである。口唇は突起や刻目等で装飾される。頸部～胴部上半にかけての文様は沈線や刻目、粘土粒等が施文される。横位刻目列が縦位の沈線によって区画されるもの（a7・40・46・48・50・52・488・490・493・504他）が多く、工字文・匹字文（a500・506・508他）も少数ある。他の器種でも共通するが、粘土粒は、わずかに盛り上がる程度である。胴部下半は縄文が施文される。台付鉢は台部のみ残存するものが多い。全形がわかるものの鉢部は浅鉢である（a66・552）。台部は短く外傾して開き、平行沈線が密に施文されるものが多く、a551は粘土粒の間に孔が穿たれる。内面底部には沈線で円文が描かれている（a66・69・542～544・552他）。浅鉢の文様は、平行沈線による匹字文・工字文が多い。沈線間の凸部分に縄文が施文されるものもみられる（a86・565）。a70～72・564～567は底部に短い脚がつく。壺は胴部上半に最大径を持つ器形と、胴部中央付近に最大径を持つ器形があり、胴部の文様はこの最大径付近まで施文されるものが多い（a95・117・118・641・658）。浅鉢同様、匹字文・工字文が多い中、矢羽根状文（a95・645・648）、a503・646・658など異なる文様もみられる。a117～119・673・674は底部に短い脚がつく。a663は焼成後底部に外面から穿孔され､a673は底部に針状の極小の穴があけられている。赤彩土器は浅鉢･壺類が多い。

Ⅲ－６群は大洞Ａ′式～弥生時代初頭、変形工字文を特徴とする土器を一括した。遺構内・外ともにE9列～F2列の間に出土が限定される。SK40、SR04では大形の浅鉢が略完形の状態で出土しており、SK40の浅鉢は底部が穿孔されている（a280・362）。器種は鉢・浅鉢・壺。鉢は頸部が屈曲する形状を持つ。鉢・浅鉢共に、口縁部は大形の突起（a511・549他）、二個一対の突起（a280他）、小山状で頂部が二山に分かれる突起があり（a513・599他）、連続した刻目は施されない。浅鉢は平縁のものも多い。文様帯が狭く、変形工字文が立体的で粘土粒も小さく古い様相を示すもの（a511・528・599他）と、文様帯が幅を持ち、粘土粒もやや大きくなる新しい様相を示すもの（a513・600・602・606他）とがある。a592は土器の色調が暗色で胎土中に金雲母が顕著に観察できるため、概期よりも新しい可能性がある。

６）Ⅳ群　弥生時代の土器

Ⅳ群は弥生時代中期、谷起島式相当の土器を一括した。出土地点は、遺構内・外共にF1列・F2列に限定される。土器の色調は暗色を呈するものが多い。器種は浅鉢・台付浅鉢（台部のみ）・壺・蓋。沈線間の磨消縄文の有無で２種類に分かれる。沈線のみ施文されるものはa148・216・550・559・

669で、このうち台部の３点は３条の平行沈線で波状文が描かれ、その沈線は細く浅い。磨消縄文が施文される土器は、沈線が太く明瞭なもの（a143・147・217・218・668・692）と、細く粗雑に感じるもの（a604・667・672）とに分かれる。a693は地文のみの蓋で、該期よりも古い可能性もある。赤彩される土器はa218・692である。

（２）土師器・須恵器（第115 ～ 121図、写真図版89 ～ 93、第51表）

①概要（b1 ～ 139）

今回の調査で出土した土師器・須恵器は大コンテナ（42 × 32 × 30cm）で３箱、総重量は42.5kg（土師器34.5kg、須恵器８kg）である。遺構内外の別では、遺構内が28.4kg、遺構外が14.1kg、前者が土師器24.4kg、須恵器3.9kg、後者が土師器10.1kg、須恵器４kg。総重量のうち土師器が８割を占める。おおよその破片数は土師器が約3,500片、須恵器が約300片と、さらに土師器の比率が高くなる。これらの遺物の時期は８～９世紀代のため、９世紀以降に限定すれば須恵器の比率が上がるものと推測される。出土状況は、遺構外は第60図の通り、遺構名は竪穴建物内からの出土がほとんどで、特にSI01・07竪穴建物内が多い。これらの出土遺物から139点を図化し掲載している。

②奈良時代の土師器・須恵器

SI03・05・06から出土したものを図化掲載している。器種は土師器坏・鉢・甕・高坏、須恵器坏・甕。須恵器はいずれも小破片であることから、あるいは混入によるものかもしれないため、ここでは土師器についてのみ詳細を述べたい。該期の土器については高橋千晶による先行研究（高橋2007、以下高橋編年とする）があり、それと対比させることとする。

坏は形態からＡ・Ｂ類の２つに区分できる。坏Ａ類（SI03：b51 ～ 53）は扁平な丸底や平底風の底部から胴部で屈曲し、長い口縁部が内彎するもの（高橋編年B2類）。口径は概ね13 ～ 15cm前後におさまる。外面調整は、口縁部がヘラミガキ調整される。ケズリのちヨコナデの後ヘラミガキ調整されるものもある。底部はケズリやミガキ調整である。内面調整はヘラミガキ調整、黒色処理が施されている。外面には段があるが、内面の段は無い、もしくはわずかに窪む程度。坏Ｂ類（SI03：b54・55）は、扁平な丸底や平底風の底部から胴部で屈曲し、長い口縁部が外傾するもの（高橋編年B1類）。口径は概ね13 ～ 14cm。外面調整は、口縁部はヨコナデやヘラミガキ調整である。底部はケズリ調整のものとミガキ調整のものがある。内面調整はヘラミガキ調整、黒色処理が施されている。外面には段があるが、内面の段は無い。

甕は器高25cm以上の大型品であるＡ類（高橋編年Ａ類、SI03：b57・58）、15 ～ 25cmの中型品であるＢ類（高橋編年Ｂ類、SI05：b76、SI06：b82）、15cm以下の小型品であるＣ類（高橋編年Ｃ類、SI03：b59）の３つに区分できる。いずれも長胴甕で、胴部はあまり膨らまず、底部にむかって窄まっていくものである。各類とも外面調整は、口縁部がハケメの後にヨコナデ調整、胴部が縦位のハケメの後ヘラケズリ調整されるものが多い。内面調整は、口縁部は外面と同様であり、胴部は横位のハケメ調整が大多数だが、ヘラナデ調整も僅かにみられる。また、球胴甕は、高橋編年壺Ｄ類（大型壺）とされるものである。外面調整は、口縁部がヨコナデ調整、胴部がハケメの後ケズリ調整されるもの（SI06：b86）とヘラミガキ調整されるもの（SI05：b78）がある。内面調整は、口縁部は外面と同様であり、胴部はヘラナデ調整である。b87（SI06）は、胴部片。内外面ともにナデ調整が施され、赤色顔料が塗布されるいわゆる「赤彩球胴甕」である。

高坏（SI06：b80）は、坏A類（高橋編年B2類）に裾が開く長い脚部がつくもので、外面調整は、口縁部がヨコナデ、脚部は縦位のケズリ調整が施される。内面調整は口縁部がヘラミガキ調整、黒色処理、脚部は、ケズリのち端部にはヨコナデ調整が施される。

そのほか鉢があるが、出土数が少ないため、ここでは検討を行わない。

以上のような土器の特徴から高橋編年７段階に位置づけられ、年代は概ね８世紀中葉から後葉にかけてと想定される。須恵器がほとんど伴わないことから、ここではやや古い８世紀中葉と捉えておきたい。

③平安時代の土師器・須恵器

SI01・02・04・07・10、土坑、柱穴状土坑、遺構外から出土したものを図化掲載している。器種は土師器坏・高台坏・皿・鉢・堝・甕、須恵器坏・壺・甕。

１）土師器

坏はすべて回転台成形される。内面ヘラミガキ調整・黒色処理が施されるもの（SI01：b1 ～ 10、SI02：b39 ～ 46、SI07a：ｂ89・100、F42：b120）がほとんどである。極めて僅かだが回転ナデ調整のみのもの（SI01：b11、F42：b120）もみられる。底部切り離し手法が確認できるものはすべて回転糸切りで、外面胴部下端のみにヘラケズリ再調整を加えるもの（SI01：b1・2、SI02：b40・44）、外面胴部下端および底面にヘラケズリ再調整を加えるもの（SI01：b4 ～ 7・10、SI02：b41）底面にのみヘラケズリ再調整を加えるもの（SI02：b42、SI07a：100?）、再調整を加えないもの（SI02：b39、F42：b121）がある。

高台坏（SI02：b38、SI07a：b97、SI10：b112）は、回転台成形で短く開く付け高台を持つ。遺存状態が悪く、坏部の形態は不明である。

皿（SI07a：b98）は、回転ナデ後内面をミガキ黒色処理される。蓋の可能性もある。

鉢（SI07a・b：b91・92・103）回転台成形で、内面にヘラミガキ調整・黒色処理が施される。b92・103は外面胴部下端がヘラケズリ再調整される。

堝（SI01：b16）は、回転台成形される。推定口径は37cmと大型であり、胴部下半がナデ再調整される。

甕はある程度器形が把握できるものはすべて回転台成形である。b109（SI07a）は、長胴甕で器高25cm以上の大型品とみられる。それ以外は、遺存状態が悪く詳細は不明であるが、b109を含め口径が推定できる５点の最小値は18.2cm、最大値は23.6cmと20cm前後におさまることから、中型ないし大型の長胴甕であると考えられる。b49（SI02）は内面ヘラミガキ調整・黒色処理が施される。ほかは回転ナデ調整のみのもの、回転ナデ調整ののち胴部内面をハケメまたはナデ再調整、胴部外面下半をヘラケズリ再調整するものが多い。

２）須恵器

坏は底部切り離し手法が確認できるものはすべて回転糸切りである。外面胴部下端のみにヘラケズリ再調整を加えるもの（SI01：b12・14、SI07：b102）と、外面胴部下端および底面にヘラケズリ再調整を加えるもの（SI07：b101）と、再調整を全く加えないもの（SI04：b64・65・69、SI10：b113）がある。

壺はいわゆる長頸瓶の可能性があるものを一括した。口縁部、胴部、底部それぞれ出土しているが、全体形を窺い知れるものはない。b25（SI01）は、胴部～底部の破片。底部切り離し手法は回転糸切りで、底径7.9cm。b72（SI04）は、推定底径9.0cmの底部の破片で、底面は回転ナデ調整される。

甕は、壺と同様に口縁部、胴部、底部それぞれ出土しているが、全体形を窺い知れるものはない。b31（SI01）は、推定口径20㎝を超える大甕の口縁部である。

3）年代

該期の土器については八木光則（八木2014）、丸山直美（（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017『中村遺跡発掘調査報告書』第671集）などの先行研究がある。上記のような土器の特徴は、八木による胆沢・江刺・磐井地区の土器編年の２期（９世紀中葉）、丸山による中村遺跡における古代の土器の変遷過程の第３段階Ａ・Ｂ（９世紀前葉～後葉）に位置づけられる。ここでは新しい要素である赤焼土器（須恵系土器）が伴っておらず、その出現期とされる９世紀後葉までは降らないと思われることから、９世紀中葉と捉えておきたい。

④赤彩土器

調査区内から出土した赤彩土器17点、すべて掲載した（b21・87・122～136）。いずれも胴部小破片で外面が赤彩される。F42・43グリッドで12点まとまって出土しているが、これらが同一個体かどうかは確認できなかった。

⑤墨書・刻書土器

墨書土器が11点、刻書土器が１点、計12点出土した。

墨書土器の文字は、すべて土師器の外面胴部に記されている。判読できた文字は、「寛」・「舘」・「舘」・「寺」、土器の正位と文字の天地は同一である。文字ごとの点数・出土地点は、「寛」３点（SI01：b1～3）、「寛?」１点（SI07：b89）、「舘」２点（SI02：b40・42）、「館」１点（SI02：b41）、「館または舘?」２点（SI02：b44、F42：b120）、「寺」１点（SI02：b39）、判読不明１点（SI07：b99）。SI01では「寛」、SI02では「舘・館」が複数個出土している。b1には口縁部を打ち欠いたような痕跡が３か所確認された。

刻書土器は、土師器内面の底部に「西」と記されている。土器内面は黒色処理されているが、文字が刻まれた部分は黒くないため、焼成後に書かれたものである。試掘時のトレンチ内より出土しているが、その後の調査でSI02に帰属するものと判断した。

（3）陶　磁　器（第117・121図、写真図版90・93、第51表）

①緑釉陶器

c1・2の２点出土した。c1は埦の胴部～底部、c2は稜埦の胴部、いずれも愛知県猿投窯産で黒笹－14号窯式と黒笹－90号窯式の中間的形状である。これら２点は試掘時のトレンチ内より出土しているが、その後の調査でSI02に帰属するものと判断した。

②近世陶磁器

２点図化掲載した（c3・4）。c3は陶器碗、c4は染付碗、いずれも調査区外からの出土である。

（4）土　製　品（第122 ～ 125図、写真図版94・95、第54表）

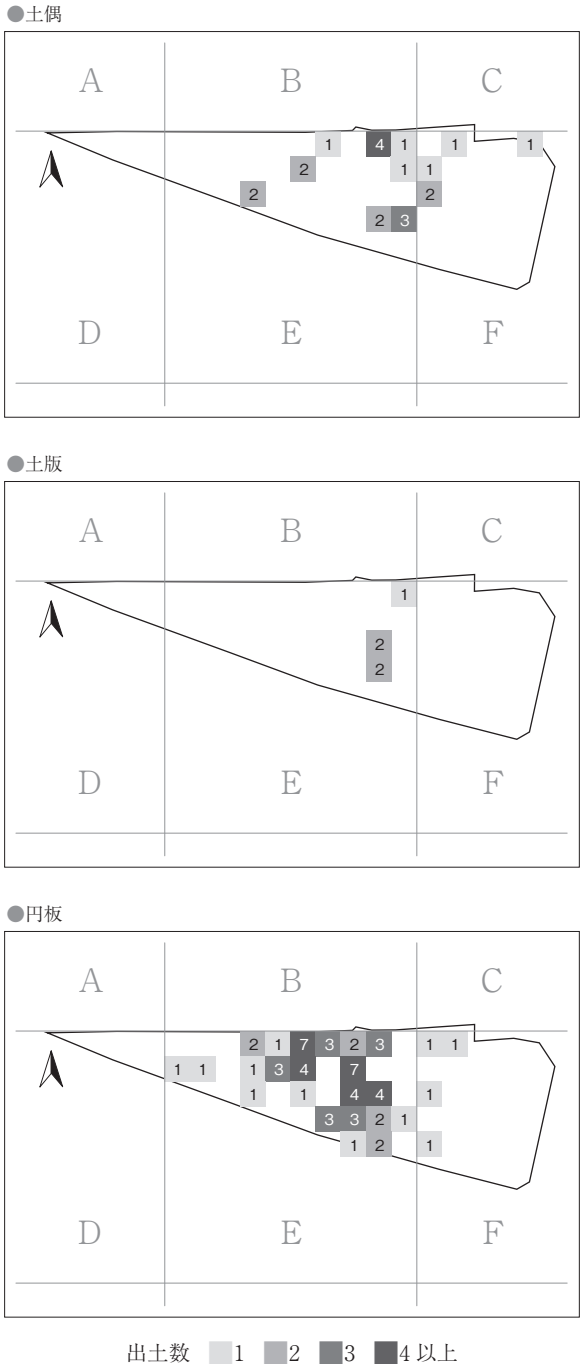
土偶25点・舟形土製品１点・土版６点・土製円板73点・ふいご羽口２点・焼成粘土塊27点・土人形（近代以降）１点、計135点出土している。焼成粘土塊と、土人形は不掲載、その他土製品は全点掲載（一部表掲載のみ）している。種類ごとの詳細は以下のとおりである。

①土偶（d1 ～ 25）

25点出土し全点を掲載した。すべて縄文時代晩期のものである。遺構内からの出土はSK11・39のみで、これ以外はすべて遺構外からの出土である。遺構外の出土範囲は、縄文の遺構分布範囲と重なり、土器の出土量が多いグリッドから土偶も出土する傾向がある（第60・63図）。ただし、土器重量･石器点数ともに最も多いE06グリッド（焼土遺構群分布域）からは１点も出土していない。接合した資料はd4のみで、出土地点は胴部正面・胴部背面が調査区東側、腕がE09・E19からである。部位別の点数は頭部２点、胴部12点、胴～四肢５点、腕４点、脚２点。左右が分かるものが11点で、そのうち左側が８点と多い。赤彩されているものは５点（d2・8・12・13・20）。製作方法は中空が20点、中実が4点。時期別点数は前半が４点（d11・23 ～ 25）、中葉が６点（d1 ～ 5・13）、後半が８点（d8・10・12・14・18・19・20・21）、後葉が６点（d7・9・15・16・17・22）である。

②舟形土製品（d26）

SK32土坑の２層上面より倒位で出土した。長さ8.0cm、幅4.2cm、実測図上方先端が突出し、図下方が欠損する。この突出部は舟首部表現と考えられ、舟本体の内側から突出部へ向かってわずかに盛り上がり、撫でられている。一方で、図下方の舟本体内側には同様の痕跡が見られず、こちらには突出部はついていなかったものと推測されるが、側面に比べ下方先端部は厚みを増している。舟外面は磨かれ、底面には細い線刻が施される。内外面は赤色顔料（ベンガラ）が塗布されている。



第63図　土製品の出土状況

③土版（d27 ～ 32）

6点出土した。d27・28はSI13、それ以外は遺構外（E10・E29・E40）からである。出土地点はEグリッドの東端に集中し、分布域は竪穴建物と重なる（第63図）。文様は表面・裏面ともに沈線と刺突で描かれ、d28は側面にも刺突が施される。d31は上方隅に孔があり、上方中心部は円形に窪み、これよりも浅い沈線が下方へと延びる。d28以外は、数条の孤線からなる文様が描かれており大洞A式期に位置づけられる（稲野1987）。

④土製円板（d33 ～ 63、d66 ～ d107）円盤出土分布図?

73点中31点を図化し、残りは表掲載とした。遺構内からの出土はSI03・06・13、SK31・34・38・39・70、SN01・05からの計11点、全点掲載している。グリッドごとの分布は、EグリッドからFグリッド西端にかけてと土器の出土量が多い範囲と共通する（第63図）。特に出土量が多いのは、E06グリッドとE18グリッドでともに7点出土する。前者は焼土遺構群があり土器の出土量が最も多い範囲で、後者は、遺物量は多いものの、遺構のない空白地帯である。これら73点の資料を、周縁の痕跡から、Ⅰ類・周縁に打ち欠きあり、Ⅱ類・周縁にスレ痕ありに分類した。Ⅰ類が42点、Ⅱ類29点、Ⅰ～Ⅱ類（打ち欠きとスレ痕が混在）2点とⅠ類が多い。使用部位は胴部がほとんどで、口縁部が1点（d49）、底部が2点（d45・59）のみである。d49は口縁部分の一部をそのまま使用し、その周囲を打ち欠き円形に仕上げている。胴部文様の特徴として、羽状縄文のLR・RLの境目がほぼ中心にきており、文様を意識して制作している様子が窺える。中心部が穿孔されているものは14点、Ⅰ類8点、Ⅱ類6点と、全体量から見るとⅡ類の穿孔率が若干高い。b51は裏面から穿孔しており、表面まで貫通していない。円板の直径は2.3 ～ 5.3cmと大小様々で、周縁の分類や孔の有無などその他の特徴と大きさの関連性は見いだせなかった。

⑤ふいご羽口（d64・65）

2点出土。いずれも遺構外（E18・37）からの出土である。古代の遺構分布域とは異なるため、詳細な時期は不明である。

⑥焼成粘土塊

27点、合計591.7g出土しているが、いずれも掲載していない。出土した遺構はSI04・06・07・08ab、SK39・42、SN01・04である。大きさ5㎝以下、10g以下のものが多いなか、SN01内では2点で330.4gと大きいものが出土している。

（5）石器（第126 ～ 205図、写真図版96 ～ 138、第55表）

①概要

今回の調査で出土した石器は中コンテナ（42×32×20㎝）で39箱（剥片・剥片石器3箱、礫石器36箱）、総重量は488kgである。総点数は3,936点、二次加工や使用痕持つ石器・及び石核（以下石器と呼称）が1,061点、剥片が2,875点。遺構内と外の内訳は、遺構内が536点（石器177点・剥片359点）、遺構外が3,400点（石器884点・剥片2,516点）、遺構外が全体量の85％程度を占める。

②器種分類・掲載基準

総点数3,936点中、遺構内を176点、遺構外を346点、計552点を掲載した。遺構内の石器はほぼ全点掲載、遺構外の掲載は全量の4割程度である。掲載の順序は、遺構内が遺構→器種→分類→層位の順に並べ、遺構外は器種→分類→出土地点の順に並べている。古代の竪穴建物から出土したものに関しては、礫石器類が古代住居に伴う可能性もあるものの、その多くが縄文時代に帰属すると考え遺構外として扱っている。SK等その他の遺構については出土土器から古代以降に帰属する遺構もあるが、遺構の形状からは時期を特定できないため、遺構内遺物として掲載している。

石器の種類ごとに分けた器種名は第46表のとおりである。石質の鑑定については、掲載分は花崗岩研究会に依頼した。不掲載分については、掲載分を参考にして鑑定したが、不明なものも含まれる（第48・55表）。

「④器種別の分類と分析」では不掲載分も合わせて特徴を示しているが、計測値に関しては図化掲載分に限って記載している。

第46表　器種別掲載率一覧

器種	点数	掲載	掲載率
石鏃	34	24	70.6%
尖頭器	3	3	100.0%
石錐	12	8	66.7%
石匙	6	4	66.7%
掻器	21	16	76.2%
石篦	19	13	68.4%
削器	29	16	55.2%
R.F.	13	2	15.4%
U.F.	18	3	16.7%
F	2875	4	0.1%
両極剥片	1	0	0.0%
楔形石核	49	25	51.0%
石核	59	19	32.2%
石鍬	3	3	100.0%
打製石斧	26	21	80.8%
磨製石斧	30	17	56.7%
石斧未成品	12	9	75.0%
礫器	2	2	100.0%
不定形石器	61	32	52.5%
敲磨器	55	36	65.5%
磨石	56	33	58.9%
敲石	291	116	39.9%
台石	85	31	36.5%
石皿	25	16	64.0%
石錘	4	4	100.0%
砥石	3	3	100.0%
スタンプ形石器	2	2	100.0%
石棒	42	33	78.6%
円板状石器	83	41	49.4%
玉・有孔石製品	6	6	100.0%
石製品	9	8	88.9%
異形石器	2	2	100.0%

③出土状況

各遺構･グリッドの器種別出土数量は第45表のとおりである。遺構ごとではSI13が最も多く202点、次いでSI08が74点、SI04・06、SK39、SN01が30点以上。グリッドでは、E06・07・30・39・40・50・F21が100点を超える。石器と剥片に分けて出土点数を示した分布図が第65図で、どちらも縄文時代の住居群の検出されたE9・10グリッドの南北列、SN群があるE06周辺の出土量が多く、周縁へ向かうにしたがって減少する。

④器種別の分類と分析

1）石　　鏃　（e1 ～ 3・91・93・149・158・169・174・177 ～ 191）

矢の先に取り付けられて鏃として機能したと考えられる形態と重量の尖頭状石器。槍先形尖頭器とは便宜的に長さ4.5㎝前後で分離した。合計点数は34点、うち24点を図化掲載した。

分類　平面形態により第64図のとおりに9分類した（A～H・X）。各分類の点数は、第47表のとおり（以下他器種も同様）で、A・E・Fbが5～6点とやや多い。有茎（A～D）と無茎（E・F）に

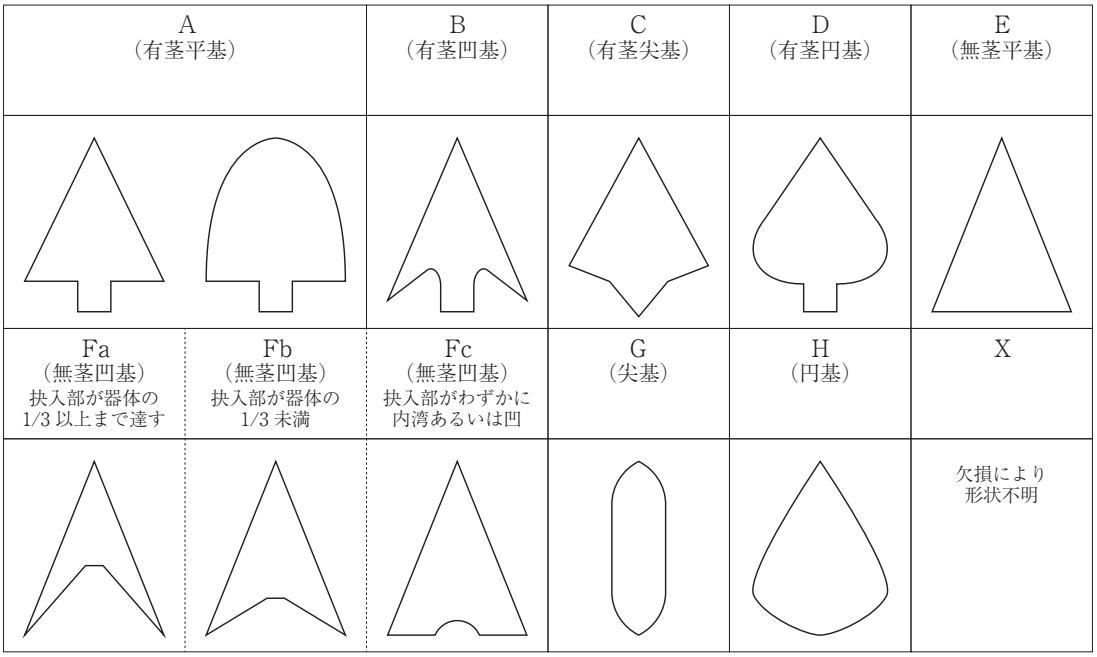
分けると、11点・13点と後者が若干多い。

出土状況　遺構内から９点、遺構外から25点出土している。遺構内はSI08で３点まとまっており、全体ではＥグリッド東半部からの出土が多い。有茎の石鏃はSN04出土のものを除き、すべてE8列より東側から出土している。

計測値　長さは2.2 ～ 4.4㎝、幅は1.1 ～ 2.7㎝間に収まる。大半が５ｇ以下で２ｇ代が多い。e186が0.5gと最も軽く、e191は10.2gと突出して重い。

その他　e1とe178は基部にアスファルトが付着する。

石材　頁岩が大半を占める。頁岩以外の石材はすべてE8列よりも東側から出土している。



第64図　石鏃平面類型

２）尖　頭　器　（e192 ～ 194）

槍先に装着したと考えられるサイズの尖頭状狩猟具。合計点数は３点、すべて図化掲載した。

分類　細分していない。

出土状況　すべて遺構外の出土である。

計測値　３点とも欠損しており、全形のわかるものはない。

石材　すべて頁岩である。

３）石　　錐　（e28・159・195 ～ 200）

ドリルの機能を持つと考えらえる形状の石器。機能部に特徴的な磨滅痕や衝撃剥離痕があるものも含む。合計点数は12点、うち８点図化掲載した。

分類　形状からＡ・Ｂの２種に分類した。

Ａ　摘部をもつもの

Ｂ　摘部が不明瞭で、棒状のもの

Ａ類が10点、Ｂ類が２点とほとんどが摘部を有する。Ａ類は摘部が明瞭で錐部が長いもの（e195・197・200）と摘部がやや不明瞭で錐部が短いもの（e28・196・198）がある。

出土状況　遺構内が２点、遺構外が10点である。

計測値　完形品で長さ3.0 ～ 5.8㎝、1.5 ～ 15.7gである。e198は欠損しているものの長さ7.5㎝と最も大きい。
石材　12点中10点とほとんどが頁岩である

4）石　　匙　（e29・201 ～ 203）
摘部を持つスクレイパー。刃部は掻器や削器の機能をもち、ナイフ的用途が想定される。合計点数は６点、うち４点を図化掲載した。
分類　平面形状からＡ縦型、Ｂ横型の２つに分類した。斜型は出土していない。Ａ・Ｂ類それぞれ３点ずつとなる。e29は刃部調整がなく摘部の加工がされている。
出土状況　遺構内は１点のみ、その他は遺構外からの出土である。
計測値　比較対象点数が少ないが、長さはＡ類が６㎝台、Ｂ類が２㎝台と大きさがまとまっている。
石材　すべて頁岩である。

5）掻　　器　（e30・128・175・204 ～ 216）
スクレイパーのうち、掻き取る、押し掻く機能を意図した刃部を持つもの。大半が素材剥片の長軸端部を刃部とする。削器よりも刃部角度が鈍角。合計点数は21点、うち16点を図化掲載した。
分類　刃部の設定個所により３つに分類した。
Ａ　刃部を端部に設定
Ｂ　刃部を外縁に設定（ラウンドスクレイパー）
Ｃ　その他（欠損して全形が不明なもの）
Ａ類８点、Ｂ類10点、Ｃ類３点である。
出土状況　遺構内は３点、すべてＢ類で、その他は遺構外である。特に集中する個所は認められない。
計測値　Ａ類は計測個体数が少ないが、長さ４㎝台が２点、７㎝台が１点、幅は３～４㎝台である。Ｂ類は長さ2.7 ～ 7.3㎝で幅4.0 ～ 6.0㎝内に含まれるものが多く、長さと幅の差が０～ 0.7㎝程度と小さく正円に近いものが目立つ。
石材　21点中頁岩が17点と大半を占める。

6）石　　篦　（e4・31・106・160・217 ～ 225）
調整による明瞭な刃部作成が行われず、素材端部を刃部とみなせるもの。掻く作業による衝撃剥離痕があるものを含む。合計点数は19点、うち13点を図化掲載した。
分類　正面観よりＡ撥形・Ｂ分銅形に二分する。ほとんどがＡ類で16点、Ｂ類は３点のみである。Ａ類の中には基部と刃部の幅にあまり差のない短冊形に近いものも含まれる（e221・224）。
出土状況　遺構内が４点、遺構外が15点である。E8列より東側に多い。
計測値　長さ4.3 ～ 11.6㎝、幅2.0 ～ 6.5㎝、重量5.4 ～ 151.0gである。
石材　19点中頁岩が14点と大半を占める。その他はホルンフェルスが３点である。

7）削　　器　（e5・6・112・129・153・226 ～ 236）
スクレイパーのうち、削る機能を意図した刃部を持つもの。刃部角度が鋭角で、削る作業による衝撃剥離痕があるものも含む。掻器と比べて刃部角が鋭角。合計点数は29点、うち16点図化掲載した。
分類　細分はしていない。

出土状況　遺構内が５点、遺構外が24点である。Ｅグリッドの東半からＥ・Ｆグリッド境界までの間に集中している。
計測値　長さ3.2 ～ 11.3cm、特に６cm台と８cm台が多い。幅は2.2 ～ 14.4cmと差が大きく、６cm以下は形状が縦長、９cm以上が横長と分かれる。
石材　29点中頁岩が17点と大半を占める。その他、赤色頁岩・黒曜石・ホルンフェルス・赤紫色凝灰岩が使用されている。

８）二次加工のある剥片（R.F.）（e32・33）
　調整痕のある剥片。合計点数は13点、うち遺構内出土の２点のみ図化掲載した。
分類　細分はしていない。
出土状況　遺構内が２点、遺構外が11点である。
その他　e32は縦型石匙の基部調整段階で破損したものの可能性がある。e33は掻器の刃部作り出しを目指していた未成品の可能性がある。
石材　13点中頁岩が10点と大半を占める。その他、玉髄・碧玉を使用している。

９）微細剥離痕のある剥片（U.F.）（e117・237・238）
　使用痕と考えらえる縁辺剥離痕の配列を持つ剥片。微細剥離痕のある範囲を「Ⅰ――Ⅰ」で示している。合計点数は18点、うち３点を図化掲載した。
分類　細分はしていない。実測個体のみで言えば、微細剥離痕が側縁にあるもの（e117・237）と端部にあるもの（e238）に分かれる。
出土状況　遺構内は１点のみでその他はすべて遺構外から出土した。
石材　18点中頁岩が13点と多い。その他、碧玉・ホルンフェルス・安山岩が使用されている。

10）剥　　片（e109・239 ～ 241）
　剥片剥離や調整剥離によって生じる石片。２次加工や使用痕跡を持たないもの。通常、長さもしくは幅が1.5cm以上を剥片、それ以下を砕片とするが、本書では分離せずすべて剥片として登録した。合計点数は2,875点、うち４点を図化掲載した。
分類　細分はしていない。
出土状況　遺構内が359点、遺構外が2,516点、総重量は42kgである。調査区の東西端を除き全体で出土しているが、SI04 ～ 06周辺、SN群周辺、SI08・13周辺の出土量が多い範囲となる。
計測値　一片あたりの重量を計測した個体が約1,000点、0.1 ～ 285.5gと大小様々あるが、このうち８割程度が50g以下である。
石材　2,875点中頁岩が2,040点と大半を占める。その他の使用石材は一覧表（第48表）のとおりである。

11）両　極　剥　片
　両極打撃技術により、製作された剥片。SI01より１点のみ出土しているが図化掲載はしていない。石材は頁岩である。

12）楔　形　石　核（e7・34 ～ 38・94・113・144・145・154 ～ 156・170 ～ 172・242 ～ 250）
　両極打撃技術で素材剥片の製作が行われた石核・残核。両端部がネガ面に覆われた資料で、楔形石

器とされるものを含む。合計点数は49点、うち25点図化掲載した。
分類　細分はしていない。
出土状況　遺構内が16点、遺構外が33点である。SI13で５点、SK42で２点、SK71で３点と遺構内で複数個出土している。
計測値　長さが2.3 ～ 7.4cm、幅が2.0 ～ 8.3cm。長さ幅ともに５cm以下のものが多い。重量は５～105g、長さと幅が５cm以下のものは30g以下が大半で、５cmを超えるものは60g以上のものが多い。
石材　49点中頁岩が21点と多い。その他、黒曜石・赤色頁岩・玉髄・碧玉等が使用されている。

13) 石　　核　（e8・9・39 ～ 41・105・115・130・143・161・251 ～ 259）
　最終剥離面がネガ面で、素材剥片製作を目的として調整された石器。残核形状ものも含む。合計点数は59点、うち19点図化掲載した。
分類　細分はしていない。
出土状況　遺構内は10点、遺構外は49点である。
計測値　長さは1.7cmから12.6cm、幅も3.0 ～ 15.7cmと大小様々ある。e254は欠損品で長さ15cmを超える。重量は14 ～ 1,242g。長さ幅ともに５cm以上のものが多く楔形石核に比べ大きい。
その他　e254・256・258は石斧の未成品の可能性がある。
石材　頁岩が16点と最も多く、次いで赤色頁岩・ホルンフェルス・砂岩等が使用されている。

14) 石　　鏃　（e260 ～ 262）
　土掘り具の形態を有するもののうち、偏平な剥片状素材のものを打製石斧から分離して本分類群を設定した。合計点数は３点、すべて図化掲載している。
分類　細分はしていない。
出土状況　すべて遺構外からの出土である。
計測値　長さは11.1 ～ 18.0cm、幅は6.6 ～ 11.2cmである。重量は60g台１点。300g台２点。
石材　赤紫色凝灰岩・粘板岩を使用している。

15) 打　製　石　斧　（e10・123・147・263 ～ 280）
　斧の刃部をもつ石斧のうち、打撃調整で完形品に仕上げられたと考えられる石器。未成品も含む。合計点数は26点、うち21点を図化掲載した。
分類　細分はしていない。
出土状況　遺構内が３点、遺構外が23点である。Ｅグリッド東半からＦグリッドにかけての出土が多い。
計測値　長さは8.3 ～ 14.5cm、幅は3.7 ～ 10.3cm。重量は70 ～ 909gで、200g以下と300g台が多い。e276は長さ25.6cm、1,319gとこれらより突出して大きい。
石材　ホルンフェルスが10点と多く、次いで頁岩が６点、細粒花崗閃緑岩等が使用されている。

16) 磨　製　石　斧　（e42 ～ 45・92・281 ～ 292）
　斧形の刃部をもつ石斧のうち、研磨で完成品に仕上げられたと考えられる石器。未成品も含む。合計点数は30点、うち17点図化掲載した。
分類　刃部の形状によりＡ両刃、Ｂ片刃に細分した。Ａ類13点、Ｂ類４点、残りの13点は刃部欠損

品で、全点数の４割程度を占める。基部の形状は、断面が楕円形の乳棒状のもの（e289・291・292他）と、断面が隅丸長方形の定角式のもの（e42・283他）とがある。

出土状況　遺構内が５点、うち４点はSI13から、その他25点は遺構外からの出土である。Ｅグリッド全体から出土しており、打製石斧の分布と異なる。

計測値　長さ5.3 ～ 16.0cm、幅は2.3 ～ 7.2cm、重量11 ～ 665gである。長さは９cm以上のものが多い。e45とe287は長さ５cm程度、幅２cm台、重量11.4gと小形品である。

石材　頁岩・ホルンフェルス・細粒花崗閃緑岩が４点、その他蛇紋岩・凝灰岩等が使用されている。

17）石 斧 未 成 品　（e46・47・84・293 ～ 298）

調整段階で、石斧製作を意図したと考えられる形状のもの。合計点数は12点、うち９点を図化掲載した。

分類　細分はしていない。e46・47・84は打製石斧の未成品、e296・298は磨製石斧の未成品の可能性がある。

出土状況　遺構内（SI13・SB01）３点、遺構外９点である。Ｅグリッド東半に出土範囲が限定される。

計測値　長さ11.3 ～ 19.2cm、幅5.3 ～ 9.1cm、重量は289 ～ 936gである。製作途中のためか、打製石斧や磨製石斧に比べ大きめな個体が多い。

石材　細粒閃緑岩・砂岩・細粒花崗閃緑岩・頁岩等、打製・磨製石斧の石材と似るが、一方、両者で最も使用の多いホルンフェルスは含まれていなかった。

18）礫　　器　（e299・300）

厚手の刃部をもち、石斧刃部や石核調整段階と見なし難い刃部形状のもの。合計点数は２点、すべて図化掲載した。

分類　細分はしていない。打製石斧の未成品の可能性がある。

出土状況　遺構外からの出土である。

石材　ホルンフェルスと細粒花崗閃緑岩を使用している。

19）不 定 形 石 器　（e11・12・48 ～ 51・85・131・301 ～ 324）

上記の分類に当てはまらないものを一括した。合計点数は61点、うち32点を図化掲載した

分類　以下のⅠ～Ⅲ類に細分した。

Ⅰ　礫石器の試し割段階や簡易な調整段階のもの。石核・礫器などに近い形状のもの。

Ⅱ　礫素材の側縁や端部調整が進んだもの。

Ⅲ　剥片石器で、不定なもの。一般的な不定形石器概念は本類に該当すると考えられる。

Ⅰ類10点、Ⅱ類38点、Ⅲ類13点である。Ⅱ類は石斧の未成品の可能性があるもの（e301 ～ 316他）と石棒など石製品の未成品の可能性があるものがこれに含まれる（e317 ～ 320）。Ⅲ類は定型石器の可能性があるが、未成品や欠損のため器種が特定できないものも含んでいる。

出土状況　遺構内８点、遺構外53点である。Ⅰ類はE7列より東側に限られている。

計測値　Ⅰ類は長さ9.1cmと5.6cm、幅9.6cmと8.8cm。Ⅱ類は長さ8.7 ～ 19.0cm、幅3.5 ～ 14.3cm以上、石斧未成品の可能性があるものに限定すると、長さ10.0 ～ 19.0cm、幅2.9 ～ 10.8cm、重量163 ～ 1,068gと、石斧未成品の器種と計測値が近い。Ⅲ類は長さ3.4 ～ 8.0cm、幅2.6 ～ 8.5cmである。

石材　Ⅰ類がホルンフェルスと細粒閃緑岩、Ⅱ類がホルンフェルス・細粒花崗閃緑岩・砂岩・頁岩等

を使用、Ⅲ類は頁岩が多い。

20）敲　磨　器　（e13・14・52・53・95・100・101・118・132・133・325 ～ 350）

素材礫に敲打痕と磨面をもつもので、長時間手持ち可能な重量のもの。合計点数は55点、うち36点図化掲載した。

分類　以下の通り、形状・磨面・敲打面で細分しこれらを組み合わせた。

〈形状〉

Ⅰ　円形で扁平

Ⅱ　円形で球形に近い

Ⅲ　長方形～長楕円形

〈磨面〉

A　正・裏面などの広い面に磨面をもつ

B　素材端部・側面に磨面をもつ

C　A・B両方の磨面をもつ

〈敲打痕〉

1　正・裏面などの広い面に敲打痕をもつ

2　素材端部に敲打痕をもつ

3　A・B両方の敲打痕をもつ

形状の円形と楕円形の境界は、図化掲載した分については幅÷長さが0.7を指標に、それ以上を円形（Ⅰ・Ⅱ類）、以下を楕円形（Ⅲ類）としているが、不掲載分に関しては肉眼観察のため、両者の境界に多少の差がある可能性がある（磨石・敲石も同様の基準）。組み合わせた分類ごとの点数は一覧表のとおりである（第47表参照。磨石・敲石も同じ）。ⅠA1類が10点、ⅠA3類が８点、ⅢA3類が10点と多い。つまり円形で扁平の形状（Ⅰ類）を持つ個体は磨面が広い面に、敲打痕は広い面もしくは広い面と端部に持つが、楕円形状（Ⅲ類）を持つ個体は、磨面が広い面に、敲打痕は広い面と端部両方に持つものが主体となる。磨面はAまたはCが多くBはⅢ類にしかない。

出土状況　遺構内10点、遺構外45点である。SN群、SI08・13周辺にまとまっている。分類ごとの傾向は見いだせなかった。

計測値　長さ6.3 ～ 13.9㎝、幅5.4 ～ 9.1㎝、125 ～ 841gである。Ⅰ～Ⅲ類、形状ごとの平均値はそれぞれ、Ⅰ類が9.7㎝・7.7㎝・433g、Ⅱ類が9.1㎝・7.0㎝・468g、Ⅲ類が11.8㎝・6.6㎝・450g。形状ごとの幅と重量の差は小さい。Ⅲ類の敲打痕が素材端部にある個体は長さの平均は12.5㎝と、さらに長くなる。

その他　e53は上端の敲打痕に、e133は磨面に赤色顔料が付着する。

石材　デイサイト17点・安山岩19点とこれらが大半を占める。

21）磨　　石　（e15・54 ～ 56・86・96・107・152・351 ～ 375）

素材礫に磨面をもつもので、長時間手持ち可能な重量のもの。合計点数は56点、うち33点を図化掲載した。

分類　以下の通り、形状・磨面で細分しこれらを組み合わせた。

〈形状〉

Ⅰ　円形で扁平

Ⅱ　円形で球形に近い

Ⅲ　長方形～長楕円形

〈磨面〉

A　正・裏面などの広い面に磨面をもつ

B　素材端部・側面に磨面をもつ

C　A・B両方の磨面をもつ

組み合わせた分類ごとの点数は一覧表のとおりである。ⅠA類が30点と半数以上を占める。Ⅱ類の磨面はAのみ、Ⅲ類はCがなくAとBに分かれる。

出土状況　遺構内８点、遺構外48点である。調査区北側と、E･Fグリッド境界付近に多く分布する。Ⅱ類はE8列より東側でのみ出土している。

計測値　長さ7.5 ～ 16.1cm、幅5.6 ～ 10.9cm、重量128 ～ 995gである。e358は幅13.1cm、1,332gと突出して重く台石の可能性がある。Ⅰ～Ⅲ類の平均値はそれぞれ、Ⅰ類10.1cm･8.2cm･464g、Ⅱ類10.3cm･7.8cm・663g、Ⅲ類13.1cm・7.5cm・564g。

その他　e356は磨面に赤色顔料が付着している。

石材　デイサイト17点・安山岩16点とこれらが大半を占める。

22)敲　　石　(e16 ～ 22・57 ～ 76・87・88・90・97・98・102 ～ 104・108・110・111・116・119・120・124 ～ 127・134 ～ 136・146・150・162・176・376 ～ 439)

ハンマーとしての用途をもつもので、長時間手持ち可能な重量のもの。素材礫に敲打痕をもつものやトチ剥き石を含む。合計点数291点と、最も多く出土した器種である。116点を図化掲載した。

分類　以下の通り、形状・敲打面で細分しこれらを組み合わせた。

〈形状〉
- Ⅰ　円形で扁平
- Ⅱ　円形で球形に近い
- Ⅲ　長方形～長楕円形

〈敲打痕〉
- Ａ　正・裏面などの広い面に敲打痕をもつ
- Ｂ　素材端部に敲打痕をもつ
- Ｃ　Ａ・Ｂ両方の敲打痕をもつ

組み合わせた分類ごとの点数は一覧表のとおりである。形状はⅠ類109点、Ⅱ類98点、Ⅲ類76点、それぞれが全体の３～４割程度である。敲打痕はＡとＣが多い。量比は、Ⅰ類はＡが多く、Ⅲ類はＣが多くなる。

出土状況　遺構内52点、遺構外239点である。遺構内はSI08が７点、SI13が20点、SK38が４点、SK39が３点と多い。遺構外もSI08・13の周辺からＦグリッド境界にかけてとSN群付近でまとまった出土量となる。分類別の出土傾向は、はっきりとした傾向は見いだせなかったが、Ｆグリッドではの占める割合がやや多くなる。

計測値　長さ5.2 ～ 18.2cm、幅4.3 ～ 10.1cm、重さ104 ～ 817gである。長さ11cm以上はⅠ類で数点、ほとんどがⅢ類である。Ⅰ～Ⅲ類の平均値はそれぞれⅠ類9.3cm・7.6cm・380g、Ⅱ類8.7cm・6.9cm・432g、Ⅲ類11.7cm・6.3cm・420g。形状ごとの幅・重量差が小さい。持ちやすい幅・持ちやすい重量の素材礫を選定していたと推測される。

石材　安山岩84点、デイサイト33点と大半を占める。

23)台　　石　(e23 ～ 25・77 ～ 79・121・137・151・163・440 ～ 460)

台として使用されたと考えられる重量と用途が想定されるもの。敲石・磨石の特徴を持つ個体のうち、長時間手持ちが困難な重量のものを本類に含めた。合計点数は85点、うち31点を図化掲載した。

分類　以下の通り２つに細分した。
- Ⅰ　扁平礫、あるいは平坦面をもつ礫を利用する。
- Ⅱ　円形～楕円形礫、断面多角形礫を利用し、調整痕・使用痕が平坦面以外にあるもの。

Ⅰ類が47点、Ⅱ類が35点である。図化掲載分では敲打痕を持つものが25点と大半を占める。すべて正面・裏面などの広い面に敲打痕を持ち、凹石状のものが16点と多い。端部にも敲打痕がみられる個体(e78・447他)があることから、上記の基準で台石に区分しているが、これらは手持ちとしても使用されていた可能性がある。これらは800g台～ 1.6kgと台石のなかでは比較的軽い。磨面を持つも

のはⅠ類が6点、Ⅱ類が1点、床置きした際により安定感のあるⅠ類が磨石としての機能を有することが多い。e25は石棒の未成品の可能性がある。e454は鉄床石で古代以降に属すると考えられる。

出土状況　遺構内11点、遺構外74点である。SN群、E・Fグリッド境界付近での出土が多い。

計測値　長さ12.2～38cm以上、幅9.1～33.9cmである。長さは12～15cm台、幅は9～12cm台が多く通常の磨石・敲石類よりも大きい。重量は726～5,230g、e79のみ突出して重く14kgを超える。

石材　石材の判明した32点中26点が安山岩である。

24）石　　皿　（e26・122・164・173・461～472）

台として使用したと考えられる台石のなかでも特に扁平な素材面を持ち、中央部が面的に窪むものを含む。磨面や敲打痕を伴うことがある。合計点数25点、うち16点図化掲載した。

分類　細分はしていない。図化掲載分ではe472を除いて磨面が観察できる。敲打痕を持つものは4点、このうち3点は凹状を呈する（e26・122・472）。e164、は中央部が島状に高くなっており、e463は脚が付く。

出土状況　遺構内4点、遺構外21点である。e461とe462は古代の建物からの出土で、掲載基準の項目で記載したとおり遺構外出土石器として掲載しているが、古代の竪穴建物に帰属する可能性もある。E10列からの出土が多い。

計測値　完形品はe466のみで長さ22.8cm、幅18.8cmである。他はすべて欠損している。残存値で最も大きいものはe470で長さ31cm、幅22.6cm、残存部は全形のほぼ1/4程度と推定される。

石材　石材の判明した16点中10点が安山岩である。

25）石　　錘　（e473～476）

素材周縁の両端部に、対になる窪みを有する石器。合計点数は4点、すべて図化掲載した。

分類　細分はしていない。

出土状況　すべて遺構外から出土した。

計測値　長さ3.4～12.7cm、幅3.5～10.4cm、重量18～409gである。

石材　頁岩・砂岩・デイサイト・安山岩とすべて異なる石材が使用されている。

26）砥　　石　（e477～479）

石・木・鉄などの道具を研ぐことを目的とした石器。細粒の偏平な素材礫を用いる。合計点数は3点、すべて図化掲載した。

分類　細分していない。e478は石棒の未成品の可能性がある。

出土状況　すべて遺構外から出土した。

計測値　長さ13.2～21.1cm以上、幅5.9～15.3cm以上である。

石材　デイサイトと頁岩を使用している。

27）スタンプ形石器　（e80・480）

敲打痕によって成形され、端部に平坦面をもつもの。なお平坦面に磨痕がある場合が多い。合計点数は2点、すべて図化掲載した。

分類　細分していない。e80は石棒からの転用品、e480は石棒の未成品の可能性がある。

出土状況　e80は遺構内（SI13）、e480は遺構外（E06）から出土した。

計測値　長さ6.5・11.2cm、幅6.8・7.5cm、重量299・700gである。
石材　斑岩と安山岩が使用されている。

28）石　　棒　（e89・114・148・157・168・481 ～ 508）

剥離、敲打調整によって棒状に整形し、研磨調整が加えられたもの。合計点数は42点、うち33点図化掲載した。
分類　以下の２類に細分した。
Ａ　製品・または製品の破片
Ｂ　未成品と考えられる形状のもの。製品の再加工途上のものを含む。
Ａ類18点、Ｂ類16点である。Ｂ類は、e502の剥離調整段階や、e498・500の敲打＋研磨段階のものがある。
出土状況　遺構内５点、遺構外37点である。遺構内は竪穴建物からの出土はなく、掘立・土坑・焼土遺構からと、他の器種とはやや出土状況が異なる。Ａ類は調査区西～中央、Ｂ類は調査区東側に多い。完形のＡ類はe168のみでSN01・05から出土した３片が接合している。焼土遺構の分布するE06グリッド内からは上記のe168に加え包含層内から他４点出土しており、本調査区内で特に出土量が多い。
計測値　欠損品が多い。特にＡ類では上記の通り完形品e168は１点のみで、その他すべて欠損する。
石材　使用石材は粘板岩・ホルンフェルス・頁岩の順で多い。

29）円 板 状 石 器　（e81・82・138 ～ 142・165 ～ 167・509 ～ 539）

周縁を打撃によって加工し、円形に成形したもの。合計点数は83点、うち41点図化掲載した。
分類　以下の３類に細分した。
Ａ　外縁部を円盤状に調整し、正裏面が自然面のもの
Ｂ　外縁部を円盤状に調整し、正裏面に磨面をもつもの
Ｃ　外縁部を円盤状に調整し、正裏面が剥離面のもの
Ａ類57点、Ｂ類20点、Ｃ類５点、不明１点である。７割近くをＡ類が占める。e529とe537は垂飾品の未成品の可能性がある。
出土状況　遺構内10点、遺構外73点である。遺構内はSI13が２点、SK39が５点、SN01が３点と、一遺構に複数個出土している。調査区全体ではＥ区東半に多い。特にE06グリッドでは遺構内３点、遺構外12点、計15点と集中しており、その周辺E07・E16グリッドでもそれぞれ７点・８点と出土量が多い。
計測値　長さ3.0 ～ 6.8cm、幅3.5 ～ 7.4cm、重量12 ～ 164g。e528のみ12.3 × 13.4cm、623.7gと突出して大きい。個体別の幅÷長さは0.9 ～ 1.1と正円に近いものが多い。重量は20 ～ 60gのものが半数を占める。
石材　デイサイト・頁岩・安山岩が多く使用されている。

30）玉・有孔石製品　（e83・540 ～ 544）

貫通した孔のみられるもの。玉類もこれに含めた。合計点数は６点、すべて図化掲載した。
分類　細分はしていない。e83・540は表面・裏面・側面を磨って整形しているが、その他は自然礫に孔をあけただけで利用している。

出土状況　遺構内が１点、遺構外が５点である。すべてE7列より東側からの出土である。
計測値　e540の玉は1.8 × 1.9㎝、その他は長さ8.0 ～ 15.8㎝、幅5.1 ～ 12.5㎝である。
石材　６点中３点と頁岩が多い。

31）石　製　品　（e27・545 ～ 551）

上記の範疇からもれる石製品を一括した。合計点数は９点、うち８点図化掲載した。
分類　細分はしていない。e27・546が石冠、e545が独鈷石、e547 ～ 549が尖頭状の石器で石製品の未成品と考えられる。e550が石皿状の石製品、e551は石製品の未成品である。
出土状況　遺構内が１点、遺構外が８点である。

32）異　形　石　器　（e99・552）

石製利器とは異なる特殊な形態の石器。合計点数は２点、すべて図化掲載した。
分類　細分していない。
出土状況　遺構内１点、遺構外１点である。
石材　すべて頁岩である。

第47表　石器の分類

①石鏃

	A	B	C	D	E	Fa	Fb	Fc	G	H	X	合計
総点数	6	0	2	3	5	0	6	2	3	4	3	34
実測点数	5	0	1	2	5	0	5	1	3	1	1	24

③石錐

	A	B	合計
総点数	10	2	12
実測点数	7	1	8

④石匙

	A	B	合計
総点数	3	3	6
実測点数	2	2	4

⑤掻器

	A	B	C	合計
総点数	8	10	3	21
実測点数	3	10	3	16

⑥石篦

	A	B	合計
総点数	16	3	19
実測点数	12	1	13

⑯磨製石斧

	A	B	不明	合計
総点数	13	4	13	30
実測点数	11	1	5	17

⑲不定形石器

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	合計
総点数	10	38	13	61
実測点数	2	26	4	32

⑳敲磨器

	ⅠA1	ⅠA2	ⅠA3	ⅠC1	ⅡA1	ⅡA2	ⅡA3	ⅡC1	ⅡC3	ⅢA1	ⅢA2	ⅢA3	ⅢB2	ⅢB3	ⅢC1	ⅢC3	A1	不明	合計
総点数	10	1	8	2	4	1	3	1	3	4	1	10	1	1	2	1	1	1	55
実測点数	10	1	3	2	3	1	2	0	0	3	1	5	1	1	2	0	1	0	36

㉑磨石

	ⅠA	ⅠB	ⅠC	ⅡA	ⅢA	ⅢB	不明	合計
総点数	30	2	1	7	9	5	2	56
実測点数	19	1	1	5	3	4	0	33

㉒敲石

	ⅠA	ⅠB	ⅠC	ⅡA	ⅡB	ⅡC	ⅢA	ⅢB	ⅢC	Ⅲ不明	A	B	不明	合計
総点数	61	3	45	39	6	53	19	10	47	1	2	1	4	291
実測点数	20	1	22	11	6	10	18	8	17	0	2	1	0	116

㉓台石

	Ⅰ	Ⅱ	不明	合計
総点数	47	35	3	85
実測点数	24	7	0	31

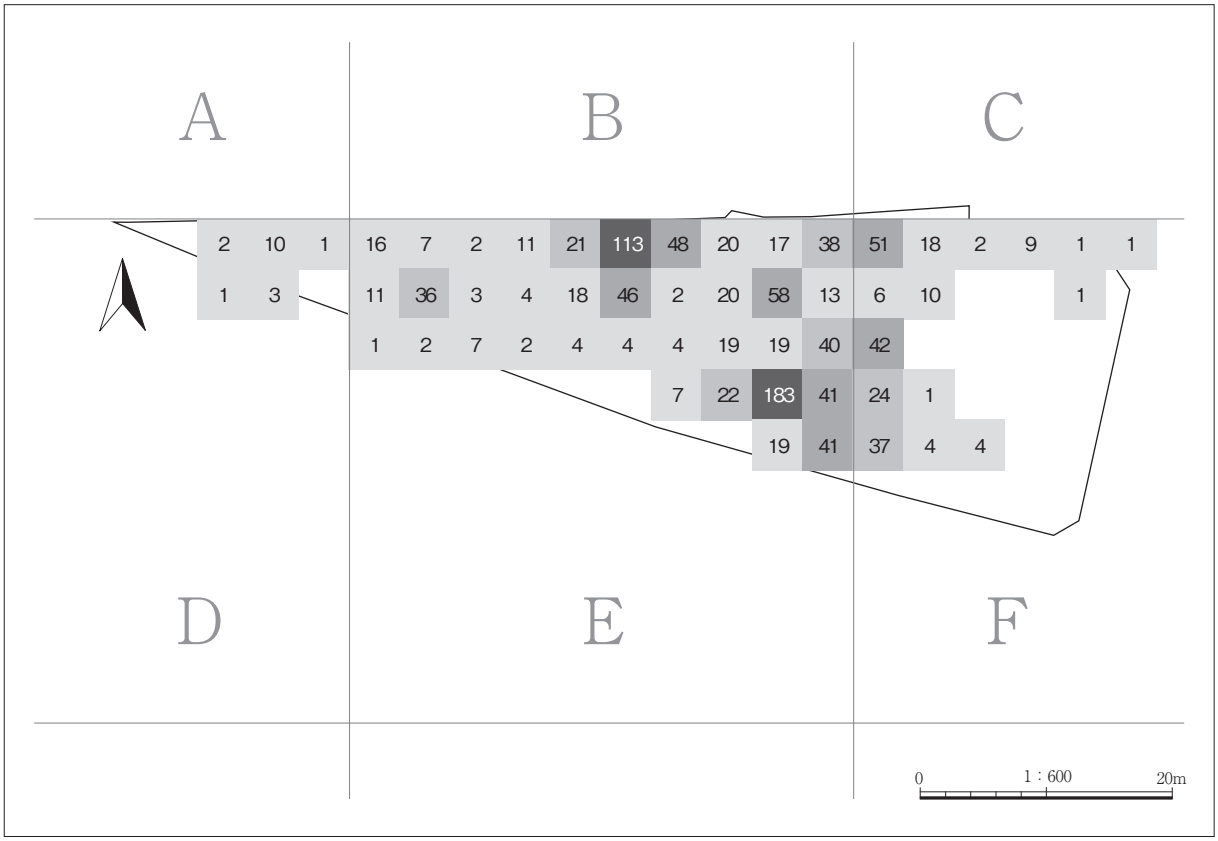
㉘石棒･石棒未成品

	A	B	合計
総点数	26	16	42
実測点数	18	16	34

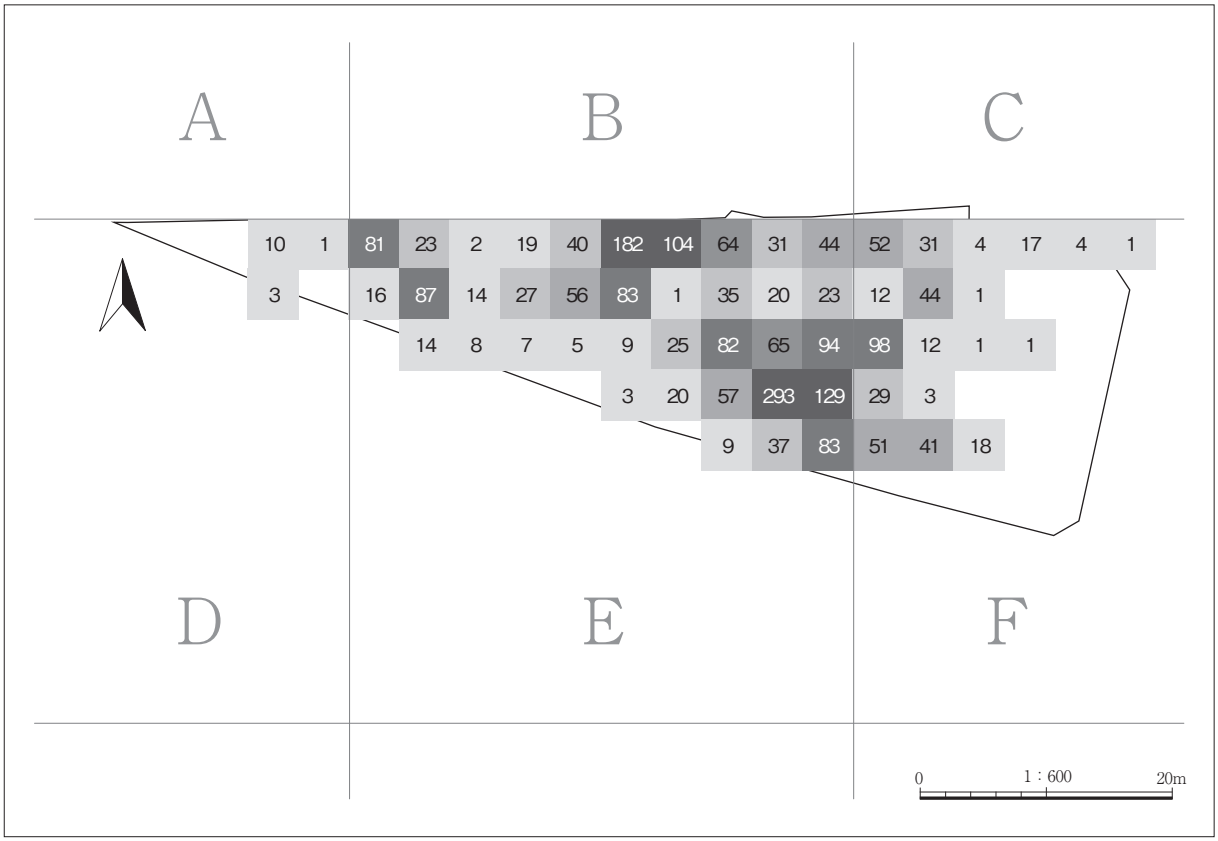
㉙円板状石器

	A	B	C	不明	合計
総点数	57	20	5	1	83
実測点数	30	9	2	0	41

●石器



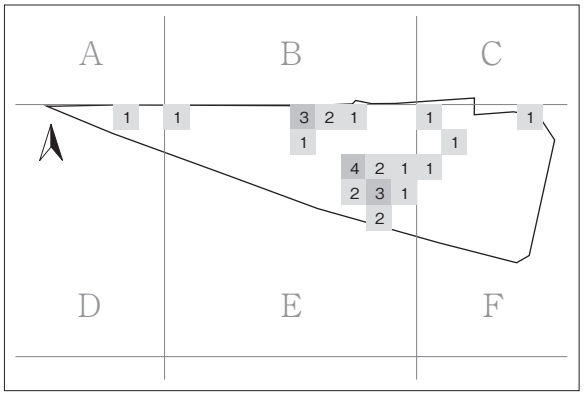
●剥片



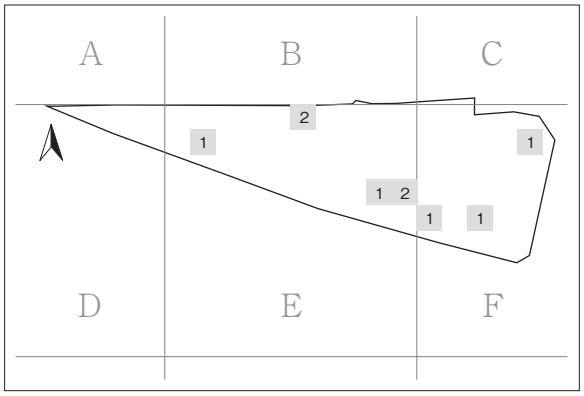
出土数　1～20　21～40　41～60　61～80　81～100　101以上

第65図　石器の出土状況（1）

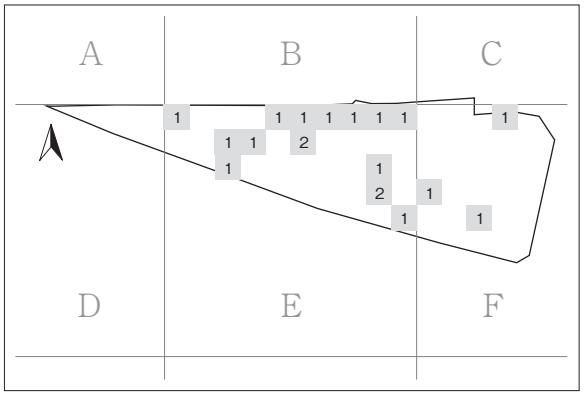
①石鏃



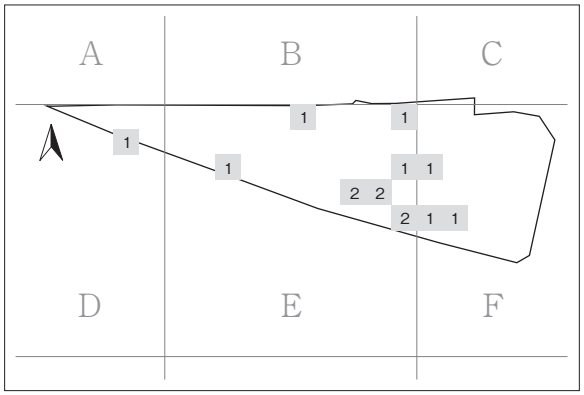
③石錐



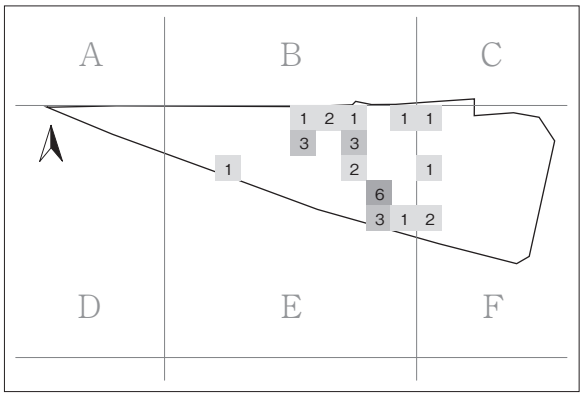
⑤掻器



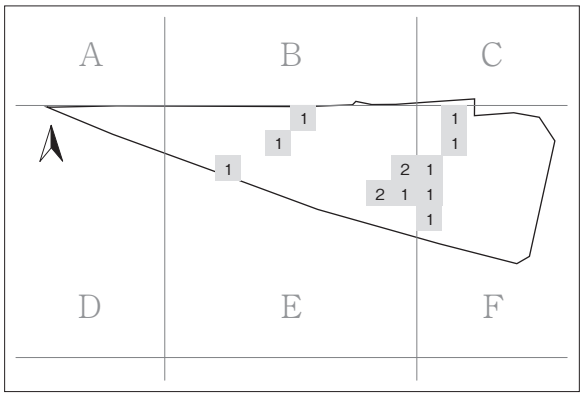
⑥石篦



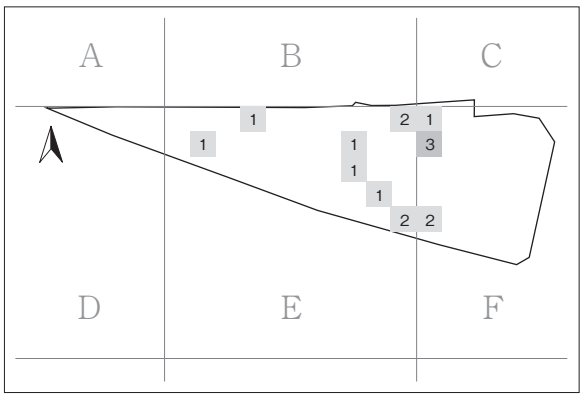
⑦削器



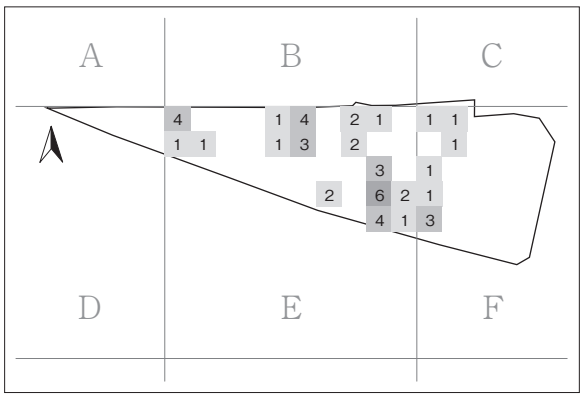
⑧R.F.



⑨U.F.



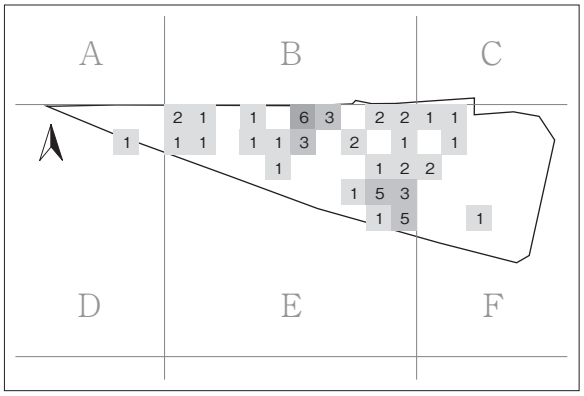
⑫楔形石核



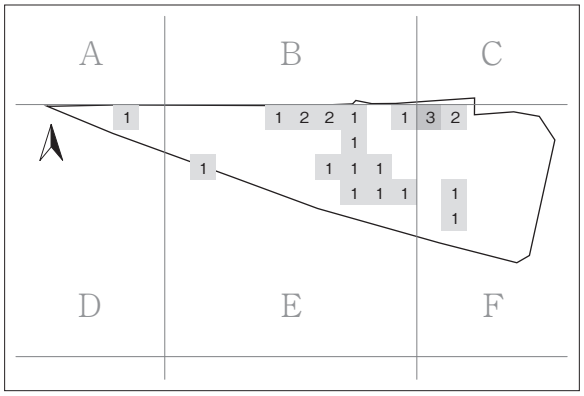
出土数　1 ～ 2　3 ～ 5　6 ～ 10　11 ～ 20　21 以上

第66図　石器の出土状況（2）

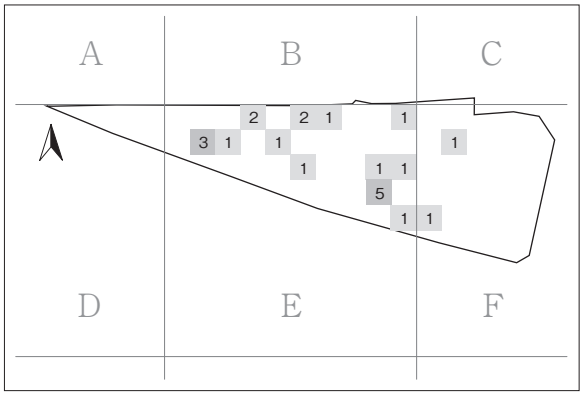
⑬石核



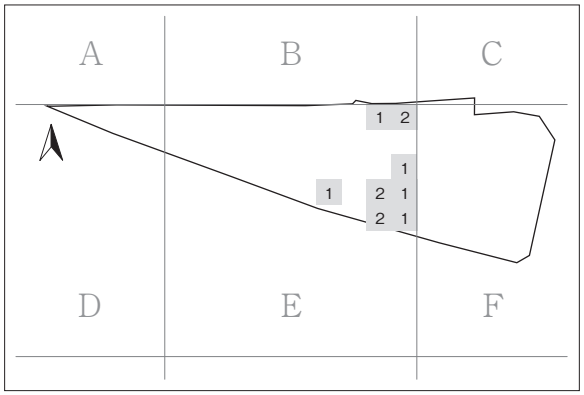
⑮打製石斧



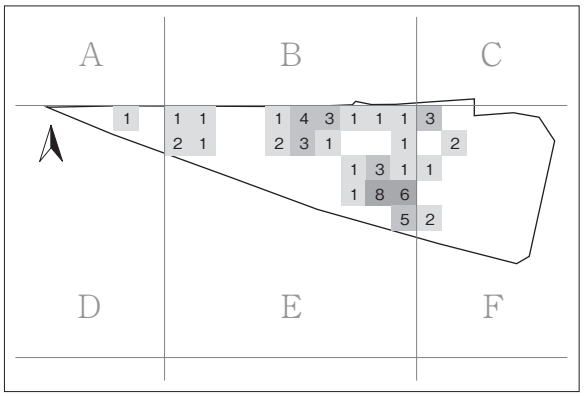
⑯磨製石斧



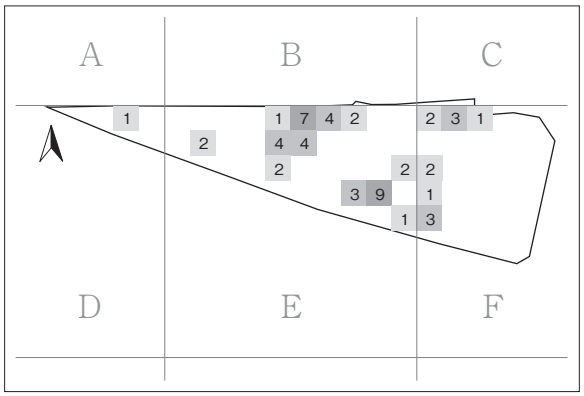
⑰石斧未成品



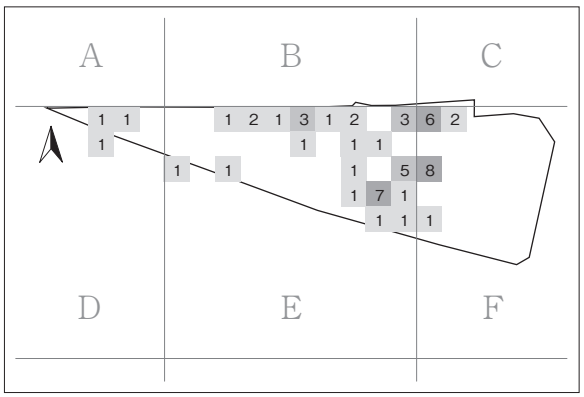
⑲不定形石器



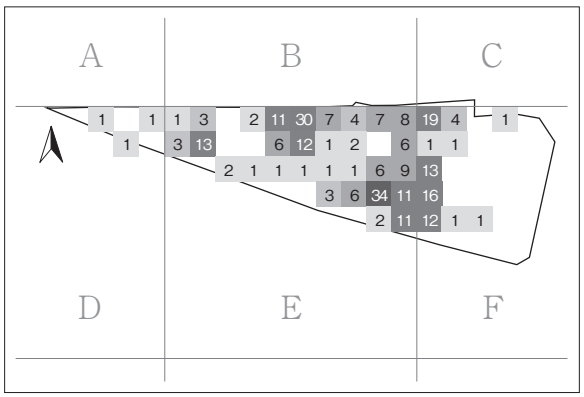
⑳敲磨器



㉑磨石



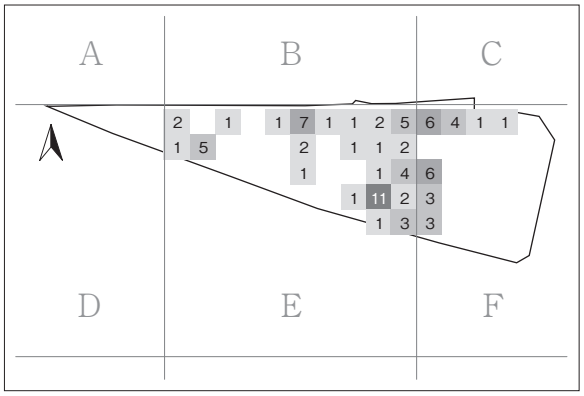
㉒敲石



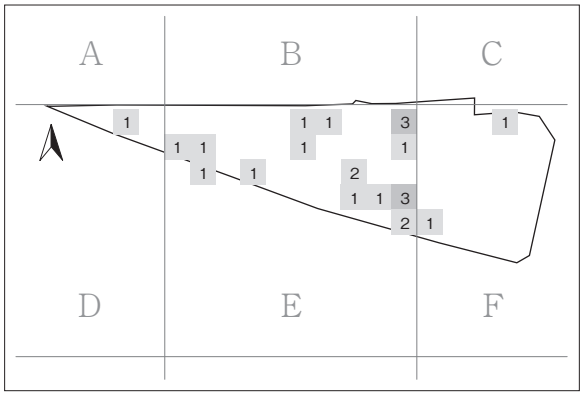
出土数　1 ～ 2　3 ～ 5　6 ～ 10　11 ～ 20　21 以上

第67図　石器の出土状況（3）

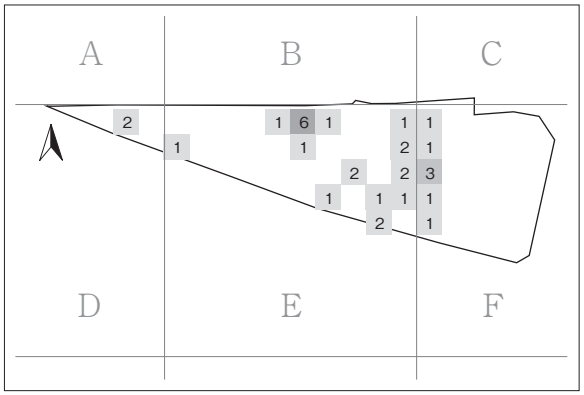
㉓台石



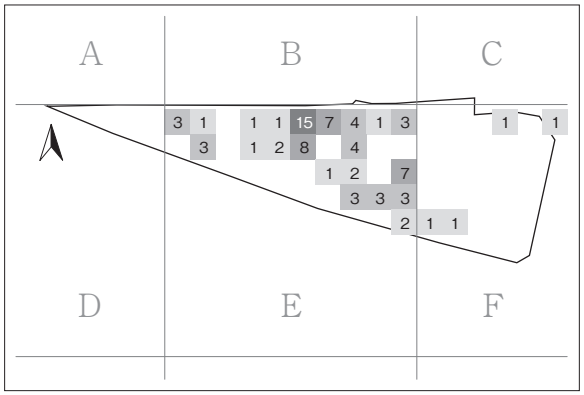
㉔石皿



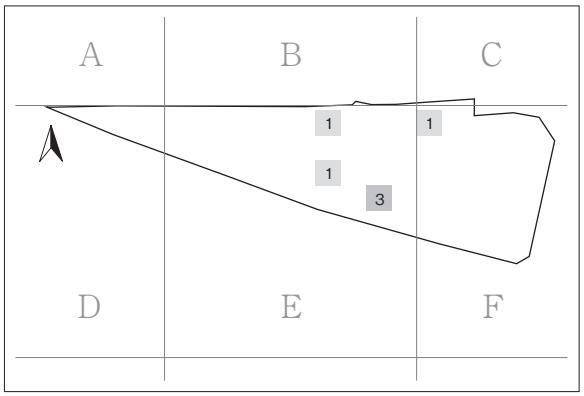
㉘石棒・石棒未成品



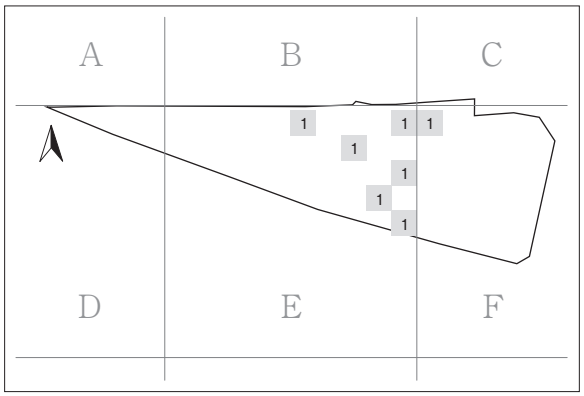
㉙円板状石器



㉚玉・有孔石製品



㉛石製品



出土数　1 ～ 2　3 ～ 5　6 ～ 10　11 ～ 20　21 以上

第68図　石器の出土状況（4）

第48表　石器の石質

【石材略号】アプライト：Ap、デイサイト：Da、ホルンフェルス：Ho、花崗閃緑岩：Gd、花崗斑岩：Gp、凝灰質頁岩：TSh、細粒花崗閃緑岩：FGd、細粒花崗閃緑岩/花崗岩：FGd/Gr、細粒閃緑岩：FDi、赤紫色凝灰岩：PTf、赤色頁岩：RSh

①石鏃

	頁岩	碧玉	RSh	黒曜石	不明	合計
点数	25	4	3	1	1	34
割合	73%	12%	9%	3%	3%	100%

②尖頭器

	頁岩	合計
点数	3	3
割合	100%	100%

③石錐

	頁岩	Ho	玉ずい	合計
点数	10	1	1	12
割合	84%	8%	8%	100%

④石匙

	頁岩	合計
点数	6	6
割合	100%	100%

⑤掻器

	頁岩	Ho	不明	合計
点数	17	2	2	21
割合	80%	10%	10%	100%

⑥石篦

	頁岩	Ho	不明	合計
点数	14	3	2	19
割合	74%	16%	10%	100%

⑦削器

	頁岩	Ho	黒曜石	PTf	RSh	碧玉	不明	合計
点数	17	1	1	1	1	1	7	29
割合	60%	3%	3%	3%	3%	3%	25%	100%

⑧ R.F.

	頁岩	玉ずい	碧玉	合計
点数	10	2	1	13
割合	77%	15%	8%	100%

⑨ U.F.

	頁岩	安山岩	碧玉	Ho	合計
点数	13	2	2	1	18
割合	72%	11%	11%	6%	100%

⑫楔形石核

	頁岩	黒曜石	玉ずい	RSh	碧玉	Ho	メノウ	珪化木	不明	合計
点数	21	4	3	3	3	2	2	1	10	49
割合	43%	8%	6%	6%	6%	4%	4%	2%	21%	100%

⑬石核

	頁岩	RSh	Ho	砂岩	玉ずい	Da	メノウ	FGd	碧玉	不明	合計
点数	16	4	4	2	2	1	1	1	1	27	59
割合	27%	7%	7%	3%	3%	2%	2%	2%	2%	45%	100%

⑭石鏃

	PTf	粘板岩	合計
点数	2	1	3
割合	67%	33%	100%

⑮打製石斧

	Ho	頁岩	FGd	Da	安山岩	片岩	不明	合計
点数	10	6	2	1	1	1	5	26
割合	38%	23%	8%	4%	4%	4%	19%	100%

⑯磨製石斧

	Ho	FGd	頁岩	凝灰岩	蛇紋岩	ヒン岩	砂岩	粘板岩	斑岩	不明	合計
点数	4	4	4	2	2	1	1	1	1	10	30
割合	13%	13%	13%	8%	8%	3%	3%	3%	3%	33%	100%

⑰石斧未成品

	砂岩	FDi	Da	安山岩	FGd	斑岩	頁岩	不明	合計
点数	2	2	1	1	1	1	1	3	12
割合	17%	17%	8%	8%	8%	8%	8%	26%	100%

⑱礫器

	Ho	FGd	合計
点数	1	1	2
割合	50%	50%	100%

⑲不定形石器

	頁岩	Ho	FGd	砂岩	FDi	Da	ヒン岩	メノウ	安山岩	粘板岩	不明	合計
点数	11	8	8	5	3	2	1	1	1	1	20	61
割合	18%	13%	13%	8%	5%	3%	2%	2%	2%	2%	32%	100%

⑳敲磨器

	安山岩	Da	FGd	不明	合計
点数	19	17	2	17	55
割合	34%	31%	4%	31%	100%

㉑磨石

	Da	安山岩	流紋岩	不明	合計
点数	17	16	1	22	56
割合	30%	29%	2%	39%	100%

㉒敲石

	安山岩	Da	FGd	ヒン岩	Gp	凝灰岩	FGd/Gr	斑岩	流紋岩	不明	合計
点数	84	33	2	1	1	1	1	1	1	166	291
割合	27%	10%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%	55%	100%

㉓台石

	安山岩	Da	Ho	石英脈	不明	合計
点数	26	4	1	1	53	85
割合	31%	5%	1%	1%	62%	100%

㉔石皿

	安山岩	Ap	Da	ヒン岩	Gd	Gp	石英脈	不明	合計
点数	10	1	1	1	1	1	1	9	25
割合	40%	4%	4%	4%	4%	4%	4%	36%	100%

㉕石錘

	Da	安山岩	砂岩	頁岩	合計
点数	1	1	1	1	4
割合	25%	25%	25%	25%	100%

㉖砥石

	Da	頁岩	合計
点数	2	1	3
割合	67%	33%	100%

㉗スタンプ形石器

	安山岩	斑岩	合計
点数	1	1	2
割合	50%	50%	100%

㉘石棒・石棒未成品

	粘板岩	Ho	頁岩	Da	安山岩	Gd	不明	合計
点数	16	10	8	1	1	1	5	42
割合	39%	24%	19%	2%	2%	2%	12%	100%

㉙円板状石器

	Da	安山岩	頁岩	凝灰岩	砂岩	斑岩	FGd	TSh	FDi	不明	合計
点数	18	14	14	6	5	3	2	1	1	19	83
割合	22%	17%	17%	7%	6%	4%	2%	1%	1%	23%	100%

㉚玉・有孔石製品

	頁岩	斑岩	Da	安山岩	合計
点数	3	1	1	1	6
割合	49%	17%	17%	17%	100%

㉛石製品

	頁岩	安山岩	Da	Ho	礫岩	不明	合計
点数	3	2	1	1	1	1	9
割合	34%	22%	11%	11%	11%	11%	100%

㉜異形石器

	頁岩	合計
点数	2	2
割合	100%	100%

（6）金属製品・鉄滓（第117図、写真図版90、第53表）

鉄製の鋌（f1）が1点、SI02より出土している。本竪穴建物から出土した土器の年代から9世紀中葉のものと考えられる。岩手県内の古代の鋌の類例としては、宮古市島田Ⅱ遺跡第7次調査赤28B区のSI168A竪穴住居跡（10世紀中葉）出土のもの（西澤2002）がある。その他、遺構外から刀子が1点出土しているが、時期不明のため掲載していない。

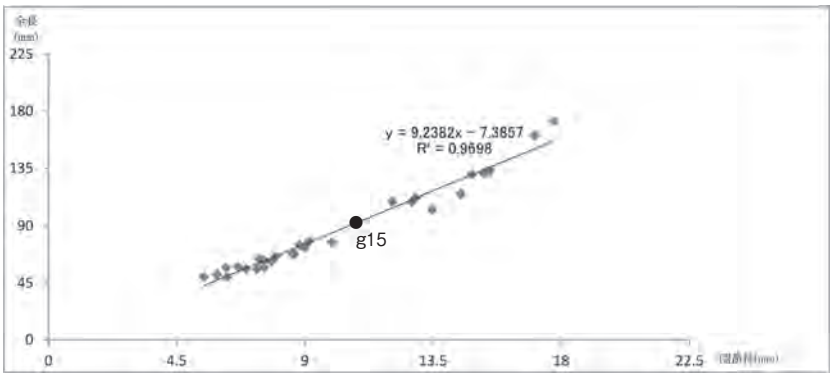
鉄滓は9点出土している。すべて、調査区中央部からの出土で古代の遺構に伴わないため掲載していない。

（7）動 物 遺 存 体（写真図版139、第56表）

遺構内の堆積土のうち焼土・炭化物を多く含む層、竪穴建物の炉内及びカマド内の堆積土を採取して洗浄し、骨片の有無を確認した。採取された骨片は、佐々木務氏（岩手県教育委員会）に同定を依頼し、その結果を第56表に示した。骨片の確認できた遺構はSI01・08ab・13、SK39、SN01・02・04・05、SR03・04、P16である（第49表）。骨片の種別は魚綱がサケ科、コイ科、ギバチと淡水性の魚、哺乳綱はイノシシ・ニホンジカ、種名不明の鳥綱、両生綱はカエル類・ヒキガエル・ヘビ類などが確認された。ギバチ（g15）は第69図から全長9.42cmと推定される（佐々木氏計算）。また、SR04埋設土器内からは、成人の下顎右第二大臼歯・上顎右小臼歯を含む臼歯片・前頭骨が出土している。その他各遺構種類の傾向として、竪穴建物は魚綱と哺乳綱、焼土遺構はこれらに加え鳥綱や両生綱の骨片が含まれていた。

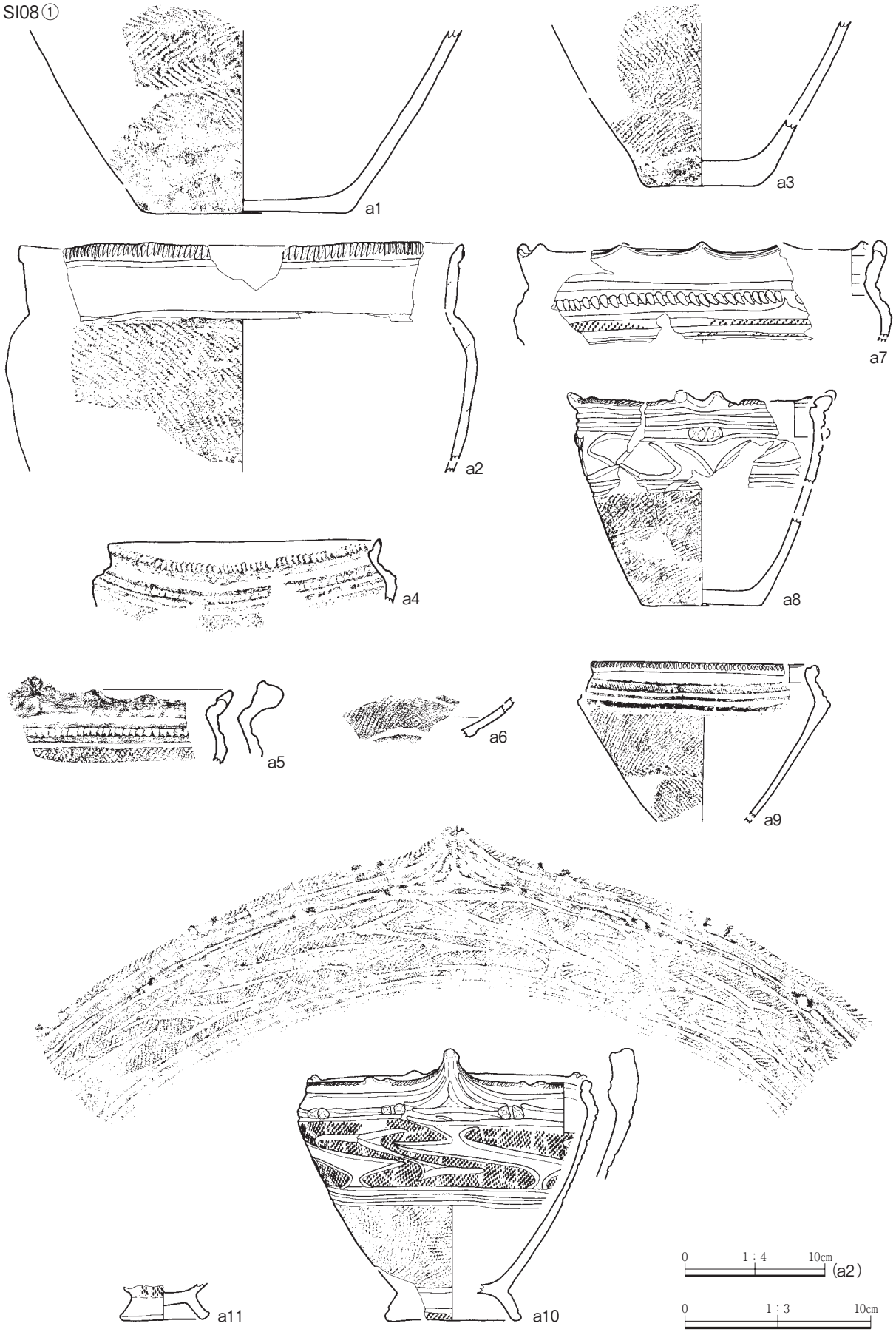
第49表　動物遺存体出土遺構一覧

種名	P16	SI01	SI08a	SI08b	SI13	SI13･E39	SK39	SN01	SN02	SN04	SN05	SR03	SR04
イノシシ			○										
ニホンジカ					○			○			○		
ギバチ								○					
コイ科								○					
サケ科					○								
カエル類								○	○				
ヒキガエル									○				
ヘビ類									○				
ヒト													○
不明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



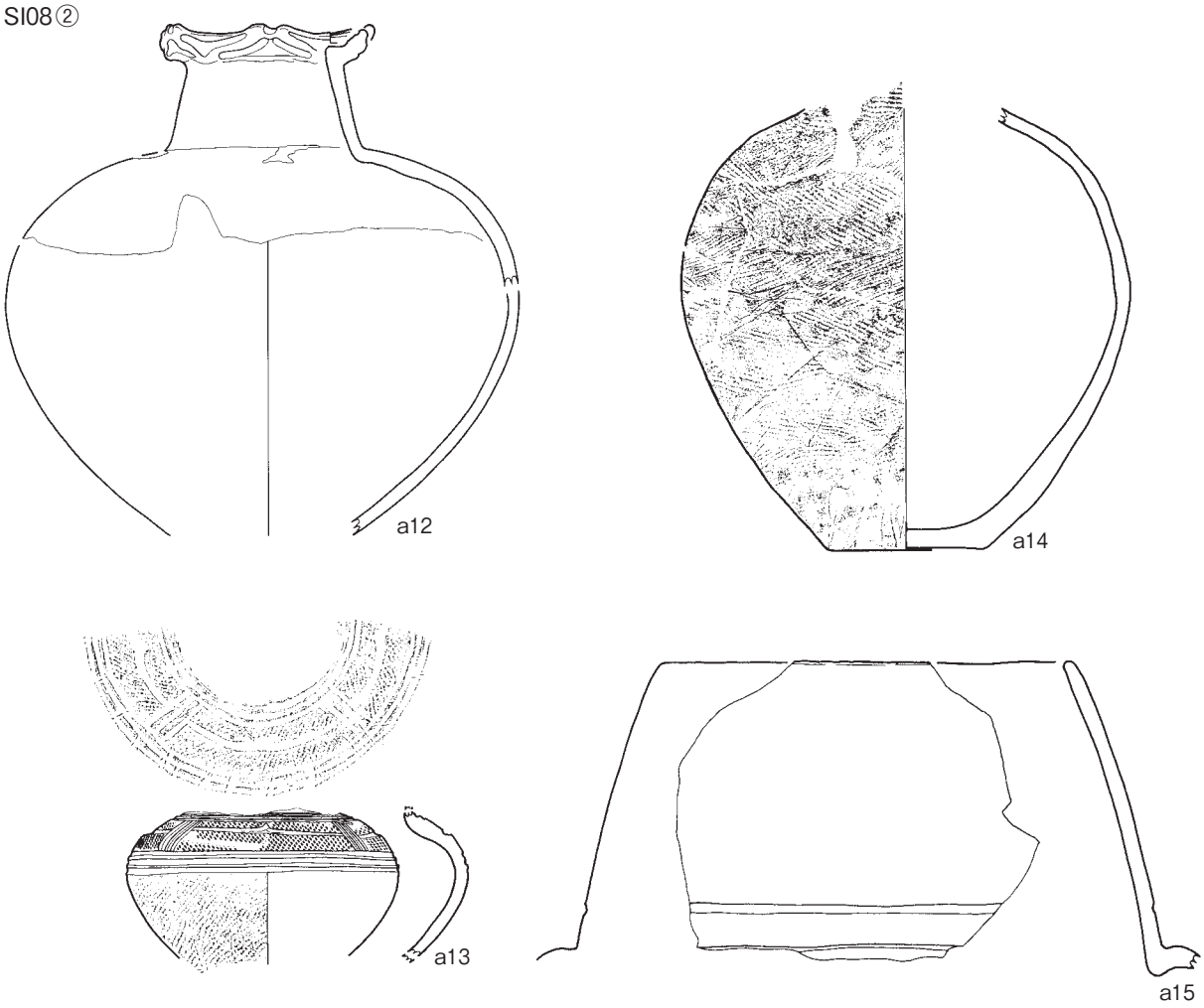
第69図　ギバチ関節長・全長相関図

2008年に北上川本流（上流域）及び支流で採集したギバチによって得られたもので、胸鰭棘の関節長と全長の相関関係を調べたもの。相関係数0.9698と高い値を示す。このグラフによってこの層出土のギバチの全長を推定すると9.24cmになる。

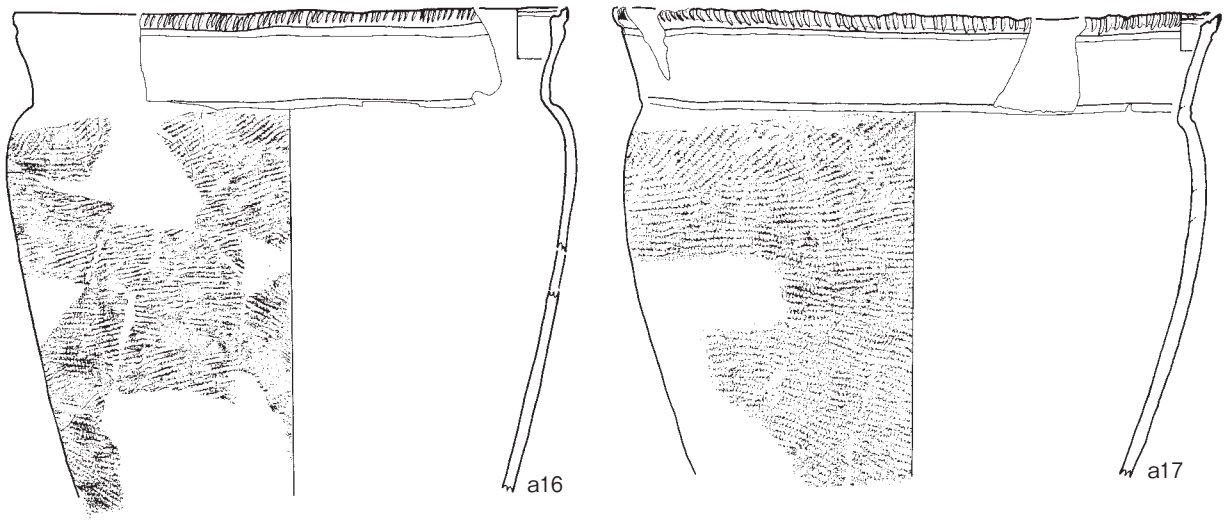


第70図　縄文遺構内出土土器（1）

SI08②



SI13①



0　1：4　10cm　(a16・17)

0　1：3　10cm

第71図　縄文遺構内出土土器（2）

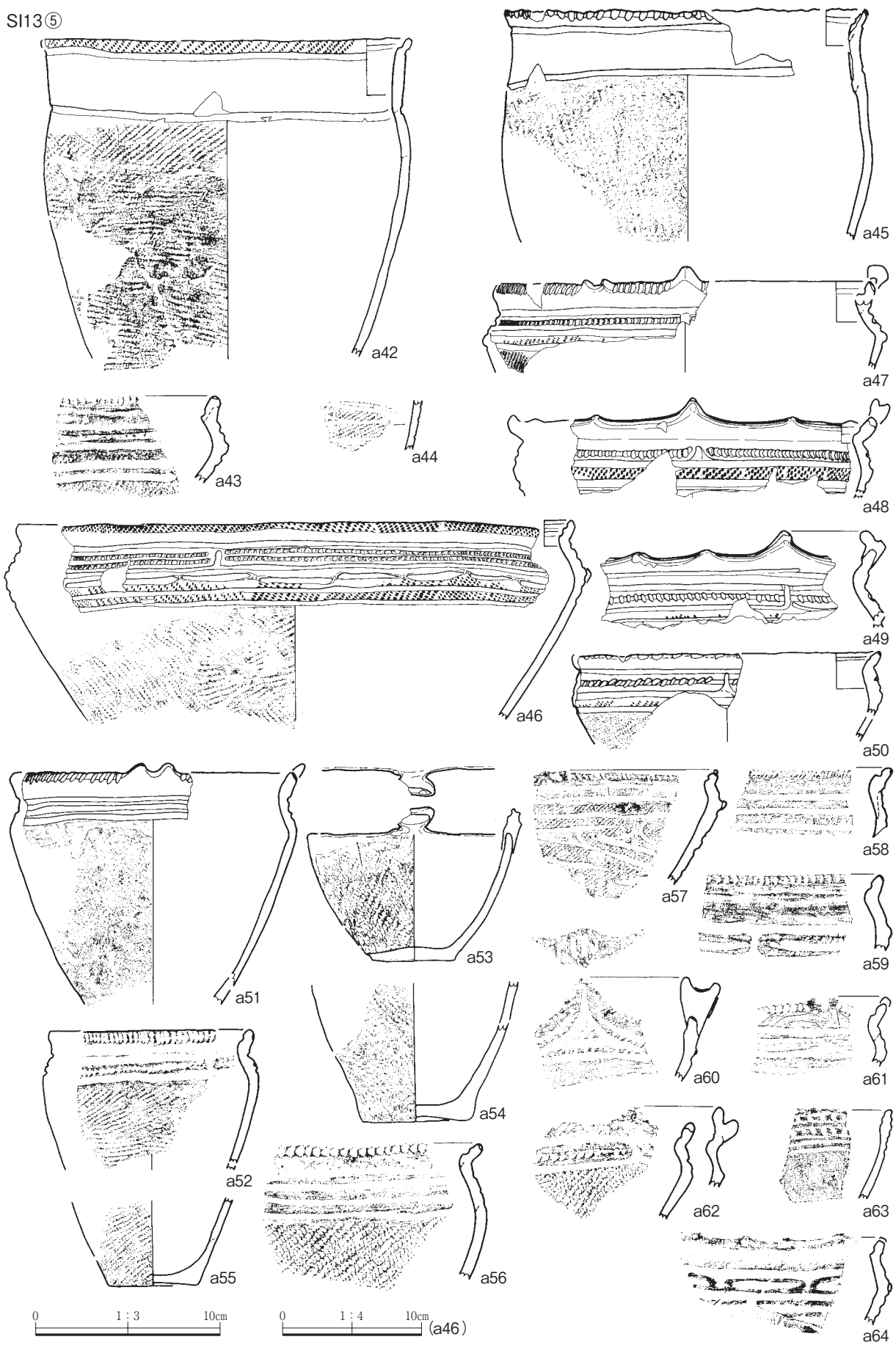
第72図　縄文遺構内出土土器（3）

SI13③

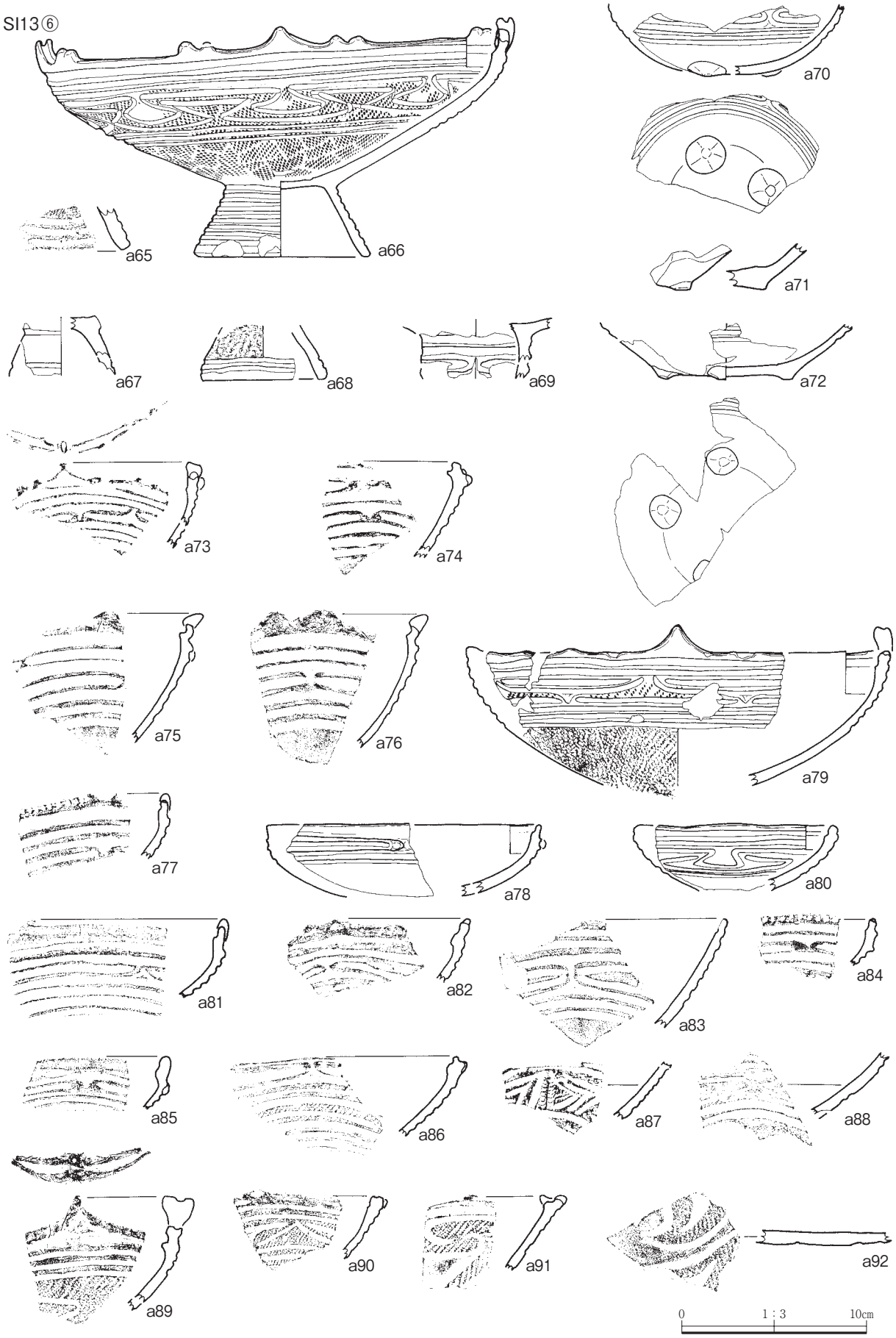
第73図　縄文遺構内出土土器（4）

SI13④

第74図　縄文遺構内出土土器（5）

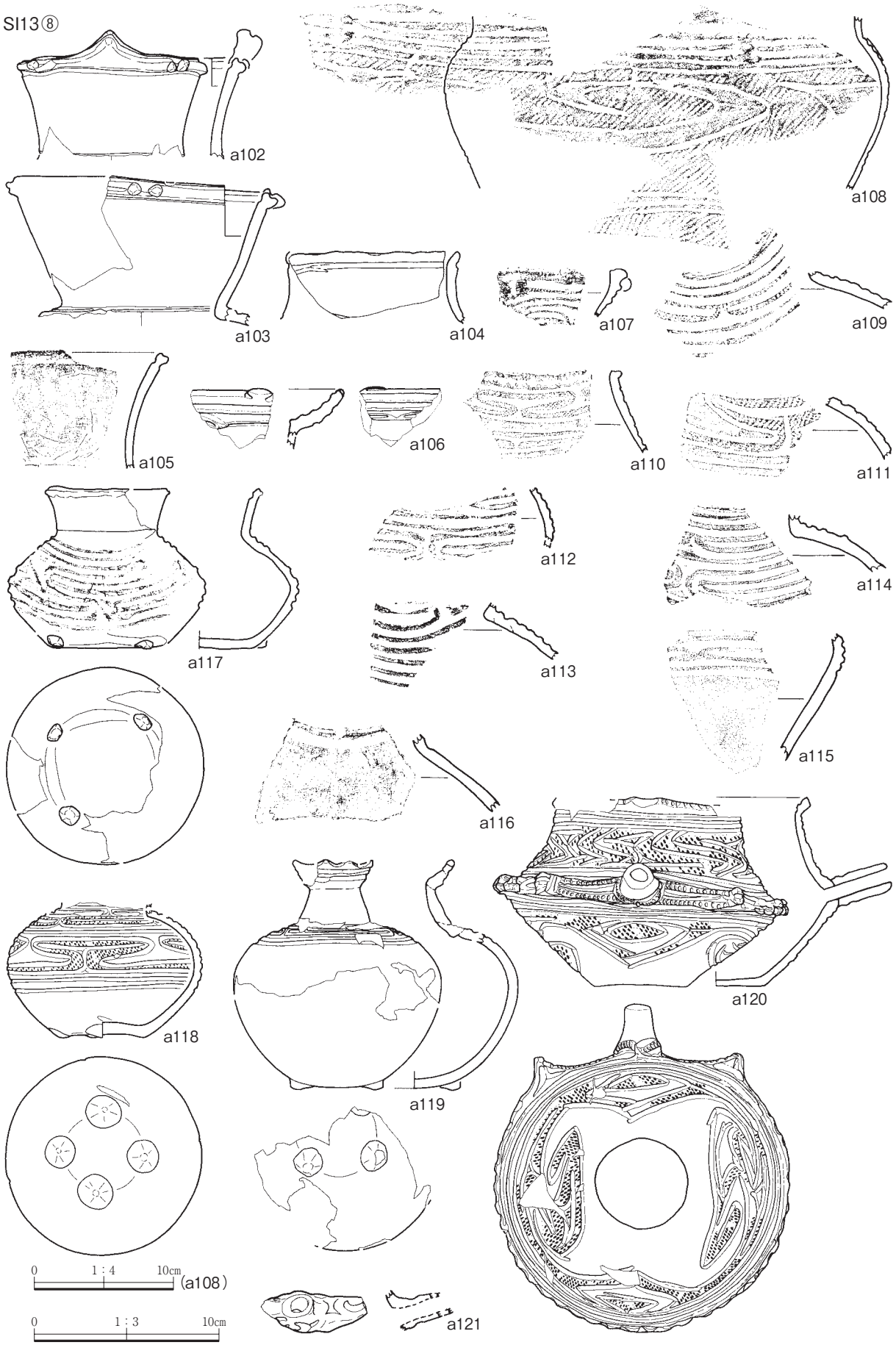


第75図　縄文遺構内出土土器（6）

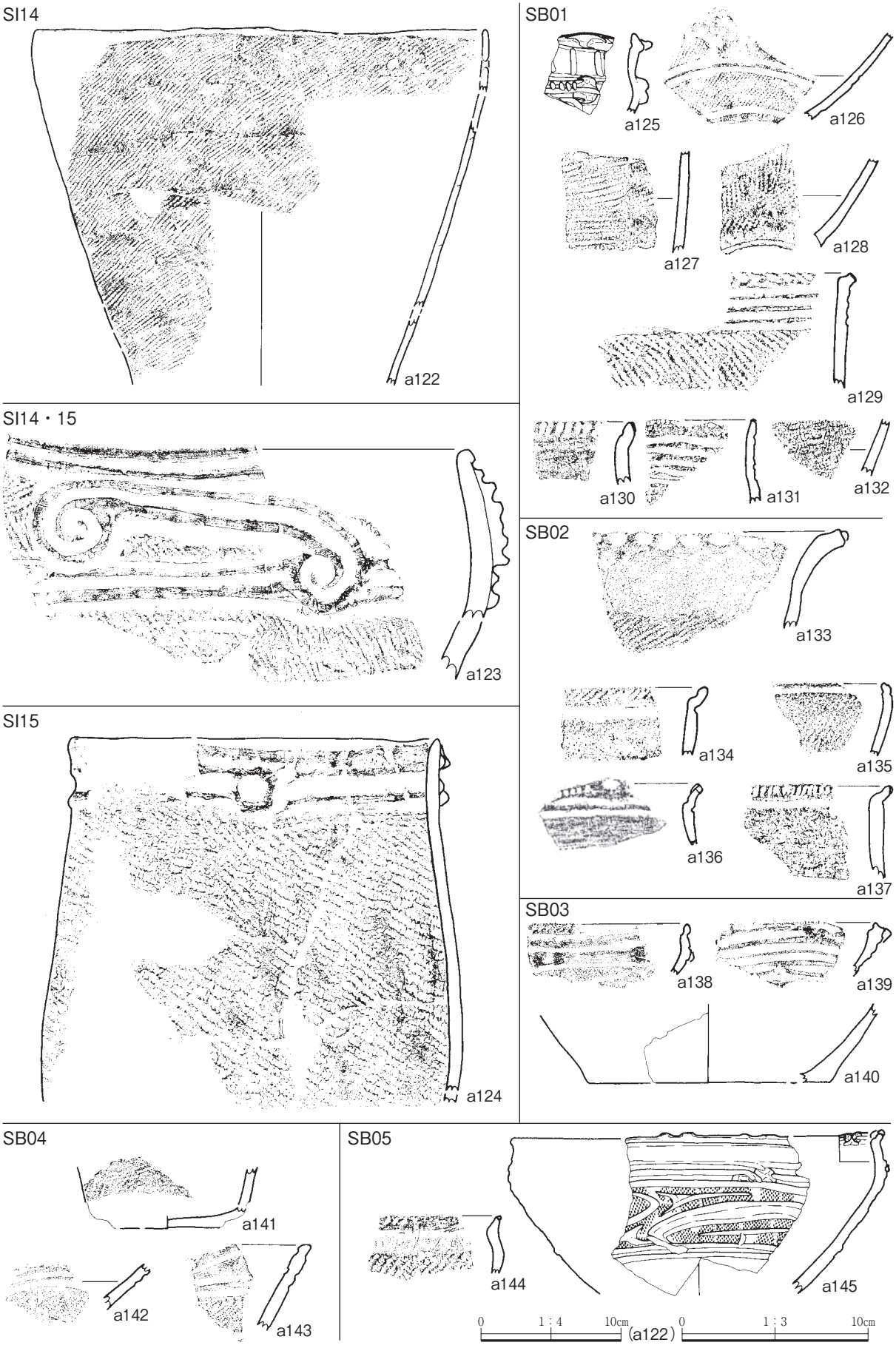


第76図　縄文遺構内出土土器（7）

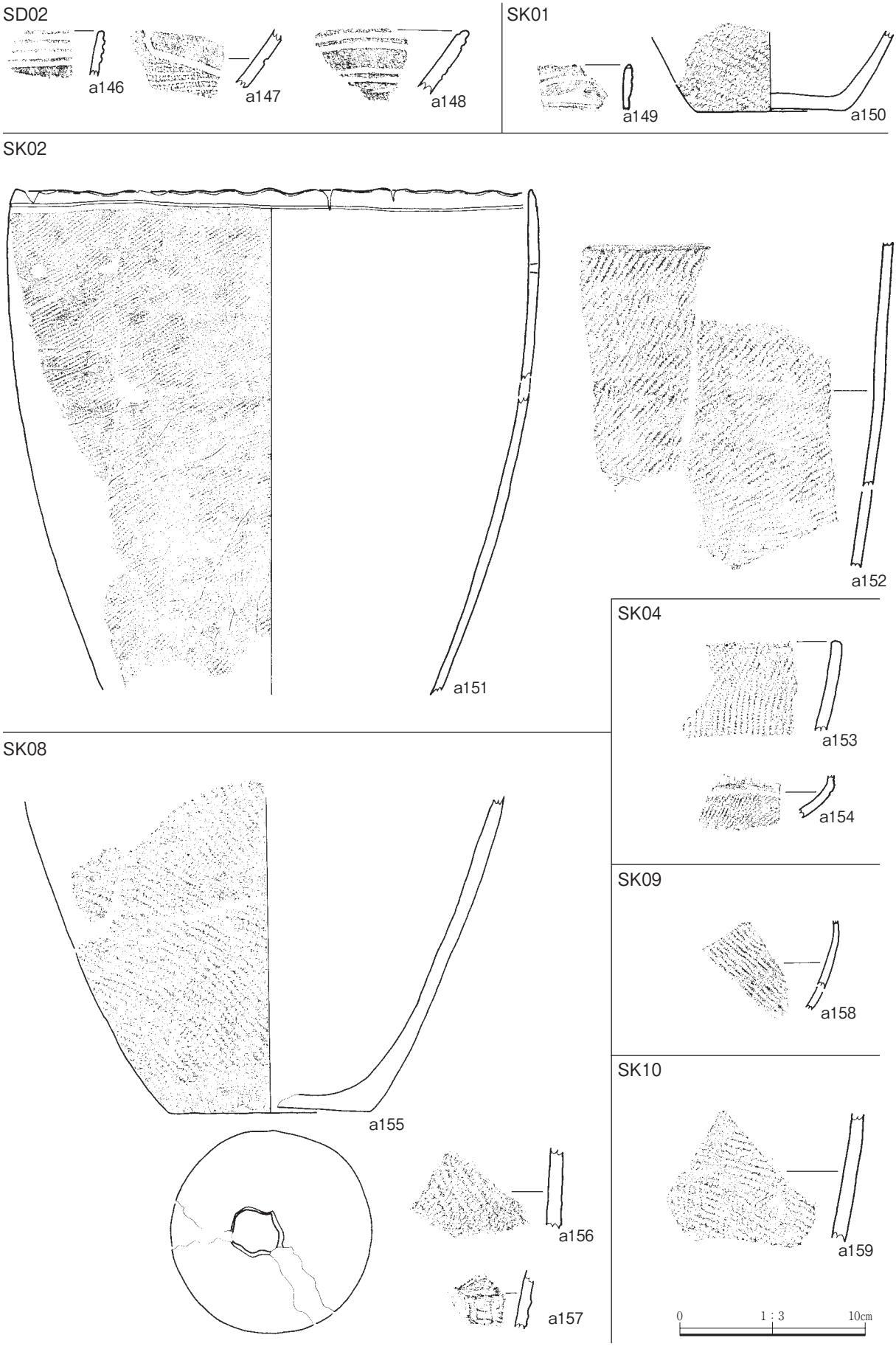
第77図　縄文遺構内出土土器（8）



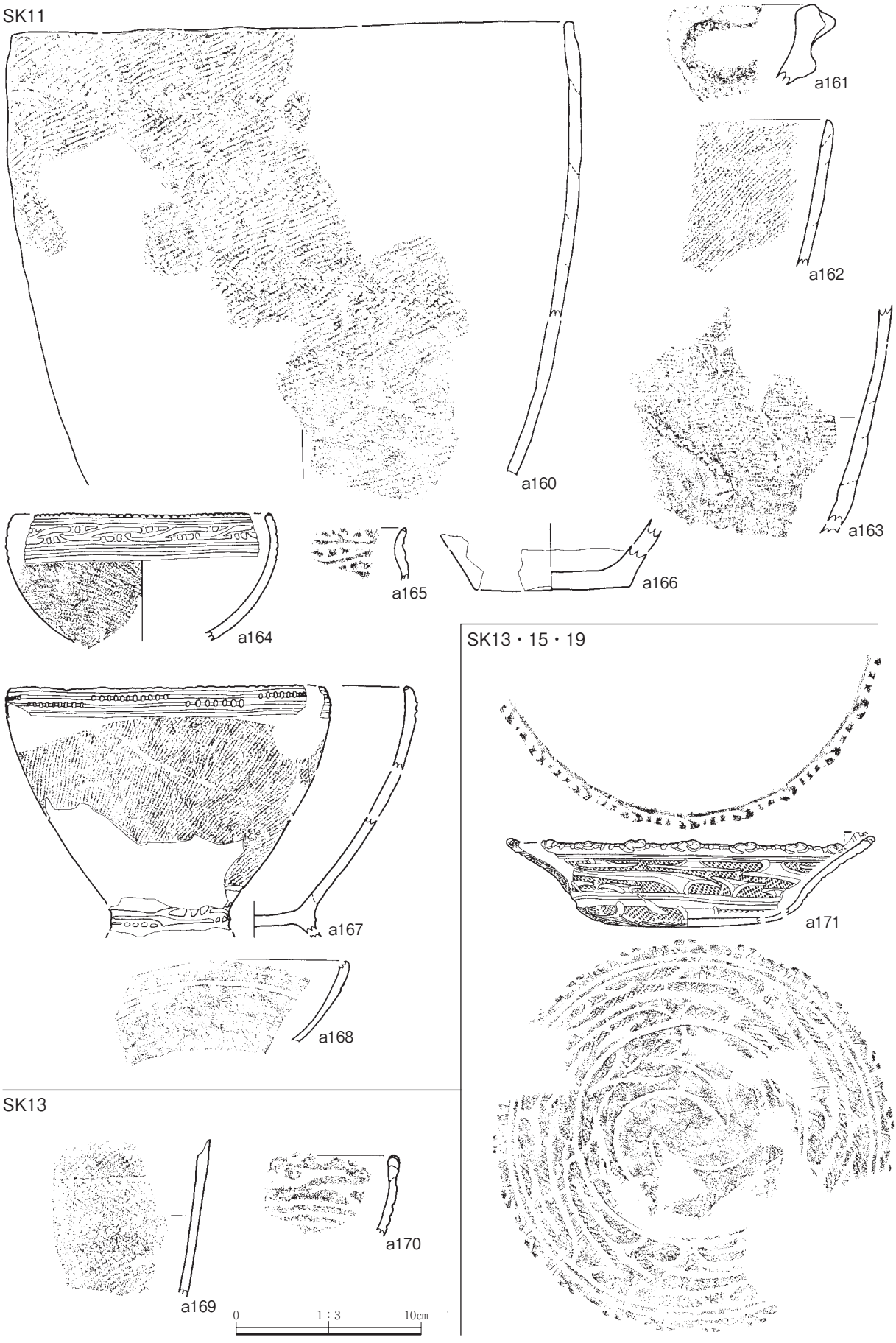
第78図　縄文遺構内出土土器（9）



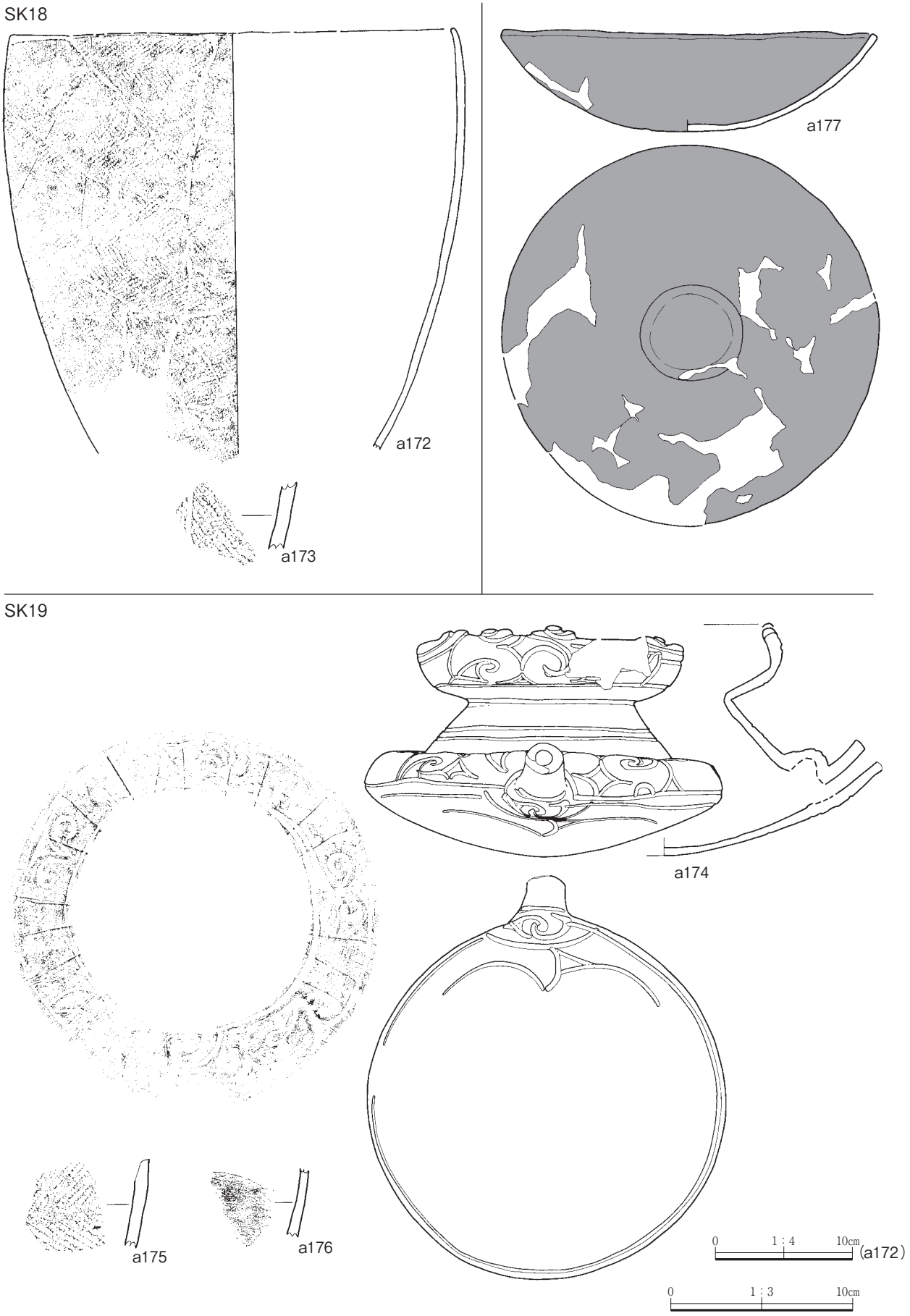
第79図　縄文遺構内出土土器(10)



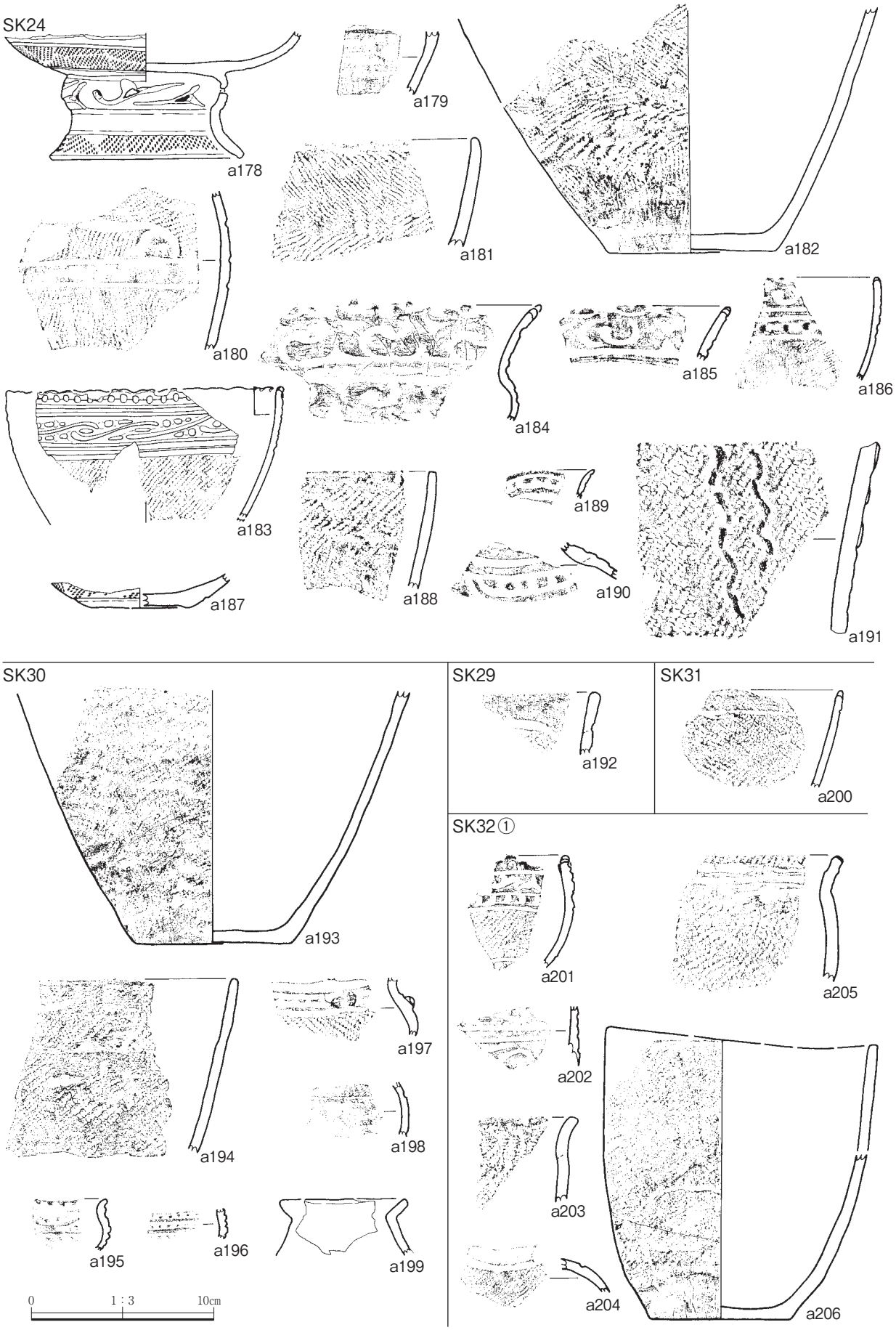
第80図　縄文遺構内出土土器（11）



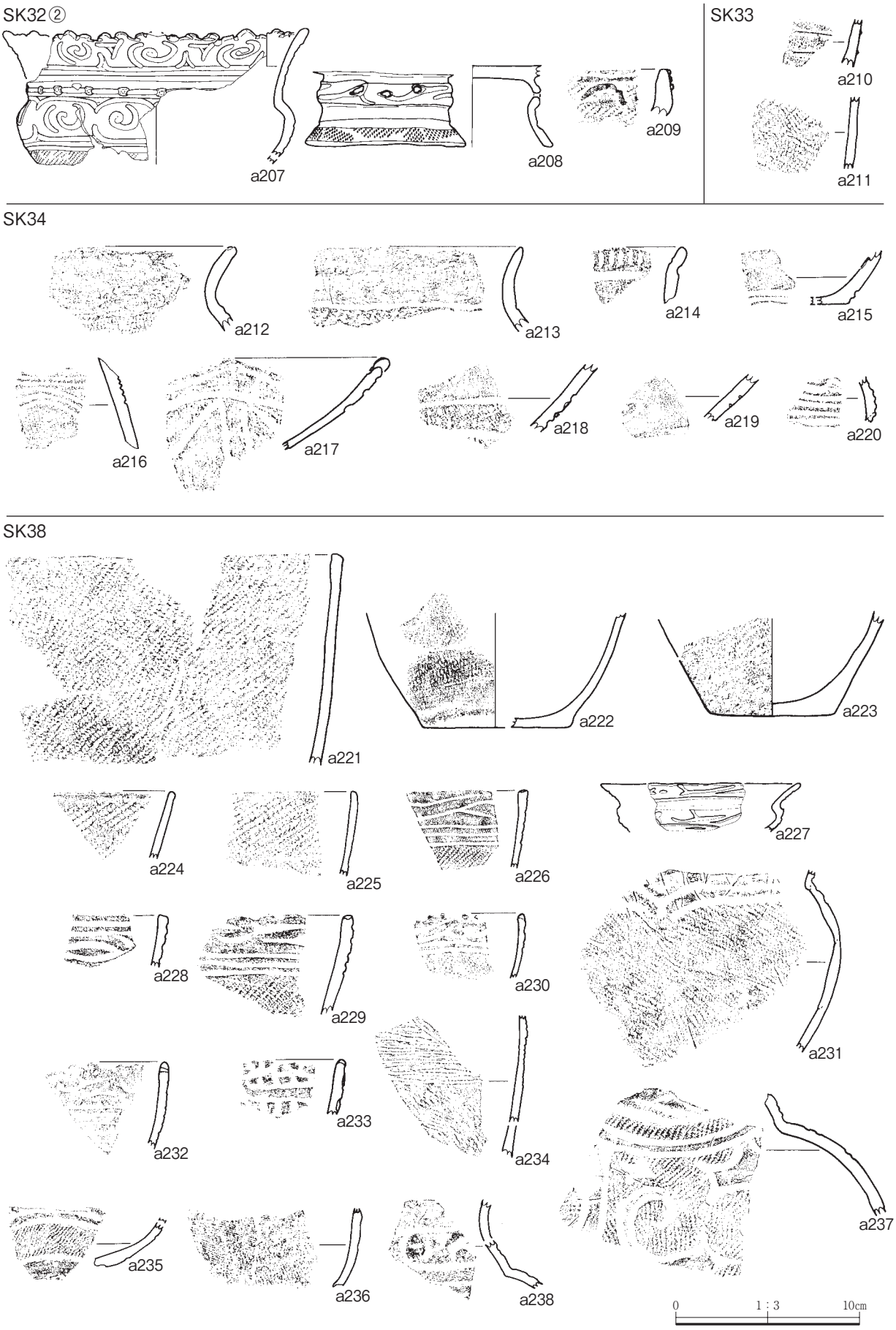
第81図　縄文遺構内出土土器（12）



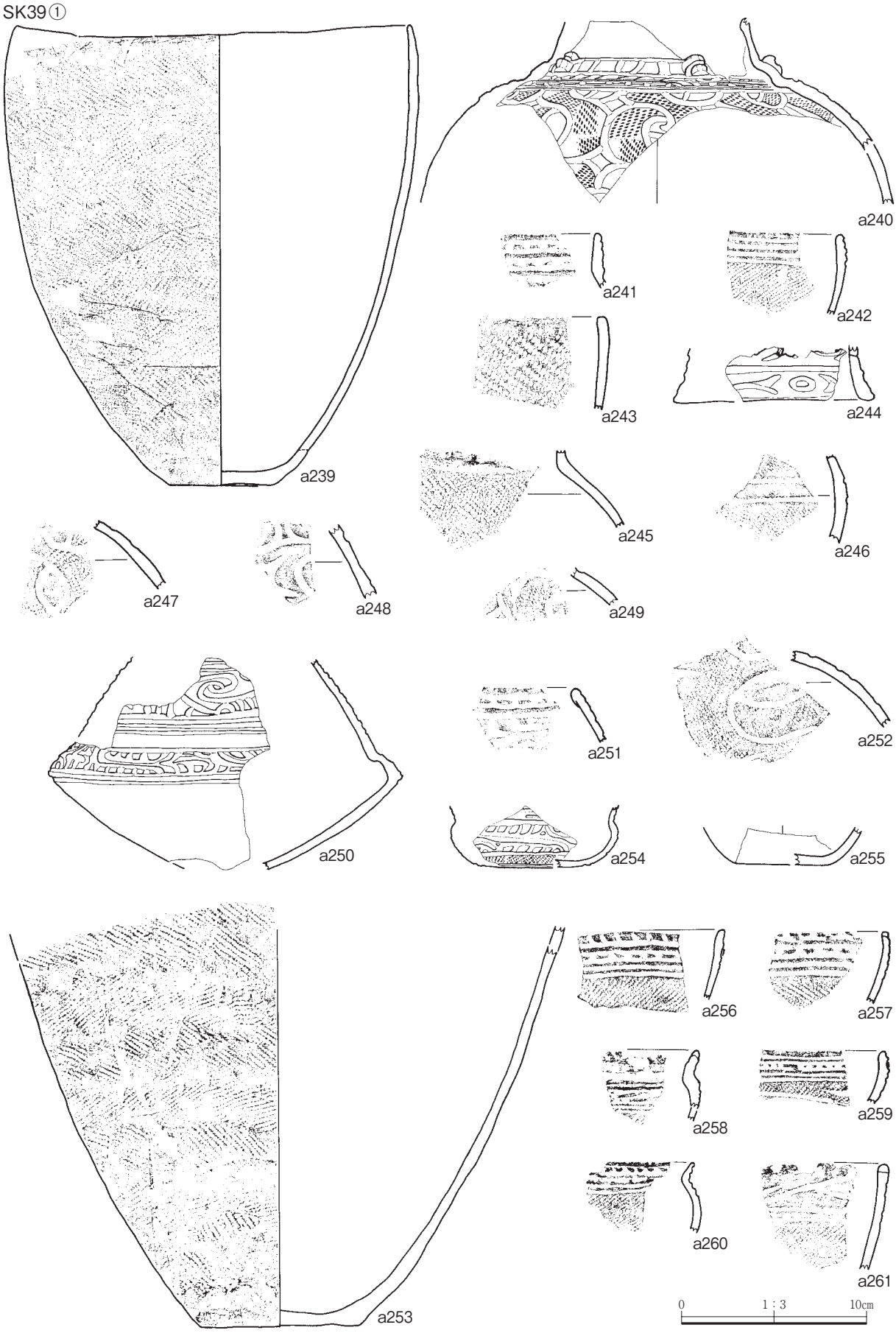
第82図　縄文遺構内出土土器（13）



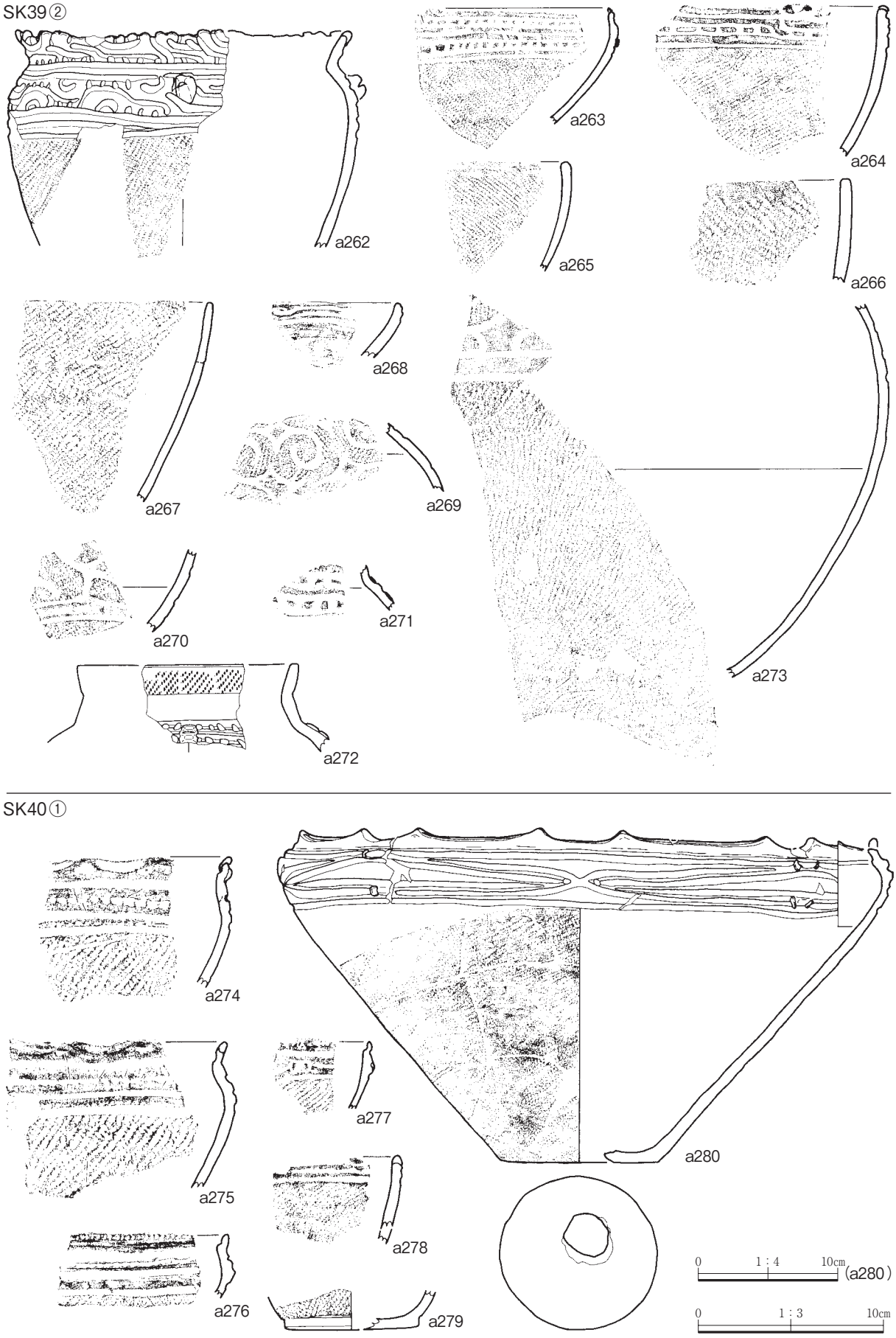
第83図　縄文遺構内出土土器（14）



第84図　縄文遺構内出土土器（15）



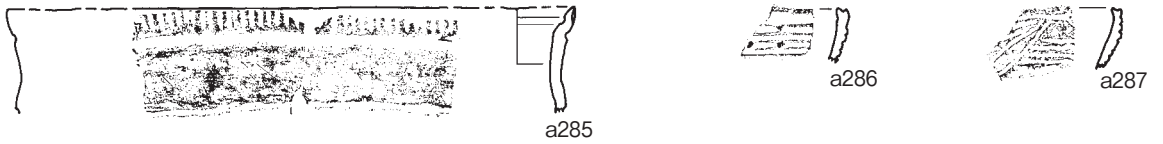
第85図　縄文遺構内出土土器（16）



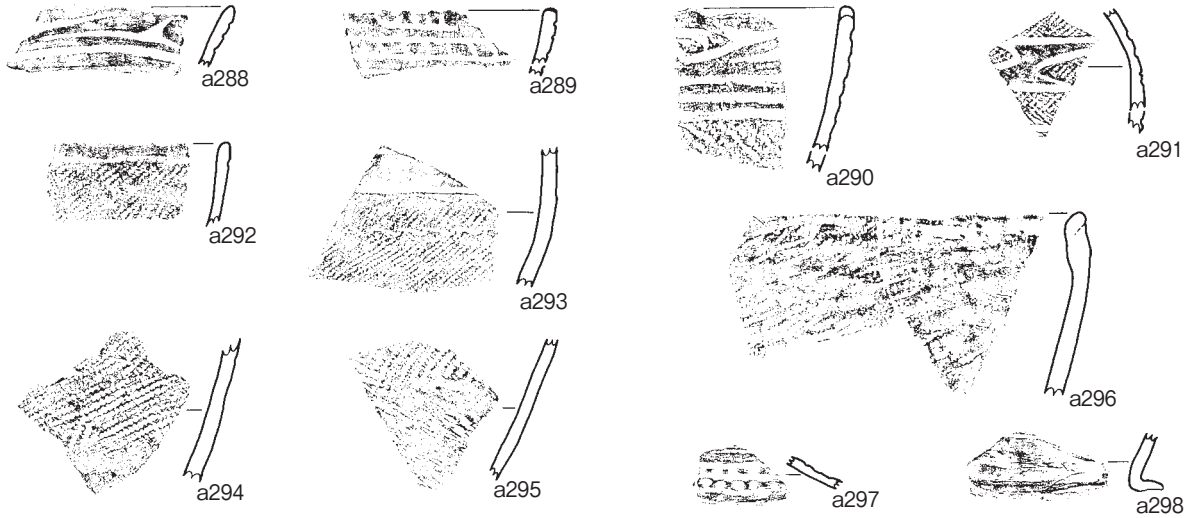
第86図　縄文遺構内出土土器(17)

SK40②

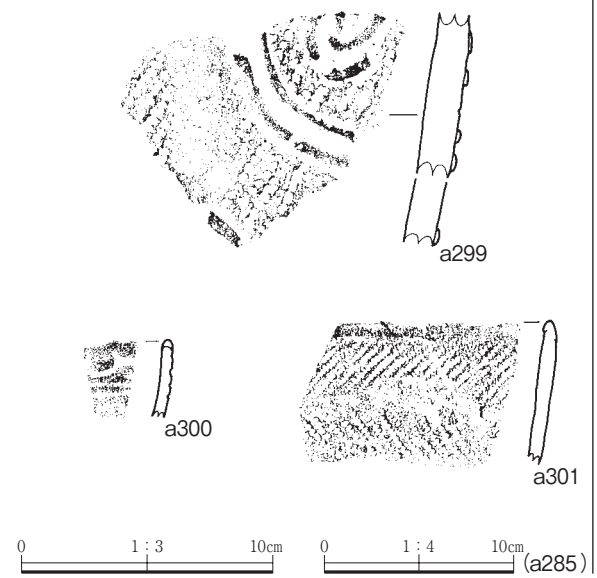
SK41



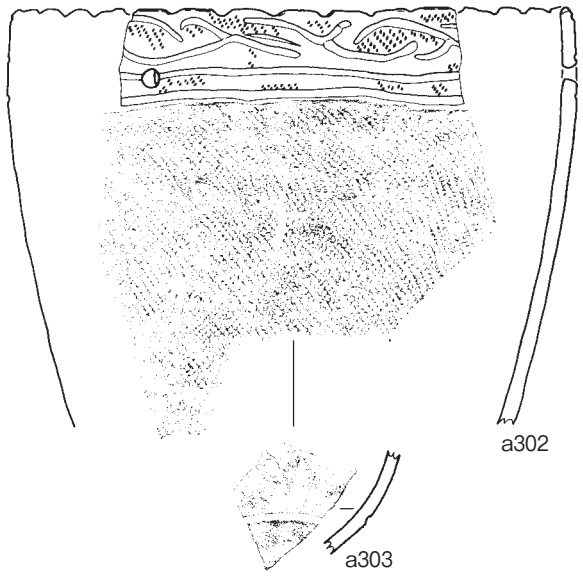
SK42



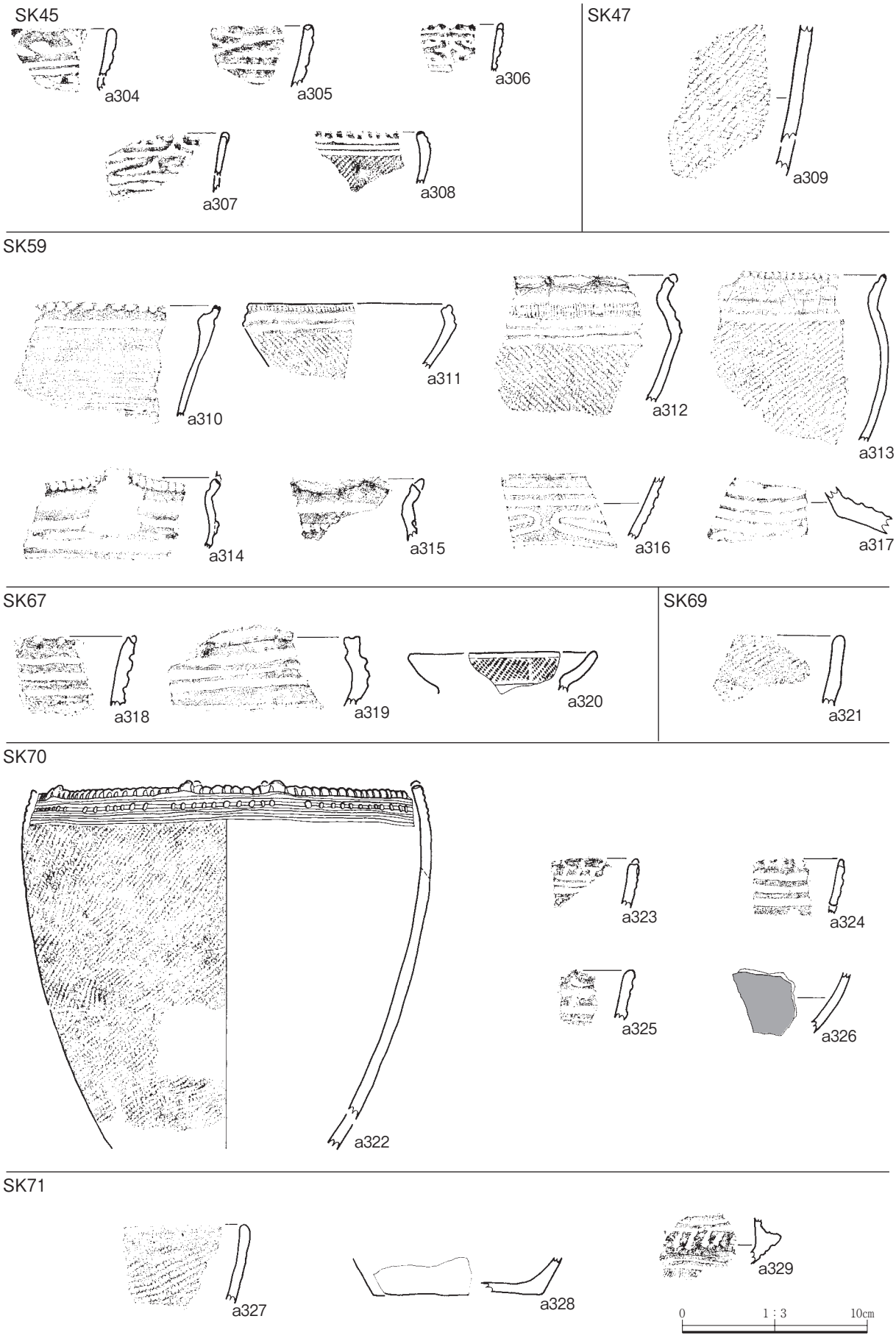
SK43



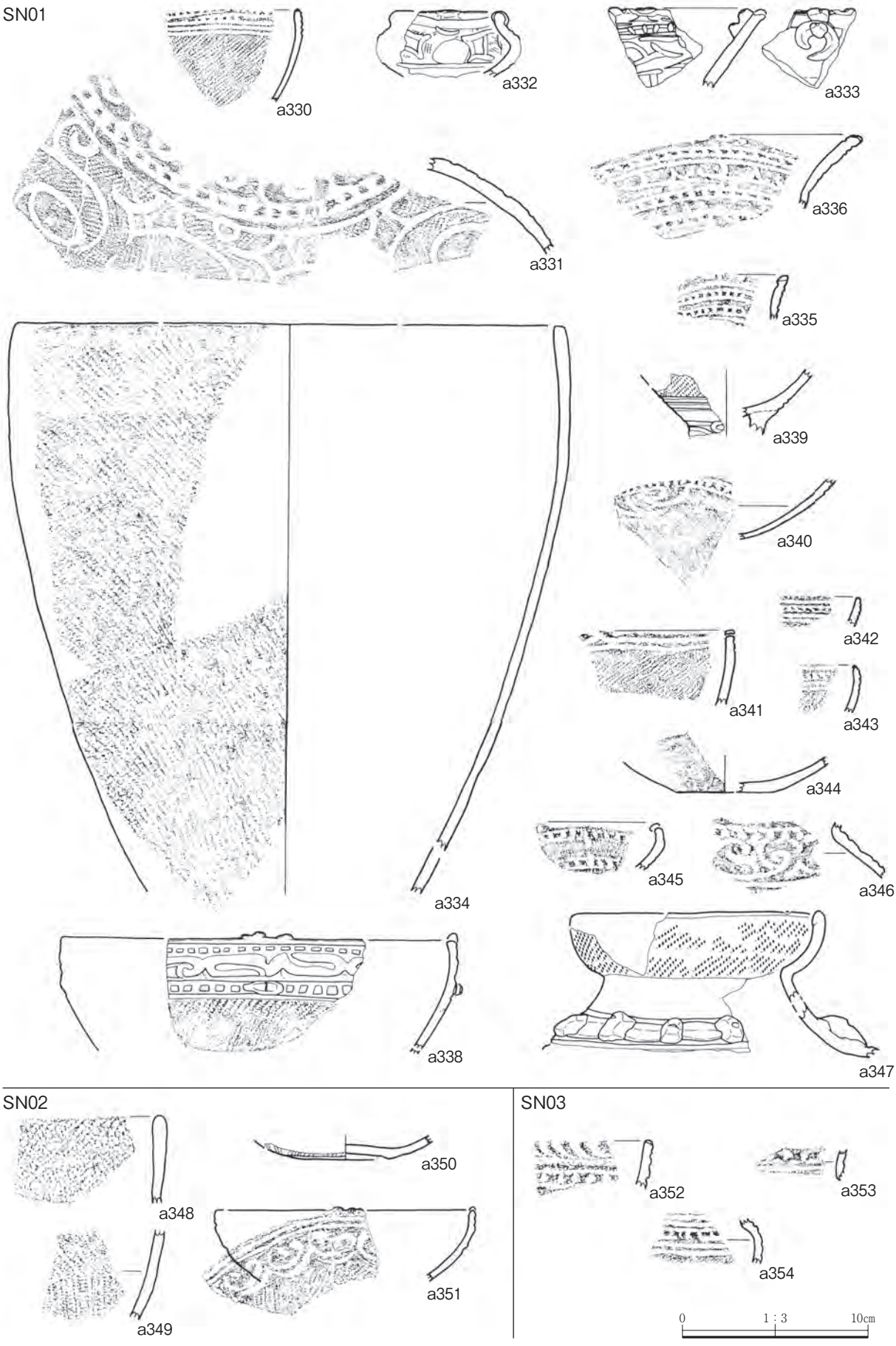
SK44



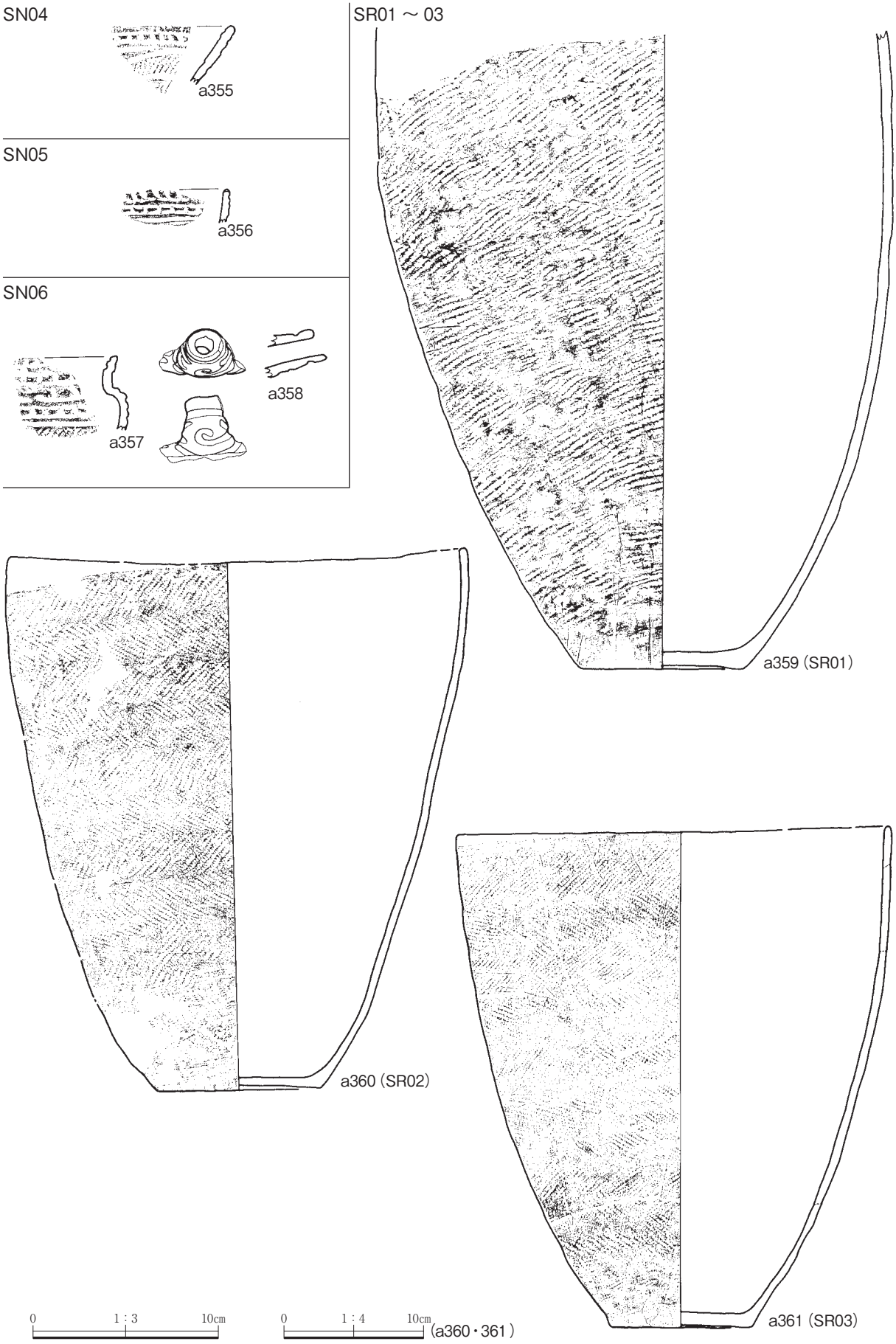
第87図　縄文遺構内出土土器(18)



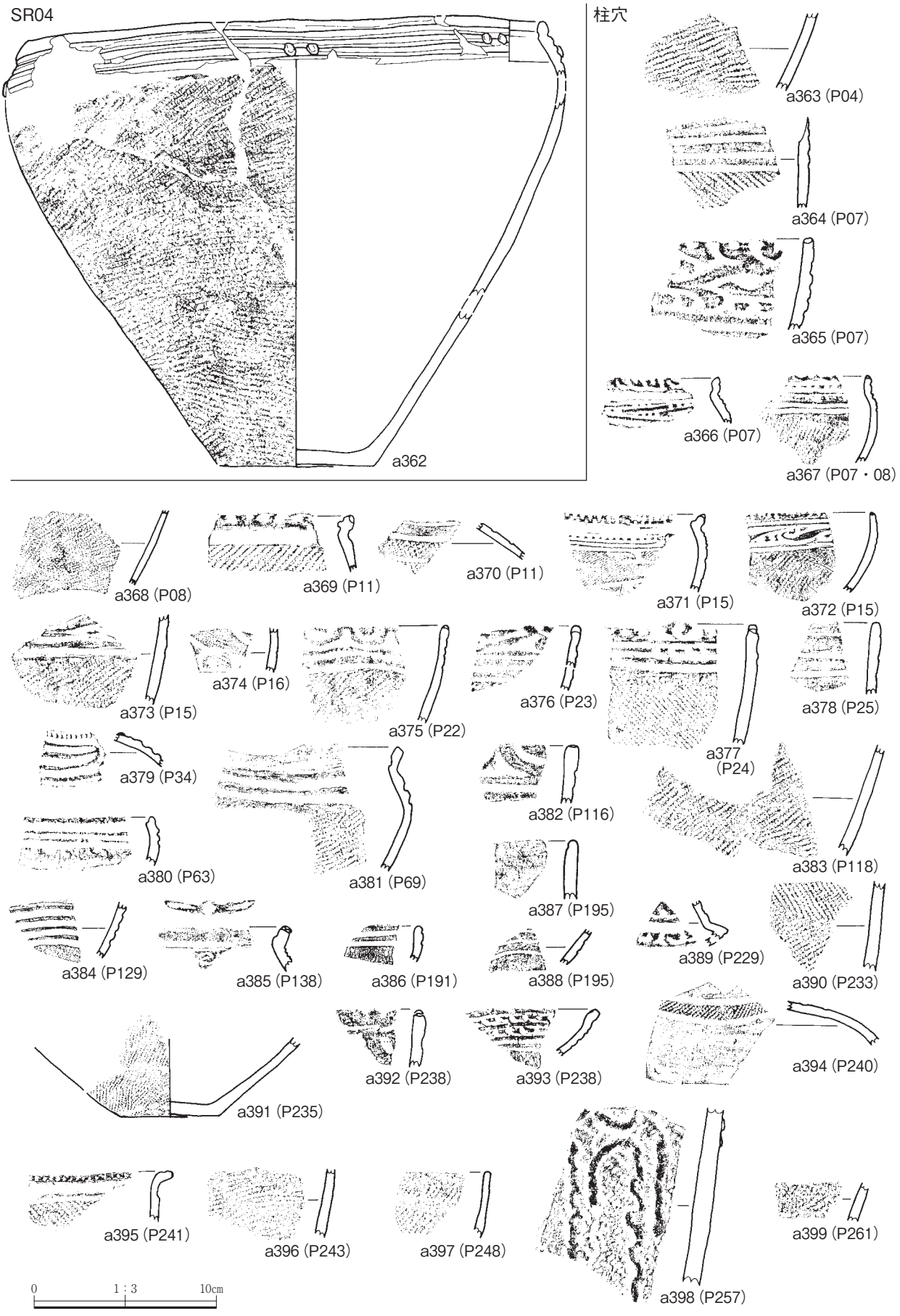
第88図　縄文遺構内出土土器（19）



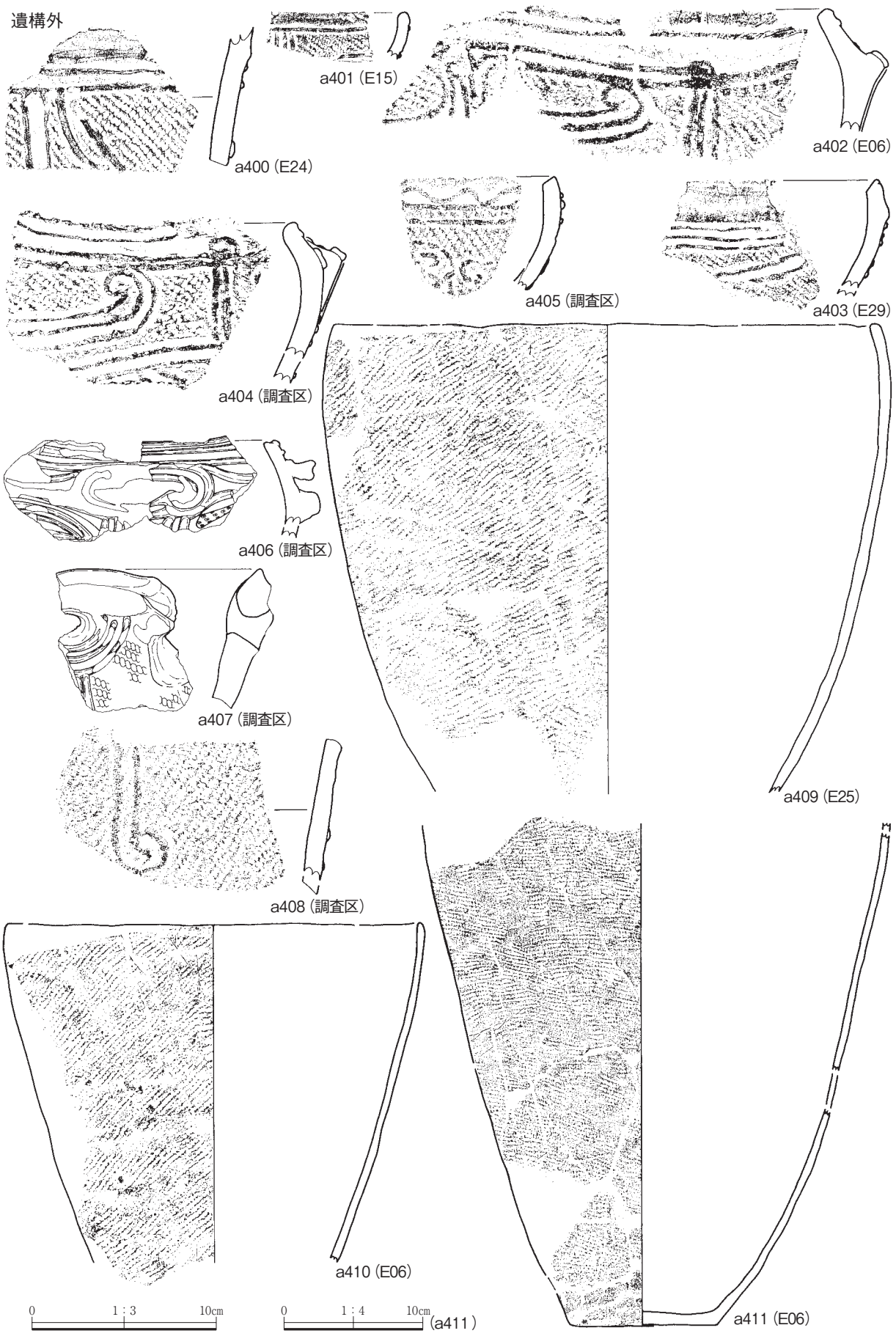
第89図　縄文遺構内出土土器（20）



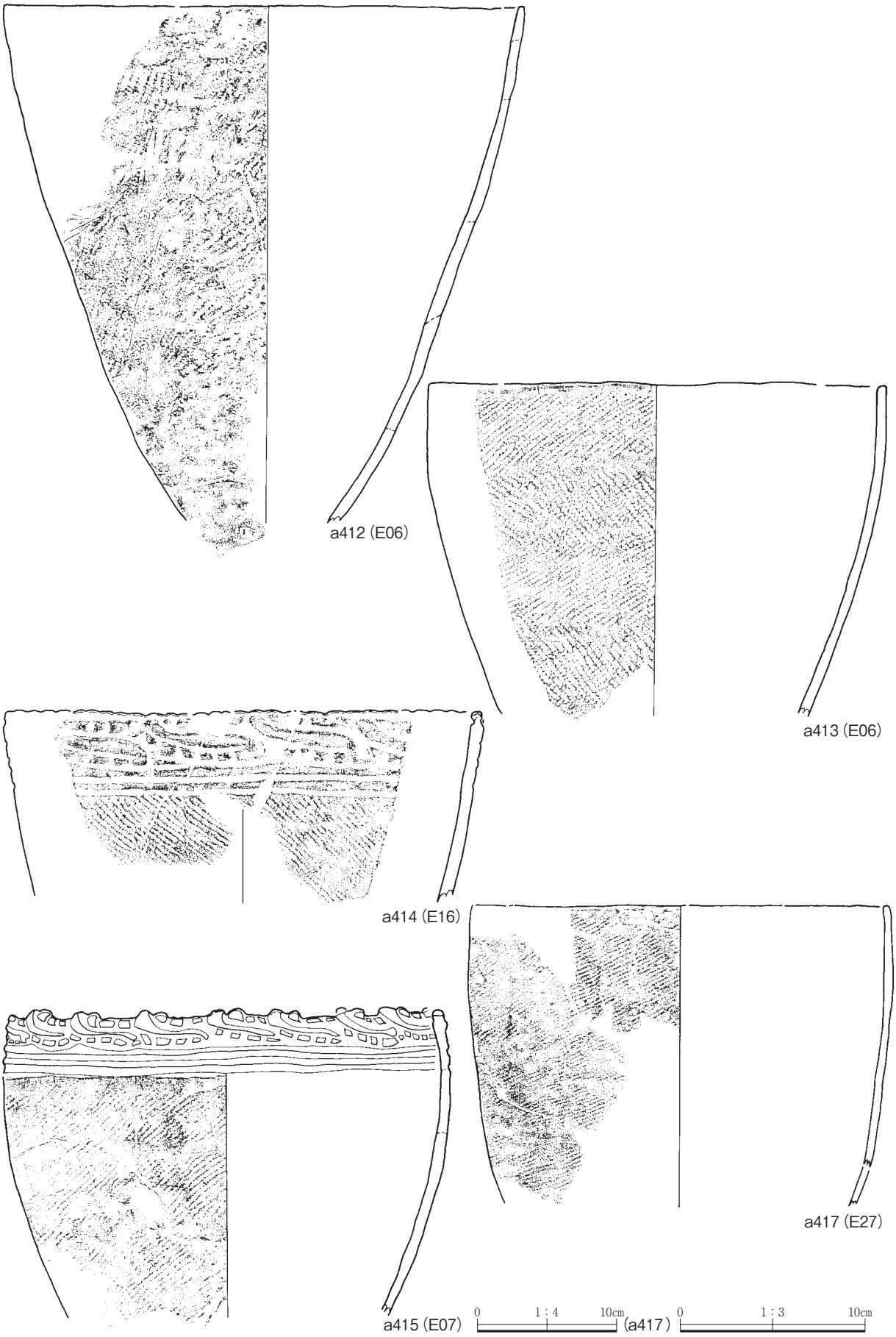
第90図　縄文遺構内出土土器（21）



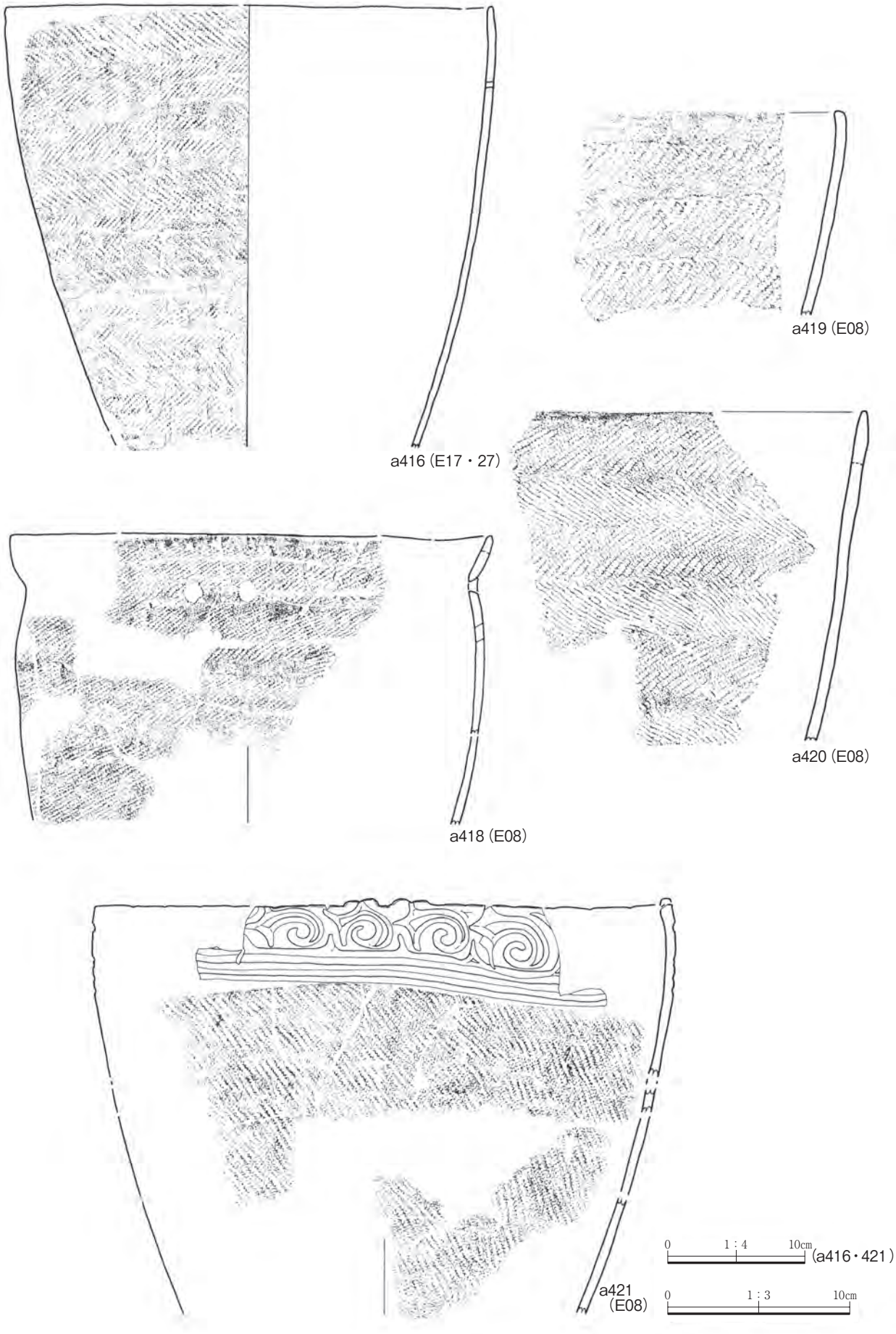
第91図　縄文遺構内出土土器 (22)



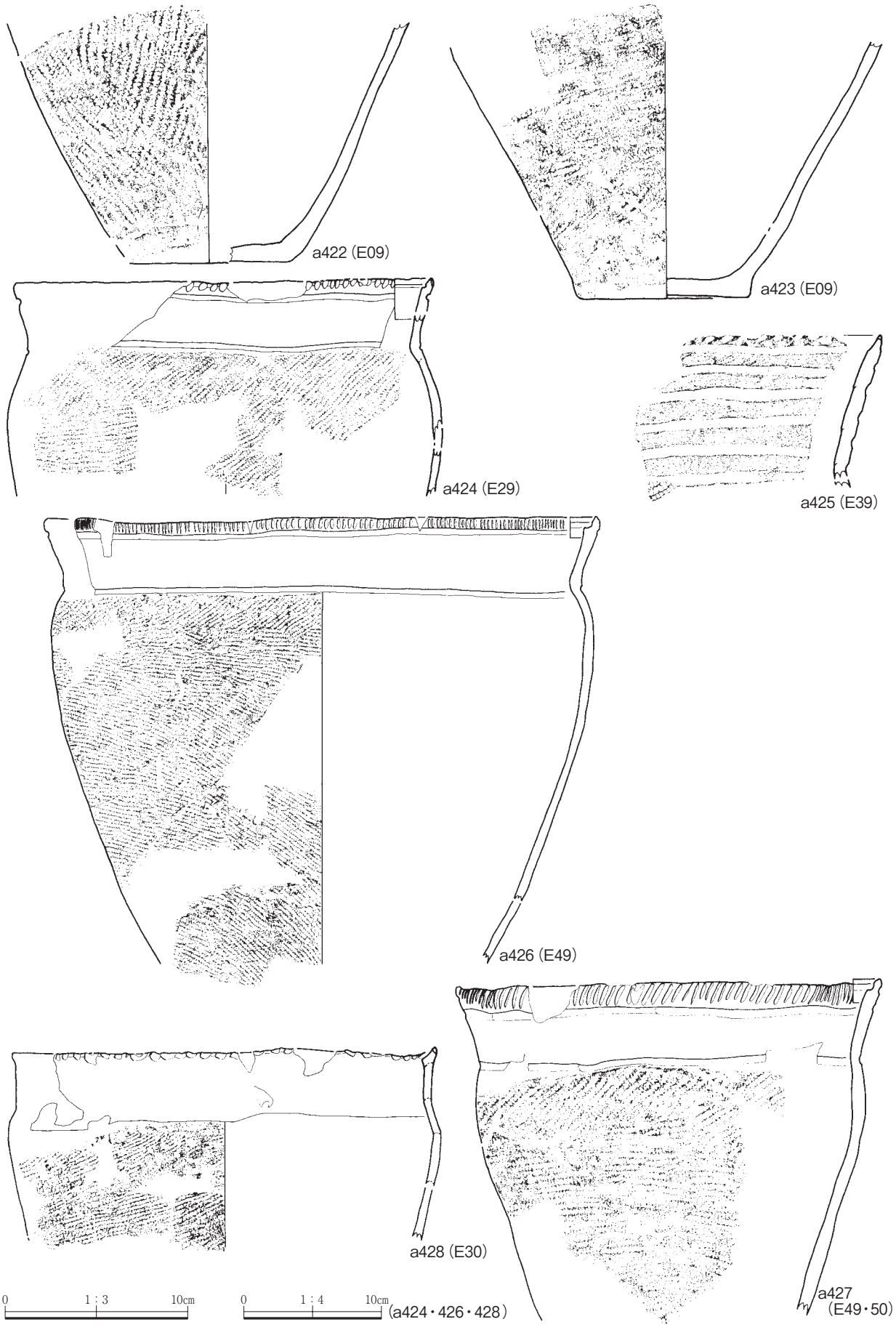
第92図　縄文遺構外出土土器（1）



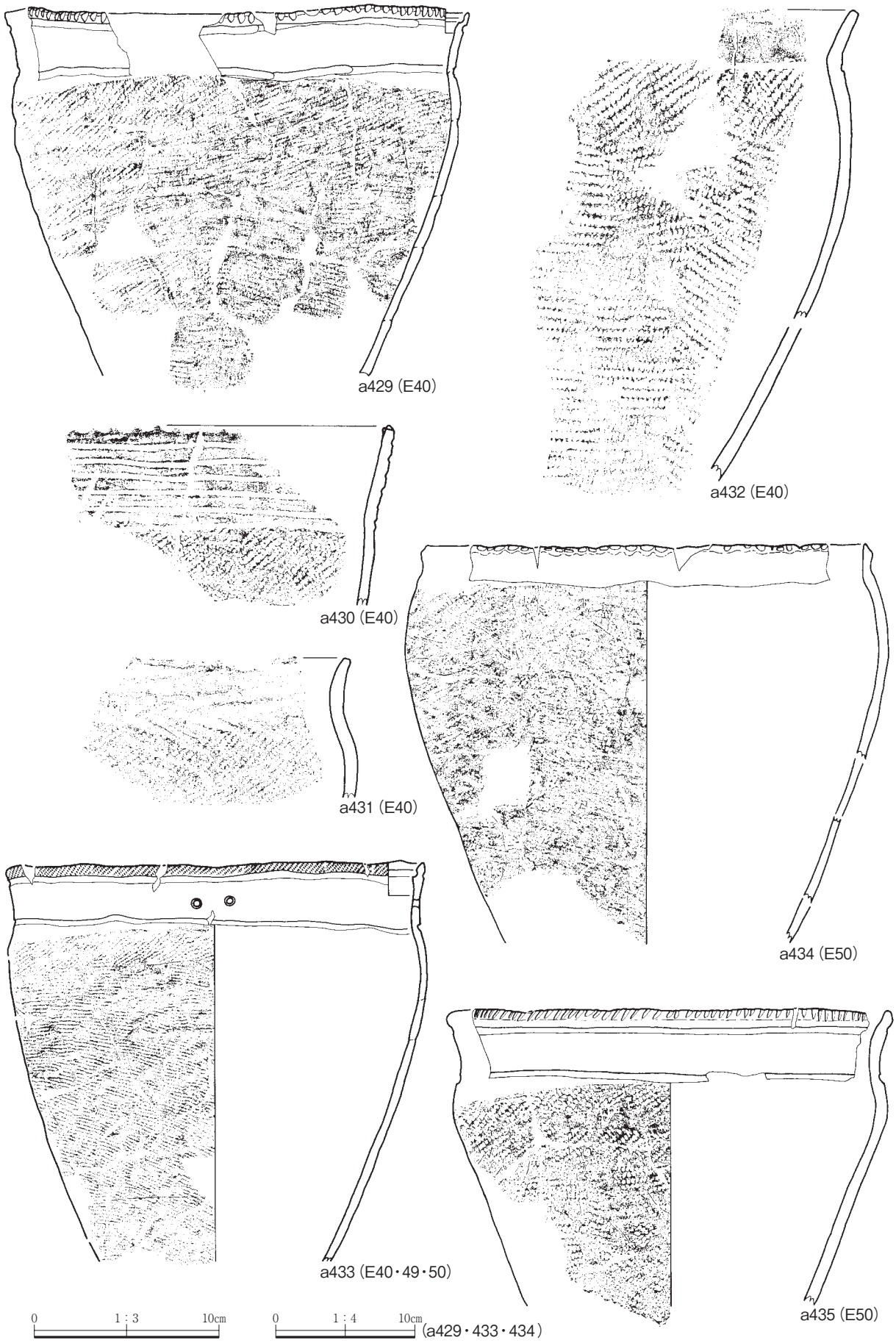
第93図　縄文遺構外出土土器（2）



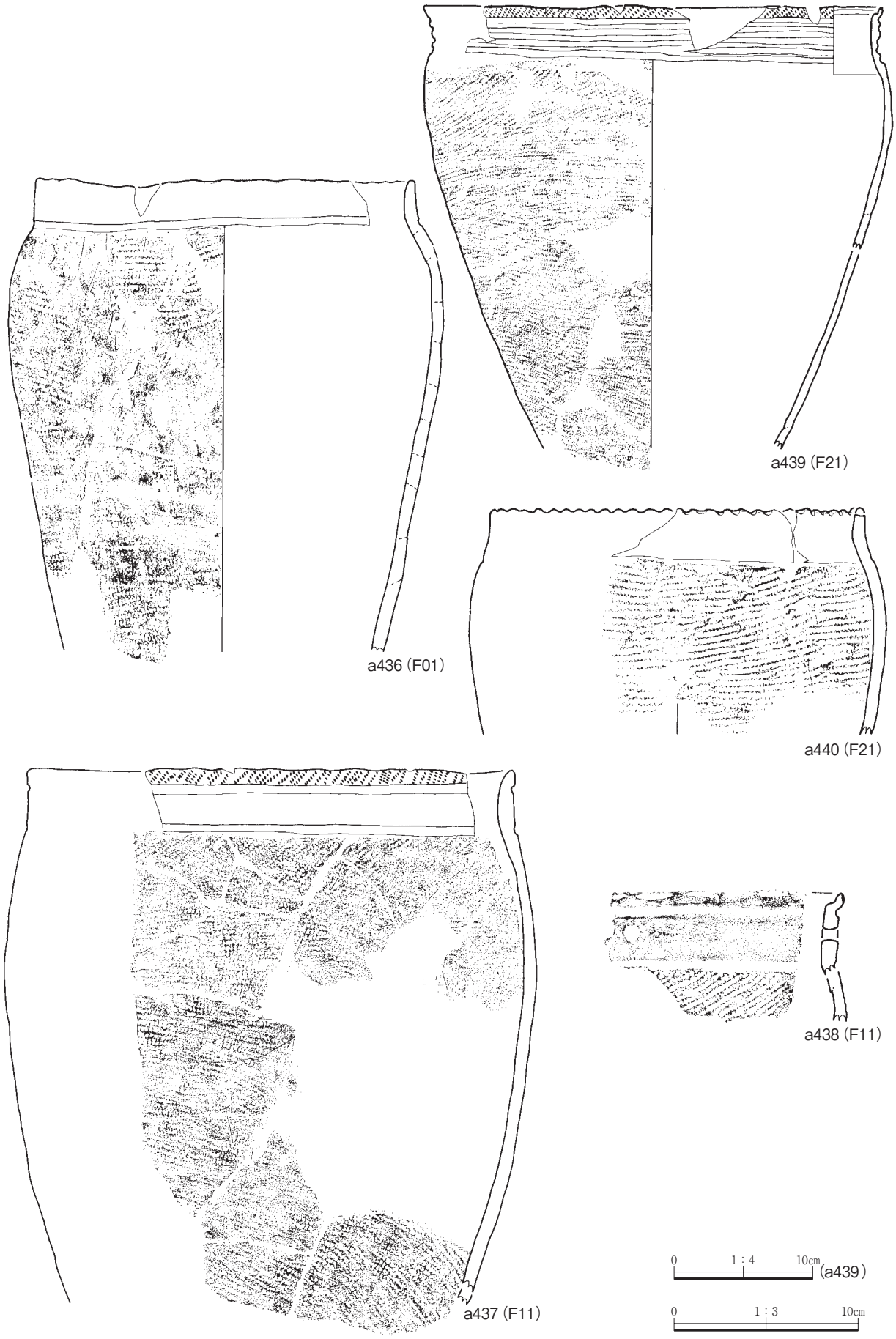
第94図　縄文遺構外出土土器（3）



第95図　縄文遺構外出土土器（4）

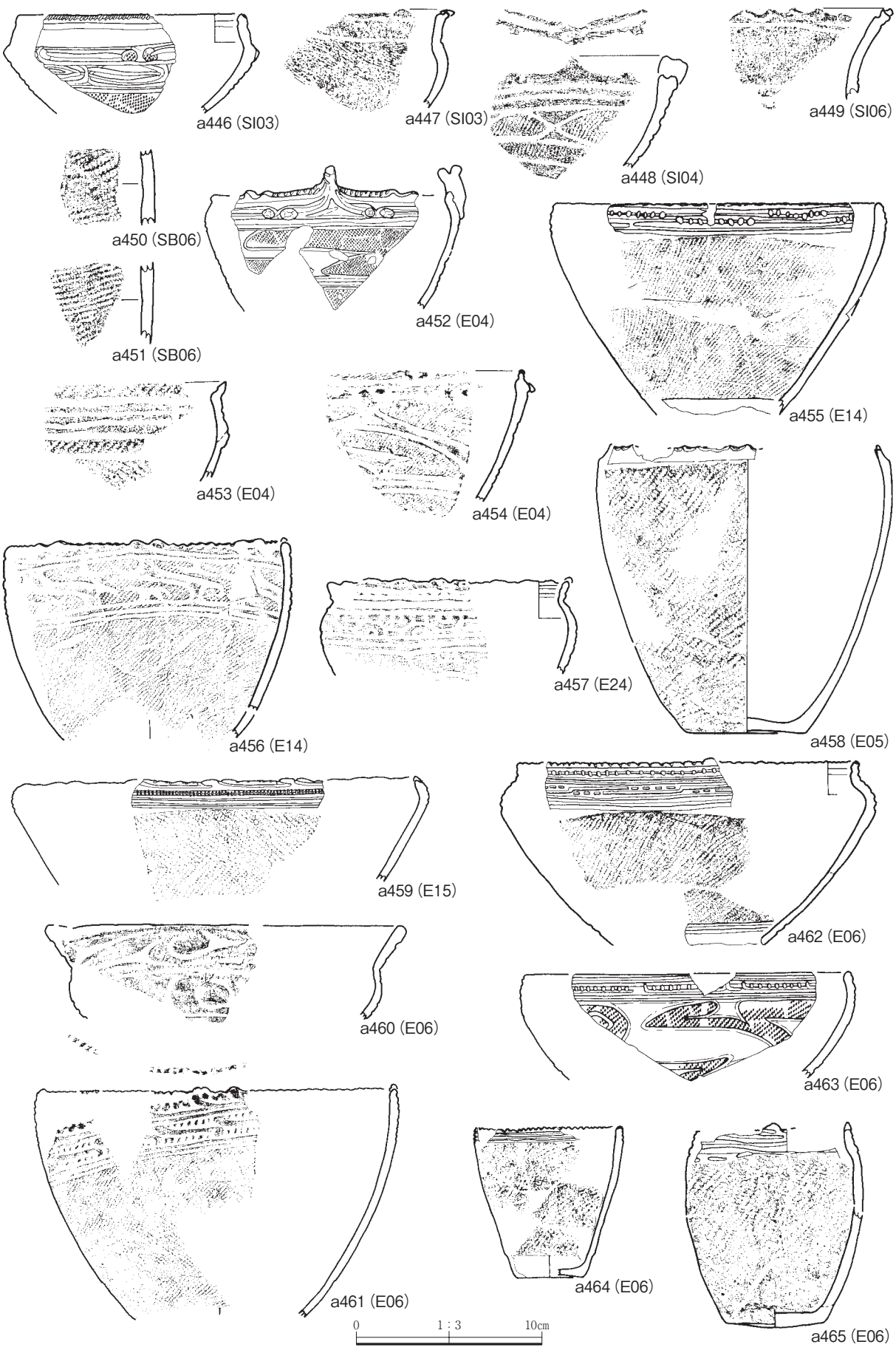


第96図　縄文遺構外出土土器（5）

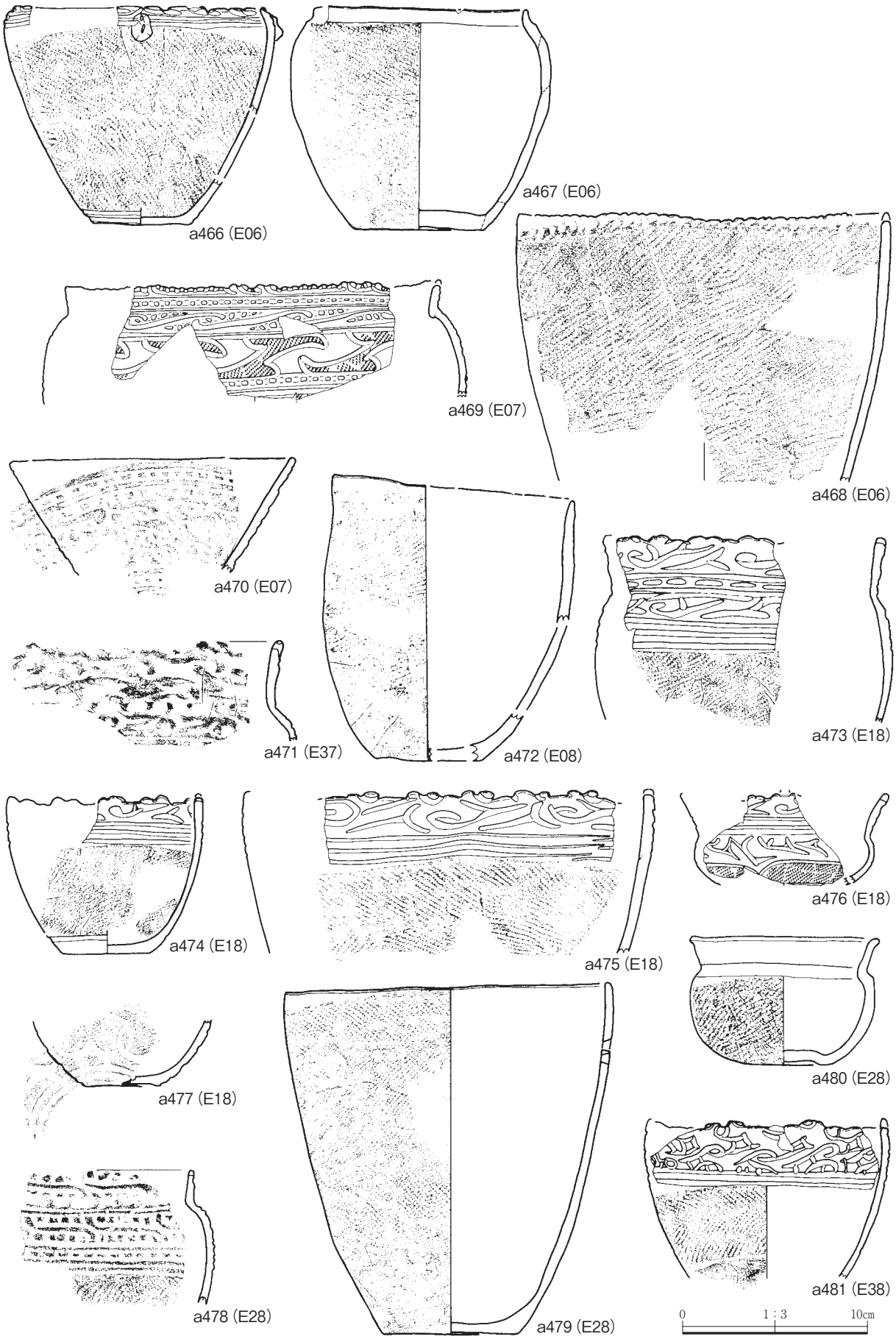


第97図　縄文遺構外出土土器（6）

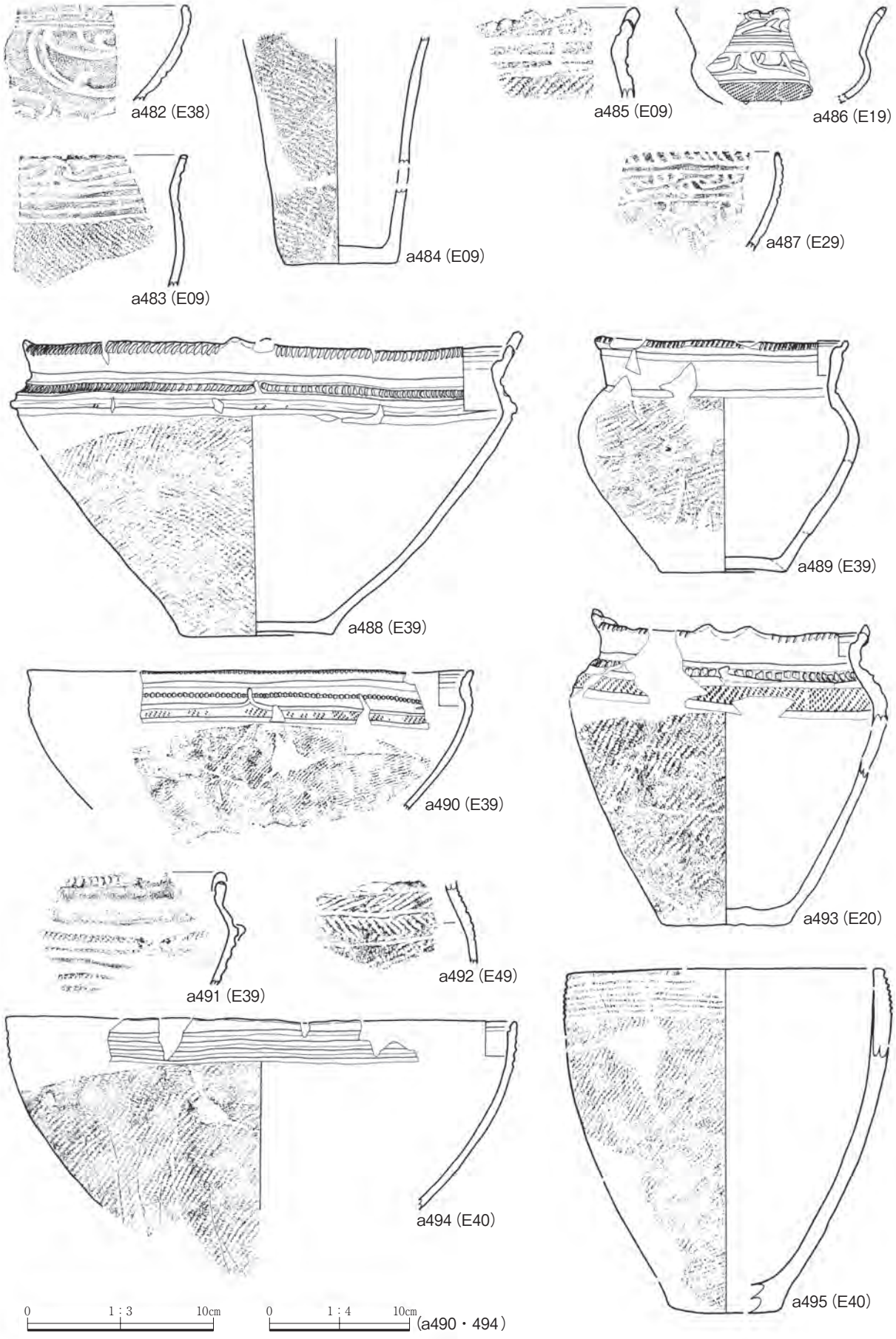
第98図　縄文遺構外出土土器（7）



第99図　縄文遺構外出土土器（8）

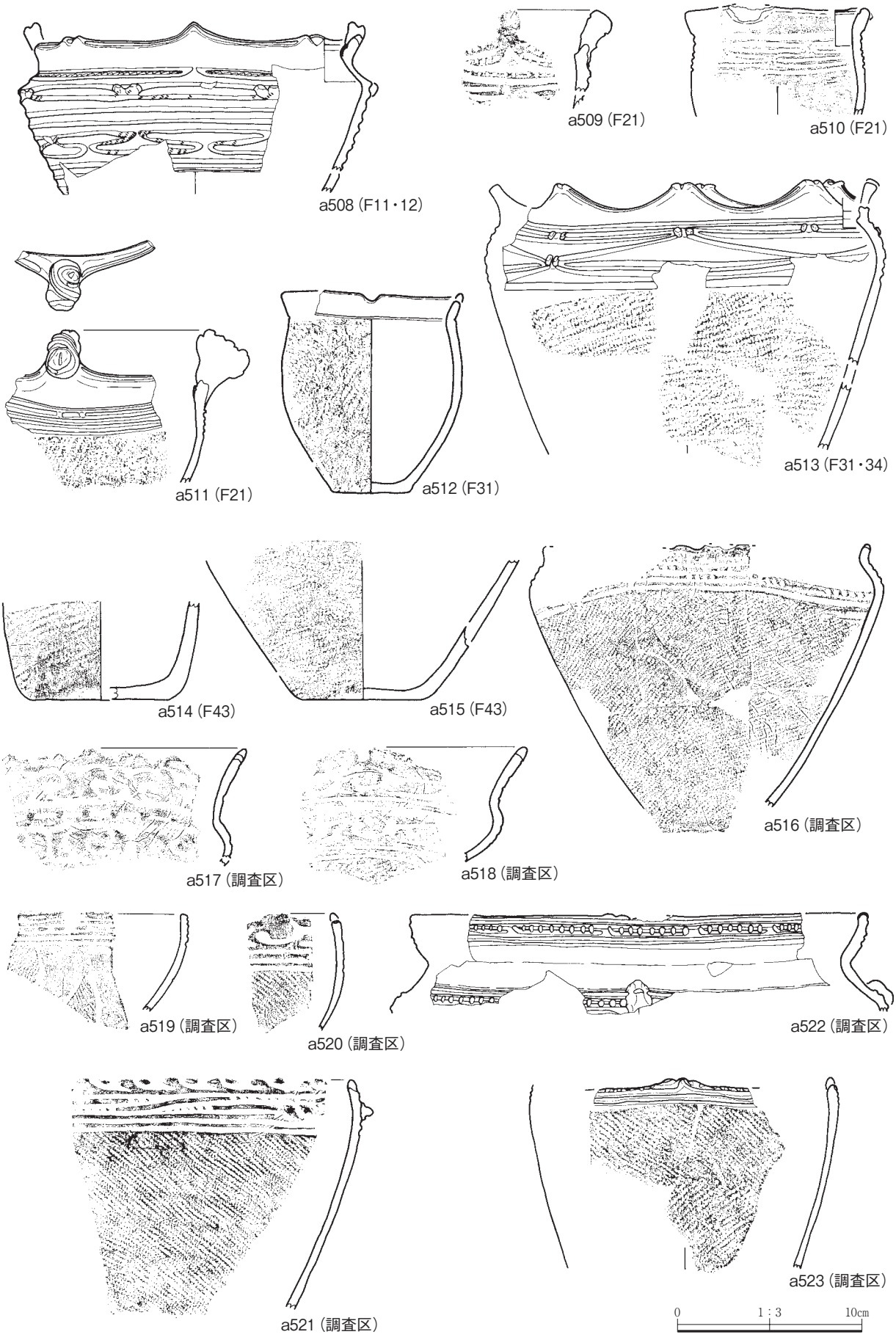


第100図　縄文遺構外出土土器（9）

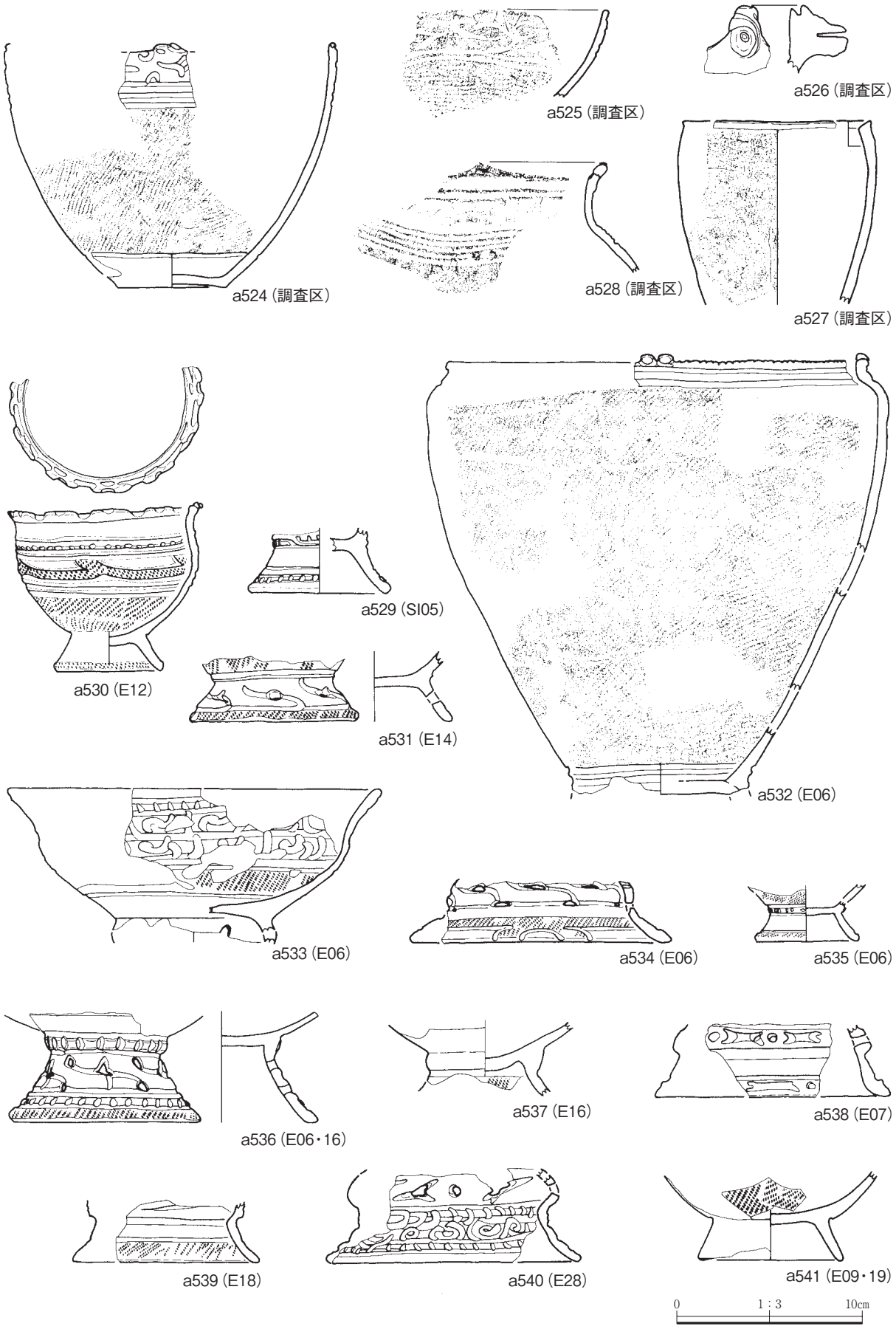


第101図　縄文遺構外出土土器 (10)

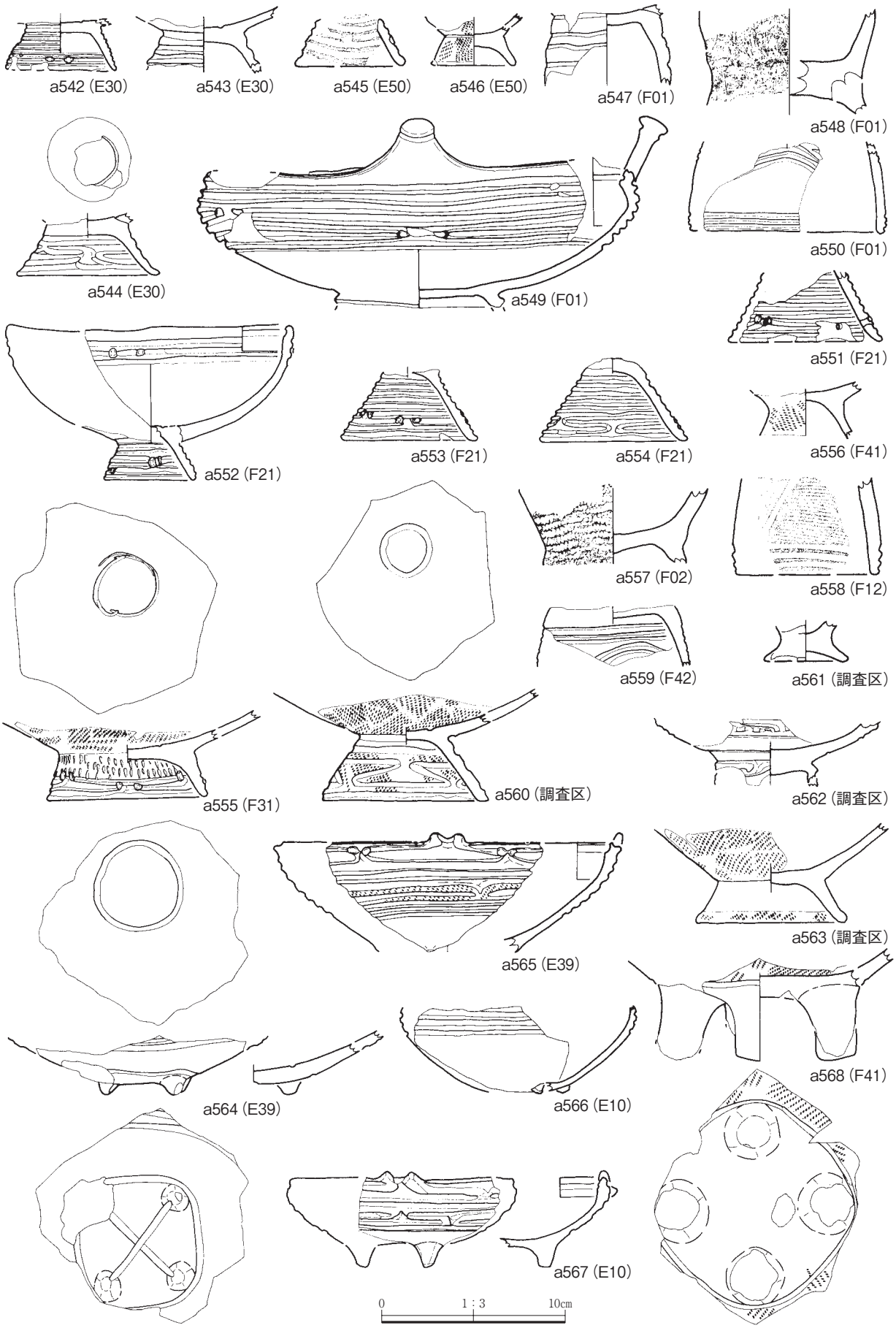
第102図　縄文遺構外出土土器 (11)



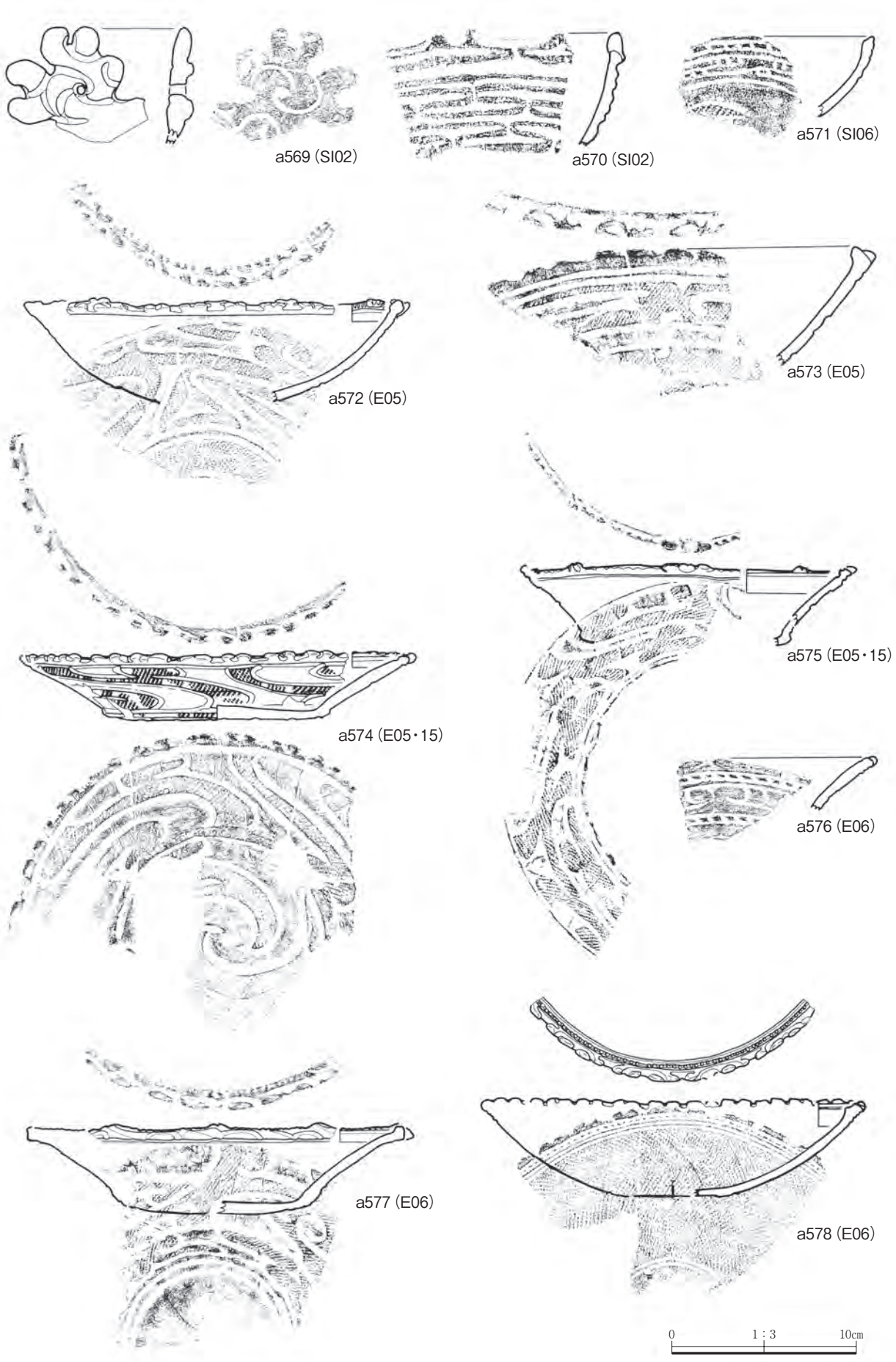
第103図　縄文遺構外出土土器 (12)



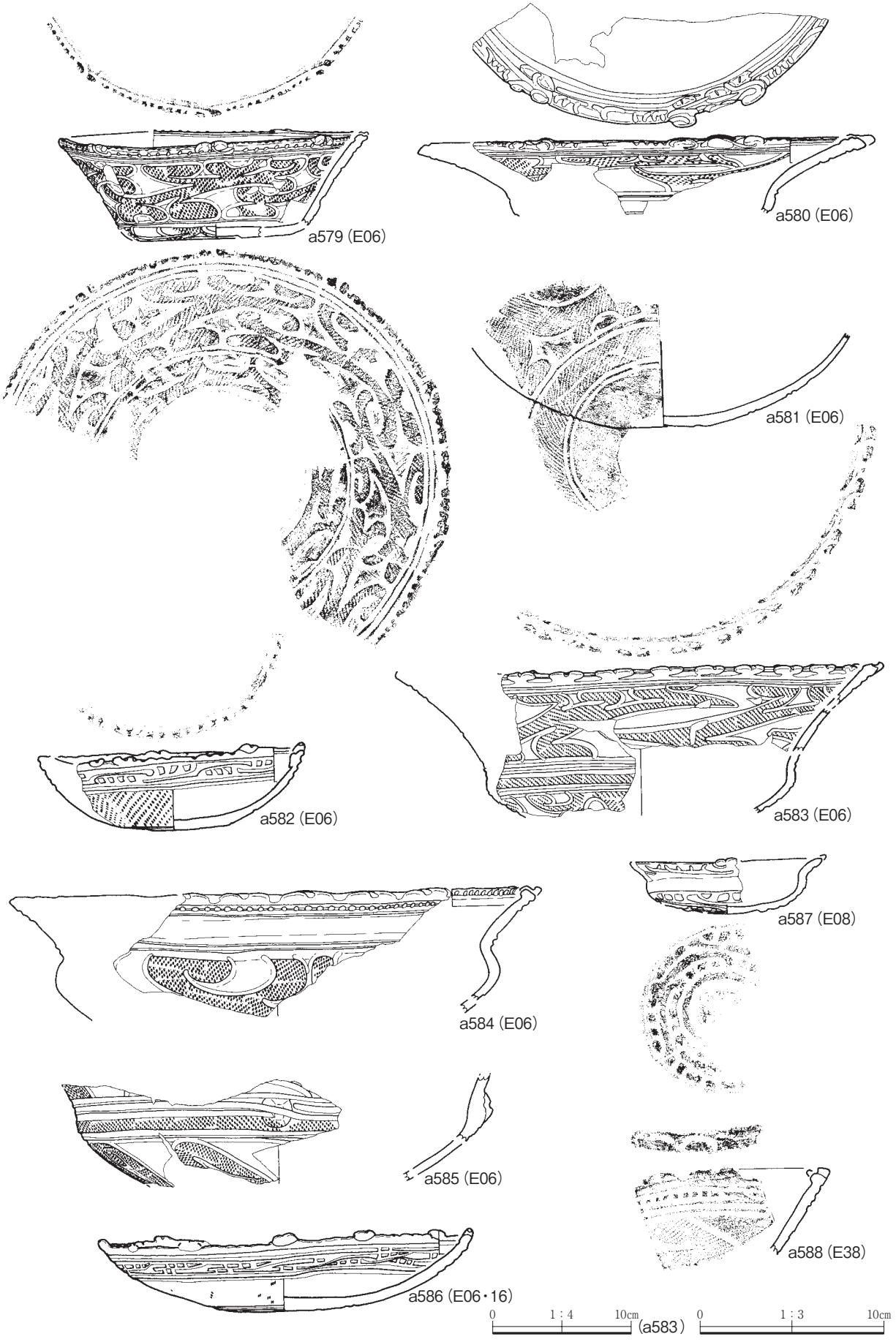
第104図　縄文遺構外出土土器（13）



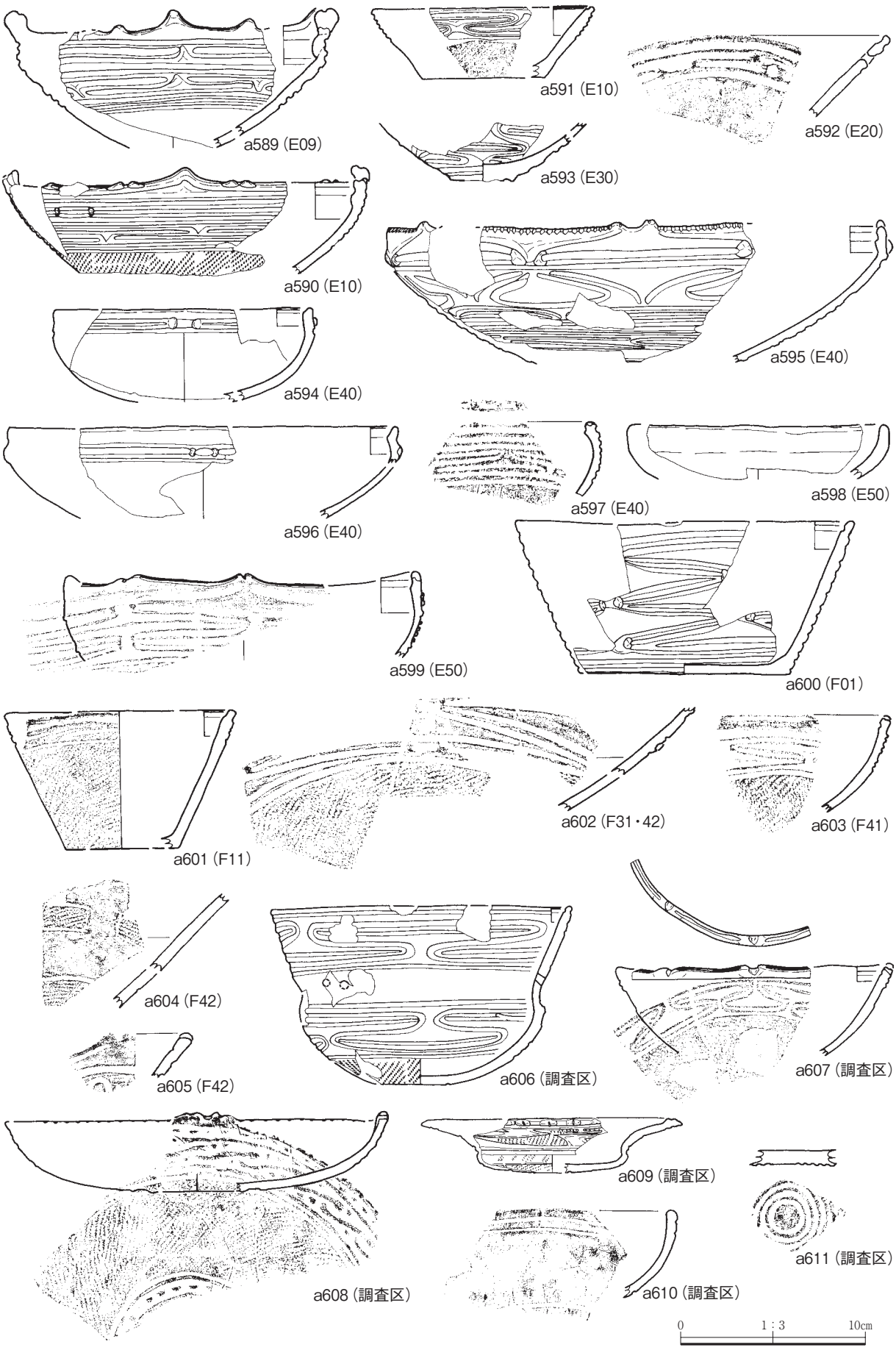
第105図　縄文遺構外出土土器 (14)



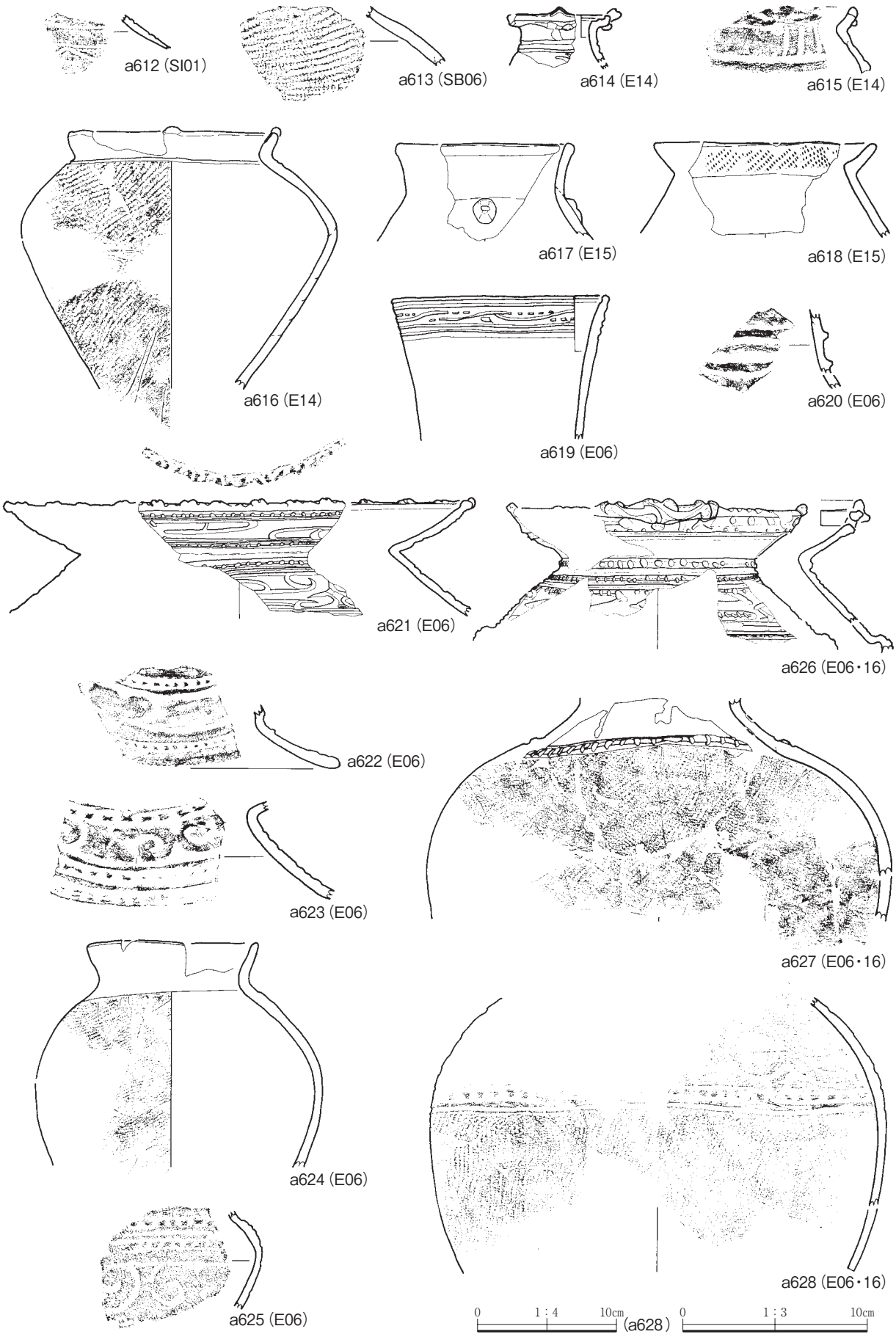
第106図　縄文遺構外出土土器 (15)



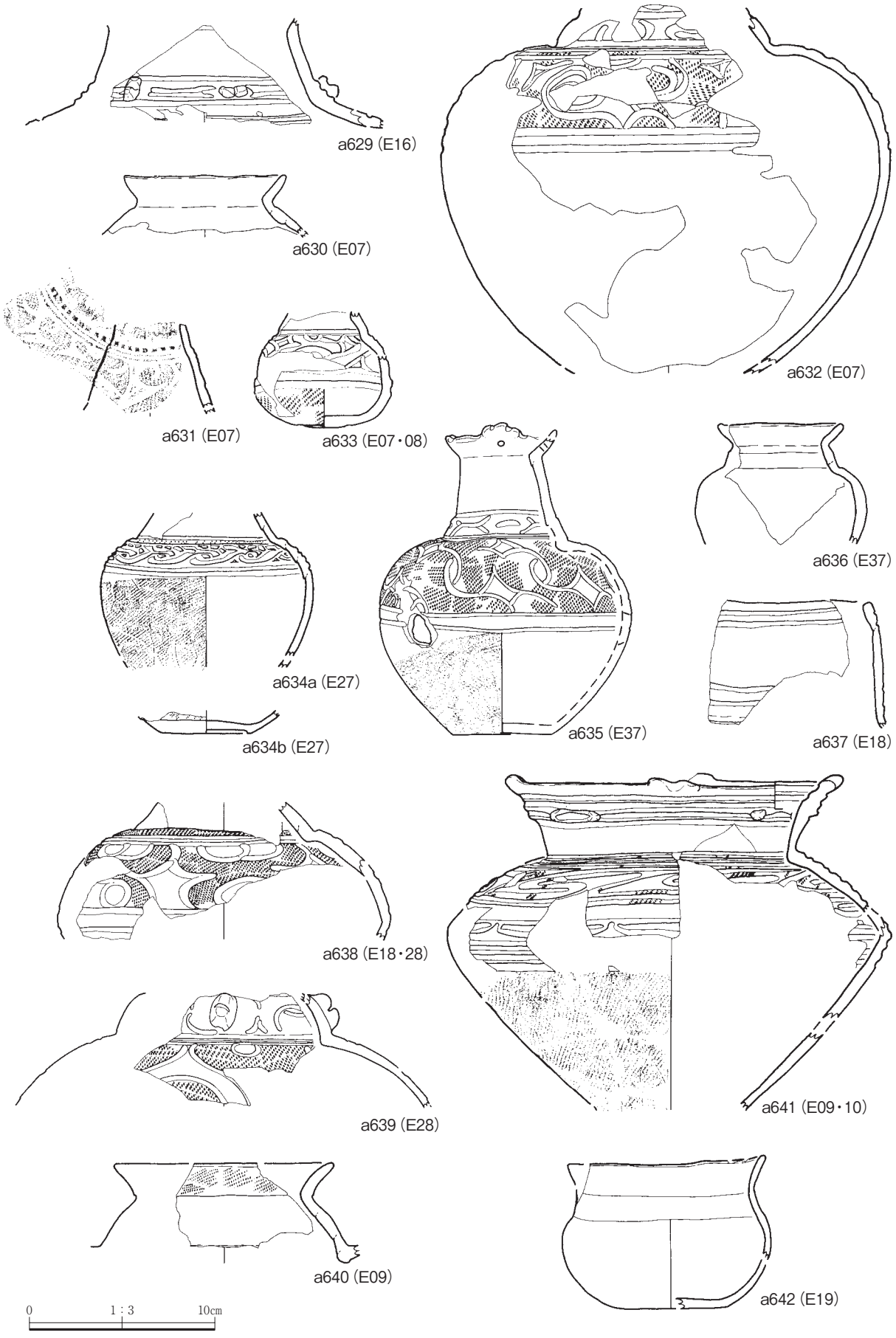
第107図　縄文遺構外出土土器16）



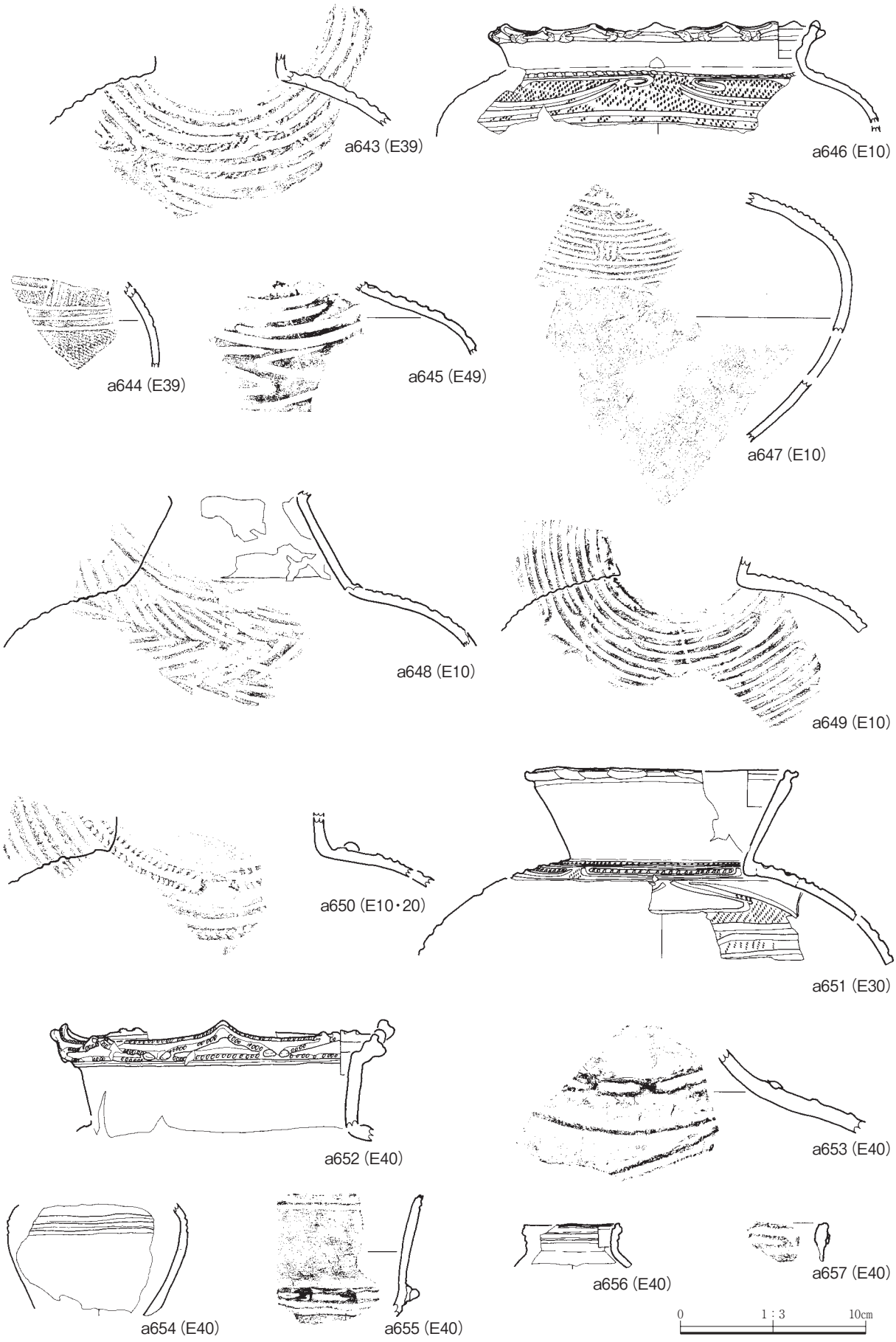
第108図　縄文遺構外出土土器 (17)



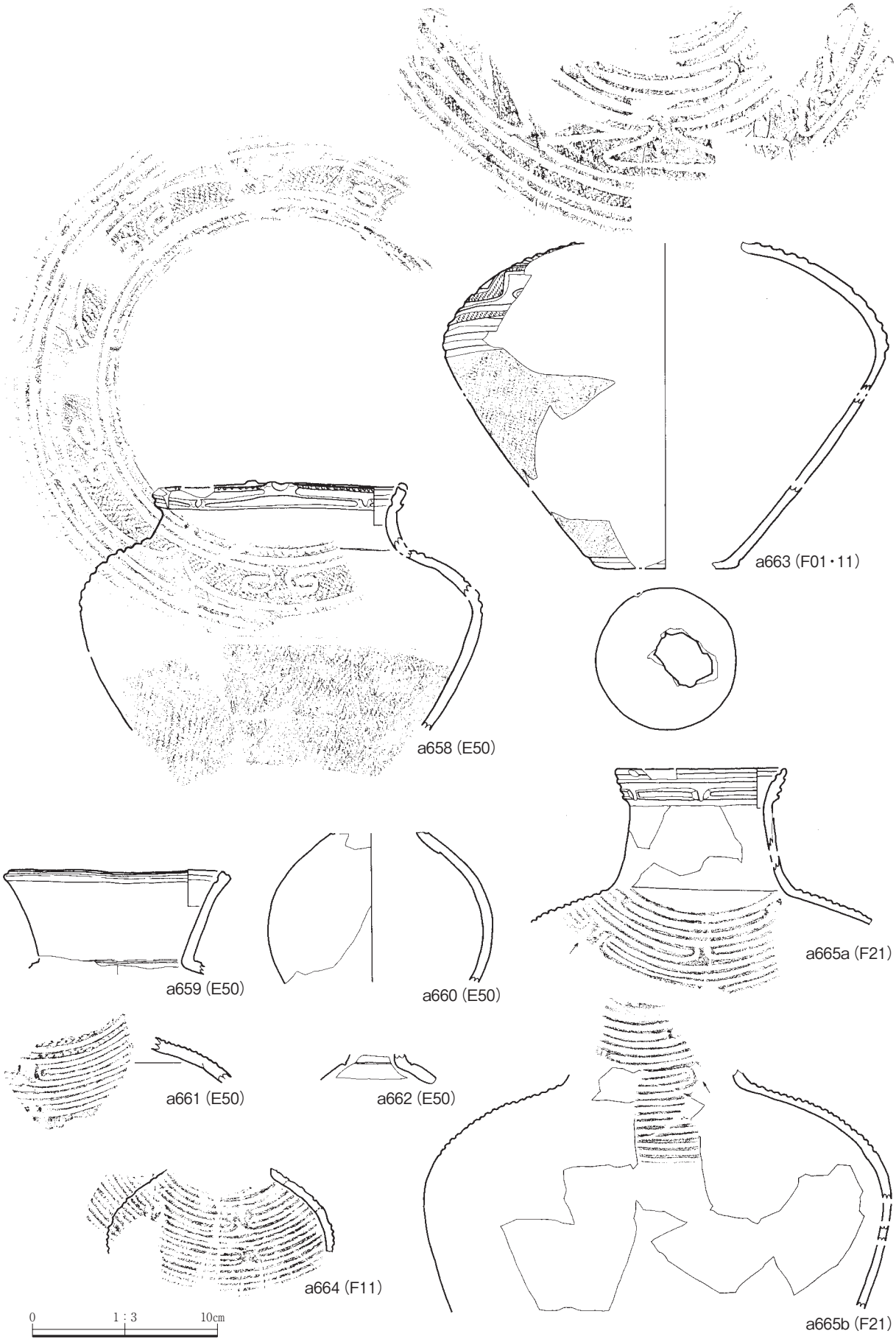
第109図　縄文遺構外出土土器 (18)



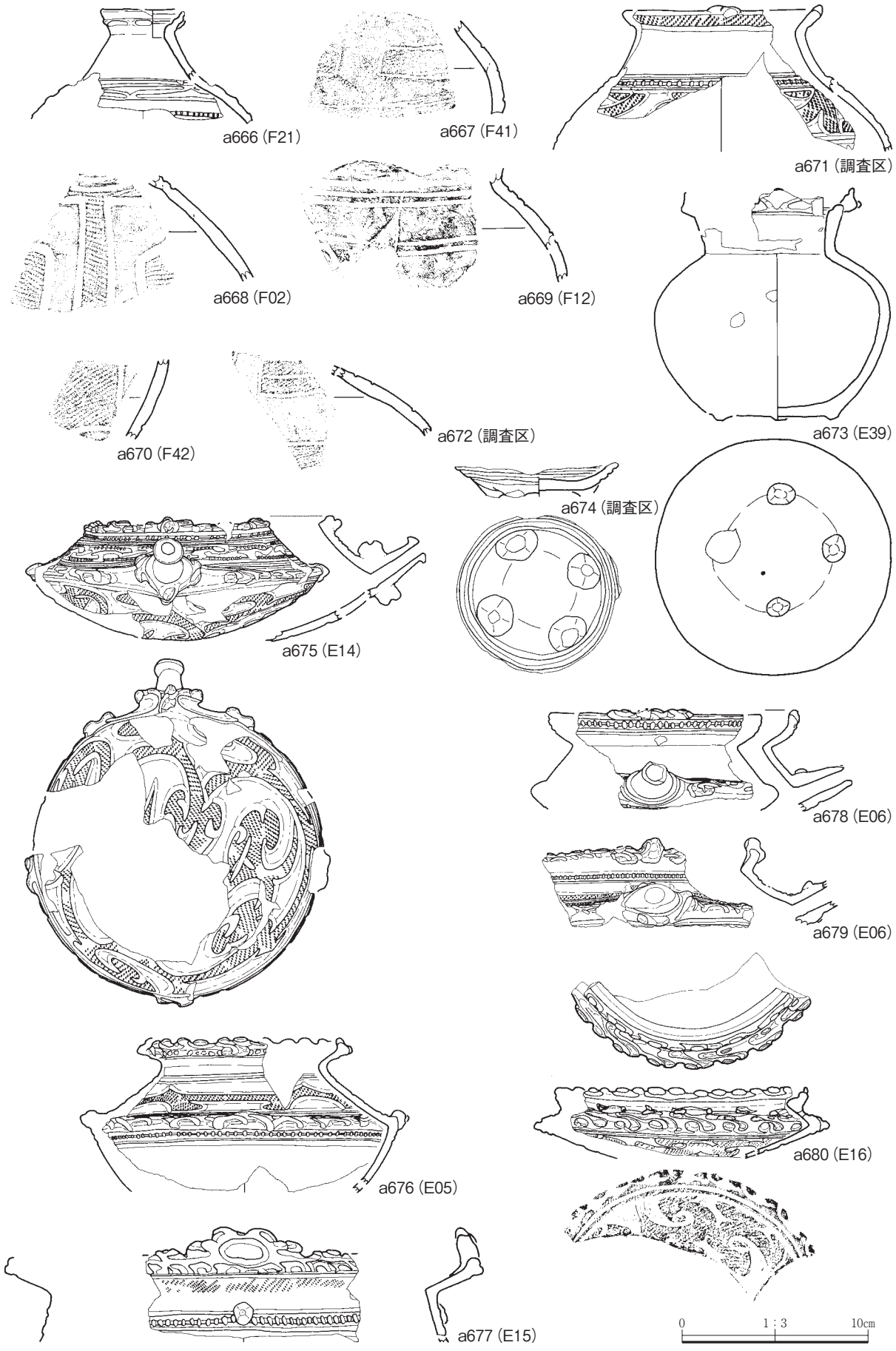
第110図　縄文遺構外出土土器 (19)



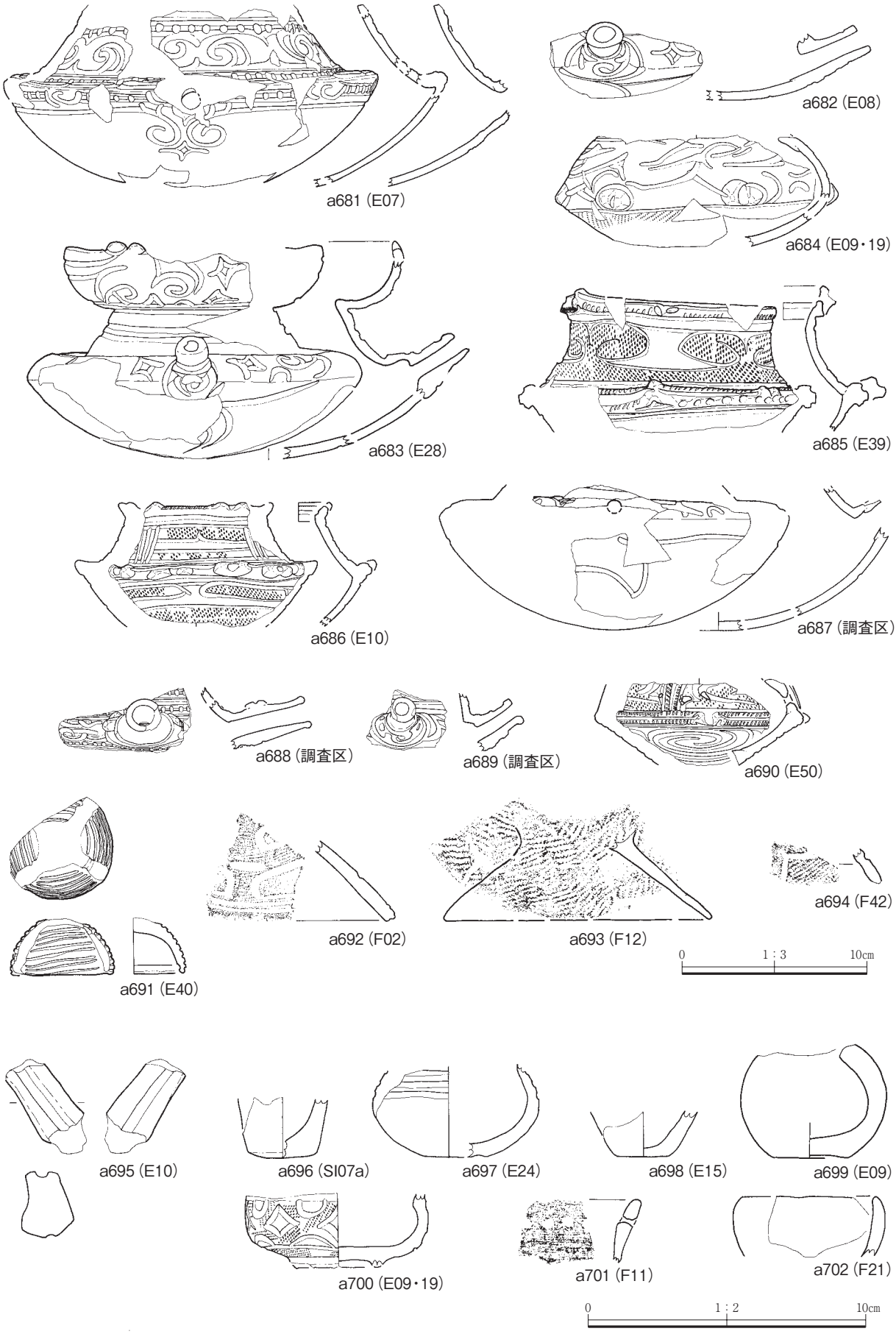
第111図　縄文遺構外出土土器 (20)



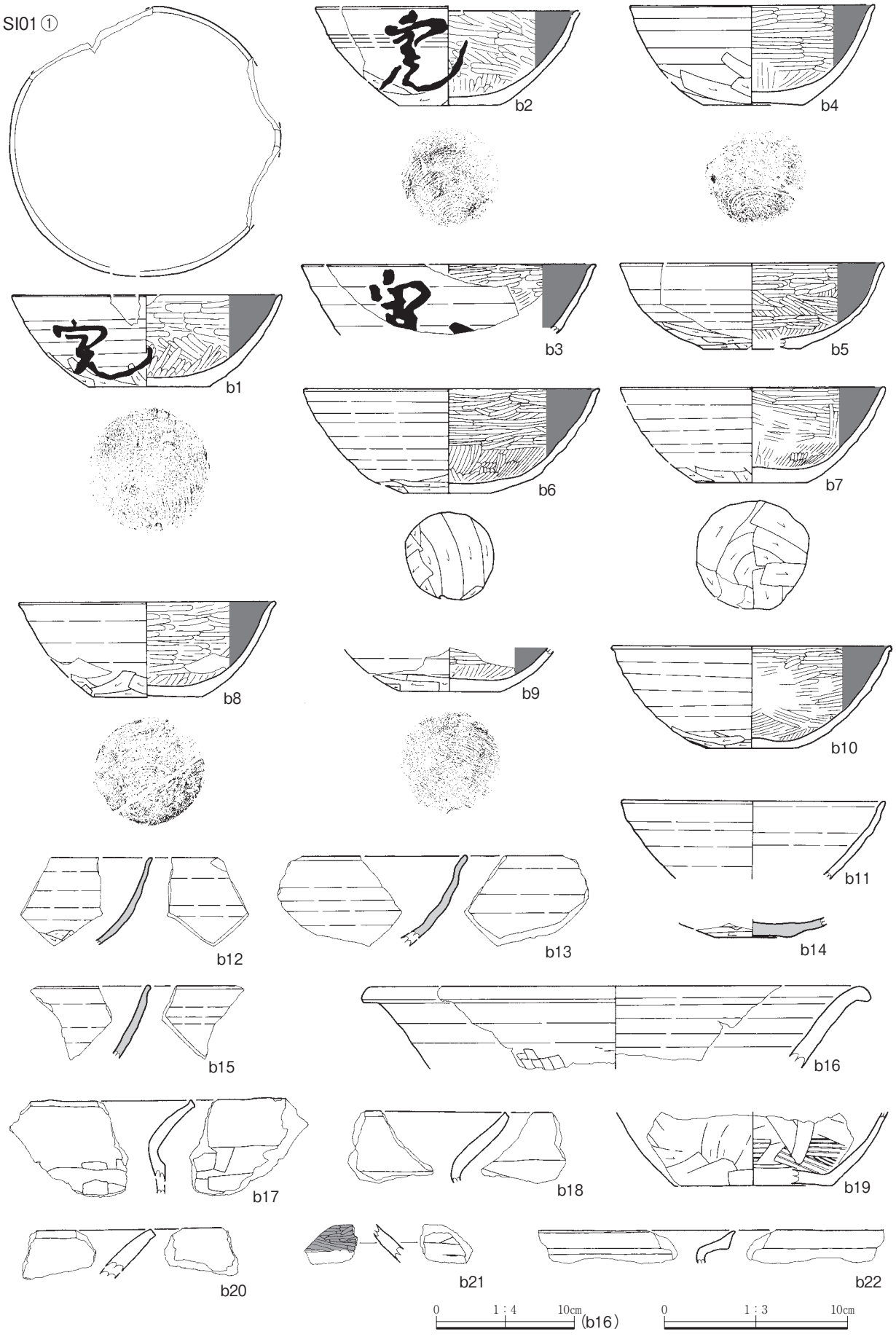
第112図　縄文遺構外出土土器 (21)



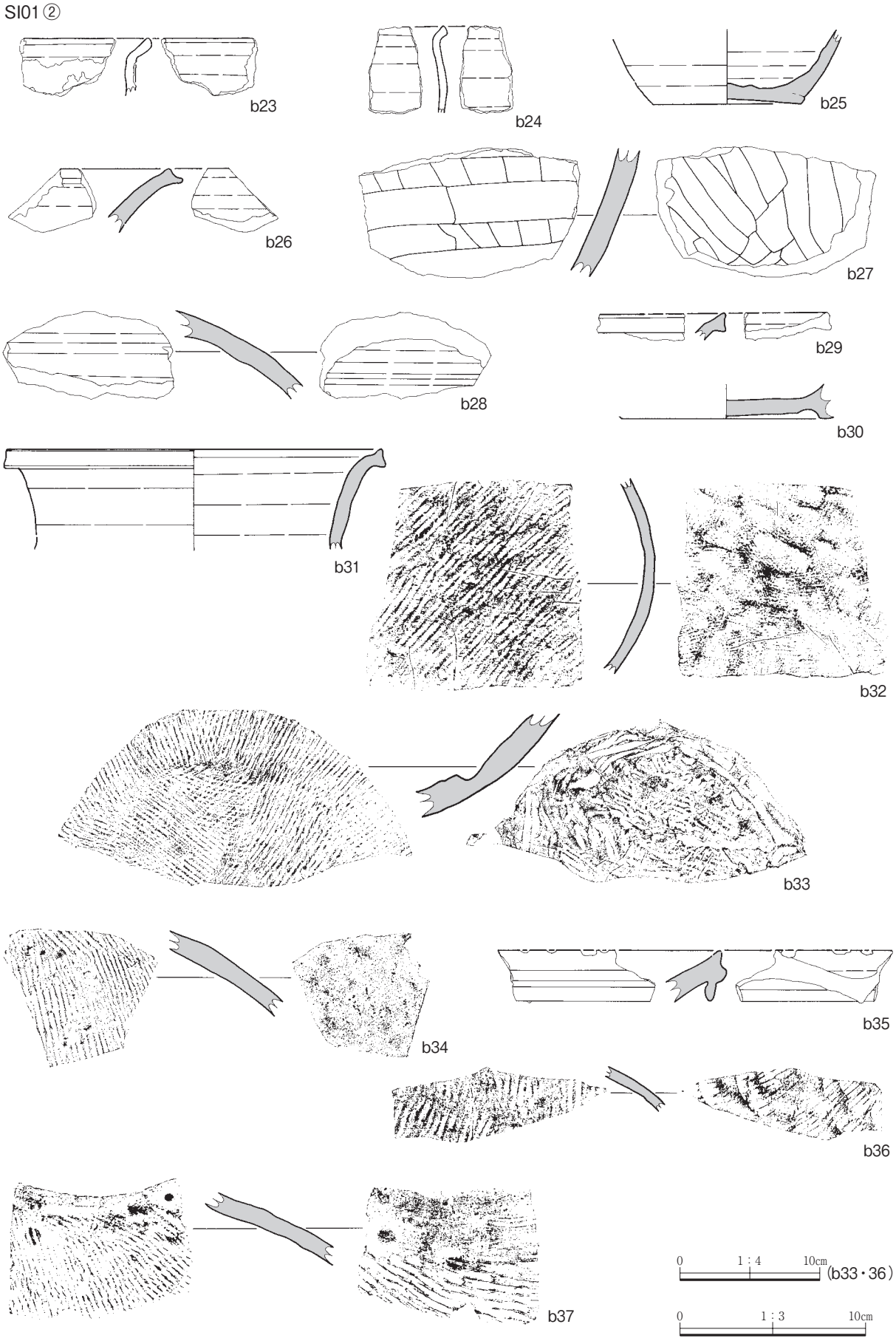
第113図　縄文遺構外出土土器 (22)



第114図　縄文遺構外出土土器 (23)

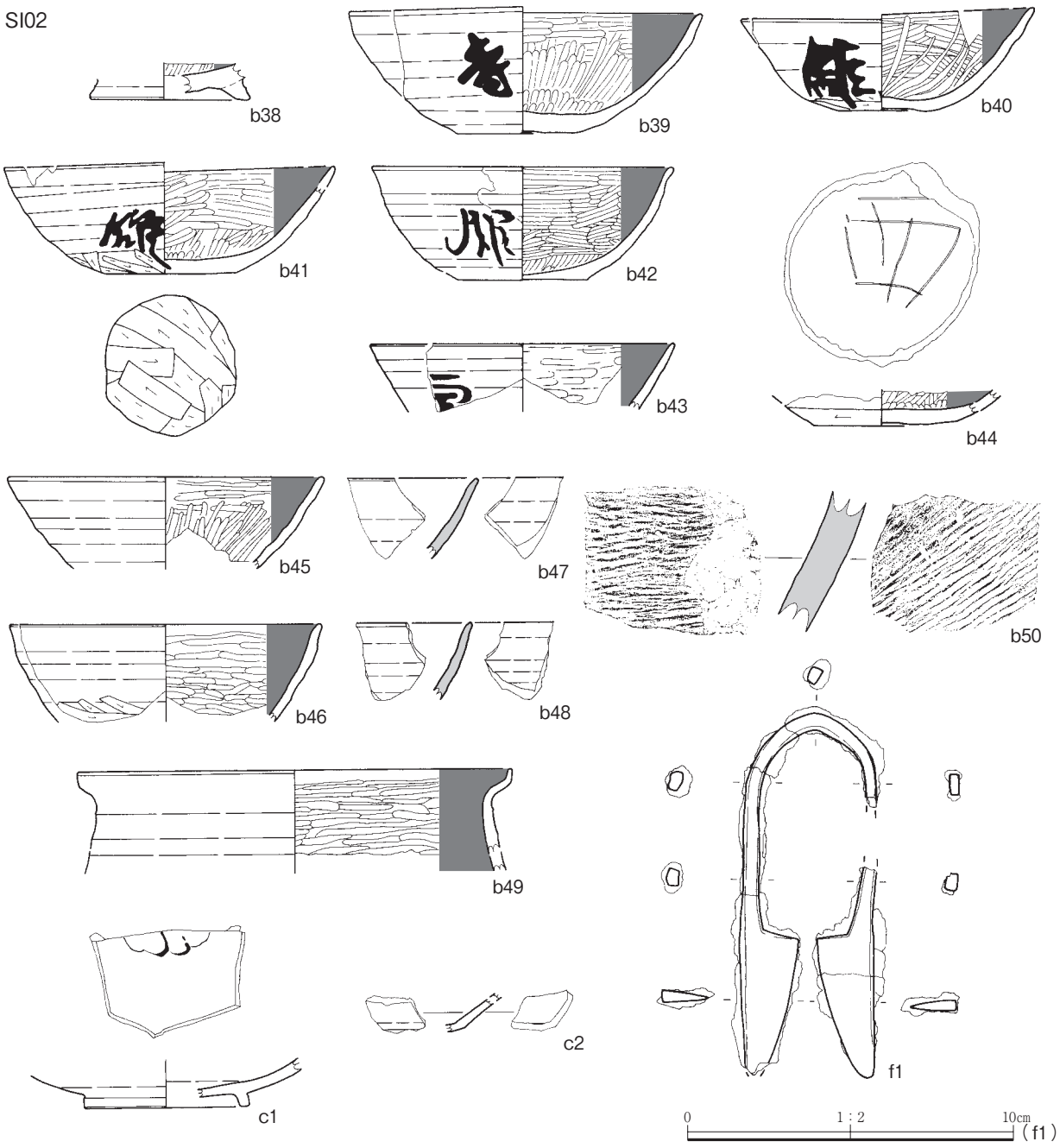

SI01①
b1
b2
b3
b4
b5
b6
b7
b8
b9
b10
b11
b12
b13
b14
b15
b16
b17
b18
b19
b20
b21
b22
0　1：4　10cm
(b16)
0　1：3　10cm

第115図　古代土器（1）

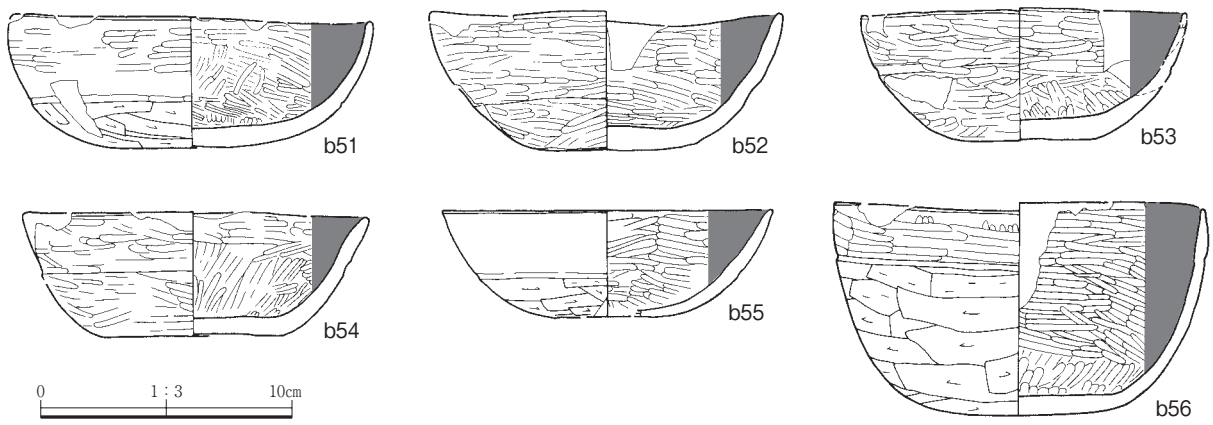

SI01②
b23
b24
b25
b26
b27
b28
b29
b30
b31
b32
b33
b34
b35
b36
b37
0　1：4　10cm
(b33・36)
0　1：3　10cm

第116図　古代土器（2）

SI02

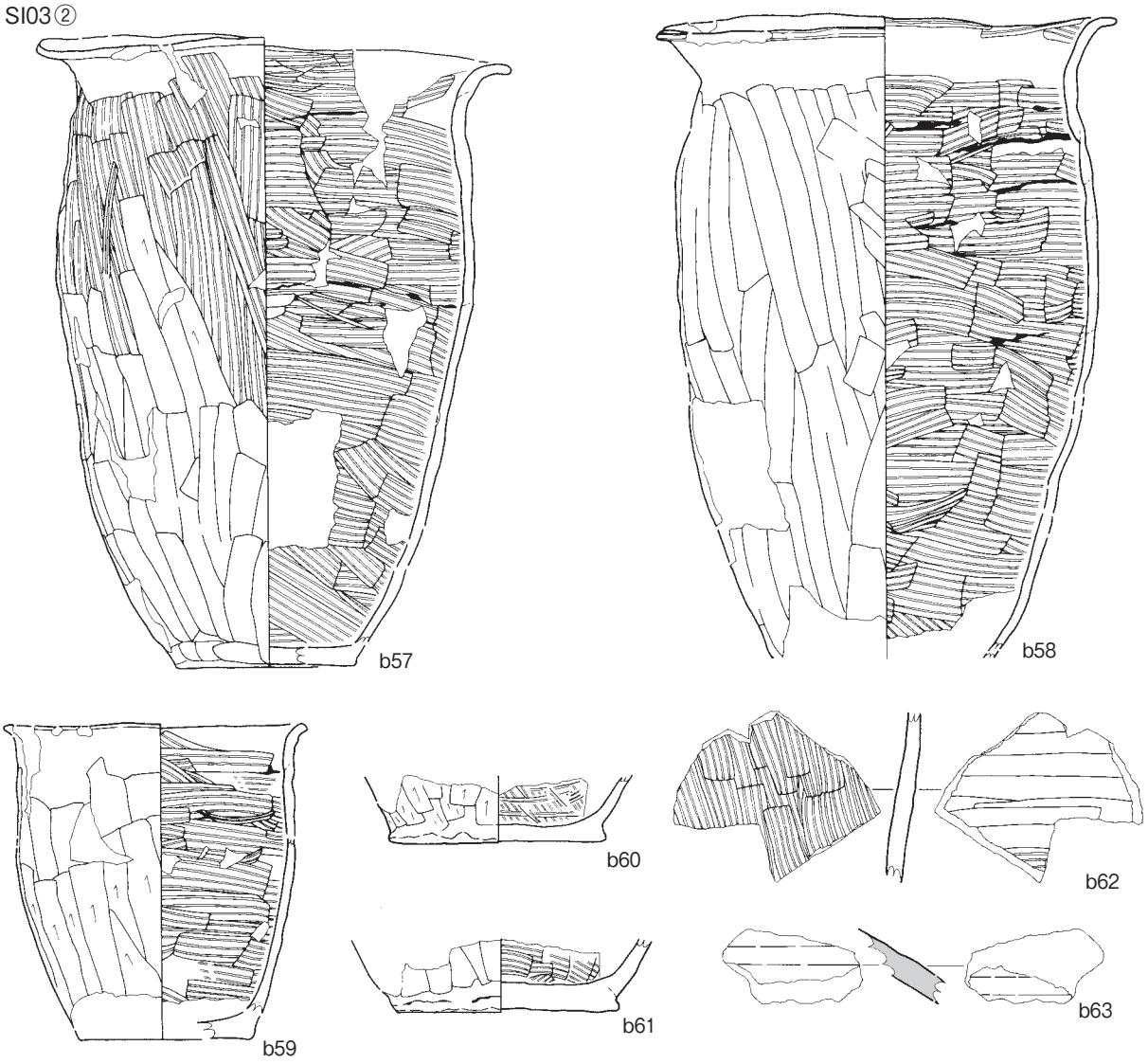


SI03①

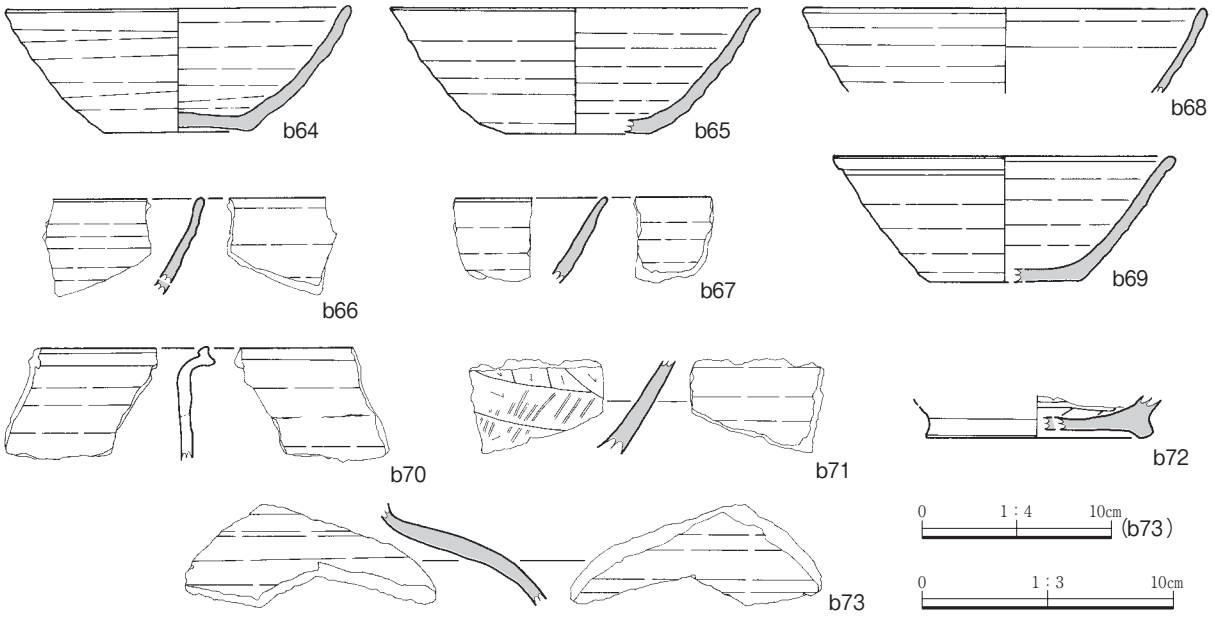


第117図　古代土器（3）・陶器・金属製品

SI03②

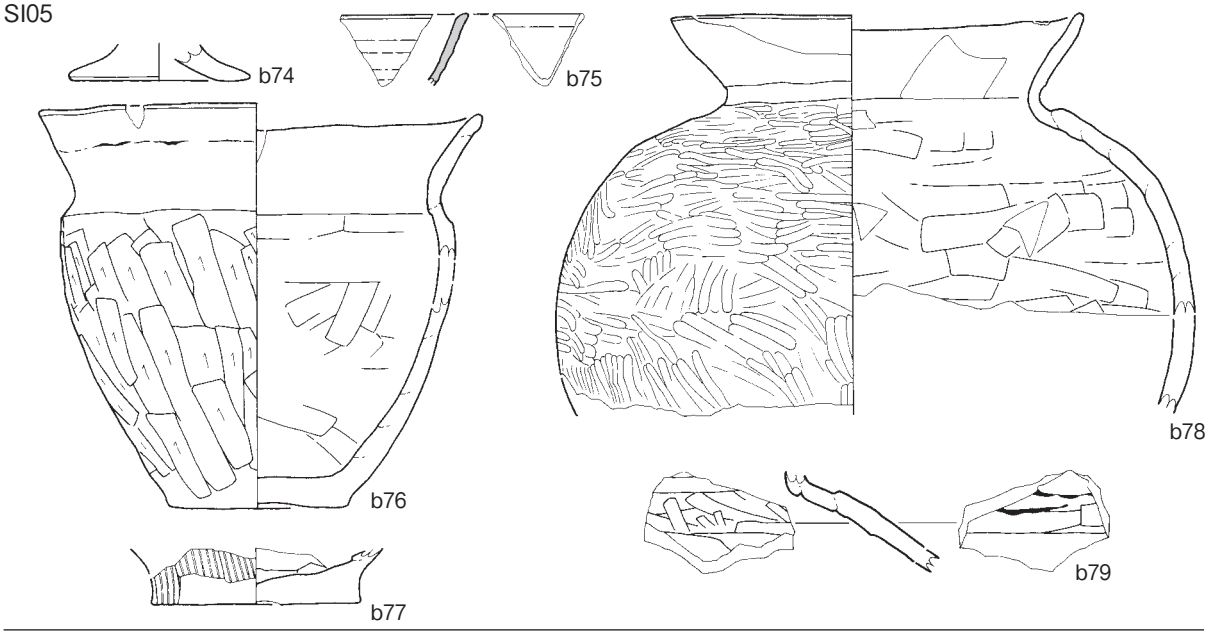


SI04

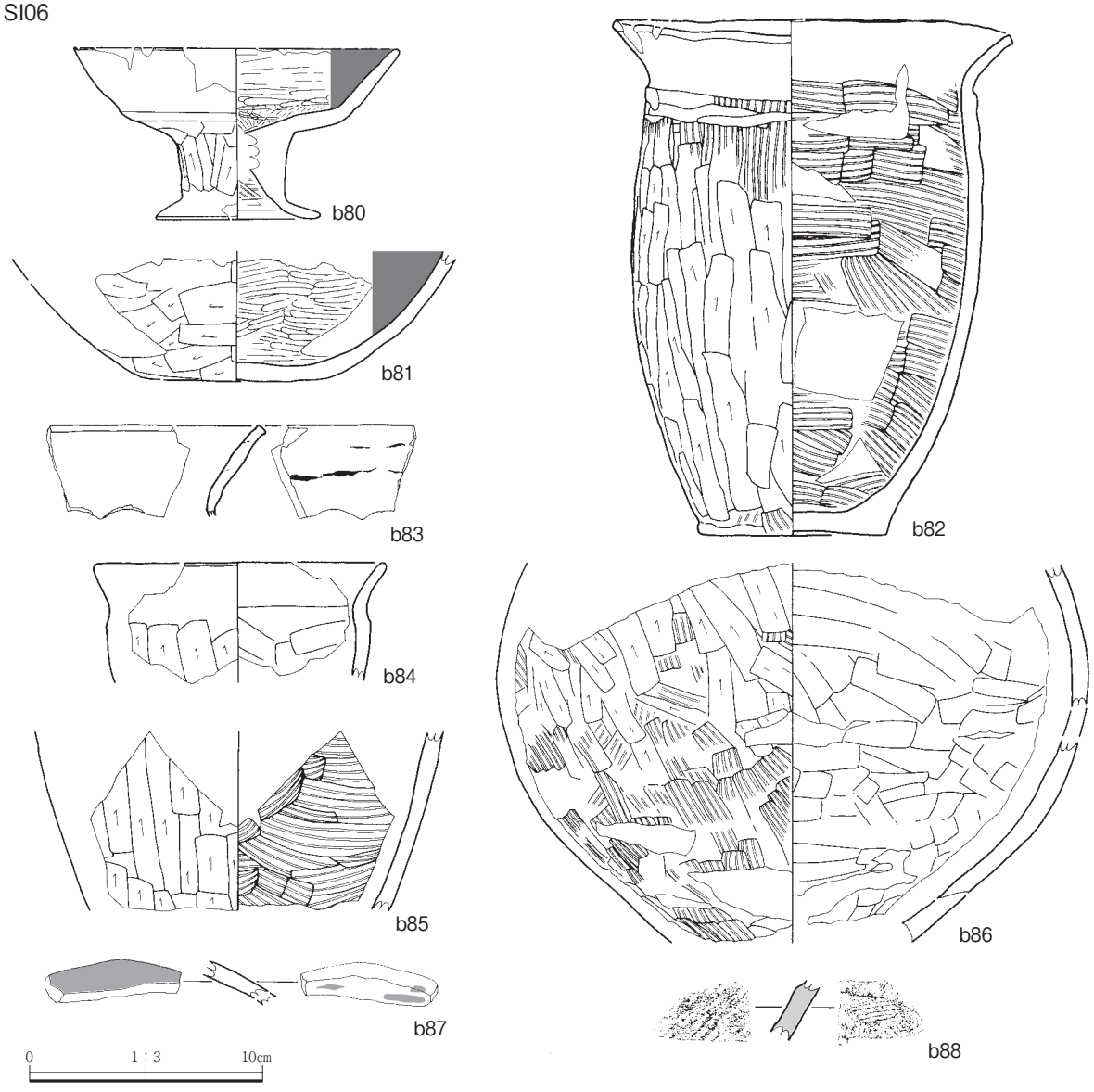


第118図　古代土器（4）

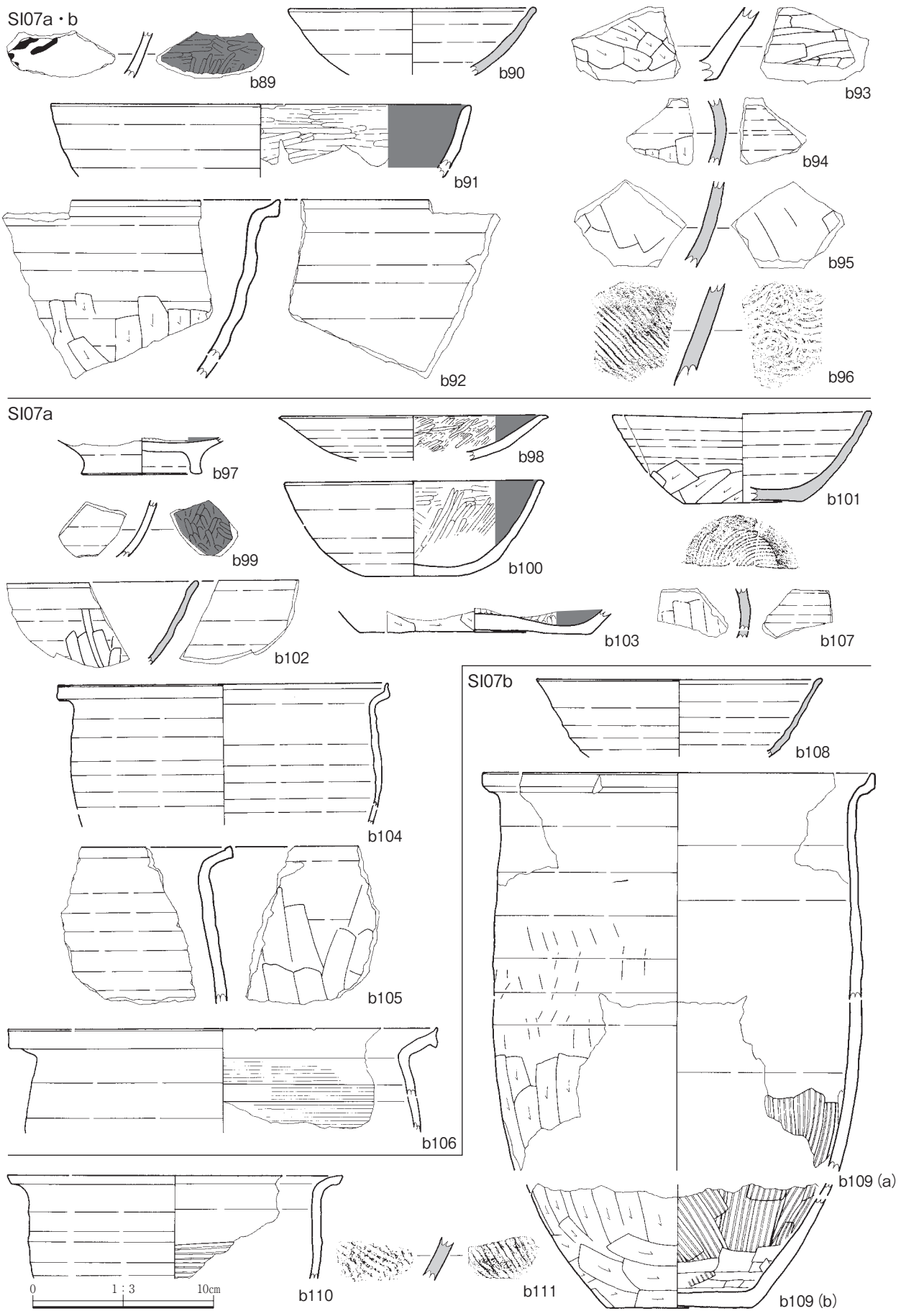
SI05



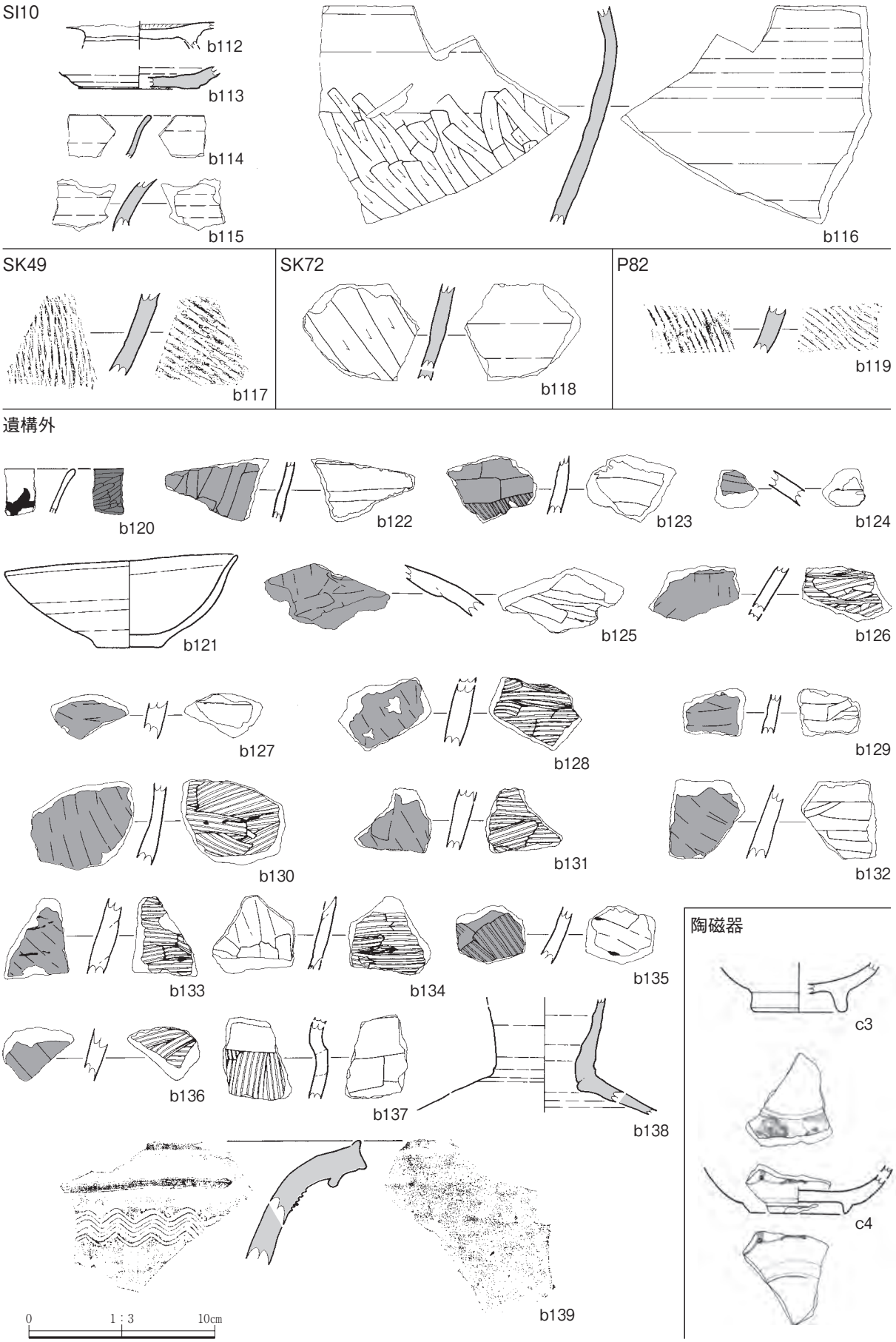
SI06



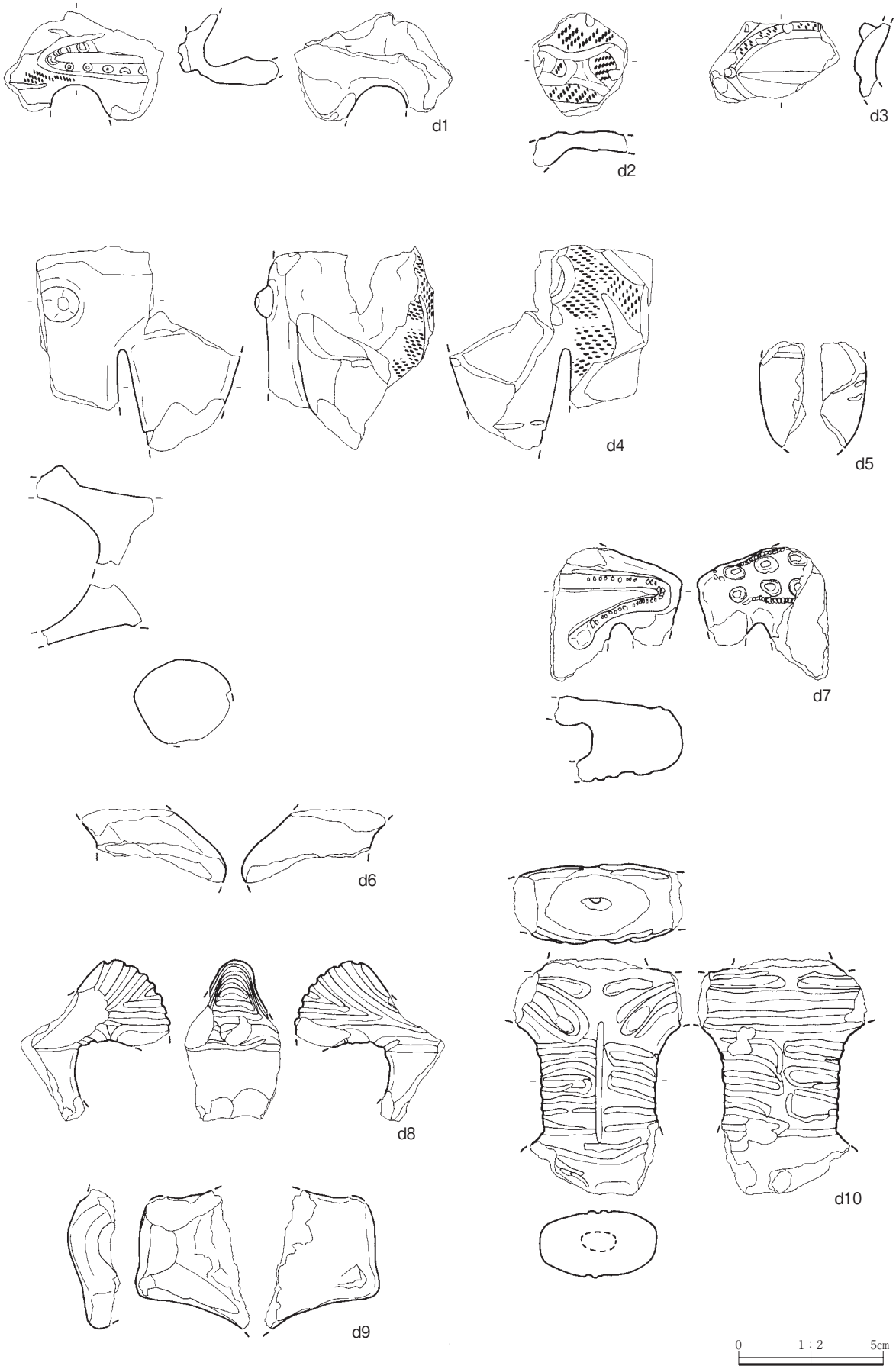
第119図　古代土器（5）


SI07a・b
b89
b90
b91
b92
b93
b94
b95
b96
SI07a
b97
b98
b99
b100
b101
b102
b103
b107
SI07b
b104
b105
b106
b108
b109 (a)
b109 (b)
b110
b111
0
1：3
10cm

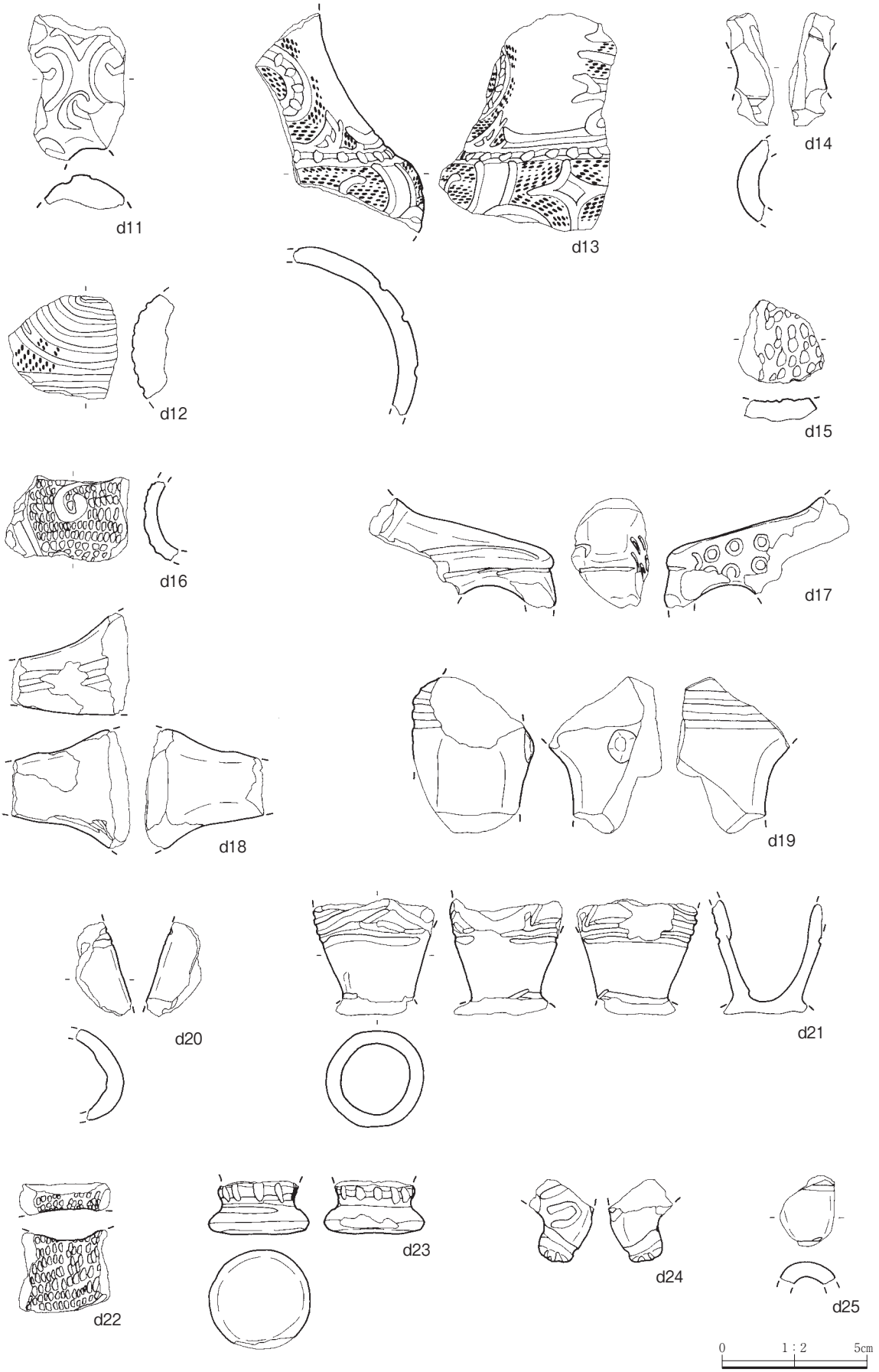
第120図　古代土器（6）



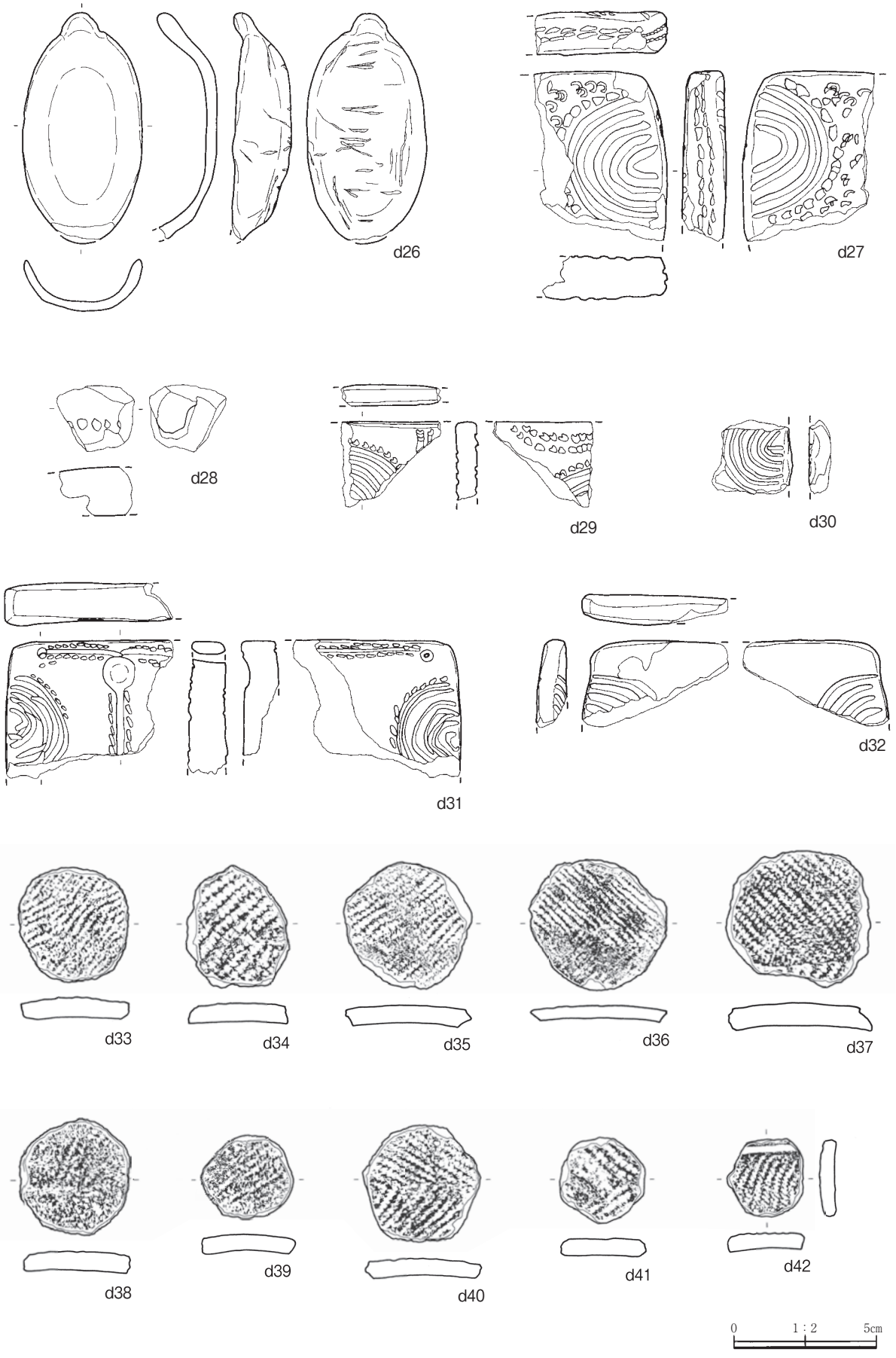
第121図　古代土器（7）・陶磁器



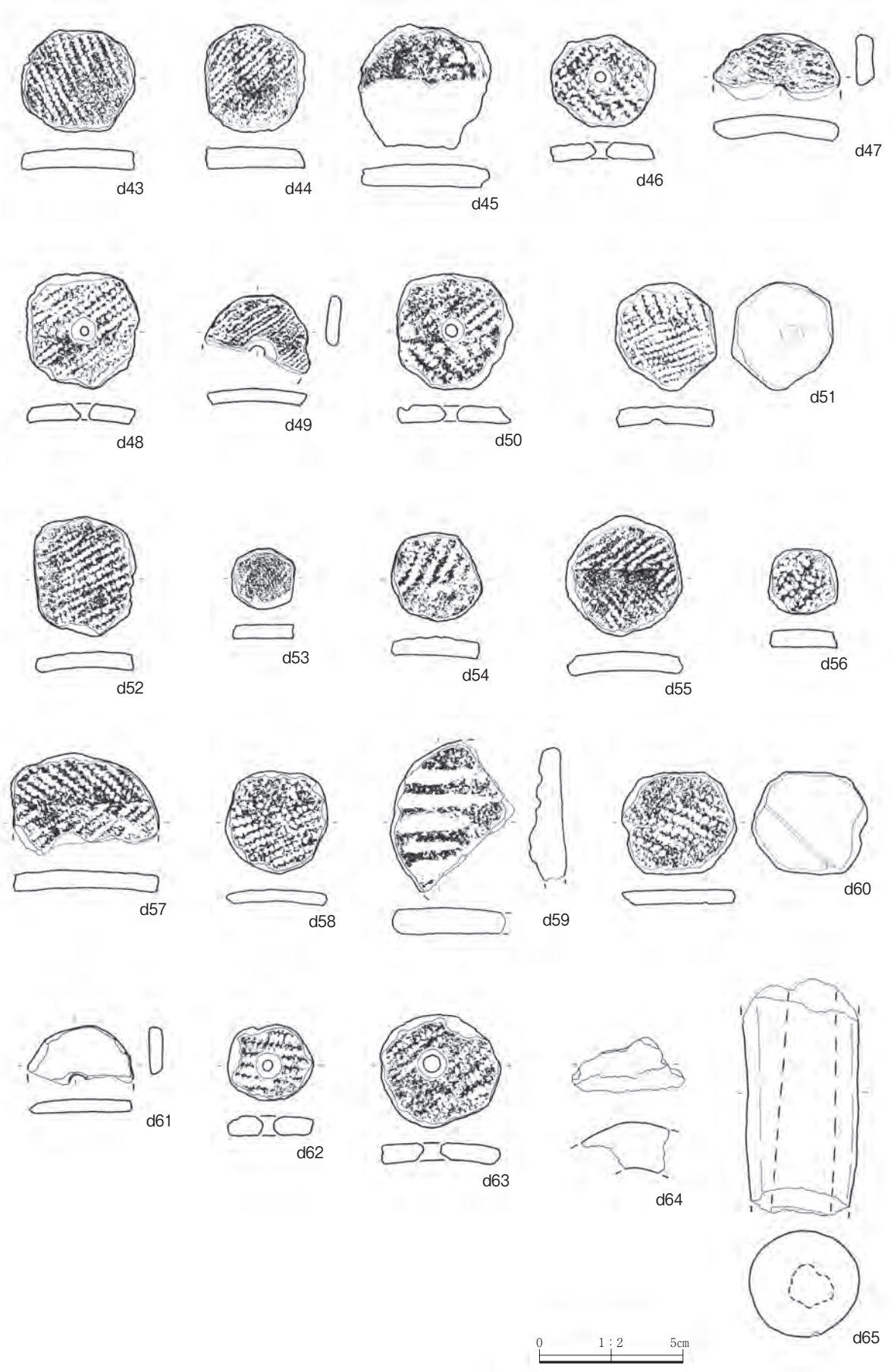
第122図　土製品（1）


d11
d13
d14
d12
d15
d16
d17
d18
d19
d20
d21
d22
d23
d24
d25
0
1：2
5cm

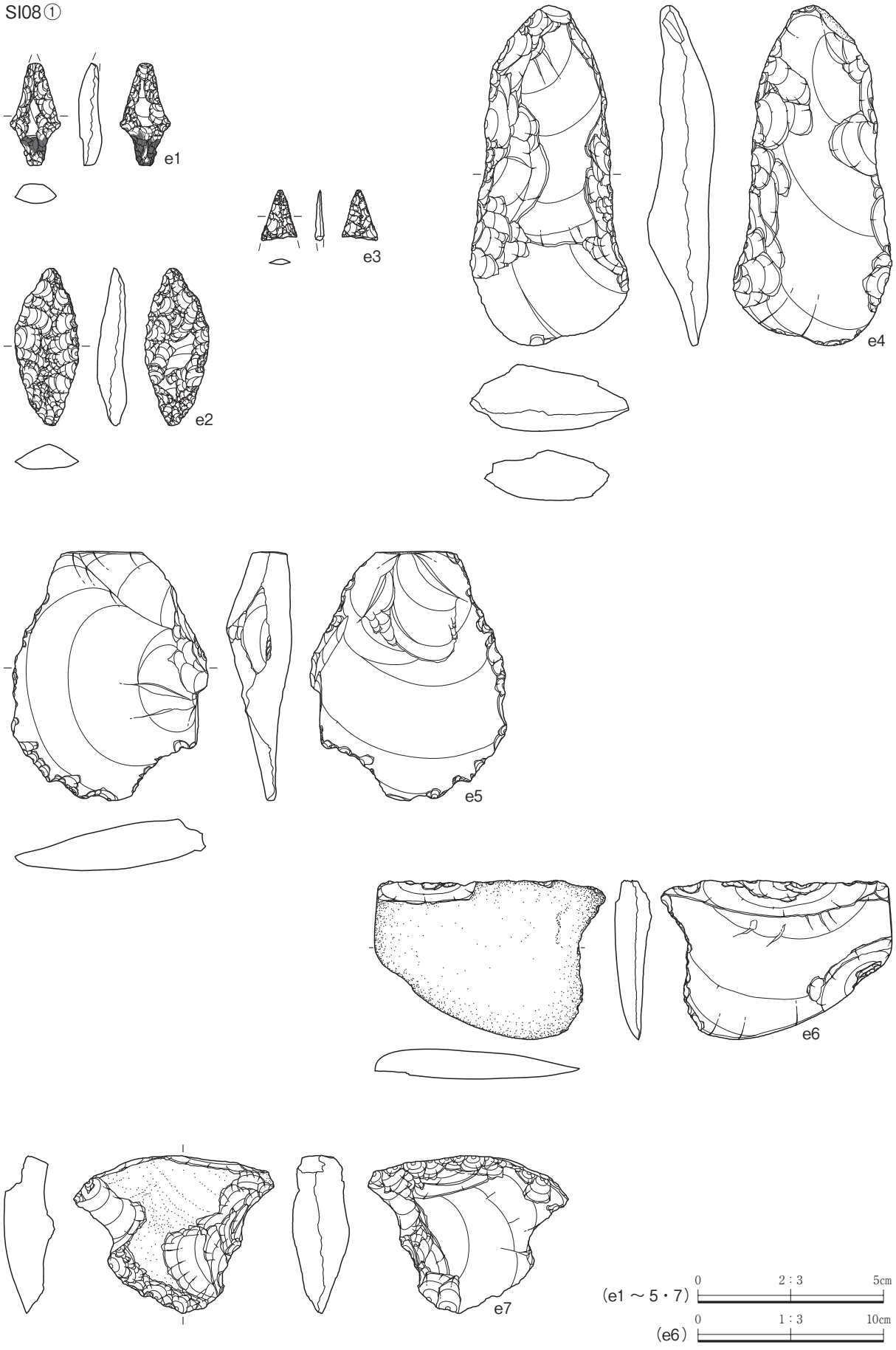
第123図　土製品（2）


d26
d27
d28
d29
d30
d31
d32
d33
d34
d35
d36
d37
d38
d39
d40
d41
d42
0　1：2　5cm

第124図　土製品（3）

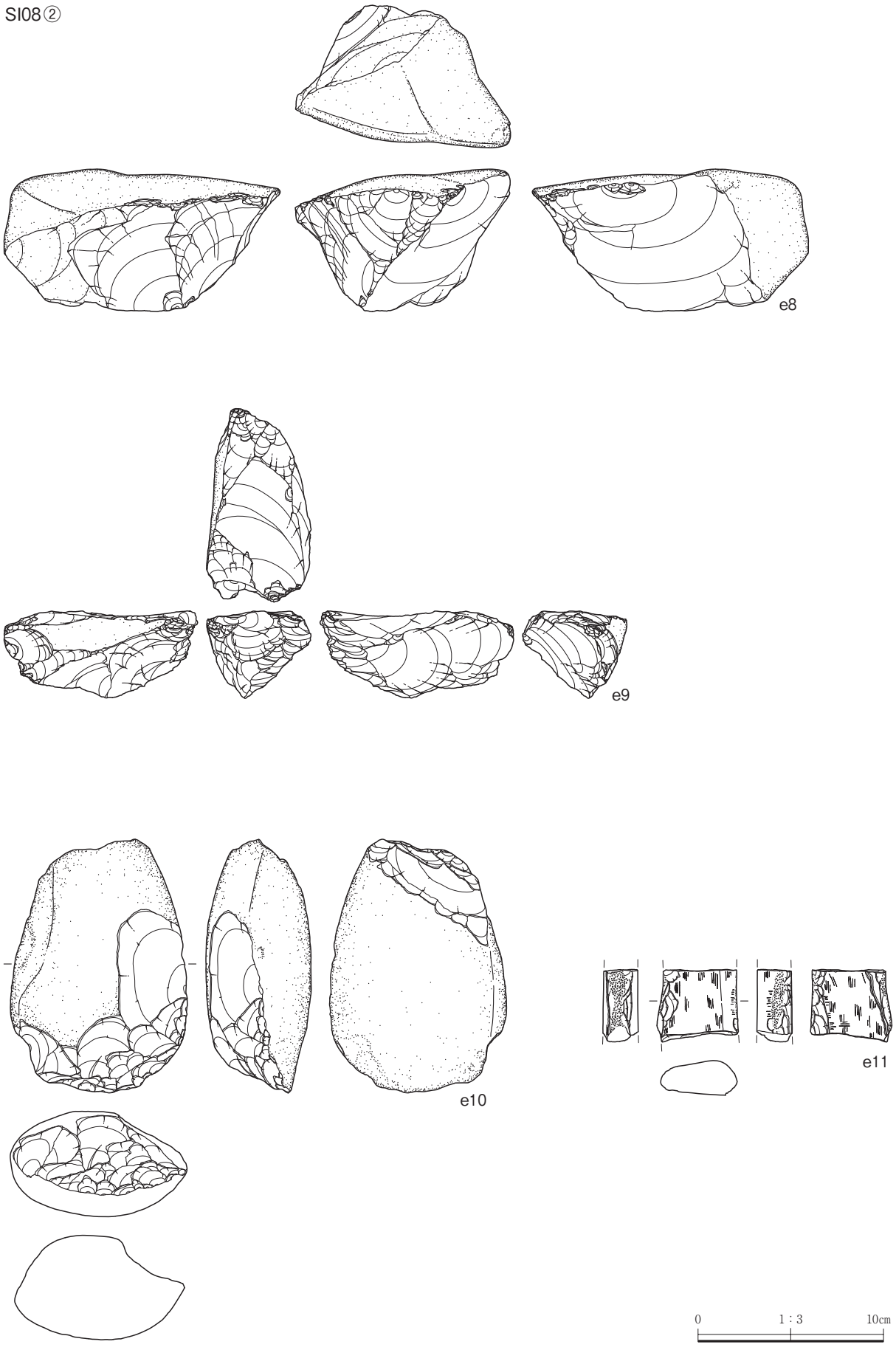

d43
d44
d45
d46
d47
d48
d49
d50
d51
d52
d53
d54
d55
d56
d57
d58
d59
d60
d61
d62
d63
d64
d65
0
1：2
5cm

第125図　土製品（4）



第126図　遺構内出土石器（1）

SI08②

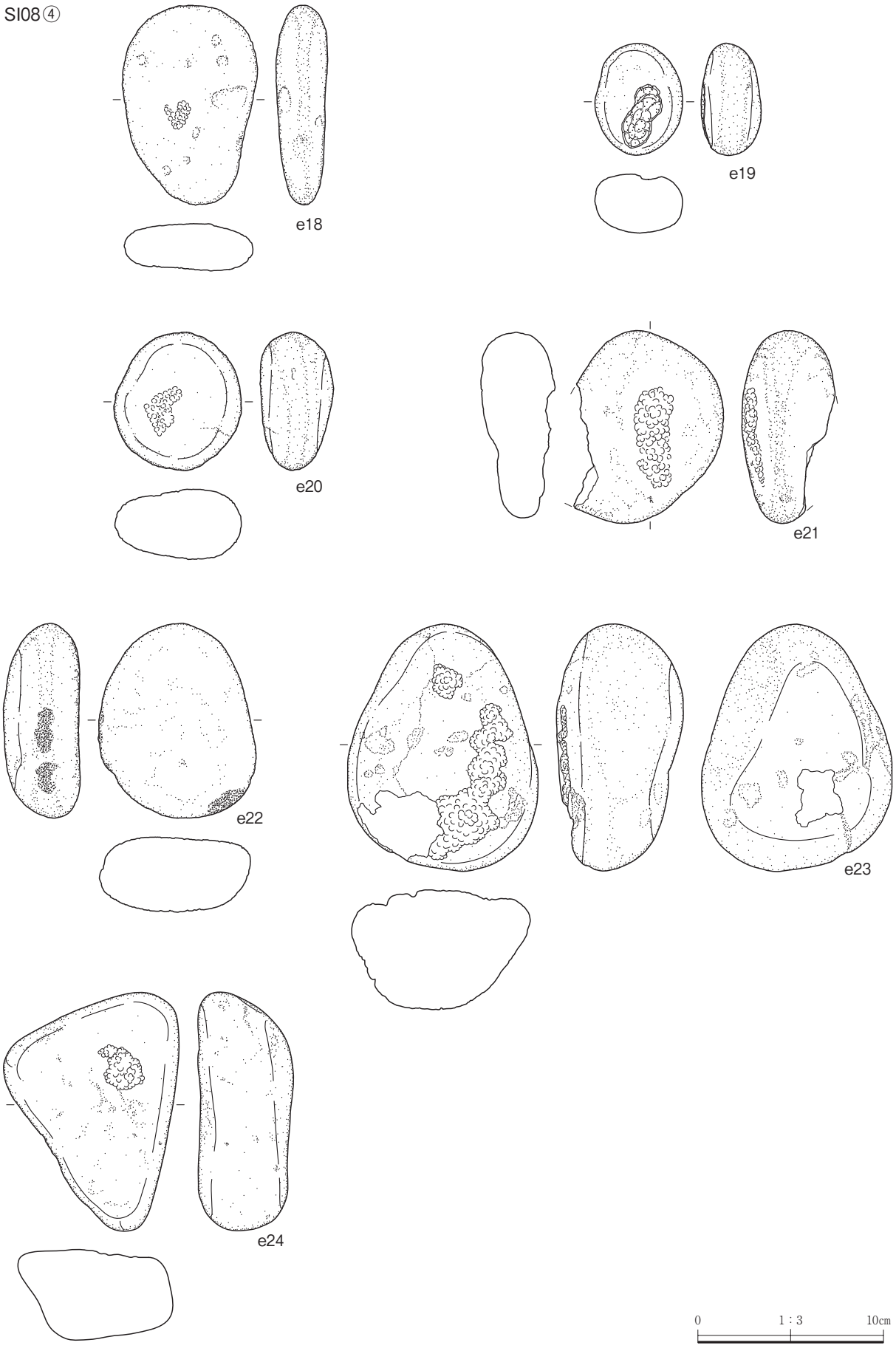


第127図　遺構内出土石器（2）

SI08③

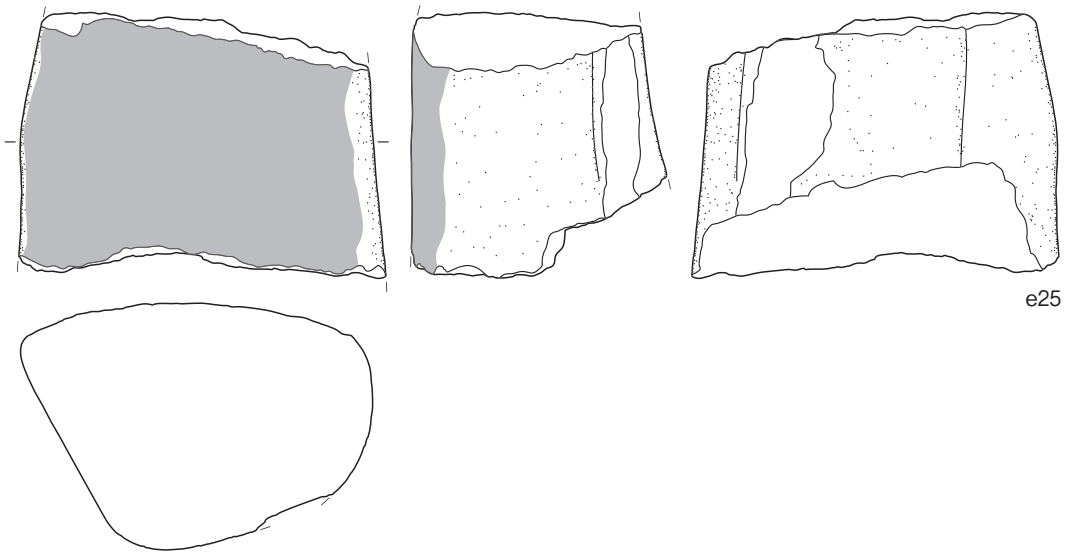
第128図　遺構内出土石器（3）

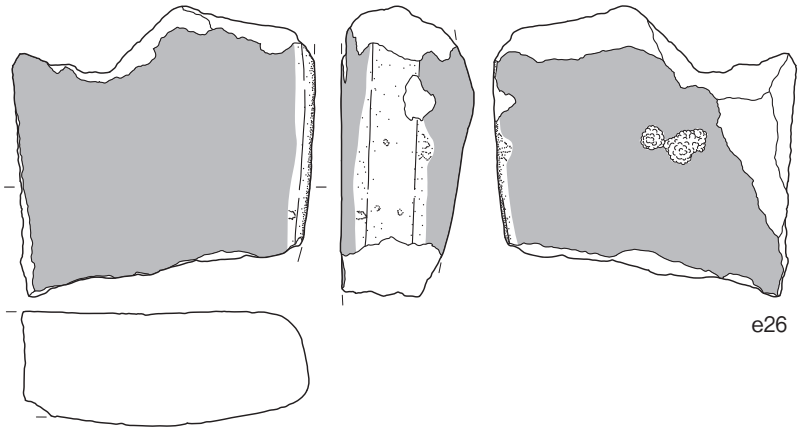
SI08④

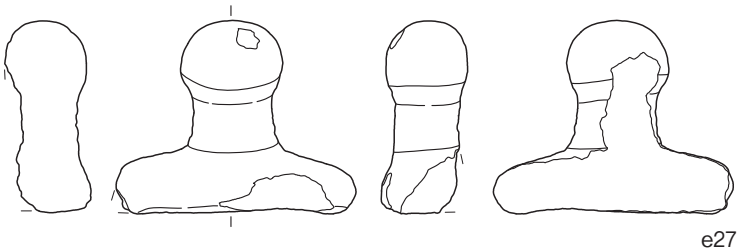


第129図　遺構内出土石器（4）

SI08⑤





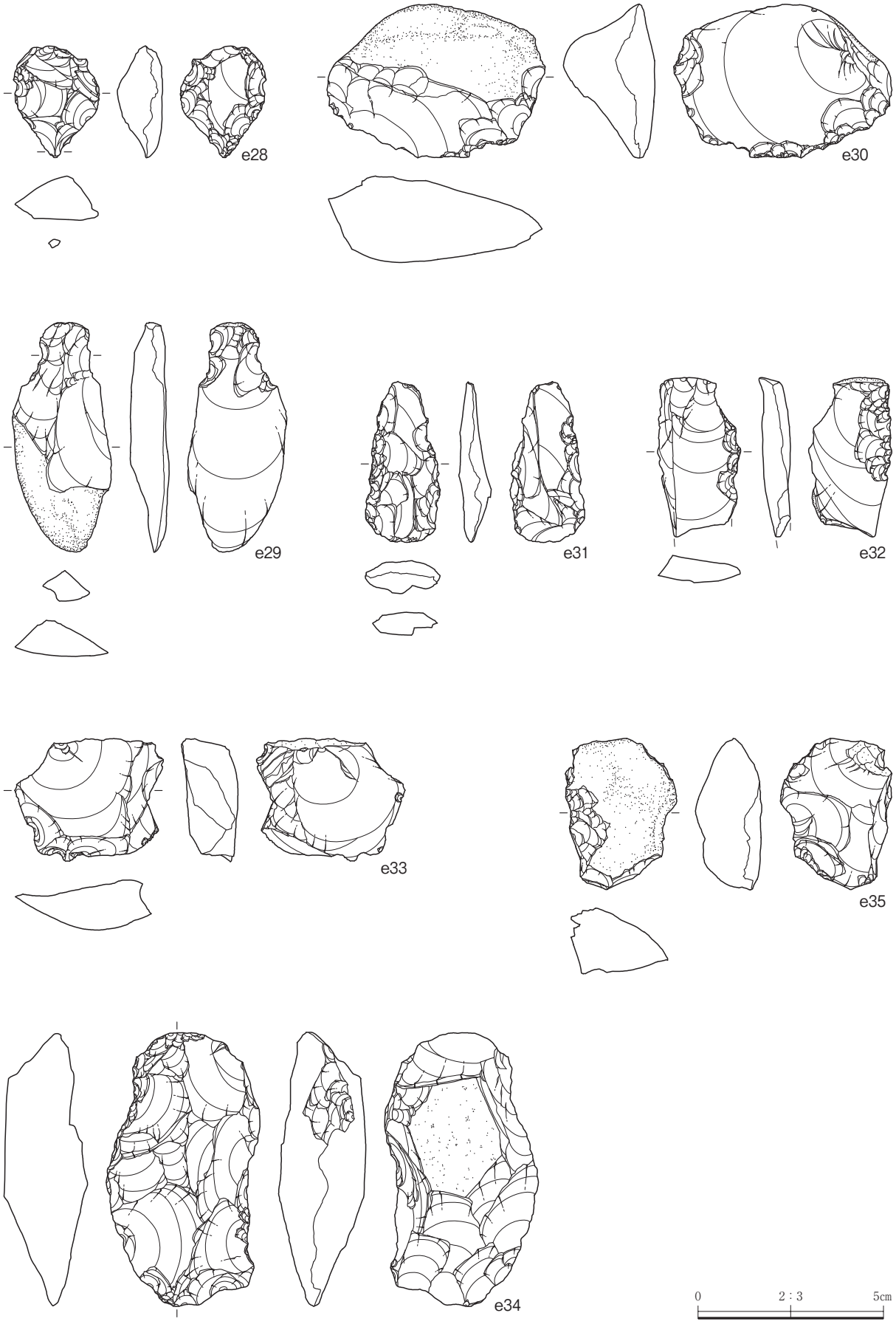


(e26)　0　1：5　10cm

(e25・27)　0　1：3　10cm

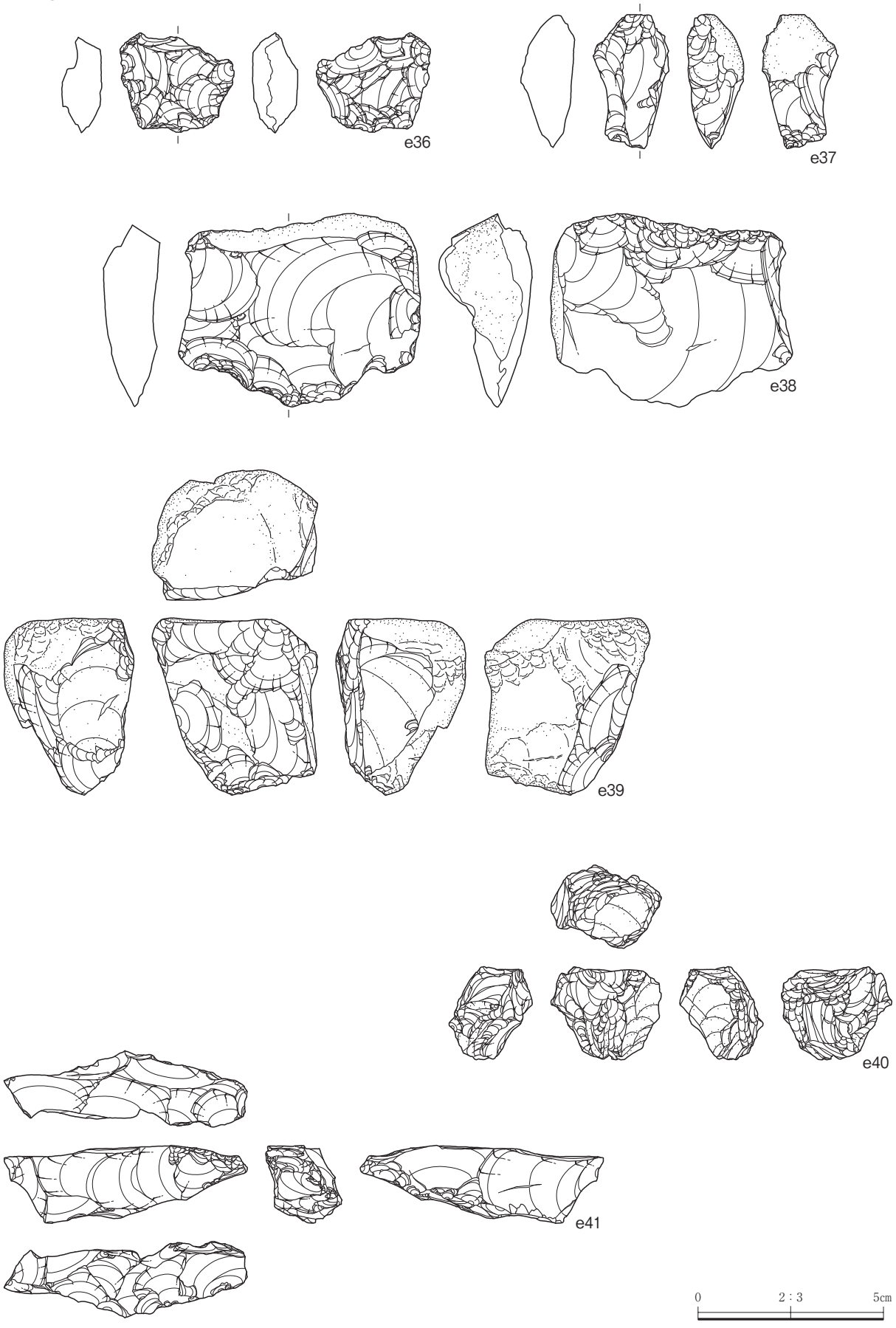
第130図　遺構内出土石器（5）

SI13①

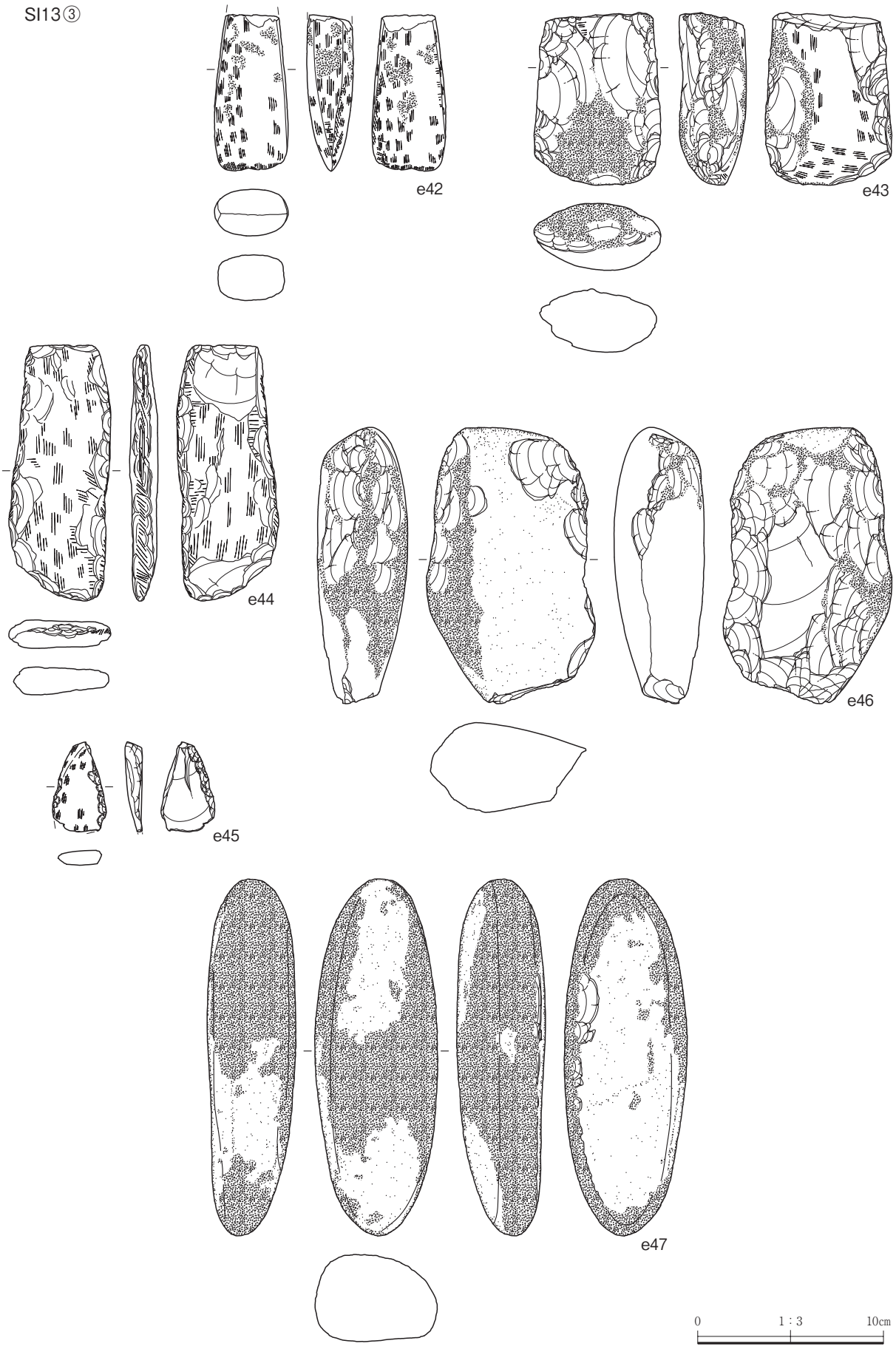


第131図　遺構内出土石器（6）

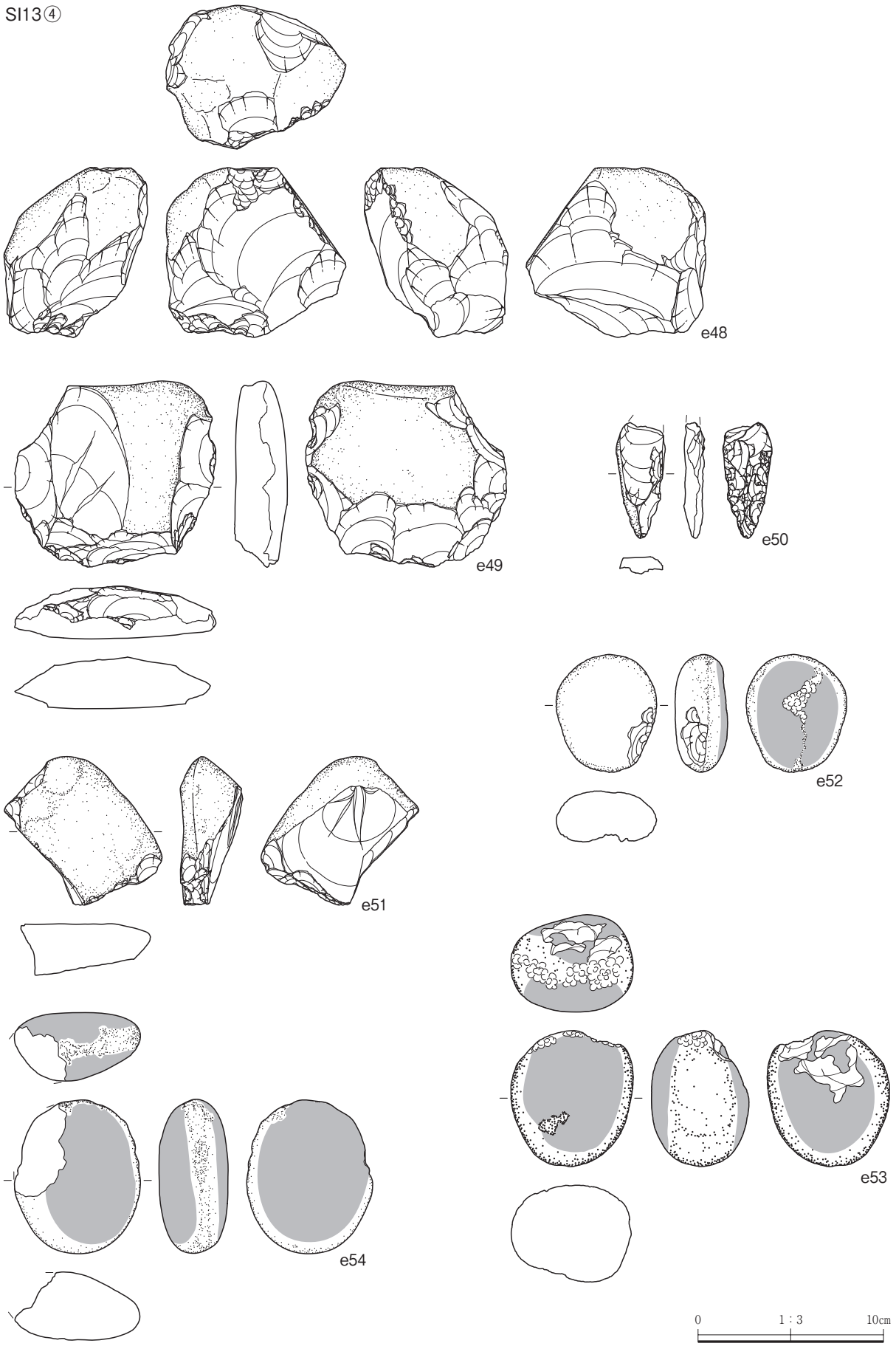
SI13②



第132図　遺構内出土石器（7）



第133図　遺構内出土石器（8）



第134図　遺構内出土石器（9）

SI13⑤

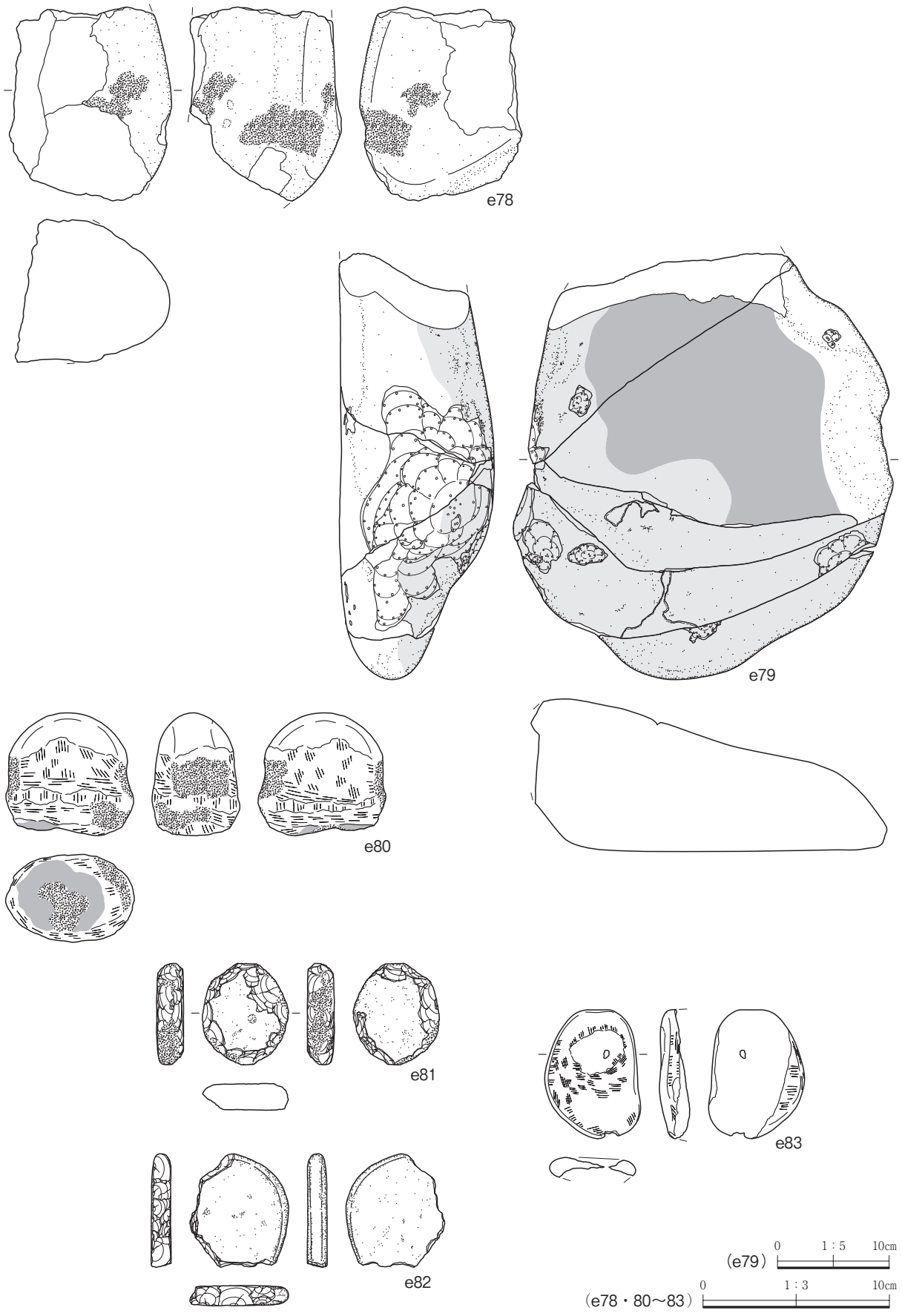
第135図　遺構内出土石器（10）

第136図　遺構内出土石器（11）

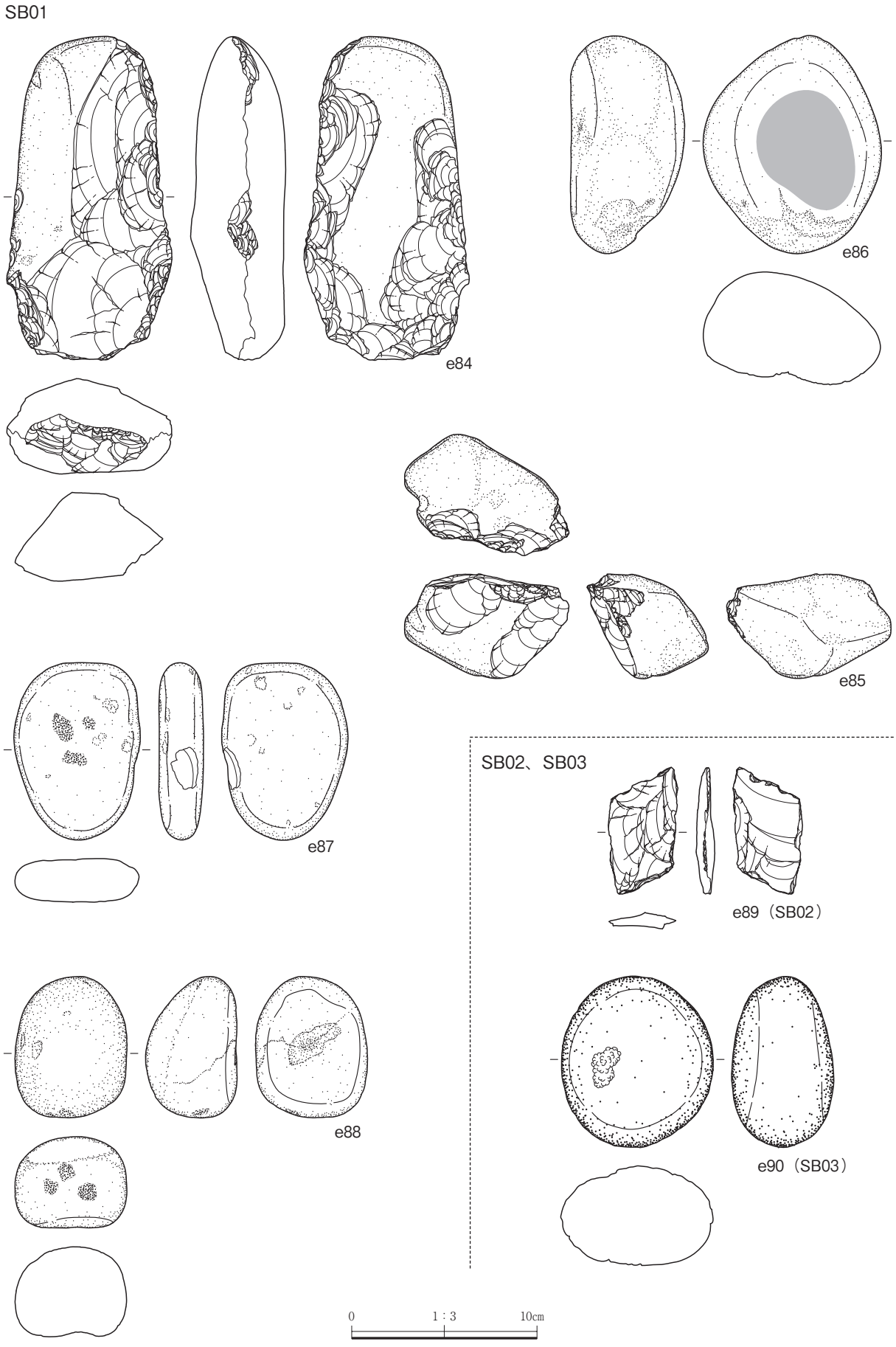
SI13⑦

第137図　遺構内出土石器（12）

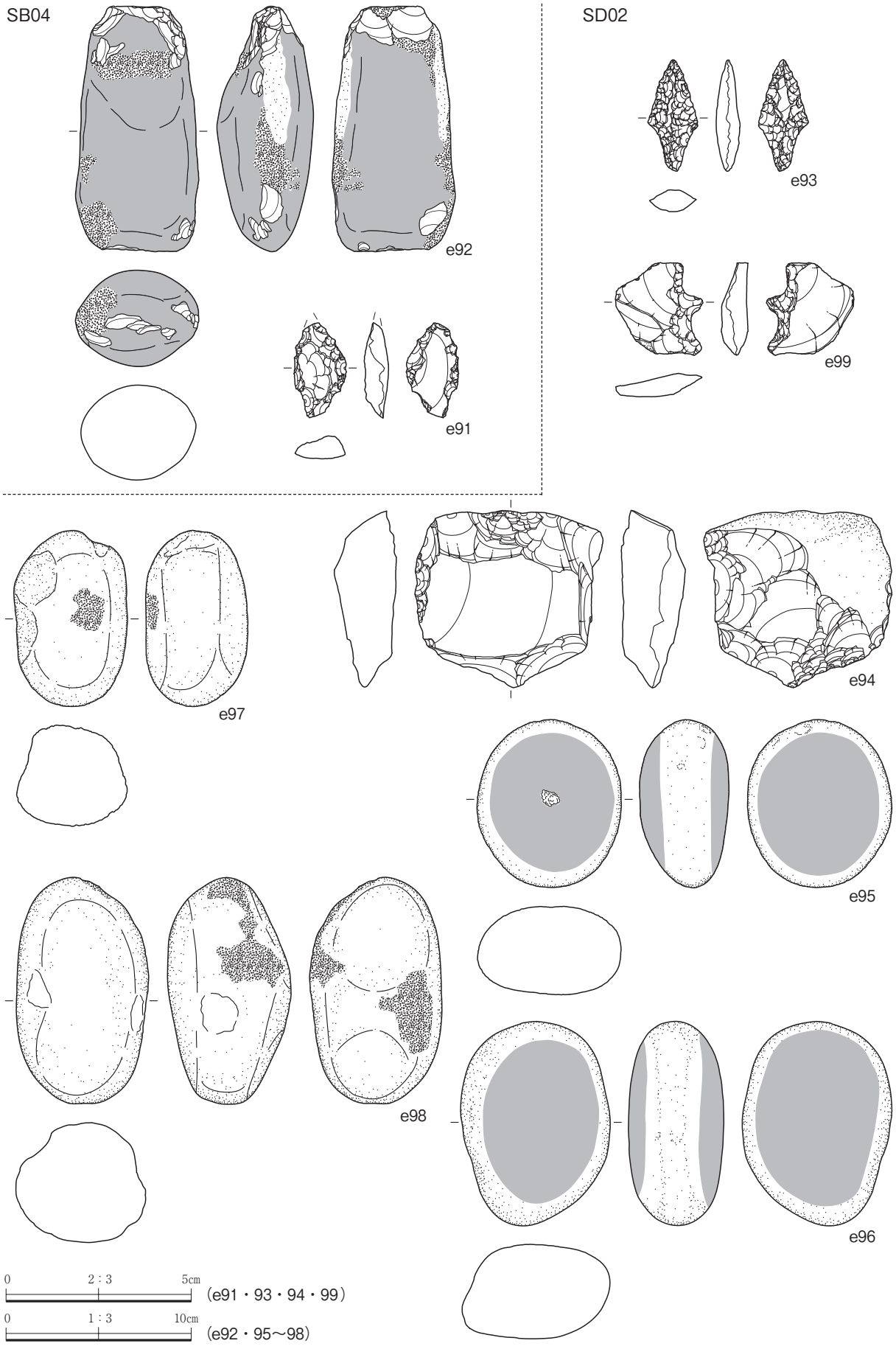
SI13⑧



第138図　遺構内出土石器（13）

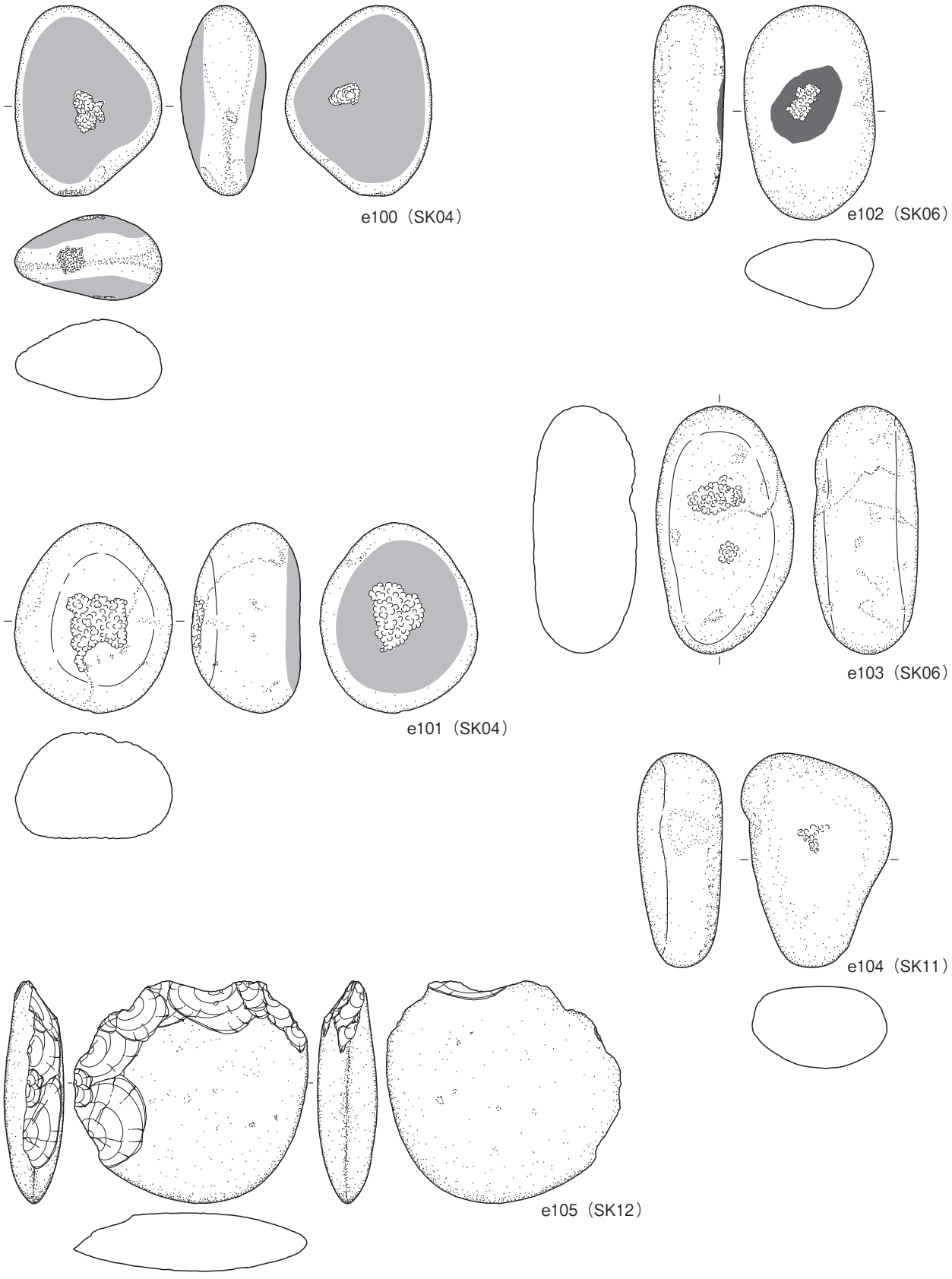


第139図　遺構内出土石器（14）



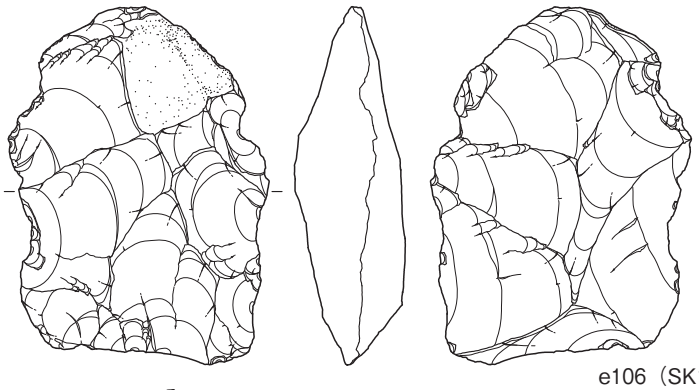
第140図　遺構内出土石器（15）

SK04、SK06、SK11、SK12

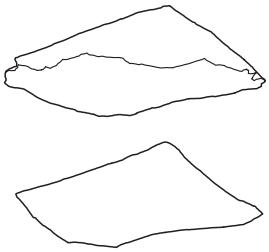


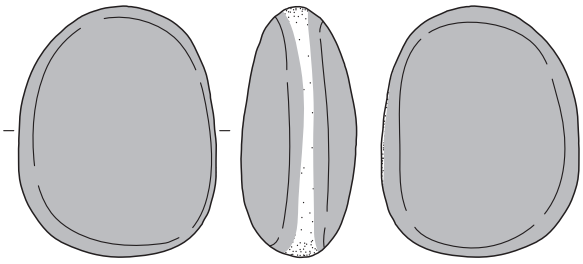
第141図　遺構内出土石器（16）

SK13、SK20、SK24

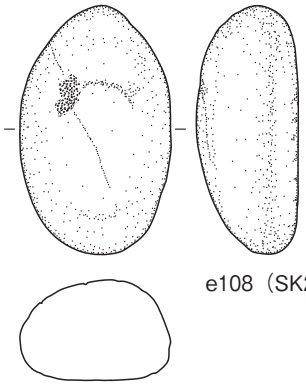


e106（SK13）

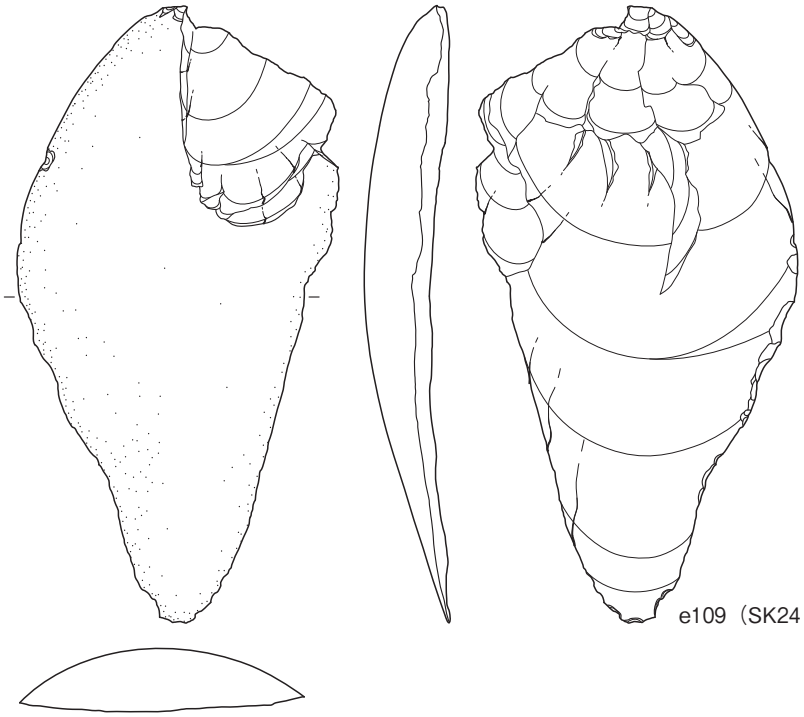




e107（SK20）



e108（SK20）



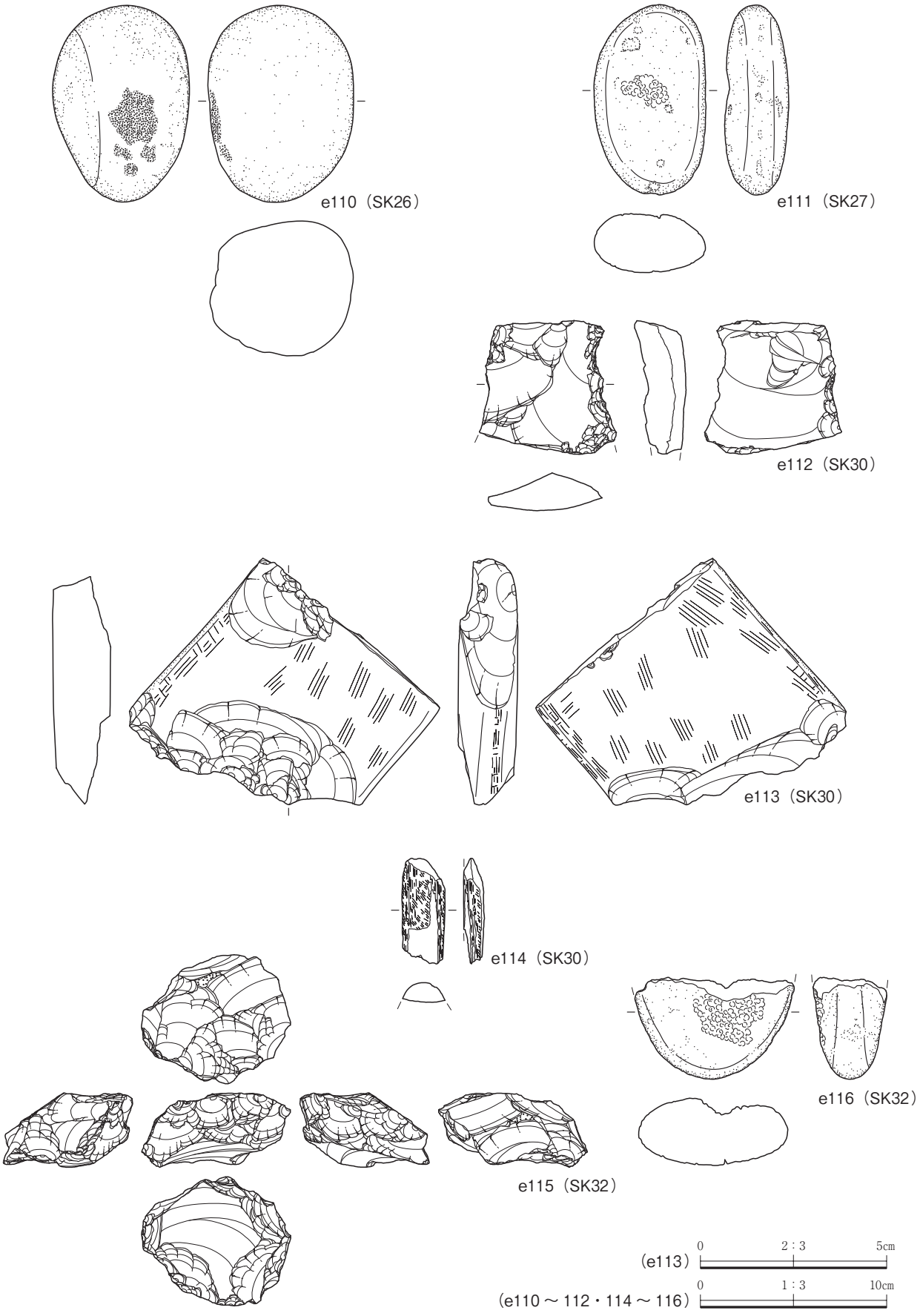
e109（SK24）

（e106・109）　0　2：3　5cm

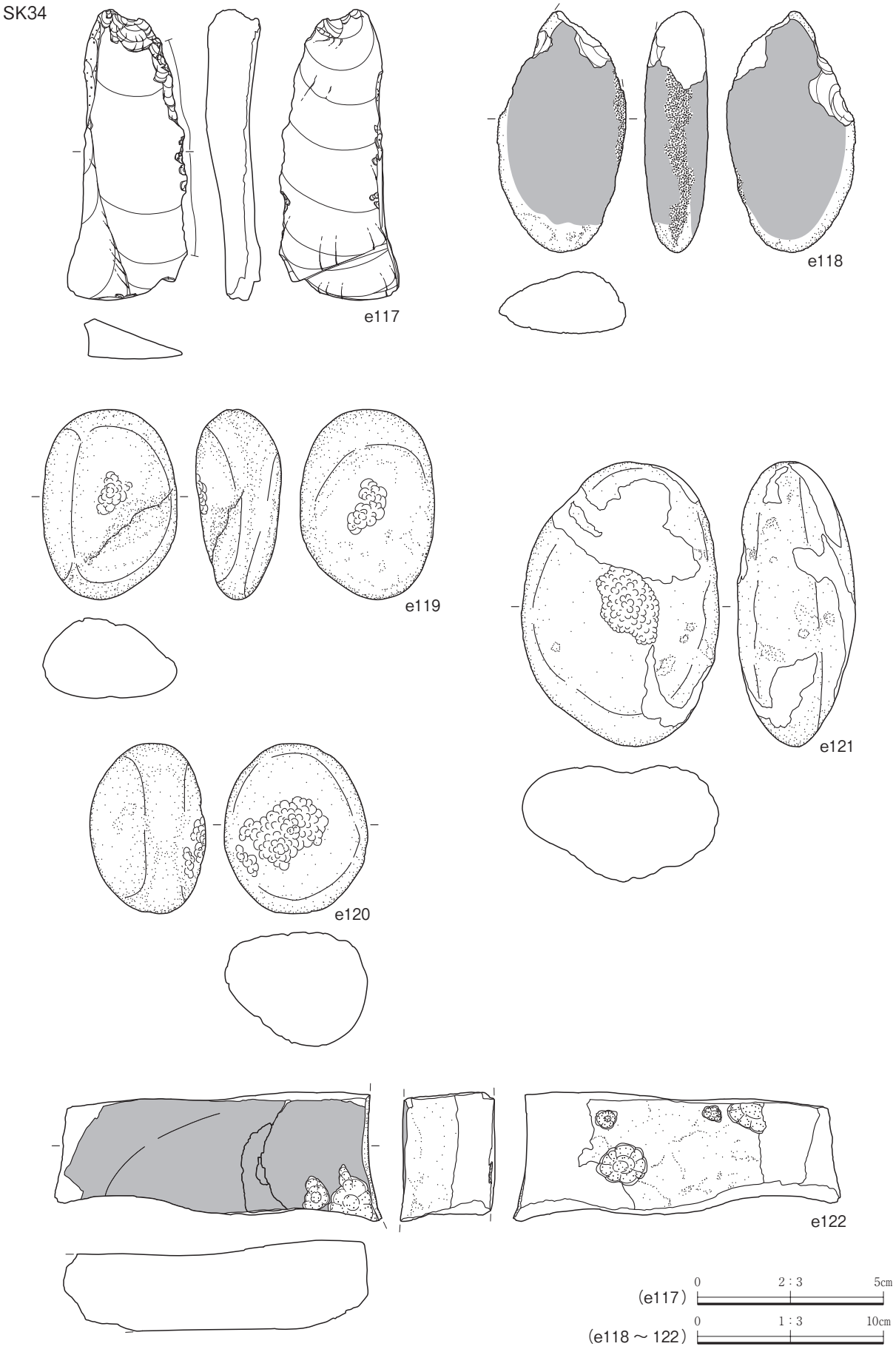
（e107・108）　0　1：3　10cm

第142図　遺構内出土石器（17）

SK26、SK27、SK30、SK32



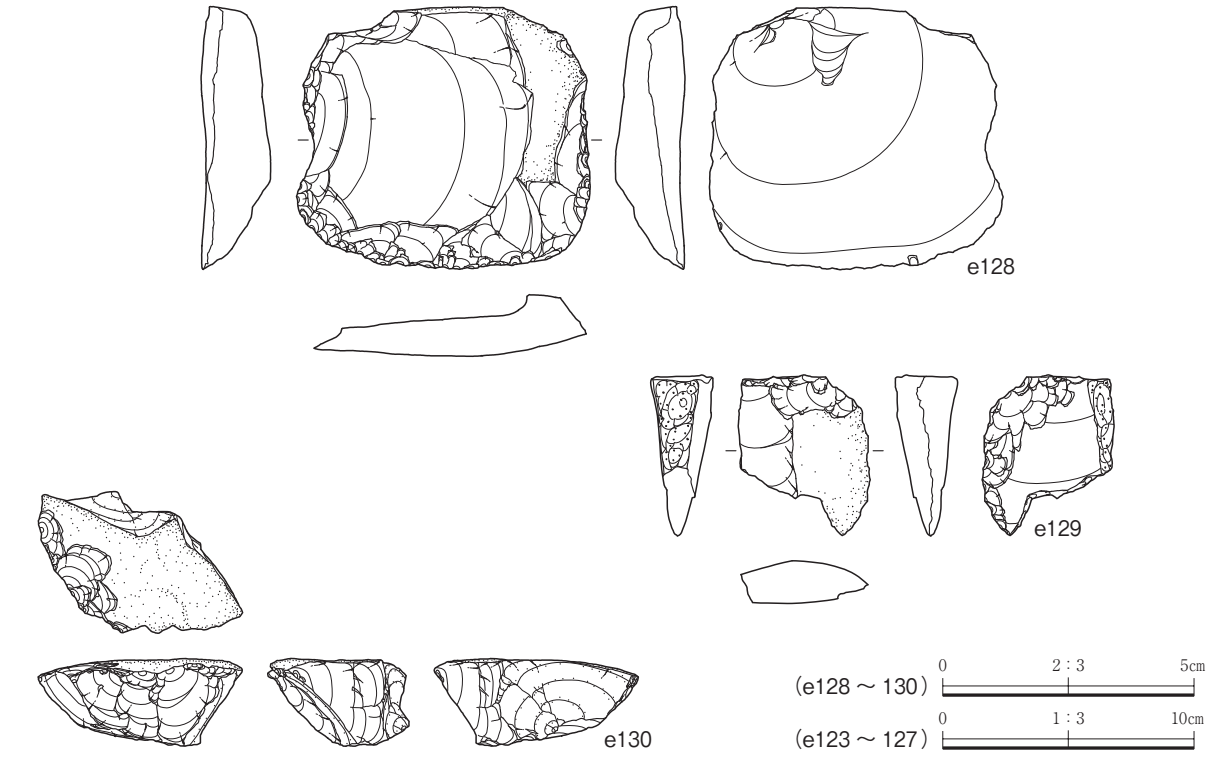
第143図　遺構内出土石器（18）



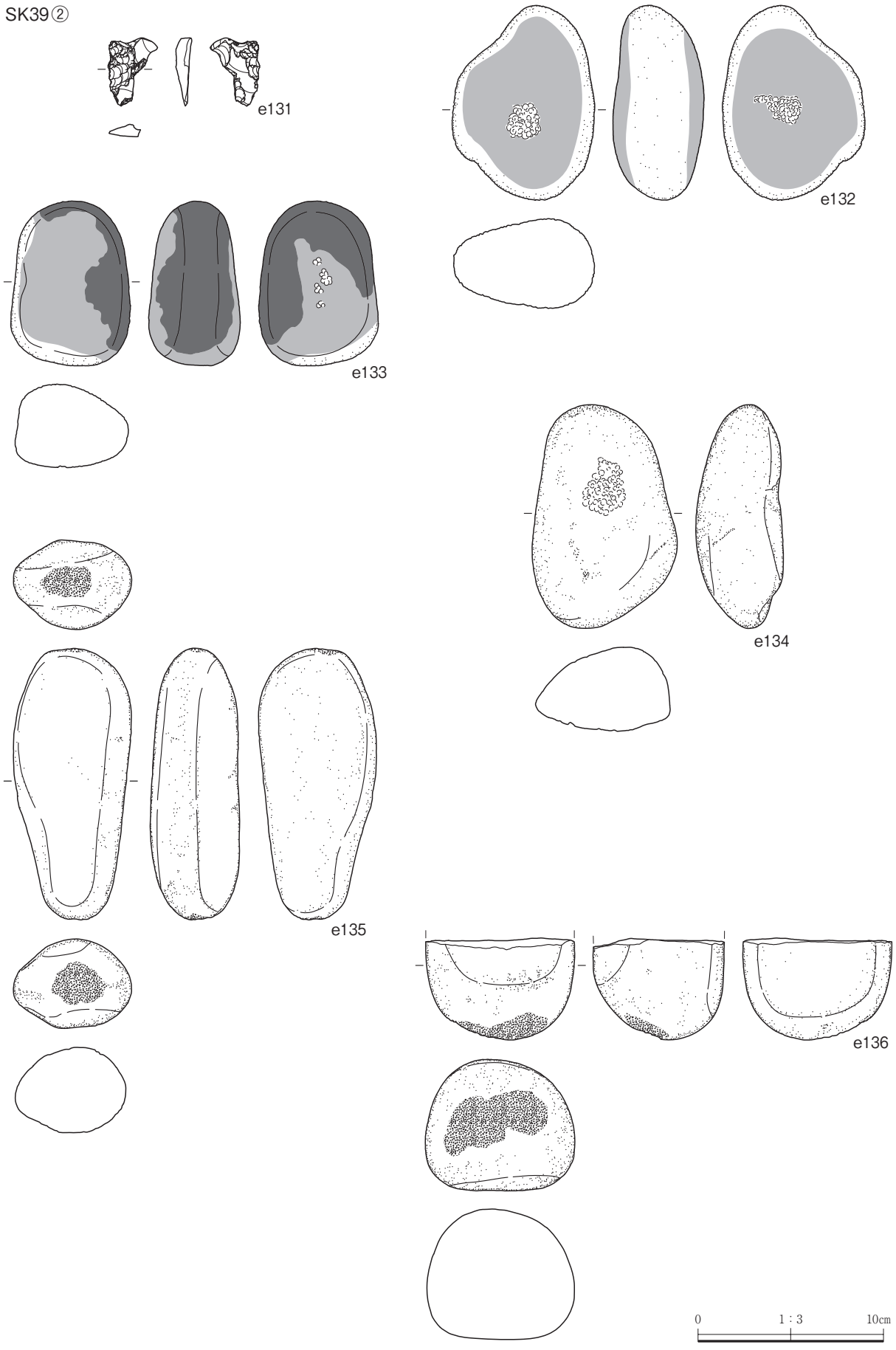
第144図　遺構内出土石器（19）

SK38

SK39①

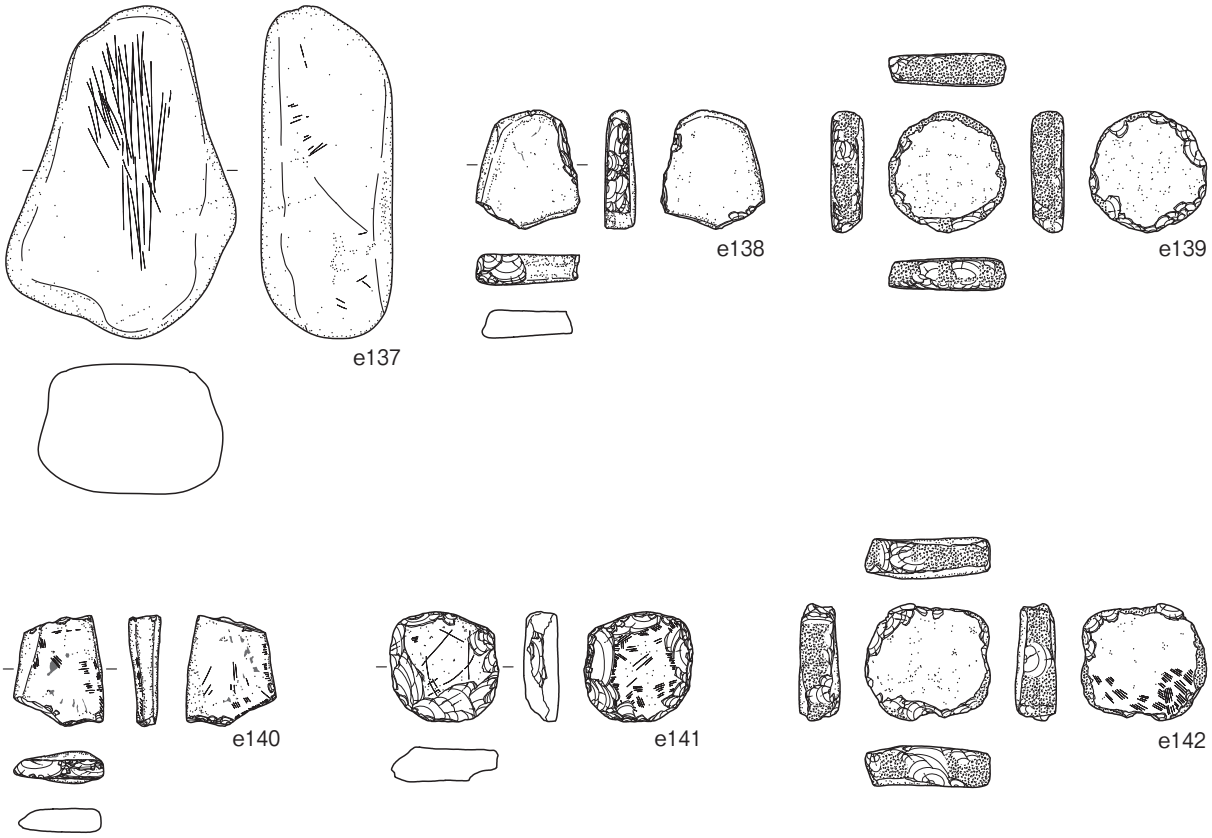


第145図　遺構内出土石器（20）

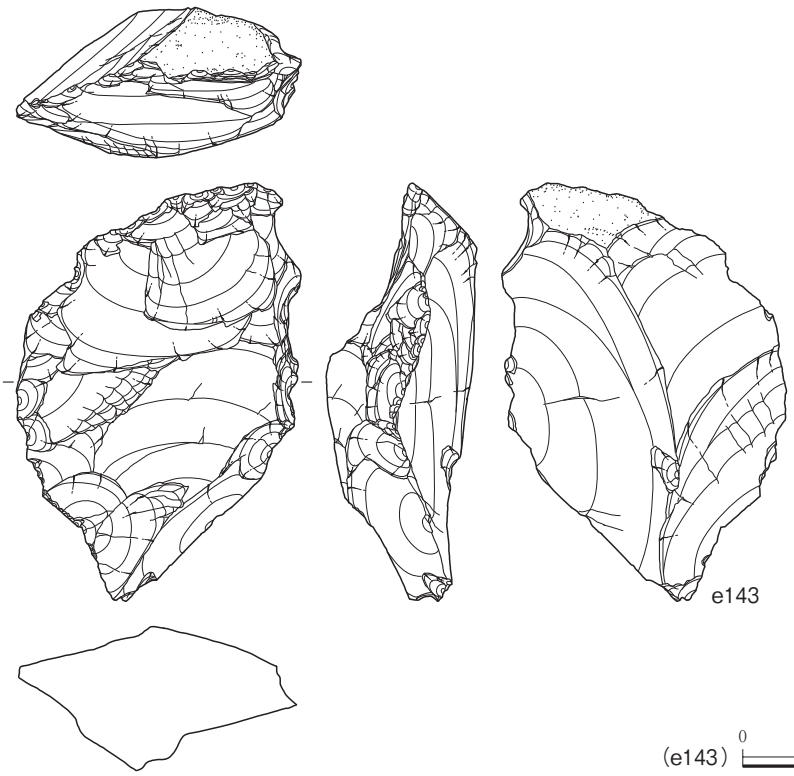


第146図　遺構内出土石器（21）

SK39③

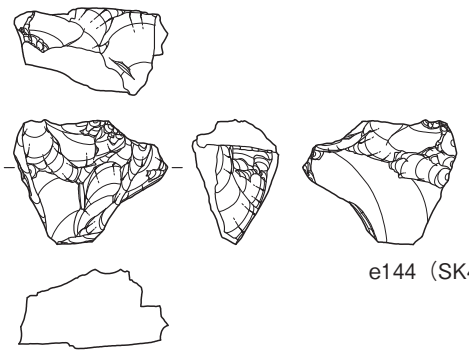


SK40

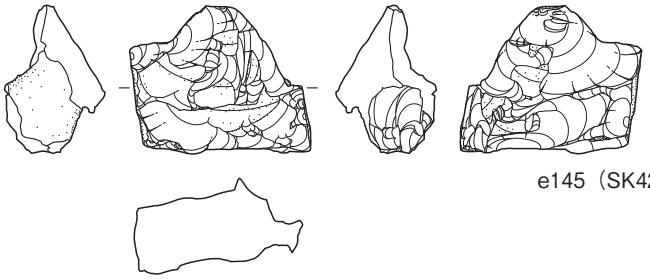


第147図　遺構内出土石器（22）

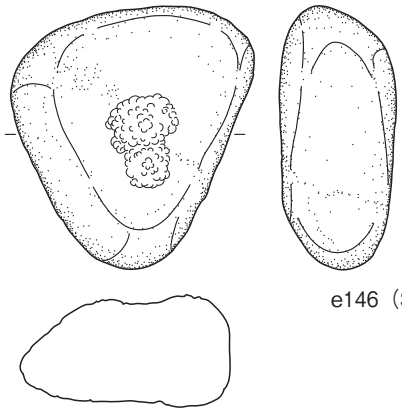
SK42、SK43、SK44、SK45、SK59



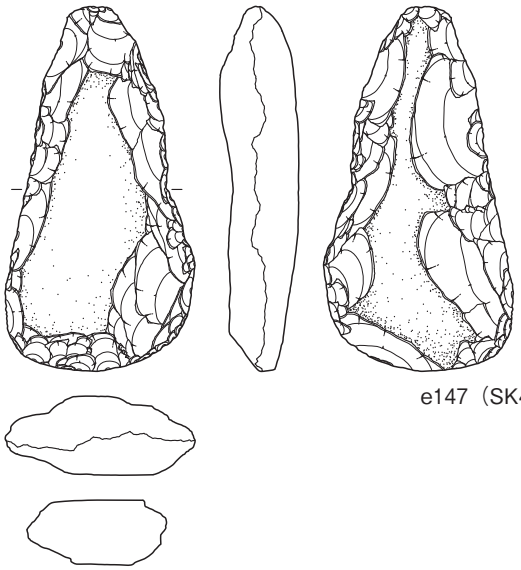
e144（SK42）



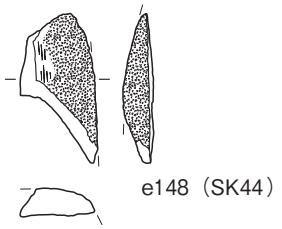
e145（SK42）



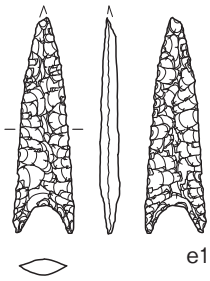
e146（SK43）



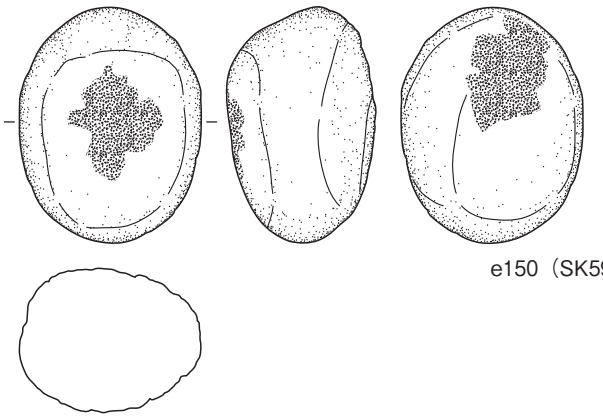
e147（SK44）



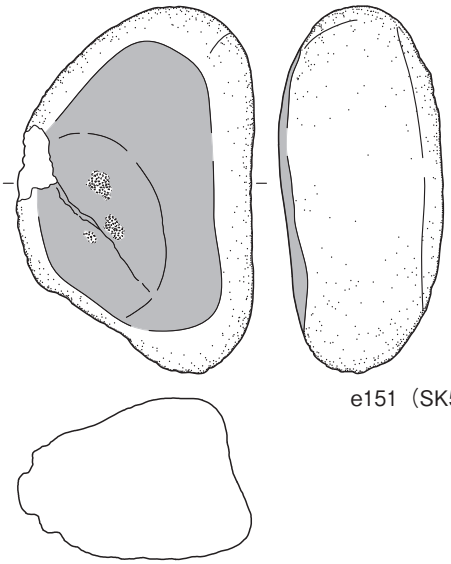
e148（SK44）



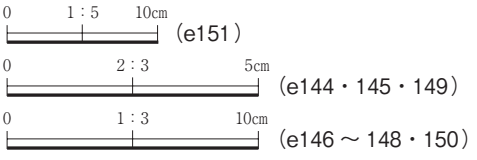
e149（SK45）



e150（SK59）

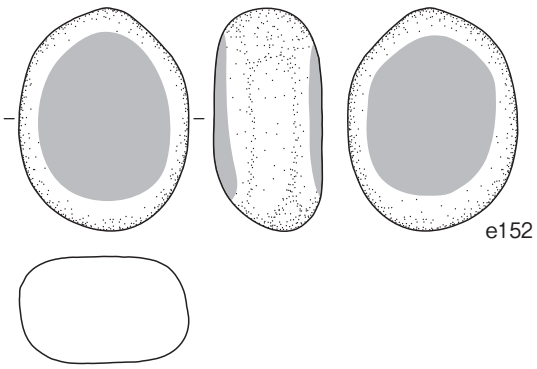


e151（SK59）

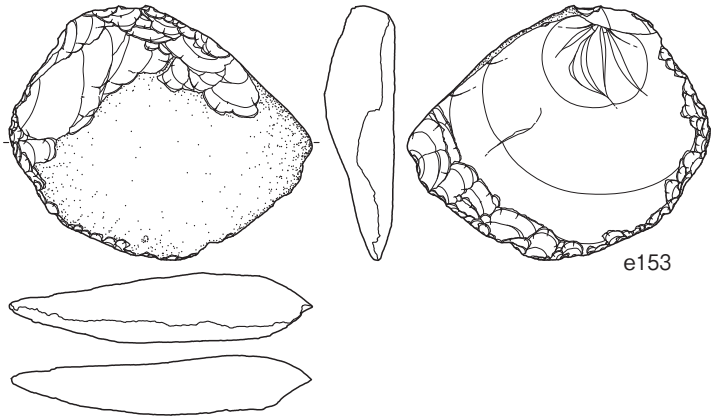


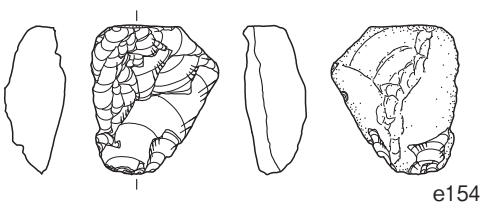
第148図　遺構内出土石器（23）

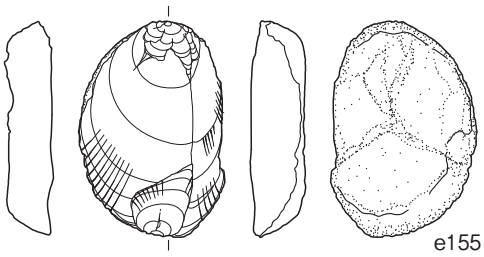
SK60

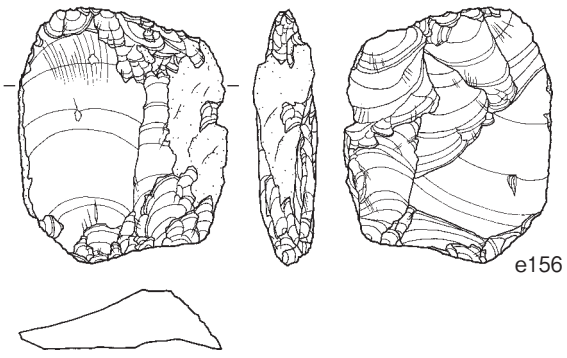


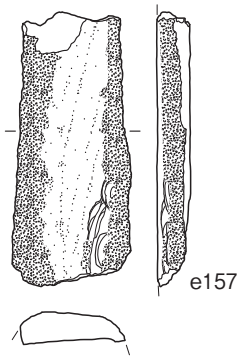
SK71







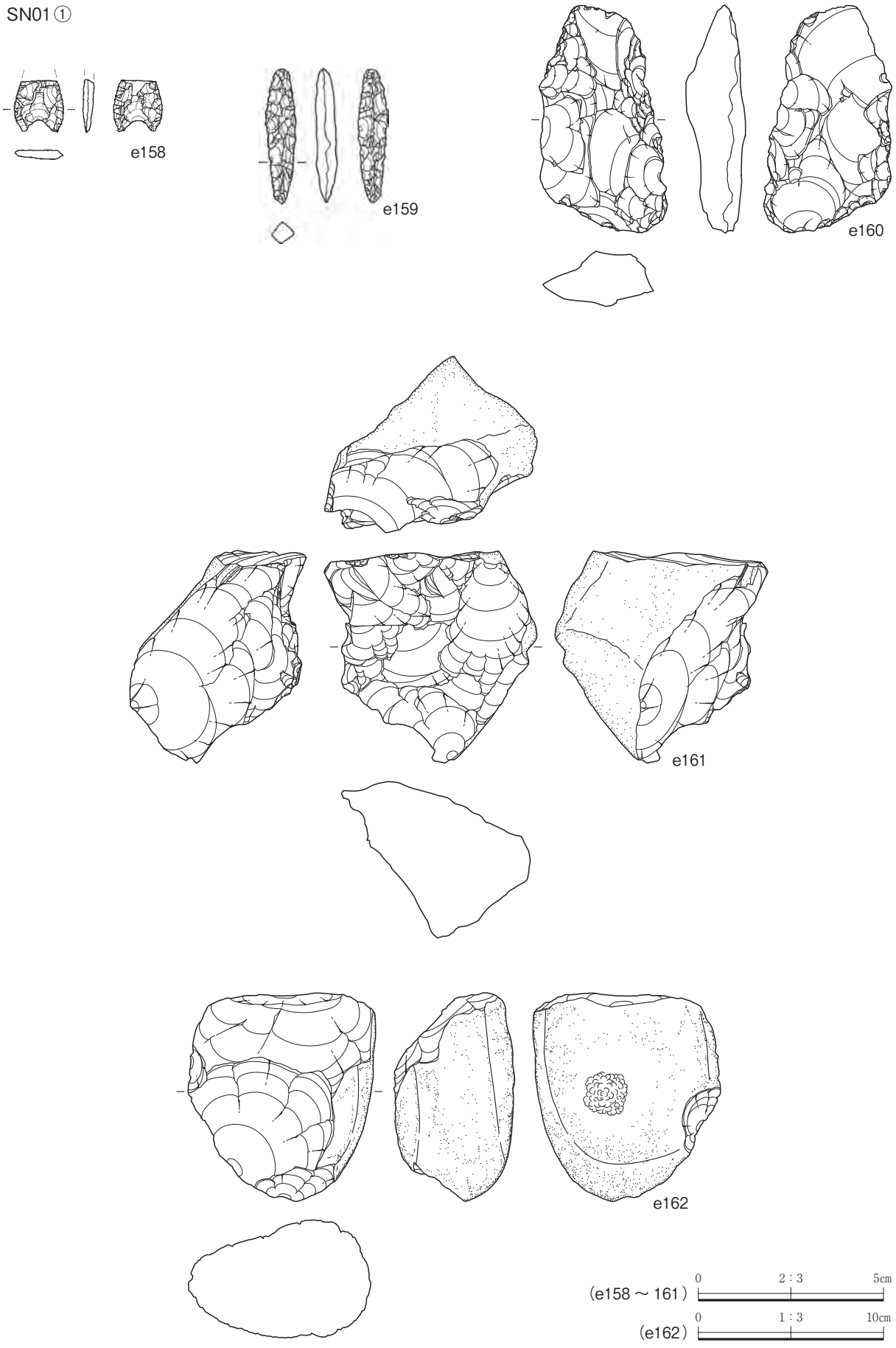




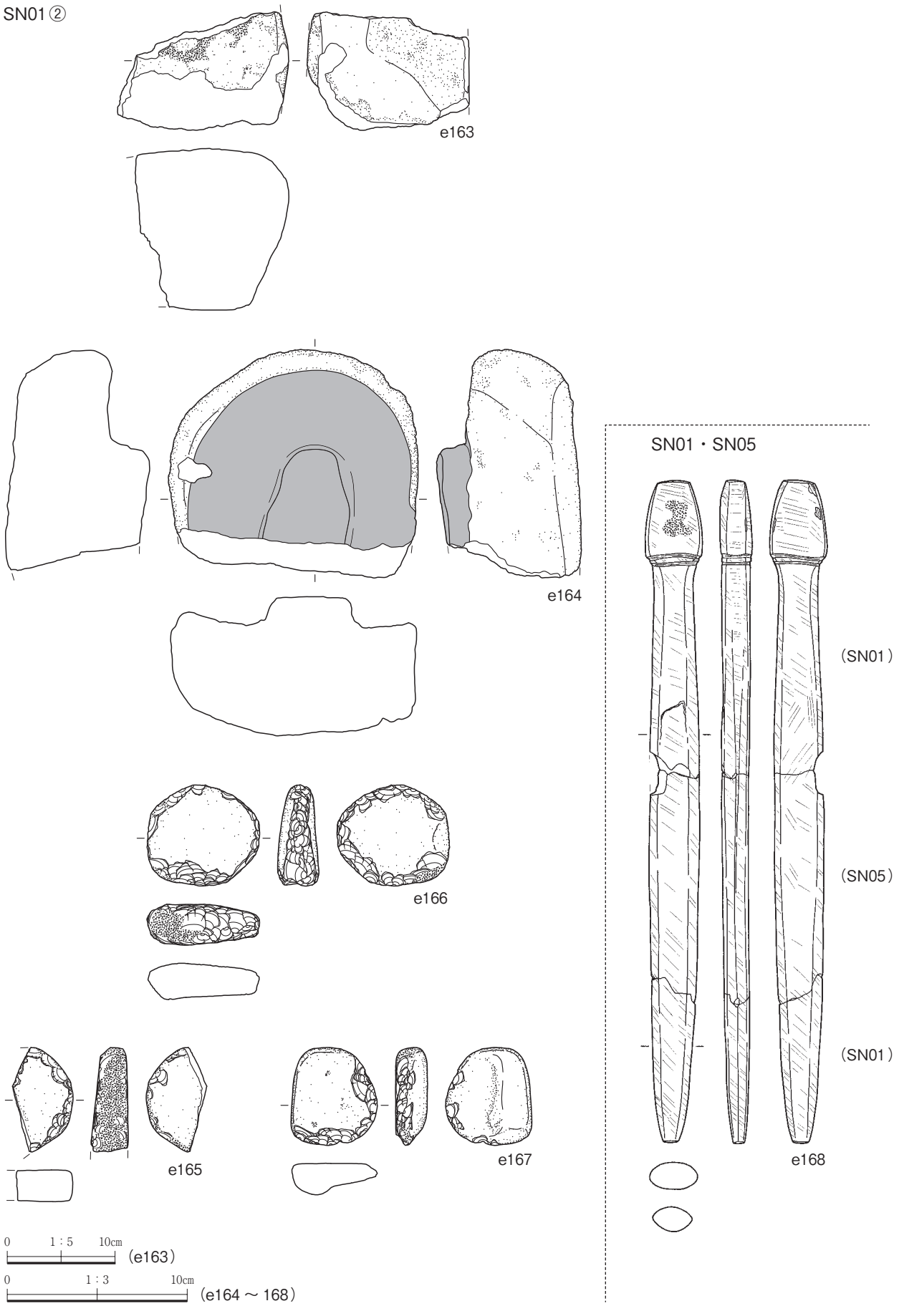
(e154 ～ 156)　0　2：3　5cm

(e152・153・157)　0　1：3　10cm

第149図　遺構内出土石器(24)

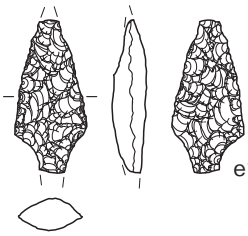


第150図　遺構内出土石器 (25)

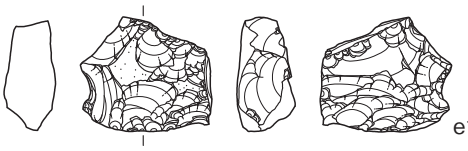


第151図　遺構内出土石器（26）

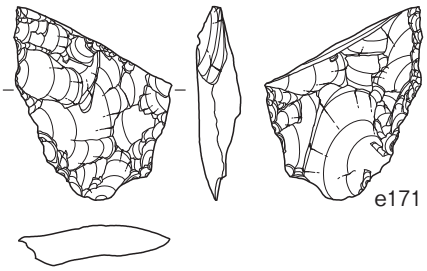
SN04、SN06



e169（SN04）

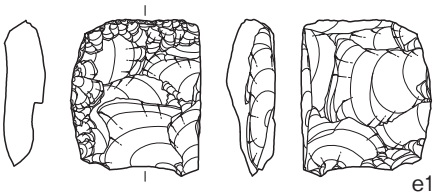


e170（SN04）

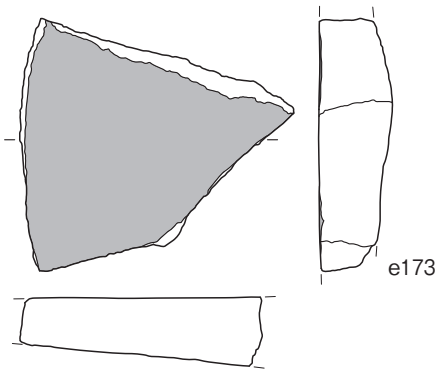


e171（SN06）

SX04

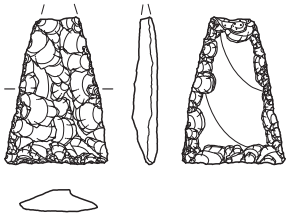


e172

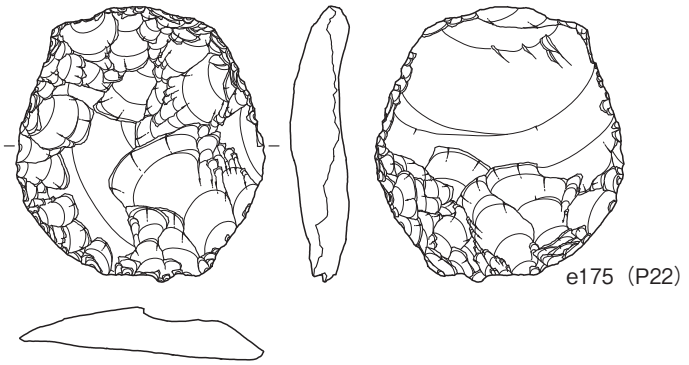


e173

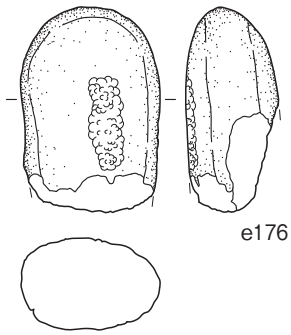
P20、P22、P115・117



e174（P20）



e175（P22）

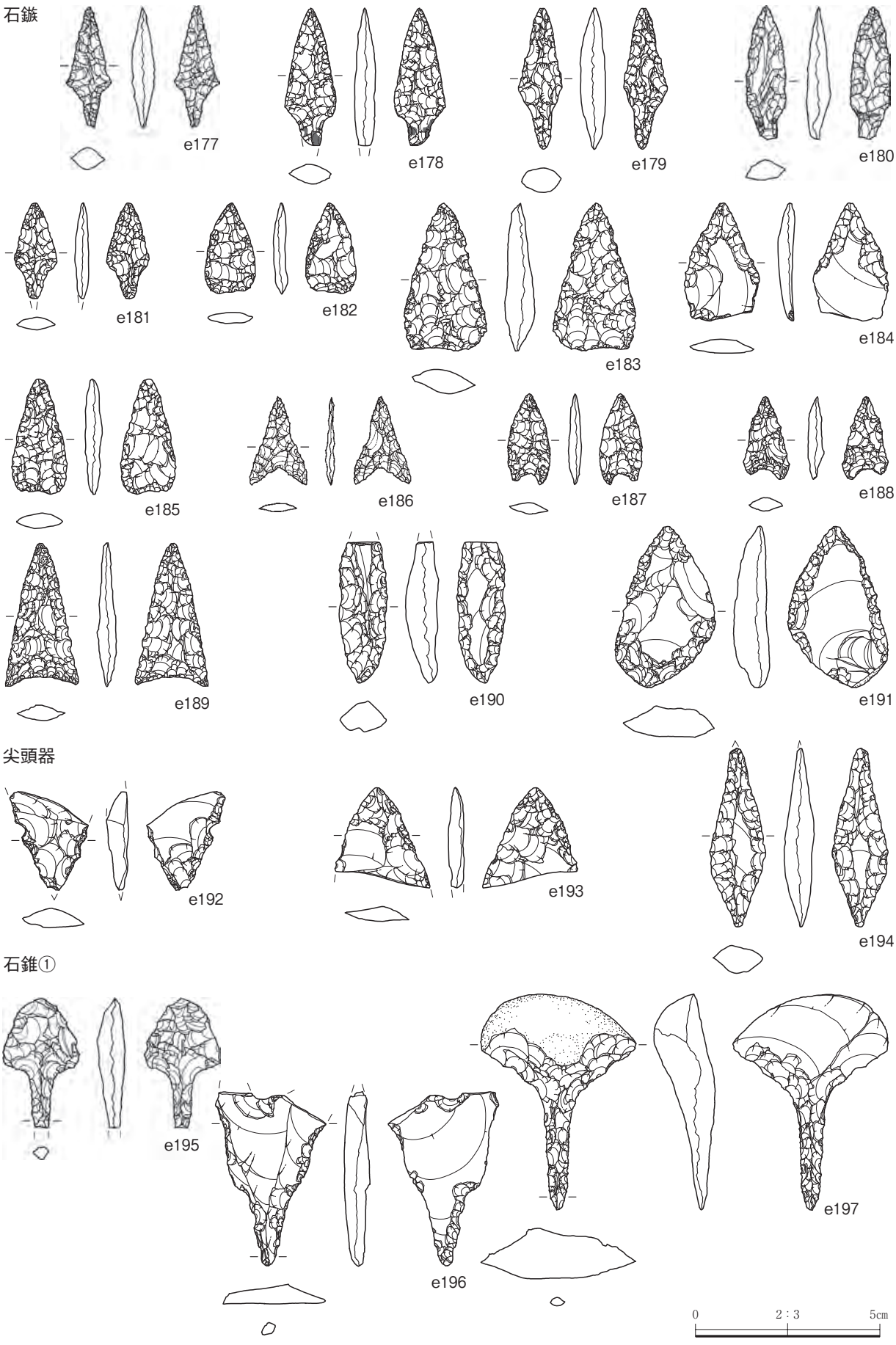


e176（P115・117）

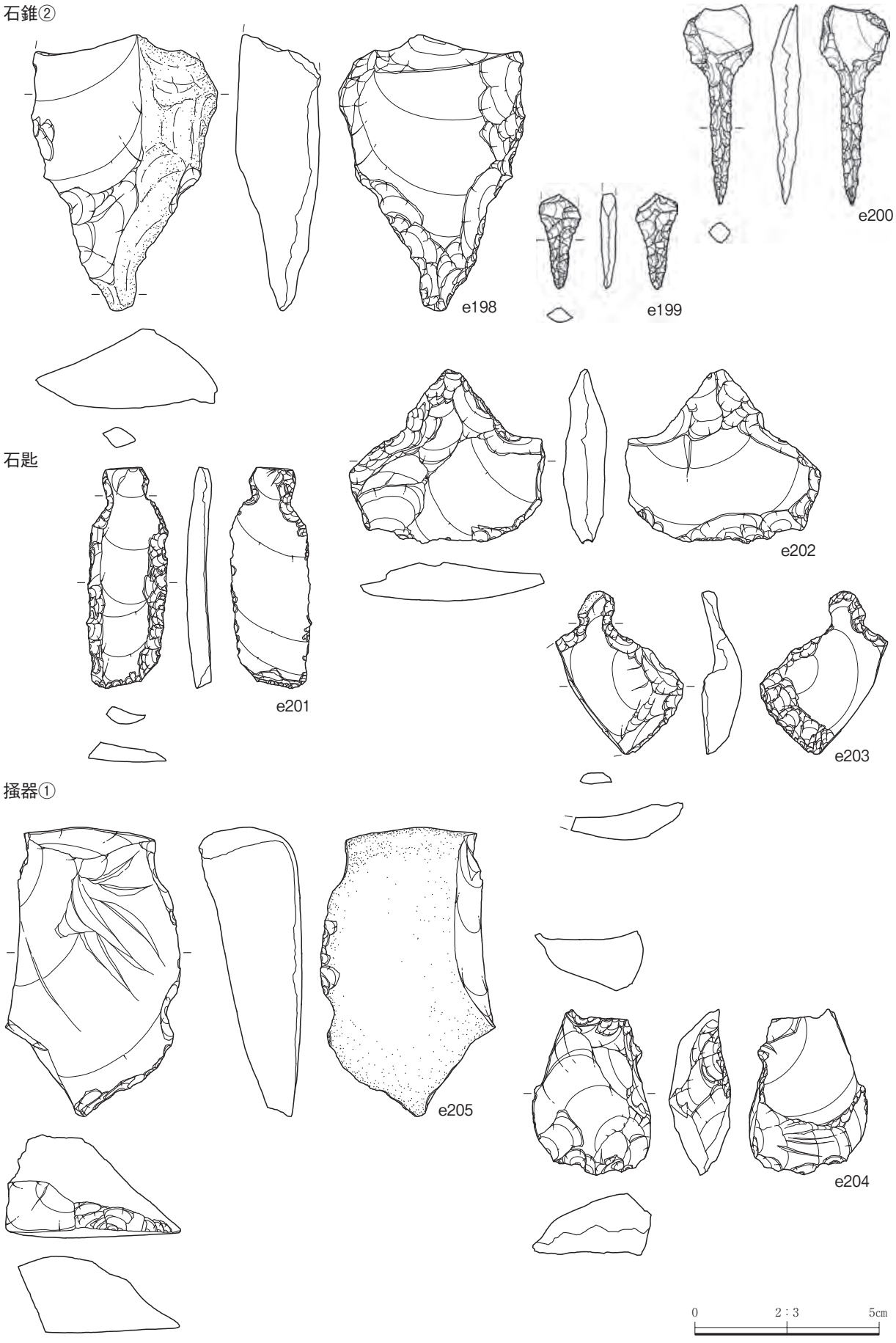
（e169～172・174・175）　0　2：3　5cm

（e173・176）　0　1：3　10cm

第152図　遺構内出土石器（27）

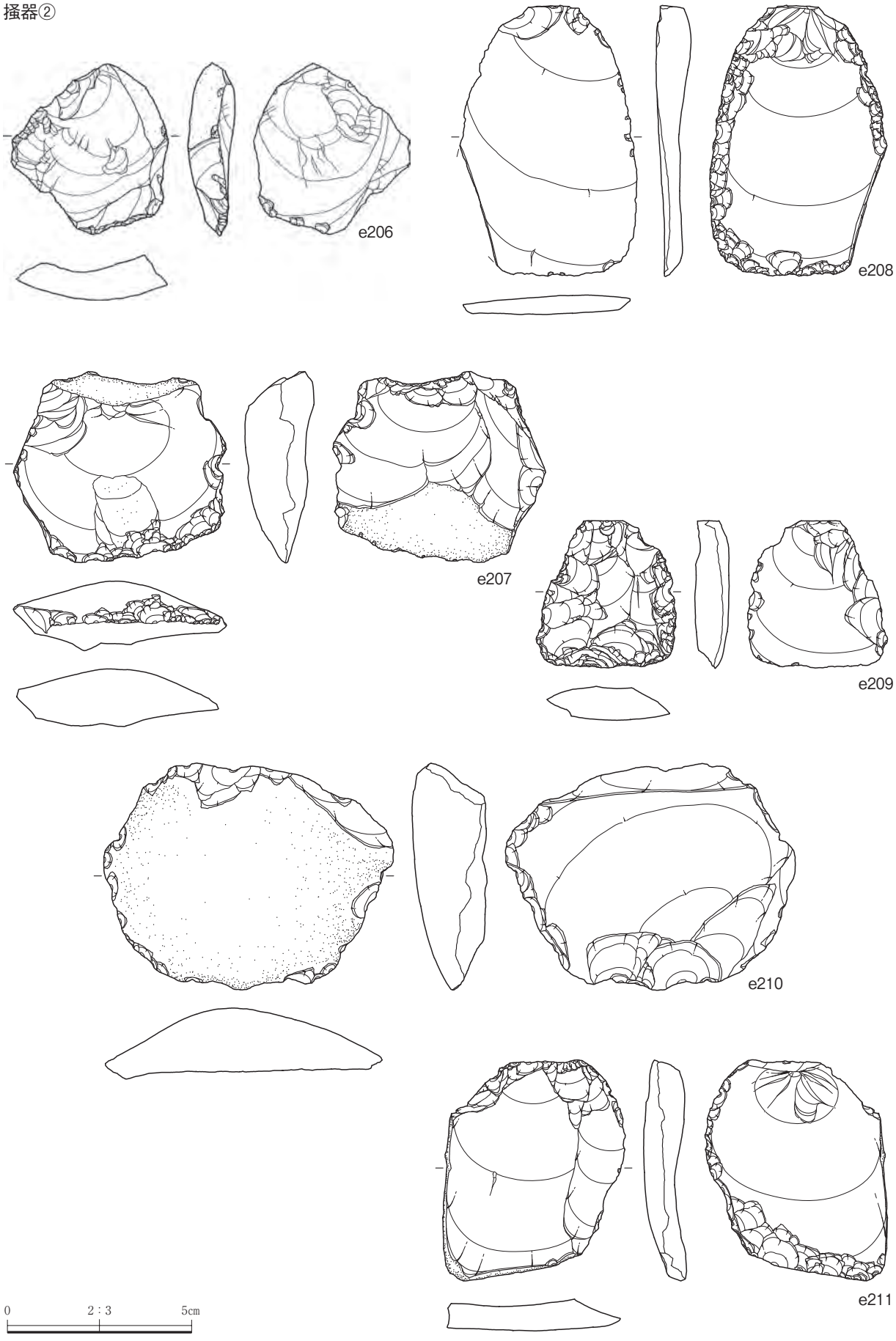


第153図　遺構外出土石器（1）

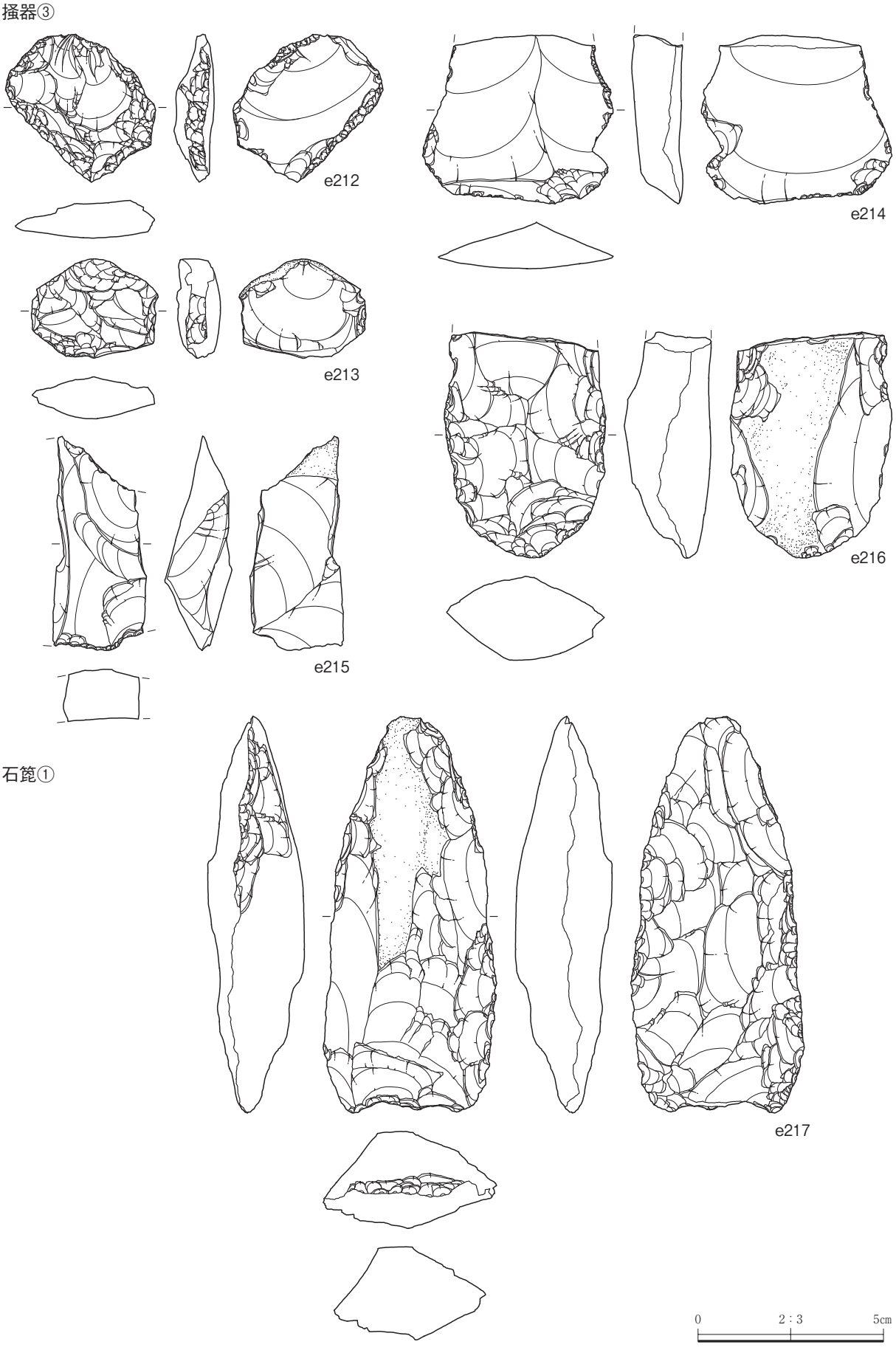


第154図　遺構外出土石器（2）

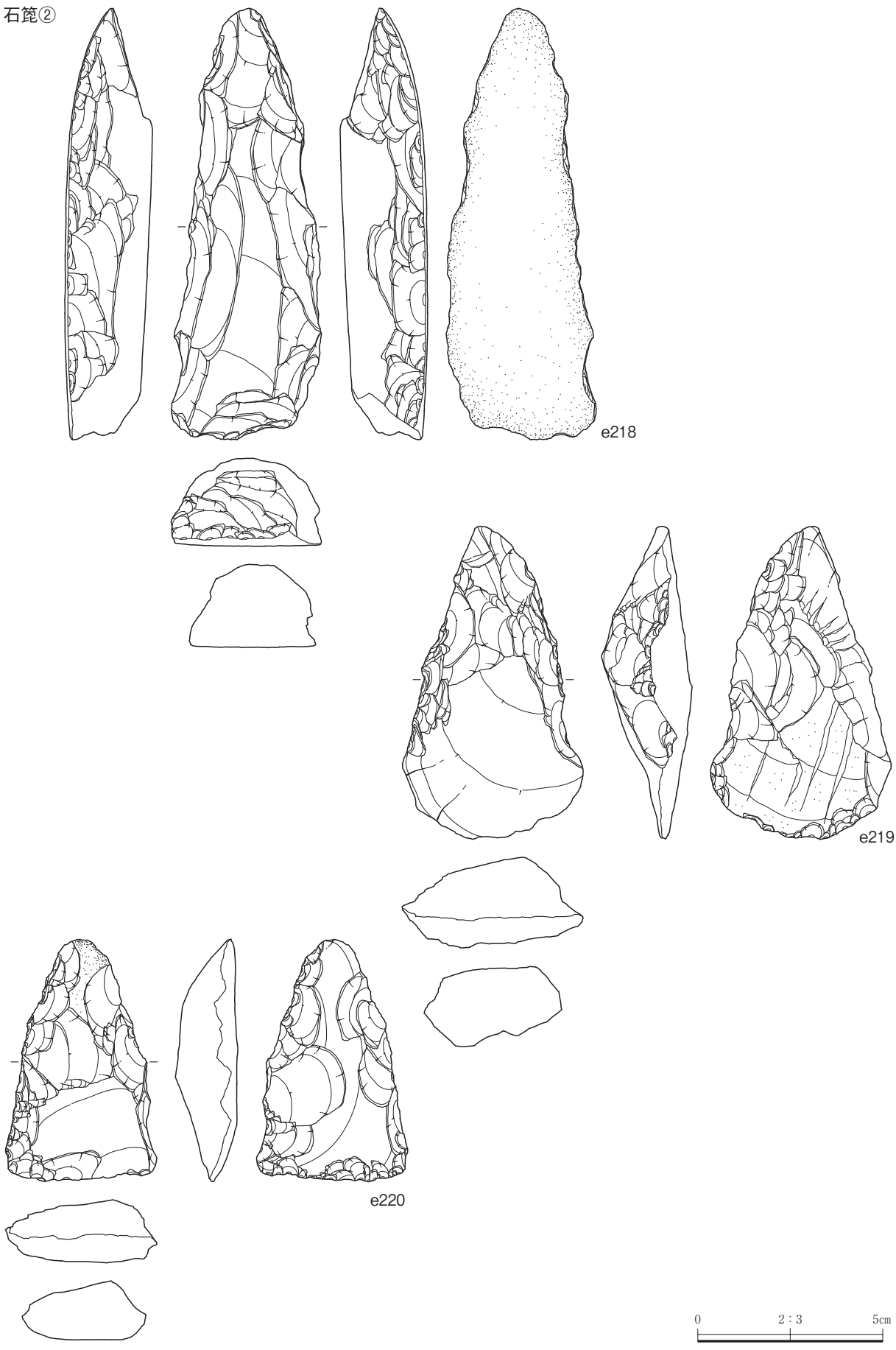
掻器②



第155図　遺構外出土石器（3）



第156図　遺構外出土石器（4）

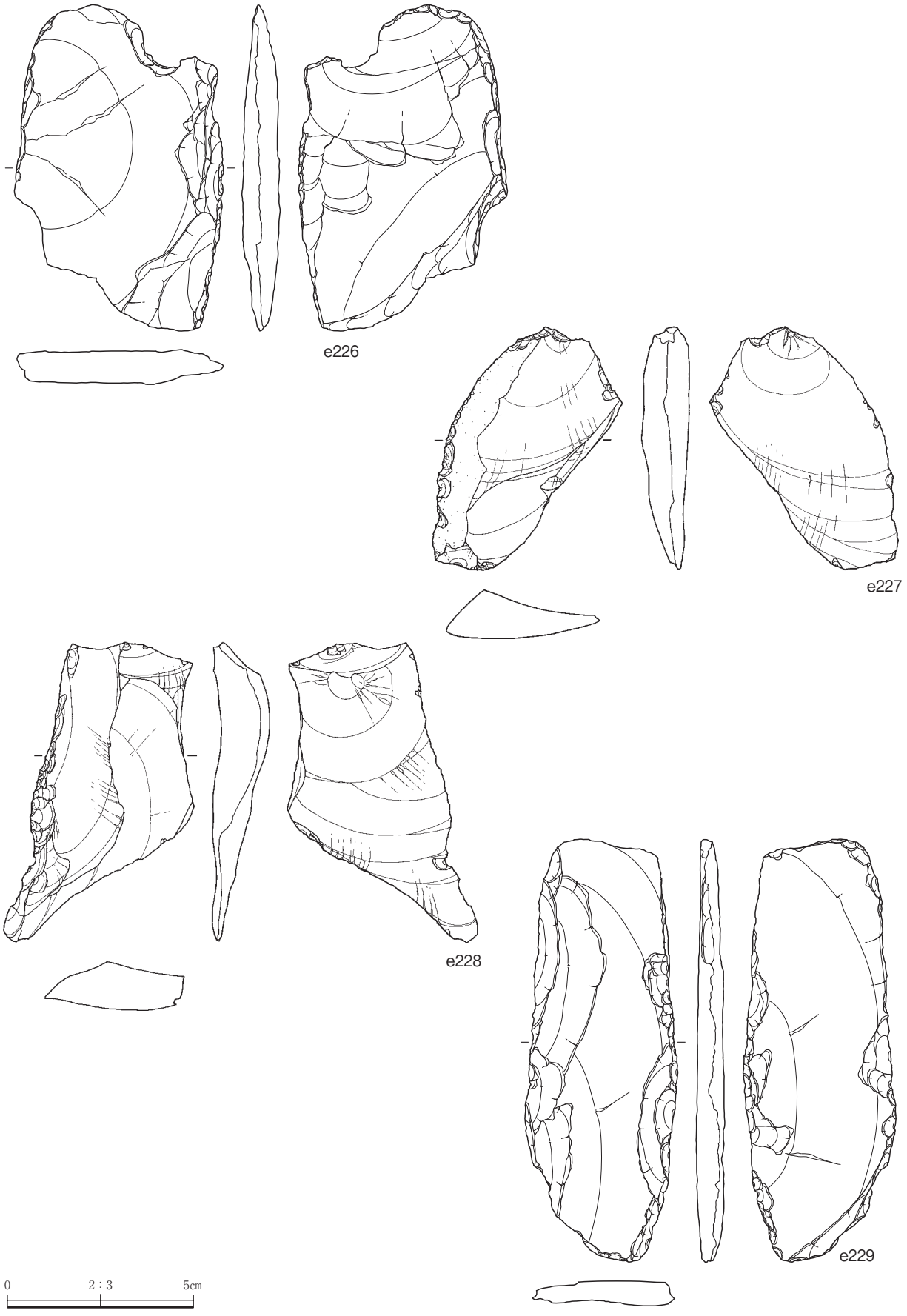


第157図　遺構外出土石器（5）

石篦③

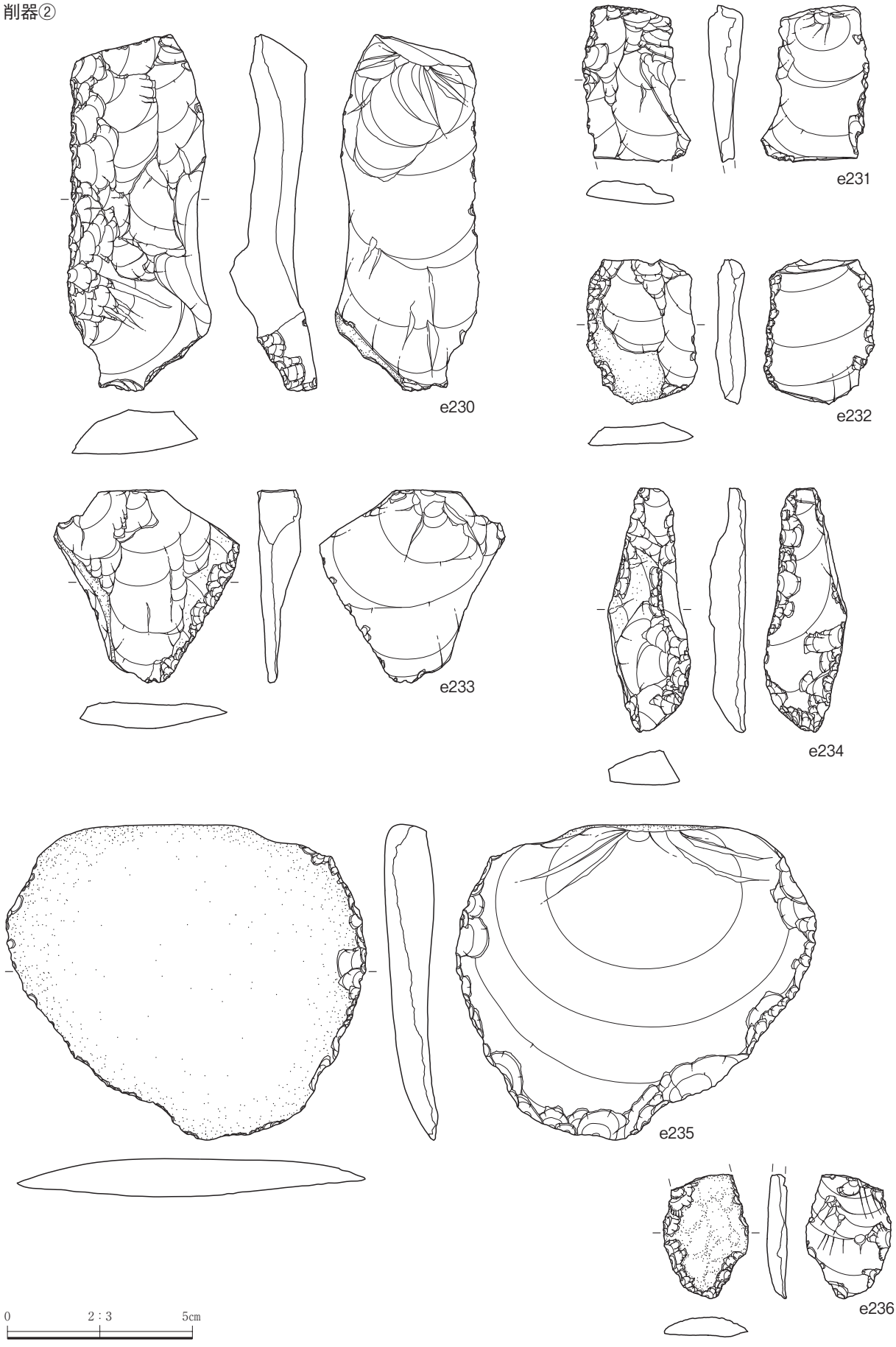
第158図　遺構外出土石器（6）

削器①

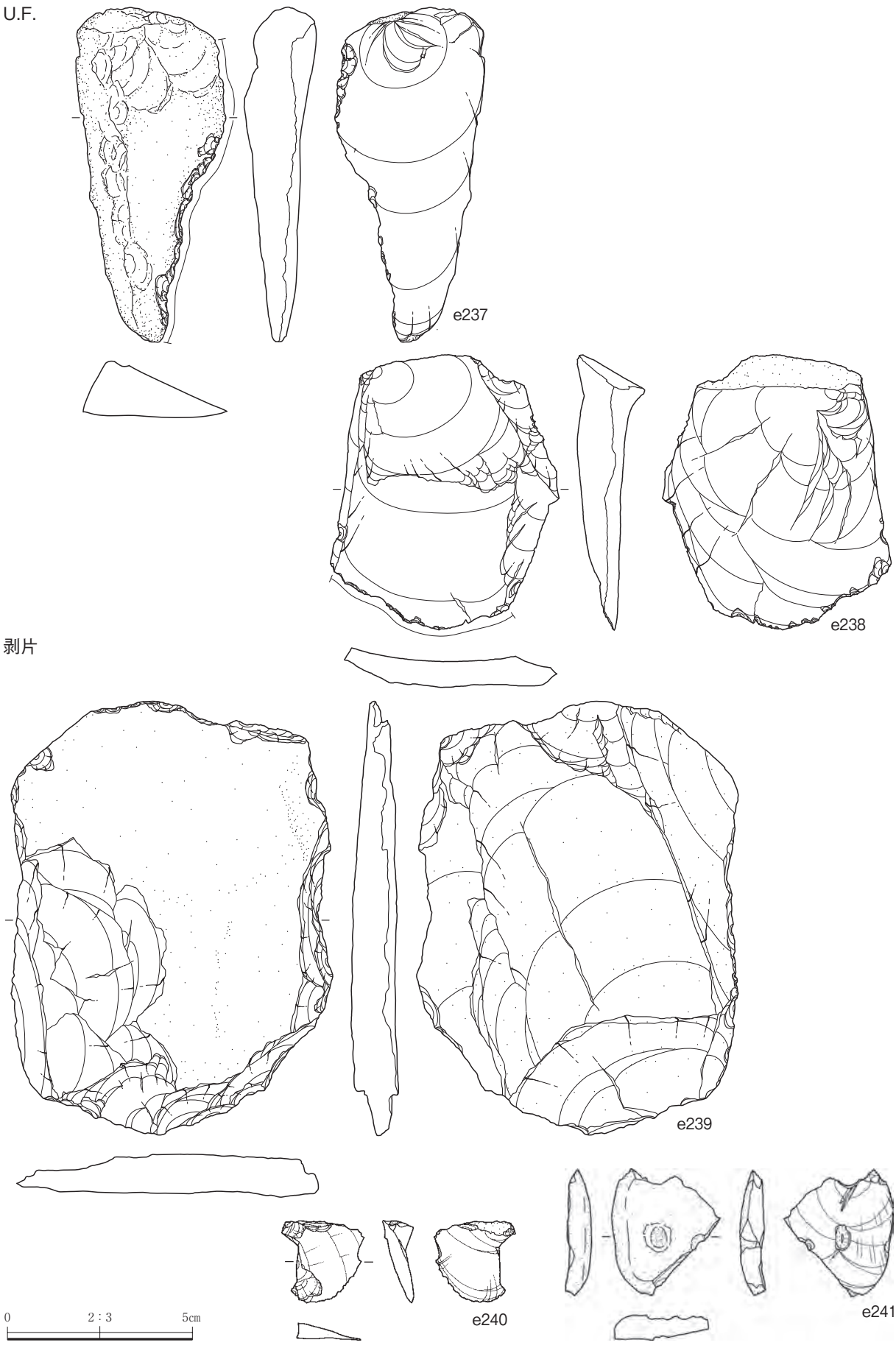


第159図　遺構外出土石器（7）

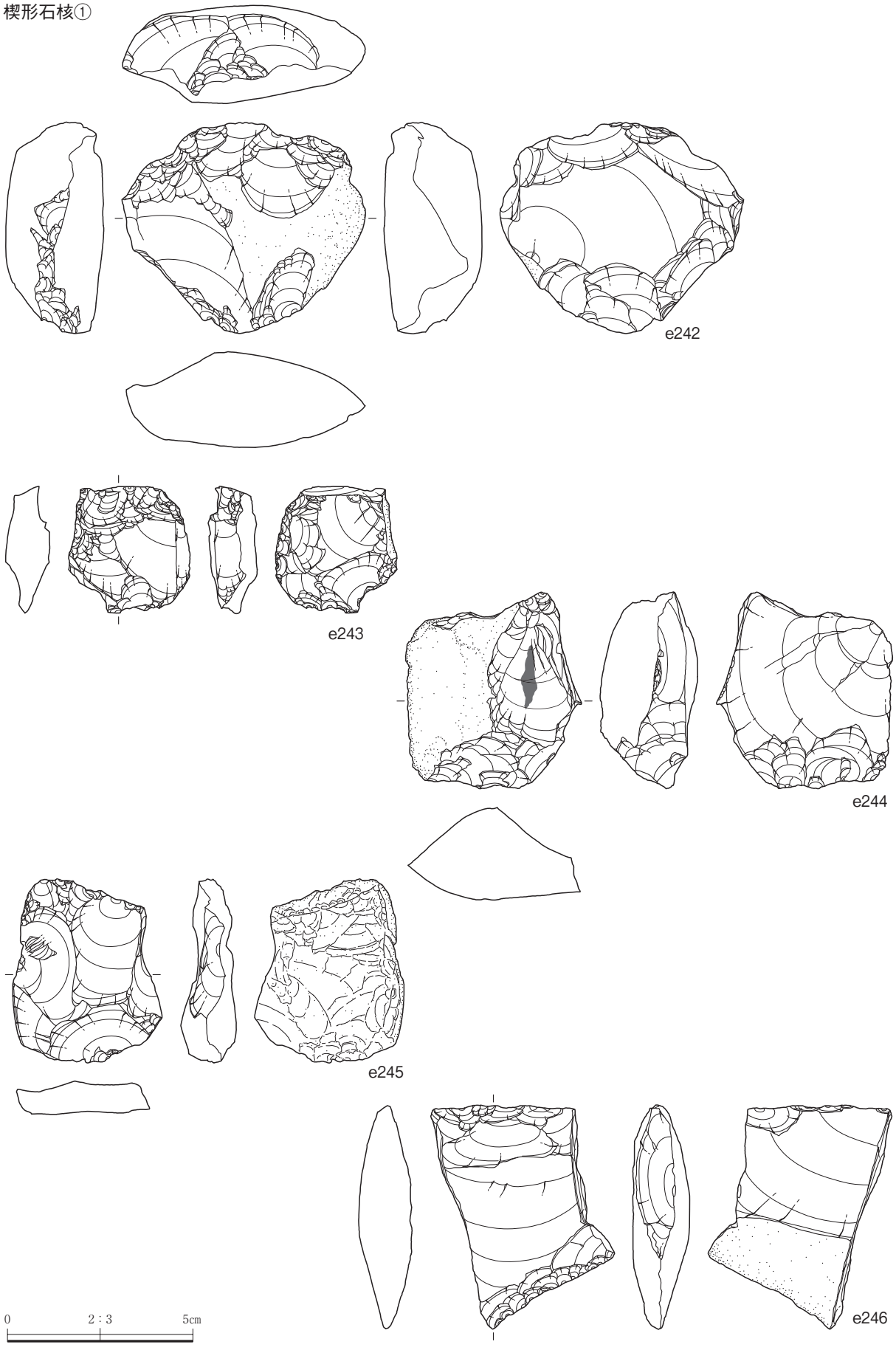
削器②



第160図　遺構外出土石器（8）

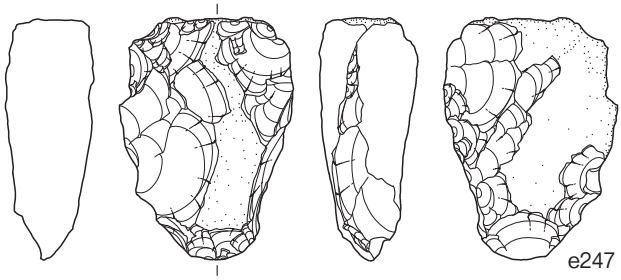


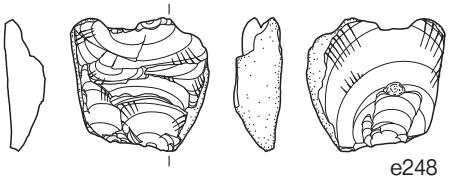
第161図　遺構外出土石器（9）

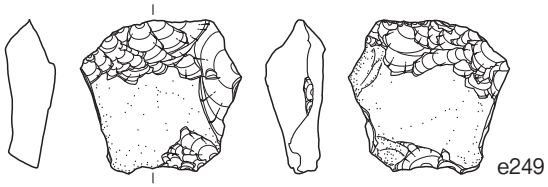


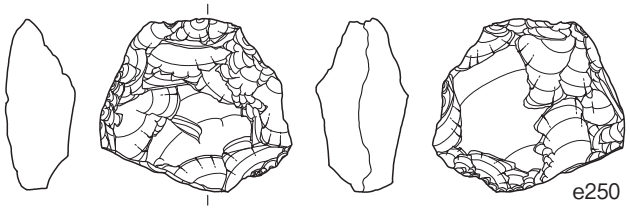
第162図　遺構外出土石器（10）

楔形石核②

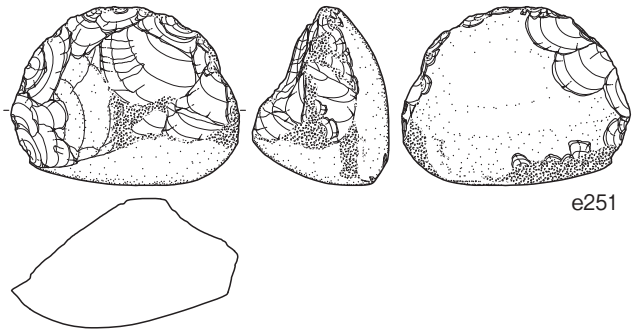


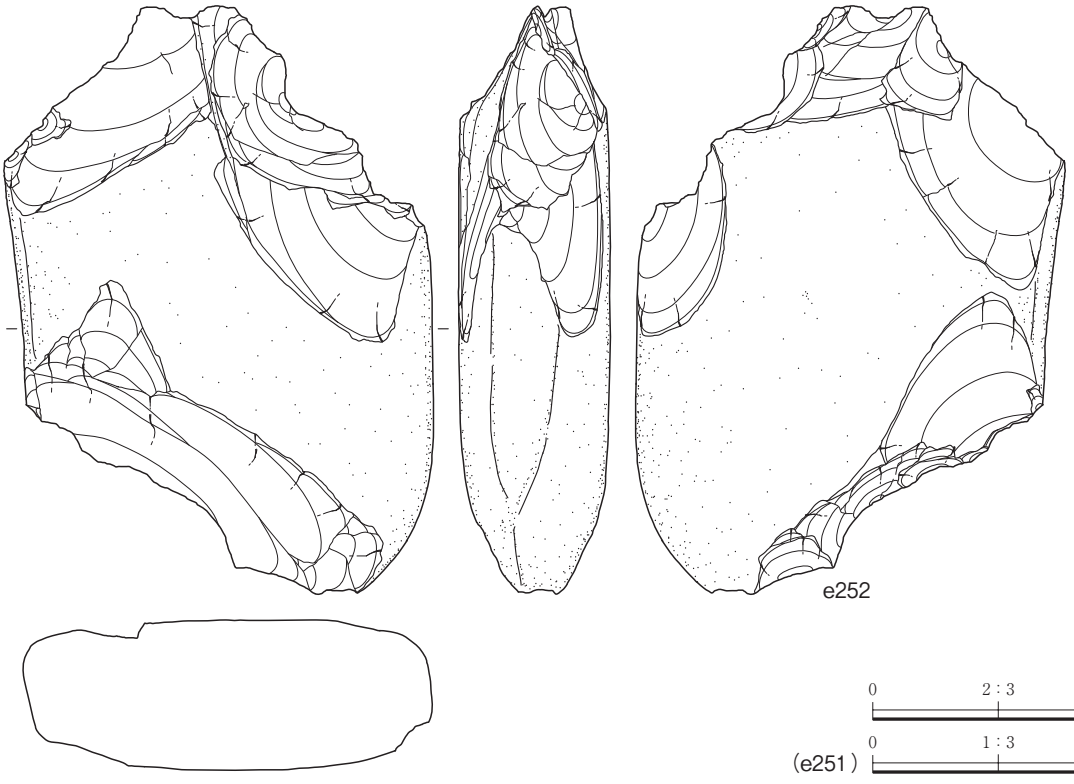






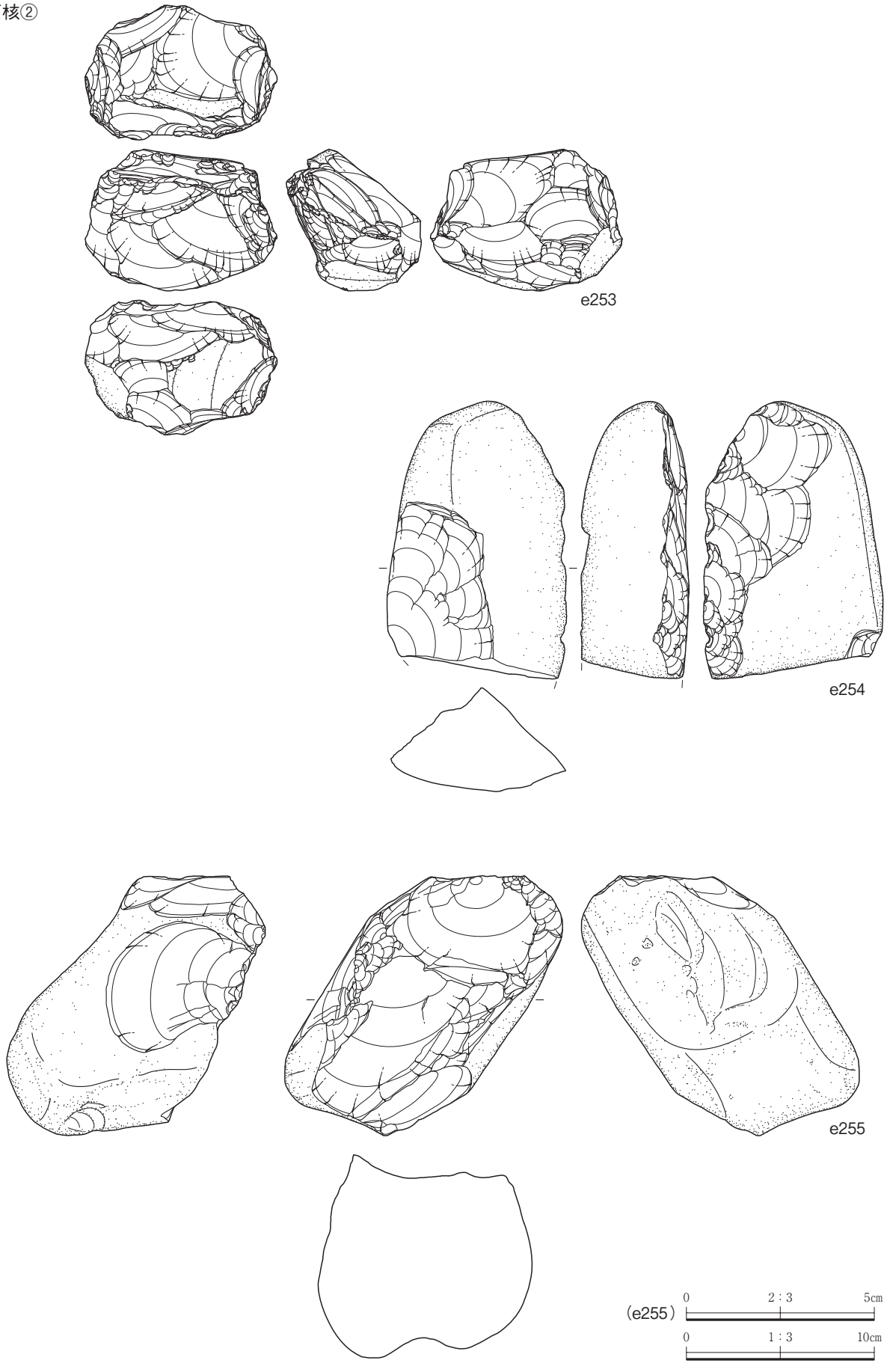
石核①





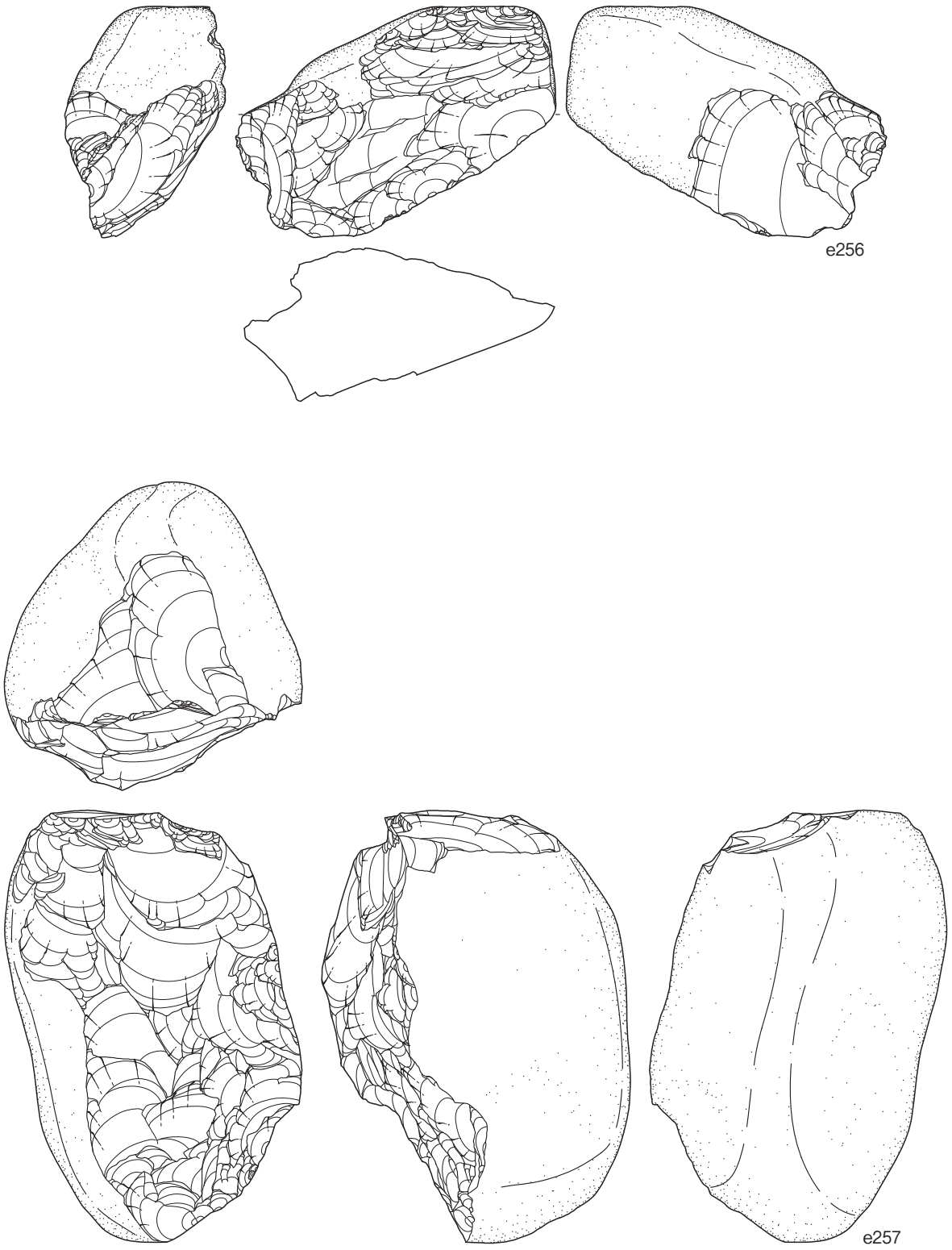
第163図　遺構外出土石器（11）

石核②



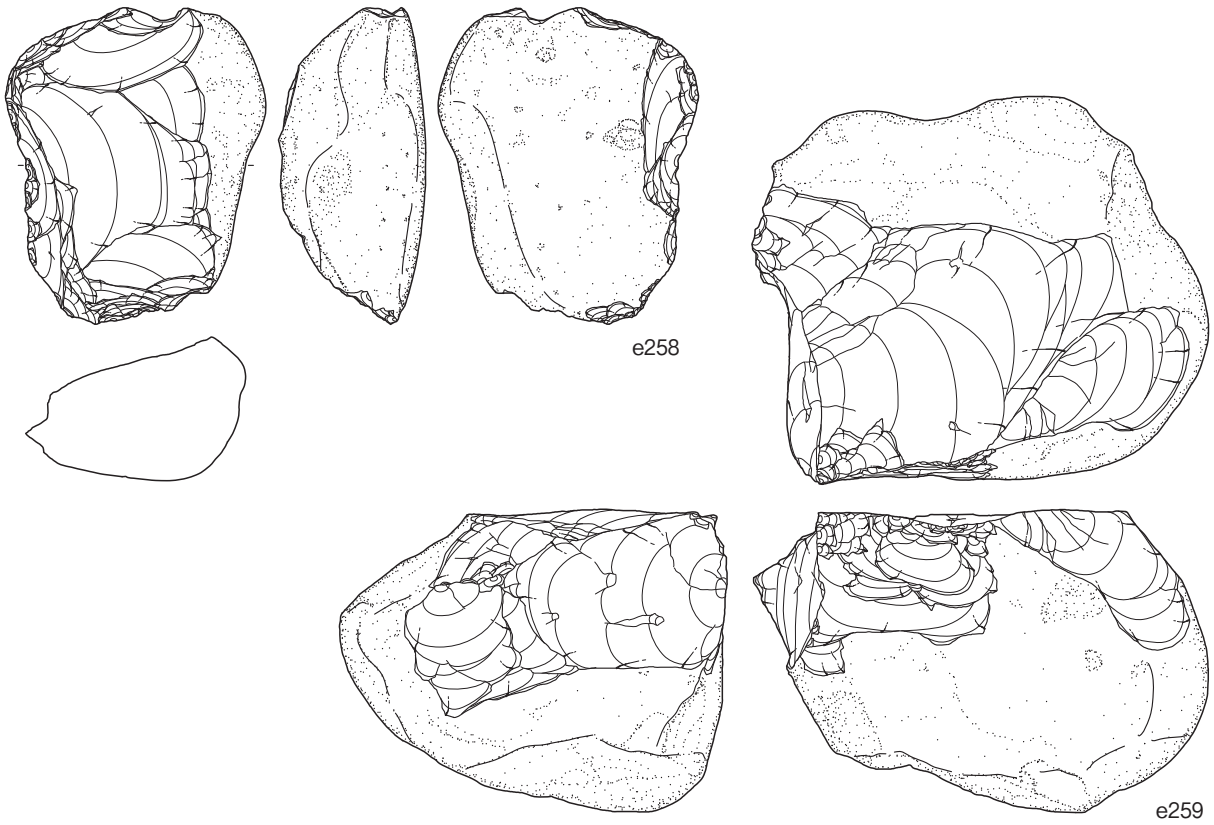
第164図　遺構外出土石器（12）

石核③

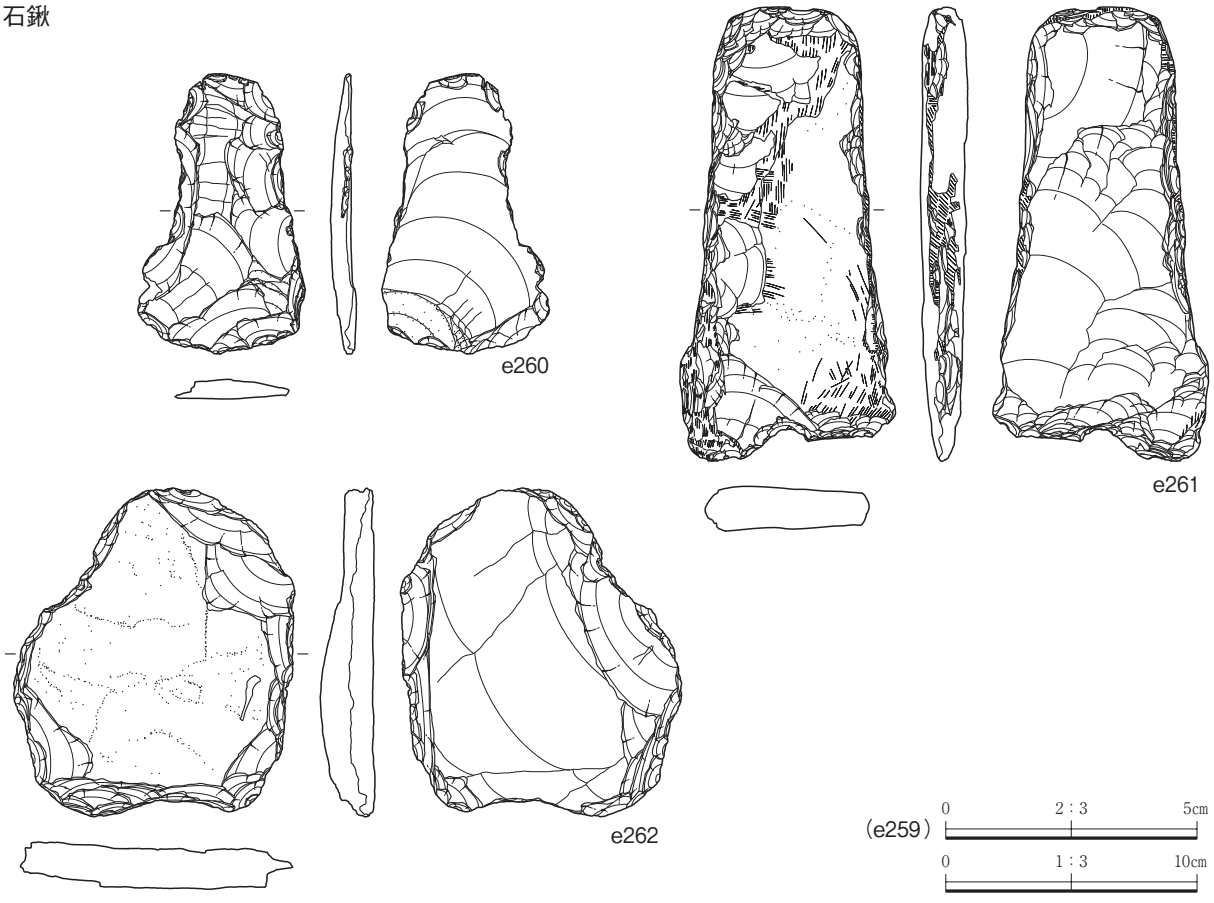


第165図　遺構外出土石器（13）

石核④

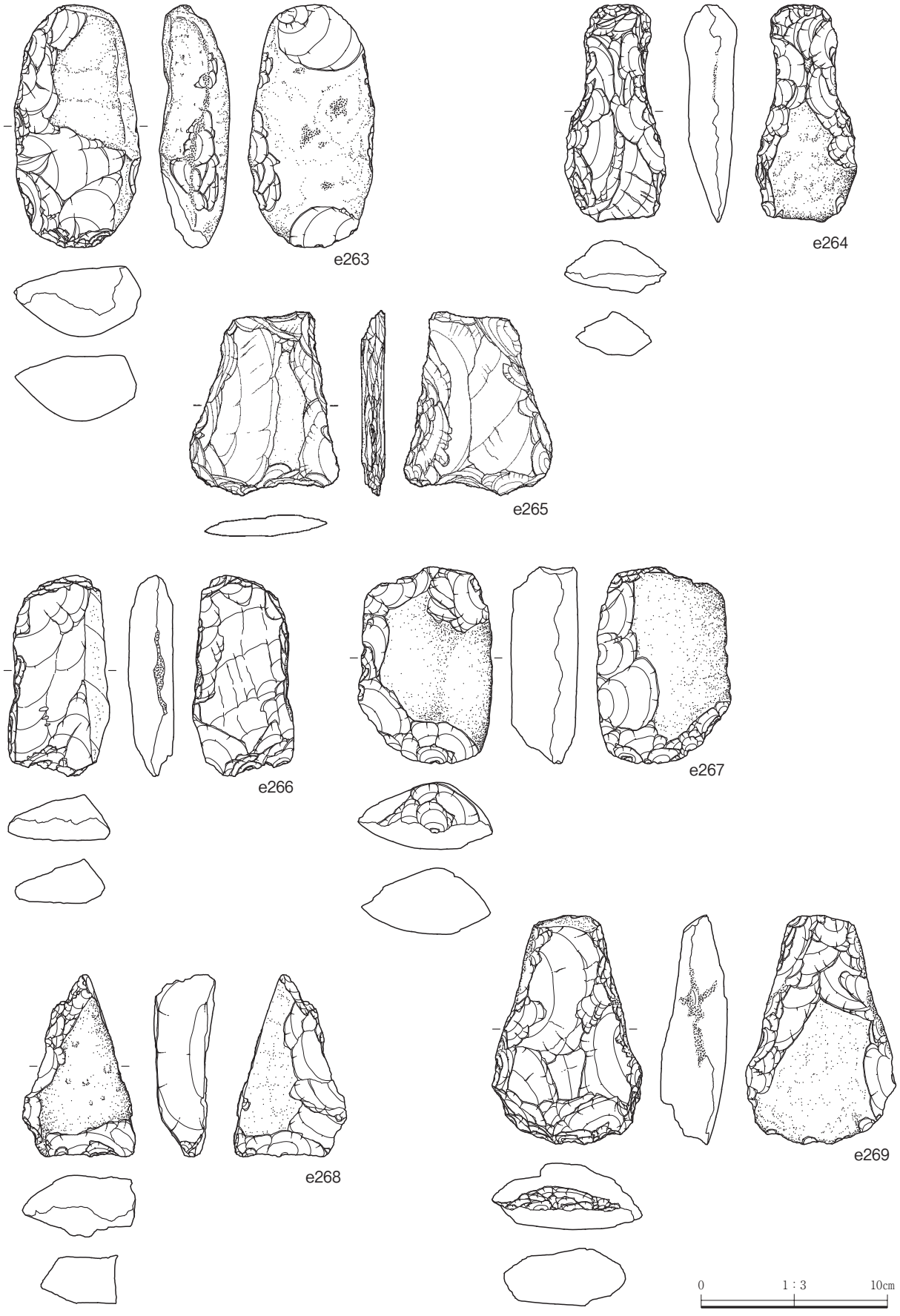


石鏃



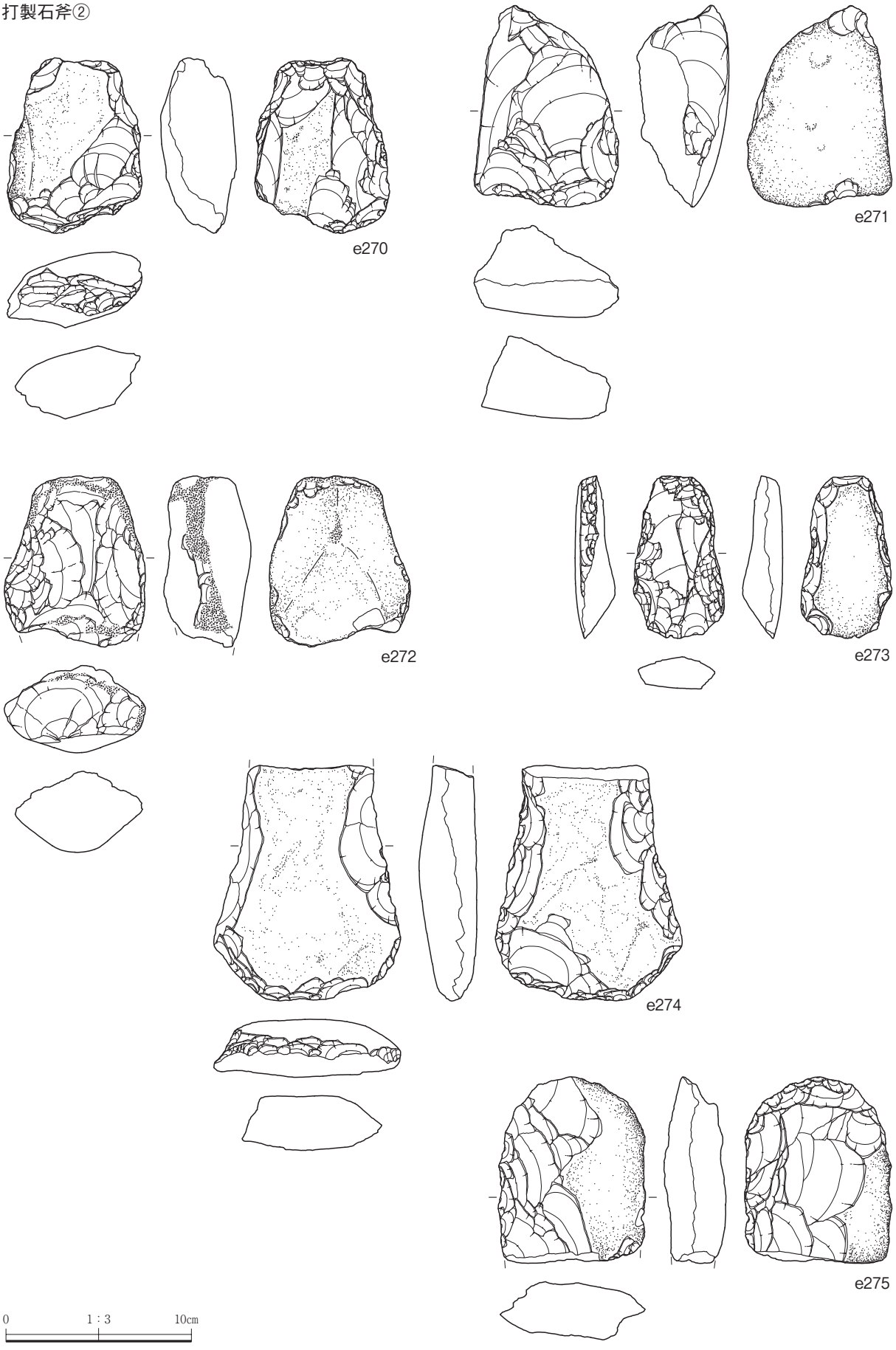
第166図　遺構外出土石器（14）

打製石斧①



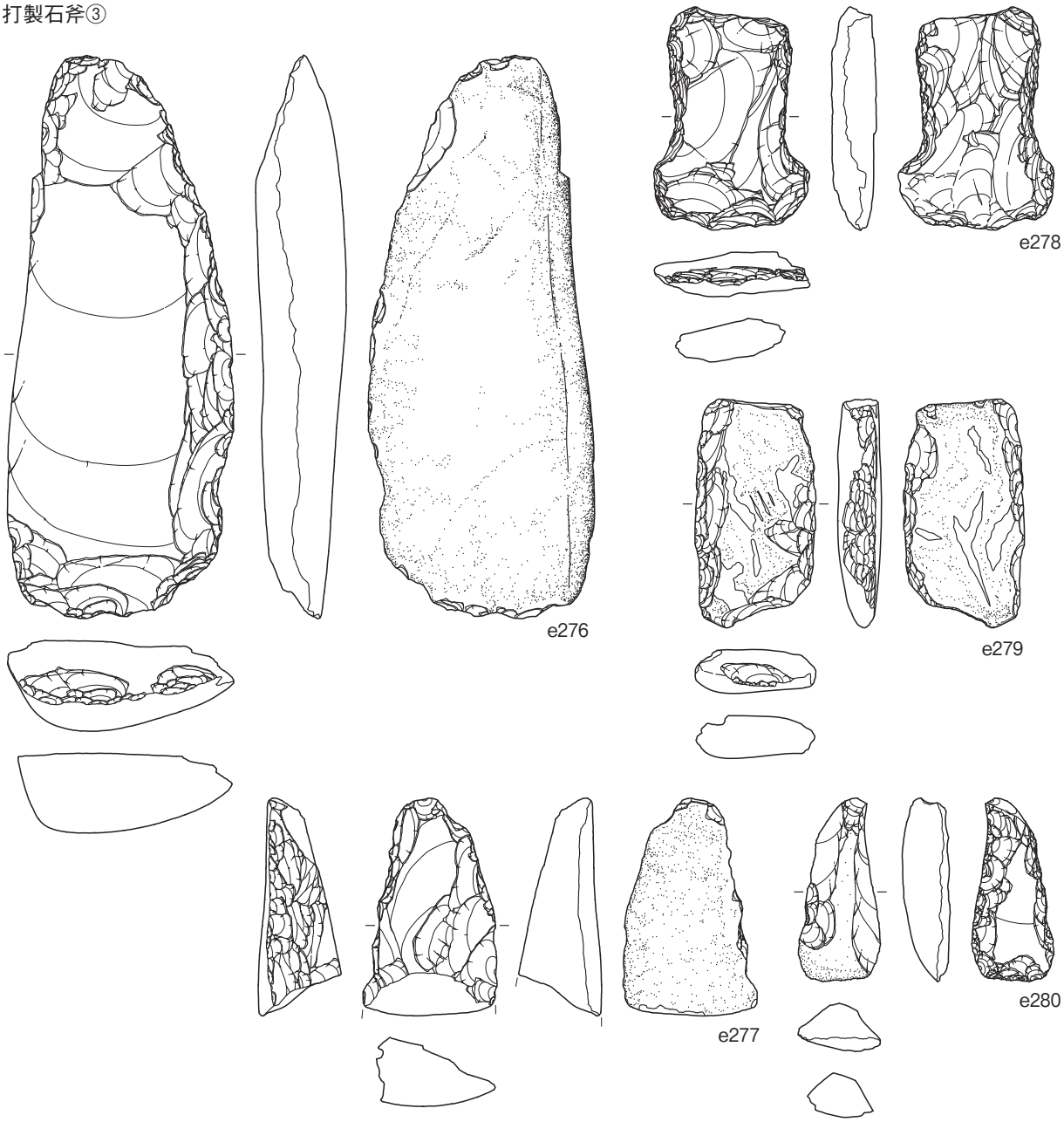
第167図　遺構外出土石器（15）

打製石斧②

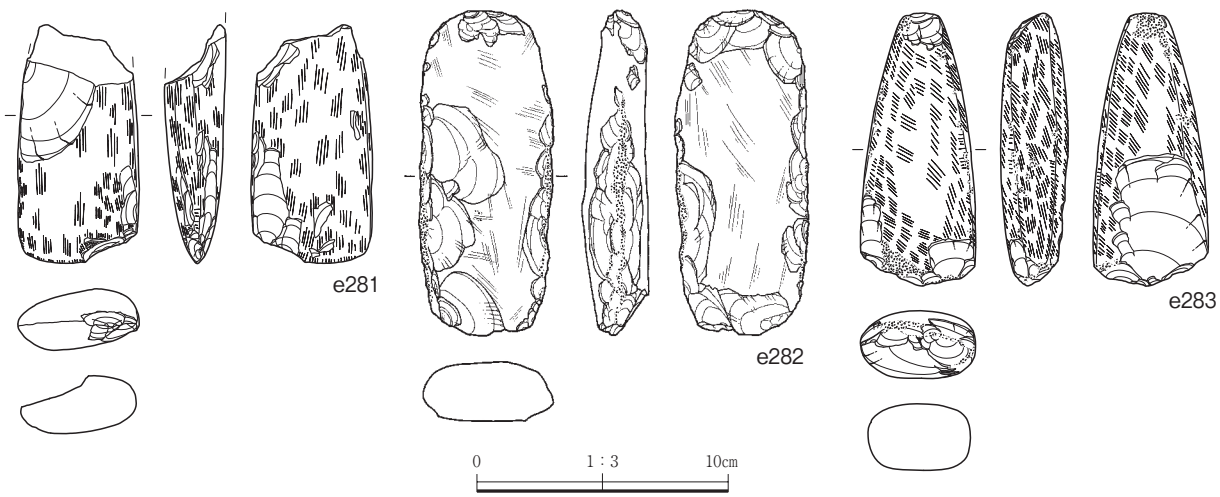


第168図　遺構外出土石器（16）

打製石斧③

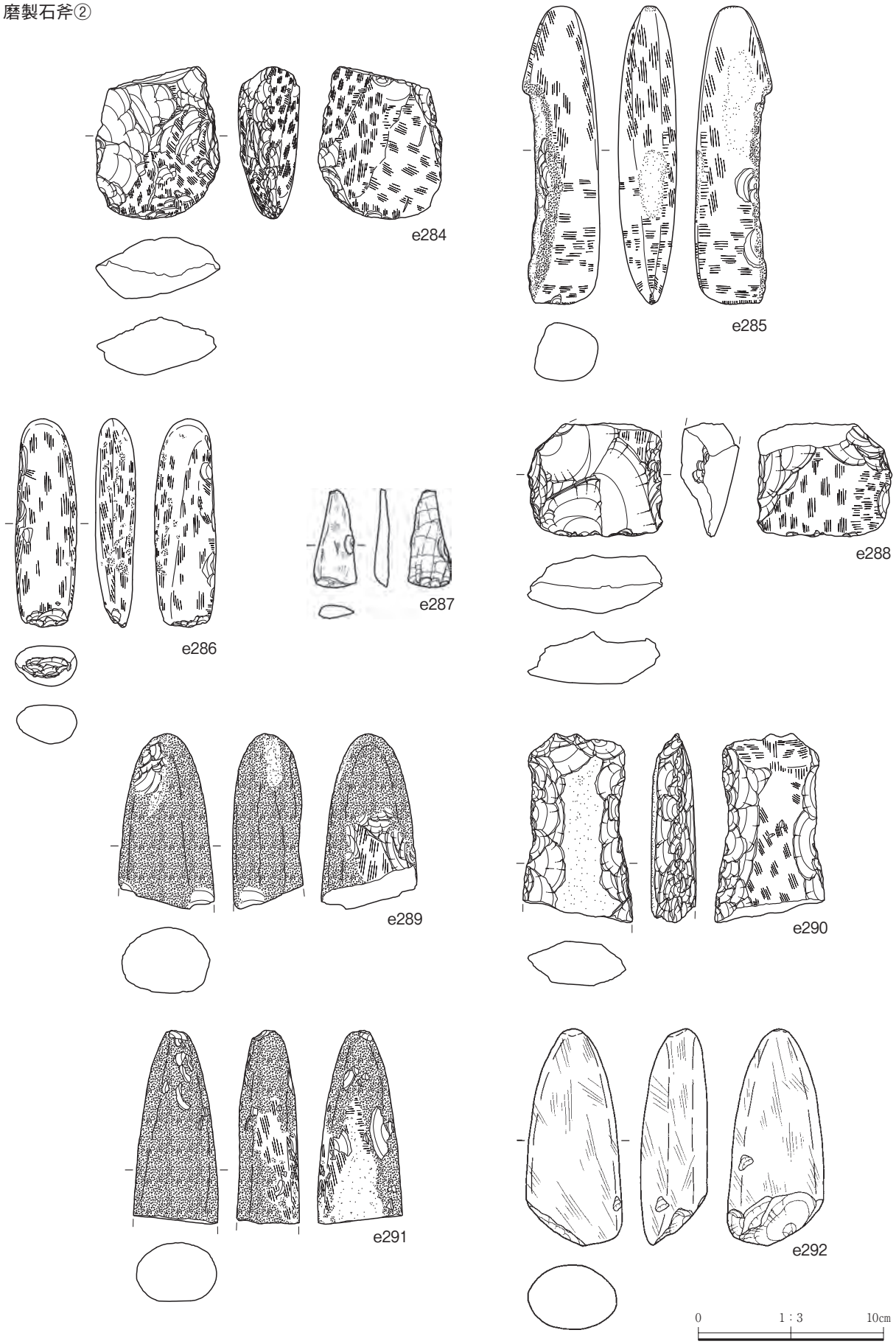


磨製石斧①



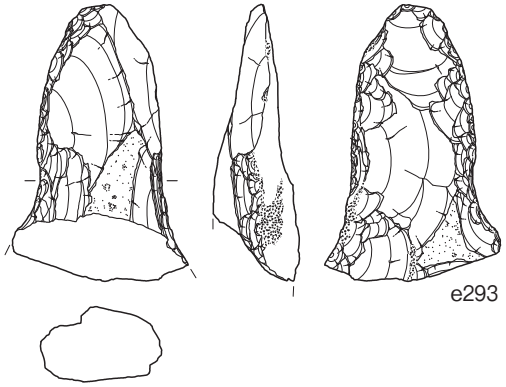
第169図　遺構外出土石器（17）

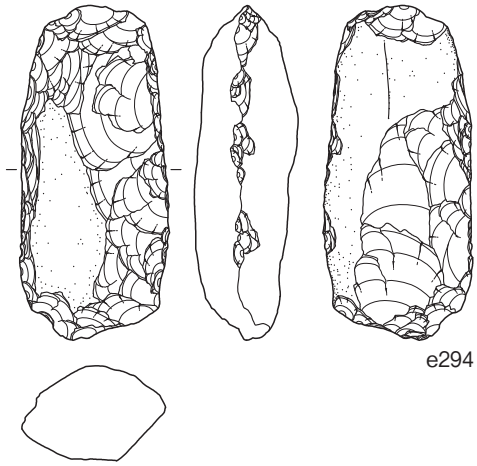
磨製石斧②

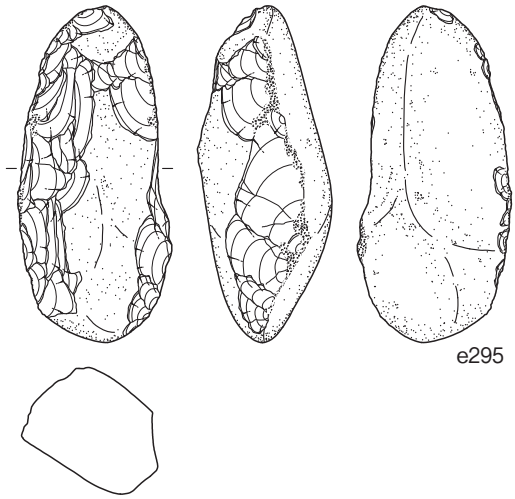


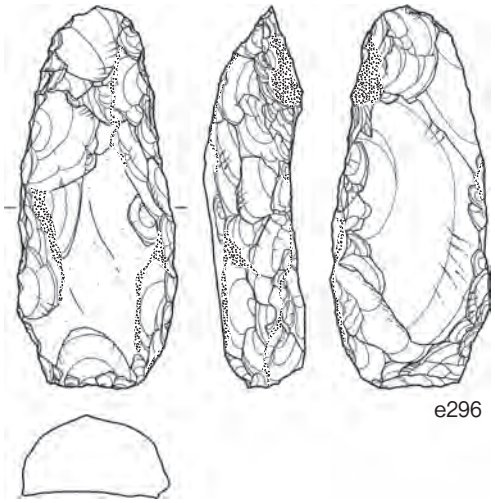
第170図　遺構外出土石器（18）

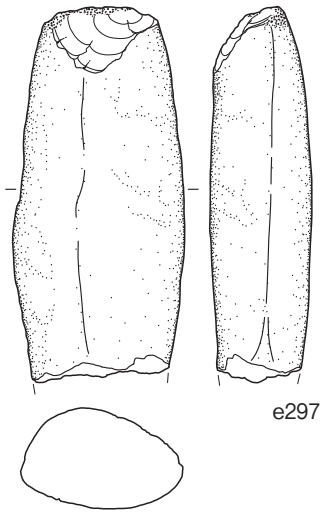
石斧未成品

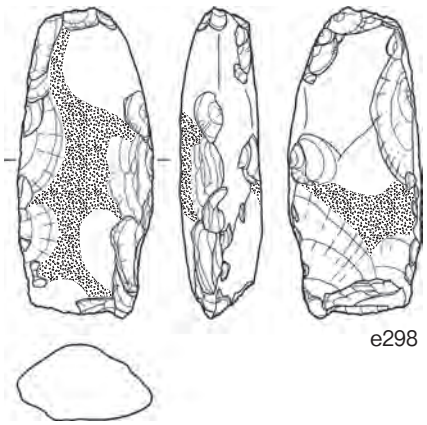








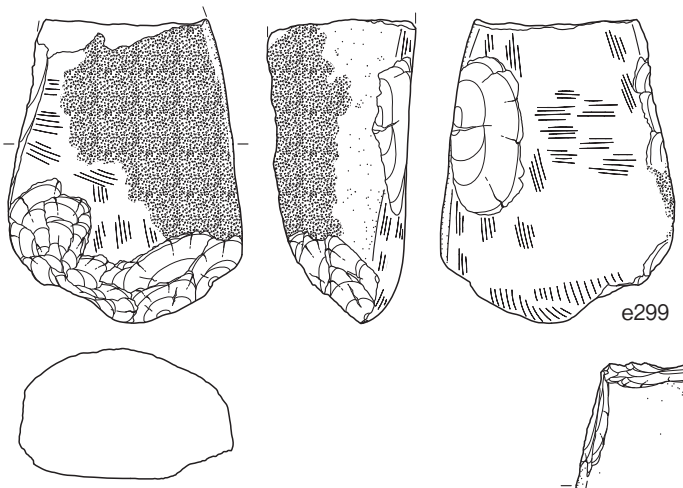


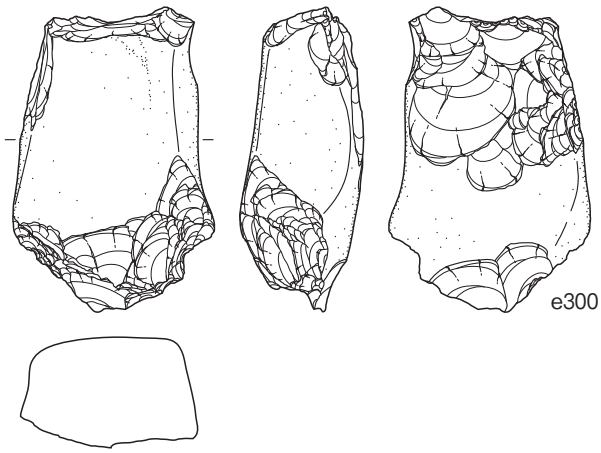


0　1：3　10cm

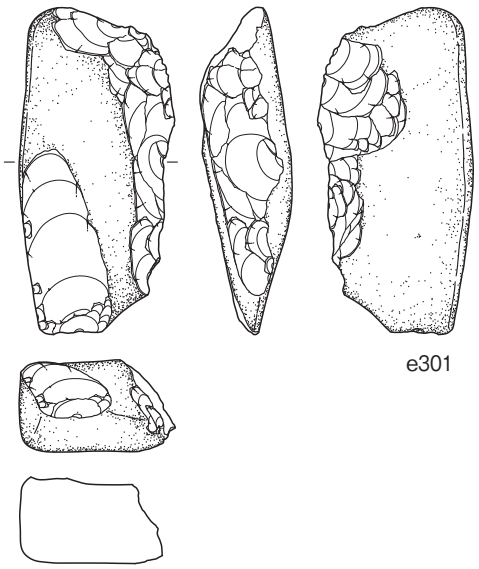
第171図　遺構外出土石器（19）

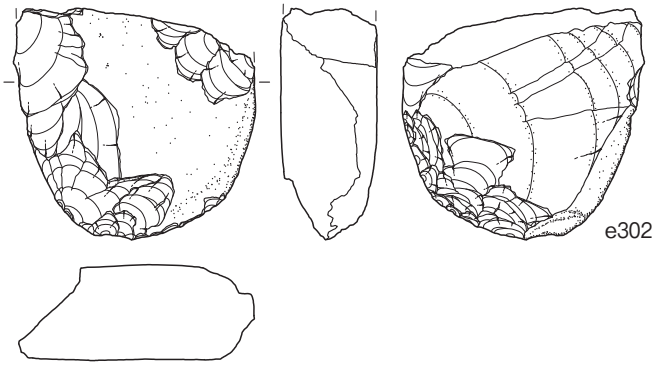
礫器

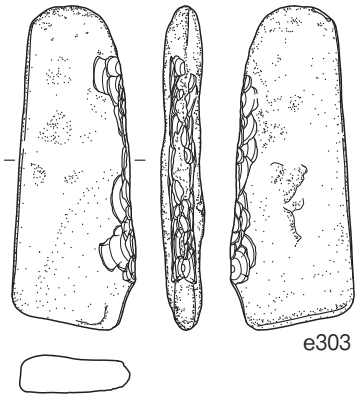


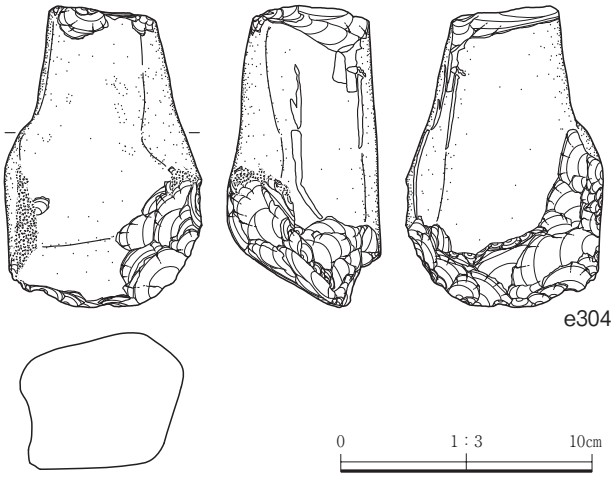


不定形石器①



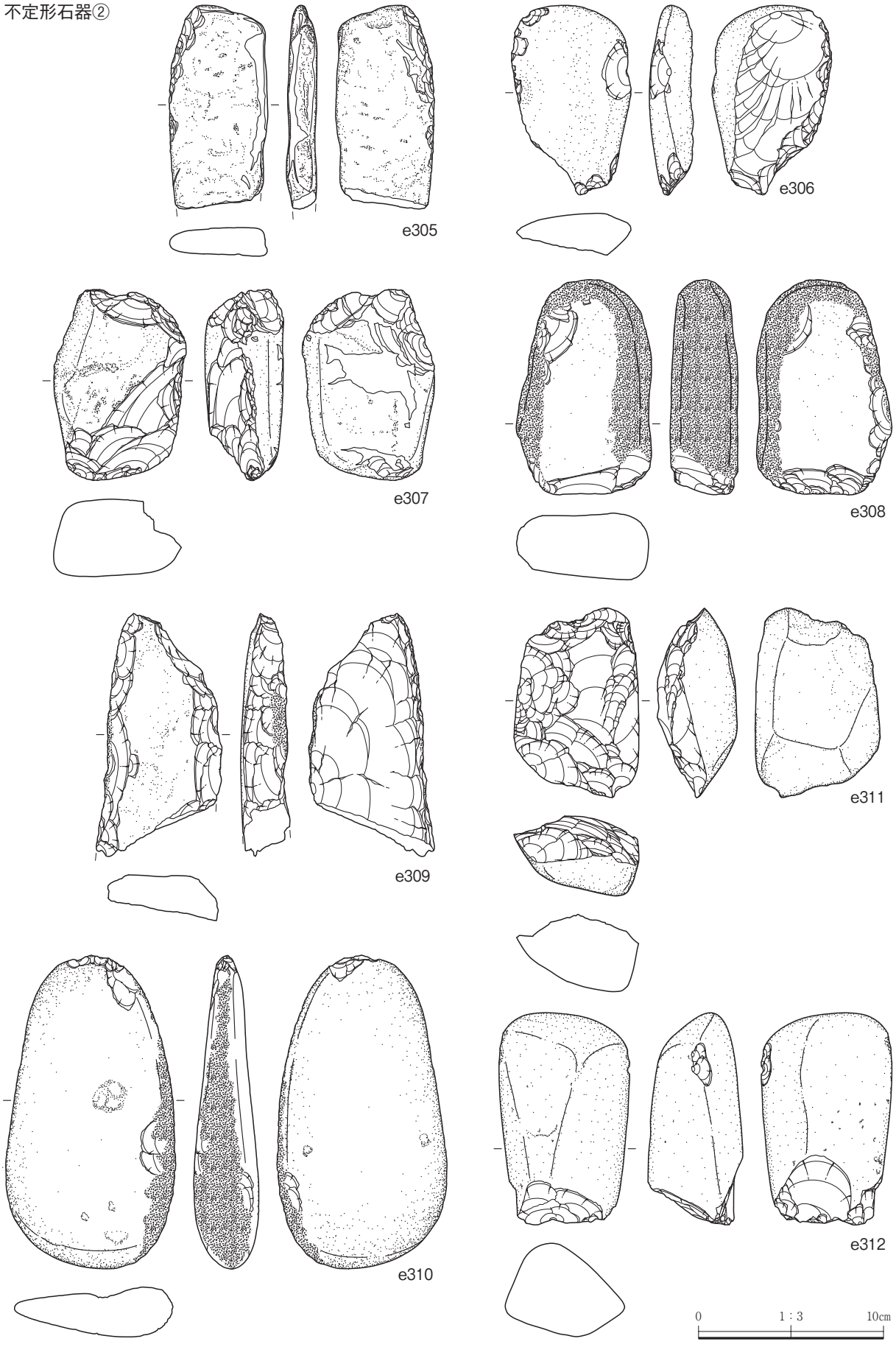






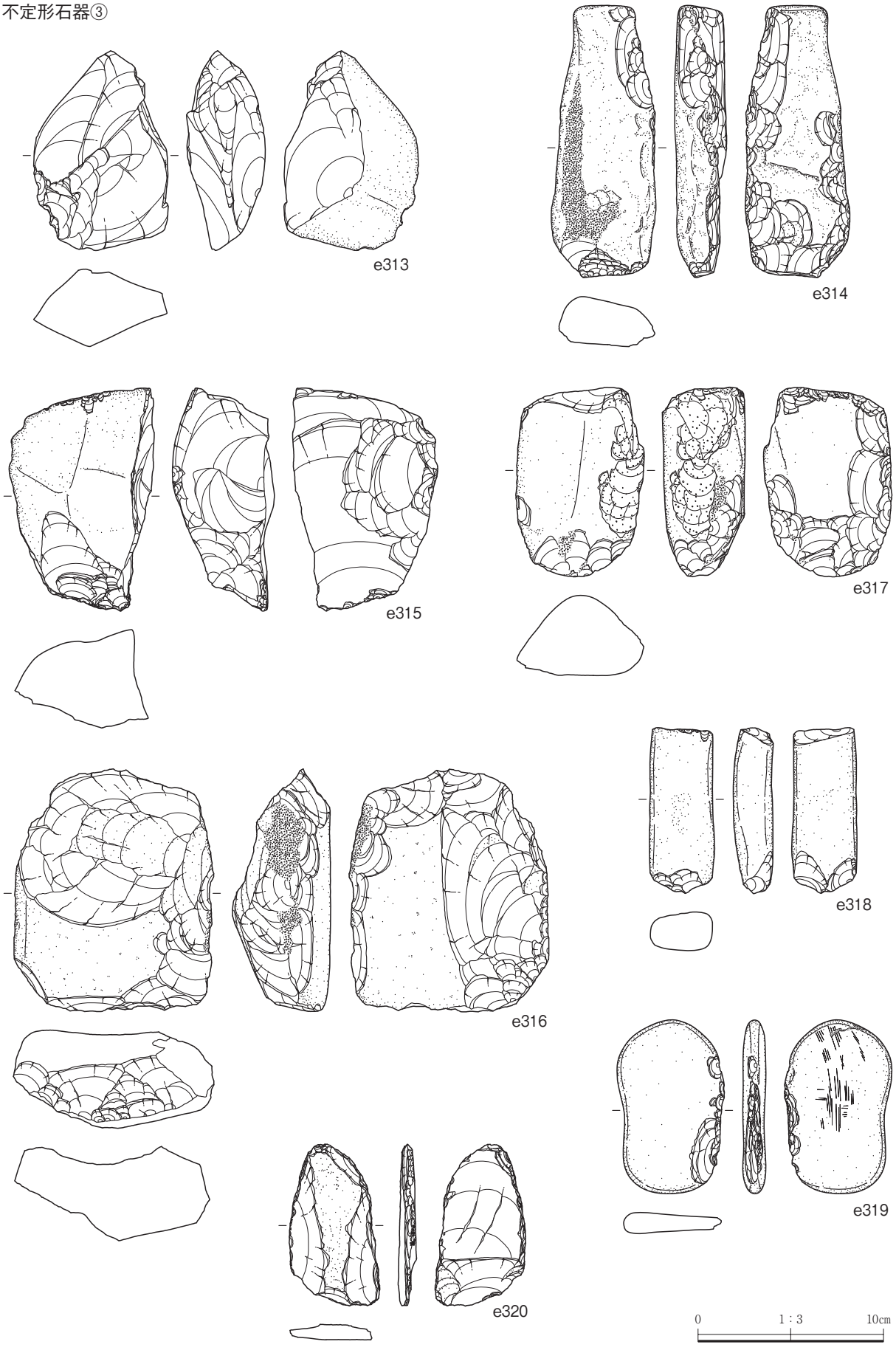
第172図　遺構外出土石器（20）

不定形石器②



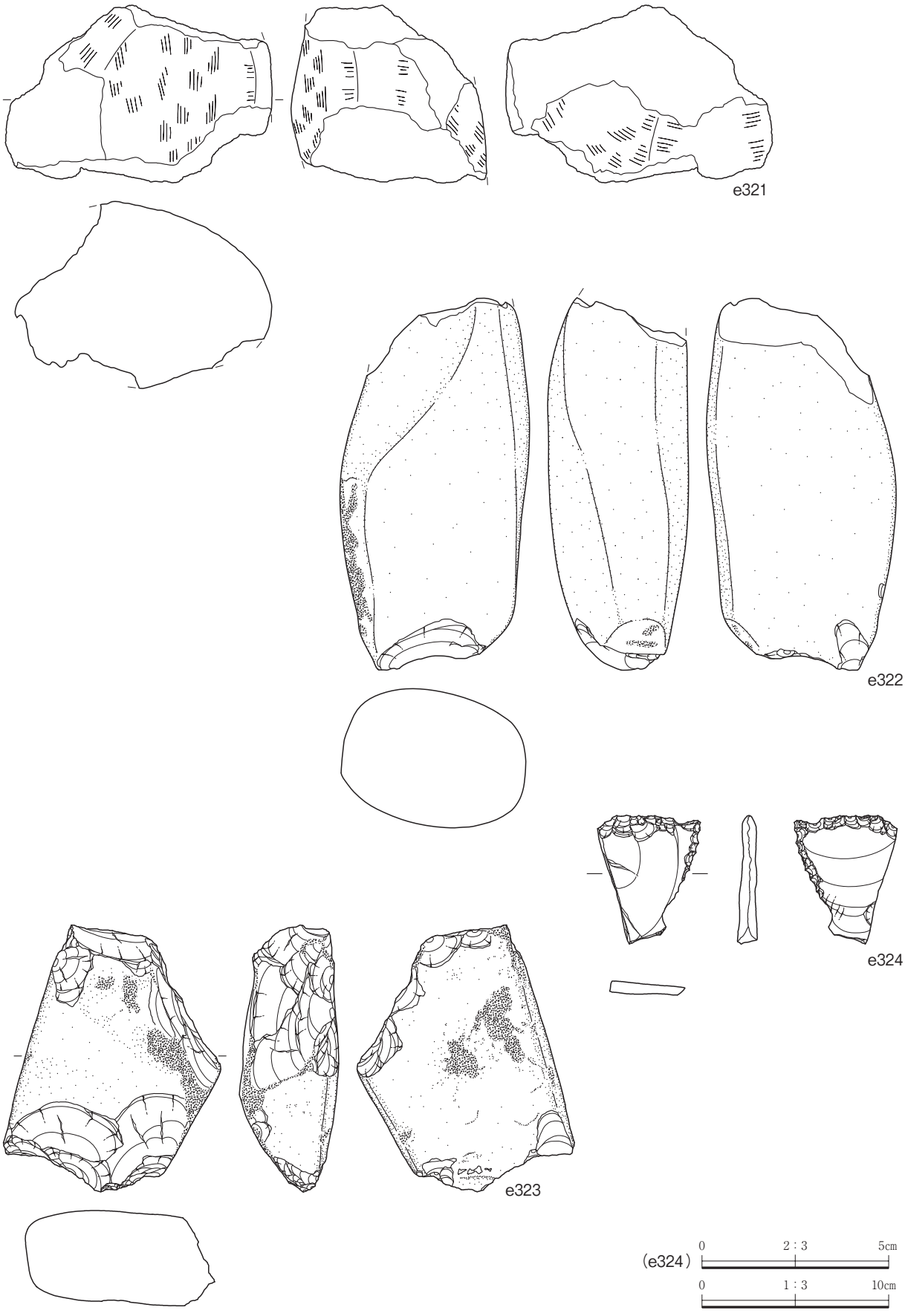
第173図　遺構外出土石器（21）

不定形石器③



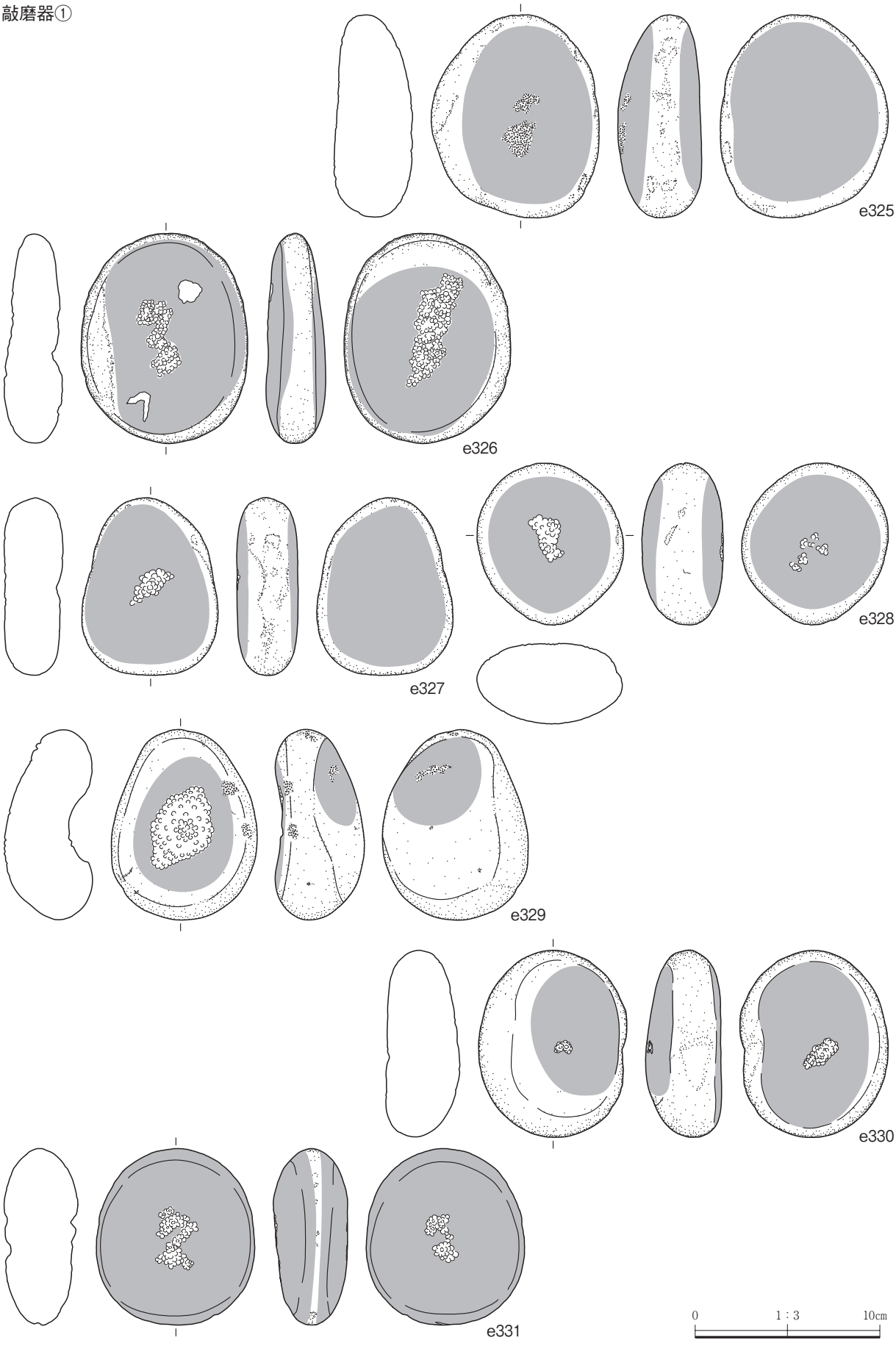
第174図　遺構外出土石器（22）

不定形石器④



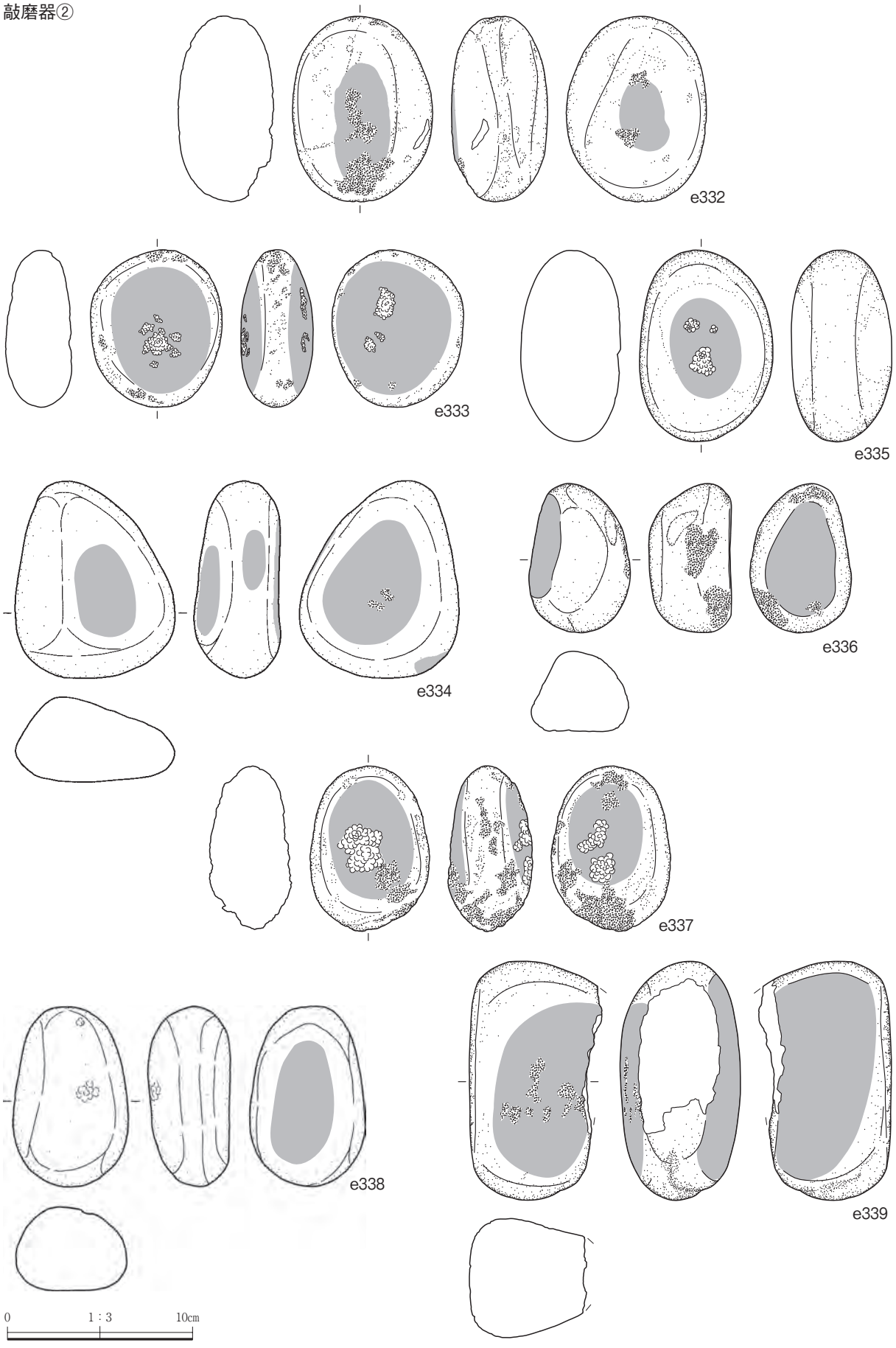
第175図　遺構外出土石器(23)

敲磨器①



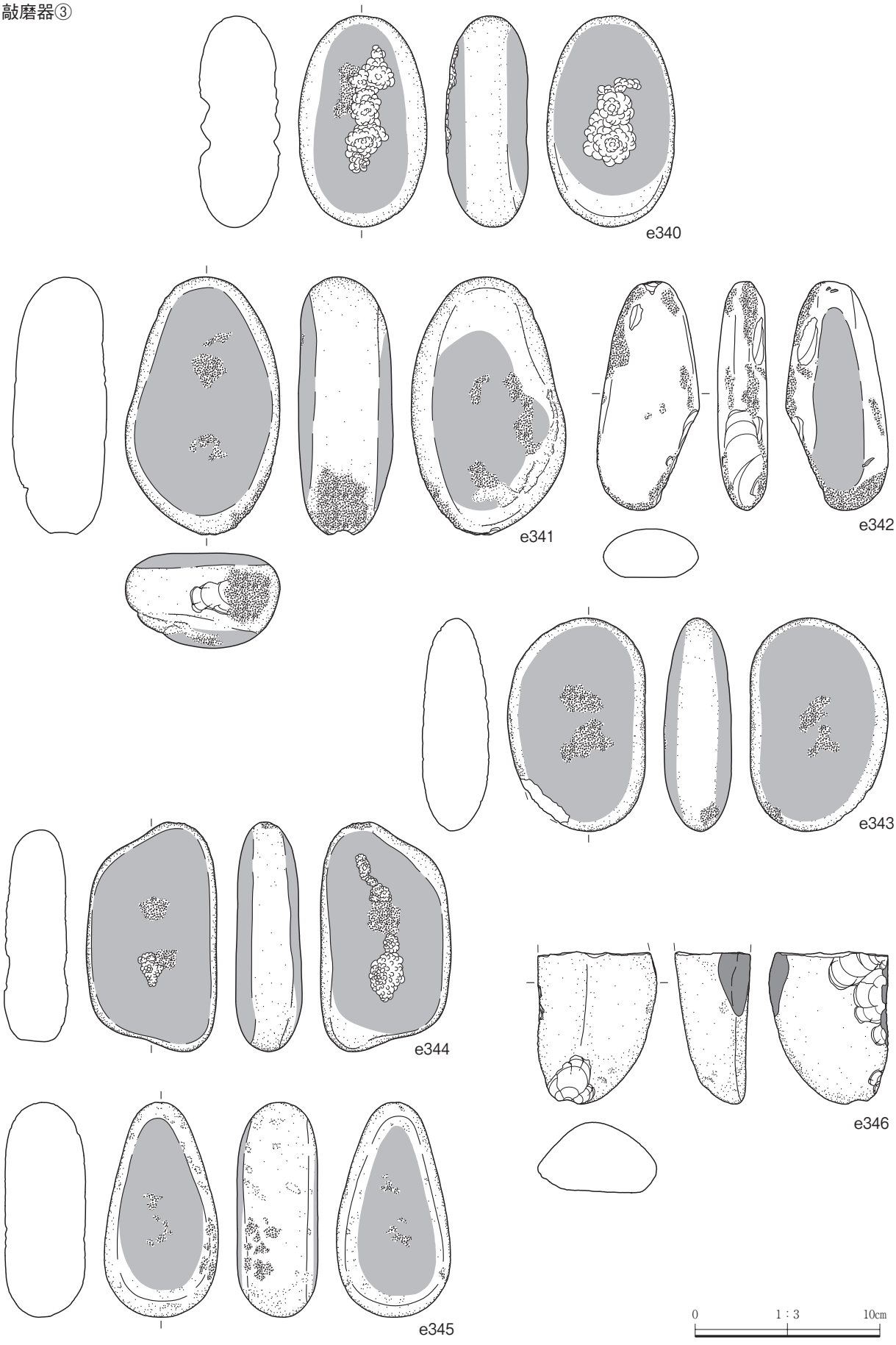
第176図　遺構外出土石器（24）

敲磨器②



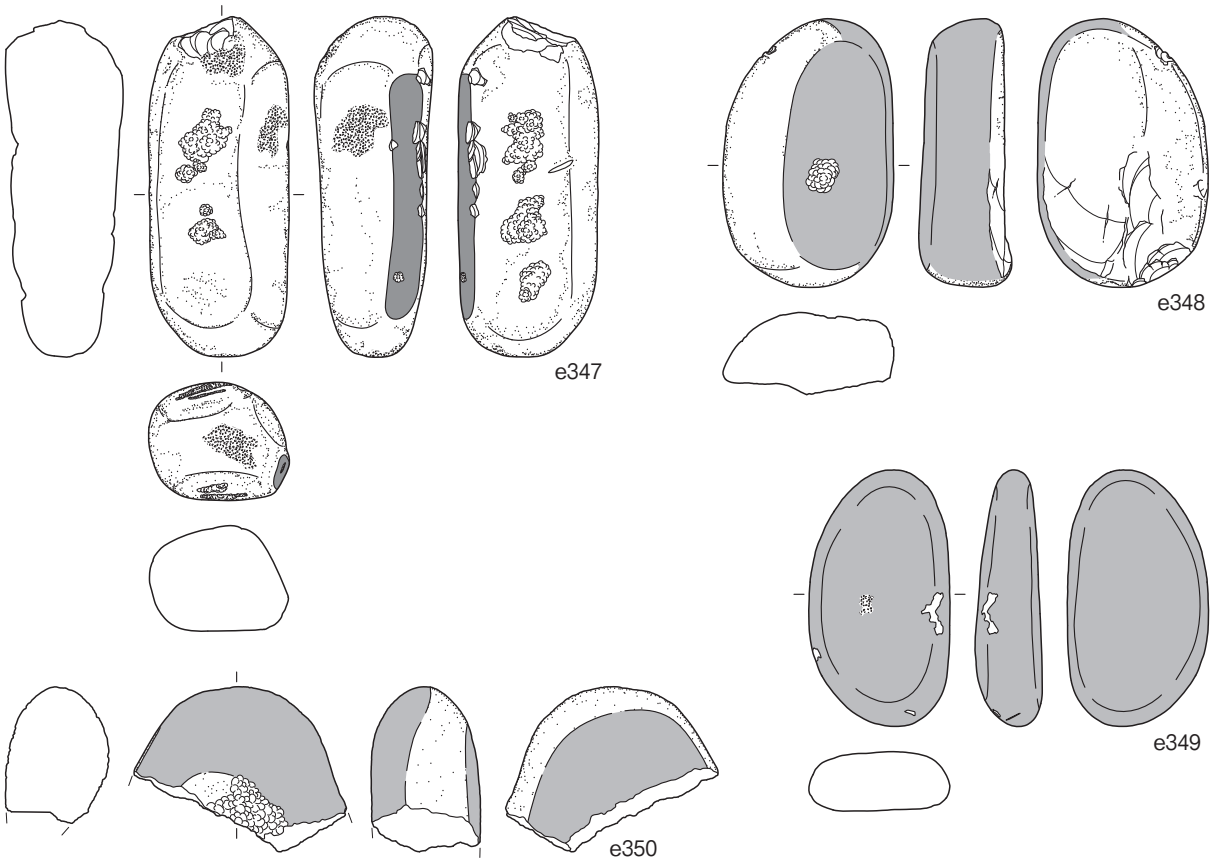
第177図　遺構外出土石器（25）

敲磨器③

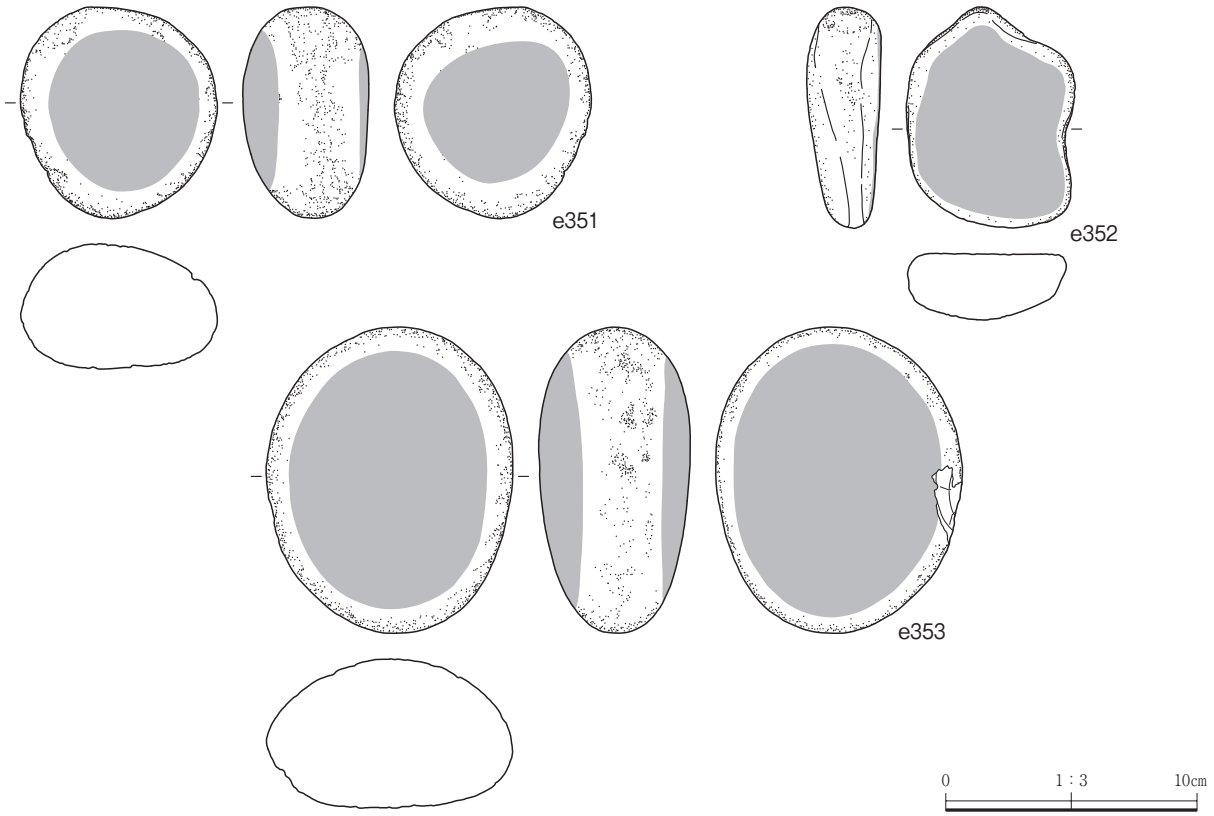


第178図　遺構外出土石器（26）

敲磨器④

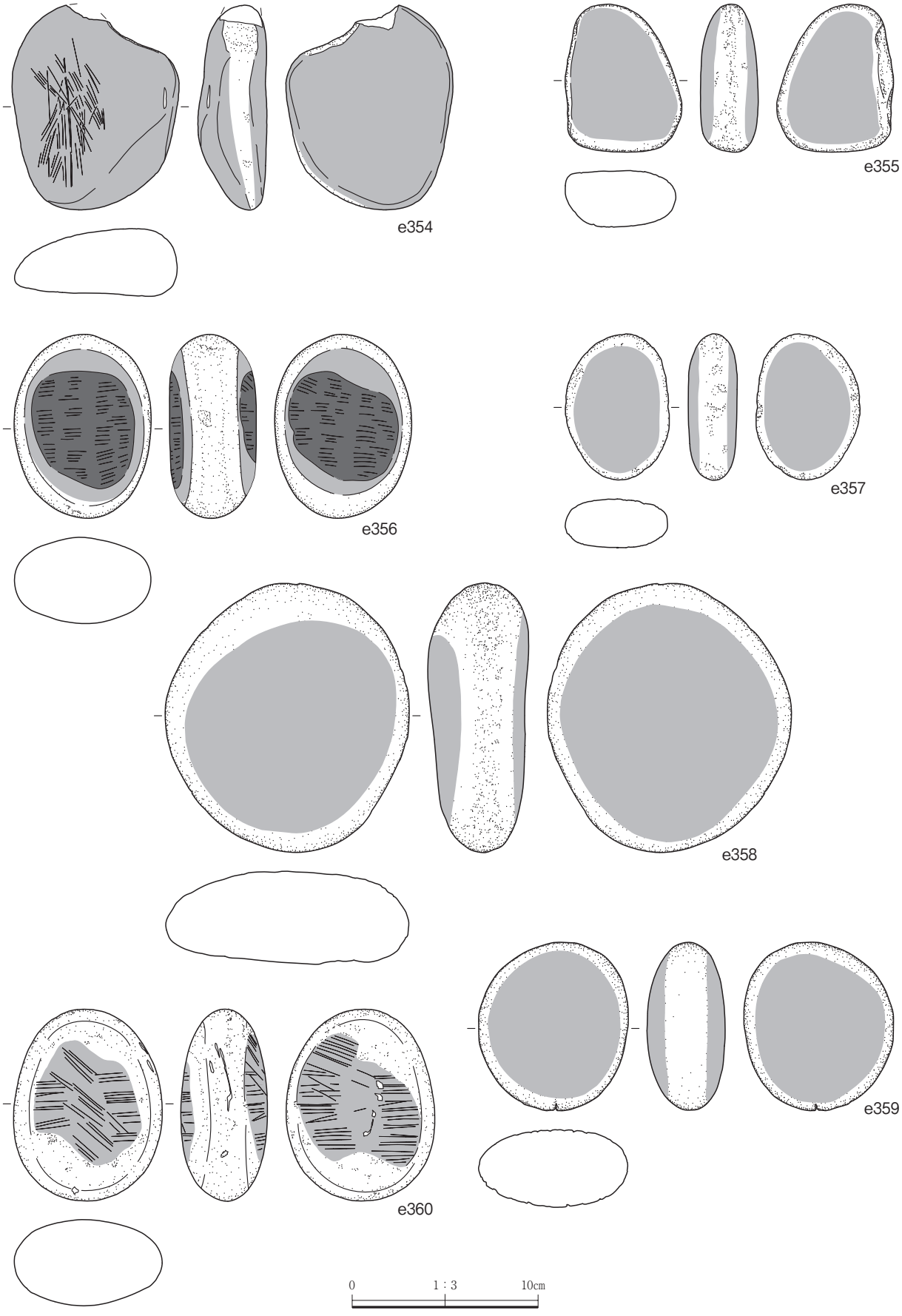


磨石①



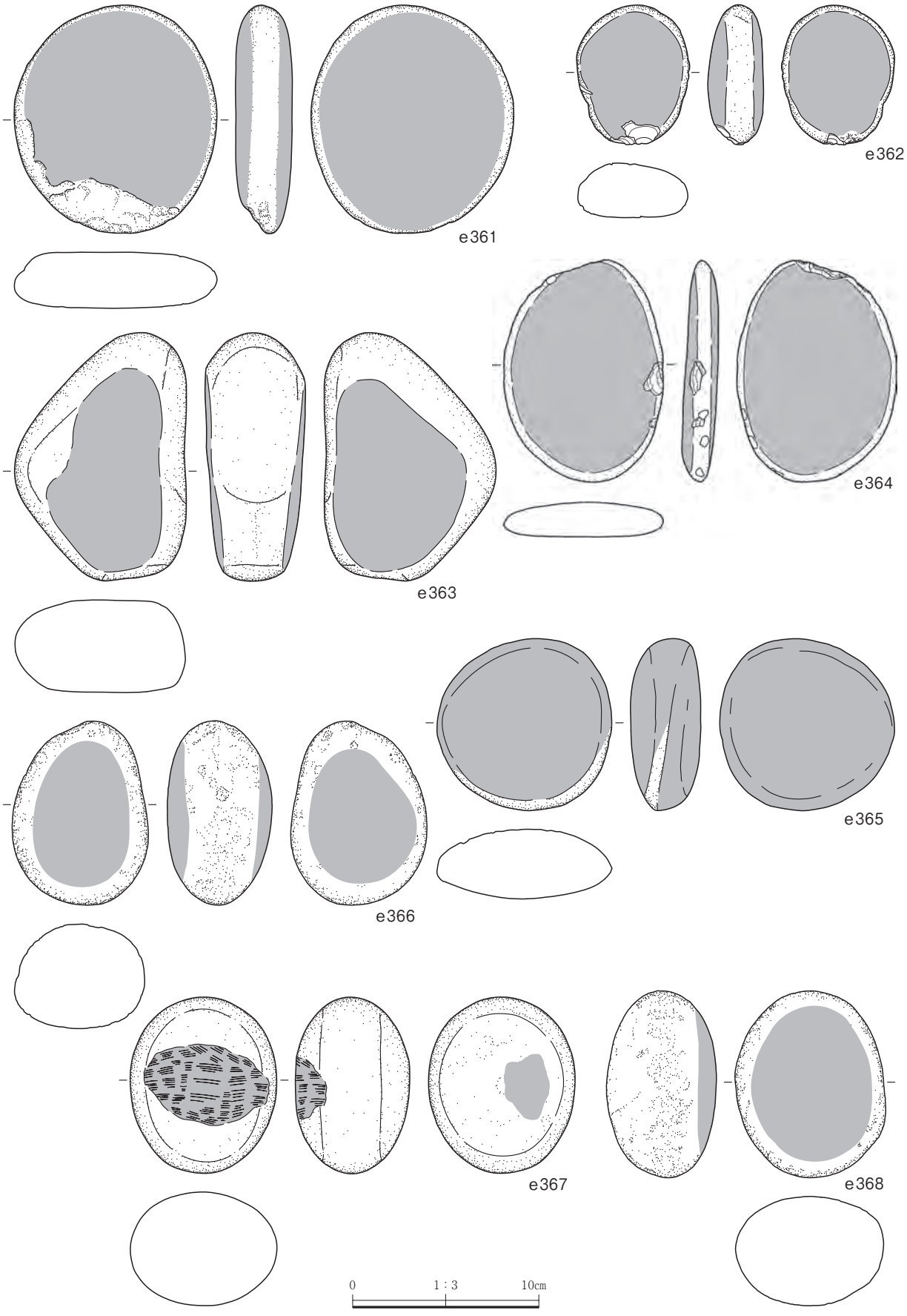
第179図　遺構外出土石器（27）

磨石②



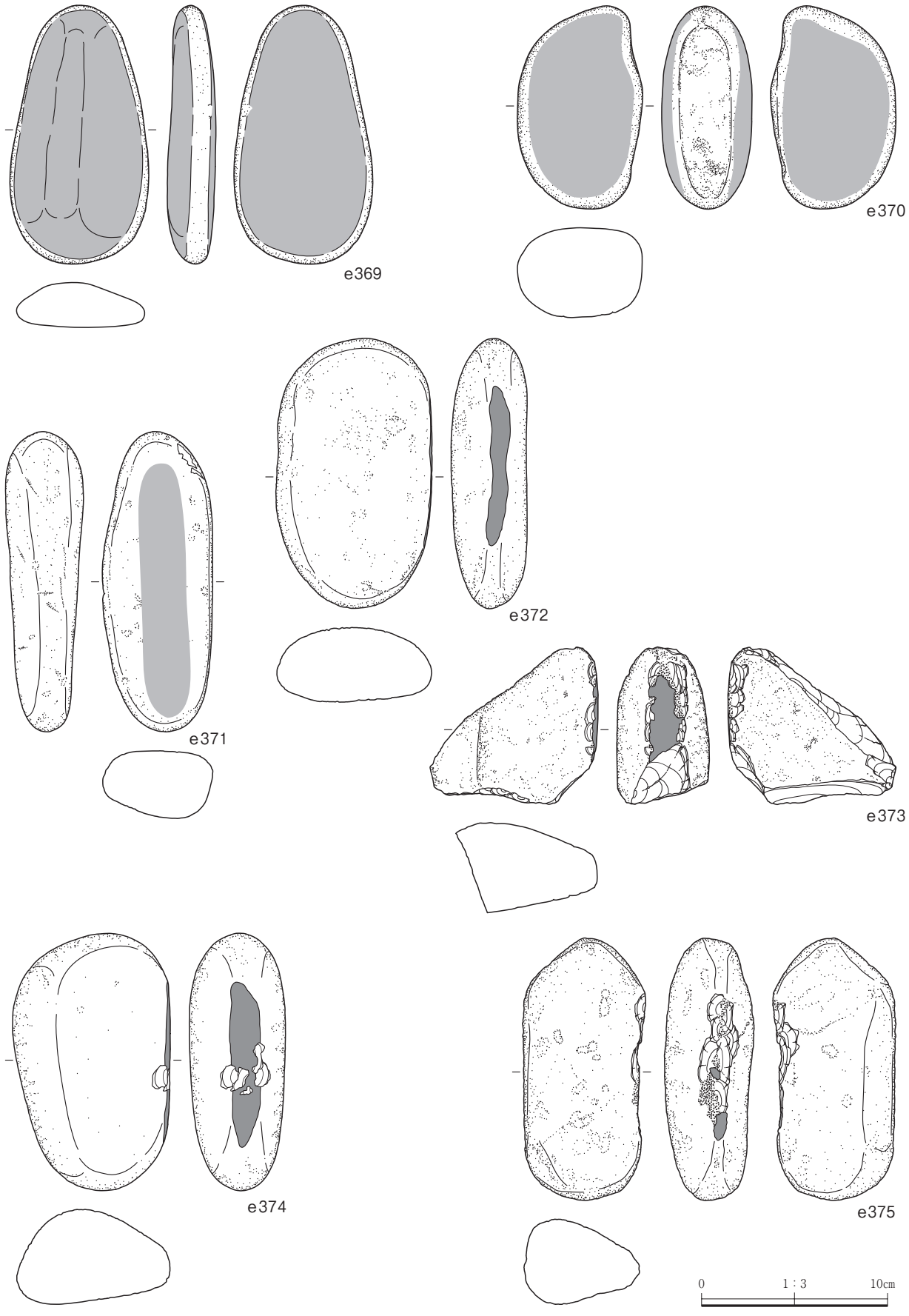
第180図　遺構外出土石器（28）

磨石③



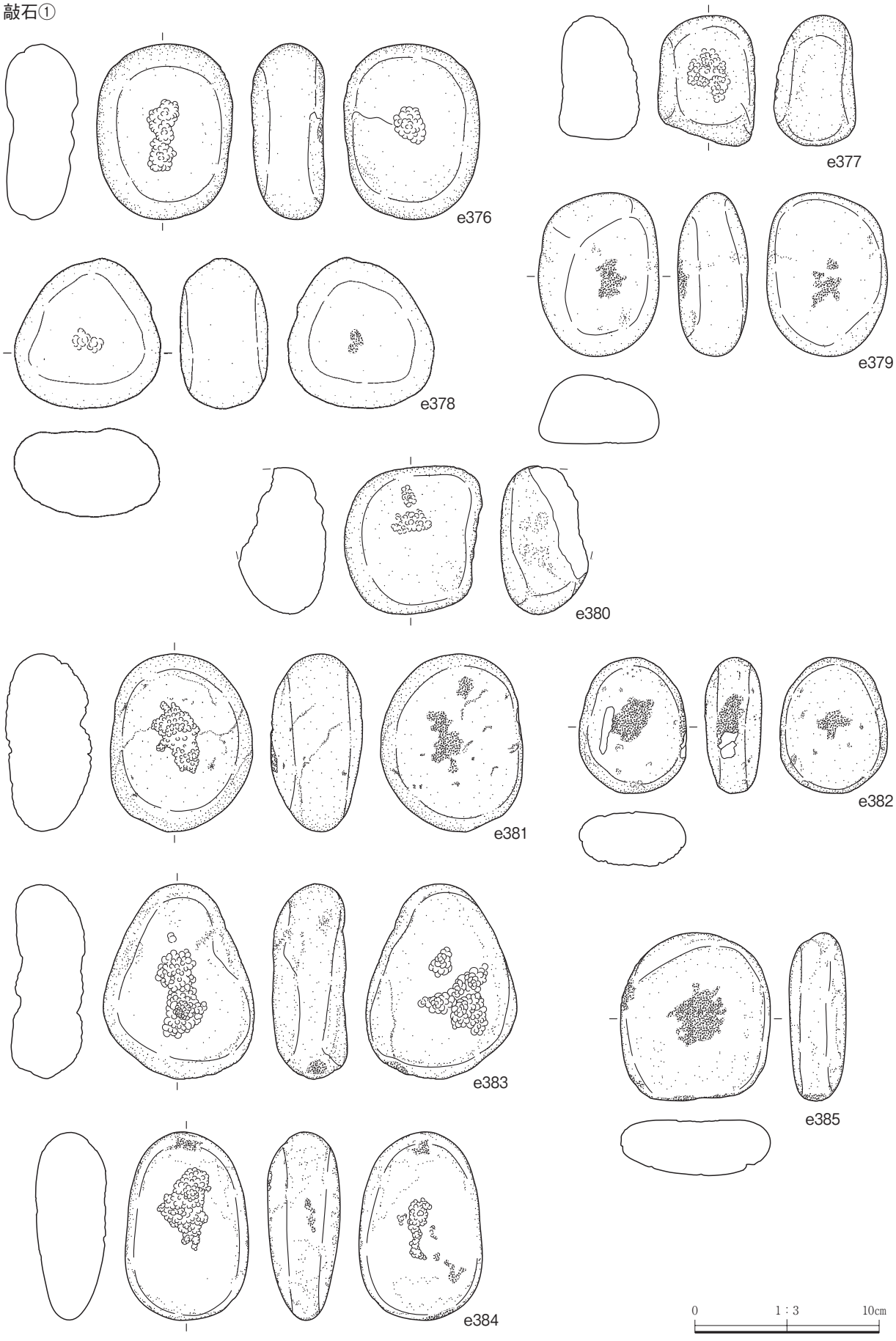
第181図　遺構外出土石器（29）

磨石④



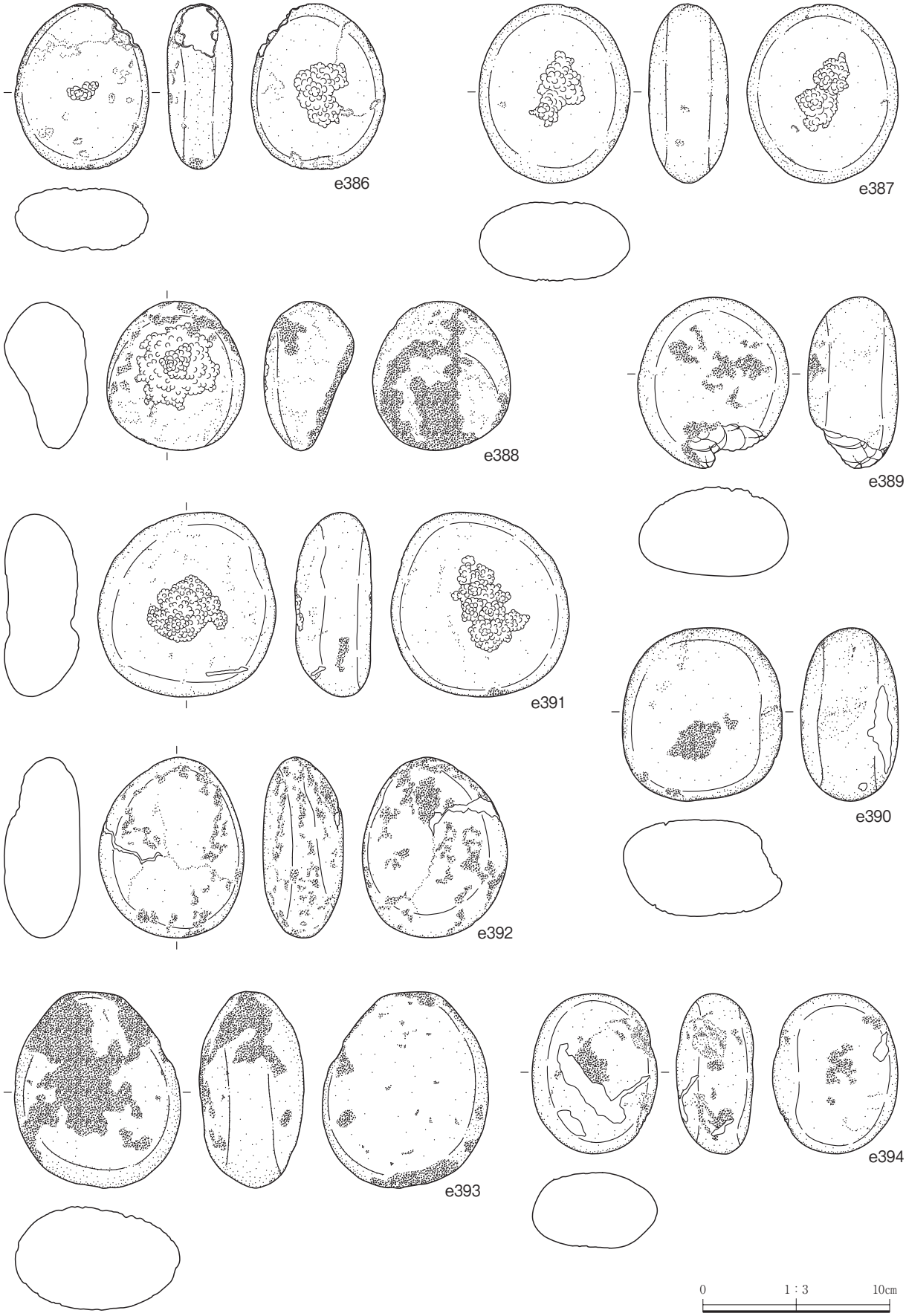
第182図　遺構外出土石器（30）

敲石①



第183図　遺構外出土石器（31）

敲石②

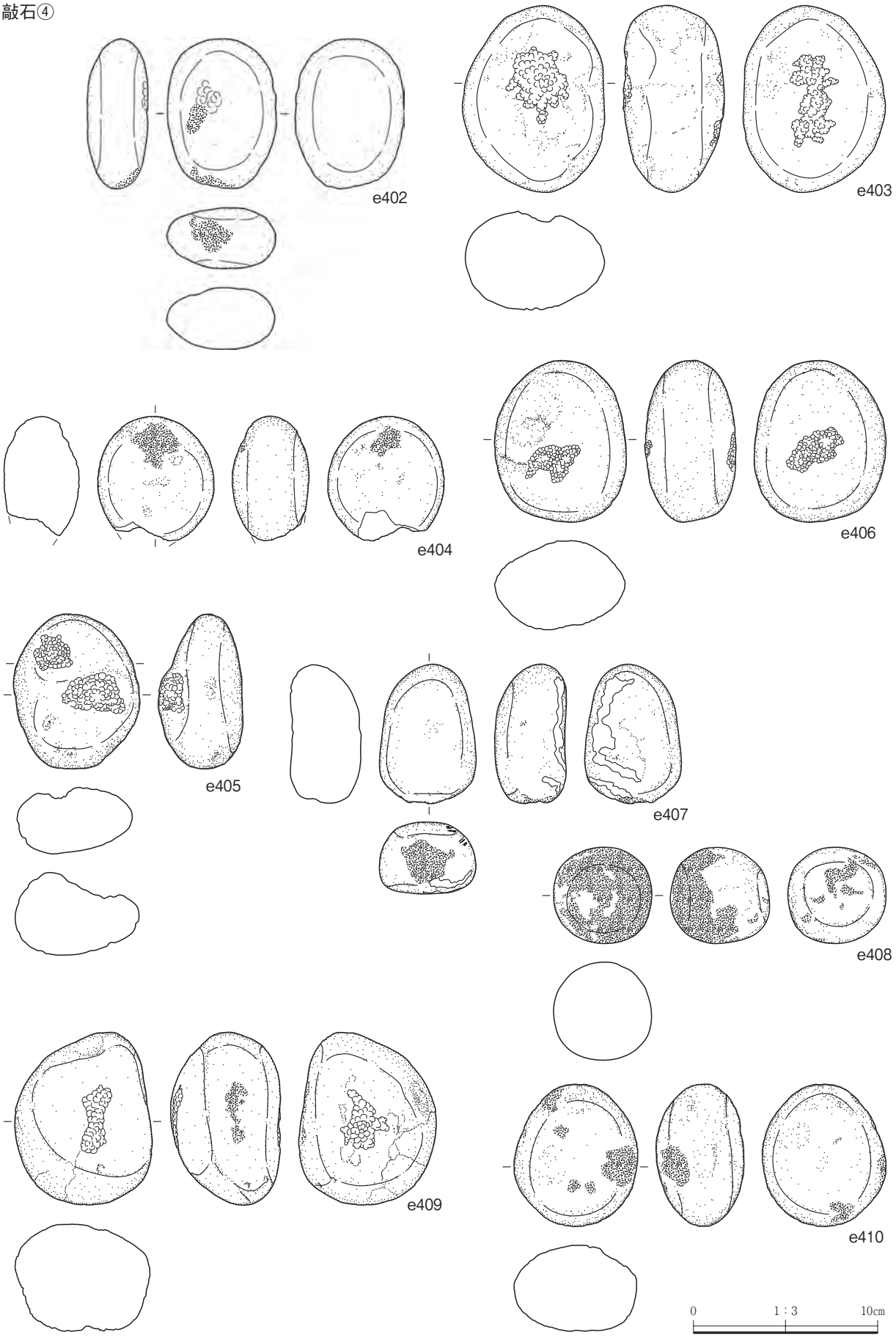


第184図　遺構外出土石器（32）

敲石③

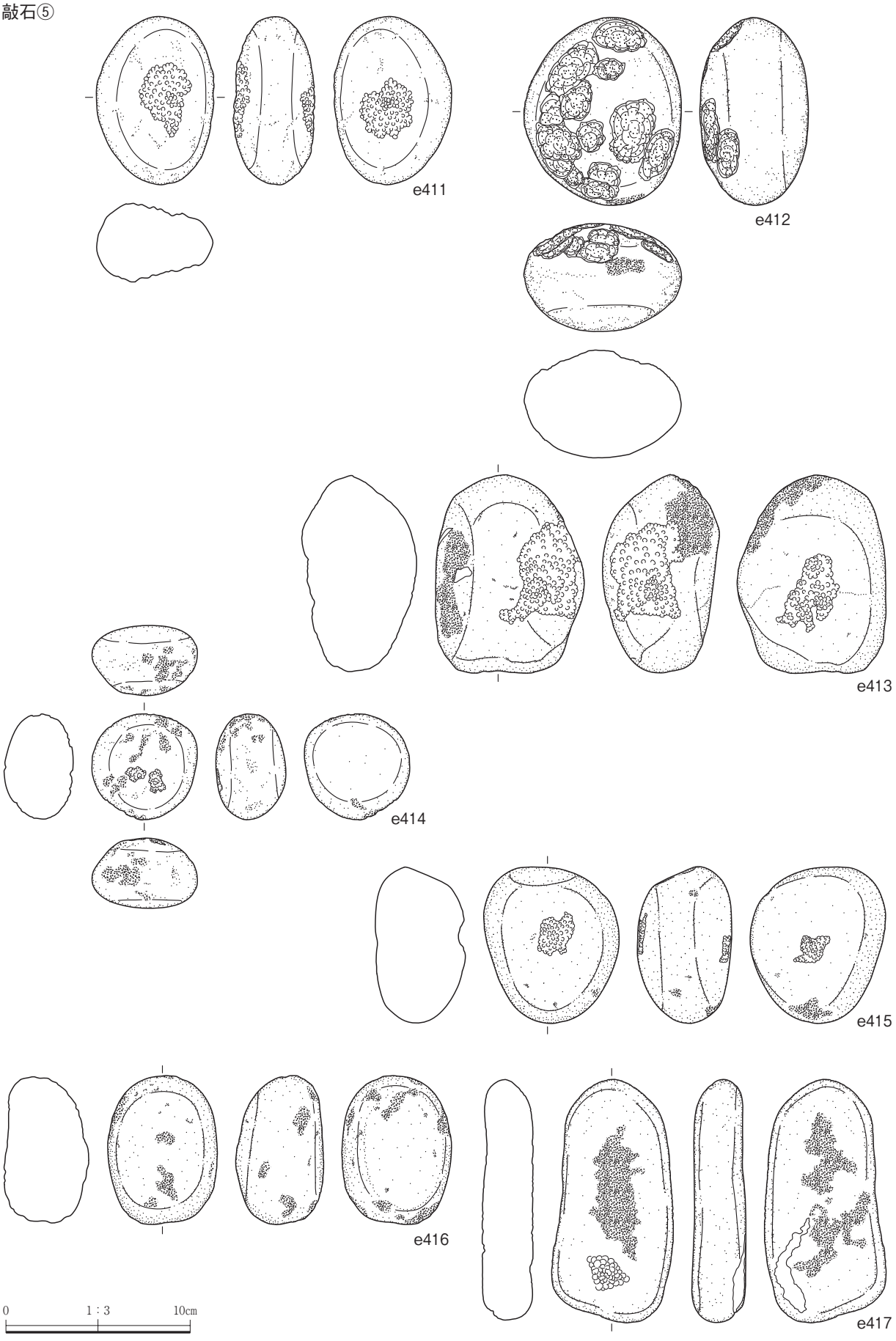
第185図　遺構外出土石器（33）

敲石④



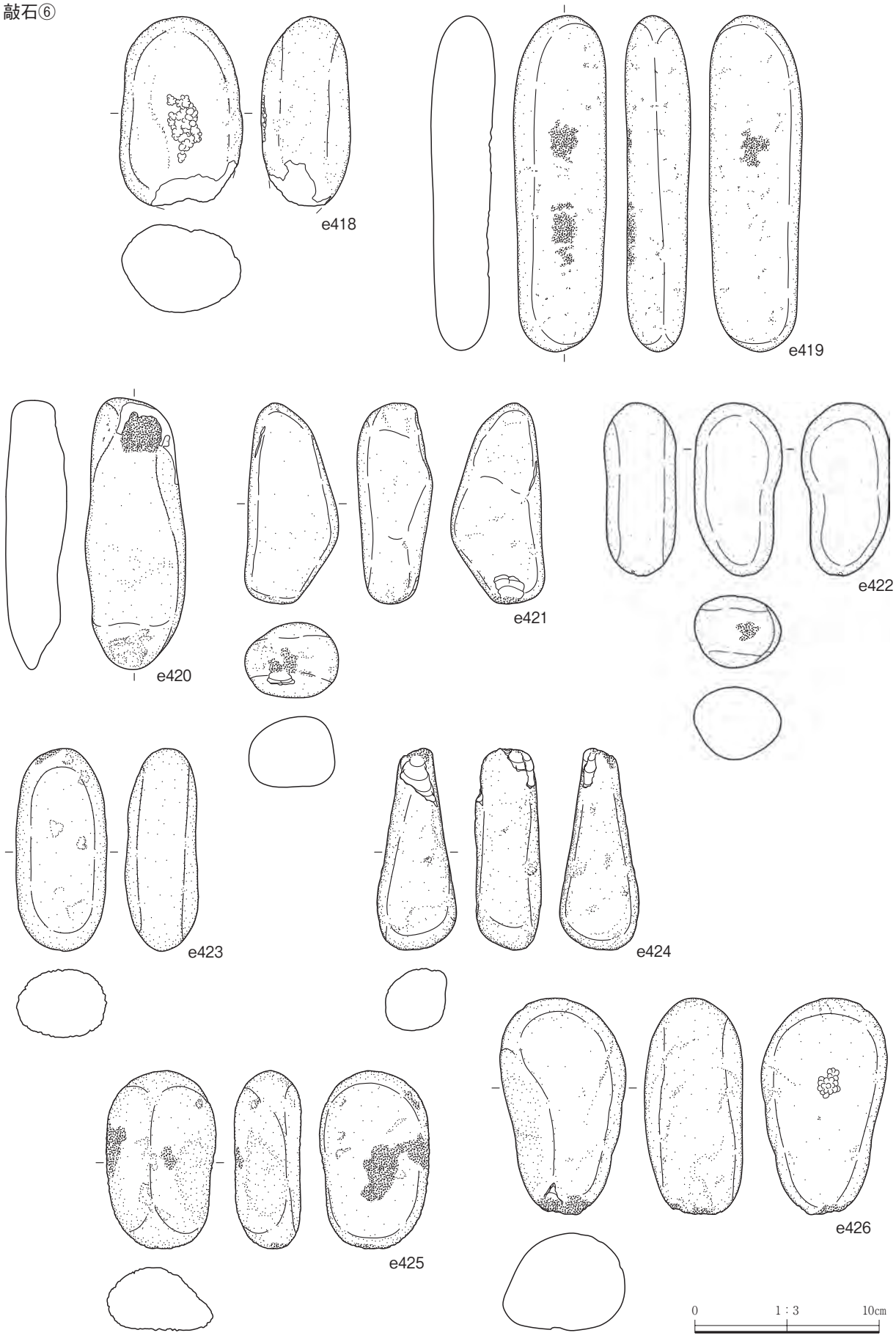
第186図　遺構外出土石器（34）

敲石⑤



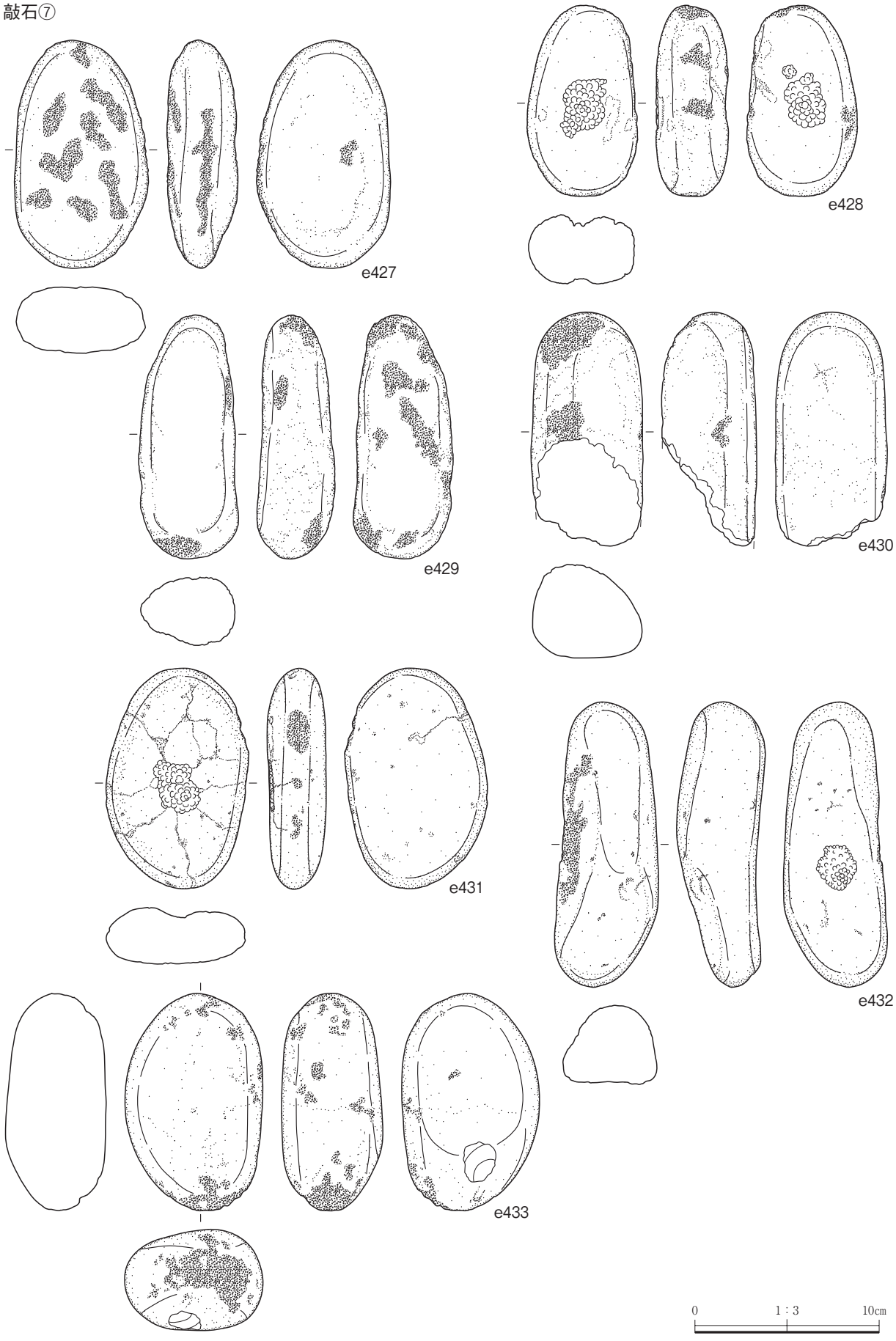
第187図　遺構外出土石器（35）

敲石⑥



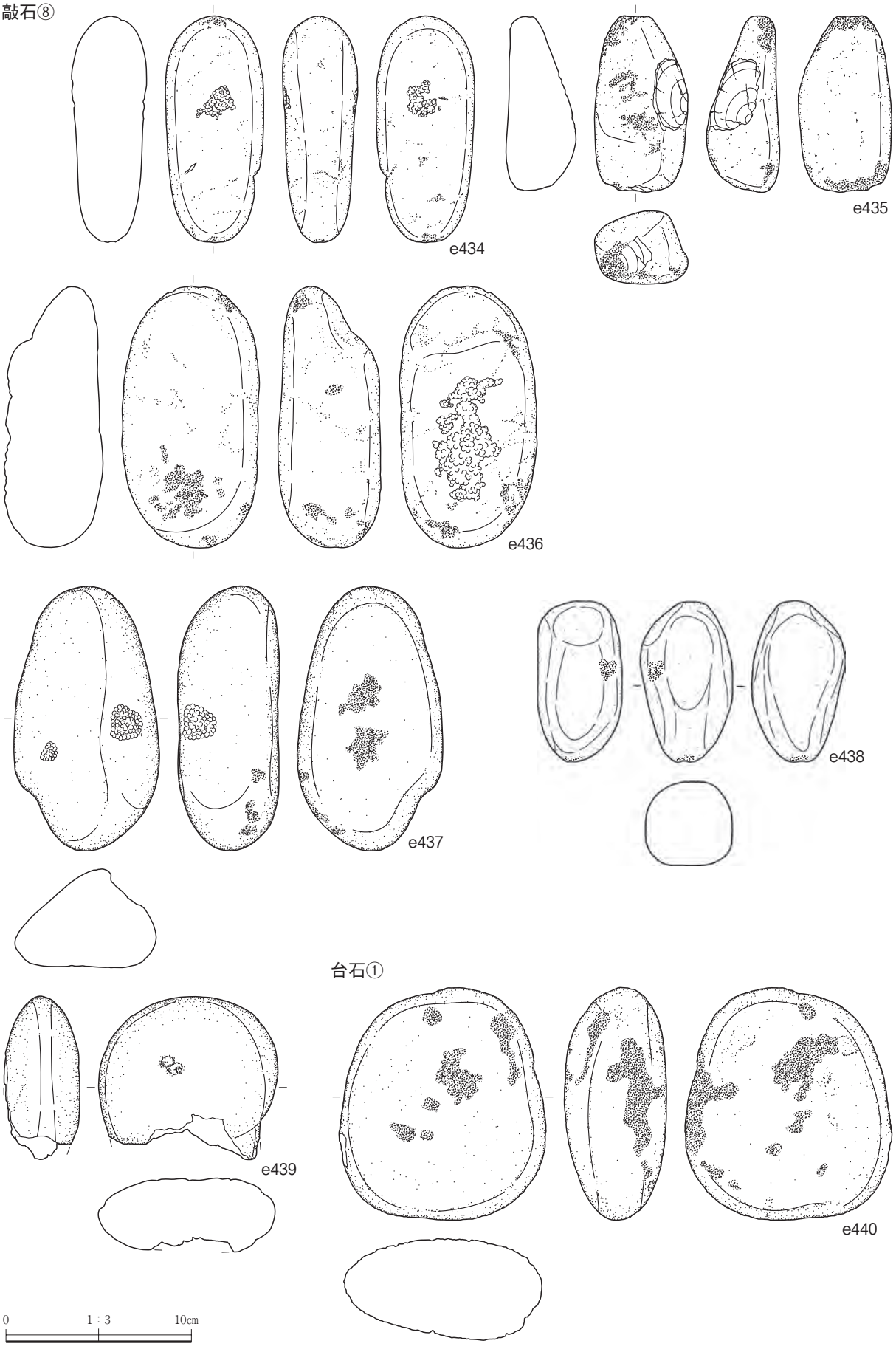
第188図　遺構外出土石器（36）

敲石⑦



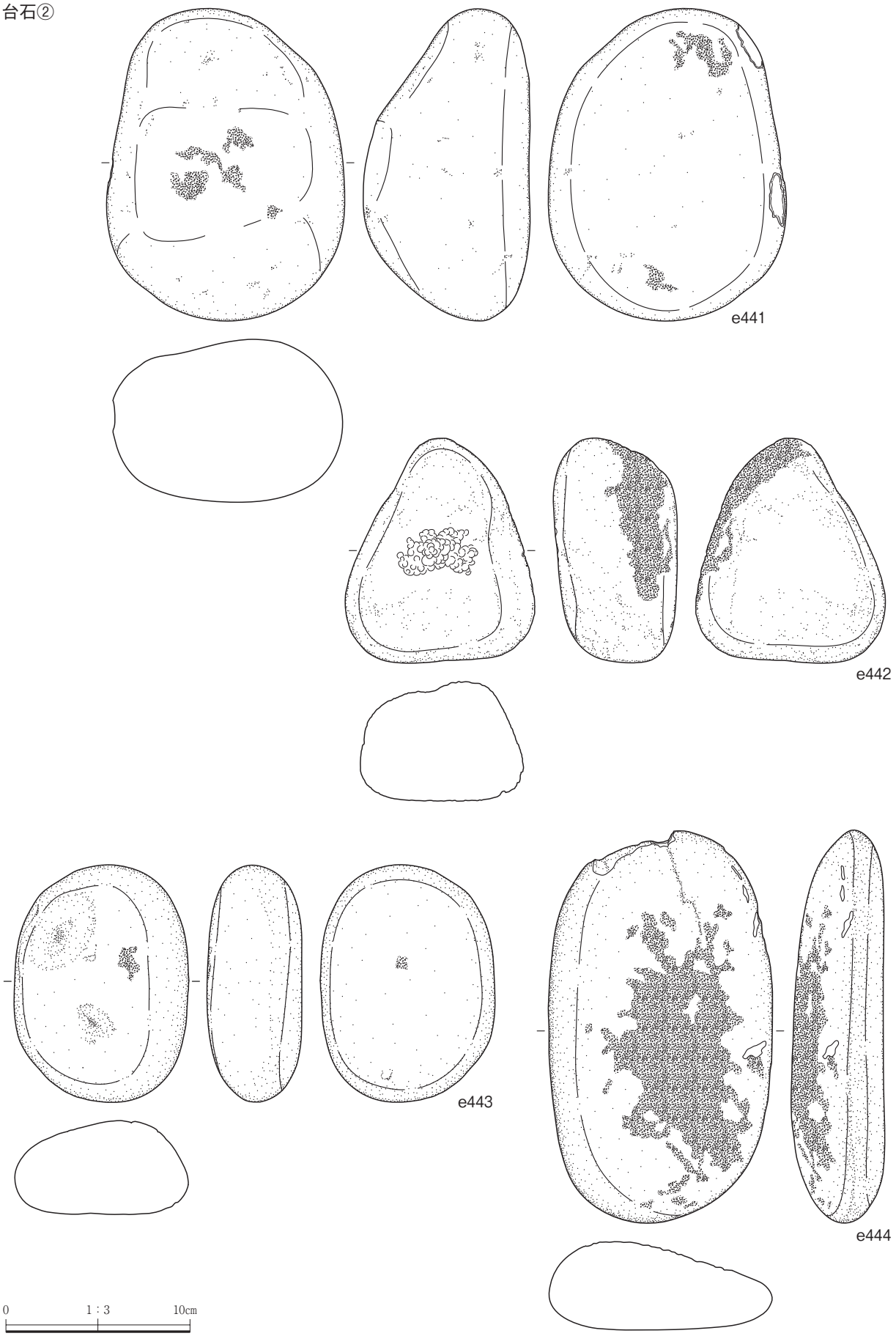
第189図　遺構外出土石器（37）

敲石⑧



第190図　遺構外出土石器（38）

台石②

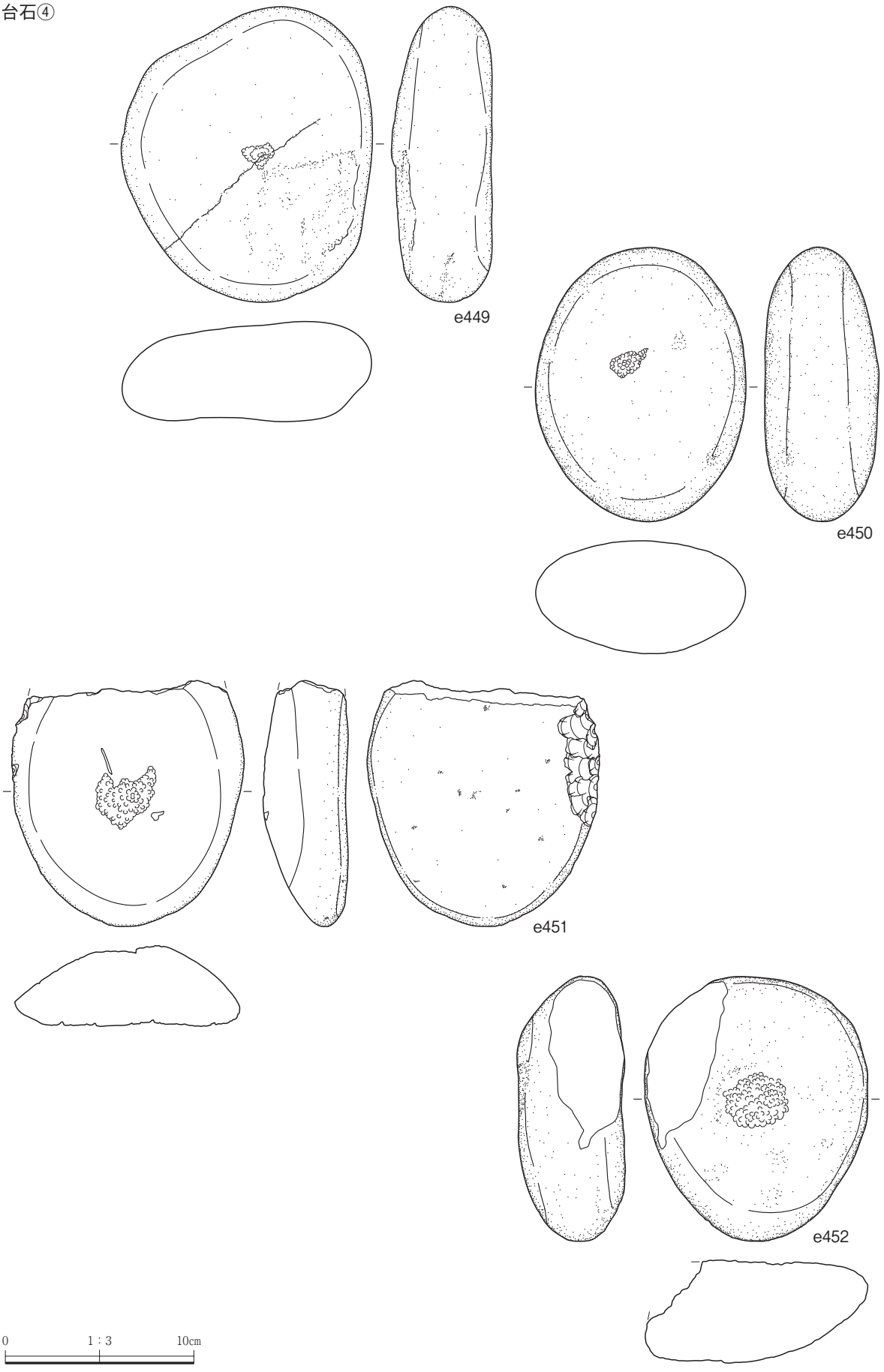


第191図　遺構外出土石器（39）

台石③

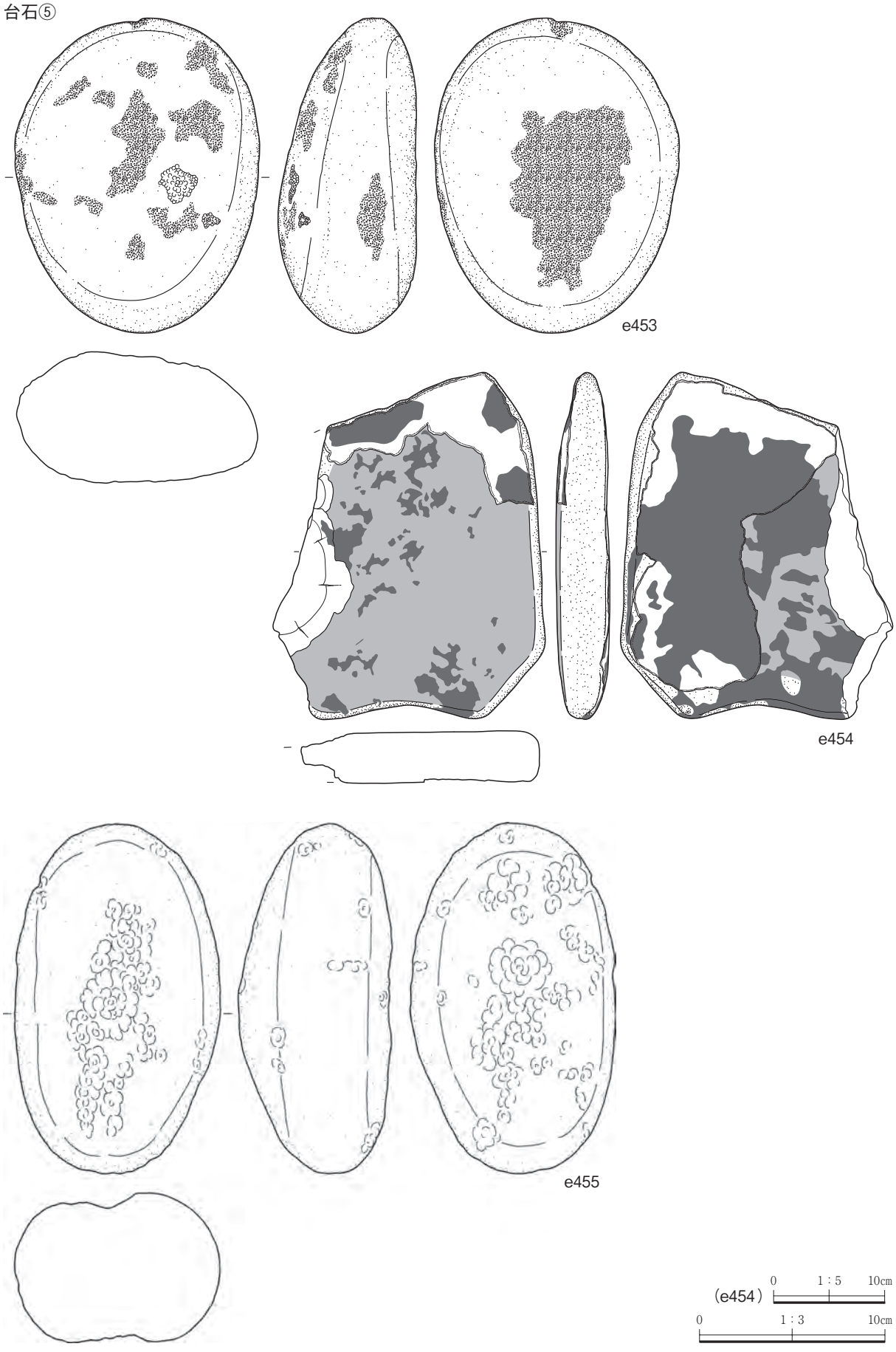
第192図　遺構外出土石器（40）

台石④



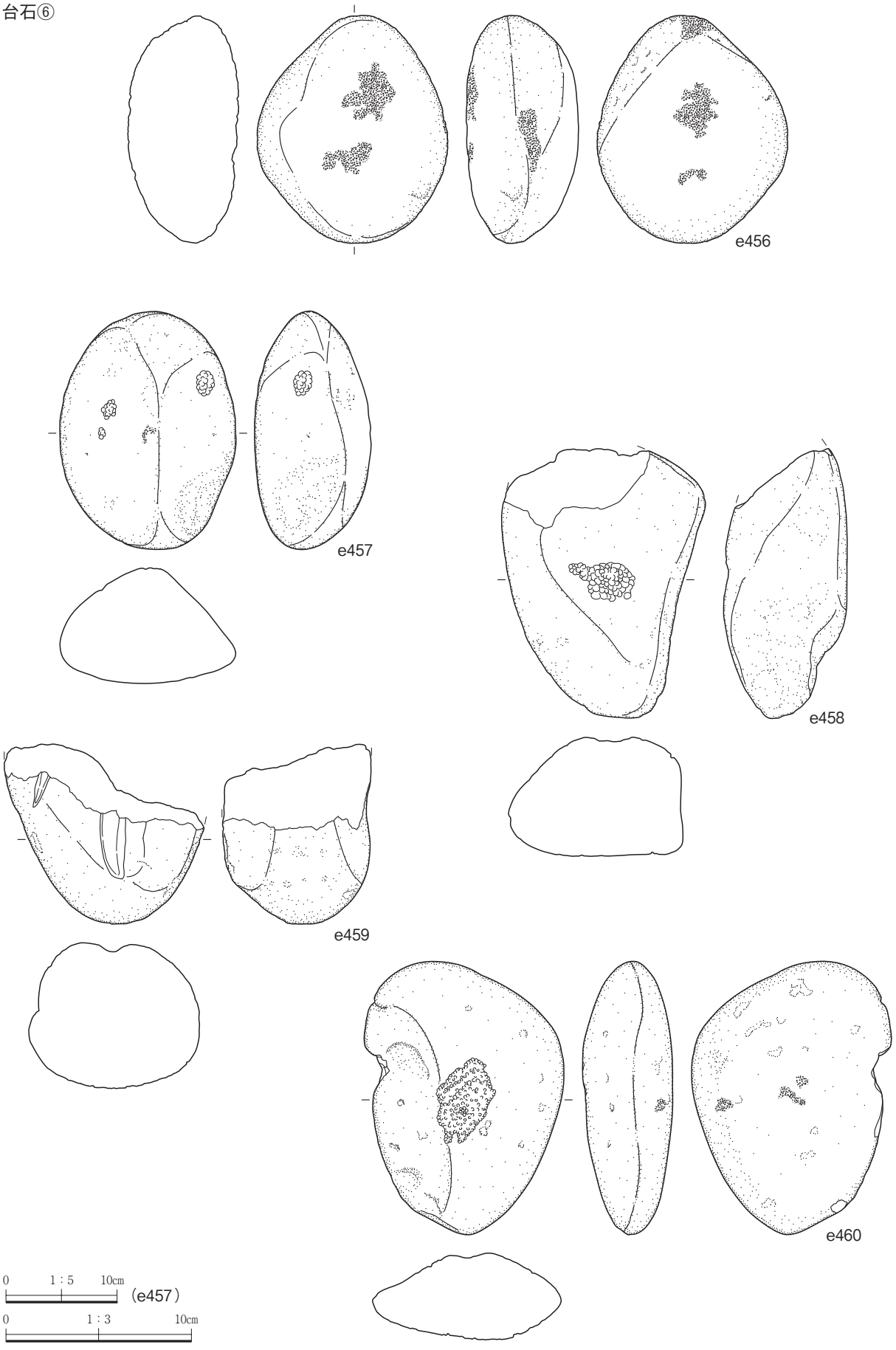
第193図　遺構外出土石器（41）

台石⑤

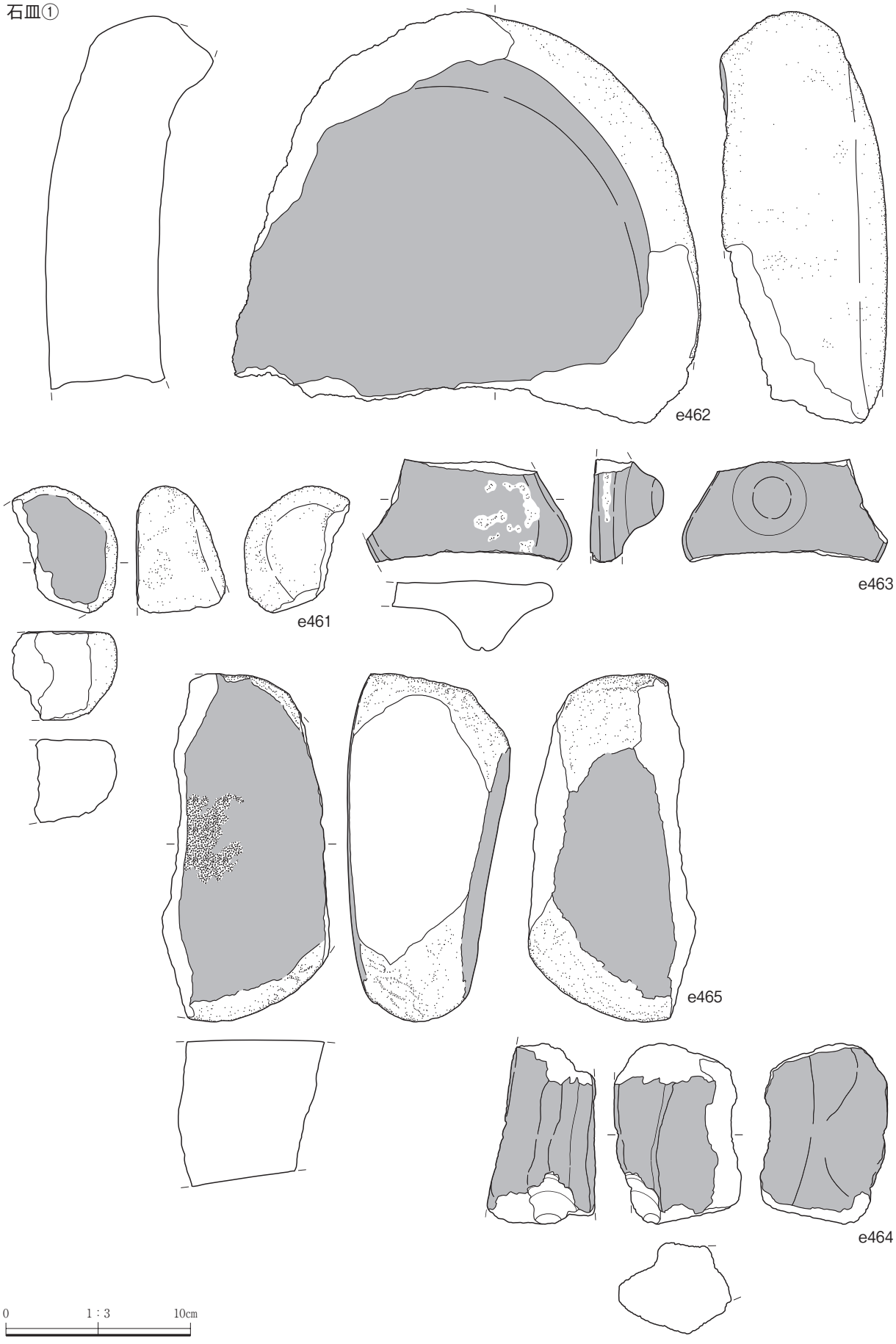


第194図　遺構外出土石器（42）

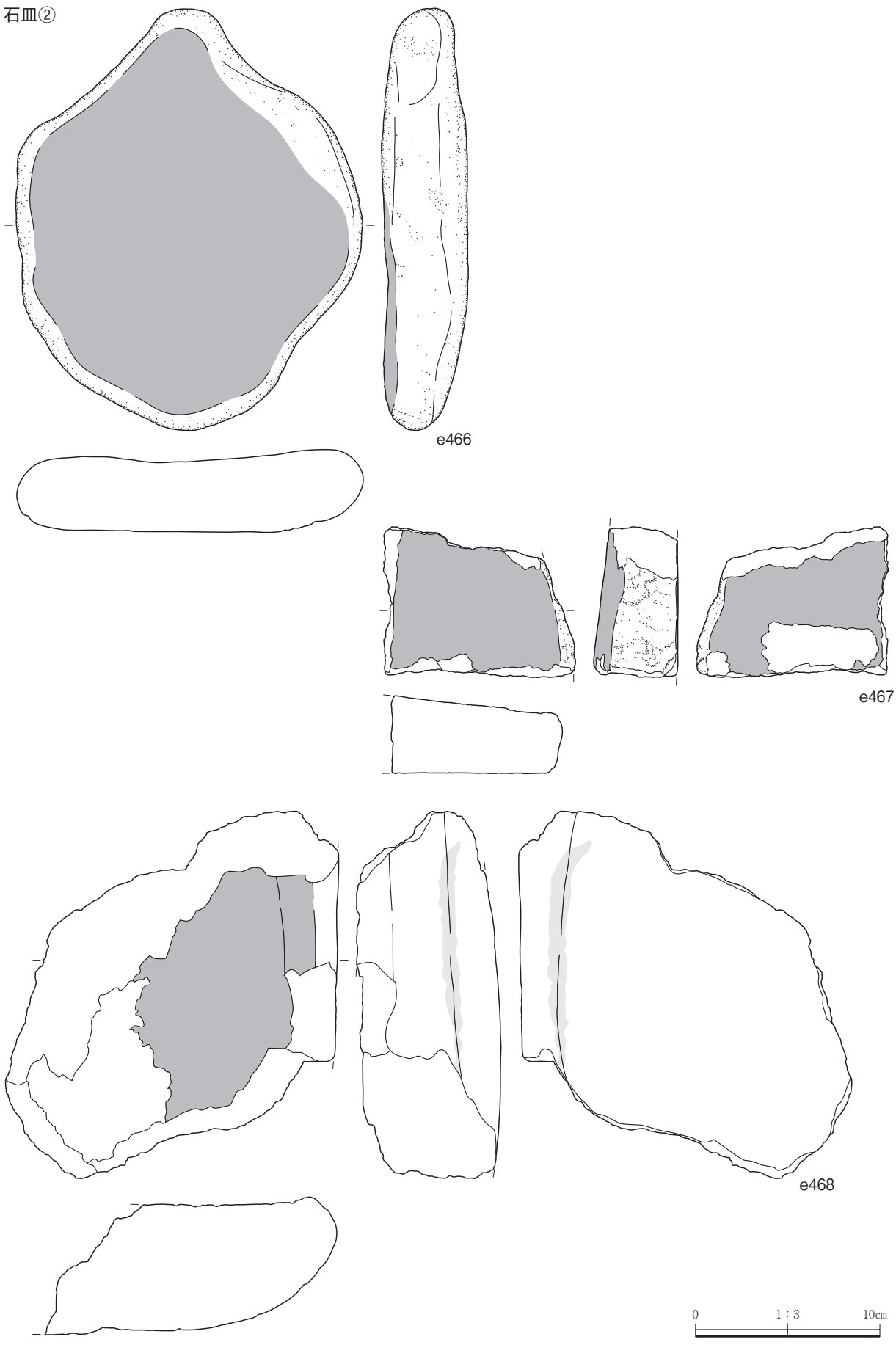
台石⑥



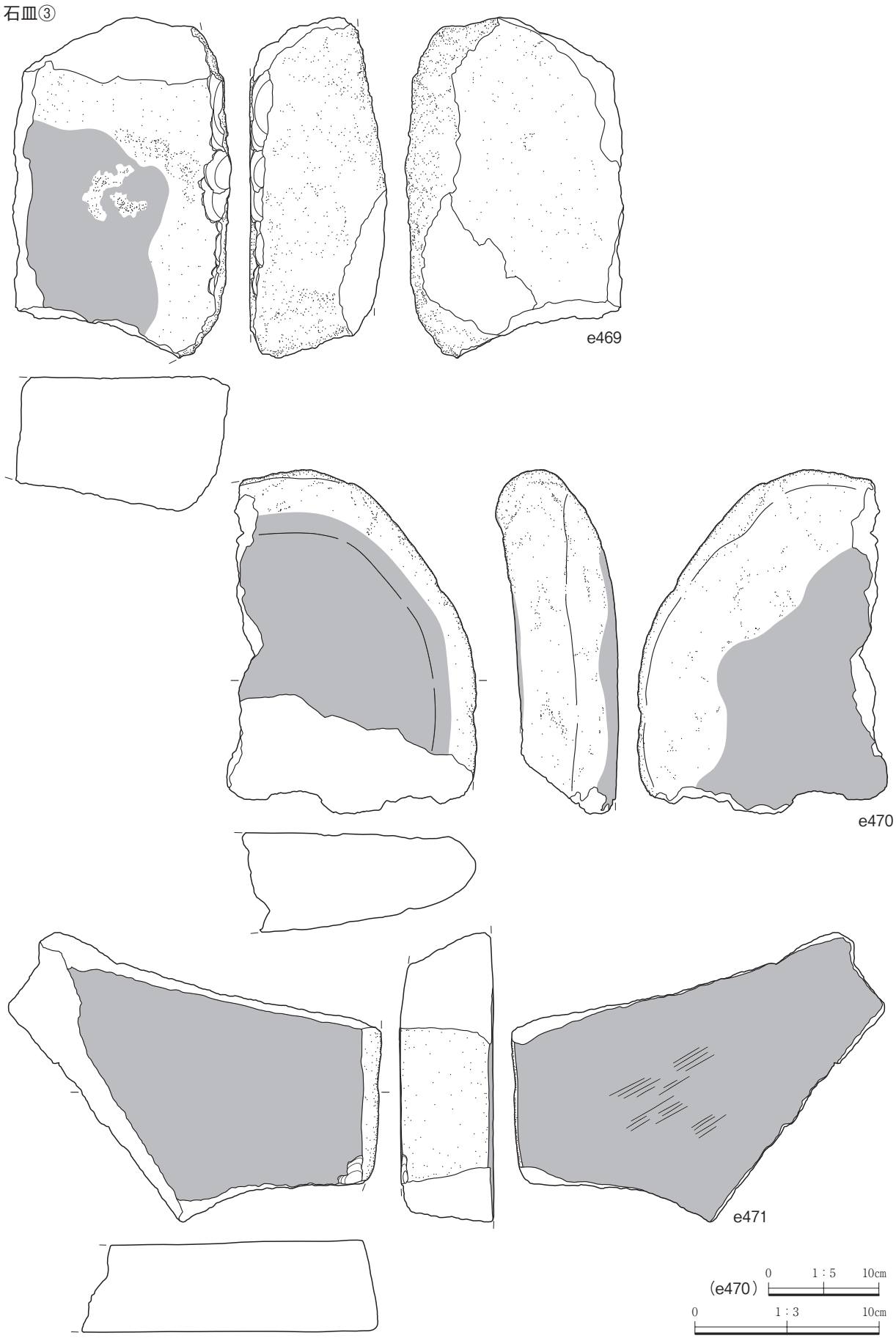
第195図　遺構外出土石器（43）



第196図　遺構外出土石器（44）

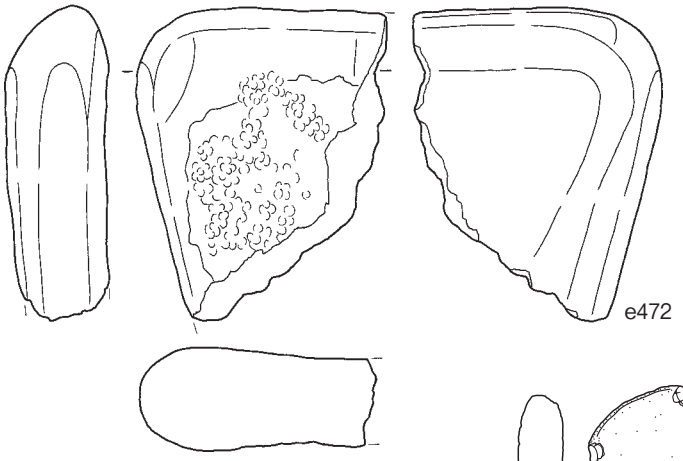


第197図　遺構外出土石器（45）

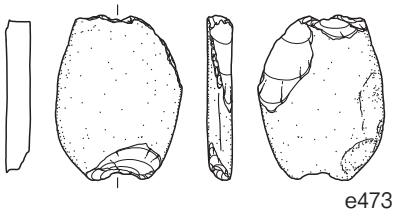


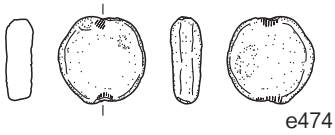
第198図　遺構外出土石器（46）

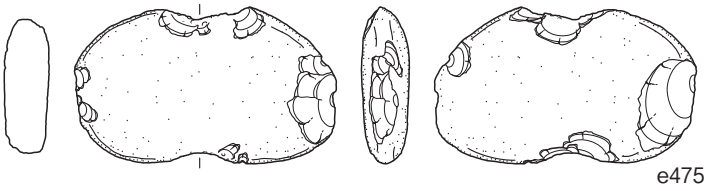
石皿④

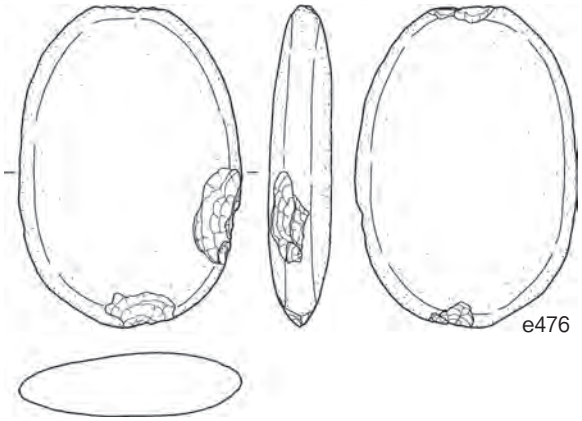


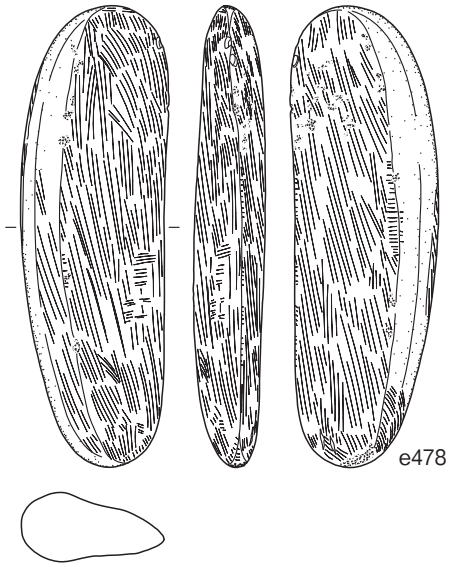
石錘



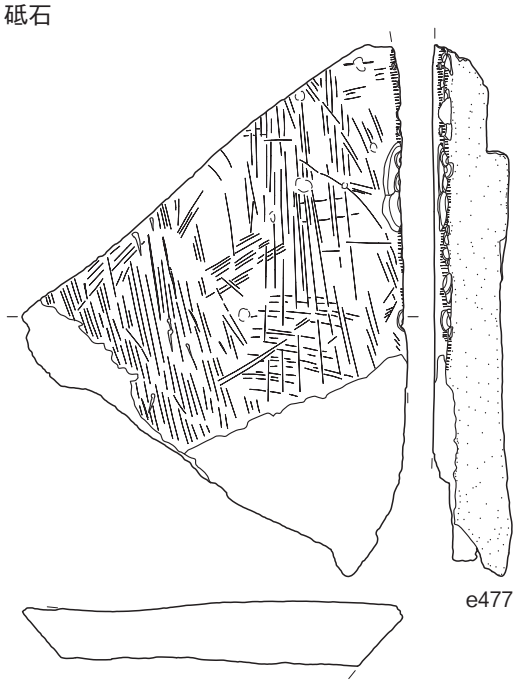


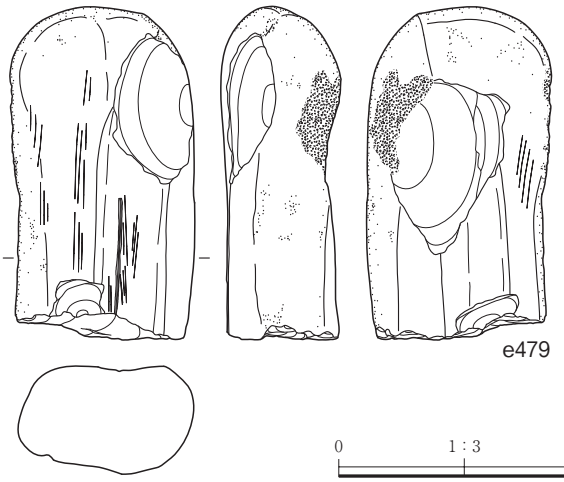






砥石

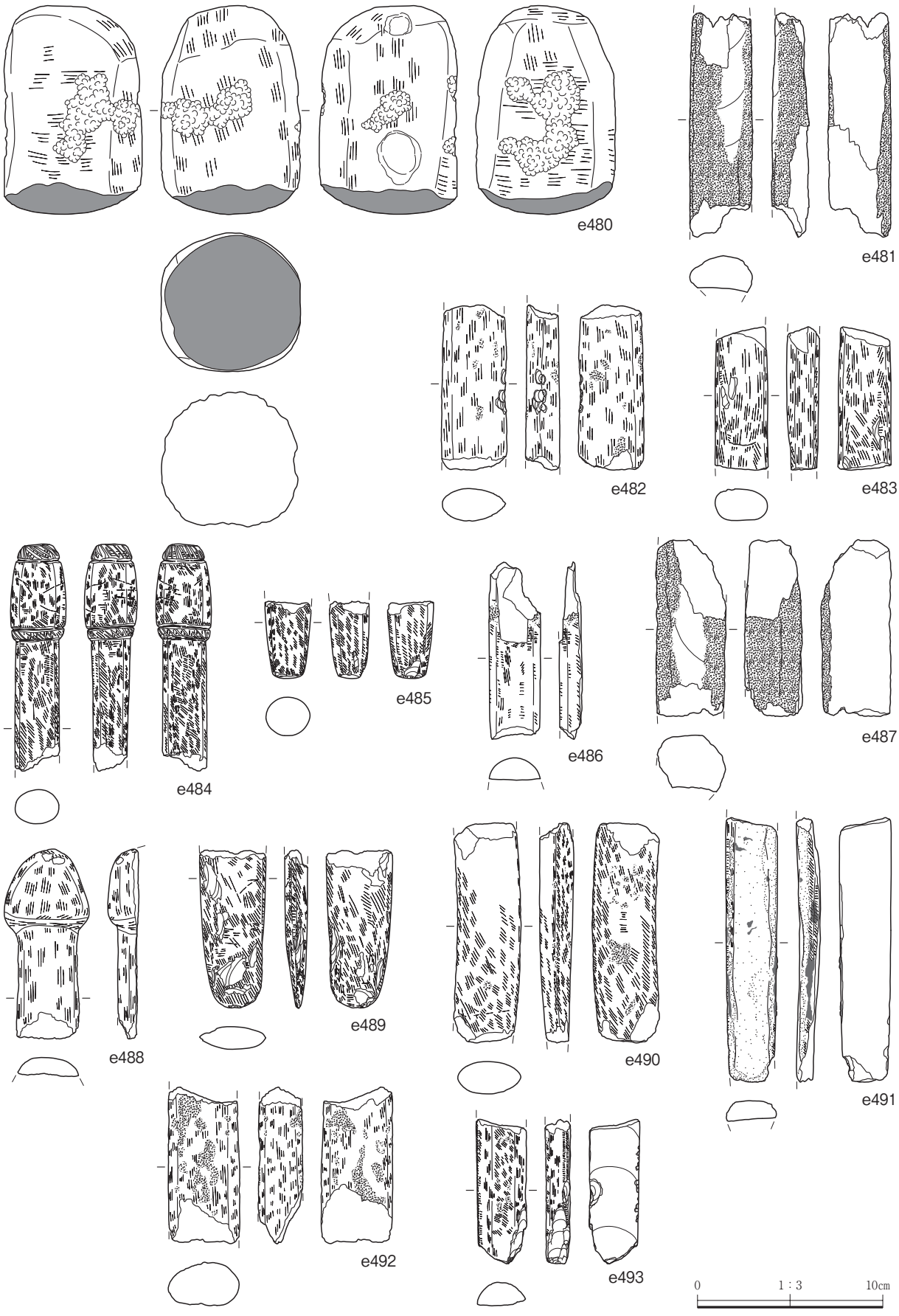




第199図　遺構外出土石器（47）

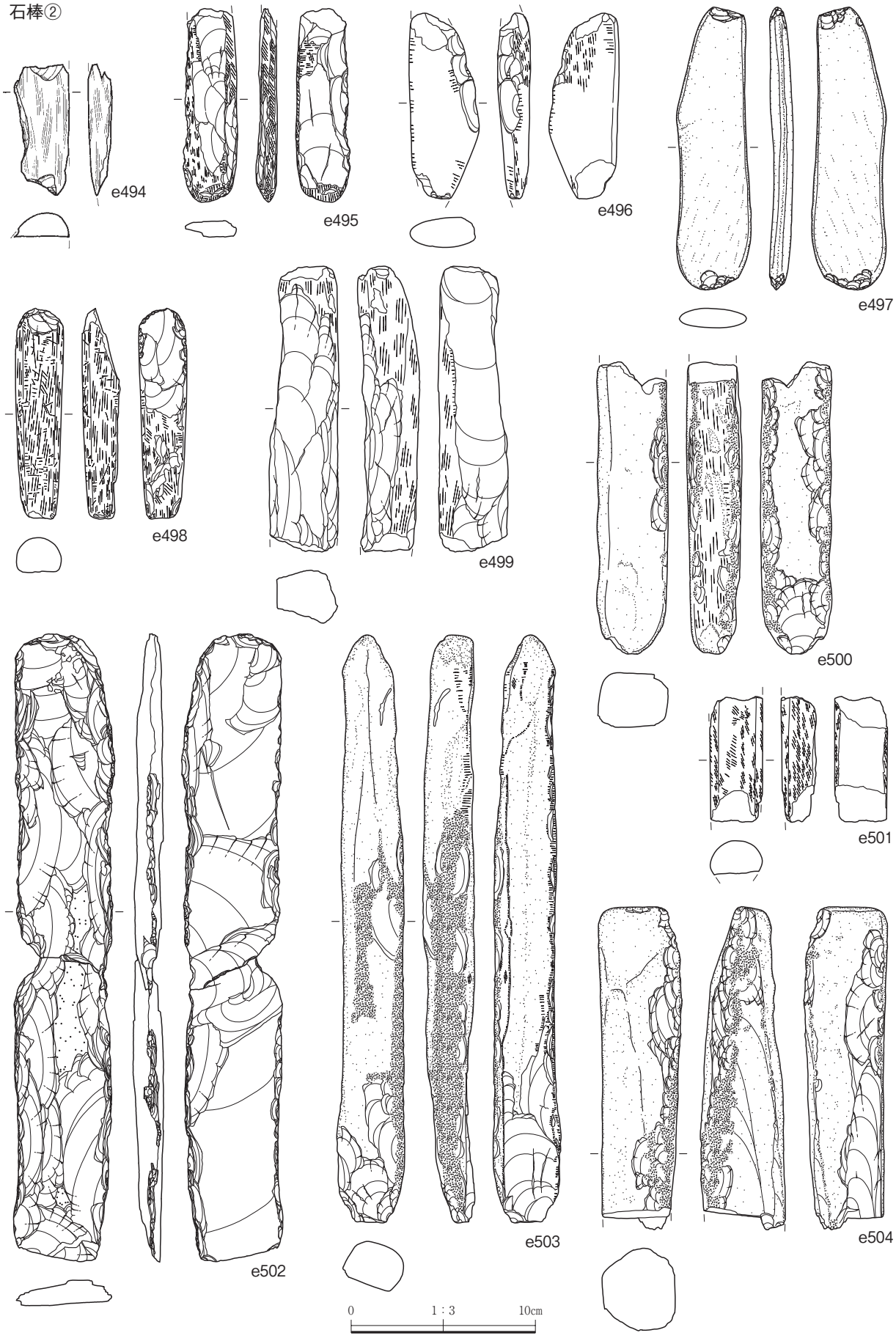
スタンプ形石器

石棒①

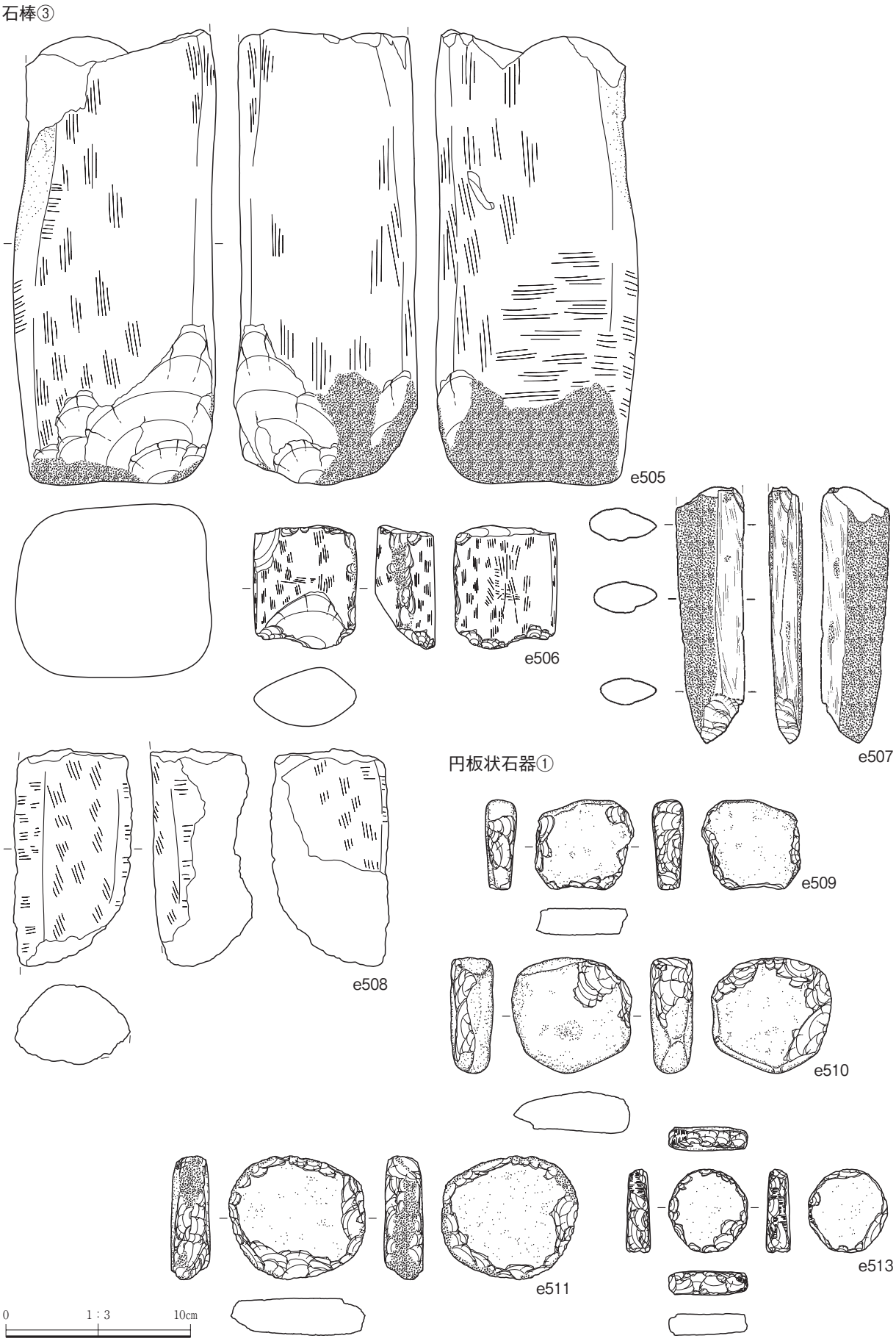


第200図　遺構外出土石器（48）

石棒②

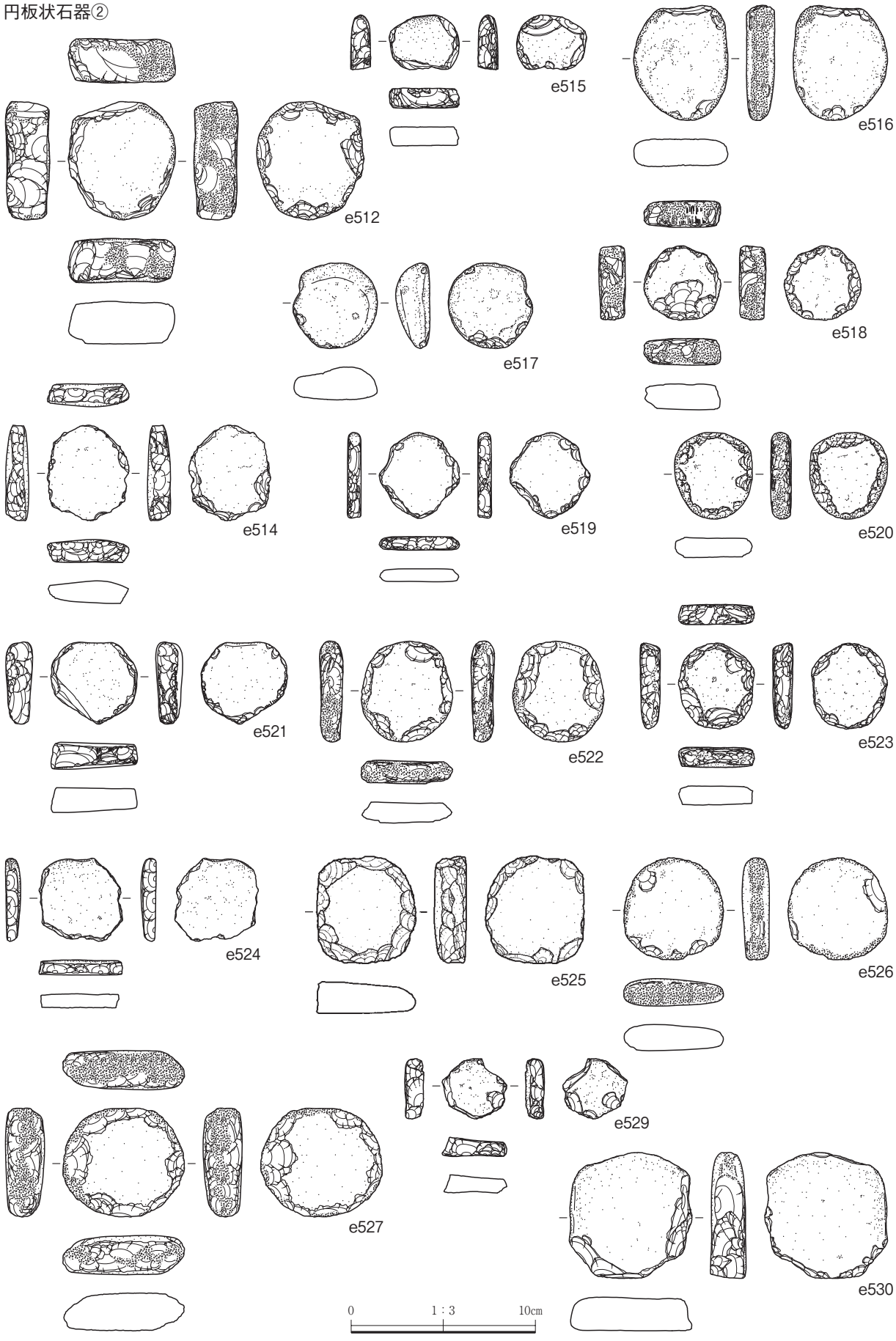


第201図　遺構外出土石器（49）



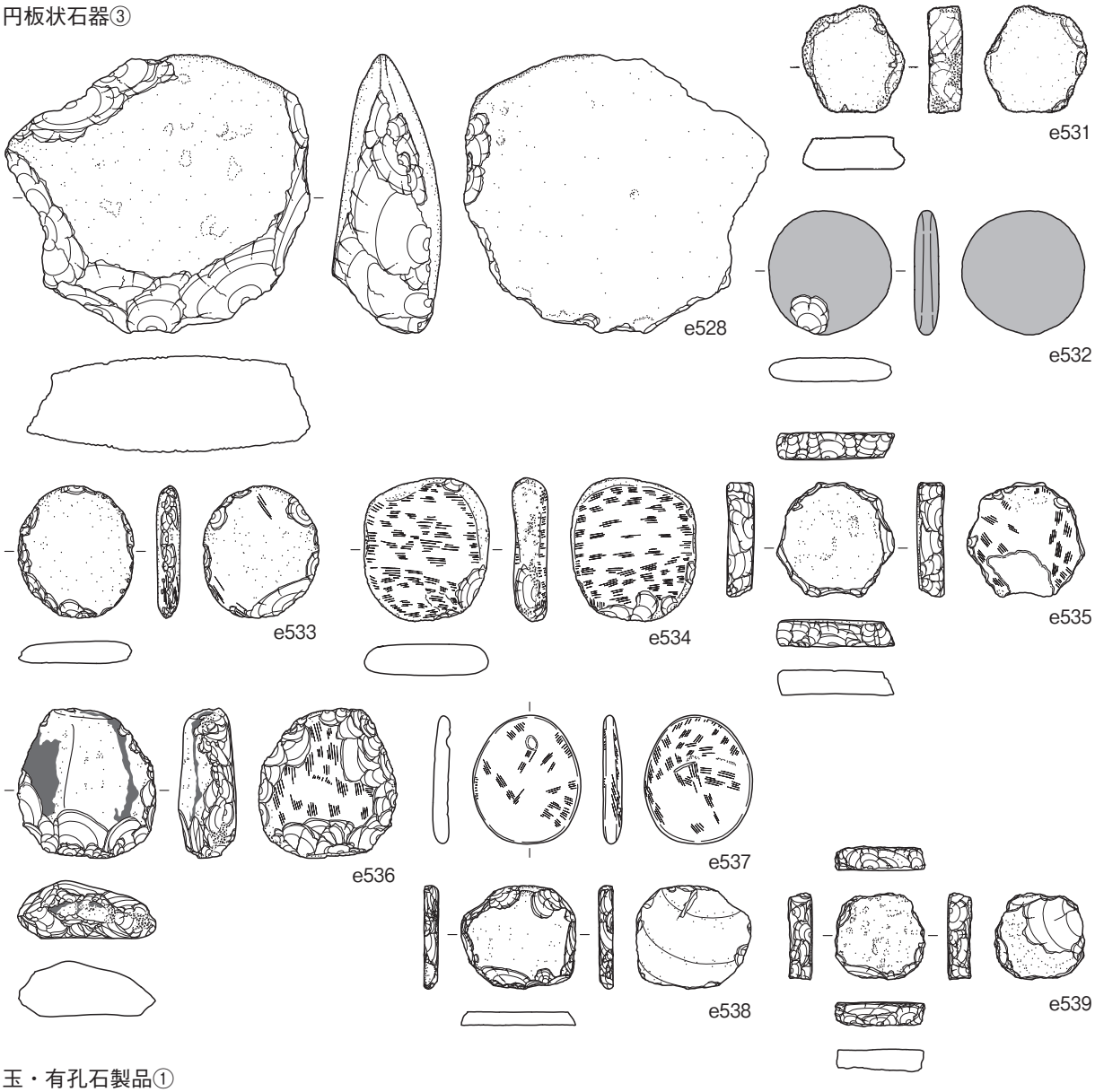
第202図　遺構外出土石器（50）

円板状石器②

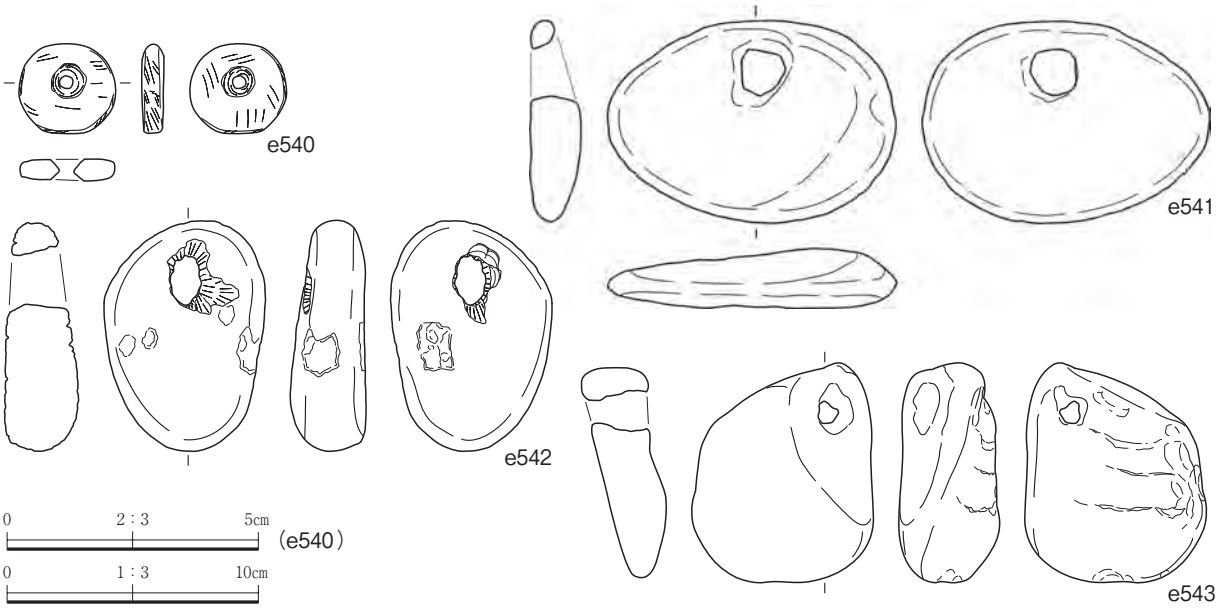


第203図　遺構外出土石器（51）

円板状石器③

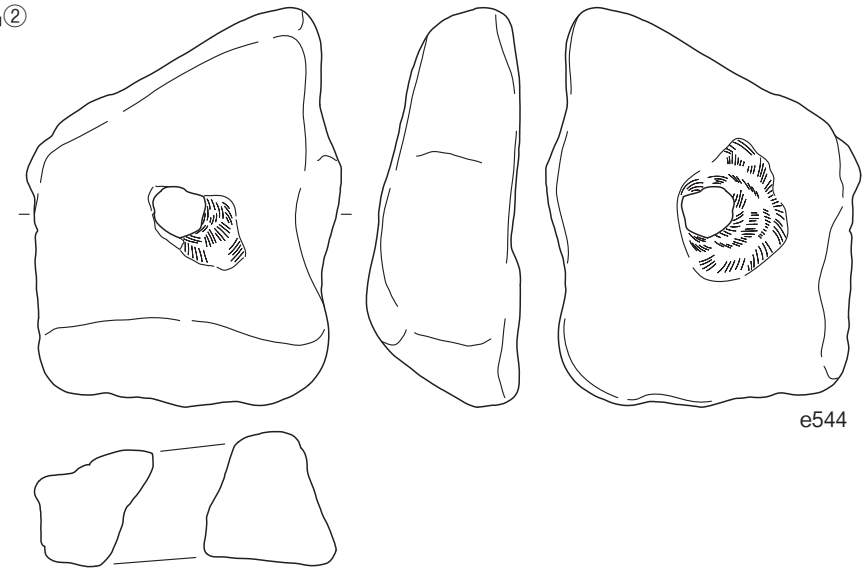


玉・有孔石製品①

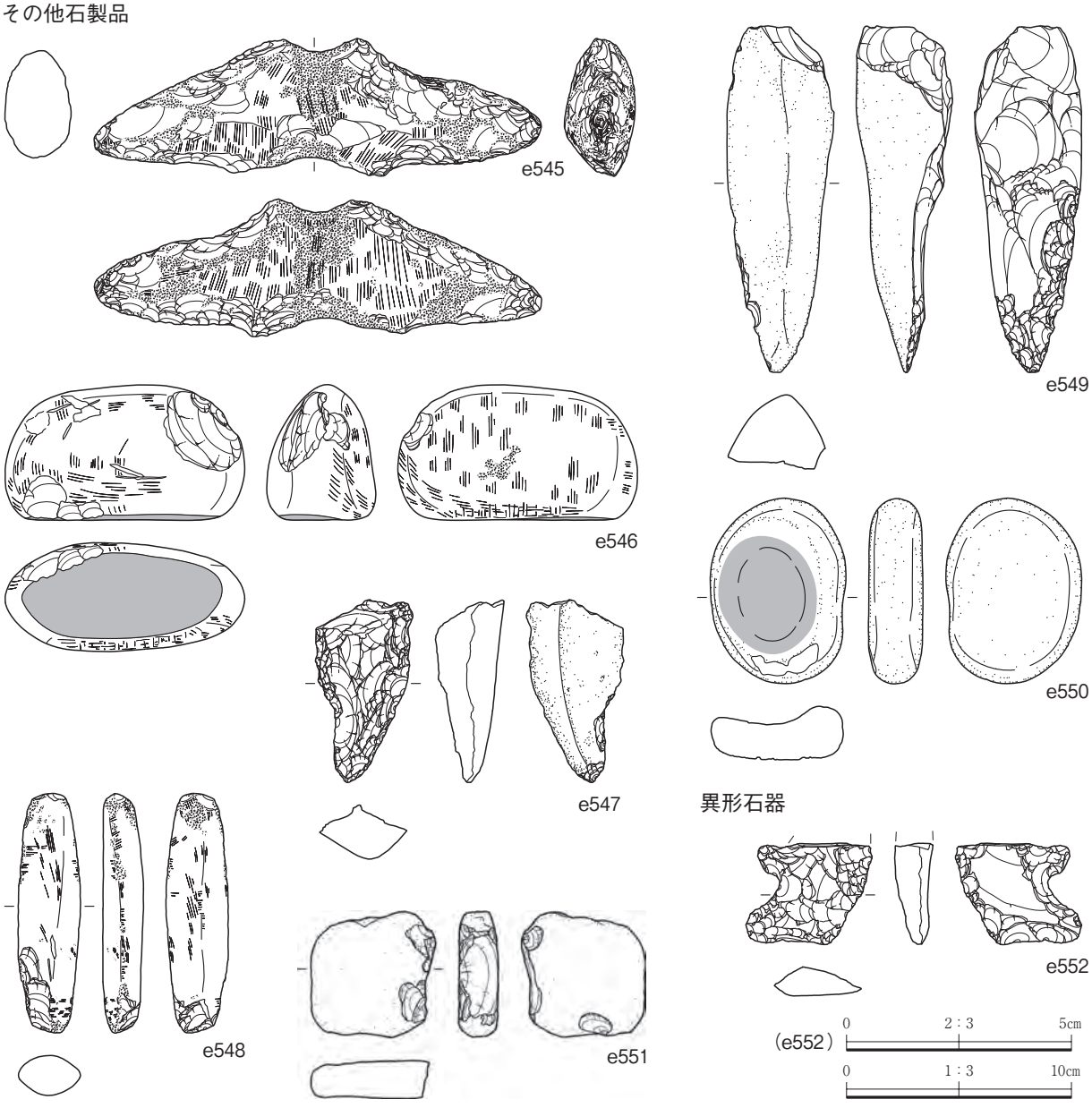


第204図　遺構外出土石器(52)

玉・有孔石製品②



その他石製品



第205図　遺構外出土石器（53）

第50表　縄文・弥生土器観察表（1）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a1	70	54	SI08a	図示あり（堆積土）	深鉢	胴～底部	－	（9.8）	11.1	縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ
a2	70	54	SI08ab、E39	北東側堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（31.9）	（16.5）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a3	70	54	SI08a	図示あり（堆積土）	鉢	胴～底部	－	（8.7）	6.0	縄文（LR・RL羽状）、底：ケズリ		Ⅲ
a4	70	54	SI08b、E39	東側堆積土、Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	（14.4）	（3.4）	－	刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a5	70	54	SI08b	東側堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（A）、刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a6	70	54	SI08b	東側堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a7	70	54	SI08ab、E39	南東側堆積土、Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	（19.8）	（5.4）	－	突起、沈線、刻目、縄文（LR）		Ⅲ－5
a8	70	54	SI08ab、E39	堆積土、Ⅲ層	鉢	口～底部	（14.4）	11.5	6.5	口唇刻目、沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－4
a9	70	54	SI08ab	堆積土	鉢	口～胴部	（12.0）	（8.5）	－	刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a10	70	54	SI08a、E39	図示あり（床面?）、Ⅲ層	鉢（台付）	口～底部	15.3	14.5	（7.2）	突起（A：1単位・B：5単位）、口唇刻目、粘土粒（6単位）、沈線、縄文（磨消・LR）	内面スス付着	Ⅲ－4
a11	70	54	SI08ab	堆積土	鉢（台付）	台部	－	（1.9）	（4.8）	縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a12	71	54	SI08a、E38	図示あり（床面?）、Ⅱ層	壺	口～胴部	8.0	（20.3）	－	突起（B5：単位）、沈線、ミガキ		Ⅲ－4～5
a13	71	54	SI08a	図示あり（堆積土）	壺	胴部	－	（6.2）	－	沈線（縦位3本：4単位）、縄文（LR）		Ⅲ－4
a14	71	54	SI08ab、E08、E38	南西側堆積土、Ⅱ層	壺	胴～底部	－	（17.6）	6.2	縄文（LR・RL羽状）、底：ナデ		Ⅲ－4～5
a15	71	54	SI08a	堆積土	壺?注口?	口～頸部?	（16.4）	（12.5）	－	沈線		Ⅲ－4～5
a16	71	55	SI13	図示あり（床面）	深鉢	口～胴部	（29.4）	（25.7）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a17	71	55	SI13	図示あり（床面）	深鉢	口～胴部	（32.3）	（24.7）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a18	72	55	SI13	図示あり（床面）	深鉢	口～胴部	（28.1）	（30.4）	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a19	72	55	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（30.2）	（22.8）	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a20	72	56	SI13	北西堆積土	深鉢	口～胴部	－	－	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a21	72	56	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	深鉢	口縁	－	－	－	口唇押圧、沈線		Ⅲ－4～5
a22	72	56	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	口唇押圧、沈線		Ⅲ－4～5
a23	72	56	SI13	南東側堆積土	深鉢	口縁	－	－	－	沈線		Ⅲ－4～5
a24	72	56	SI13、E50	南東側堆積土、Ⅱ層	深鉢	口縁	（25.4）	（4.0）	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a25	72	56	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	深鉢	胴～底部	－	（10.7）	9.5	縄文（LR）、ケズリ、底：木葉痕→ナデ		Ⅲ
a26	73	56	SI13、E39	堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	27.9	（27.5）	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a27	73	56	SI13	北東側堆積土	深鉢	口～胴部	20.6	（17.0）	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a28	73	56	SI13	南西側堆積土	深鉢	口縁	－	－	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a29	73	56	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅱ・Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（30.6）	（8.2）	－	口唇刻目、沈線、縄文（RL）		Ⅲ－4～5
a30	73	57	SI13、E39	堆積土、Ⅱ・Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（26.4）	（13.0）	－	突起（A:4単位）、沈線、縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ－4～5

第50表　縄文・弥生土器観察表（2）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・文様・調整	備　考	時期･分類
a31	73	57	SI13、E40	南東側堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	(33.0)	(25.3)	－	沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4～5
a32	73	57	SI13	北西側堆積土	深鉢	口縁	－	－	－	沈線、縄文(RL)		Ⅲ－4～5
a33	74	57	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	(28.9)	(26.5)	－	口唇押圧、縄文(LR)		Ⅲ－4～5
a34	74	58	SI13	西側堆積土下部	鉢	口～胴部	21.5	(17.0)	－	口唇押圧、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4～5
a35	74	58	SI13	北西側堆積土下部	鉢	口～底部	(21.2)	19.7	7.1	縄文(LR)、底：ケズリ		Ⅲ
a36	74	58	SI13	北側堆積土下部	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4
a37	74	58	SI13	北側堆積土下部	鉢	口～胴部	－	－	－	突起(B)、口唇刻目、沈線、縄文(磨消・LR)	赤彩	Ⅲ－4
a38	74	58	SI13	西側堆積土下部	鉢	口～胴部	－	－	－	刻目、沈線、縄文(磨消・LR)	赤彩	Ⅲ－4
a39	74	58	SI13	西側堆積土下部	鉢	口～胴部	(20.5)	(16.5)	－	突起(A：4単位)、刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4
a40	74	58	SI13、E39	北西側堆積土下部、Ⅲ層	鉢	口～胴部	(25.7)	(10.4)	－	突起(二個一対)、口唇刻目、沈線、刺突		Ⅲ－5
a41	74	58	SI13	西側堆積土下部	鉢	胴～底部	－	(9.9)	6.6	沈線、縄文(LR)		Ⅲ
a42	75	58	SI13、E39・40	南側堆積土上部、Ⅱ層、Ⅲ層	鉢	口～胴部	19.7	(17.2)	－	沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4～5
a43	75	58	SI13	北側堆積土上部	鉢	口～胴部	－	－	－	刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4～5
a44	75	58	SI13	堆積土上部	鉢?	胴部	－	－	－	沈線、縄文(LR)	赤彩	Ⅲ－4～5
a45	75	58	SI13、E39	西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	(19.5)	(12.5)	－	口唇押圧、沈線、縄文(R)		Ⅲ－4～5
a46	75	59	SI13、E39	図示あり（堆積土）、Ⅲ層	鉢	口～胴部	(40.0)	(14.3)	－	刻目、沈線、縄文(LR・RL)		Ⅲ－5
a47	75	59	SI13、E39	北東側堆積土、Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	(21.3)	(5.7)	－	突起(A・B)、刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－5
a48	75	59	SI13	南西側堆積土	鉢	口～胴部	(19.9)	(5.3)	－	突起(A)、刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－5
a49	75	59	SI13、E39	北西側焼土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起(A)、刻目、沈線、縄文		Ⅲ－5
a50	75	59	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	(16.4)	(4.9)	－	口唇押圧、刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－5
a51	75	59	SI13	北西側堆積土	鉢	口～胴部	(15.6)	(13.0)	－	突起(二個一対)、口唇刻目、沈線、胴部：ナデ		Ⅲ－5
a52	75	59	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	(10.8)	(7.5)	－	刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－5
a53	75	59	SI13、E39・40	北西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～底部	10.9	8.3	4.5	大突起、沈線、底：ミガキ		Ⅲ－5
a54	75	59	SI13	北東側堆積土	鉢	胴～底部	－	(7.4)	5.8	縄文(RL)、底：ナデ		Ⅲ
a55	75	59	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	鉢	胴～底部	－	(4.8)	4.8	縄文(LR)、底：ナデ		Ⅲ
a56	75	59	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4～5
a57	75	59	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起(B)、口唇刻目、粘土粒、沈線、縄文(磨消・LR)		Ⅲ－4
a58	75	59	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a59	75	59	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文(LR)		Ⅲ－4～5

第50表　縄文・弥生土器観察表（3）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a60	75	59	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（A）、刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a61	75	59	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a62	75	59	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（A）、沈線、刻目、縄文（LR）		Ⅲ－5
a63	75	59	SI13	北東側堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、胴：ミガキ		Ⅲ－2
a64	75	59	SI13	北西側堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇小山状、粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a65	76	59	SI13	西側堆積土下部	鉢（台付）	台部	－	－	－	沈線、縄文（LR？）	赤彩	Ⅲ－5
a66	76	59	SI13、E39・40	南西側堆積土、Ⅲ層	鉢（台付）	口～底部	25.7	12.8	9.5	突起（A:4単位、B:8単位）、沈線、縄文（LR）、胴部内面底：「○」あり		Ⅲ－5
a67	76	59	SI13	北東側堆積土	鉢（台付）	台部	－	（3.3）	（5.6）	沈線		Ⅲ－4～5
a68	76	59	SI13	北東側堆積土	鉢（台付）	台部	－	（2.9）	（6.6）	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a69	76	59	SI13	北東側堆積土	鉢（台付）	台部	－	（3.2）	欠損	沈線、胴部内面底：「○」あり	内外面赤彩、a75・76と同一か？	Ⅲ－5
a70	76	59	SI13	北側堆積土下部	浅鉢（脚付）	胴～底部	－	（3.9）	計測不能	沈線		Ⅲ－5
a71	76	59	SI13	北側堆積土上部	浅鉢（脚付）	底部	－	－	－	ミガキ		Ⅲ－5
a72	76	59	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	浅鉢（脚付）	胴～底部	－	（3.0）	計測不能	沈線、胴部内面底：「○」あり		Ⅲ－5
a73	76	59	SI13	西側堆積土下部	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（A・B）、粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a74	76	59	SI13	西側堆積土下部	浅鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a75	76	59	SI13	南側堆積土上部	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線	内外面赤彩、a69・76と同一か？	Ⅲ－5
a76	76	59	SI13	東側堆積土上部	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（二個一対）、沈線	内外面赤彩、a69・75と同一か？	Ⅲ－5
a77	76	59	SI13	南側堆積土上部	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、刻目、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a78	76	59	SI13	東側堆積土上部	浅鉢	口～胴部	（14.6）	（3.9）	－	粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a79	76	60	SI13	北側堆積土	浅鉢	口～胴部	（22.6）	（8.6）	－	突起（A・B）、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－5
a80	76	60	SI13	図示あり（堆積土）	浅鉢	口～胴部	（10.4）	（3.6）	－	沈線		Ⅲ－5
a81	76	60	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線		Ⅲ－5
a82	76	60	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線		Ⅲ－5
a83	76	60	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a84	76	60	SI13	北東側堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ－5
a85	76	60	SI13	南西側堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a86	76	60	SI13	南西側堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－5
a87	76	60	SI13	北東側堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	刻目、沈線		Ⅲ－5

第50表　縄文・弥生土器観察表（4）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a88	76	60	SI13	南西側堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－5
a89	76	60	SI13	北東側堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（A）、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－5
a90	76	60	SI13	南西側堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－5
a91	76	60	SI13	北西側堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3～4
a92	76	60	SI13	北東側堆積土	浅鉢	底部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3～4
a93	77	60	SI13	西側堆積土下部	壺	口縁	（9.7）	（3.6）	－	沈線		Ⅲ
a94	77	60	SI13	北側堆積土下部	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－4～5
a95	77	60	SI13、E39	図示あり（堆積土下部）、Ⅲ層	壺	胴部	－	（18.4）	－	刻目、沈線	外面剥落	Ⅲ－5
a96	77	60	SI13、E39	西側堆積土下部、Ⅲ層	壺	口～胴部	12.1	（10.8）	－	突起（A・B）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a97	77	60	SI13、E39	北東側堆積土下部・西側堆積土、Ⅲ層	壺	a胴部 b胴～底部	－	a（8.8） b（12.9）	7.5	沈線、縄文（LR）	abあり	Ⅲ－4～5
a98	77	60	SI13	堆積土上部	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）	赤彩	Ⅲ－4～5
a99	77	60	SI13、E39・40	北西側堆積土、Ⅲ層	壺	口～胴部	（12.4）	（7.1）	－	突起（A・B）、刻目、沈線		Ⅲ－5
a100	77	61	SI13、E40	図示あり（堆積土）、Ⅲ層	壺	口～底部	10.3	24.5	7.6	沈線、縄文（LR）、底：木葉痕		Ⅲ－4～5
a101	77	61	SI13、E39、E49・50	図示あり（堆積土）、Ⅲ層、Ⅱ層	壺	胴～底部	－	（18.2）	7.7	沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－5
a102	78	61	SI13	北西側堆積土	壺	口縁	9.4	（6.9）	－	突起（A・B）、沈線		Ⅲ－4～5
a103	78	61	SI13、E39・40	北西側焼土、Ⅱ・Ⅲ層	壺	口～胴部	（13.8）	（8.0）	－	突起（B）、沈線		Ⅲ－5
a104	78	61	SI13	北西側堆積土	壺	口縁	（9.3）	（3.9）	－	沈線		Ⅲ－4～5
a105	78	61	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	壺	口縁	－	－	－	沈線		Ⅲ－4～5
a106	78	61	SI13	南東側堆積土	壺	口～胴部	－	－	－	突起、粘土粒、沈線、内面：沈線		Ⅲ－5
a107	78	61	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	粘土粒、刻目、沈線		Ⅲ－5
a108	78	61	SI13、E08、E38	北西側堆積土、Ⅱ・Ⅲ層	壺?	胴部	－	（12.6）	－	粘土粒（縦位）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－4～5
a109	78	61	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a110	78	61	SI13、E39	北西側堆積土、Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a111	78	61	SI13	北西側堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a112	78	61	SI13	北西側堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線	赤彩	Ⅲ－5
a113	78	61	SI13、E39	北西側焼土、Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a114	78	61	SI13	北東側堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線	赤彩	Ⅲ－5
a115	78	61	SI13、E39	南西側堆積土、Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a116	78	61	SI13	北東側堆積土	壺	胴部	－	－	－	ミガキ		Ⅲ－4～5

第50表　縄文・弥生土器観察表（5）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a117	78	61	SI13、E39・40	西側堆積土上部、Ⅲ層	壺（脚付）	口～底部	(6.3)	8.7	6.0	口唇剥落、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a118	78	61	SI13	図示あり（北西壁面）	壺（脚付）	胴～底部	－	(7.2)	4.3	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a119	78	61	SI13、E40	南西側堆積土、Ⅲ層	壺（脚付）	口～底部	(4.2)	12.4	計測不能	突起（B）、沈線（4単位）		Ⅲ－5
a120	78	62	SI13、E39	図示あり（堆積土）、Ⅲ層	注口	口～底部	(9.8)	10.2	5.0	突起（B）、刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a121	78	62	SI13	北西側堆積土	注口	胴部（注口部）	－	－	－	沈線		Ⅲ－1～2
a122	79	62	SI14、E09・19	南西堆積土、Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口～胴部	(32.4)	(25.6)	－	縄文（LR）	補修孔　3個	Ⅲ
a123	79	62	SI14・15、E19、E20	床面～SI15堆積土、Ⅲ層、Ⅳ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆帯、縄文（LR）	赤彩	Ⅱ
a124	79	62	SI15	床面	深鉢	口～胴部	19.5	(19.5)	－	隆帯、縄文（LR）		Ⅱ
a125	79	62	P59　（SB01）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒（縦位）、沈線、截痕列		Ⅲ－2
a126	79	62	P59　（SB01）	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線・縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2～4
a127	79	62	P60　（SB01）	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a128	79	62	P60　（SB01）	堆積土	鉢（台付？）	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a129	79	62	P228（SB01）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文（RL）		Ⅲ－4～5
a130	79	62	P228（SB01）	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a131	79	62	P228（SB01）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a132	79	62	P239（SB01）	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a133	79	62	P30　（SB02）	堆積土	深鉢	口～胴部	－	－	－	口唇押圧、縄文（LR）		Ⅲ
a134	79	62	P53　（SB02）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線・縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a135	79	62	P53　（SB02）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線・縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a136	79	62	P126（SB02）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、口唇刻目、沈線		Ⅲ－5
a137	79	62	P137（SB02）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a138	79	62	P29　（SB03）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、粘土粒、沈線、縄文（LR？）		Ⅲ－4～5
a139	79	62	P29　（SB03）	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a140	79	62	P302（SB03）	堆積土	鉢	胴～底部	－	(4.2)	(13.0)	ケズリ、底：ナデ		Ⅲ
a141	79	62	P27　（SB04）	堆積土	鉢	胴～底部	－	(3.2)	欠損	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a142	79	63	P27　（SB04）	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a143	79	63	P33　（SB04）	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a144	79	63	P160（SB05）	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a145	79	63	P160（SB05）	堆積土	鉢	口～胴部	(19.8)	(8.7)	－	突起（B）、粘土粒、沈線、縄文（磨消・LR）	赤彩	Ⅲ－4
a146	80	63	SD02	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	沈線	赤彩	Ⅲ

第50表　縄文・弥生土器観察表（6）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a147	80	63	SD02	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文(LR)		Ⅳ
a148	80	63	SD02	堆積土	浅鉢	口縁	－	－	－	沈線		Ⅳ
a149	80	63	SK01	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	口唇小波状、沈線(三叉文)		Ⅲ－1
a150	80	63	SK01	堆積土	鉢	胴～底部	－	(4.3)	8.0	縄文(LR)、底：ナデ		Ⅲ
a151	80	63	SK02	堆積土下部	深鉢	口～胴部	(27.6)	(27.2)	－	口唇小波状、沈線、縄文(LR)	補修孔　1個	Ⅲ－1～2
a152	80	63	SK02	堆積土	深鉢	胴部	－	－	－	縄文(LR)		Ⅲ
a153	80	63	SK04	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文(LR)		Ⅲ
a154	80	63	SK04	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文(LR)		Ⅲ
a155	80	63	SK08	底面	深鉢	胴～底部	－	(16.8)	10.8	縄文(RL)、底：ケズリ	底部穿孔(外→内)	Ⅲ
a156	80	63	SK08	底面	鉢	胴部	－	－	－	縄文(RL)		Ⅲ
a157	80	63	SK08	底面	深鉢	胴部	－	－	－	細隆起線文、条痕		Ⅰ
a158	80	63	SK09	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文(RL)		Ⅲ
a159	80	63	SK10	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文(RL)		Ⅲ
a160	81	63	SK11	堆積土	深鉢	口～胴部	(30.1)	(24.4)	－	縄文(LR)		Ⅲ－2～3
a161	81	64	SK11	堆積土	深鉢	口縁	－	－	－	隆帯		Ⅱ
a162	81	64	SK11	堆積土	深鉢	口～胴部	－	－	－	縄文(LR)		Ⅲ
a163	81	64	SK11	堆積土	深鉢	胴部	－	－	－	縄文(L？)		Ⅲ
a164	81	64	SK11	堆積土	鉢	口～胴部	(13.6)	(7.0)	－	連状縁、沈線(羊歯状文)、縄文(RL)		Ⅲ－2
a165	81	64	SK11	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起(B)、沈線(羊歯状文)		Ⅲ－2
a166	81	64	SK11	堆積土	鉢	胴～底部	－	(3.7)	8.3	ケズリ、底：ナデ		Ⅲ
a167	81	64	SK11	堆積土	鉢(台付)	口～胴部	16.8	(13.5)	－	刻目、沈線、截痕列、縄文(LR)		Ⅲ－3
a168	81	64	SK11	堆積土	注口	胴部	－	－	－	沈線、ミガキ		Ⅲ－1～2
a169	81	64	SK13	堆積土上部	深鉢	胴部	－	－	－	縄文(LR・RL羽状)		Ⅲ
a170	81	64	SK13	堆積土上部	鉢	口～胴部	－	－	－	突起(B)、沈線(三叉文)、縄文(LR)		Ⅲ－1
a171	81	64	SK13・15・19	堆積土(SK13は上部)	浅鉢	口～底部	19.8	5.1	計測不能	突起(B・珠文縁)、沈線、縄文(磨消、LR)		Ⅲ－3
a172	82	64	SK18、SK19、E03	堆積土、堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	(32.4)	(30.7)	－	縄文(LR羽状)		Ⅲ
a173	82	64	SK18	堆積土	深鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文(LR)		Ⅱ
a174	82	64	SK19	図示あり（堆積土中部）	注口	口～底部	14.3	12.6	計測不能	突起(三山状・B)、沈線、ミガキ		Ⅲ－1
a175	82	64	SK19	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文(LR・RL羽状)		Ⅲ
a176	82	64	SK19	堆積土	壺	胴部	－	－	－	ミガキ		Ⅲ
a177	82	65	SK22	図示あり（下部）	浅鉢	口～底部	20.5	5.5	計測不能	ミガキ、底：沈線	内外面赤彩	Ⅲ－3

第50表　縄文・弥生土器観察表（7）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a178	83	65	SK24	図示あり（2層上面）	鉢（台付）	胴～底部	－	（6.9）	（10.6）	沈線、縄文（LR）	透孔あり	Ⅲ－2
a179	83	65	SK24	2層	壺	胴部	－	－	－	ミガキ		Ⅲ
a180	83	65	SK24	2層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－2
a181	83	65	SK24	堆積土	深鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（L・R）		Ⅲ
a182	83	65	SK24	堆積土	深鉢	胴～底部	－	（13.2）	9.1	縄文（LR・R）、底：ナデ		Ⅲ
a183	83	65	SK24	堆積土	鉢	口～胴部	（15.2）	（7.3）	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a184	83	65	SK24	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（三山状）、沈線（C字文）		Ⅲ－1～2
a185	83	65	SK24	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文?）		Ⅲ－1～2
a186	83	65	SK24	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線（三叉文?）、縄文（LR）		Ⅲ－1～2
a187	83	65	SK24	堆積土	壺	胴～底部	－	（1.8）	（5.4）	沈線、縄文（LR）、底：ミガキ		Ⅲ－1～2
a188	83	65	SK24	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a189	83	65	SK24	堆積土	壺	口縁	－	－	－	沈線、截痕列	赤彩	Ⅲ－2
a190	83	65	SK24	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、截痕列	赤彩	Ⅲ－2
a191	83	65	SK24	堆積土	深鉢	胴部	－	－	－	隆線、縄文（RL）		Ⅱ
a192	83	65	SK29	堆積土下部	鉢	口縁	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅱ
a193	83	65	SK30	堆積土	深鉢	胴～底部	－	（13.6）	8.4	縄文（LR）、底：網代痕?→ケズリ		Ⅲ
a194	83	65	SK30	堆積土	深鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a195	83	65	SK30	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線（羊歯状文）		Ⅲ－2
a196	83	65	SK30	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線（羊歯状文）		Ⅲ－2
a197	83	65	SK30	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	刻目、粘土粒、沈線、縄文（RL）		Ⅲ－4
a198	83	65	SK30	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ
a199	83	65	SK30	堆積土	壺	口～胴部	（7.0）	（3.1）	－	ミガキ	外面剥落	Ⅲ
a200	83	65	SK31	堆積土下部	鉢	口縁	－	－	－	沈線、縄文（RL）		Ⅲ
a201	83	65	SK32	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（三山状・刺突）、沈線（三叉文）、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－1～2
a202	83	65	SK32	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線（三叉文）		Ⅲ－1～2
a203	83	65	SK32	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a204	83	65	SK32	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a205	83	65	SK32	検出面	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、縄文（LR）		Ⅲ
a206	83	66	SK32	検出面	鉢	口～底部	（14.8）	15.9	7.6	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a207	84	66	SK32	検出面	鉢	口～胴部	（16.5）	（7.3）	－	突起（三山状・B）、沈線（C字文）、縄文（LR）	a208と同一?	Ⅲ－1～2

第50表　縄文・弥生土器観察表（8）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a208	84	66	SK32	図示あり（検出面）	鉢（台付）	台部	－	（4.5）	8.7	沈線、縄文（LR）	a207と同一?、透孔あり	Ⅲ－1～2
a209	84	66	SK32	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	隆帯、縄文（LR）		Ⅱ
a210	84	66	SK33	堆積土	深鉢	胴部	－	－	－	細隆起線文		Ⅰ
a211	84	66	SK33	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ
a212	84	66	SK34	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ～Ⅳ
a213	84	66	SK34	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ～Ⅳ
a214	84	66	SK34	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ
a215	84	66	SK34	堆積土	鉢	胴～底部	－	－	－	沈線、縄文（LR）、底：ミガキ		Ⅲ
a216	84	66	SK34	堆積土	鉢（台付）	台部	－	－	－	沈線		Ⅳ
a217	84	66	SK34	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、縄文（RL）		Ⅳ
a218	84	66	SK34	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線、刺突、縄文（LR）	赤彩	Ⅳ
a219	84	66	SK34	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線		Ⅳ
a220	84	66	SK34	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－4～5
a221	84	66	SK38	堆積土	深鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a222	84	66	SK38	堆積土	鉢	胴～底部	－	（6.2）	（8.0）	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a223	84	66	SK38	堆積土	鉢	胴～底部	－	（5.7）	6.9	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a224	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a225	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a226	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	連状縁、沈線（三叉文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a227	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	（10.8）	（2.6）	－	沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a228	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a229	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	連状縁、沈線（三叉文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a230	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a231	84	66	SK38	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（RL）		Ⅲ－1
a232	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a233	84	66	SK38	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、截痕列		Ⅲ－2
a234	84	66	SK38	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（R）		Ⅲ－5
a235	84	66	SK38	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－1～2
a236	84	66	SK38	堆積土	壺	胴部	－	－	－	縄文（R）		Ⅲ
a237	84	66	SK38	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2

第50表　縄文・弥生土器観察表（9）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a238	84	66	SK38	堆積土	壺	胴部	－	－	－	粘土粒（縦位）、沈線、縄文（RL）		Ⅲ－2～3
a239	85	66	SK39	7層	鉢	口～底部	21.1	24.7	5.6	縄文（LR）、底：ミガキ		Ⅲ
a240	85	67	SK39	5・7層	壺	胴部	－	（9.9）	－	粘土粒（縦位）、沈線（羊歯状文）、縄文（磨消・LR）	a247・249・270・273と同一？	Ⅲ－2
a241	85	67	SK39	3層	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a242	85	67	SK39	3層	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a243	85	67	SK39	3層	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（RL）		Ⅲ
a244	85	67	SK39	3層	鉢（台付）	台部	－	（3.0）	（10.8）	沈線（魚眼状三叉文）	透孔あり	Ⅲ－1～2
a245	85	67	SK39	3層	壺	胴部	－	－	－	縄文（RL）		Ⅲ
a246	85	67	SK39	3層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a247	85	67	SK39	3層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）	a240と同一？	Ⅲ－2
a248	85	67	SK39	3層	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－2
a249	85	67	SK39	3層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）	a240と同一？	Ⅲ－2
a250	85	67	SK39	3層	注口	胴部	－	（11.3）	－	沈線（羊歯状文）、ミガキ		Ⅲ－2
a251	85	67	SK39	3層	注口	口縁	－	－	－	沈線（羊歯状文？）、截痕列、ミガキ		Ⅲ－2
a252	85	67	SK39	1層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ
a253	85	67	SK39	堆積土	深鉢	胴～底部	－	（21.2）	8.4	縄文（LR・RL羽状）、底：ナデ		Ⅲ
a254	85	67	SK39	堆積土	鉢	胴～底部	－	（3.3）	（6.0）	沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a255	85	67	SK39	堆積土	鉢	胴～底部	－	（2.1）	（5.0）	ミガキ	内外赤彩	Ⅲ
a256	85	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a257	85	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、截痕列、縄文（RL）		Ⅲ－2
a258	85	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、縄文（LR？）		Ⅲ－2
a259	85	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2～3
a260	85	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a261	85	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a262	86	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	（17.8）	（11.8）	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、粘土粒（縦位）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a263	86	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起？、沈線、截痕列、縄文（RL）		Ⅲ－2
a264	86	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a265	86	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR・RL羽状）	赤彩？	Ⅲ
a266	86	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a267	86	67	SK39	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ

第50表　縄文・弥生土器観察表（10）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a268	86	67	SK39	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線（三叉文?）、ミガキ		Ⅲ－1～2
a269	86	67	SK39	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－1～2
a270	86	67	SK39	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）	a240と同一?	Ⅲ－2
a271	86	67	SK39	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a272	86	67	SK39	堆積土	壺	口～胴部	（11.8）	（4.7）	－	粘土粒（縦位）、沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2～3
a273	86	67	SK39	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）	a240と同一?	Ⅲ－2
a274	86	68	SK40	1層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、刻目、沈線、縄文（LR）	a275と同一	Ⅲ－4
a275	86	68	SK40	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、刻目、沈線、縄文（LR）	a274と同一	Ⅲ－4
a276	86	68	SK40	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a277	86	68	SK40	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起?、口唇刻目、粘土粒、縄文（LR）		Ⅲ－5
a278	86	68	SK40	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線、縄文（LR）	赤彩?	Ⅲ
a279	86	68	SK40	1層	鉢	胴～底部	－	（2.0）	（7.2）	沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a280	86	68	SK40、E28・29	1層、Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	口～底部	41.7	24.1	11.4	突起（B:8単位）、粘土粒、沈線、縄文（LR）	底部穿孔（外→内）	Ⅲ－6
a281	87	68	SK40	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a282	87	68	SK40、E30	1層、Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a283	87	68	SK40	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒、沈線		Ⅲ－6
a284	87	68	SK40	1層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒、沈線		Ⅲ－6
a285	87	68	SK41、E30	堆積土、Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（30.1）	（5.6）	－	口唇刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a286	87	68	SK41	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒、沈線、		Ⅲ－5
a287	87	68	SK41	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a288	87	68	SK42	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a289	87	68	SK42	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、截痕列（沈線に近い）		Ⅲ－3
a290	87	68	SK42	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線（三叉文）、縄文（RL）		Ⅲ－1
a291	87	68	SK42	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ
a292	87	68	SK42	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a293	87	68	SK42	堆積土	壺	胴部	－	－	－	縄文（LR結節）	赤彩	Ⅲ
a294	87	68	SK42	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a295	87	68	SK42	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR・R羽状）		Ⅲ
a296	87	68	SK42	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）、ケズリ、底：木葉痕→ナデ		Ⅲ
a297	87	68	SK42	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a298	87	68	SK42	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ

第50表　縄文・弥生土器観察表（11）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a299	87	68	SK43	堆積土	深鉢	胴部	－	－	－	隆線、縄文（LR）		Ⅱ
a300	87	68	SK43	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a301	87	68	SK43	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR・RL 羽状）		Ⅲ
a302	87	68	SK44、E28・29	堆積土、第6次調査トレンチ	鉢	口～胴部	（21.6）	（16.5）	－	連状縁、沈線（三叉文）、縄文（RL）	補修孔1個	Ⅲ－1
a303	87	68	SK44	堆積土	鉢	胴～底部	－	－	－	沈線、ミガキ		Ⅲ
a304	88	69	SK45	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線（三叉文）、粘土粒？		Ⅲ－1
a305	88	69	SK45	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	連状縁、沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a306	88	69	SK45	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）		Ⅲ－2
a307	88	69	SK45	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a308	88	69	SK45	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－2～3
a309	88	69	SK47	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（RL）		Ⅲ
a310	88	69	SK59	堆積土	深鉢	口～胴部	－	－	－	口唇押圧、沈線		Ⅲ－4～5
a311	88	69	SK59	堆積土	鉢	口～胴部	（10.8）	（3.4）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a312	88	69	SK59	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、刻目、沈線、縄文（RL）		Ⅲ－4
a313	88	69	SK59	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a314	88	69	SK59	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、口唇刻目、沈線		Ⅲ－5
a315	88	69	SK59	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	刻目、沈線		Ⅲ－4～5
a316	88	69	SK59	堆積土	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（RL）		Ⅲ－5
a317	88	69	SK59	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a318	88	69	SK67	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	口唇押圧、沈線		Ⅲ－4～5
a319	88	69	SK67	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－6
a320	88	69	SK67	堆積土	壺	口～胴部	（10.0）	（2.2）	－	縄文（LR）		Ⅲ
a321	88	69	SK69	堆積土下部	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a322	88	69	SK70	堆積土	深鉢	口～胴部	20.9	（19.8）	－	突起（B：二個一対4単位）、沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2～3
a323	88	69	SK70	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	突起（B）、沈線、截痕列、縄文（LR？）		Ⅲ－2
a324	88	69	SK70	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	口唇刻目、沈線	補修孔	Ⅲ
a325	88	69	SK70	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起？沈線、截痕列		Ⅲ－2
a326	88	69	SK70	堆積土	壺	胴部	－	－	－	ミガキ	赤彩	Ⅲ
a327	88	69	SK71	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a328	88	69	SK71	堆積土	鉢	胴～底部	－	（2.0）	（9.0）	ナデ、底：ナデ		Ⅲ

第50表　縄文・弥生土器観察表（12）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a329	88	69	SK71	堆積土	注口	胴部	－	－	－	刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－3～4
a330	89	69	SN01	4層（炭層）	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a331	89	69	SN01、E06	4層（炭層）、Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）	a628と同一？	Ⅲ－2
a332	89	69	SN01	3層（焼土層）	鉢	口～胴部	（5.6）	（3.6）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－2
a333	89	69	SN01	3層（焼土層）	浅鉢	口～胴部	－	－	－	珊瑚状突起？（剥落）、沈線、截痕列	赤彩	Ⅲ－2
a334	89	69	SN01	1層（焼土層）	深鉢	口～胴部	（29.4）	（30.6）	－	縄文（RL）		Ⅲ
a335	89	69	SN01	1層（焼土層）	鉢	口縁	－	－	－	突起（B）、沈線、截痕列		Ⅲ－2～3
a336	89	70	SN01	1層（焼土層）	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、截痕列		Ⅲ－2
a337	89	70	SN01	検出面	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、縄文（LR）	a351と接合	Ⅲ－3
a338	89	70	SN01	検出面	鉢	口～胴部	（21.0）	（6.5）	－	突起（B）、粘土粒、沈線（C字文）、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a339	89	70	SN01	検出面	鉢（台付）	胴部	－	（3.6）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－2
a340	89	70	SN01	検出面	注口	胴部	－	－	－	沈線、截痕列、ミガキ		Ⅲ－2
a341	89	70	SN01	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a342	89	70	SN01	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	口唇刻目、沈線、截痕列、縄文（LR？）	a343と同一	Ⅲ－2
a343	89	70	SN01	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、截痕列、縄文（LR？）	a342と同一	Ⅲ－2
a344	89	70	SN01	堆積土	鉢	胴～底部	－	－	－	ミガキ		Ⅲ
a345	89	70	SN01	堆積土	壺	口縁	－	－	－	突起、沈線、截痕列		Ⅲ－2
a346	89	70	SN01	堆積土	注口	胴部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a347	89	70	SN01、E06	堆積土、Ⅲ層	壺	口～胴部	（13.0）	（7.9）	－	粘土粒（縦位）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－2～3
a348	89	70	SN02	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a349	89	70	SN02	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ
a350	89	70	SN02	堆積土	鉢	胴～底部	－	（1.3）	4.4	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a351	89	70	SN02	堆積土	浅鉢	口～胴部	（13.7）	（3.8）	－	突起（B）、沈線、縄文（LR）	a337と接合	Ⅲ－3
a352	89	70	SN03	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	口唇刻目、沈線、截痕列		Ⅲ－2
a353	89	70	SN03	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a354	89	70	SN03	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a355	90	70	SN04	2層（炭層）	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（LR）	内面胴部に沈線あり	Ⅲ－3
a356	90	70	SN05	1層（炭層）	鉢	口縁	－	－	－	口唇刻目、沈線、截痕列		Ⅲ－2
a357	90	70	SN06	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a358	90	70	SN06	堆積土	注口	胴部（注口部）	－	－	－	沈線、ミガキ		Ⅲ－1～2

第50表　縄文・弥生土器観察表（13）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a359	90	70	SR01	埋設	深鉢	胴～底部	－	34.2	8.8	縄文（LR）、底：ナデ	内面スス付着	Ⅲ
a360	90	71	SR02	埋設	深鉢	口～底部	（32.6）	38.5	11.8	縄文（LR・RL 羽状）、底：ナデ	内面スス付着	Ⅲ
a361	90	71	SR03	埋設	深鉢	口～底部	30.9	36.0	10.2	縄文（LR・RL 羽状）、底：ナデ	内面スス付着	Ⅲ
a362	91	72	SR04	埋設	鉢	口～底部	28.2	24.6	8.4	粘土粒（6単位）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－6
a363	91	72	P04	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a364	91	72	P07	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（RL）		Ⅲ－4～5
a365	91	72	P07	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	口唇刻目、沈線（羊歯状文）		Ⅲ－2
a366	91	72	P07	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）		Ⅲ－2
a367	91	72	P07・08	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a368	91	72	P08	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a369	91	72	P11	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、縄文（LR）		Ⅲ
a370	91	72	P11	堆積土	壺?	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a371	91	72	P15	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、口唇刻目、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a372	91	72	P15	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a373	91	72	P15	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a374	91	72	P16	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（磨消・LR）		Ⅲ
a375	91	72	P22	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線（弧線文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a376	91	72	P23	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a377	91	72	P24	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、截痕列、縄文（RL）		Ⅲ－2
a378	91	72	P25	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a379	91	72	P34	堆積土	壺	胴部	－	－	－	刻目、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a380	91	72	P63	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a381	91	72	P69	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ
a382	91	72	P116	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a383	91	72	P118	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a384	91	72	P129	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5～6
a385	91	72	P138	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a386	91	72	P191	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a387	91	72	P195	堆積土	鉢	口縁	－	－	－	沈線		Ⅲ
a388	91	72	P195	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a389	91	72	P229	堆積土	注口	胴部	－	－	－	沈線、截痕列、ミガキ		Ⅲ－2

第50表　縄文・弥生土器観察表（14）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a390	91	72	P233	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ
a391	91	72	P235	堆積土	鉢	胴～底部	－	（4.1）	5.2	縄文（LR）、底：ミガキ		Ⅲ
a392	91	72	P238	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線		Ⅲ
a393	91	72	P238	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－3
a394	91	72	P240	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ
a395	91	72	P241	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文（RL）		Ⅲ
a396	91	72	P243	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a397	91	72	P248	堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a398	91	72	P257	堆積土	深鉢	胴部	－	－	－	隆線、縄文（LR）		Ⅱ
a399	91	72	P261	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a400	92	73	E24	Ⅲ層	深鉢	胴部	－	－	－	隆線、縄文（LR）		Ⅱ
a401	92	73	E15	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆線、縄文（RL）		Ⅱ
a402	92	73	E06	Ⅱ・Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆線、縄文（RL）		Ⅱ
a403	92	73	E29	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆線、縄文（LR）		Ⅱ
a404	92	73	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆線、縄文（LR）		Ⅱ
a405	92	73	調査区西側	Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆線、縄文（RL）		Ⅱ
a406	92	73	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆帯、隆線		Ⅱ
a407	92	73	調査区中央	攪乱	深鉢	口～胴部	－	－	－	隆線、縄文（LR）	孔2つ	Ⅱ
a408	92	73	調査区中央	Ⅰ層	深鉢	胴部	－	－	－	隆線、縄文（RL）		Ⅱ
a409	92	73	E25	Ⅳ層	深鉢	口～胴部	（29.4）	（25.3）	－	縄文（LR）		Ⅲ
a410	92	73	E06	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（22.4）	（18.3）	－	縄文（LR）	内面上部ススコゲ	Ⅲ
a411	92	73	E06	Ⅲ層	深鉢	胴～底部	－	（36.2）	10.6	縄文（RL？）、底：ナデ		Ⅲ
a412	93	73	E06	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（28.0）	（27.8）	－	縄文（LR）		Ⅲ
a413	93	74	E06	Ⅱ層　遺物集中	深鉢	口～胴部	（24.6）	（17.9）	－	縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ
a414	93	74	E16	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（25.2）	（10.4）	－	口唇刻目、沈線（羊歯状文）、縄文（RL）	文様雑	Ⅲ－2
a415	93	74	E07	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（23.1）	（16.6）	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a416	94	74	E17・27	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（35.6）	（32.3）	－	縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ
a417	93	74	E27	Ⅱ・Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（29.8）	（21.7）	－	縄文（LR）		Ⅲ
a418	94	74	E08	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（26.2）	（15.8）	－	縄文（LR）	補修孔4個	Ⅲ
a419	94	74	E08	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a420	94	75	E08	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ

第50表　縄文・弥生土器観察表（15）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a421	94	75	E08	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（42.1）	（30.4）	－	突起（B）、沈線（C字文）、縄文（RL）		Ⅲ－1
a422	95	75	E09	Ⅱ層	深鉢	胴～底部	－	（13.0）	（8.7）	縄文（LR）、底：ヘラケズリ		Ⅲ
a423	95	75	E09	Ⅱ層	深鉢	胴～底部	－	（13.9）	9.1	縄文（LR）、底：ヘラケズリ		Ⅲ
a424	95	75	E29	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（30.6）	（15.9）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a425	95	75	E39	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a426	95	75	E49	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（40.4）	（32.6）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a427	95	75	E49・50	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（23.2）	（18.2）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a428	95	76	E30	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（31.0）	（14.1）	－	口唇押圧、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a429	96	76	E40	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（33.6）	（26.9）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a430	96	76	E40	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a431	96	76	E40	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a432	96	76	E40	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a433	96	76	E40・49・50	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層	深鉢	口～胴部	30.2	（28.8）	－	沈線、縄文（LR）	補修孔2個	Ⅲ－4～5
a434	96	76	E50	Ⅰ・Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（31.6）	（28.7）	－	口唇押圧、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a435	96	76	E50	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（23.9）	（16.0）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a436	97	77	F01	Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（20.4）	（25.5）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a437	97	77	F11	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（26.2）	（28.9）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a438	97	77	F11	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）	補修孔1個	Ⅲ－4～5
a439	97	77	F21	Ⅲ・Ⅳ層	深鉢	口～胴部	33.1	（32.1）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a440	97	77	F21	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（20.2）	（12.3）	－	口唇刻目、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a441	98	77	F02・12	Ⅱ・Ⅲ層	深鉢	口～胴部	（30.4）	（18.7）	－	突起（B）、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ
a442	98	77	調査区北壁トレンチ	Ⅰ・Ⅱ層	深鉢	口～胴部	（24.0）	（19.7）	－	沈線（弧線文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a443	98	78	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	深鉢	胴～底部	－	（21.6）	9.0	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a444	98	78	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	深鉢	胴～底部	－	（23.4）	10.0	縄文（LR・RL羽状）、底：ナデ		Ⅲ
a445	98	78	調査区	Ⅰ層	深鉢	口～底部	18.6	36.5	（11.0）	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a446	99	78	SI03	南西側堆積土	鉢	口～胴部	（12.0）	（5.3）	－	口唇刻目、粘土粒（縄文）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a447	99	78	SI03	1層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、縄文（RL）		Ⅲ
a448	99	78	SI04	北東側堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（A・B）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a449	99	78	SI06	北側堆積土	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇押圧、沈線		Ⅲ－4～5
a450	99	78	P73（SB06）	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a451	99	78	P83（SB06）	堆積土	鉢	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ

第50表　縄文・弥生土器観察表（16）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a452	99	78	E04	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（13.0）	（7.7）	－	突起（A・B）、口唇刻目、粘土粒、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－4
a453	99	78	E04	Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ－5
a454	99	78	E04	Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、粘土粒、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－4
a455	99	78	E14	Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	（17.2）	（11.3）	－	口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－3
a456	99	78	E14	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（15.2）	（10.7）	－	突起（B）、口唇刻目、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a457	99	79	E24	Ⅳ層	鉢	口～胴部	（13.0）	（5.2）	－	突起（B）、口唇刻目、沈線（羊歯状文）、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2
a458	99	79	E05	Ⅱ層	鉢	口～底部	（14.3）	（15.4）	6.4	口唇押圧、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a459	99	79	E15	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（20.9）	（5.6）	－	突起（B）、刻目、沈線、縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ－2
a460	99	79	E06	Ⅲ層	鉢	口～胴部	（19.0）	（5.0）	－	沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a461	99	79	E06	Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	（19.0）	（12.2）	－	突起（B）、口唇刻目、沈線（羊歯状文）、縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ－2
a462	99	79	E06	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（18.4）	（10.0）	－	突起?、刻目、沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－3
a463	99	79	E06	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（17.3）	（5.7）	－	沈線、截痕列、縄文（磨消、LR）		Ⅲ－3
a464	99	79	E06	Ⅱ層	鉢	口～底部	（7.8）	8.1	（3.6）	口唇刻目、沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－2～3
a465	99	79	E06	Ⅱ層	鉢	口～底部	（8.2）	（10.9）	5.2	突起?、沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a466	100	79	E06	Ⅱ層	鉢	口～底部	13.6	11.8	5.1	突起（B）、粘土粒（縦位）、沈線、縄文（RL）、底：ミガキ		Ⅲ－3
a467	100	79	E06	Ⅱ層　遺物集中	鉢	口～底部	（11.5）	12.0	7.0	縄文（RL）、底：ナデ		Ⅲ
a468	100	79	E06	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（20.0）	（14.4）	－	口唇刻目、縄文（LR）		Ⅲ
a469	100	79	E07	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（19.7）	（6.3）	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、截痕列、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2
a470	100	79	E07	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（15.4）	（6.3）	－	沈線（羊歯状文）、截痕列		Ⅲ－2
a471	100	79	E37	Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（三山状）、沈線（三叉文）		Ⅲ－1
a472	100	79	E08	Ⅱ層	鉢	口～底部	（13.0）	15.5	5.8	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a473	100	79	E18	Ⅲ層	鉢	口～胴部	（15.0）	（9.9）	－	突起（B）、沈線（三叉文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a474	100	79	E18	Ⅲ層	鉢	口～底部	（10.2）	8.5	4.8	突起（B）、沈線（三叉文）、縄文（LR）、底：ミガキ		Ⅲ－1
a475	100	79	E18	Ⅲ層	鉢	口～胴部	（22.0）	（8.0）	－	突起（B）、沈線（三叉文）、縄文（RL）		Ⅲ－1
a476	100	80	E18	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（11.2）	（5.1）	－	突起、沈線（三叉文）、縄文（LR）	a486と同一?	Ⅲ－1
a477	100	80	E18	Ⅱ層	鉢	胴～底部	－	（3.5）	（4.0）	沈線、縄文（磨消・LR）、底：ミガキ		Ⅲ－1～2

第50表　縄文・弥生土器観察表（17）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a478	100	80	E28	Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（羊歯状文）、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a479	100	80	E28	Ⅲ層	鉢	口～底部	17.5	18.9	7.3	縄文（LR・RL羽状）、下部ミガキ、底：ミガキ	補修孔2個	Ⅲ
a480	100	80	E28	Ⅲ層	鉢	口～底部	10.2	6.9	4.2	縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ
a481	100	80	E38	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（12.8）	（8.6）	－	突起（B）、口唇刻目、沈線（羊歯状文）、縄文（LR・RL羽状）		Ⅲ－2
a482	101	80	E38	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	刻目、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a483	101	80	E09	Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	連状縁、沈線（三叉文）、縄文（RL）		Ⅲ－1
a484	101	80	E09	Ⅱ～Ⅲ層	鉢	胴～底部	－	（12.1）	6.0	縄文（RL）、底：ナデ		Ⅲ
a485	101	80	E09	Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a486	101	80	E19	Ⅰ～Ⅱ層	鉢	口～胴部	（11.2）	（4.5）	－	突起（三山状）、沈線（三叉文）、縄文（LR）	a476と同一？	Ⅲ－1
a487	101	80	E29	Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線（羊歯状文）、縄文（RL）		Ⅲ－2
a488	101	80	E39	Ⅲ層	鉢	口～底部	25.9	16.1	8.2	突起（B:4単位？）、刻目、沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－5
a489	101	80	E39	Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～底部	13.6	12.7	6.6	口唇刻目、沈線、縄文（LR）、底：ミガキ		Ⅲ－4～5
a490	101	80	E39	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（32.0）	（10.0）	－	刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a491	101	80	E39	Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、口唇刻目、粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a492	101	80	E49	Ⅱ層	鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a493	101	80	E20	Ⅲ層	鉢	口～底部	14.8	16.9	6.4	突起（B：4単位）、刻目、沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－5
a494	101	80	E40	Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	（36.6）	（13.6）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a495	101	81	E40	Ⅲ層	鉢	口～底部	（16.8）	18.4	6.0	沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－5
a496	102	81	E40	Ⅲ層	鉢	口～底部	（8.2）	7.8	（6.5）	突起（B：4単位？）、沈線、縄文（RL）、底：ナデ		Ⅲ－5
a497	102	81	E40	Ⅲ層	鉢	口～胴部	（10.4）	（6.0）	－	口唇刻目、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a498	102	81	E40	Ⅱ・Ⅲ層	鉢	口～胴部	（18.0）	（15.6）	－	口唇押圧、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5～6
a499	102	81	E40	Ⅲ層	鉢	口～胴部	（24.0）	（14.9）	－	突起、刻目、縄文（LR）→沈線		Ⅲ－5
a500	102	81	E50	Ⅱ層	鉢	口～底部	（13.0）	15.8	5.9	突起（A）、沈線、縄文（LR）、底：木葉痕		Ⅲ－5
a501	102	81	E50	Ⅰ層	鉢	口～胴部	（14.0）	（11.7）	－	口唇小波状、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a502	102	81	F01	Ⅱ層	鉢	口～胴部	（11.2）	（8.2）	－	突起、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a503	102	81	F01	Ⅱ層	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ－5
a504	102	81	F11	Ⅲ層	鉢	口～底部	（16.3）	15.3	8.1	口唇刻目、沈線、縄文（RL）、底：ミガキ	内面スス・コゲ多い	Ⅲ－5

第50表　縄文・弥生土器観察表（18）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a505	102	81	F11	Ⅲ層	鉢	口～底部	35.6	23.7	(9.1)	突起？（摩滅）、口唇刻目、沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－5
a506	102	81	F11	Ⅲ層	鉢	口～胴部	(16.0)	(10.2)	－	突起、粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a507	102	81	F11	Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	口唇刻目、沈線、縄文（RL・LR羽状）		Ⅲ－4～5
a508	103	81	F11・12	Ⅲ層	鉢	口～胴部	(17.4)	(9.2)	－	突起（A･B）、粘土粒、刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a509	103	82	F21	Ⅳ層下部	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、刻目、沈線		Ⅲ－5
a510	103	82	F21	Ⅲ層	鉢	口～胴部	(10.0)	(5.8)	－	突起？（欠損）、沈線		Ⅲ－5～6
a511	103	82	F21	Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－6
a512	103	82	F31	Ⅲ層	鉢	口～底部	(9.8)	10.9	4.2	口唇刻み（1個所）、沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－5～6
a513	103	82	F31・41	Ⅲ層	鉢	口～胴部	21.0	(14.6)	－	突起（8単位？）、粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－6
a514	103	82	F43	Ⅳ層	鉢	胴～底部	－	(5.4)	(7.2)	縄文（LR）、底：ケズリ		Ⅲ
a515	103	82	F43	Ⅳ層	鉢	胴～底部	－	(7.5)	6.5	縄文（LR？）、底：ナデ		Ⅲ
a516	103	82	調査区西側	Ⅰ層	鉢	口～胴部	(17.6)	(14.1)	－	刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－3
a517	103	82	調査区北壁トレンチ	Ⅰ・Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（三山状・B）、沈線（C字文）		Ⅲ－1
a518	103	82	調査区中央	Ⅰ～Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線（三叉文）、縄文（LR）		Ⅲ－1
a519	103	82	調査区中央	Ⅱ～Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	刻目、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－4
a520	103	82	調査区中央	Ⅱ～Ⅲ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線（三叉文）、縄文（RL）		Ⅲ－1
a521	103	82	調査区中央	Ⅰ～Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、粘土粒（縦位）、沈線（羊歯状文）、縄文（RL）		Ⅲ－2
a522	103	82	調査区中央	Ⅱ～Ⅲ層	鉢	口～胴部	(24.3)	(5.4)	－	突起、粘土粒（縦位）、沈線（羊歯状文）、截痕列		Ⅲ－2
a523	103	82	調査区中央	Ⅰ層	鉢	口～胴部	(16.2)	(10.3)	－	突起（B）、口唇刻目、沈線、縄文（RL）		Ⅲ－2
a524	104	82	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	鉢	口～底部	(17.7)	13.1	5.8	突起、沈線、縄文（LR）、底：ミガキ		Ⅲ－1～2
a525	104	82	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	沈線（三叉文）、縄文（R）		Ⅲ－1
a526	104	82	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	鉢	口縁	－	－	－	突起、沈線、刺突		Ⅲ
a527	104	82	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	鉢	口～胴部	(10.2)	(9.8)	－	ケズリ		Ⅲ
a528	104	82	調査区	Ⅰ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起、粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－6
a529	104	82	SI05	堆積土	鉢（台付）	台部	－	(3.5)	(7.7)	沈線（羊歯状文）、截痕列		Ⅲ－2
a530	104	82	E12	Ⅴ層上面	鉢（台付）	口～底部	10.5	9.0	5.9	突起（B）、沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）	内面赤彩	Ⅲ－3
a531	104	82	E14	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	(3.7)	9.0	沈線、縄文（LR）	透孔あり（円1個・三叉状5個）	Ⅲ－2
a532	104	82	E06	Ⅱ層　遺物集中	鉢（台付）	口～底部	(22.6)	(23.6)	(9.4)	突起（B）、口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－3

第50表　縄文・弥生土器観察表（19）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a533	104	83	E06	Ⅱ層	鉢（台付）	口～胴部	（20.0）	（8.3）	－	沈線（摩滅）、截痕列、縄文（LR）	台部透孔あり？	Ⅲ－2
a534	104	83	E06	Ⅱ層　遺物集中	鉢（台付）	台部	－	（3.5）	（14.0）	沈線、縄文（磨消・4単位・LR）	透孔あり	Ⅲ－2
a535	104	83	E06	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（3.0）	5.6	沈線、刺突、縄文（LR）		Ⅲ－3
a536	104	83	E06・16	Ⅱ・Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（5.9）	10.3	沈線、截痕列、縄文（LR）	透孔あり	Ⅲ－2
a537	104	83	E16	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（4.0）	欠損	縄文（LR）		Ⅲ－2～3
a538	104	83	E07	Ⅱ層	鉢（台付）	台部	－	（3.9）	（12.6）	沈線、刺突	透孔あり	Ⅲ－2
a539	104	83	E18	Ⅲ層	鉢（台付）	台部	－	（3.4）	（10.0）	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－1～2
a540	104	83	E28	Ⅲ層	鉢（台付）	台部	－	（5.0）	（13.6）	沈線、截痕列	透孔あり	Ⅲ－2
a541	104	83	E09・19	Ⅱ～Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（4.8）	（7.8）	縄文（LR）		Ⅲ
a542	105	83	E30	Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（2.8）	（6.0）	粘土粒、沈線、内面に「○」		Ⅲ－5
a543	105	83	E30	Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（3.5）	欠損	沈線、内面に「○」		Ⅲ－5
a544	105	83	E30	Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（3.3）	7.8	沈線（3単位）、内面に「○」		Ⅲ－5
a545	105	83	E50	Ⅱ層	鉢（台付）	台部	－	（2.6）	（6.0）	粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a546	105	83	E50	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（2.8）	（4.6）	沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a547	105	83	F01	Ⅱ・Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（4.4）	欠損	沈線		Ⅲ－5～6
a548	105	83	F01	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（5.7）	欠損	爪痕		Ⅲ
a549	105	83	F01	Ⅱ層	浅鉢（台付）	口～底部	23.3	10.4	欠損	突起、粘土粒、沈線		Ⅲ－6
a550	105	83	F01	Ⅱ層	鉢（台付）	台部	－	（4.9）	（10.6）	沈線	金雲母	Ⅳ
a551	105	83	F21	Ⅲ層	鉢（台付）	台部	－	（3.8）	（8.3）	粘土粒（横位・粒間に穿孔）、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a552	105	83	F21	Ⅲ層	鉢（台付）	口～底部	（15.6）	8.4	5.0	粘土粒、沈線、内面に「○」		Ⅲ－5
a553	105	83	F21	Ⅲ層	鉢（台付）	台部	－	（3.7）	7.4	粘土粒（3単位）、沈線		Ⅲ－5
a554	105	83	F21	Ⅲ層	鉢（台付）	台部	－	（4.5）	8.0	沈線（3単位）		Ⅲ－5
a555	105	83	F31	Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（4.6）	8.6	粘土粒、沈線、刺突、縄文（LR）、内面に「○」		Ⅲ－5
a556	105	83	F41	Ⅲ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（3.1）	欠損	縄文（LR）		Ⅲ
a557	105	83	F02	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（4.1）	欠損	縄文（LR）		Ⅲ
a558	105	83	F12	Ⅱ層	鉢（台付）	台部	－	（5.3）	（7.6）	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a559	105	83	F42	Ⅱ層	鉢（台付）	台部	－	（3.3）	欠損	沈線		Ⅳ
a560	105	83	調査区北壁トレンチ東側	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（6.1）	9.0	沈線（4単位）、縄文（RL）、内面に「○」	赤彩	Ⅲ－5
a561	105	83	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（2.2）	（4.6）	ナデ		Ⅲ
a562	105	83	調査区中央	Ⅱ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（3.6）	－	沈線（羊歯状文）		Ⅲ－2

第50表　縄文・弥生土器観察表（20）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a563	105	83	調査区中央	Ⅰ層	鉢（台付）	胴～底部	－	（5.4）	（8.2）	縄文（LR）		Ⅲ
a564	105	83	E39	Ⅲ層	浅鉢（脚付）	底部	－	（3.5）	計測不能	沈線、内面に「○」	赤彩	Ⅲ－5
a565	105	83	E39	Ⅲ層	浅鉢（脚付）	口～底部	（17.7）	（6.4）	計測不能	突起、粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a566	105	83	E10	Ⅱ層	浅鉢（脚付）	胴～底部	－	（4.7）	計測不能	沈線		Ⅲ－5
a567	105	83	E10	Ⅱ層	浅鉢（脚付）	口～底部	（12.2）	5.2	計測不能	突起、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a568	105	83	F41	Ⅲ層	浅鉢（脚付）	胴～底部	－	（6.0）	計測不能	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－6
a569	106	84	SI02	床面	浅鉢	突起	－	－	－	珊瑚状突起、沈線、穿孔		Ⅲ－1～2
a570	106	84	SI02	堆積土	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a571	106	84	SI06	北西側床面	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2
a572	106	84	E05	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（20.8）	（5.6）	－	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）、口唇内側：刻目・粘土粒		Ⅲ－3
a573	106	84	E05	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a574	106	84	E05・15	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	口～底部	（21.0）	3.7	11.5	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a575	106	84	E05・15	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	口～底部	18.0	（4.3）	（11.3）	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a576	106	84	E06	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、截痕列		Ⅲ－2
a577	106	84	E06	Ⅱ層	浅鉢	口～底部	（20.4）	4.8	計測不能	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a578	106	84	E06	Ⅱ層	浅鉢	口～底部	（20.7）	（5.3）	（5.3）	突起（B）、沈線、截痕列、縄文（LR・RL羽状）、底：ミガキ		Ⅲ－3
a579	107	84	E06	Ⅱ層　遺物集中	浅鉢	口～底部	16.8	6.0	8.0	突起（B：7単位）、口唇刻目、縄文（磨消5単位・LR）、底：沈線、中心窪む		Ⅲ－3
a580	107	84	E06	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（24.2）	（4.2）	－	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a581	107	84	E06	Ⅱ層	浅鉢	胴～底部	－	（4.9）	4.0	沈線、縄文（磨消・LR）、底：沈線、中心窪む		Ⅲ－3
a582	107	84	E06	Ⅱ層　遺物集中	浅鉢	口～底部	14.4	4.6	5.4	突起（B）、沈線（羊歯状文）、縄文（LR）、底：沈線（2本）		Ⅲ－2
a583	107	84	E06	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（35.3）	（10.8）	－	突起（B）、沈線、縄文（磨消・RL）		Ⅲ－3
a584	107	84	E06	Ⅱ層　遺物集中	浅鉢	口～胴部	（28.8）	（6.8）	－	突起（B）、沈線、截痕列、縄文（磨消・RL）		Ⅲ－3
a585	107	84	E06	Ⅱ層	浅鉢	胴部	－	（5.7）	－	粘土粒（縦位）、沈線、縄文（磨消・RL）		Ⅲ－3
a586	107	84	E06・16	Ⅱ層	浅鉢	口～底部	20.4	4.2	4.2	突起（B）、沈線（羊歯状文）、縄文（LR）、底：沈線（2本）中心窪む		Ⅲ－2
a587	107	84	E08	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	口～底部	10.3	3.0	計測不能	突起、沈線（羊歯状文）		Ⅲ－2
a588	107	84	E38	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）、口唇内側：刻目・粘土粒		Ⅲ－3
a589	108	84	E09	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（17.1）	（7.4）	－	突起（A・B）、沈線		Ⅲ－5

第50表　縄文・弥生土器観察表（21）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a590	108	84	E10	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（19.6）	（5.8）	－	突起（A・B）、粘土粒（眼鏡状に盛り上がる）、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－5
a591	108	84	E10	Ⅱ層	浅鉢	口～底部	（11.8）	3.8	（6.6）	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a592	108	84	E20	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	粘土粒、沈線	穿孔あり	Ⅲ－6
a593	108	84	E30	Ⅲ層	浅鉢	胴～底部	－	（3.2）	3.4	沈線		Ⅲ－5
a594	108	84	E40	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	（14.0）	（5.0）	－	粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a595	108	84	E40	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	（26.8）	（7.6）	－	突起（B）、口唇刻目、粘土粒、沈線		Ⅲ－5～6
a596	108	84	E40	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	（21.0）	（4.9）	－	粘土粒、沈線		Ⅲ－5
a597	108	84	E40	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起、沈線		Ⅲ－5
a598	108	84	E50	Ⅰ・Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（13.7）	（2.9）	－	ミガキ		Ⅲ
a599	108	84	E50	Ⅰ層	浅鉢	口～胴部	（19.0）	（4.6）	－	突起、粘土粒、沈線		Ⅲ－6
a600	108	84	F01	Ⅱ層	浅鉢	口～底部	（18.2）	8.2	11.4	粘土粒、沈線、底：ナデ		Ⅲ－6
a601	108	85	F11	Ⅲ層	浅鉢	口～底部	（12.5）	（7.4）	（6.2）	沈線、縄文（LR）、底：ナデ		Ⅲ－6
a602	108	85	F31・42	Ⅲ層	浅鉢	胴部	－	－	－	粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－6
a603	108	85	F41	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	突起、粘土粒、沈線		Ⅲ－5～6
a604	108	85	F42	Ⅲ層	浅鉢	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a605	108	85	F42	Ⅲ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線、刺突、縄文（LR？）		Ⅳ
a606	108	85	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	浅鉢	口～底部	16.2	9.6	3.5	沈線、縄文（LR）、底部：沈線、ミガキ	補修孔（4個所）	Ⅲ－6
a607	108	85	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	（14.9）	（4.9）	－	突起、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a608	108	85	調査区中央	Ⅰ層	浅鉢	口～底部	（20.6）	（4.3）	（7.2）	突起（B）、沈線（羊歯状文）、截痕列、縄文（LR）、底：沈線、截痕列		Ⅲ－2
a609	108	85	調査区中央	Ⅱ～Ⅲ層	浅鉢	口～底部	（14.2）	2.9	（7.6）	突起（B）、沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3
a610	108	85	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	浅鉢	口～胴部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a611	108	85	調査区南側トレンチ	Ⅰ層	浅鉢	底部	－	－	－	沈線		Ⅲ
a612	109	85	SI01	堆積土	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅳ？
a613	109	85	P205（SB06）	堆積土	壺	胴部	－	－	－	縄文（LR）		Ⅲ
a614	109	85	E14	Ⅱ層	壺	口～胴部	（6.6）	（3.3）	－	突起（A）、粘土粒、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a615	109	85	E14	Ⅱ層	鉢	口～胴部	－	－	－	突起（B）、沈線		Ⅲ－4
a616	109	85	E14	Ⅱ層	壺	口～胴部	11.5	（14.1）	－	突起、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4～5
a617	109	85	E15	Ⅲ層	壺	口～胴部	（9.6）	（5.4）	－	粘土粒（縦位）、ミガキ		Ⅲ－2～3
a618	109	85	E15	Ⅱ層	壺	口～胴部	（12.0）	（5.1）	－	縄文（LR）、ミガキ	赤彩	Ⅲ－2
a619	109	85	E06	Ⅱ層	壺？台？	口縁	（11.4）	（7.7）	－	沈線（羊歯状文）、ミガキ		Ⅲ－2

第50表　縄文・弥生土器観察表（22）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a620	109	85	E06	Ⅱ層	壺	胴部	－	－	－	突帯	赤彩	Ⅲ
a621	109	85	E06	Ⅱ層	注口	口～胴部	（25.2）	（6.4）	－	突起（B）、沈線、截痕列		Ⅲ－2～3
a622	109	85	E06	Ⅱ層	鉢（台付）	台部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a623	109	85	E06	Ⅱ層　遺物集中	注口	胴部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a624	109	85	E06	Ⅱ層	壺	口～胴部	（9.2）	（12.2）	－	縄文（LR）		Ⅲ
a625	109	85	E06	Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、截痕列		Ⅲ－2
a626	109	85	E06・16	Ⅱ・Ⅲ層	注口	口～胴部	16.2	（8.3）	－	突起（正面・B・4単位）、口縁部穿孔（○状・X字状）、沈線（羊歯状文）、截痕列		Ⅲ－2
a627	109	85	E06・16	Ⅱ・Ⅲ層	壺	胴部	－	（12.0）	－	頸部突帯、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a628	109	85	E06・16	Ⅱ・Ⅲ層	壺	胴部	－	（19.7）	－	沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）	a331と同一?	Ⅲ－2
a629	110	86	E16	Ⅱ層	壺	胴部	－	（5.9）	－	粘土粒（縦・横位）、沈線、ミガキ	外面全面赤彩	Ⅲ－3
a630	110	86	E07	Ⅱ層	壺	口～胴部	（8.7）	（3.4）	－	ミガキ		Ⅲ
a631	110	86	E07	Ⅱ層	壺	胴部	－	（4.7）	－	沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2～3
a632	110	86	E07	Ⅱ層	壺	胴部	－	（19.5）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－2
a633	110	86	E07・08	Ⅱ層	壺	胴～底部	－	（6.1）	計測不能	沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a634ab	110	86	E27	Ⅲ層	壺	a胴部 b胴～底部	－	a（8.3） b（1.2）	（4.6）	沈線（羊歯状文）、縄文（LR）		Ⅲ－2
a635	110	86	E37	Ⅲ層	壺	口～底部	6.0	16.7	5.2	突起（三山状：2個（穿孔あり）・B：2個）、沈線、縄文（磨消・LR）、底：ミガキ	胴部焼成後穿孔あり	Ⅲ－2
a636	110	86	E37	Ⅲ層	壺	口～胴部	（6.8）	（6.5）	－	ミガキ		Ⅲ
a637	110	86	E18	Ⅲ層	注口	口縁	－	－	－	沈線		Ⅲ－1～2
a638	110	86	E18・28	Ⅲ層	壺	胴部	－	（7.4）	－	沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2
a639	110	86	E28	Ⅲ層	壺	胴部	－	（6.0）	－	粘土粒（縦位）、沈線、縄文（磨消・LR）	赤彩	Ⅲ－2
a640	110	86	E09	Ⅱ層	壺	口～胴部	（11.8）	（5.4）	－	縄文（LR）		Ⅲ
a641	110	86	E09・10	Ⅰ～Ⅱ層、Ⅱ層	壺	口～胴部	18.1	（18.0）	－	突起（B:4単位）、粘土粒、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a642	110	86	E19	Ⅱ・Ⅲ層	壺	口～底部	（10.6）	8.2	（6.0）	ミガキ		Ⅲ
a643	111	86	E39	Ⅱ・Ⅲ層	壺	胴部	－	（4.1）	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a644	111	86	E39	Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a645	111	86	E49	Ⅱ層	壺	胴部	－	－	－	刻目、沈線		Ⅲ－5
a646	111	86	E10	Ⅱ層	壺	口～胴部	（18.0）	（6.0）	－	突起、粘土粒、刻目、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－5
a647	111	86	E10	Ⅱ層	壺	胴部	－	－	－	刻目、沈線	赤彩	Ⅲ－5
a648	111	86	E10	Ⅱ層	壺	胴部	－	（8.3）	－	沈線	外面剥落	Ⅲ－5

第50表　縄文・弥生土器観察表（23）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a649	111	86	E10	Ⅱ層	壺	胴部	－	（4.2）	－	沈線		Ⅲ－5
a650	111	86	E10・20	Ⅱ層	壺	胴部	－	（4.0）	－	粘土粒、刻目、沈線		Ⅲ－6
a651	111	87	E30	Ⅲ層	壺	口～胴部	13.5	（10.4）	－	口唇粘土粒（図化の反対側）、刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－5
a652	111	87	E40	Ⅲ層	壺	口～胴部	18.0	（6.5）	－	突起（A・B：4単位）、粘土粒、刻目、沈線		Ⅲ－5
a653	111	87	E40	Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	粘土粒、突帯、沈線		Ⅲ－5～6
a654	111	87	E40	Ⅲ層	壺	胴部	－	（6.0）	－	沈線		Ⅲ－5
a655	111	87	E40	Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、突帯		Ⅲ－5
a656	111	87	E40	Ⅲ層	壺	口～胴部	（5.1）	（2.4）	－	沈線		Ⅲ－5～6
a657	111	87	E40	Ⅲ層	壺	口縁	－	－	－	沈線		Ⅲ－5～6
a658	112	87	E50	Ⅱ・Ⅲ層	壺	口～胴部	13.6	13.4	－	突起（B：4単位）、刻目、沈線（胴部文様4単位）、縄文（LR）		Ⅲ－5
a659	112	87	E50	Ⅱ層	壺	口～胴部	12.2	（5.6）	－	沈線		Ⅲ－5～6
a660	112	87	E50	Ⅱ層	壺	胴部	－	（8.0）	－	沈線、ミガキ	赤彩	Ⅲ－5～6
a661	112	87	E50	Ⅱ層	壺	胴部	－	－	－	粘土粒、刻目、沈線		Ⅲ－6
a662	112	87	E50	Ⅱ層	壺?	胴部?	－	（1.6）	－	沈線		Ⅲ
a663	112	87	F01・11	Ⅱ・Ⅲ層	壺	胴～底部	－	17.5	7.6	沈線、縄文（LR）	底部穿孔（外→内）、同一個体あり（拓本のみ）	Ⅲ－5
a664	112	87	F11	Ⅲ層	壺	胴部	－	（4.5）	－	沈線		Ⅲ－5
a665	112	87	F21	Ⅲ層	壺	a口～胴部 b胴部	a（9.2）	a（8.4） b（12.7）	－	粘土粒、沈線	a bあり	Ⅲ－5
a666	113	87	F21	Ⅲ層	壺	口～胴部	4.4	（6.1）	－	刻目、沈線		Ⅲ－5
a667	113	87	F41	Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a668	113	87	F02	Ⅲ層	壺	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a669	113	87	F12	Ⅱ層	壺	胴部	－	－	－	沈線		Ⅳ
a670	113	87	F42	Ⅲ層	壺?	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a671	113	87	調査区中央	Ⅰ～Ⅲ層	壺	口～胴部	（10.7）	（7.9）	－	突起、沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2
a672	113	87	調査区東側	Ⅰ～Ⅲ層	壺?	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a673	113	88	E39	Ⅲ層	壺（脚付）	口～底部	（9.1）	12.4	計測不能	沈線、ミガキ	底部に針状の穿孔あり	Ⅲ－5
a674	113	88	調査区北壁トレンチ	Ⅰ～Ⅱ層	壺（脚付）	底部	－	（1.8）	計測不能	沈線、ミガキ		Ⅲ－5
a675	113	88	E14	Ⅱ層	注口	口～底部	10.0	（6.7）	計測不能	肩部突起（5単位）、沈線、刻目、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－3

第50表　縄文・弥生土器観察表（24）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	特徴・文様・調整	備　考	時期・分類
a676	113	88	E05	Ⅱ層	注口	口～胴部	（12.0）	（8.2）	－	刻目、沈線、截痕列、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2～3
a677	113	88	E15	Ⅱ層	注口？	口～胴部	（25.5）	（6.1）	－	突起（正面･B）、粘土粒（縦位）、沈線、截痕列、縄文（LR）		Ⅲ－2
a678	113	88	E06	Ⅱ層　遺物集中	注口	口～胴部	（11.2）	（5.4）	－	沈線、截痕列、ミガキ		Ⅲ－2～3
a679	113	88	E06	Ⅱ層	注口	口～胴部	－	－	－	沈線、截痕列、ミガキ、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2
a680	113	88	E16	Ⅱ層	注口	口～胴部	（13.5）	（3.8）	－	突起（B）、沈線、ミガキ、縄文（磨消・LR）・透孔（円1三叉文2の繰り返し）		Ⅲ－3
a681	114	88	E07	Ⅱ・Ⅲ層	注口	胴部	－	（9.7）	－	沈線、截痕列、ミガキ		Ⅲ－2
a682	114	88	E08	Ⅱ層	注口	胴部（注口部）	－	－	－	沈線、ミガキ		Ⅲ－1～2
a683	114	88	E28	Ⅲ層	注口	口～底部	（14.0）	11.6	計測不能	突起（B）、沈線、ミガキ		Ⅲ－1
a684	114	88	E09・19	Ⅲ層	香炉？	胴部	－	（5.9）	－	粘土粒（6単位？）、沈線、縄文（LR）		Ⅲ
a685	114	88	E39	Ⅲ層	注口	口～胴部	（11.3）	（7.8）	－	突起、刻目、沈線、縄文（LR）	赤彩	Ⅲ－4
a686	114	88	E10	Ⅳ層	注口	口～胴部	（8.3）	（6.7）	－	突起（B）、口唇刻目、沈線、縄文（LR）		Ⅲ－4
a687	114	88	調査区中央	Ⅰ～Ⅲ層	注口	胴～底部	－	（7.8）	計測不能	沈線、ミガキ		Ⅲ－1
a688	114	88	調査区中央	Ⅰ～Ⅱ層	注口	胴部（注口部）	－	－	－	沈線		Ⅲ－2～3
a689	114	88	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	注口	胴部（注口部）	－	－	－	沈線		Ⅲ－2～4
a690	114	88	E50	Ⅱ層	香炉？	胴部	－	（4.7）	－	刻目、沈線、縄文（LR）	透孔あり	Ⅲ－4
a691	114	88	E40	Ⅲ層	蓋	胴～底部	－	（3.0）	（5.4）	沈線、貼付（剥落）		Ⅲ－5
a692	114	88	F02	Ⅱ層	蓋	胴～底部	－	－	－	沈線、縄文（LR）	外面赤彩、内面スス	Ⅳ
a693	114	88	F12	Ⅲ層	蓋	胴～底部	－	4.9	14.4	縄文（LR）		Ⅳ
a694	114	88	F42	Ⅰ層	蓋？	胴部	－	－	－	沈線、縄文（LR）		Ⅳ
a695	114	88	E10	Ⅱ層	釣手土器？	釣手	－	（3.4）	－	沈線		Ⅲ
a696	114	88	SI07a	堆積土	鉢	胴～底部	－	（2.2）	（2.5）	ナデ		Ⅲ
a697	114	88	E24	Ⅳ層	壺	胴～底部	－	（3.4）	（2.1）	沈線、底：ミガキ	赤彩	Ⅲ
a698	114	88	E15	Ⅲ層	鉢	胴～底部	－	（1.6）	1.8	ナデ		Ⅲ
a699	114	88	E09	Ⅱ層	壺	胴～底部	－	（4.1）	2.7	ミガキ、底：ナデ	赤彩	Ⅲ
a700	114	88	E09・19	Ⅰ～Ⅲ層	浅鉢（台付）	胴～底部	－	（2.7）	（3.0）	沈線、縄文（磨消・LR）		Ⅲ－2
a701	114	88	F11	Ⅲ層	鉢？	口～胴部	－	－	－	ナデ	穿孔（4か所）	Ⅲ
a702	114	88	F21	Ⅲ層	鉢	口～胴部	（4.8）	（2.2）	－	ナデ		Ⅲ

第51表　古代土器観察表（1）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
b1	115	89	SI01	図示あり（床面）	土師器	坏	口～底部	14.7	5.0	5.7	明黄褐	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）	墨書「寛」・口縁３か所打ち欠き？
b2	115	89	SI01	図示あり（床面）	土師器	坏	口～底部	(14.4)	5.4	5.4	橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）	墨書「寛」
b3	115	89	SI01	床面・貼床	土師器	坏	口～胴部	(16.0)	(3.8)	－	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	墨書「寛」
b4	115	89	SI01	カマド付近床面	土師器	坏	口～底部	(13.4)	5.4	5.4	橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）→周縁一部ケズリ	
b5	115	89	SI01	北東側床面	土師器	坏	口～底部	(14.2)	4.7	(5.3)	橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）→周縁ケズリ	
b6	115	89	SI01	北東側床面	土師器	坏	口～底部	(16.1)	5.5	4.7	にぶい橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	
b7	115	89	SI01	床面	土師器	坏	口～底部	14.4	5.2	6.1	にぶい橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	
b8	115	89	SI01	カマド付近	土師器	坏	口～底部	(14.0)	5.2	6.0	橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）→周縁ケズリ	
b9	115	89	SI01	カマド付近	土師器	坏	胴～底部	－	(2.4)	5.5	橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）→周縁ケズリ	
b10	115	89	SI01	検出面	土師器	坏	口～底部	(15.2)	5.6	(4.9)	橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	
b11	115	89	SI01	西側堆積土（Ⅰ・Ⅱ層含む）	土師器	坏	口～胴部	(14.2)	(4.3)	－	黄橙	回転ナデ	回転ナデ	－	スス付着
b12	115	89	SI01	カマド	須恵器	坏	口～胴部	－	(4.8)	－	灰白	回転ナデ→ケズリ	回転ナデ	－	
b13	115	89	SI01	堆積土	須恵器	坏	口～胴部	－	(4.9)	－	にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b14	115	89	SI01	東側堆積土	須恵器	坏	胴～底部	－	(1.1)	4.2	橙	回転ナデ→ケズリ	回転ナデ	回転糸切（右）	
b15	115	89	SI01	堆積土	須恵器	坏	口～胴部	－	(4.0)	－	灰白	回転ナデ	回転ナデ	－	
b16	115	89	SI01	東側床面	土師器	塊	口～胴部	(37.0)	(6.1)	－	黄橙	回転ナデ→ナデ	回転ナデ	－	
b17	115	89	SI01	東側床面	土師器	甕	口～胴部	－	(5.3)	－	にぶい橙	ヨコナデ→ケズリ	ヨコナデ・ナデ	－	
b18	115	89	SI01	西側床面	土師器	甕	口縁	－	(3.9)	－	明黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	－	
b19	115	89	SI01	カマド付近	土師器	甕	胴～底部	－	(4.0)	(8.4)	橙	ケズリ・ナデ	ハケ（ナデに近い）・ナデ	ナデ	
b20	115	89	SI01	検出面	土師器	甕	口縁	－	(2.3)	－	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	－	
b21	115	89	SI01	堆積土	土師器	甕	胴部	－	(2.1)	－	橙	ミガキ？（ナデに近い）	ナデ	－	赤彩
b22	115	89	SI01	カマド付近	土師器	甕	口縁	－	(1.8)	－	橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b23	116	89	SI01	Pit07	土師器	甕	口～胴部	－	(3.1)	－	橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b24	116	89	SI01	検出面	土師器	甕	口～胴部	－	(4.7)	－	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b25	116	89	SI01	図示あり（床面）	須恵器	壺	胴～底部	－	(4.0)	7.9	にぶい褐	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切（右）	
b26	116	89	SI01	東側床面	須恵器	甕	口縁	－	(3.4)	－	褐灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b27	116	89	SI01	床面	須恵器	甕	胴部	－	(6.9)	－	褐灰	ケズリ→回転ケズリ	ナデ	－	
b28	116	89	SI01	北東側床面	須恵器	甕	胴部	－	(4.7)	－	褐灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b29	116	89	SI01	堆積土	須恵器	壺	口縁	－	(1.5)	－	褐灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b30	116	89	SI01	東側堆積土	須恵器	壺	底部	－	(1.8)	－	褐灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b31	116	89	SI01	東側堆積土	須恵器	甕	口縁	(20.1)	(5.4)	－	黒褐	回転ナデ	回転ナデ	－	
b32	116	89	SI01、SI06	床面、堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(10.3)	－	黒褐	タタキ	アテグ痕	－	
b33	116	90	SI01	カマド付近	須恵器	甕	胴～底部	－	(7.4)	－	灰白	タタキ	アテグ痕	タタキ	
b34	116	90	SI01	カマド付近	須恵器	甕	胴部	－	(4.5)	－	灰黄褐	タタキ	アテグ痕	－	

第51表　古代土器観察表（2）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
b35	116	90	SI01	東側堆積土（Ⅰ・Ⅱ層含む）	須恵器	甕	口縁	－	(2.8)	－	赤灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b36	116	90	SI01	堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(3.3)	－	暗赤褐	タタキ	アテグ痕	－	
b37	116	90	SI01	堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(3.9)	－	褐灰	タタキ	アテグ痕・ナデ	－	
b38	117	90	SI02	南東側堆積土	土師器	高台坏	胴～底部	－	(1.7)	(7.4)	明黄褐	回転ナデ	ミガキ、黒色処理	ナデ	
b39	117	90	SI02	図示あり（床面）	土師器	坏	口～底部	(16.2)	5.8	5.5	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）	墨書「寺」
b40	117	90	SI02	図示あり（床面）	土師器	坏	口～底部	(13.4)	4.7	4.0	明黄褐	回転ナデ→ケズリ	ミガキ（放射状）・黒色処理	回転糸切（右）	墨書「舘」
b41	117	90	SI02	南東隅堆積土	土師器	坏	口～底部	(15.2)	5.1	5.9	橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	墨書「館」
b42	117	90	E01・02トレンチ（SI02含む）	堆積土	土師器	坏	口～底部	(13.8)	5.2	(5.8)	にぶい黄橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	墨書「舘」
b43	117	90	SI02	北西側堆積土	土師器	坏	口～胴部	(14.0)	(3.1)	－	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	墨書 判読不明
b44	117	90	E01・02トレンチ（SI02含む）	堆積土	土師器	坏	胴～底部	－	(1.7)	6.5	橙	回転ナデ→回転ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転糸切（右）	内面に刻書「西」
b45	117	90	SI02	南東側堆積土	土師器	坏	口～胴部	(14.5)	(4.1)	－	にぶい橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	
b46	117	90	SI02	南東側堆積土	土師器	坏	口～胴部	(14.2)	(4.5)	－	黄橙	回転ナデ→ケズリ	ミガキ・黒色処理	－	
b47	117	90	SI02	堆積土	須恵器	坏	口～胴部	－	(3.8)	－	灰黄褐	回転ナデ	回転ナデ	－	
b48	117	90	SI02	南西側堆積土	須恵器	坏	口～胴部	－	(3.6)	－	黄灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b49	117	90	SI02、E01	南東側堆積土、堆積土	土師器	甕	口～胴部	(19.9)	4.6	－	にぶい橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	
b50	117	90	SI02	図示あり（床面）	須恵器	甕	胴部	－	(6.4)	－	黒褐	タタキ	タタキ	－	
b51	117	90	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	坏	口～底部	(14.5)	5.4	計測不能	橙	ケズリ・ナデ→ミガキ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	外面段（沈線）
b52	117	90	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	坏	口～底部	(13.9)	5.5	6.9	黄橙	ミガキ	ミガキ・黒色処理	ナデ	外面段（くぼみ）
b53	117	90	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	坏	口～底部	(12.9)	5.2	5.6	明赤褐	ミガキ	ミガキ・黒色処理	ミガキ	外面段（沈線）・内面もわずかにくぼむ
b54	117	90	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	坏	口～底部	(13.7)	4.9	7.2	明黄褐	ミガキ	ミガキ・黒色処理	ミガキ	外面段
b55	117	90	SI03	北西側堆積土	土師器	坏	口～底部	(13.0)	4.3	計測不能	明黄褐	ケズリ・ナデ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	外面段（沈線）
b56	117	90	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	鉢	口～底部	14.8	8.5	計測不能	橙	ケズリ・ミガキ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	外面段・内面くぼみ
b57	118	91	SI03、SI02、E01・11	図示あり（堆積土）、堆積土	土師器	甕	口～底部	19.8	26.4	(7.5)	にぶい黄褐	ヨコナデ・ケズリ・ハケ・ナデ（乾き具合の差か?）	ヨコナデ→ハケ	ケズリ	
b58	118	91	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	甕	口～胴部	19.2	(26.9)	－	橙	ヨコナデ・ナデ（ハケに近い）	ヨコナデ・ハケ	－	
b59	118	91	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	甕	口～底部	(12.7)	13.2	(7.2)	にぶい橙	ヨコナデ→ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ハケ	ケズリ	
b60	118	91	SI03	図示あり（堆積土）	土師器	甕	胴～底部	－	(2.8)	9.0	明黄褐	ケズリ	ハケ?	ケズリ	
b61	118	91	SI03	南東側堆積土	土師器	甕	胴～底部	－	(3.1)	9.2	黄橙	ナデ	ケズリ・ハケ	ケズリ	
b62	118	91	SI03、SI05	西側1層、堆積土	土師器	甕	胴部	－	(7.1)	－	にぶい黄橙	ハケ	ハケ・ナデ	－	
b63	118	91	SI03	北東側堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(3.1)	－	黒褐	回転ナデ	回転ナデ	－	

第51表　古代土器観察表（3）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
b64	118	91	SI04	カマド	須恵器	坏	口～底部	13.6	5.0	5.8	灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切（右）	
b65	118	91	SI04	カマド	須恵器	坏	口～底部	(14.6)	5.0	(5.6)	灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切（方向不明）	
b66	118	91	SI04	カマド	須恵器	坏	口～胴部	－	(3.9)	－	灰白	回転ナデ	回転ナデ	－	
b67	118	91	SI04	カマド付近	須恵器	坏	口～胴部	－	(3.4)	－	灰白	回転ナデ	回転ナデ	－	
b68	118	91	SI04	貼床	須恵器	坏	口～胴部	(16.0)	(3.4)	－	灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b69	118	91	SI04	1層	須恵器	坏	口～底部	(13.5)	5.0	(6.0)	灰	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切（右）	
b70	118	91	SI04	南西側堆積土	土師器	甕	口～胴部	－	(4.5)	－	にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b71	118	91	SI04	カマド	須恵器	壺	胴部	－	(3.7)	－	褐	タタキ?→ケズリ	回転ナデ	－	
b72	118	91	SI04	カマド付近	須恵器	壺	底部	－	(1.7)	(9.0)	赤灰	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	
b73	118	91	SI04	南西側堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(5.4)	－	灰赤	回転ナデ	回転ナデ	－	
b74	119	91	SI05	堆積土上部	土師器	高坏	台部	－	(1.4)	(7.2)	橙	ヨコナデ	ナデ	－	
b75	119	91	SI05	堆積土上部	須恵器	坏	口～胴部	－	(2.9)	－	灰黄	回転ナデ	回転ナデ	－	
b76	119	91	SI05	図示あり（堆積土下部）	土師器	甕	口～底部	17.6	16.0	7.1	明黄褐	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	
b77	119	91	SI05	2層	土師器	甕	胴～底部	－	(2.2)	8.3	にぶい黄橙	ハケ	ナデ	ナデ	
b78	119	92	SI05	図示あり（堆積土下部）	土師器	甕	口～胴部	16.4	(15.8)	－	橙	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	－	
b79	119	92	SI05	堆積土上部	土師器	甕	胴部	－	(4.0)	－	灰白	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	－	
b80	119	92	SI06	堆積土	土師器	高坏	口～底部	(13.8)	7.4	7.0	明黄褐	ヨコナデ･ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ケズリ・ハケ・ミガキ・黒色処理	－	内面・外面くぼみ
b81	119	92	SI06	南西側堆積土	土師器	鉢	胴～底部	－	(5.5)	(8.1)	橙	ケズリ	ミガキ・黒色処理	ケズリ	
b82	119	92	SI06	図示あり（煙道）	土師器	甕	口～底部	17.0	22.0	7.9	橙	ヨコナデ・ナデ→ケズリ・ハケ	ヨコナデ・ハケ	木葉痕	
b83	119	92	SI06	北西側堆積土	土師器	甕	口縁	－	(3.9)	－	明黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	－	
b84	119	92	SI06	南西側堆積土	土師器	甕	口～胴部	(12.5)	(5.1)	－	橙	ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	－	
b85	119	92	SI06	北側堆積土	土師器	甕	胴部	－	(7.7)	－	明黄褐	ケズリ	ハケ	－	
b86	119	92	SI06	カマド	土師器	甕	胴部	－	(16.1)	－	明黄褐	ハケ→ケズリ	ナデ	－	
b87	119	92	SI06	南西側堆積土	土師器	甕	胴部	－	(1.9)	－	橙	ナデ	ナデ	－	赤彩
b88	119	92	SI06	西側堆積土（Ⅰ・Ⅱ層含む）	須恵器	甕	胴部	－	(2.6)	－	黒	タタキ	ハケ?	－	
b89	120	92	SI07ab	堆積土	土師器	坏	胴部	－	(2.6)	－	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	墨書「寛？」
b90	120	92	SI07ab	堆積土	須恵器	坏	口～胴部	(13.6)	(3.7)	－	灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b91	120	92	SI07ab	堆積土	土師器	鉢	口～胴部	(23.0)	(4.0)	－	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	
b92	120	92	SI07ab	堆積土	土師器	鉢	口～胴部	－	(9.8)	－	橙	回転ナデ→ケズリ	回転ナデ	－	
b93	120	92	SI07ab	堆積土	土師器	甕	胴～底部	－	(4.0)	－	橙	ケズリ	ナデ	ナデ?	
b94	120	92	SI07ab	堆積土	須恵器	壺	胴部	－	(3.7)	－	赤黒	回転ナデ→ケズリ	回転ナデ	－	b107と同一
b95	120	92	F05	Ⅰ層（SI07ab上面）	須恵器	甕	胴部	－	(4.8)	－	にぶい赤褐	ケズリ	ケズリ	－	
b96	120	92	F05	Ⅰ層（SI07ab上面）	須恵器	甕	胴部	－	(5.6)	－	黒褐	タタキ	タタキ	－	
b97	120	92	SI07a	堆積土	土師器	高台坏	胴～底部	－	(2.0)	(6.6)	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	回転ナデ・ナデ	
b98	120	92	SI07a	床面	土師器	皿	口～胴部	(14.8)	(2.5)	－	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	

第51表　古代土器観察表（4）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
b99	120	92	SI07a	堆積土	土師器	坏	胴部	－	(3.1)	－	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	墨書文字不明
b100	120	92	SI07a	堆積土	土師器	坏	口～底部	(14.2)	5.2	(5.7)	橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	ケズリ？（摩滅）	
b101	120	92	SI07a	床面	須恵器	坏	口～底部	(14.3)	4.9	(6.5)	灰黄	回転ナデ→ケズリ	回転ナデ	回転糸切（右）→周縁ケズリ	
b102	120	92	SI07a	堆積土	須恵器	坏	口～胴部	－	(4.7)	－	灰白	回転ナデ→ケズリ？ナデ？	回転ナデ	－	
b103	120	92	SI07a	堆積土	土師器	鉢	胴～底部	－	(1.4)	(12.7)	橙	ケズリ	ミガキ・黒色処理	ナデ	
b104	120	93	SI07a	カマド袖内	土師器	甕	口～胴部	(18.2)	(7.8)	－	浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b105	120	93	SI07a	カマド	土師器	甕	口～胴部	－	(8.6)	－	橙	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	－	
b106	120	93	SI07a	堆積土	土師器	甕	口～胴部	(23.6)	(5.8)	－	橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b107	120	93	SI07a	床面	須恵器	壺	胴部	－	(2.7)	－	赤黒	回転ナデ→ケズリ	回転ナデ	－	b94と同一
b108	120	93	SI07b	貼床	須恵器	坏	口～胴部	(15.6)	(4.3)	－	灰白	回転ナデ	回転ナデ	－	
b109	120	93	SI07b	床面	土師器	甕	a口～胴部 b胴～底部	(21.6)	a (21.9) b (6.9)	(8.0)	橙	aタタキ？→回転ナデ→ケズリ bケズリ	a回転ナデ→ハケ bハケ→ナデ	bナデ	
b110	120	93	SI07b	カマド	土師器	甕	口～胴部	(18.4)	(5.7)	－	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b111	120	93	SI07b	カマド	須恵器	甕	胴部	－	(2.3)	－	灰褐	タタキ	タタキ	－	
b112	121	93	SI10	堆積土	土師器	高台坏	胴～底部（欠損）	－	(1.5)	－	にぶい橙	回転ナデ	ミガキ、黒色処理	ナデ	
b113	121	93	SI10	堆積土	須恵器	坏	胴～底部	－	(1.2)	(6.4)	灰	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切（右）	
b114	121	93	SI10	堆積土	須恵器	坏	口～胴部	－	(2.3)	－	黄灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b115	121	93	SI10	堆積土	須恵器	甕	頸部	－	(2.8)	－	赤灰	回転ナデ	回転ナデ	－	
b116	121	93	SI10	堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(11.6)	－	赤灰	回転ナデ→ケズリ	回転ナデ	－	
b117	121	93	SK49	堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(4.3)	－	褐灰	タタキ	タタキ	－	
b118	121	93	SK72	堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(5.2)	－	褐灰	ケズリ	回転ナデ	－	
b119	121	93	P82	堆積土	須恵器	甕	胴部	－	(2.5)	－	黒褐	タタキ	タタキ	－	
b120	121	93	F42	Ⅲ層	土師器	坏	口～胴部	－	(2.5)	－	にぶい橙	回転ナデ	ミガキ・黒色処理	－	墨書「館？」
b121	121	93	F42	Ⅰ・Ⅲ層	土師器	坏	口～底部	12.5	5.0	3.5	にぶい橙	回転ナデ	回転ナデ	回転糸切（右）	ゆがみあり
b122	121	93	F15	攪乱	土師器	甕	胴部	－	(3.4)	－	橙	ナデ	ナデ	－	赤彩
b123	121	93	F32	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	(3.6)	－	橙	ハケ→ナデ	ハケ・ナデ	－	赤彩
b124	121	93	F33	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	(2.0)	－	橙	ナデ	ナデ	－	赤彩
b125	121	93	F42	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	(3.5)	－	表：明赤褐／裏：にぶい橙	ナデ	ナデ	－	赤彩
b126	121	93	F42	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	(3.0)	－	表：明赤褐／裏：橙	ナデ？	ハケ	－	赤彩
b127	121	93	F42	Ⅰ層	土師器	甕	胴部	－	(2.4)	－	表：明赤褐／裏：浅黄橙	ナデ	ナデ	－	赤彩
b128	121	93	F42	Ⅰ層	土師器	甕	胴部	－	(3.9)	－	表：赤褐／裏：にぶい橙	ナデ	ハケ	－	赤彩
b129	121	93	F42	Ⅰ層	土師器	甕	胴部	－	(2.5)	－	表：明赤褐／裏：橙	ナデ	ナデ	－	赤彩
b130	121	93	F42	Ⅰ層	土師器	甕	胴部	－	(4.6)	－	にぶい黄橙	ナデ	ハケ	－	赤彩

第51表　古代土器観察表（5）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
b131	121	93	F43	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	（3.5）	－	表：褐／裏：にぶい橙	ナデ	ハケ	－	赤彩
b132	121	93	F43	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	（4.3）	－	表：明赤褐／裏：橙	ナデ	ナデ	－	赤彩
b133	121	93	F43	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	（4.3）	－	表：明赤褐／裏：にぶい黄橙	ナデ	ハケ	－	赤彩
b134	121	93	F43	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	（4.2）	－	橙	ナデ	ハケ	－	赤彩？
b135	121	93	F43	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	（3.1）	－	表：赤褐／裏：橙	ハケ？（太い）	ナデ	－	赤彩
b136	121	93	F43	Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	（2.9）	－	表：橙／裏：浅黄橙	ナデ	ハケ	－	赤彩
b137	121	93	調査区西側	Ⅰ～Ⅱ層	土師器	甕	胴部	－	（4.2）	－	橙	ハケ→ヨコナデ	ナデ→ヨコナデ	－	
b138	121	93	調査区西側	Ⅰ層	須恵器	壺	胴部	－	（6.2）	－	にぶい黄橙	回転ナデ	回転ナデ	－	
b139	121	93	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	須恵器	甕	口縁	－	（6.6）	－	褐灰	回転ナデ	回転ナデ	－	

第52表　陶磁器観察表

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	色調	外面調整	内面調整	底部調整	備考
c1	117	90	E01・02トレンチ（SI02含む）	堆積土	陶器	埦	胴～底部	－	（2.2）	（7.6）	－	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	緑釉
c2	117	90	調査区北壁トレンチ	SI02上面	陶器	稜埦	胴部	－	（1.9）	－	－	回転ナデ	回転ナデ	－	緑釉
c3	121	93	E18	Ⅱ層	陶器	碗	胴～底部	－	（2.7）	（5.0）	－	ロクロ	ロクロ	ロクロ	
c4	121	93	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	陶磁器	碗	胴～底部	－	（2.6）	5.0	－	ロクロ	ロクロ	ロクロ	染付

第53表　金属製品観察表

番号	図版	写図	遺構名	地点・層位	種類	高さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備　考
f1	117	90	SI02	堆積土	ハサミ	11.3（11.1）	4.7（4.2）	1.8（0.6）	34.7	

第54表　土製品観察表（1）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	時期	種類	部位	特徴	高さ・径（cm）	幅・孔径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）
d1	122	94	SK11	堆積土	縄文	土偶	胴～脚（背か?）	中空、沈線、隆帯、刺突、縄文RL	(3.8)	(5.5)	(3.4)	29.8
d2	122	94	SK39	堆積土	縄文	土偶	胴	中空、赤彩、沈線、縄文LR	(3.7)	(3.3)	(1.2)	8.3
d3	122	94	E07	Ⅲ層	縄文	土偶	頭（左目）	中空、目頭穿孔、沈線、縄文LR	(2.9)	(4.5)	(1.3)	11.6
d4	122	94	E09・E19、調査区東側	堆積土、Ⅰ～Ⅱ層	縄文	土偶	胴～腕（左上半）	中空、沈線、縄文LR	(7.1)	(7.1)	(6.2)	26.1
d5	122	94	E09	Ⅱ層	縄文	土偶	腕	中空、沈線	(3.7)	(1.6)	－	7.8
d6	122	94	E09	Ⅱ層	縄文	土偶	胴～脚（腰）	中空	(2.6)	(5.0)	(4.4)	27.4
d7	122	94	E09	Ⅱ層	縄文	土偶	胴（左上半）	中空、隆帯、刺突（背面は押し引き）	(4.7)	(4.6)	(3.0)	35.1
d8	122	94	E10	Ⅳ層	縄文	土偶	胴～腕（左上半）	中空、赤彩、沈線	(5.6)	(5.2)	(3.3)	26.7
d9	122	94	E16	Ⅱ層	縄文	土偶	頭?（結髪の裏側?）	ナデ	(4.8)	(4.0)	(1.8)	21.0
d10	122	94	E20	Ⅲ層	縄文	土偶	胴	中空（柱状）、沈線、隆帯	(8.2)	(5.9)	(2.8)	107.1
d11	123	94	E24	Ⅱ層	縄文	土偶	胴～四肢	中実?、沈線	(5.0)	(3.4)	(1.2)	16.1
d12	123	94	E39	Ⅲ層	縄文	土偶	胴	中空、赤彩、沈線、縄文LR	(3.6)	(3.8)	(1.4)	12.2
d13	123	94	E39	Ⅲ層	縄文	土偶	胴（左下半）	中空、赤彩、沈線、刺突	(7.6)	(5.8)	(6.2)	39.5
d14	123	94	E40	Ⅲ層	縄文	土偶	胴（右腰）	中空、沈線	(3.9)	(1.6)	(2.9)	10.5
d15	123	94	E40	Ⅲ層	縄文	土偶	胴	中空、刺突	(2.9)	(3.0)	(0.8)	5.0
d16	123	94	E40	Ⅲ層	縄文	土偶	胴	中空、沈線、刺突	(3.0)	(4.3)	(1.2)	8.6
d17	123	94	F02	Ⅲ層	縄文	土偶	肩～胴（左上半）	中実、沈線、刺突	(3.9)	(6.5)	(2.7)	31.7
d18	123	94	F05	Ⅰ層（SI07上面）	縄文	土偶	腕（右）	中実、沈線	(3.5)	(4.1)	(4.6)	42.2
d19	123	94	F11	Ⅲ層	縄文	土偶	胴（右上半）	中実、沈線	(5.4)	(3.9)	(4.2)	47.0
d20	123	94	F21	Ⅲ層	縄文	土偶	胴（左下半）	中空、赤彩?、沈線	(2.3)	(1.9)	(3.1)	7.7
d21	123	94	F21	Ⅲ層	縄文	土偶	脚	中空、沈線	(4.1)	(4.2)	(3.9)	24.2
d22	123	94	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	縄文	土偶	胴（股）	中空、沈線、刺突	(1.2)	(3.2)	(2.9)	6.3
d23	123	94	調査区中央	Ⅰ～Ⅱ層	縄文	土偶	脚	中空、沈線	(1.9)	(3.5)	(3.4)	18.6
d24	123	94	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	縄文	土偶	腕（左）	中空、沈線	(2.9)	(2.2)	－	6.9
d25	123	94	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	縄文	土偶	腕	中空、沈線	(2.5)	(1.9)	(0.8)	3.0
d26	124	95	SK32	図示あり（3層上面）	縄文	舟形	－	赤彩、線刻	(8.0)	4.2	(2.1)	26.7
d27	124	95	SI13	北東側堆積土	縄文	土版	－	沈線、刺突	(6.0)	(4.7)	(1.6)	44.7
d28	124	95	SI13	北東側堆積土	縄文	土版	－	刺突	(2.3)	(2.7)	(1.7)	7.6
d29	124	95	E10	Ⅱ層	縄文	土版	－	沈線、刺突	(3.0)	(3.5)	(0.8)	7.2
d30	124	95	E29	Ⅳ層	縄文	土版	－	沈線、刺突	(2.6)	(2.9)	(0.8)	5.9
d31	124	95	E29	Ⅲ層	縄文	土版	－	孔、沈線、刺突	(4.9)	(5.9)	(1.5)	42.3
d32	124	95	E40	Ⅲ層	縄文	土版	－	沈線	(3.1)	(5.2)	(1.1)	12.5
d33	124	95	SI03	北東側堆積土	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	4.8	－	0.8	13.2
d34	124	95	SI13	北側堆積土上部	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	4.2	－	0.7	11.8
d35	124	95	SK31	堆積土下部	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	4.5	－	0.8	14.3
d36	124	95	SN05	堆積土	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文RL	4.8	－	0.6	13.3

第54表　土製品観察表（2）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	時期	種類	部位	特徴	高さ・径（cm）	幅・孔径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）
d37	124	95	E06	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文RL	5.3	－	1.0	23.2
d38	124	95	E09	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	4.0	－	0.8	12.8
d39	124	95	E16	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.2	－	0.7	6.8
d40	124	95	E18	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR・RL羽状	4.1	－	0.7	13.6
d41	124	95	E18	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR・RL羽状	3.0	－	0.7	7.0
d42	124	95	E18	攪乱	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、沈線、縄文LR	2.9	－	0.6	4.9
d43	125	95	E28	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文RL	4.0	－	0.8	13.3
d44	125	95	E38	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.8	－	0.8	12.2
d45	125	95	F02	Ⅱ層	縄文	円板	底部	Ⅰ類、ナデ（剥落）	4.6	－	0.8	17.0
d46	125	95	SI06	北東側堆積土	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、孔、縄文RL	3.7	孔　0.4	0.8	8.8
d47	125	95	SK34	堆積土	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、欠損、孔、縄文LR	（4.4）	孔（0.4）	0.9	7.0
d48	125	95	SK70	堆積土	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、孔、縄文LR	4.2	孔　0.3	0.7	11.6
d49	125	95	SN01	堆積土	縄文	円板	口縁	Ⅰ類、孔、縄文LR、一部口縁端部をそのまま使用	3.8	孔（0.5）	0.6	4.7
d50	125	95	E15	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、孔、縄文LR・RL羽状	4.3	孔　0.4	0.7	11.4
d51	125	95	E26	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、孔（裏面、貫通せず）、縄文LR・RL羽状	3.8	孔　0.6	0.7	10.1
d52	125	95	E06	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ～Ⅱ類、縄文LR	4.3	－	0.7	11.8
d53	125	95	E18	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ～Ⅱ類、縄文LR	2.3	－	0.5	3.0
d54	125	95	SI13	西側堆積土下部	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	3.3	－	0.8	7.8
d55	125	95	E05	Ⅳ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR・RL羽状	4.2	－	0.9	13.3
d56	125	95	E06	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR?	2.6	－	0.6	4.8
d57	125	95	E07	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR・RL羽状	5.1	－	0.8	14.7
d58	125	95	E29	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	3.8	－	0.6	7.6
d59	125	95	E37	Ⅲ層	縄文	円板	底部	Ⅱ類、欠損、沈線	（5.3）	－	1.3	16.8
d60	125	95	E28	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、沈線?（裏面）、縄文LR?	4.1	－	0.5	9.1
d61	125	95	SK38	堆積土	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、孔、ミガキ	（4.7）	孔（0.5）	0.5	3.5
d62	125	95	SK39	堆積土	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、孔、縄文LR	3.0	孔　0.4	0.7	6.2
d63	125	95	E04	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、孔、縄文LR	4.2	孔　0.6	0.8	12.9
d64	125	95	E18	Ⅱ層	古代以降	フイゴ 羽口	－	ナデ	（1.9）	（3.9）	（1.8）	7.2
d65	125	95	E37	Ⅲ層	古代以降	フイゴ 羽口	－	ナデ	（8.3）	孔（1.5）	4.1	112.0
d66	－	－	E08	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、ナデ	3.8	－	0.7	10.7
d67	－	－	E09	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	4.5	－	0.5	13.0
d68	－	－	E09	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.6	－	0.8	11.3
d69	－	－	E15	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR・RL羽状	5.3	－	0.6	15.9
d70	－	－	E16	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文RL	3.6	－	0.4	6.8
d71	－	－	E16	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.5	－	0.6	7.4
d72	－	－	E18	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR・RL羽状	4.0	－	0.5	8.8

第54表　土製品観察表（3）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	地点・層位	時期	種類	部位	特徴	高さ・径（cm）	幅・孔径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）
d73	－	－	E18	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、欠損、縄文LR	（4.2）	－	0.5	6.0
d74	－	－	E18	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、ナデ	3.0	－	0.6	7.4
d75	－	－	E24	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.7	－	0.6	8.4
d76	－	－	E28	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.9	－	0.5	9.9
d77	－	－	E29	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR・RL羽状	3.9	－	0.5	8.9
d78	－	－	E38	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	4.3	－	0.7	13.6
d79	－	－	E38	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、ナデ	4.0	－	0.5	8.7
d80	－	－	E48	Ⅰ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.6	－	0.7	8.8
d81	－	－	E49	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.5	－	0.6	8.3
d82	－	－	F01	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	3.8	－	0.6	8.9
d83	－	－	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、欠損、縄文LR	（3.6）	－	0.5	4.1
d84	－	－	調査区中央	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文LR	4.1	－	0.6	11.7
d85	－	－	調査区中央	攪乱	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文RL	4.5	－	0.8	15.6
d86	－	－	調査区	Ⅰ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、縄文RL	3.8	－	0.8	13.3
d87	－	－	E15	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、欠損、孔、縄文LR	（4.0）	孔　0.5	0.5	4.8
d88	－	－	調査区中央	Ⅰ～Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅰ類、欠損、孔、縄文LR	（4.5）	孔（0.5）	0.6	6.8
d89	－	－	E07	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR	3.4	－	0.5	5.3
d90	－	－	E08	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	3.9	－	0.7	12.8
d91	－	－	E14	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR	（3.0）	－	0.5	2.9
d92	－	－	E28	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR	（3.2）	－	0.6	5.5
d93	－	－	E29	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	4.2	－	0.6	11.2
d94	－	－	E37	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	4.0	－	0.6	10.0
d95	－	－	E37	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文RL	3.4	－	0.6	7.5
d96	－	－	E40	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、ナデ	4.6	－	0.8	16.7
d97	－	－	F21	Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR	（4.6）	－	0.6	5.0
d98	－	－	調査区中央	攪乱	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	3.4	－	0.5	7.2
d99	－	－	調査区中央	攪乱	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR	3.8	－	0.7	12.1
d100	－	－	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR	4.2	－	0.7	12.9
d101	－	－	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	3.5	－	0.7	7.0
d102	－	－	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文RL?	3.6	－	0.7	7.9
d103	－	－	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、縄文LR・RL羽状	（3.8）	－	0.6	4.8
d104	－	－	調査区	Ⅰ～Ⅲ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、縄文LR	4.4	－	0.7	12.5
d105	－	－	E06	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、孔、縄文LR	（4.6）	孔（0.5）	0.5	5.9
d106	－	－	E06	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、孔、縄文LR	（4.3）	孔　0.5	0.4	5.0
d107	－	－	E07	Ⅱ層	縄文	円板	胴部	Ⅱ類、欠損、孔、縄文LR	4.2	孔　0.5	0.6	11.6

第55表　石器観察表（1）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e1	126	96	SI08a	堆積土	石鏃	A	アスファルト付着	(2.7)	1.3	0.6	1.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e2	126	96	SI08ab	堆積土	石鏃	G	上下逆か?	4.2	1.7	0.8	4.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e3	126	96	SI08ab	堆積土	石鏃	X		(1.3)	(0.9)	0.2	1.0	赤色頁岩	古生代・北上山地
e4	126	96	SI08ab	堆積土	石篦	A		9.1	4.3	1.8	56.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e5	126	96	SI08ab	堆積土	削器	−		6.7	5.3	1.7	44.0	頁岩	古生代・北上山地
e6	126	96	SI08ab	堆積土	削器	−		8.6	12.4	2.0	204.1	頁岩	古生代・北上山地
e7	126	96	SI08ab	堆積土	楔形石核	−		4.2	5.4	1.5	27.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e8	127	96	SI08a	堆積土	石核	−		7.6	11.6	14.8	1132.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e9	127	96	SI08b	堆積土	石核	−		4.7	5.6	10.4	255.7	頁岩	古生代・北上山地
e10	127	97	SI08ab	堆積土	打製石斧	−		13.6	9.5	5.7	909.0	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e11	127	97	SI08ab	堆積土	不定形石器	Ⅱ		(3.9)	4.4	1.9	60.2	細粒閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e12	128	97	SI08a	堆積土	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品?	19.0	8.9	6.5	1068.4	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e13	128	97	SI08a	堆積土	敲磨器	ⅠA2		11.4	7.7	4.2	502.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e14	128	97	SI08a	堆積土	敲磨器	ⅡA1		10.2	7.9	6.9	693.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e15	128	97	SI08ab	堆積土	磨石	ⅡA		10.7	7.9	5.7	664.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e16	128	97	SI08a	堆積土	敲石	ⅠA		11.3	8.3	4.9	645.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e17	128	97	SI08ab	堆積土	敲石	ⅠA		10.2	9.7	4.8	621.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e18	129	97	SI08ab	堆積土	敲石	ⅠA		10.7	7.2	2.7	274.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e19	129	97	SI08ab	堆積土	敲石	ⅠA		6.0	4.7	3.2	103.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e20	129	97	SI08ab	堆積土	敲石	ⅠA		7.4	6.8	3.9	218.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e21	129	97	SI08ab	堆積土	敲石	ⅠA		10.3	(8.0)	(5.0)	389.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e22	129	97	SI08a	堆積土	敲石	ⅠB		10.4	8.5	4.1	515.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e23	129	97	SI08a	堆積土	台石	Ⅰ	敲打	13.2	10.2	6.8	998.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e24	129	97	SI08b	堆積土	台石	Ⅰ	敲打	12.8	9.4	5.1	726.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e25	130	97	SI08a	堆積土	台石	Ⅰ	磨・石棒未成品?	(10.5)	(14.5)	(10.1)	2175.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e26	130	98	SI08b	堆積土	石皿	−	磨・敲打	(19.8)	(20.6)	9.0	4775.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e27	130	98	SI08a	図示あり（床面?）	石製品	−	石冠	7.7	(9.5)	(3.4)	181.1	礫岩	新生代新第三紀　奥羽山脈
e28	131	98	SI13	堆積土	石錐	A		3.0	2.3	1.2	6.9	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e29	131	98	SI13	堆積土	石匙	A	刃部調整なし	6.2	2.7	1.1	12.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e30	131	98	SI13	堆積土上部	掻器	B		4.1	5.9	2.5	49.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e31	131	98	SI13	堆積土	石篦	A		4.3	2.0	0.9	5.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e32	131	98	SI13	堆積土	R.F.	−	縦型石匙未成品?	(4.3)	2.2	0.8	6.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（2）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e33	131	98	SI13	堆積土	R.F.	－	掻器未成品？	3.3	4.0	1.5	18.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e34	131	98	SI13	北側堆積土下部	楔形石核	－		7.4	4.1	2.3	69.0	頁岩	古生代・北上山地
e35	131	98	SI13	堆積土	楔形石核	－		4.1	3.0	1.8	21.3	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e36	132	98	SI13	堆積土	楔形石核	－		2.7	3.1	1.2	8.9	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e37	132	98	SI13	堆積土	楔形石核	－		3.6	2.0	1.5	9.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e38	132	98	SI13	堆積土	楔形石核	－		5.2	6.5	2.5	65.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e39	132	98	SI13	東側堆積土上部	石核	－		4.7	4.4	3.5	83.8	頁岩	古生代・北上山地
e40	132	99	SI13	堆積土	石核	－	残核	2.5	3.0	2.2	13.8	メノウ	新生代新第三紀・奥羽山脈
e41	132	99	SI13	堆積土	石核	－		2.1	6.5	2.0	20.9	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e42	133	99	SI13	北側堆積土下部	磨製石斧	A		(8.4)	3.9	2.5	129.7	斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e43	133	99	SI13	堆積土	磨製石斧	A		9.2	6.8	3.6	365.8	ヒン岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e44	133	99	SI13	堆積土	磨製石斧	A		13.7	5.5	1.5	147.3	粘板岩	古生代・北上山地
e45	133	99	SI13	堆積土	磨製石斧	不明		(4.8)	2.9	0.9	13.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e46	133	99	SI13	床面	石斧未成品	－	打斧相当	14.8	9.1	4.8	848.3	砂岩	古生代・北上山地
e47	133	99	SI13	堆積土	石斧未成品	－	打斧相当	19.2	6.6	4.8	916.1	斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e48	134	99	SI13	堆積土	不定形石器	Ⅰ		9.1	9.6	7.7	711.1	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e49	134	99	SI13	南側堆積土下部	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	10.0	10.8	2.8	411.4	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e50	134	99	SI13	堆積土	不定形石器	Ⅲ		(6.2)	2.6	1.1	16.8	頁岩	古生代・北上山地
e51	134	99	SI13	堆積土	不定形石器	Ⅲ		8.0	8.5	3.3	199.4	砂岩	古生代・北上山地
e52	134	100	SI13	堆積土	敲磨器	ⅠA1		6.3	5.4	2.8	125.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e53	134	100	SI13	北側堆積土上部	敲磨器	ⅡA2	敲打痕に赤色顔料付着	7.3	6.6	5.3	335.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e54	134	100	SI13	西側堆積土下部	磨石	ⅠA		8.2	(6.8)	3.7	243.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e55	135	100	SI13	堆積土	磨石	ⅠB		10.3	6.9	3.3	338.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e56	135	100	SI13	堆積土	磨石	ⅡA		11.6	8.2	6.8	796.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e57	135	100	SI13	堆積土	敲石	ⅠA		8.1	5.7	3.7	271.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e58	135	100	SI13	堆積土	敲石	ⅠA		9.9	7.2	3.9	344.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e59	135	100	SI13	堆積土	敲石	ⅠA		10.1	7.2	4.2	402.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e60	135	100	SI13	西側堆積土下部	敲石	ⅠC		8.9	7.3	3.7	266.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e61	135	100	SI13	西側堆積土下部	敲石	ⅡA		10.9	9.1	6.0	739.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e62	135	100	SI13	堆積土	敲石	ⅡA		8.3	7.4	5.0	303.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e63	135	100	SI13	堆積土	敲石	ⅡA		7.8	5.6	5.1	305.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e64	136	100	SI13	堆積土	敲石	ⅡB		10.1	8.1	6.3	691.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（3）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e65	136	100	SI13	東側堆積土下部	敲石	ⅡB		6.6	6.4	(5.4)	303.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e66	136	100	SI13	北側堆積土下部	敲石	ⅡC		8.1	6.1	5.5	411.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e67	136	100	SI13	堆積土	敲石	ⅢA		8.9	5.7	5.1	289.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e68	136	100	SI13	堆積土	敲石	ⅢA		11.4	5.6	3.8	317.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e69	136	100	SI13	堆積土	敲石	ⅢA		12.2	6.2	5.1	473.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e70	136	101	SI13	堆積土	敲石	ⅢA		(11.9)	(9.1)	4.8	541.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e71	136	101	SI13	堆積土	敲石	ⅢA		(9.7)	8.7	(6.3)	544.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e72	137	101	SI13	堆積土	敲石	ⅢA		12.2	7.4	4.6	508.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e73	137	101	SI13	炉内堆積土	敲石	ⅢB		12.0	6.8	3.9	419.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e74	137	101	SI13	炉内堆積土	敲石	ⅢB		9.1	5.8	3.5	250.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e75	137	101	SI13	堆積土	敲石	ⅢC		(9.6)	(7.6)	(5.4)	439.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e76	137	101	SI13	堆積土	敲石	ⅢC		10.5	6.1	4.5	392.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e77	137	101	SI13	北側堆積土上部	台石	Ⅱ	敲打	(18.8)	(12.6)	(11.2)	2482.3	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e78	138	101	SI13	堆積土	台石	Ⅱ	敲打	(10.3)	(8.6)	(8.1)	910.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e79	138	101	SI13	図示あり（堆積土）	台石	Ⅰ	磨	(38.0)	33.9	13.8	14250.0	石英脈	中生代白亜紀・北上山地
e80	138	101	SI13	堆積土	スタンプ形石器	－	石棒転用？	6.5	6.8	4.7	298.7	斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e81	138	101	SI13	堆積土	円板状石器	A		5.4	4.6	1.4	57.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e82	138	101	SI13	東側堆積土	円板状石器	A		6.1	5.3	1.1	50.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e83	138	101	SI13	堆積土	有孔石製品	－		(6.9)	5.1	(1.6)	40.7	斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e84	139	102	P54（SB01）	堆積土	石斧未成品	－	打斧相当	17.4	8.9	5.1	936.1	細粒閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e85	139	102	P228(SB01)	堆積土	不定形石器	Ⅰ		5.6	8.8	6.5	319.3	細粒閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e86	139	102	P59（SB01）	堆積土	磨石	ⅠA		11.7	9.6	6.1	854.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e87	139	102	P60（SB01）	堆積土	敲石	ⅠA		9.5	6.8	2.4	227.8	斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e88	139	102	P60（SB01）	堆積土	敲石	ⅡB		7.6	6.0	4.9	322.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e89	139	102	P137(SB02)	堆積土	石棒	B		6.8	3.7	1.0	217.4	粘板岩	古生代・北上山地
e90	139	102	P132(SB03)	堆積土	敲石	ⅡA		9.3	8.2	5.5	511.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e91	140	102	P27（SB04）	堆積土	石鏃	G		(2.5)	1.4	0.6	2.4	赤色頁岩	古生代・北上山地
e92	140	102	P51（SB04）	堆積土	磨製石斧	A		13.2	6.6	5.2	664.8	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e93	140	102	SD02	堆積土	石鏃	A		3.0	1.3	0.6	1.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e94	140	102	SD02	堆積土	楔形石核	－		4.8	5.1	1.7	45.7	頁岩	古生代・北上山地
e95	140	102	SD02	堆積土	敲磨器	ⅠA1		9.0	7.8	4.8	470.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e96	140	102	SD02	堆積土	磨石	ⅠA		11.0	8.0	5.1	648.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（4）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e97	140	102	SD02	堆積土	敲石	ⅢA		9.5	6.1	5.5	450.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e98	140	102	SD02	堆積土	敲石	ⅢC		12.2	7.1	6.6	761.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e99	140	102	SD02	堆積土	異形石器	－		2.5	2.3	0.7	3.2	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e100	141	102	SK04	堆積土	敲磨器	ⅠA3		9.9	7.6	4.4	391.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e101	141	103	SK04	堆積土	敲磨器	ⅡA1		9.9	8.2	5.7	634.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e102	141	103	SK06	堆積土	敲石	ⅢA		11.2	6.8	3.7	398.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e103	141	103	SK06	堆積土	敲石	ⅢA		13.0	7.2	5.5	705.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e104	141	103	SK11	堆積土	敲石	ⅠA		11.2	7.9	4.4	530.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e105	141	103	SK12	堆積土	石核	－		11.6	12.2	3.1	552.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e106	142	103	SK13	堆積土上部	石篦	A		7.1	5.2	2.2	63.7	頁岩	古生代・北上山地
e107	142	103	SK20	堆積土	磨石	ⅠA		9.9	7.8	4.6	453.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e108	142	103	SK20	堆積土	敲石	ⅢA		9.9	6.0	4.0	335.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e109	142	103	SK24	堆積土	F	－		12.2	6.4	1.7	97.5	砂岩	古生代・北上山地
e110	143	103	SK26	底面	敲石	ⅡB		10.5	7.8	7.3	687.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e111	143	103	SK27	堆積土	敲石	ⅢA		10.2	6.0	3.4	263.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e112	143	103	SK30	堆積土	削器	－		(3.6)	(3.7)	1.4	15.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e113	143	103	SK30	堆積土	楔形石核	－		6.6	8.3	1.6	89.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e114	143	104	SK30	堆積土	石棒	A		(5.7)	(2.3)	(1.1)	13.6	粘板岩	古生代・北上山地
e115	143	104	SK32	堆積土	石核	－		3.9	8.0	6.9	207.2	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e116	143	104	SK32	堆積土	敲石	A		(5.5)	(8.5)	(3.9)	163.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e117	144	104	SK34	堆積土	U.F.	－		7.8	3.2	1.5	23.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e118	144	104	SK34	堆積土	敲磨器	ⅢA2		(12.9)	6.9	3.4	295.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e119	144	104	SK34	堆積土	敲石	ⅠA		10.2	7.2	4.6	425.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e120	144	104	SK34	堆積土	敲石	ⅡA		9.1	7.7	6.2	516.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e121	144	104	SK34	堆積土	台石	Ⅰ	敲打	15.3	10.6	6.3	753.3	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e122	144	104	SK34	堆積土	石皿	－	磨・敲打	(6.9)	(17.5)	5.0	953.5	ヒン岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e123	145	104	SK38	堆積土	打製石斧	－		(9.2)	(6.2)	(2.3)	154.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e124	145	104	SK38	堆積土	敲石	ⅠA		8.7	7.2	3.9	318.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e125	145	104	SK38	3層	敲石	ⅡA		10.2	8.2	6.9	750.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e126	145	104	SK38	堆積土	敲石	ⅡB		(10.1)	5.4	(5.8)	321.1	ヒン岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e127	145	104	SK38	堆積土	敲石	ⅢB		9.8	5.5	4.3	287.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e128	145	105	SK39	堆積土	掻器	B		5.2	5.8	1.4	40.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（5）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e129	145	105	SK39	3層	削器	－		3.2	2.6	1.2	7.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e130	145	105	SK39	堆積土	石核	－		1.7	4.0	2.8	16.3	玉ずい	新生代新第三紀・奥羽山脈
e131	146	105	SK39	堆積土	不定形石器	Ⅲ		3.7	2.6	0.9	5.0	メノウ	新生代新第三紀・奥羽山脈
e132	146	105	SK39	堆積土	敲磨器	ⅠA1		10.5	7.6	4.9	498.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e133	146	105	SK39	堆積土	敲磨器	ⅠC1	赤色顔料付着	8.8	6.4	4.9	415.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e134	146	105	SK39	堆積土	敲石	ⅢA		12.0	7.8	4.7	488.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e135	146	105	SK39	堆積土	敲石	ⅢB		14.6	6.3	4.8	603.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e136	146	105	SK39	堆積土	敲石	B		(5.5)	8.0	7.0	494.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e137	147	105	SK39	3層	台石	Ⅰ	磨	13.2	9.1	5.2	832.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e138	147	105	SK39	堆積土	円板状石器	A		4.7	4.1	1.2	32.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e139	147	105	SK39	堆積土	円板状石器	A		4.8	4.6	1.3	42.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e140	147	105	SK39	堆積土	円板状石器	B		4.4	3.6	1.3	23.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e141	147	105	SK39	堆積土	円板状石器	B		4.4	4.3	1.4	40.4	頁岩	古生代・北上山地
e142	147	105	SK39	堆積土	円板状石器	B		4.6	5.0	1.6	53.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e143	147	105	SK40	堆積土	石核	－		8.3	5.6	3.0	92.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e144	148	106	SK42	堆積土	楔形石核	－		2.5	3.0	1.7	10.0	赤色頁岩	古生代・北上山地
e145	148	106	SK42	堆積土	楔形石核	－		2.9	3.6	2.0	16.1	メノウ	新生代新第三紀・奥羽山脈
e146	148	106	SK43	堆積土	敲石	ⅠA		10.4	9.7	4.6	555.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e147	148	106	SK44	堆積土	打製石斧	－		14.5	7.5	3.1	354.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e148	148	106	SK44	堆積土	石棒	A		(5.9)	(3.1)	(1.2)	18.1	粘板岩	古生代・北上山地
e149	148	106	SK45	堆積土	石鏃	Fb		(4.3)	1.2	0.4	1.3	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e150	148	106	SK59	堆積土	敲石	ⅡA		9.4	7.2	5.9	451.4	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e151	148	106	SK59	堆積土	台石	Ⅰ	磨・敲打	24.2	15.7	10.8	5230.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e152	149	106	SK60	堆積土	磨石	ⅠA		8.8	6.7	4.3	403.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e153	149	106	SK71	堆積土	削器	－		10.1	12.0	2.8	329.2	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e154	149	106	SK71	堆積土	楔形石核	－		3.0	2.5	1.2	7.8	黒曜石	小赤沢
e155	149	106	SK71	堆積土	楔形石核	－		4.3	2.9	1.1	14.7	黒曜石	小赤沢
e156	149	106	SK71	堆積土	楔形石核	－		5.0	4.2	1.3	24.2	黒曜石	小赤沢
e157	149	106	SK71	堆積土	石棒	B		(10.9)	(4.7)	(1.4)	93.7	粘板岩	古生代・北上山地
e158	150	106	SN01	1層（焼土層）	石鏃	Fb		(1.4)	1.3	0.3	0.6	頁岩	古生代・北上山地
e159	150	106	SN01	1層（焼土層）	石錐	B		3.6	0.8	0.6	1.5	頁岩	古生代・北上山地
e160	150	106	SN01	4層（炭層）	石篦	A		6.1	3.4	1.6	28.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（6）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e161	150	107	SN01	堆積土	石核	－		5.7	5.7	4.7	107.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e162	150	107	SN01	堆積土	敲石	ⅢA		11.2	10.1	6.5	556.8	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e163	151	107	SN01	2層（炭層）	台石	Ⅰ	敲打	（10.9）	（15.8）	15.0	3328.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e164	151	107	SN01	2層（炭層）	石皿	－	磨・中高	（12.7）	13.9	8.0	862.7	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e165	151	107	SN01	3層（焼土層）	円板状石器	A		（5.8）	（3.3）	2.1	56.1	細粒閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e166	151	107	SN01	堆積土	円板状石器	A		5.6	6.2	2.3	104.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e167	151	107	SN01	堆積土	円板状石器	A		5.4	4.8	1.8	64.6	砂岩	古生代・北上山地
e168	151	107	SN01・05	4層（炭層）・1層（炭層）	石棒	A		36.7	3.2	1.8	271.3	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e169	152	107	SN04	堆積土	石鏃	A		（3.0）	1.4	0.7	2.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e170	152	107	SN04	堆積土	楔形石核	－		2.3	2.6	1.2	4.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e171	152	107	SN06	堆積土	楔形石核	－		3.8	3.1	0.9	7.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e172	152	107	SX04	堆積土	楔形石核	－		3.1	2.6	1.0	8.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e173	152	107	SX04	堆積土	石皿	－	磨	（10.0）	（10.9）	2.9	368.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e174	152	107	P20	堆積土	石鏃	E		（2.9）	2.0	0.5	2.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e175	152	107	P22	堆積土	掻器	B		5.5	4.9	1.2	28.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e176	152	107	P115・117	堆積土	敲石	ⅢA		（8.1）	5.5	（3.7）	208.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e177	153	108	E29	Ⅲ層	石鏃	A		3.3	1.2	0.6	1.4	頁岩	古生代・北上山地
e178	153	108	E49	Ⅱ層	石鏃	A	アスファルト付着	3.7	1.4	0.6	2.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e179	153	108	F21	Ⅲ層	石鏃	C		3.8	1.2	0.7	2.0	黒曜石	小赤沢
e180	153	108	E8	Ⅱ層	石鏃	D		3.6	1.1	0.7	2.3	頁岩	古生代・北上山地
e181	153	108	E28	Ⅲ層	石鏃	D		2.6	1.1	0.4	1.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e182	153	108	E16	Ⅱ層	石鏃	E		2.4	1.4	0.4	1.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e183	153	108	E7	Ⅲ層	石鏃	E		4.0	2.2	0.8	5.2	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e184	153	108	E29	堆積土	石鏃	E		3.2	2.0	0.4	2.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e185	153	108	調査区中央	Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	E		3.1	1.5	0.5	1.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e186	153	108	SI01	掘方	石鏃	Fb		2.3	1.6	0.3	0.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e187	153	108	E7	Ⅲ層	石鏃	Fb		2.4	1.1	0.3	0.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e188	153	108	E40	Ⅲ層	石鏃	Fb		2.2	1.2	0.4	0.8	赤色頁岩	古生代・北上山地
e189	153	108	E28	Ⅲ層	石鏃	Fc		3.9	2.0	0.5	2.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e190	153	108	調査区	Ⅰ層	石鏃	G		（3.8）	1.3	0.9	4.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e191	153	108	E49	Ⅱ層	石鏃	H		4.4	2.7	1.0	10.2	頁岩	古生代・北上山地
e192	153	108	E14	Ⅱ層	尖頭器	－		（2.6）	（2.1）	0.6	2.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（7）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e193	153	108	E06	Ⅱ層	尖頭器	−		(2.7)	(2.6)	0.4	2.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e194	153	108	調査区南側	Ⅰ層	尖頭器	−		(4.8)	1.5	0.8	4.2	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e195	153	108	SI06	北側堆積土	石錐	A		(3.5)	2.1	0.7	3.3	頁岩	古生代・北上山地
e196	153	108	E06	Ⅱ層	石錐	A		(4.7)	(3.0)	0.7	5.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e197	153	108	E40	Ⅲ層	石錐	A		5.8	4.2	1.6	15.7	頁岩	古生代・北上山地
e198	154	108	E40	Ⅲ層	石錐	A		(7.5)	5.0	2.3	73.7	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e199	154	108	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	石錐	A		(2.6)	1.1	0.4	0.9	頁岩	古生代・北上山地
e200	154	108	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	石錐	A		5.4	1.9	0.8	3.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e201	154	108	E18	Ⅲ層	石匙	A		6.0	2.2	0.7	8.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e202	154	108	E01	Ⅲ層	石匙	B		4.7	5.3	1.2	23.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e203	154	108	E16	Ⅲ層	石匙	B		(4.4)	(3.4)	1.1	8.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e204	154	109	E23	撹乱	掻器	A		4.5	3.2	1.7	20.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e205	154	109	E39	Ⅲ層	掻器	A		7.8	4.7	2.8	94.2	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e206	155	109	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	掻器	A		4.6	4.2	1.1	20.4	頁岩	古生代・北上山地
e207	155	109	SI07	堆積土	掻器	B		5.2	5.8	1.9	48.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e208	155	109	E13	Ⅲ層	掻器	B		7.3	(4.8)	1.0	28.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e209	155	109	E16	Ⅱ層	掻器	B		4.0	3.8	0.9	15.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e210	155	109	E08	Ⅱ層	掻器	B		6.1	7.8	2.0	102.7	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e211	155	109	E09	Ⅱ層	掻器	B		6.0	4.9	1.2	32.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e212	156	109	E10	Ⅱ層	掻器	B		4.0	4.0	1.1	14.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e213	156	109	F43	Ⅲ層	掻器	B		2.7	3.4	1.2	12.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e214	156	110	SI05	堆積土	掻器	C		(4.5)	5.1	1.4	28.7	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e215	156	110	E05	Ⅱ層	掻器	C		5.7	(2.5)	1.8	21.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e216	156	110	F31	Ⅲ層	掻器	C		(6.1)	4.3	2.3	69.3	頁岩	古生代・北上山地
e217	156	110	E38	Ⅱ層	石篦	A		10.6	4.7	2.6	108.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e218	157	110	E38	Ⅱ層	石篦	A		11.6	4.0	2.4	137.0	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e219	157	110	E10	Ⅱ層	石篦	A		8.4	4.9	2.4	70.5	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e220	157	110	E50	Ⅱ層	石篦	A		6.5	4.1	1.7	37.9	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e221	158	110	E50	Ⅱ層	石篦	A		5.9	2.2	1.0	14.3	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e222	158	111	F21	Ⅲ層	石篦	A		6.8	4.5	1.7	45.6	頁岩	古生代・北上山地
e223	158	111	F41	Ⅲ層	石篦	A		(6.0)	3.1	1.4	22.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e224	158	111	F42	Ⅲ層	石篦	A		7.6	2.7	1.2	25.0	頁岩	古生代・北上山地

第55表　石器観察表（8）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e225	158	111	D19・20	Ⅱ～Ⅲ層	石篦	B		9.7	6.5	3.0	150.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e226	159	111	E16	Ⅱ層	削器	−		8.7	5.6	1.0	54.2	赤紫色凝灰岩	古生代デボン紀・一関市東山町北部
e227	159	111	E07	Ⅱ層	削器	−		6.5	5.1	1.3	21.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e228	159	111	E07	Ⅱ層	削器	−		8.0	5.1	1.5	35.9	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e229	159	111	E08	Ⅱ層	削器	−		11.3	4.1	0.8	40.2	頁岩	古生代・北上山地
e230	160	112	E18	Ⅱ層	削器	−		9.6	3.9	2.3	60.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e231	160	112	E28	Ⅲ層	削器	−		(4.2)	2.9	0.9	9.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e232	160	112	E28	Ⅲ層	削器	−		(3.9)	3.0	0.8	9.8	赤色頁岩	古生代・北上山地
e233	160	112	E39	Ⅲ層	削器	−		5.2	5.0	1.2	21.2	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e234	160	112	E49	Ⅱ層	削器	−	尖頭器未製品？	6.6	2.2	1.0	13.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e235	160	112	E10	Ⅱ層	削器	−		8.5	9.7	1.4	116.6	頁岩	古生代・北上山地
e236	160	112	F21	Ⅲ層	削器	−		(3.3)	2.3	0.5	4.4	黒曜石	小赤沢
e237	161	112	SI04	北西側堆積土	U.F.	−		9.0	4.1	1.9	42.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e238	161	112	E39	Ⅲ層	U.F.	−		7.4	6.1	1.8	47.5	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e239	161	113	SI06	床面	F	−		11.7	8.7	1.3	148.0	粘板岩	古生代・北上山地
e240	161	113	E07	Ⅱ層	F	−		2.2	2.2	0.9	1.7	黒曜石	小赤沢
e241	161	113	調査区	堆積土	F	−		3.4	3.0	0.7	5.7	黒曜石	小赤沢
e242	162	113	E01	撹乱	楔形石核	−		5.7	6.5	2.6	104.5	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e243	162	113	E16	Ⅱ層	楔形石核	−		3.4	3.3	1.3	16.3	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e244	162	113	E37	Ⅲ層	楔形石核	−		5.3	4.7	2.6	66.6	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e245	162	113	E37	Ⅲ層	楔形石核	−		4.9	4.0	1.5	26.0	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e246	162	113	E18	Ⅲ層	楔形石核	−		6.0	4.9	1.5	43.6	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e247	163	113	E40	Ⅳ層上面	楔形石核	−		4.8	3.5	2.0	31.6	赤色頁岩	古生代・北上山地
e248	163	113	E50	Ⅱ層	楔形石核	−		2.6	2.7	0.9	5.3	黒曜石	小赤沢
e249	163	113	F21	Ⅲ層	楔形石核	−		3.0	3.2	1.2	10.5	メノウ	新生代新第三紀・奥羽山脈
e250	163	113	F区	Ⅲ層	楔形石核	−		3.4	3.8	1.8	21.5	赤色頁岩	古生代・北上山地
e251	163	114	E04	Ⅱ層	石核	−		7.1	9.1	5.4	375.3	頁岩	古生代・北上山地
e252	163	114	E14	Ⅱ層	石核	−		11.7	8.5	3.0	358.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e253	164	114	E06	Ⅱ層	石核	−		7.5	10.2	7.1	588.2	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e254	164	114	E10	Ⅱ層	石核	−	石斧未成品？	(15.2)	9.8	5.9	1003.3	砂岩	古生代・北上山地
e255	164	114	E10	Ⅱ層	石核	−		6.9	7.4	6.9	270.3	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e256	165	115	E30	Ⅲ層	石核	−	石斧未成品？	11.4	15.7	7.9	1241.7	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地

第55表　石器観察表（9）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e257	165	115	E40	Ⅲ層	石核	－		10.6	7.3	7.6	570.2	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e258	166	115	F21	Ⅲ層	石核	－	石斧未成品？	12.6	10.3	5.8	880.4	砂岩	古生代・北上山地
e259	166	116	F43	Ⅲ層	石核	－		6.0	9.0	7.7	524.9	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e260	166	116	E16	Ⅱ層	石鏃	－		11.1	6.6	1.0	62.0	赤紫色凝灰岩	古生代デボン紀・一関市東山町北部
e261	166	116	F01	Ⅱ層	石鏃	－		18.0	8.5	1.9	356.9	粘板岩	古生代・北上山地
e262	166	116	F41	Ⅲ層	石鏃	－		13.0	11.2	2.2	348.1	赤紫色凝灰岩	古生代デボン紀・一関市東山町北部
e263	167	116	E22	撹乱	打製石斧	－		13.0	6.8	3.8	382.6	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e264	167	116	E05	Ⅱ層	打製石斧	－		11.6	5.4	2.8	141.4	頁岩	中生代・北上山地
e265	167	116	E07	Ⅱ層	打製石斧	－		9.8	7.9	1.3	109.1	片岩	古生代・北上山地
e266	167	117	E27	撹乱	打製石斧	－		10.7	5.4	2.4	172.5	頁岩	中生代・北上山地
e267	167	117	E08	Ⅱ層	打製石斧	－		10.5	7.2	3.6	341.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e268	167	117	E18	Ⅲ層	打製石斧	－		9.7	6.0	3.3	175.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e269	167	117	E38	Ⅱ層	打製石斧	－		12.2	8.0	3.5	335.2	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e270	168	117	E40	Ⅲ層	打製石斧	－		9.4	7.2	4.1	301.4	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e271	168	117	F01	Ⅲ層	打製石斧	－		10.8	7.8	4.9	402.3	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e272	168	117	F01	Ⅱ層	打製石斧	－		(9.2)	7.6	4.7	418.9	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e273	168	117	F01	Ⅱ層	打製石斧	－		8.7	4.9	2.1	101.4	頁岩	中生代・北上山地
e274	168	117	F02	Ⅱ層	打製石斧	－		(12.6)	10.0	3.1	519.0	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e275	168	117	F02	Ⅱ層	打製石斧	－		(10.0)	7.9	3.3	319.5	頁岩	中生代・北上山地
e276	169	117	F32	Ⅲ層	打製石斧	－		25.6	10.3	4.1	1319.4	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e277	169	118	F42	Ⅳ層	打製石斧	－	破損品	(9.9)	(6.1)	(3.8)	197.3	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e278	169	118	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	打製石斧	－		10.1	7.1	2.0	166.7	頁岩	中生代・北上山地
e279	169	118	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	打製石斧	－		10.4	5.5	2.0	194.6	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e280	169	118	調査区	Ⅰ層	打製石斧	－		8.3	3.7	2.2	70.2	頁岩	中生代・北上山地
e281	169	118	E15	Ⅲ層	磨製石斧	A		(9.5)	4.8	2.4	146.1	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e282	169	118	E06	Ⅱ層	磨製石斧	A		12.8	5.4	2.7	260.6	砂岩	古生代・北上山地
e283	169	118	E26	Ⅱ層	磨製石斧	A		10.8	4.6	2.7	193.6	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e284	170	118	E30	Ⅲ層	磨製石斧	A		8.2	6.7	3.3	206.0	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e285	170	118	F41	Ⅲ層	磨製石斧	A		16.0	4.1	3.1	299.2	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e286	170	118	調査区中央	Ⅱ～Ⅲ層	磨製石斧	A		11.2	3.3	2.2	129.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e287	170	118	調査区南側	Ⅰ層	磨製石斧	A		5.3	2.3	0.8	11.4	蛇紋岩	古生代オルドビス紀・早池峰山周辺

第55表　石器観察表（10）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e288	170	118	E29	Ⅲ層	磨製石斧	B		（6.1）	7.2	3.1	139.3	頁岩	中生代・北上山地
e289	170	118	E04	Ⅱ層	磨製石斧	不明		（9.4）	（5.1）	（3.8）	242.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e290	170	118	E10	Ⅱ層	磨製石斧	不明		（10.2）	5.9	2.4	191.6	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e291	170	118	E50	Ⅱ層	磨製石斧	不明		（10.4）	4.5	3.4	226.4	頁岩	中生代・北上山地
e292	170	118	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	磨製石斧	不明		11.6	5.2	3.6	321.0	蛇紋岩	古生代オルドビス紀・早池峰山周辺
e293	171	118	E37	Ⅲ層	石斧未成品	－		（11.0）	（7.0）	3.4	181.6	頁岩	中生代・北上山地
e294	171	119	E49	Ⅱ層	石斧未成品	－		13.3	5.9	4.1	405.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e295	171	119	E10	Ⅱ層	石斧未成品	－		13.3	6.1	5.3	475.6	細粒閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e296	171	119	E10	Ⅱ層	石斧未成品	－	磨斧相当	15.2	6.3	4.0	451.3	砂岩	古生代・北上山地
e297	171	119	E30	Ⅲ層	石斧未成品	－		（14.9）	6.8	4.0	578.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e298	171	119	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	石斧未成品？	－	磨斧相当	11.3	5.3	3.3	288.8	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e299	172	119	E06	Ⅱ層	礫器	－	打斧未成品？	（12.0）	9.3	（5.9）	895.6	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e300	172	119	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	礫器	－	打斧未成品？	12.1	8.0	4.9	588.3	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e301	172	119	SI01	床面	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	13.0	6.2	3.7	394.9	砂岩	古生代・北上山地
e302	172	119	E06	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	（9.2）	9.6	3.8	508.8	砂岩	古生代・北上山地
e303	172	119	E06	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	12.8	4.9	1.7	163.0	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e304	172	119	E16	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	12.0	7.8	6.1	836.4	砂岩	古生代・北上山地
e305	173	120	E38	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	磨斧未成品？	（11.0）	5.3	1.6	182.3	細粒閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e306	173	120	E09	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	打斧未成品？	10.2	6.4	2.4	185.8	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e307	173	120	E29	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	10.3	7.1	4.2	438.4	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e308	173	120	E29	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	11.6	7.3	3.6	536.7	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e309	173	120	E29	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	磨斧未成品？	（13.1）	（6.8）	2.6	247.1	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e310	173	120	E39	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	16.9	9.1	3.5	640.2	ヒン岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e311	173	120	E40	Ⅳ層上面	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	10.2	6.7	4.3	319.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e312	173	120	E40	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	11.4	7.0	5.1	572.3	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e313	174	120	E50	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	10.7	7.2	4.2	296.4	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e314	174	120	E50	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	14.6	5.6	2.8	347.0	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e315	174	121	F01	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	12.0	7.8	5.5	516.3	頁岩	中生代・北上山地
e316	174	121	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	石斧未成品？	13.0	10.8	5.3	902.4	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e317	174	121	E07	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石製品未成品？	10.2	6.9	4.4	434.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（11）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e318	174	121	E08	Ⅱ層	不定形石器	Ⅱ	石棒未成品？	8.9	3.5	2.1	118.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e319	174	121	E50	Ⅰ層	不定形石器	Ⅱ	石製品未成品？	9.3	5.8	1.2	98.1	頁岩	中生代・北上山地
e320	174	121	F01	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石棒？石製品の未成品	8.7	4.9	1.0	47.0	粘板岩	古生代・北上山地
e321	175	121	F21	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ	石棒片？	(9.5)	(14.3)	10.5	897.1	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e322	175	121	E39	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ		(19.8)	10.1	7.5	2160.0	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e323	175	121	E40	Ⅲ層	不定形石器	Ⅱ		14.3	11.6	5.3	1042.6	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e324	175	121	SI05	堆積土	不定形石器	Ⅲ		3.4	2.7	0.5	3.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e325	176	122	E06	Ⅱ層	敲磨器	ⅠA1		11.0	9.1	4.5	621.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e326	176	122	E16	Ⅱ層	敲磨器	ⅠA1		11.3	9.0	3.2	418.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e327	176	122	E07	Ⅱ層	敲磨器	ⅠA1		9.6	7.4	3.3	355.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e328	176	122	E39	Ⅲ層	敲磨器	ⅠA1		8.7	7.9	4.4	403.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e329	176	122	E39	Ⅲ層	敲磨器	ⅠA1		10.3	7.9	4.8	464.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e330	176	122	F41	Ⅲ層	敲磨器	ⅠA1		10.1	8.0	4.1	468.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e331	176	122	F02	Ⅱ層	敲磨器	ⅠA1		9.5	8.5	4.0	403.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e332	177	122	E08	Ⅱ層	敲磨器	ⅠA3		10.0	7.5	5.2	545.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e333	177	122	F21	Ⅲ層	敲磨器	ⅠA3		8.5	7.1	3.9	311.3	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e334	177	123	E06	Ⅱ層	敲磨器	ⅠC1		10.5	8.6	4.6	532.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e335	177	122	E50	Ⅰ層	敲磨器	ⅡA1		10.3	7.2	5.4	567.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e336	177	122	E15	Ⅱ層	敲磨器	ⅡA3		8.0	5.4	4.4	260.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e337	177	122	E38	Ⅱ層	敲磨器	ⅡA3		8.9	6.4	4.6	316.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e338	177	122	E06	Ⅱ層	敲磨器	ⅢA1		9.6	6.2	4.5	387.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e339	177	123	E07	Ⅲ層	敲磨器	ⅢA1		12.9	(7.1)	6.5	865.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e340	178	123	F21	Ⅲ層	敲磨器	ⅢA1		11.4	6.9	4.5	456.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e341	178	123	E06	Ⅲ層・遺物集中	敲磨器	ⅢA3		13.9	8.3	5.1	841.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e342	178	123	E06	Ⅲ層	敲磨器	ⅢA3	磨製石斧の未成品？	12.3	5.5	2.7	276.5	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e343	178	123	E39	Ⅲ層	敲磨器	ⅢA3		11.5	7.4	3.6	454.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e344	178	123	E39	Ⅱ層	敲磨器	ⅢA3		12.4	7.0	3.6	511.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e345	178	123	E30	Ⅲ層	敲磨器	ⅢA3		11.6	6.2	4.4	489.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e346	178	123	SI01	カマド	敲磨器	ⅢB2		(8.2)	6.4	(4.1)	277.4	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e347	179	123	E15	Ⅱ層	敲磨器	ⅢB3		13.5	5.6	4.7	505.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e348	179	123	E05	Ⅱ層	敲磨器	ⅢC1		10.6	6.8	3.7	368.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e349	179	123	E08	Ⅱ層	敲磨器	ⅢC1		10.2	5.6	2.7	204.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（12）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e350	179	123	SI06	掘方	敲磨器	A1		（6.5）	（8.4）	4.3	257.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e351	179	123	E23	Ⅱ層	磨石	ⅠA		8.4	7.8	5.0	453.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e352	179	123	E06	Ⅲ層	磨石	ⅠA		8.8	6.7	2.9	233.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e353	179	124	E16	Ⅲ層	磨石	ⅠA		12.2	9.8	6.0	994.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e354	180	124	E08	Ⅱ層	磨石	ⅠA		（11.0）	9.0	3.7	471.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e355	180	124	E18	Ⅱ層	磨石	ⅠA		7.9	6.3	3.1	239.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e356	180	124	E39	堆積土	磨石	ⅠA	ベンガラを磨った？	9.9	7.3	4.6	507.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e357	180	124	E49	Ⅱ層	磨石	ⅠA		7.8	5.6	2.6	153.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e358	180	124	E50	Ⅱ層	磨石	ⅠA	台石の可能性あり	14.4	13.1	5.4	1332.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e359	180	124	F01	Ⅱ層	磨石	ⅠA		9.0	8.0	4.2	380.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e360	180	124	F21	Ⅲ層	磨石	ⅠA		10.3	8.0	4.6	506.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e361	181	124	F21	Ⅲ層	磨石	ⅠA		12.2	10.9	3.0	608.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e362	181	124	F02	Ⅱ層	磨石	ⅠA		7.5	6.0	3.0	184.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e363	181	124	F02	Ⅱ層	磨石	ⅠA		13.3	9.2	5.4	991.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e364	181	124	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	磨石	ⅠA		11.8	8.5	1.9	269.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e365	181	125	E30	Ⅴ層上面	磨石	ⅠC		9.2	9.3	3.8	127.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e366	181	125	E38	Ⅱ層	磨石	ⅡA		9.9	7.3	5.6	575.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e367	181	125	E30	Ⅴ層上面	磨石	ⅡA		9.4	7.8	6.1	637.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e368	181	125	F21	Ⅲ層	磨石	ⅡA		10.0	8.1	5.9	642.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e369	182	125	E04	Ⅱ層	磨石	ⅢA		13.8	7.4	2.6	346.1	流紋岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e370	182	125	F21	Ⅲ層	磨石	ⅢA		10.9	6.7	4.8	532.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e371	182	125	F21	Ⅲ層	磨石	ⅢA		16.1	5.9	4.2	532.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e372	182	125	E06	Ⅲ層	磨石	ⅢB		14.5	8.4	4.1	754.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e373	182	125	E07	Ⅱ層	磨石	ⅢB		8.4	9.0	5.0	373.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e374	182	125	E39	Ⅱ層	磨石	ⅢB		13.8	8.5	5.2	877.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e375	182	125	E10	Ⅱ層	磨石	ⅢB		14.1	6.6	4.8	527.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e376	183	125	SI03	堆積土	敲石	ⅠA		9.5	7.4	4.0	363.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e377	183	125	SI04	硬質面範囲内	敲石	ⅠA		7.1	5.3	4.4	239.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e378	183	126	E06	Ⅱ層	敲石	ⅠA		8.1	7.9	4.8	352.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e379	183	126	E06	Ⅲ層	敲石	ⅠA		8.9	6.5	3.8	310.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e380	183	126	E39	堆積土	敲石	ⅠA		8.1	7.5	（4.7）	367.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e381	183	126	F01	Ⅲ層	敲石	ⅠA		9.6	7.7	5.0	414.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（13）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e382	183	126	E15	Ⅱ層	敲石	ⅠC		7.3	5.8	3.0	165.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e383	183	126	E15	Ⅲ層	敲石	ⅠC		10.5	8.1	4.0	425.0	花崗斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e384	183	126	E06	Ⅲ層	敲石	ⅠC		10.2	6.7	3.9	393.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e385	183	126	E06	Ⅱ層	敲石	ⅠC		9.1	8.1	3.1	358.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e386	184	126	E06	Ⅲ層	敲石	ⅠC		8.8	7.1	3.5	283.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e387	184	126	E07	Ⅱ層	敲石	ⅠC		9.5	8.1	4.2	426.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e388	184	126	E07	Ⅱ層	敲石	ⅠC		8.0	7.4	4.8	284.2	凝灰岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e389	184	126	E09	Ⅱ層	敲石	ⅠC		9.1	8.1	4.8	462.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e390	184	126	E49	Ⅱ層	敲石	ⅠC		9.2	8.5	5.2	582.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e391	184	126	E10	Ⅱ層	敲石	ⅠC		9.9	9.5	4.1	462.3	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e392	184	126	E30	Ⅴ層上面	敲石	ⅠC		9.7	7.8	4.3	388.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e393	184	127	F11	Ⅲ層	敲石	ⅠC		10.5	8.8	5.6	561.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e394	184	127	F21	Ⅲ層	敲石	ⅠC		8.5	6.7	4.1	327.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e395	185	127	F31	Ⅲ層	敲石	ⅠC		10.3	8.5	4.3	459.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e396	185	127	F31	Ⅱ層	敲石	ⅠC		7.5	6.8	3.7	252.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e397	185	127	F41	Ⅲ層	敲石	ⅠC		12.7	9.4	4.2	410.9	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e398	185	127	F41	Ⅴ層上面	敲石	ⅠC		9.0	7.4	3.7	221.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e399	185	127	F41	Ⅲ層	敲石	ⅠC		7.7	7.3	3.5	248.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e400	185	127	F41	Ⅲ層	敲石	ⅠC		11.3	9.0	5.6	581.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e401	185	127	F43	Ⅲ層	敲石	ⅠC		10.3	9.3	5.5	681.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e402	186	127	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	敲石	ⅠC		8.0	5.9	3.3	199.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e403	186	127	E37	Ⅲ層	敲石	ⅡA		10.1	7.7	5.5	524.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e404	186	127	E39	堆積土	敲石	ⅡA		(6.7)	6.3	4.1	230.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e405	186	127	E30	Ⅴ層上面	敲石	ⅡA		8.4	6.8	4.6	281.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e406	186	127	E50	Ⅰ層	敲石	ⅡA		8.7	7.1	4.9	374.6	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e407	186	128	F04	Ⅰ層	敲石	ⅡB		7.5	5.2	3.9	210.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e408	186	128	E06	Ⅱ層	敲石	ⅡC		5.2	5.3	5.4	233.4	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e409	186	128	E06	Ⅱ層	敲石	ⅡC		9.4	7.4	5.9	531.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e410	186	128	E06	Ⅱ層	敲石	ⅡC		7.7	6.7	4.7	261.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e411	187	128	E16	Ⅱ層	敲石	ⅡC		9.1	6.4	4.4	233.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e412	187	128	E30	Ⅴ層上面	敲石	ⅡC		10.1	8.5	5.8	670.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e413	187	128	E40	Ⅲ層	敲石	ⅡC		10.7	8.0	6.3	595.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（14）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e414	187	128	F01	Ⅲ層	敲石	ⅡC		5.7	5.7	3.8	167.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e415	187	128	F31	Ⅲ層	敲石	ⅡC		8.5	7.3	5.1	418.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e416	187	128	F31	Ⅲ層	敲石	ⅡC		8.0	5.9	4.7	307.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e417	187	128	E05	Ⅱ層	敲石	ⅢA		13.1	6.6	2.9	413.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e418	188	128	E07	Ⅱ層	敲石	ⅢA		(10.2)	6.6	4.8	460.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e419	188	128	E27	Ⅲ層下部	敲石	ⅢA		18.2	5.0	3.6	485.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e420	188	128	E30	Ⅴ層	敲石	ⅢA		14.7	5.4	3.4	331.1	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e421	188	128	E16	Ⅱ層	敲石	ⅢB		10.9	5.1	4.1	295.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e422	188	128	E09	Ⅱ層	敲石	ⅢB		9.4	4.7	3.9	190.0	流紋岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e423	188	128	E10	Ⅰ～Ⅱ層	敲石	ⅢB		10.9	4.9	3.9	241.0	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e424	188	129	F01	Ⅲ層	敲石	ⅢB		10.9	4.3	3.6	202.3	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e425	188	129	E04	Ⅱ層	敲石	ⅢC		9.6	5.9	3.6	259.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e426	188	129	E05	Ⅱ層	敲石	ⅢC		11.7	6.8	5.3	591.6	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e427	189	129	E15	Ⅲ層	敲石	ⅢC		12.3	7.2	3.8	412.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e428	189	129	E06	Ⅲ層	敲石	ⅢC		10.3	6.0	3.9	165.0	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e429	189	129	E06	Ⅲ層	敲石	ⅢC		13.2	5.4	4.2	382.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e430	189	129	E08	Ⅲ層	敲石	ⅢC		(12.6)	6.0	5.2	452.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e431	189	129	E20	Ⅲ層	敲石	ⅢC		11.9	7.7	3.2	406.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e432	189	129	E30	Ⅲ層	敲石	ⅢC		15.4	5.6	4.8	499.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e433	189	129	E50	Ⅱ層	敲石	ⅢC		11.7	7.5	5.5	709.7	細粒花崗閃緑岩／花崗岩	中生代白亜紀・北上山地
e434	190	129	F01	Ⅲ層	敲石	ⅢC		12.2	5.3	4.0	354.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e435	190	129	F01	Ⅱ層	敲石	ⅢC		9.5	5.0	3.9	244.3	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e436	190	129	F31	Ⅲ層	敲石	ⅢC		14.1	7.4	5.5	758.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e437	190	129	F31	Ⅲ層	敲石	ⅢC		14.2	7.8	5.4	817.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e438	190	130	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	敲石	ⅢC		8.5	4.9	4.6	277.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e439	190	130	E09	堆積土	敲石	A		(8.7)	9.6	4.1	396.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e440	190	130	E06	Ⅱ層	台石	Ⅰ	敲打	12.5	11.1	5.5	885.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e441	191	130	E38	Ⅲ層下部	台石	Ⅰ	敲打	16.9	12.9	9.0	2855.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e442	191	130	E09	Ⅱ層	台石	Ⅰ	敲打	12.2	10.3	6.7	1123.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e443	191	130	E10	Ⅱ層	台石	Ⅰ	敲打	12.8	9.4	5.1	927.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e444	191	130	E10	Ⅱ層	台石	Ⅰ	敲打	21.2	12.1	5.0	1936.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（15）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e445	192	130	E10	Ⅱ層	台石	Ⅰ	磨	16.5	(11.7)	7.4	1944.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e446	192	130	E30	Ⅴ層上面	台石	Ⅰ	敲打	13.6	9.6	5.9	960.3	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e447	192	130	E40	Ⅲ層	台石	Ⅰ	敲打	12.8	9.9	6.2	988.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e448	192	131	F01	Ⅱ層	台石	Ⅰ	敲打	14.4	11.5	6.2	1328.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e449	193	131	F01	Ⅱ層	台石	Ⅰ	敲打	15.7	13.3	5.3	1652.5	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e450	193	131	F21	Ⅴ層上面	台石	Ⅰ	敲打	14.5	11.1	6.0	1196.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e451	193	131	F21	Ⅲ層	台石	Ⅰ	敲打	(13.0)	12.3	4.5	947.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e452	193	131	F21	Ⅲ層	台石	Ⅰ	敲打	14.0	11.8	5.7	1082.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e453	194	131	F41	Ⅲ層	台石	Ⅰ	敲打	16.9	13.1	7.4	1698.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e454	194	131	調査区	堆積土	台石	Ⅰ	磨・鉄床石・古代以降	31.0	(24.3)	4.8	4292.0	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e455	194	131	調査区	Ⅱ層	台石	Ⅰ	敲打	18.6	11.0	8.2	1145.0	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e456	195	132	E06	Ⅲ層	台石	Ⅱ	敲打	12.2	10.2	6.0	929.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e457	195	132	E18	Ⅲ層	台石	Ⅱ	敲打	21.3	15.8	10.4	4250.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e458	195	132	E39	堆積土	台石	Ⅱ	敲打	(14.5)	10.9	6.6	1051.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e459	195	132	E39	堆積土	台石	Ⅱ	磨	(9.7)	(10.7)	8.0	486.3	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e460	195	132	E30	Ⅰ～Ⅱ層	台石	Ⅱ	敲打	14.7	10.7	4.8	879.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e461	196	132	SI01	カマド	石皿	－	磨	(6.8)	(5.7)	(4.8)	125.2	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e462	196	132	SI07a	堆積土	石皿	－	磨	(22.2)	(25.3)	(9.1)	5540.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e463	196	132	E16	Ⅲ層	石皿	－	磨・脚付	(5.5)	(11.1)	4.0	183.9	アプライト	中生代白亜紀・北上山地
e464	196	132	E07	Ⅱ層	石皿	－	磨	(9.7)	(6.9)	(5.9)	220.6	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e465	196	132	E28	Ⅲ層	石皿	－	磨・敲打	18.8	(9.0)	8.8	2095.1	石英脈	中生代白亜紀・北上山地
e466	197	132	E38	Ⅱ層	石皿	－	磨	22.8	18.8	4.7	2507.9	花崗斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e467	197	133	E10	Ⅱ層	石皿	－	磨	(8.1)	(10.4)	4.5	563.9	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e468	197	133	E10	Ⅱ層	石皿	－	磨	(19.8)	(18.0)	7.7	3055.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e469	198	133	E40	Ⅳ層	石皿	－	磨	(18.4)	(11.8)	7.4	2580.4	花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e470	198	133	E50	Ⅲ層下部	石皿	－	磨	(31.0)	(22.6)	11.1	7900.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e471	198	133	E50	Ⅱ層	石皿	－	磨	(15.6)	(20.1)	5.1	2086.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e472	199	133	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	石皿	－	敲打	(12.4)	(9.8)	4.1	566.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e473	199	134	E06	Ⅲ層	石錘	－		6.5	5.0	1.0	49.6	頁岩	古生代・北上山地
e474	199	134	E28	Ⅲ層	石錘	－		3.4	3.5	1.2	18.4	砂岩	古生代・北上山地
e475	199	134	E50	Ⅰ層	石錘	－		6.2	10.4	1.9	161.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（16）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e476	199	134	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	石錘	－		12.7	8.8	2.5	409.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e477	199	134	E30	Ⅲ層	砥石	－		(21.1)	(15.3)	(3.1)	935.8	頁岩	古生代・北上山地
e478	199	134	F11	Ⅲ層	砥石？	－		18.3	5.9	2.8	388.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e479	199	134	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	砥石	－		13.2	7.3	4.8	636.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e480	200	134	E06	Ⅱ層	スタンプ形石器	－	石棒未成品？	11.2	7.5	7.4	700.2	安山岩	新生代第四紀・岩手山
e481	200	134	SI01	カマド付近	石棒	A		(12.1)	3.4	(2.0)	107.2	粘板岩	古生代・北上山地
e482	200	134	SI01	カマド付近	石棒	A		(8.9)	3.5	1.8	92.7	粘板岩	古生代・北上山地
e483	200	134	E05	Ⅱ層	石棒	A		(7.7)	2.9	1.8	74.1	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e484	200	134	E06	Ⅱ層	石棒	A		(12.2)	3.0	2.8	128.9	粘板岩	古生代・北上山地
e485	200	134	E06	Ⅲ層	石棒	A		(4.2)	2.5	2.1	32.1	粘板岩	古生代・北上山地
e486	200	135	E37	Ⅲ層	石棒	A		(9.5)	(2.8)	(1.2)	46.0	粘板岩	古生代・北上山地
e487	200	135	E20	Ⅲ層	石棒	A		(9.5)	3.8	(3.1)	141.7	頁岩	古生代・北上山地
e488	200	135	F21	Ⅲ層	石棒	A		(10.2)	4.6	(1.7)	79.0	粘板岩	古生代・北上山地
e489	200	135	F41	Ⅲ層	石棒	A		(8.5)	3.6	1.2	50.0	粘板岩	古生代・北上山地
e490	200	135	F区	Ⅱ層	石棒	A		(11.8)	3.6	1.8	118.5	粘板岩	古生代・北上山地
e491	200	135	調査区中央	Ⅱ～Ⅲ層	石棒	A		(14.2)	2.8	(1.3)	72.4	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e492	200	135	調査区	Ⅰ層	石棒	A		(8.4)	3.8	2.4	119.6	頁岩	古生代・北上山地
e493	200	135	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	石棒	A		(7.8)	2.7	1.4	45.8	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e494	201	135	調査区北壁	Ⅰ層	石棒	A		(7.1)	(3.0)	(1.3)	33.4	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e495	201	135	SI03	西側1層	石棒	B		(10.5)	2.9	1.2	45.7	粘板岩	古生代・北上山地
e496	201	135	E39	堆積土	石棒	B		(10.0)	3.8	1.8	86.4	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e497	201	135	E10	Ⅱ層	石棒	B		15.3	4.0	1.3	114.9	頁岩	古生代・北上山地
e498	201	135	E20	Ⅲ層	石棒	B		11.4	2.6	2.1	78.5	粘板岩	古生代・北上山地
e499	201	135	E30	Ⅳ層上面	石棒	B		(15.4)	3.8	3.3	236.3	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e500	201	135	E30	Ⅲ層	石棒	B		(15.8)	3.8	3.0	331.0	頁岩	古生代・北上山地
e501	201	135	E40	Ⅲ層	石棒	B		(6.8)	2.8	(1.9)	56.6	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e502	201	135	F01	Ⅱ層	石棒	B		34.0	5.5	1.6	169.5	粘板岩	古生代・北上山地
e503	201	136	F11	Ⅲ層	石棒	B		31.8	3.7	2.8	392.9	粘板岩	古生代・北上山地
e504	201	136	F21	Ⅲ層	石棒	B		(17.5)	4.5	4.6	531.5	頁岩	古生代・北上山地
e505	202	136	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	石棒	B		(24.6)	10.9	9.9	5110.0	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（17）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e506	202	136	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	石棒	B		6.7	5.6	3.2	171.9	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e507	202	136	調査区北壁トレンチ	Ⅰ～Ⅱ層	石棒	B		（13.8）	3.7	1.8	118.8	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e508	202	136	調査区北壁トレンチ	Ⅰ層	石棒	B		（11.7）	6.4	（5.5）	546.2	花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e509	202	136	SI02	南東側堆積土	円板状石器	A		4.9	5.3	1.7	71.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e510	202	136	SI04	1層	円板状石器	A		6.3	6.5	2.3	140.7	斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e511	202	136	SI06	北側堆積土	円板状石器	A		6.7	7.4	2.1	159.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e512	203	137	SI07	堆積土	円板状石器	A		6.4	5.8	2.4	149.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e513	202	137	E14	Ⅲ層	円板状石器	A		4.5	4.3	1.3	37.0	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e514	203	137	E15	Ⅲ層	円板状石器	A		5.2	4.4	1.2	40.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e515	203	137	E06	Ⅲ層	円板状石器	A		3.0	3.8	1.1	18.1	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e516	203	137	E06	Ⅲ層	円板状石器	A		6.2	5.1	1.5	84.4	斑岩	中生代白亜紀・北上山地
e517	203	137	E06	Ⅲ層	円板状石器	A		4.6	4.6	1.8	51.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e518	203	137	E06	Ⅱ層	円板状石器	A		4.0	4.2	1.4	40.2	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e519	203	137	E16	Ⅱ層	円板状石器	A		4.6	4.3	0.7	20.9	頁岩	古生代・北上山地
e520	203	137	E07	Ⅱ層	円板状石器	A		4.7	4.2	1.1	37.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e521	203	137	E08	Ⅱ層	円板状石器	A		4.4	4.7	1.5	46.3	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e522	203	137	E08	Ⅱ層	円板状石器	A		5.5	4.9	1.3	46.8	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e523	203	137	E18	Ⅱ層	円板状石器	A		4.6	4.1	1.1	29.8	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e524	203	137	E28	Ⅲ層	円板状石器	A		4.5	4.5	0.8	27.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e525	203	137	E38	Ⅱ層	円板状石器	A		5.8	5.3	1.7	89.4	斑岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e526	203	137	E30	Ⅴ層上面	円板状石器	A		5.5	5.4	1.5	68.1	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e527	203	137	E30	Ⅲ層	円板状石器	A		5.9	6.6	2.1	128.3	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e528	204	137	E30	Ⅲ層	円板状石器	A		12.3	13.4	4.8	623.7	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e529	203	137	E40	Ⅴ層上面	円板状石器	A	垂飾品の未成品?	3.3	3.5	1.0	11.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e530	203	137	E50	Ⅰ層	円板状石器	A		6.8	6.6	1.9	164.3	細粒花崗閃緑岩	中生代白亜紀・北上山地
e531	204	137	調査区北壁トレンチ	Ⅱ層	円板状石器	A		4.7	4.3	1.5	53.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e532	204	137	SI04	北東側堆積土	円板状石器	B		5.5	5.4	1.1	42.7	凝灰岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e533	204	137	E27	Ⅲ層	円板状石器	B		5.9	5.1	1.1	38.4	頁岩	古生代・北上山地
e534	204	137	E38	Ⅱ層	円板状石器	B		6.4	5.5	1.6	90.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e535	204	137	E39	Ⅲ層	円板状石器	B		5.1	5.2	1.2	45.7	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈

第55表　石器観察表（18）

番号	図版	写図	遺構名・グリッド	層位	器種	分類	備　考	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重量（g）	石材	時代・産地
e536	204	137	E30	Ⅲ層	円板状石器	B		6.6	6.1	2.6	112.3	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e537	204	137	E50	Ⅰ層	円板状石器	B	垂飾品の未成品？	5.7	4.8	0.8	26.5	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e538	204	137	SI05	堆積土上部	円板状石器	C		4.6	5.1	0.7	24.6	頁岩	古生代・北上山地
e539	204	137	E06	Ⅲ層	円板状石器	C		3.8	4.0	1.1	24.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e540	204	138	E07	Ⅱ層	玉	－		1.8	1.9	0.5	2.0	頁岩	古生代・北上山地
e541	204	138	E27	Ⅳ層	有孔石製品	－		8.0	11.4	2.4	243.9	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e542	204	138	E39	Ⅲ層	有孔石製品	－		9.1	6.4	3.0	178.8	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e543	204	138	F01	Ⅱ層	有孔石製品	－		8.7	7.2	4.0	219.2	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e544	205	138	E39	堆積土	有孔石製品	－		15.8	12.5	6.1	1313.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e545	205	138	F01	Ⅱ層	石製品	－	独鈷石	6.1	19.8	3.1	375.7	頁岩	古生代・北上山地
e546	205	138	調査区	Ⅰ層	石製品	－	石冠	6.0	10.6	4.8	440.1	デイサイト	新生代新第三紀・奥羽山脈
e547	205	138	E10	Ⅱ層	石製品？	－	尖頭状石器（錐か？）	8.1	4.3	3.0	81.3	ホルンフェルス	古生代（変成は中生代白亜紀）・北上山地
e548	205	138	E30	Ⅰ～Ⅱ層	石製品？	－	尖頭状石器（錐か？）	10.6	2.8	1.8	74.7	頁岩	古生代・北上山地
e549	205	138	E50	Ⅰ層	石製品？	－	尖頭状石器（錐か？）	15.3	4.7	4.2	285.3	頁岩	古生代・北上山地
e550	205	138	E18	Ⅲ層	石製品	－	石皿状	8.2	6.0	2.4	171.2	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e551	205	138	E06	Ⅱ層	石製品	－	未成品	5.6	5.5	1.7	89.4	安山岩	新生代新第三紀・奥羽山脈
e552	205	138	E39	Ⅲ層	異形石器	－		(2.2)	2.8	0.8	4.4	頁岩	新生代新第三紀・奥羽山脈

第56表　動物遺存体観察表（1）

番号	写図	遺構名	層位	種別	種名（標準和名）	部位	左右	被熱	数量（少数≧10片＜多数）	重量（g）	備　　考
g1	139	SI08a	炉堆積土	哺乳綱	イノシシ	臼歯		有り	小破片 多数	0.52	
g2	－	SI08b	炉堆積土	哺乳綱	不明	不明		有り	1	0.39	
g3	－	SI13	炉堆積土	魚綱	サケ科	椎骨片		有り	小破片 少数	0.01	
g4	－	SI13	炉堆積土	魚綱	不明	腹椎		無し	1	0.01	
g5	－	SI13	炉堆積土	不明	－	不明		有り	小破片 少数	0.09	
g6	－	SI13	南側3層（焼土層）	哺乳綱	不明	不明		無し	小破片 少数	0.45	
g7	－	SI13	3層（焼土層）	哺乳綱	不明	不明		無し	小破片 多数	0.92	
g8	139	SI13	南東堆積土	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角片		強い被熱	破片 多数	9.92	
g9	－	SI13	北西堆積土	不明	－	不明		－	微細破片 少数	0.05	
g10	－	SI13・E39	堆積土・Ⅲ層	哺乳綱	不明	不明		無し	破片 多数	2.78	
g11	－	SI01	カマド6層	不明	－	微細破片		不明	微細破片 少数	0.01	
g12	－	SK39	3層	哺乳綱	不明	不明		有り	小破片 1	0.25	
g13	－	SK39	4層	哺乳綱	不明	不明		有り	小破片 1	0.14	
g14	－	SK39	堆積土	哺乳綱	不明	不明		有り	小破片 少数	0.38	
g15	139	SN01	4層	魚綱	ギバチ	左胸鰭棘		無し	1	0.01	第69図 2008年に北上川本流（上流域）及び支流で採集したギバチによって得られたもので、胸鰭棘の関節長と全長の相関関係を調べたもの。相関係数0.9698と高い値を示す。このグラフによってこの層出土のギバチの全長を推定すると9.24cmになる。
g16	－	SN01	4層	魚綱	不明	不明		無し	小破片 少数	0.18	
g17	－	SN01	4層	不明	－	不明		有り	小破片 多数	1.32	
g18	139	SN01	3層（焼土層）	魚綱	コイ科	尾椎		無し	1	0.01	
g19	－	SN01	3層（焼土層）	魚綱	不明	不明		無し	4	0.01	
g20	139	SN01	3層（焼土層）	両生綱	カエル類	右橈尺骨		無し	1	0.02	
g21	－	SN01	3層（焼土層）	哺乳綱	不明	指骨		無し	2	0.03	
g22	－	SN01	3層（焼土層）	不明	－	不明		有り	小破片 多数	2.37	
g23	139	SN01	2層（炭層）	魚綱	ギバチ	腹椎		無し	1	0.01	
g24	－	SN01	2層（炭層）	魚綱	不明	不明		無し	小破片 少数	0.01	
g25	－	SN01	2層（炭層）	哺乳綱	ニホンジカ	末節骨		有り	1	1.76	
g26	－	SN01	2層（炭層）	不明	－	不明		無し	小破片 多数	0.58	
g27	139	SN01	1層（焼土層）	魚綱	ギバチ	尾椎		－	2	0.01	
g28	－	SN01	1層（焼土層）	哺乳綱	不明（小型）	尾椎		無し	1	0.01	
g29	－	SN01	1層（焼土層）	哺乳綱	不明	不明		無し	小破片 多数	1.49	
g30	－	SN01	1層（焼土層）	不明	－	不明		－	1	0.01	

第56表　動物遺存体観察表（2）

番号	写図	遺構名	層位	種別	種名（標準和名）	部位	左右	被熱	数量（少数≧10片＜多数）	重量（g）	備　　考
g31	－	SN01	堆積土	哺乳綱	不明	不明		有り	破片 少数	1.73	
g32	－	SN02	2層（炭層）	不明	－	不明		有り	小破片 多数	0.36	
g33	139	SN02	1層（焼土層）	両生綱	カエル類	橈尺骨　近位	右	有り	1	0.06	
g34	139	SN02	1層（焼土層）	両生綱	カエル類	椎骨		有り	2	0.10	
g35	139	SN02	1層（焼土層）	両生綱	カエル類	指骨		有り	4	0.03	
g36	139	SN02	1層（焼土層）	爬虫綱	ヘビ類	椎骨		有り	1	0.01	
g37	139	SN02	堆積土	両生綱	ヒキガエル	上腕骨遠位	右	有り	1	0.12	
g38	－	SN02	堆積土	不明動物	－	不明		有り	小破片 2	0.04	
g39	－	SN04	2層（炭層）	不明	－	不明		有り	小破片 少数	0.26	
g40	－	SN04	1層（焼土層）	不明動物	－	不明		有り	小破片 多数	0.70	
g41	－	SN04	堆積土	不明	－	不明		有り	小破片 3	0.05	
g42	－	SN05	3層	哺乳綱	不明	不明		有り	小破片 少数	0.45	
g43	－	SN05	3層	鳥綱	不明	不明		有り	小破片 2	0.19	
g44	－	SN05	2層（焼土層）	不明	－	不明		有り	小破片 1	0.01	
g45	－	SN05	2層（焼土層）	不明	－	不明		有り	小破片 多数	0.41	
g46	139	SN05	1層（炭層）	哺乳綱	ニホンジカ	末節骨（副蹄）		有り	1	0.54	
g47	－	SN05	1層（炭層）	哺乳綱	ニホンジカ	末節骨？（副蹄）		有り	1	0.21	
g48	－	SN05	1層（炭層）	哺乳綱	不明	不明		有り	小破片 少数	1.15	比較的大型の哺乳類
g49	－	SN05	1層（炭層）	哺乳綱	不明	不明		有り	小破片 少数	0.43	
g50	－	SR03	堆積土	哺乳綱？	不明（小型？）	不明		有り	1	0.01	
g51	－	SR03	堆積土	鳥綱	不明	不明		有り	1	0.01	
g52	139	SR04	堆積土	哺乳綱	ヒト	下顎右第二大臼歯		－	1	0.37	歯冠部のみ残存、咬耗ほとんどない。若い成人。
g53	139	SR04	堆積土	哺乳綱	ヒト	上顎右小臼歯		－	1	0.15	歯冠部のみ残存、咬耗ほとんどない。若い成人。
g54	－	SR04	堆積土	哺乳綱	ヒト	臼歯片		－	破片 少数	0.31	
g55	－	SR04	堆積土	哺乳綱	ヒト	前頭骨		無し	破片 少数	4.55	比較的しっかりしている、縫合は終わっており成人と考えられる。歯冠部と同一個体かは不明。
g56	－	SR04	堆積土	哺乳綱	不明（大型）	不明		無し	小破片 多数	1.02	
g57	－	P16	堆積土下部	不明	－	不明		有り	小破片 少数	0.07	

V　自然科学分析

1　放射性炭素年代（AMS測定）

㈱ 加速器分析研究所

1　測定対象試料

杉の堂遺跡は、岩手県奥州市水沢区佐倉河字杉の堂23-1（北緯39° 8′ 8″、東経141° 9′ 57″）に所在し、北上川の河岸段丘面に立地する。測定対象試料は、竪穴建物跡から出土した炭化材4点である（表1）。

試料が出土した竪穴建物跡の時期は、No. 1 ～ 3 が出土したSI06が 7 ～ 8 世紀、No. 4 が出土したSI13が縄文時代晩期後葉と推定されている。ただし、古代の遺構は縄文晩期の遺物包含層中に構築されているため、縄文晩期の炭化材が混入している可能性も指摘される。

2　測定の意義

試料が出土した竪穴建物の時期を明らかにする。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

（2）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径1㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4　測定方法

加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）$\delta^{13}C$は、試料炭素の^{13}C濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を

使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下１桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.3較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については､特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6　測　定　結　果

測定結果を表１、２に示す。

竪穴建物SI06から出土した試料３点（No. １～３）の^{14}C年代は、No. １が2960 ± 20yrBP、No. ２が2350 ± 30yrBP、No.3が1300 ± 20yrBPで、かなりの年代幅がある。暦年較正年代（１σ）は、No. ３が670 ～ 764cal ADの間に２つの範囲で示され、推定される７～８世紀と一致する値である。他の２点は、No. １が縄文時代晩期初頭頃、No. ２が縄文時代晩期末葉から弥生時代前期頃に相当する（小林2009、小林編2008）。これら２点の値は竪穴建物の推定時期より大幅に古く、可能性が指摘された縄文時代晩期の遺物包含層からの混入と考えられる（ただし、縄文晩期ではあるものの、特に推定される後葉には収まらない年代である）。

竪穴建物SI13から出土した試料No. ４の^{14}C年代は2540 ± 30yrBP、暦年較正年代（１σ）は793 ～ 591cal BCの間に４つの範囲で示される。縄文時代晩期中葉から後葉頃に相当し（小林2009、小林編2008）、推定に一致する。

なお、今回測定された試料の年代については、次に記す古木効果を考慮する必要がある。樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる（古木効果）。今回測定された炭化材は、いずれも樹皮が残存せず、本来の最外年輪を確認できないことから、これらの木が死んだ年代は測定結果より新しい可能性がある。

試料の炭素含有率は、すべて60％を超える適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51（1）, 337-360

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散、西本豊弘編、新弥生時代のはじまり　第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代、雄山閣、55-82

小林達雄編 2008 総覧縄文土器、総覧縄文土器刊行委員会、アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55（4）, 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19（3）, 355-363

表１　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

測定番号	試料名	試採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰)(AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-172372	No. 1	SI06　カマド燃焼部	炭化材	AaA	−23.97 ± 0.48	2,960 ± 20	69.19 ± 0.21
IAAA-172373	No. 2	SI06　カマド焼土	炭化材	AAA	−28.59 ± 0.39	2,350 ± 30	74.63 ± 0.24
IAAA-172374	No. 3	SI06　カマド煙道部	炭化材	AAA	−26.58 ± 0.42	1,300 ± 20	85.07 ± 0.25
IAAA-172375	No. 4	SI13　炉内	炭化材	AAA	−27.23 ± 0.39	2,540 ± 30	72.92 ± 0.23

［IAA登録番号：#8936］

表２　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用^{14}C年代、較正年代）

測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-172372	2,940 ± 20	69.33 ± 0.20	2,958 ± 24	1214calBC-1127calBC（68.2%）	1261calBC-1108calBC（92.5%） 1101calBC-1081calBC（ 2.4%） 1063calBC-1059calBC（ 0.5%）
IAAA-172373	2,410 ± 20	74.08 ± 0.23	2,350 ± 25	416calBC- 386calBC（68.2%）	490calBC- 381calBC（95.4%）
IAAA-172374	1,320 ± 20	84. 80 ± 0.24	1,298 ± 23	670calAD-710calAD（45.8%） 746calAD-764calAD（22.4%）	663calAD-724calAD（63.3%） 739calAD-769calAD（32.1%）
IAAA-172375	2, 570 ± 20	72.59 ± 0.23	2,536 ± 25	793calBC- 751calBC（40.7%） 683calBC- 668calBC（10.1%） 636calBC- 627calBC（ 3.9%） 614calBC- 591calBC（13.5%）	796calBC- 741calBC（45.1%） 687calBC- 664calBC（12.4%） 645calBC- 550calBC（37.9%）

［参考値］

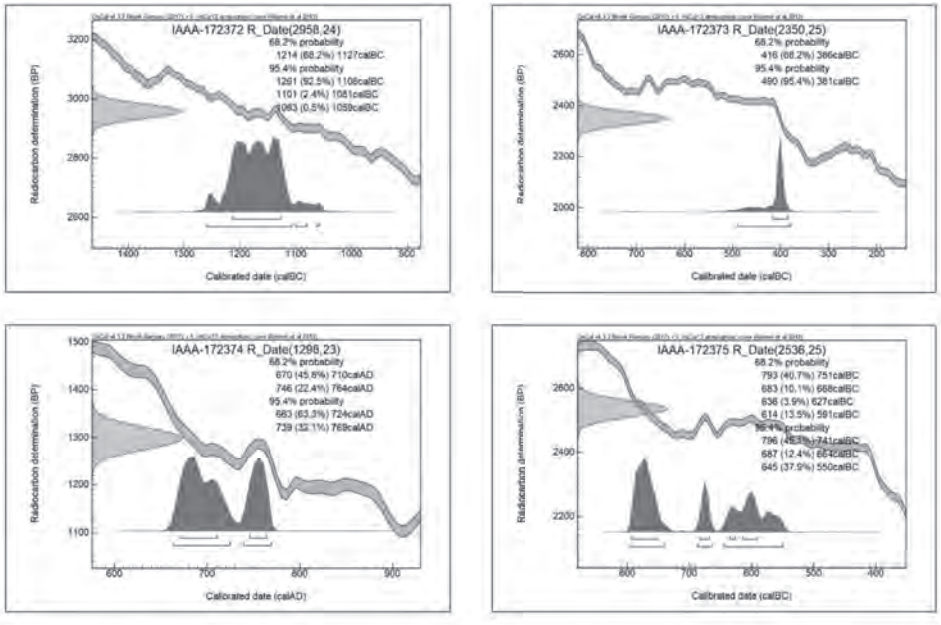


図１　暦年較正年代グラフ（参考）

2　炭化種実同定

吉川純子（古代の森研究舎）

1　は　じ　め　に

杉の堂遺跡は水沢市佐倉河杉の堂の北上川西岸段丘面上に位置する縄文時代と古代の集落跡が確認された遺跡である。それぞれの竪穴建物及び焼土遺構などの堆積物を発掘担当者が水洗選別したところ、多くの遺構から炭化物が得られた。炭化物には炭化種実が含まれていたことから、当時の植物利用を調査する目的でこれら炭化物の同定をおこなった。試料は62試料105袋で、62試料中41試料から同定可能な炭化種実が確認された。なお、試料のうち試料番号２、５、７は古代、試料番号９から62は縄文時代晩期頃とされている。炭化物からは肉眼及び双眼実体顕微鏡を用いて同定可能な炭化物を選びだし、同定した。

2　同　定　結　果

同定した炭化物は分類群・部位毎に計数し表１から表４に示した。細かい破片が多数含まれた試料に関してはおよその個数を示し数値のあとに＋を表示した。

古代の竪穴住居跡からは穀類のイネ、オオムギ、ムギ類とオニグルミの破片を出土したが、いずれも少量であった。

縄文時代晩期の竪穴建物からはオニグルミとトチノキをやや多く出土し、竪穴建物内の土器から１粒ずつではあるがムギ類とアワを、竪穴建物内からエノキグサを出土した。土坑からはオニグルミとトチノキを出土し、４分の１ほどの破片であるがクリの炭化子葉を出土した。焼土遺構からはオニグルミ、クリ、トチノキの果皮と種皮の破片を大変多く出土し、クリとトチノキの子葉破片は少量出土した。またサワグルミを１粒のみ出土した。堅果類以外ではブドウ属、ミズキ、やや大型のマメ科を出土したがいずれも少数である。土器内部堆積物からは少量であるがオニグルミ、クリ、トチノキとアカネ科種子、未炭化のニワトコ属を出土した。

以下に特筆すべき分類群の形態記載をおこなう。

オオムギ（Hordeum vulgare L.）：炭化した種子は楕円形で上端は丸く下端はやや尖り、かなり焼け膨れているが腹面下端に縦方向楕円形の孔と背面に中央に細い溝が１本あることが確認できたためオオムギとした。ムギ類としたものはさらに焼け膨れが激しいが中央の細い溝が確認できる。

アワ（Setaria italica Beauv.）：炭化種子は少し上下方向に伸びた球形で出土種子はかなり焼け膨れている。腹面は焼けて欠けているが背面に楕円形のへこみが確認できた。焼け方が激しいためキビとの区別がやや難しいが、キビは種子下半部が太い球形なのに対し、出土種子とアワは種子中ほどかやや上が太くなるためアワと同定した。

2　考　　察

古代の住居跡からは少量であるがイネとオオムギを出土し、堅果のオニグルミも出土したことからこれらの利用が考えられる。杉の堂遺跡では2002年に調査された８－９世紀の住居跡の調査で炭化種実の分析を行っており、やはりオニグルミ、イネ、オオムギが出土し、ほかにアワ、ヒエなどの雑穀類や土坑からソバの集積が確認されている（高瀬2006）ことから、当時は主要な穀類であるイネのほかにこのような雑穀を利用していたと考えられる。本遺跡の竪穴建物からは出土個数が少なかったが、カマドという燃焼施設の機能上、燃焼効率が良く炭化種実は残り難いとみられる。

縄文時代晩期の竪穴建物では床面からオニグルミ、トチノキを出土し、炉の炭化種実はやや少なかった。炉は燃焼施設であるため最後まで燃え切った資材がほとんどであったと考えられる。ムギ類とアワが出土したのは土器内土で、アワは逆さに置かれ底部が欠落した土器内部から出土した。後世の混入も否定できないが、少量であるものの縄文時代にはアワやムギの出土例があり、北海道南茅部町（現・函館市）の臼尻Ｂ遺跡では縄文中期の土器にこびりついた炭化物にアワとヒエが確認された（吉崎1988）ことから、縄文時代の比較的早い時期からこれらの雑穀が利用されていた可能性がある。本遺跡でも少量であるがアワとムギ類が出土したことから、これらの雑穀が比較的早い時期の北日本を中心に利用されていたことも考えられる。

本遺跡の焼土遺構では多量のオニグルミ、クリ、トチノキが出土した。この焼土遺構は墓域が近接することからこれらの炭化物が墓域に関連していた可能性もある。本遺跡で出土した炭化種実はほとんどが果皮と種皮であり、食用とされる子葉部分はほとんど確認されなかった。縄文時代には各地の遺跡でクリやトチノキの炭化種実集積が見つかっていて、福島県和台遺跡では土坑に満たされたクリ炭化子葉の層の底部に祭祀土器が置かれていたことから、一連の堆積物が祭祀に関わるものと推測している（吉川2009）。ただしこれらはほとんどが食用とできる子葉の炭化物から構成されていることから捧げもの的要素を見出しており、本遺跡の場合はほとんど子葉が確認されなかった。こうした構成物の相違は信仰と墓域に対する意識の相違を示しているのかもしれない。

引用・参考文献

高瀬克範、2006、第７章　岩手県水沢市杉の堂遺跡出土の炭化種子、東北日本における栽培植物利用の変遷と特質
課題番号15720184平成15年度～平成17年度科学研究費補助金研究成果報告書、55-59
吉川純子、2009、Ⅴ植物の食利用　野生食用植物、縄文時代の考古学３大地と森の中で、同成社、139-148
吉崎昌一、1988、縄文農耕から擦文農耕へ、鎌木義昌先生古希記念論文集　考古学と関連科学、105-122

表１　杉の堂遺跡出土炭化種実（１）

	試料番号	2	5	7	9	10	13	16	19	21	23	26
	遺構名	SI01	SI02	SI06	SI08a	SI08a	SI08a	SI08ab・E38	SI13	SI13	SI13	SI13
分類群	出土部位/地点・層位	カマド9層	b40内	カマド西側袖?	a10内	北側2層	a13内	南東側堆積土	北西側壁面	南西側焼土	北東側堆積土下部	東側堆積土3層
オニグルミ	炭化内果皮半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮1/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮小破片	-	-	7	32	4	9	7	24	-	10	2
サワグルミ	炭化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ	炭化果皮小破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化子葉1/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化種皮小破片	-	-	-	-	-	-	-	4	10	-	-
	炭化子葉小破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ	炭化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	炭化胚乳破片	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオムギ	炭化種子	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムギ類	炭化種子	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
マメ科	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
アカネ科	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表２　杉の堂遺跡出土炭化種実（２）

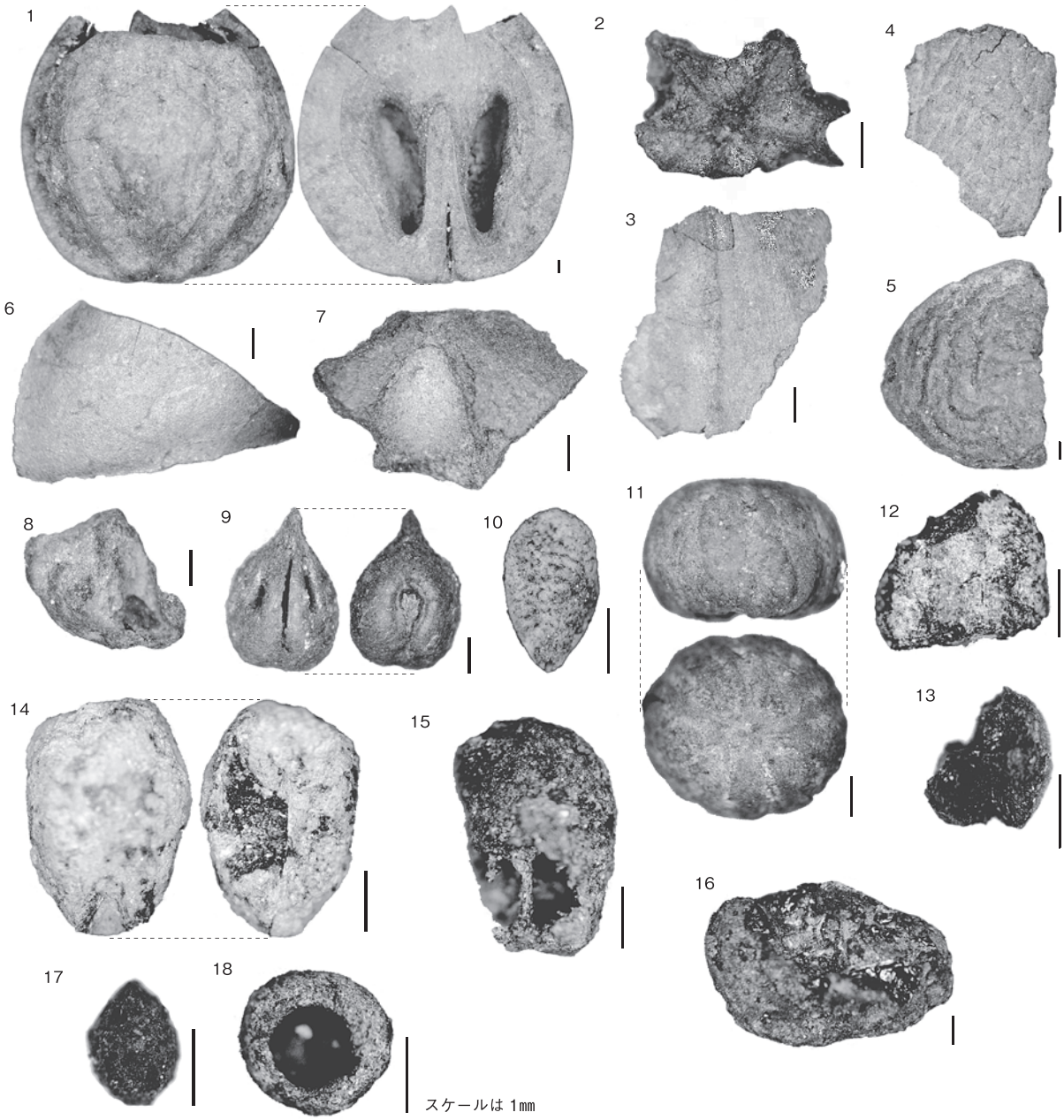
	試料番号	28	30	31	32	33	34	35	38	39	40
	遺構名	SI13	SI15	P16	SK19	SK22	SK29	SK30	SK39	SN01	SN01
分類群	出土部位/地点・層位	南側堆積土下部	炉	堆積土下部	a174内	堆積土下部	4層	堆積土	堆積土	4層(炭層)	3層(焼土)
オニグルミ	炭化内果皮半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮1/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮小破片	7	13	13	-	-	-	9	20	320	122
サワグルミ	炭化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ	炭化果皮小破片	-	-	-	-	-	-	-	-	39	30
	炭化子葉1/4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
トチノキ	炭化種皮小破片	35	1	26	1	5	2	-	-	250	175
	炭化子葉小破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ミズキ	炭化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	炭化胚乳破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオムギ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムギ類	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
エノキグサ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカネ科	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表３　杉の堂遺跡出土炭化種実（３）

	試料番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
	遺構名	SN01	SN01	SN01	SN02	SN02	SN02	SN03	SN03	SN03	SN04
分類群	出土部位/地点・層位	2層(炭層)	1層(焼土)	堆積土	2層(炭層)	1層(焼土)	堆積土	2層(炭層)	1層(焼土)	堆積土	2層(炭層)
オニグルミ	炭化内果皮半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮1/3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮小破片	380	190	79	110	219	96	200	72	-	1000+
サワグルミ	炭化内果皮	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ	炭化果皮小破片	1000+	103	102	6	2	-	300	193	8	1000+
	炭化子葉1/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化種皮小破片	1000+	671	600+	12	5	-	600+	260	23	1000+
	炭化子葉小破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	4	-	1	2	-	-	-	-	-	-
ミズキ	炭化内果皮	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ	炭化胚乳破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオムギ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムギ類	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	炭化種子	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカネ科	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表４　杉の堂遺跡出土炭化種実（４）

	試料番号	51	52	53	54	55	56	57	58	61	62
	遺構名	SN04	SN04	SN05	SN05	SN05	SN05	SR01	SR01	SR03	SR04
分類群	出土部位/地点・層位	1層(焼土)	堆積土	3層(炭層)	2層(焼土)	1層(炭層)	堆積土	2層	堆積土	堆積土	堆積土
オニグルミ	炭化内果皮半分	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮1/3	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-
	炭化内果皮小破片	80	38	1000+	112	1000+	171	-	1	1	17
サワグルミ	炭化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ	炭化果皮小破片	100	247	50	123	500+	-	1	-	-	20
	炭化子葉1/4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	炭化種皮小破片	500	456	70	422	1000+	-	-	-	6	24
	炭化子葉小破片	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブドウ属	炭化種子	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ミズキ	炭化内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
イネ	炭化胚乳破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオムギ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムギ類	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アワ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	炭化種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカネ科	炭化種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1



1.オニグルミ、炭化内果皮（試料53）
2.サワグルミ、炭化内果皮（試料41）
3.クリ、炭化果皮の稜部分（試料41）
4.クリ、炭化果皮着点部分（試料41）
5.クリ、炭化子葉（試料53）
6.トチノキ、炭化種皮（試料41）
7.トチノキ、炭化種皮発芽孔部分（試料41）
8.トチノキ、炭化子葉破片（試料51）
9.ブドウ属、炭化種子（試料43）
10.ニワトコ属、内果皮（試料61）
11.ミズキ、炭化内果皮（試料41）
12.イネ、炭化胚乳破片（試料５）
13.アワ、炭化種子（試料13）
14.オオムギ、炭化種子（試料２）
15.ムギ類、炭化種子（試料９）
16.マメ科、炭化種子（試料52）
17.エノキグサ、炭化種子（試料26）
18.アカネ科、炭化種子（試料62）

図版１　杉の堂遺跡出土炭化種実

3　黒曜石分析

㈱ 第四紀 地質研究所

1　実　験　条　件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製JSX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP法）による自動定量計算システムが採用されており、６C ～ 92Uまでの元素分析ができ、ハイパワー X線源（最大30kV、４mA）の採用で微量試料～最大290㎜φ×80㎜ Hまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi、Ti、Al、Fe、Mn、Mg、Ca、Na、K、P、Rb、Sr、Y、Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝０と仮定し、酸化物の重量％を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素のRb、Sr、Y、Zrは重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では０と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下４桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO_2-Al_2O_3、Fe_2O_3-TiO_2、K_2O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の４組の組み合わせで図を作成した。

2　分　析　結　果

第１表化学分析表には分析結果、第２表原産地対比表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

1）杉の堂遺跡の黒曜石遺物43個の分析で最も多く検出されたのは小赤沢産で39個が該当する。小赤沢産の39個のうち比熱していないものは19個、強比熱したものは３個、弱比熱したものは17個である。強比熱したものは図の欄外にはみ出すほどである。

2）S- 9と32は湯ノ倉産、S-38は男鹿系・弱比熱、S-41はチャートである。

引用・参考文献

井上　巖（2000）東北･北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析（XRF）北越考古学、第11号、23-38/
井上　巖（2001）テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号　23-51.
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　関東・中部・東海編
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　東北・北陸編
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　北海道編
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石写真集

第１表　化学分析表

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	剝片 e2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	Rb(I)	Sr(I)	備考	原産地
S-1	3.7700	0.0000	11.7019	77.2333	0.8343	3.3055	1.5091	0.1868	0.1015	1.3094	0.0082	0.0108	0.0063	0.0228	99.9999	688	881	楔形石核	小赤沢
S-2	3.1832	0.2505	12.0353	77.4869	0.9505	3.1484	1.5031	0.1449	0.0696	1.1923	0.0076	0.0068	0.0000	0.0208	99.9999	708	625	楔形石核	小赤沢
S-3	3.5747	0.0000	11.6557	77.4454	0.9775	3.3451	1.4993	0.1851	0.0885	1.1867	0.0090	0.0093	0.0035	0.0203	100.0001	772	777	石鏃	小赤沢
S-4	3.2285	0.1281	11.7011	77.7206	0.9529	3.1854	1.4706	0.1646	0.0893	1.3138	0.0069	0.0124	0.0038	0.0219	99.9999	599	1050	楔形石核	小赤沢
S-5	2.9152	0.0000	11.8898	77.9933	0.9214	3.2435	1.4558	0.1619	0.0891	1.2922	0.0081	0.0094	0.0042	0.0162	100.0001	721	816	削器	小赤沢
S-6	2.8368	0.0000	11.6799	78.3166	0.9447	3.2411	1.4842	0.1480	0.0733	1.2373	0.0090	0.0089	0.0035	0.0169	100.0002	793	768	楔形石核	小赤沢
S-7	3.2644	0.3538	11.3473	78.0956	0.9346	3.2170	1.3159	0.1555	0.0905	1.1906	0.0058	0.0071	0.0040	0.0179	100.0000	505	613	剝片	小赤沢・弱比熱
S-8	2.9692	0.0795	11.8902	77.7463	0.9095	3.2664	1.5588	0.1823	0.0772	1.2758	0.0088	0.0088	0.0022	0.0249	99.9999	727	709	剝片	小赤沢
S-9	3.1391	0.2305	12.8419	75.3235	0.9097	2.2336	2.8556	0.1961	0.1026	2.1132	0.0036	0.0201	0.0025	0.0280	100.0000	270	1482	剝片	湯ノ倉
S-10	3.4953	0.2587	11.8188	77.4032	0.9654	3.1004	1.4673	0.1672	0.0700	1.2146	0.0074	0.0096	0.0059	0.0163	100.0001	695	888	剝片	小赤沢・弱比熱
S-11	2.4975	0.0000	11.6284	78.5763	0.9342	3.3876	1.3787	0.1633	0.0804	1.3024	0.0122	0.0134	0.0049	0.0208	100.0001	963	1037	剝片	小赤沢・弱比熱
S-12	2.8375	0.1242	11.8556	77.9538	0.9311	3.3228	1.3513	0.1727	0.0834	1.3151	0.0109	0.0120	0.0085	0.0212	100.0001	885	948	剝片	小赤沢・弱比熱
S-13	2.9173	0.0000	12.2639	77.4055	0.9186	3.2900	1.5015	0.2120	0.0982	1.3534	0.0091	0.0069	0.0053	0.0184	100.0001	768	569	剝片	小赤沢
S-14	1.1346	0.2916	12.2725	73.9089	0.9502	8.5325	1.4200	0.1791	0.0833	1.1847	0.0081	0.0094	0.0049	0.0203	100.0001	631	711	剝片	小赤沢・強比熱
S-15	2.7590	0.0000	11.9893	78.1008	0.9645	3.1160	1.4979	0.1643	0.0885	1.2837	0.0074	0.0098	0.0000	0.0187	99.9999	647	834	剝片	小赤沢
S-16	2.7780	0.0652	11.6522	78.4676	0.9850	3.2340	1.3698	0.1514	0.0728	1.1916	0.0074	0.0049	0.0063	0.0138	100.0000	636	414	剝片	小赤沢
S-17	2.6556	0.0000	11.2218	78.9182	0.9591	3.4332	1.3085	0.1455	0.0974	1.2161	0.0087	0.0104	0.0054	0.0202	100.0001	711	832	剝片	小赤沢
S-18	3.9748	0.0981	11.5464	77.3254	0.9814	2.8770	1.4738	0.1663	0.1082	1.3944	0.0122	0.0137	0.0039	0.0241	99.9997	875	961	剝片	小赤沢
S-19	3.5898	0.4555	11.1313	77.8980	0.9120	3.1847	1.2736	0.1555	0.0830	1.2757	0.0076	0.0064	0.0083	0.0187	100.0001	644	528	剝片	小赤沢・弱比熱
S-20	2.9935	0.0000	11.3816	78.3710	0.9442	3.2193	1.4453	0.2029	0.0844	1.3132	0.0095	0.0099	0.0082	0.0170	100.0000	788	806	剝片	小赤沢
S-21	2.4518	0.0000	10.9543	79.7449	0.9550	3.0787	1.2889	0.1689	0.0972	1.2052	0.0118	0.0081	0.0073	0.0280	100.0001	874	587	剝片	小赤沢
S-22	2.9311	0.0000	11.3521	78.1536	0.9549	3.2517	1.5759	0.1932	0.0895	1.4534	0.0094	0.0157	0.0012	0.0183	100.0000	755	1238	剝片	小赤沢・弱比熱
S-23	2.7967	0.0000	11.9247	76.5409	0.8781	5.2073	1.1037	0.1694	0.0683	1.2725	0.0048	0.0112	0.0067	0.0156	99.9999	416	945	剝片	小赤沢・弱比熱
S-24	2.9812	0.0000	11.9724	77.5339	0.8205	3.3570	1.5579	0.1867	0.1039	1.4449	0.0110	0.0100	0.0046	0.0162	100.0002	912	815	剝片	小赤沢
S-25	2.4639	0.0000	11.3888	79.1328	0.9295	3.0201	1.4272	0.1585	0.0803	1.3532	0.0078	0.0148	0.0050	0.0182	100.0001	597	1116	剝片	小赤沢
S-26	3.8455	0.1372	11.6589	76.6657	0.9090	3.3454	1.6574	0.1898	0.0952	1.4427	0.0095	0.0109	0.0072	0.0257	100.0001	759	848	剝片	小赤沢・弱比熱
S-27	2.2784	0.2421	12.5124	77.2109	0.8947	3.1186	1.6774	0.2396	0.1100	1.6558	0.0123	0.0138	0.0076	0.0264	100.0000	808	884	剝片	小赤沢・弱比熱
S-28	3.5992	0.0000	12.0358	76.5768	0.8451	3.4045	1.7227	0.1898	0.0871	1.4872	0.0118	0.0114	0.0064	0.0221	99.9999	879	832	剝片	小赤沢・弱比熱
S-29	3.0523	0.1850	11.6221	78.2965	0.9116	3.0784	1.3041	0.1723	0.0778	1.2572	0.0121	0.0112	0.0009	0.0186	100.0001	957	864	剝片	小赤沢・弱比熱
S-30	3.0500	0.3638	11.9171	77.6922	0.8842	3.2409	1.3515	0.1434	0.0851	1.2300	0.0084	0.0089	0.0036	0.0208	99.9999	772	795	剝片	小赤沢・弱比熱
S-31	3.2046	0.0000	11.4109	77.9721	1.0139	3.3264	1.3995	0.1687	0.1014	1.3468	0.0154	0.0067	0.0054	0.0281	99.9999	1163	494	剝片	小赤沢
S-32	3.3758	0.1684	12.7109	75.8981	0.8824	1.7389	2.7825	0.1974	0.1039	2.0985	0.0046	0.0153	0.0086	0.0146	99.9999	374	1207	剝片	湯ノ倉・弱比熱
S-33	3.1296	0.1132	11.4719	78.1447	1.0032	3.0330	1.4656	0.1693	0.0872	1.3363	0.0067	0.0136	0.0065	0.0193	100.0001	536	1063	剝片	小赤沢・弱比熱
S-34	3.5045	0.1196	11.7929	77.2477	0.9560	3.2718	1.5284	0.1733	0.0816	1.2825	0.0112	0.0096	0.0035	0.0174	100.0000	979	818	剝片	小赤沢・弱比熱
S-35	2.3709	0.0000	11.6230	79.0895	0.9181	3.0911	1.3253	0.1721	0.0826	1.2898	0.0069	0.0080	0.0055	0.0171	99.9999	570	644	剝片	小赤沢
S-36	2.5528	0.0000	11.7871	78.5919	0.9345	3.1124	1.4829	0.1531	0.0901	1.2595	0.0070	0.0102	0.0037	0.0147	99.9999	637	908	剝片	小赤沢
S-37	3.4911	0.0000	11.8265	77.5171	0.8827	3.0843	1.5398	0.1820	0.0947	1.3375	0.0072	0.0124	0.0058	0.0187	99.9998	566	957	剝片	小赤沢・弱比熱
S-38	1.7549	0.0000	12.2639	76.7510	0.9070	6.2098	1.0887	0.1216	0.1681	0.6902	0.0215	0.0109	0.0021	0.0102	99.9999	1723	857	剝片	男鹿系・弱比熱
S-39	0.6616	0.2268	12.2638	74.9138	0.9625	7.5059	1.8263	0.1509	0.0931	1.3472	0.0103	0.0080	0.0086	0.0212	100.0000	720	544	剝片	小赤沢・強比熱
S-40	2.8461	0.0000	12.1270	77.8545	0.8947	2.9700	1.3778	0.1800	0.0892	1.5911	0.0142	0.0185	0.0077	0.0293	100.0001	854	1092	剝片	小赤沢・弱比熱
S-41	0.0000	0.5067	0.6367	96.0787	1.5261	0.4170	0.1601	0.0687	0.0104	0.5850	0.0028	0.0045	0.0033	0.0000	100.0000	221	347	剝片	チャート
S-42	2.9070	0.0000	11.6820	78.4225	0.9718	3.2503	1.2966	0.1610	0.0819	1.1887	0.0066	0.0094	0.0070	0.0150	99.9998	565	786	剝片	小赤沢・弱比熱
S-43	2.6538	0.0000	11.2776	78.5986	0.9219	3.2167	1.5746	0.1797	0.0939	1.4377	0.0082	0.0123	0.0060	0.0191	100.0001	655	963	剝片	小赤沢・弱比熱

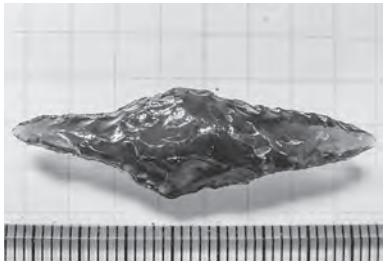
第２表　原産地対比表

試料名	原産地	遺構名/グリッド	層位	器種	重量(g)	掲載番号
S-1	小赤沢	SK71	堆積土	楔形石核	7.8	e154
S-2	小赤沢	SK71	堆積土	楔形石核	14.7	e155
S-3	小赤沢	F21	Ⅲ層	石鏃	2.0	e179
S-4	小赤沢	E50	Ⅱ層	楔形石核	5.3	e248
S-5	小赤沢	F21	Ⅲ層	削器	4.4	e236
S-6	小赤沢	SK71	堆積土	楔形石核	24.2	e156
S-8	小赤沢	調査区		剥片	5.7	e241
S-13	小赤沢	F22	Ⅲ層	剥片	1.1	
S-15	小赤沢	E04	Ⅱ層	剥片	1.0	
S-16	小赤沢	E28	Ⅲ層	剥片	3.3	
S-17	小赤沢	F21	Ⅲ層	剥片	0.9	
S-18	小赤沢	E28	Ⅲ層	剥片	3.7	
S-20	小赤沢	E37	Ⅲ層	剥片	8.1	
S-21	小赤沢	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	剥片	5.7	
S-24	小赤沢	F21	Ⅲ層	剥片	1.8	
S-25	小赤沢	F21	Ⅲ層	剥片	2.2	
S-31	小赤沢	E06	Ⅲ層	剥片	2.8	
S-35	小赤沢	E29	Ⅲ層	剥片	8.2	
S-36	小赤沢	SI03	K01内	剥片	0.7	
S-14	小赤沢・強比熱	F22	Ⅲ層	剥片	1.2	
S-39	小赤沢・強比熱	SI06	堆積土	剥片	1.5	
S-43	小赤沢・弱比熱	E06	Ⅱ層	剥片	6.9	

試料名	原産地	遺構名/グリッド	層位	器種	重量(g)	掲載番号
S-7	小赤沢・弱比熱	E07	Ⅱ層	剥片	1.7	e240
S-10	小赤沢・弱比熱	E06	Ⅱ層	剥片	8.4	
S-11	小赤沢・弱比熱	E38	Ⅰ層	剥片	0.8	
S-12	小赤沢・弱比熱	E02	Ⅳ層	剥片	1.2	
S-19	小赤沢・弱比熱	E28	Ⅲ層	剥片	2.7	
S-22	小赤沢・弱比熱	調査区東側	Ⅰ～Ⅱ層	剥片	1.2	
S-23	小赤沢・弱比熱	E07	Ⅲ層	剥片	4.3	
S-26	小赤沢・弱比熱	E15	Ⅱ層	剥片	4.2	
S-27	小赤沢・弱比熱	E30	Ⅲ層	剥片	1.8	
S-28	小赤沢・弱比熱	E39	Ⅲ層	剥片	5.7	
S-29	小赤沢・弱比熱	E38	Ⅲ層下部	剥片	3.8	
S-30	小赤沢・弱比熱	E28	Ⅲ層	剥片	2.3	
S-33	小赤沢・弱比熱	E28	Ⅲ層	剥片	1.0	
S-34	小赤沢・弱比熱	E29	Ⅰ～Ⅱ層	剥片	0.4	
S-37	小赤沢・弱比熱	SK29	堆積土	剥片	2.7	
S-40	小赤沢・弱比熱	SI06	南西側堆積土	剥片	6.8	
S-42	小赤沢・弱比熱	F12	Ⅱ層	剥片	0.6	
S-41	チャート	SN05	1層(炭層)	剥片	5.6	
S-9	湯ノ倉	E06	Ⅲ層	剥片	6.2	
S-32	湯ノ倉・弱比熱	E28	Ⅲ層	剥片	3.8	
S-38	男鹿系・弱比熱	SI04	硬質面範囲内	剥片	5.0	

S-1

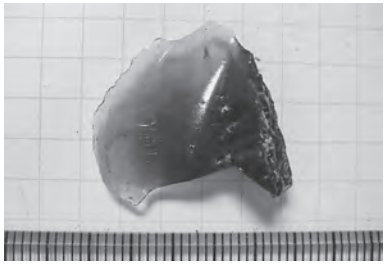
S-2

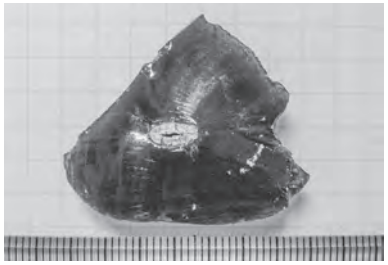

S-3

S-4

S-5

S-6

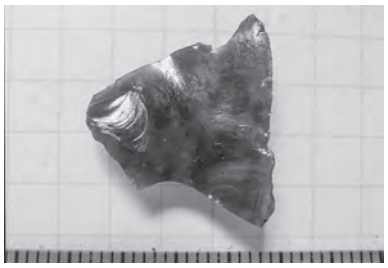

S-7

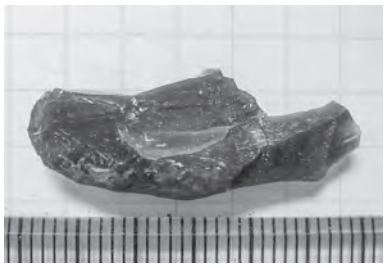

S-8

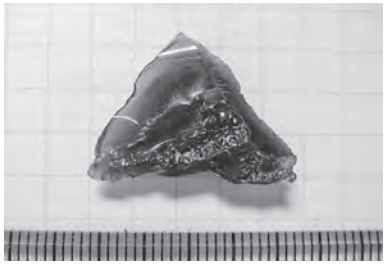
S-9

黒曜石遺物写真(1)

S-10


S-11

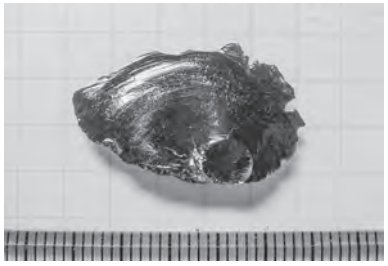

S-12


S-13

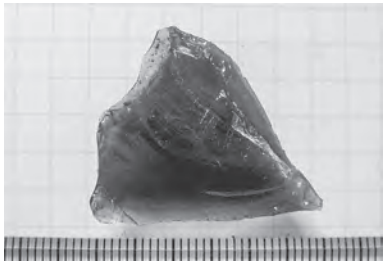
S-14

S-15

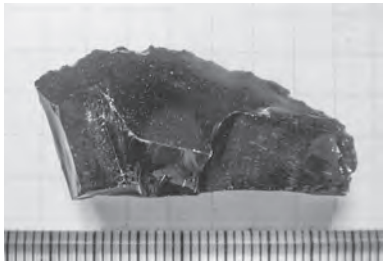
S-16


S-17

S-18

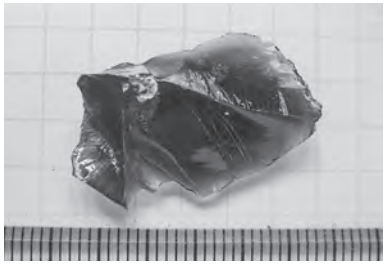

S-19

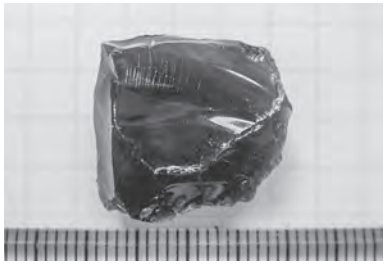
S-20

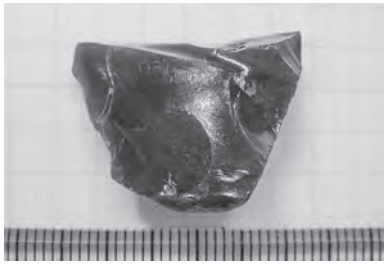

S-21

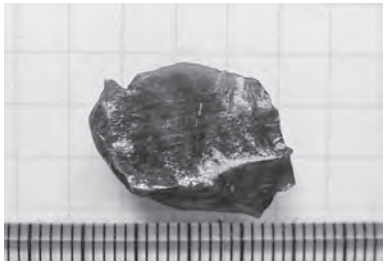
S-22

S-23


S-24

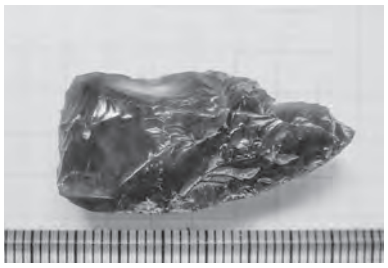

S-25

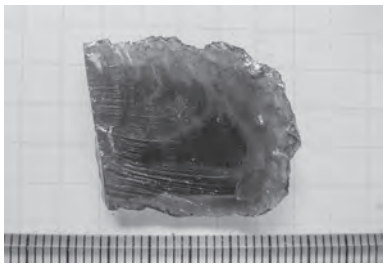

S-26


S-27

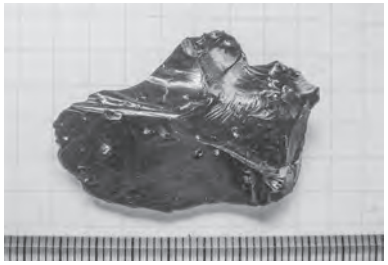
黒曜石遺物写真（2）

S-28

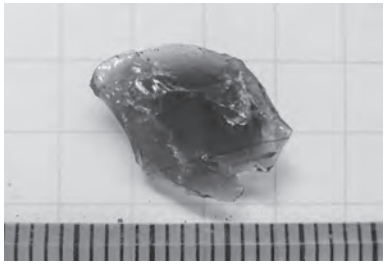

S-29

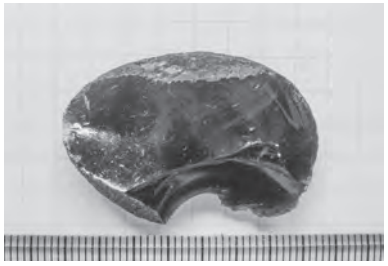

S-30

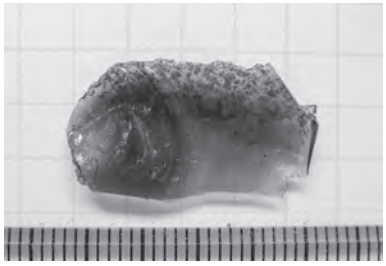
S-31


S-32

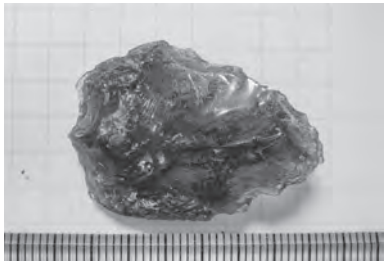
S-33


S-34


S-35

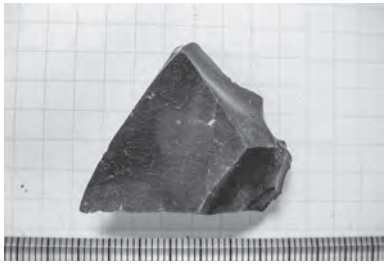

S-36

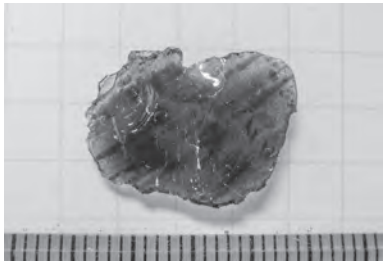
S-37


S-38

S-39

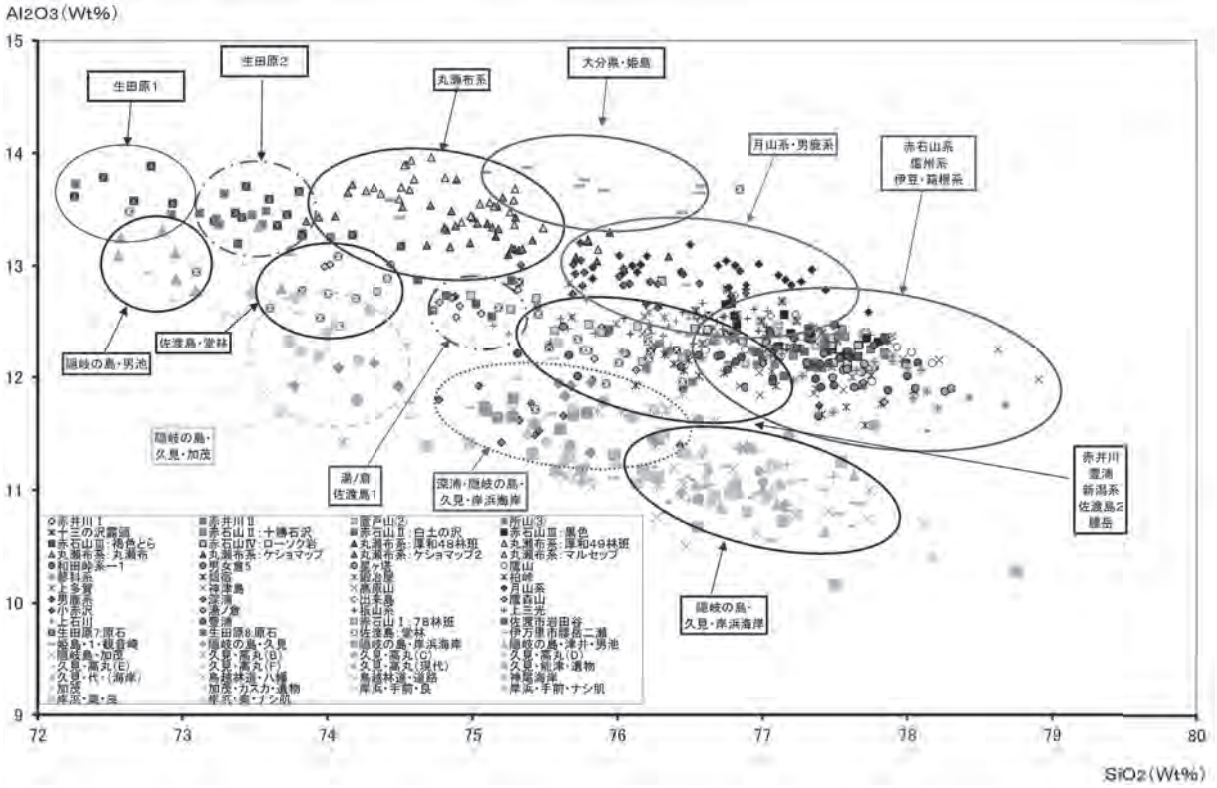
S-40


S-41

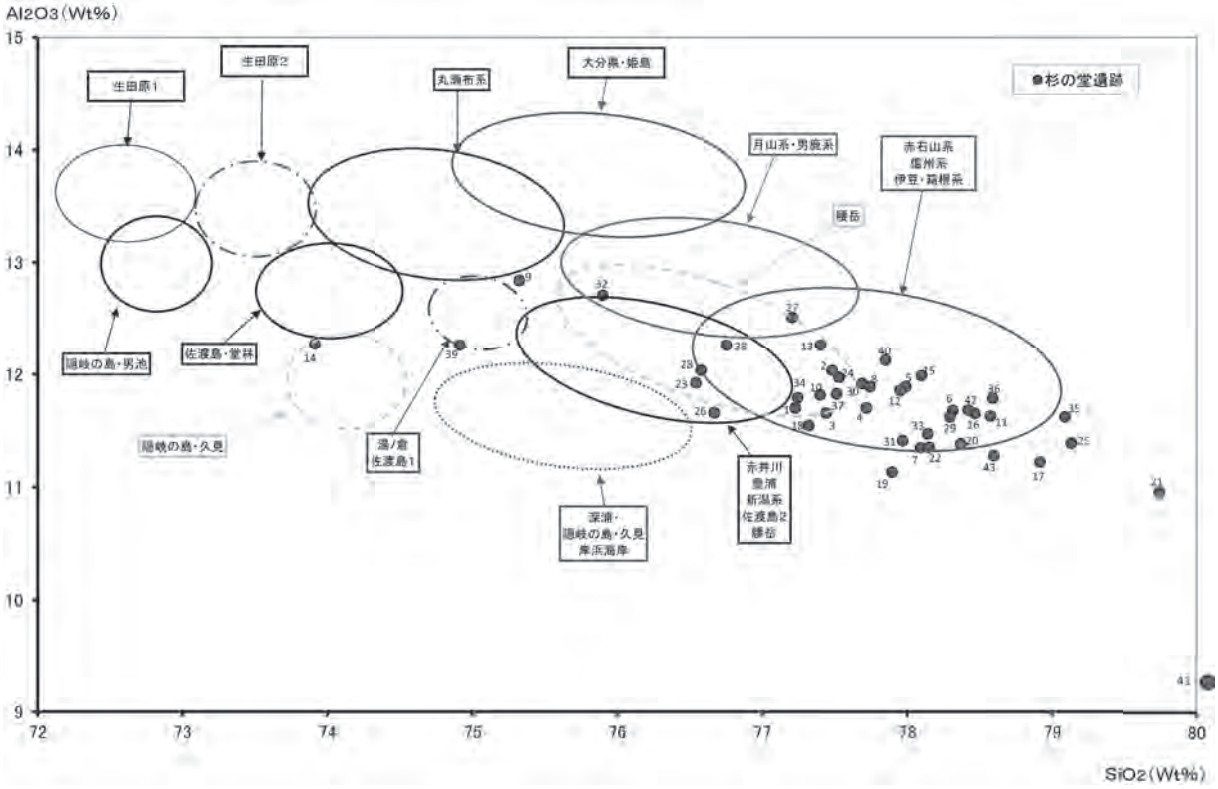

S-42

S-43

黒曜石遺物写真（3）

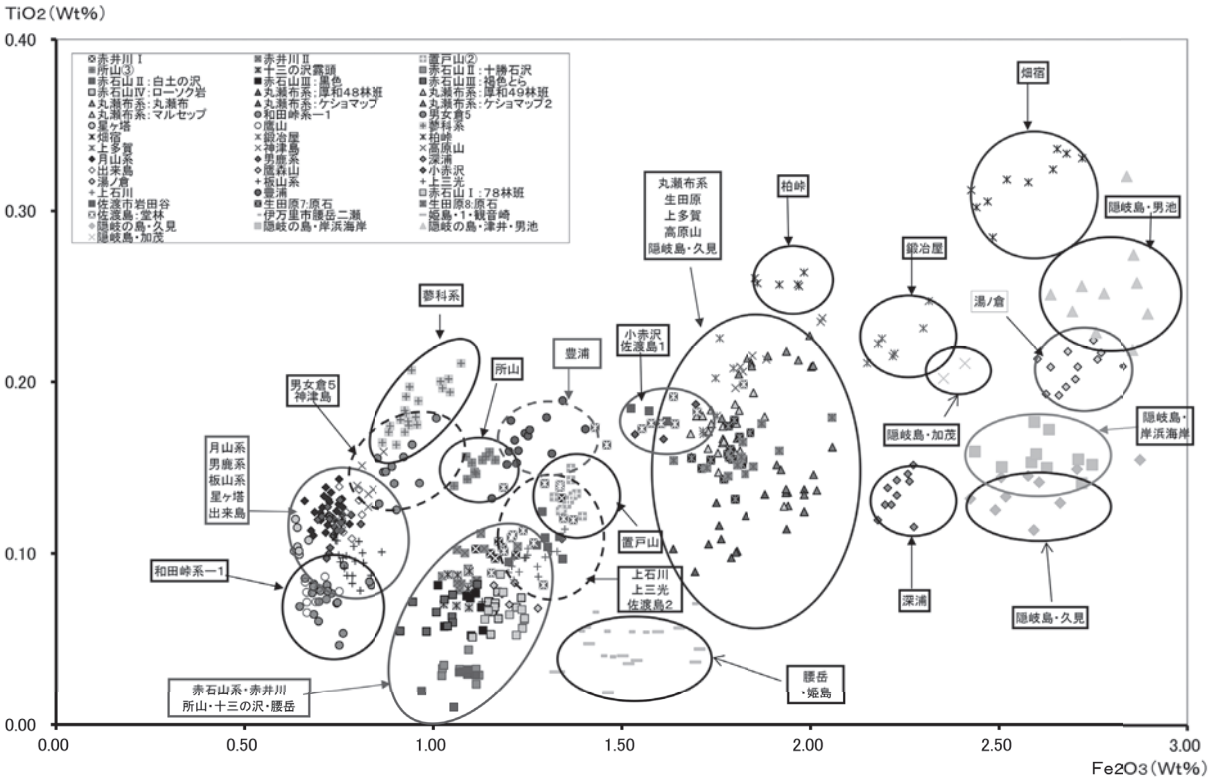


日本の黒曜石$SiO_2-Al_2O_3$図（総合図）

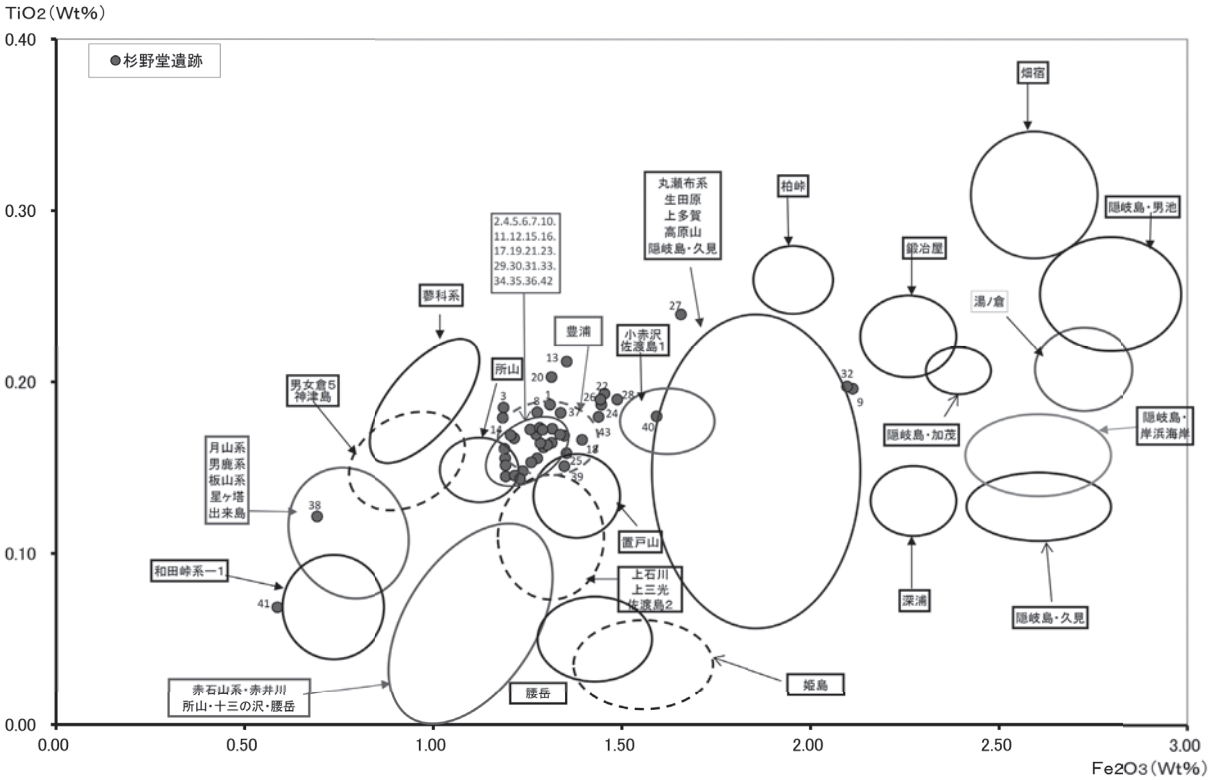


杉の堂遺跡·$SiO_2-Al_2O_3$図

第１図　日本の黒曜石$SiO_2-Al_2O_3$図（総合図）、杉の堂遺跡・$SiO_2-Al_2O_3$図

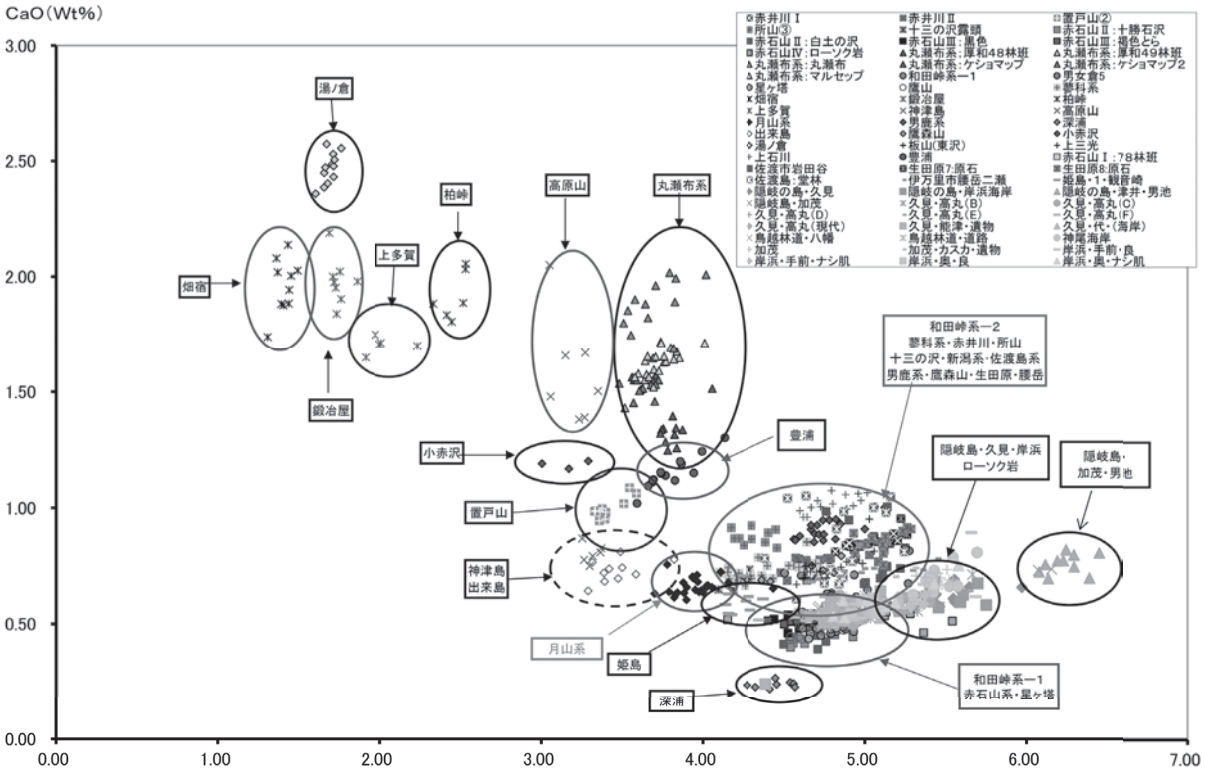


日本の黒曜石 Fe_2O_3 － TiO_2 図（総合図）

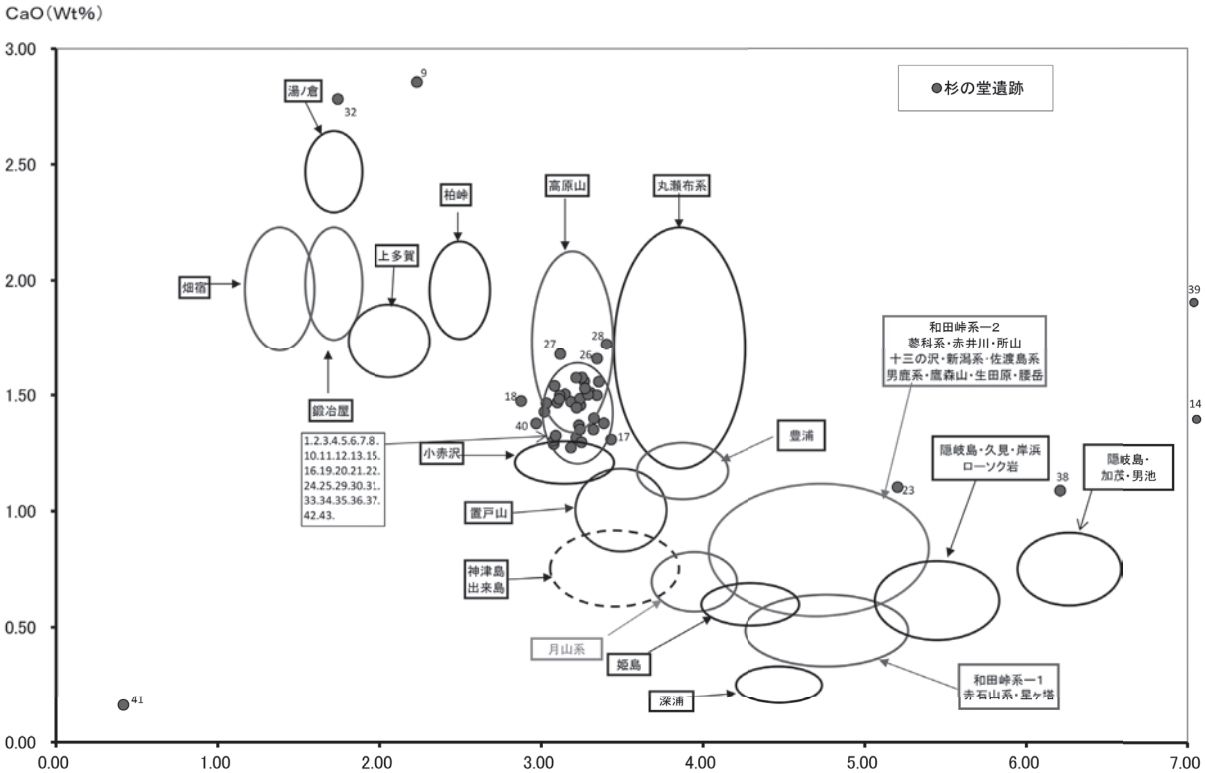


杉の堂遺跡・ Fe_2O_3 － TiO_2 図

第２図　日本の黒曜石 Fe_2O_3 － TiO_2 図（総合図）、杉の堂遺跡・ Fe_2O_3 － TiO_2 図

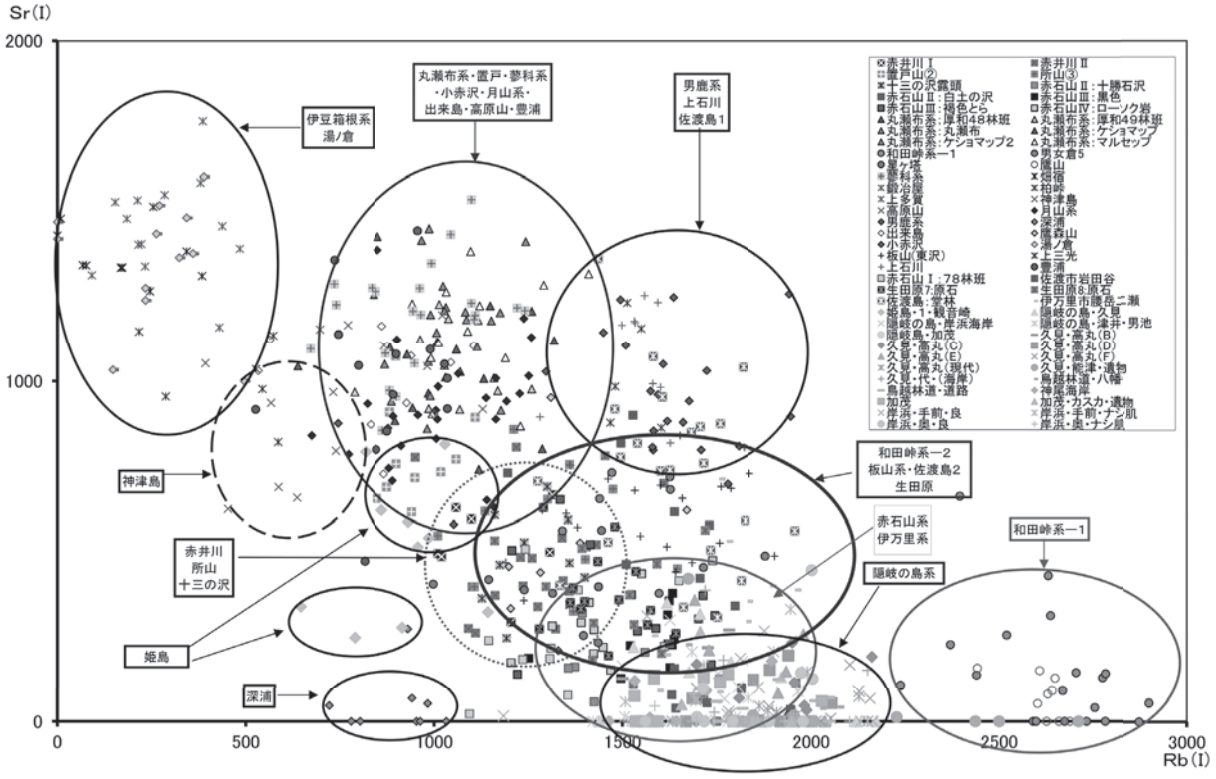


日本の黒曜石K_2O－CaO図(総合図)

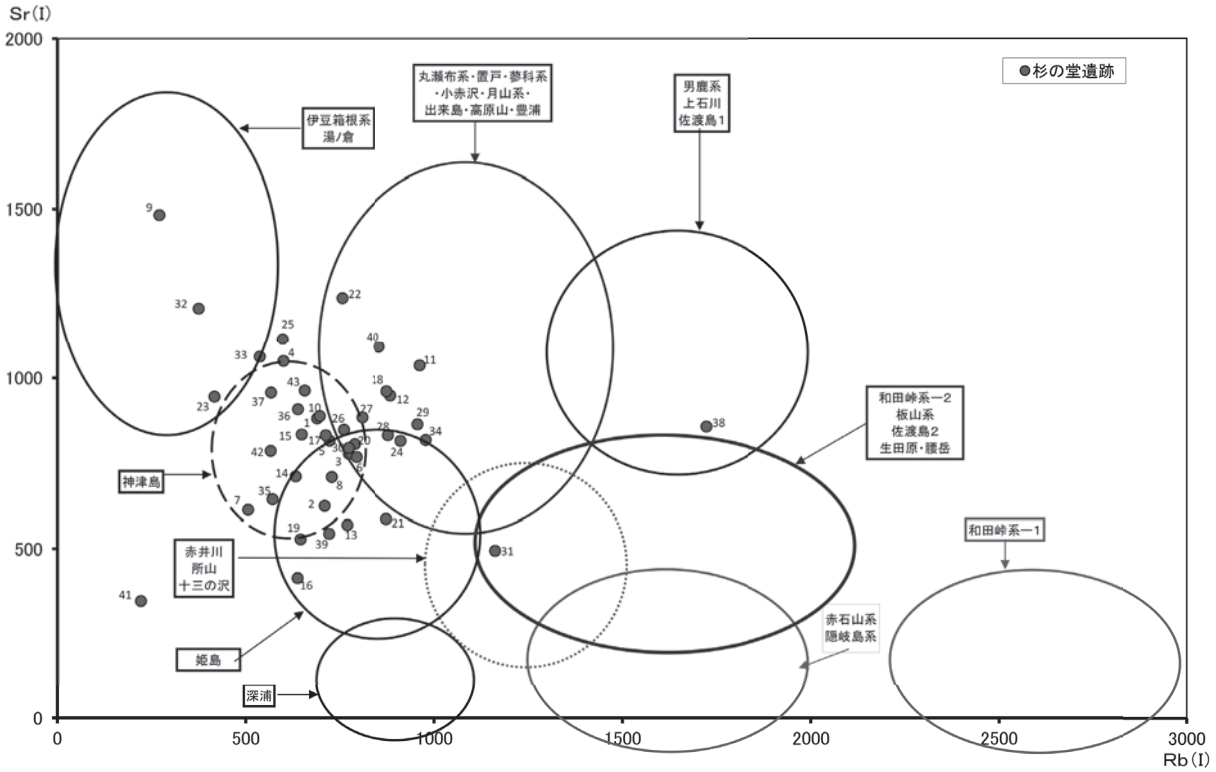


杉の堂遺跡・K_2O－CaO図

第３図　日本の黒曜石K_2O－CaO図(総合図)、杉の堂遺跡・K_2O－CaO図



日本の黒曜石Rb-Sr図（総合図）



杉の堂遺跡・Rb-Sr図

第4図　日本の黒曜石Rb-Sr図（総合図）、杉の堂遺跡・Rb-Sr図

4　X線回折試験及び化学分析試験

㈱ 第四紀 地質研究所　井上　巖

1　実　験　条　件

1－1　試　　料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。土器表面に付着した赤色顔料の分析では土器の一部を切断し、表面に付着した顔料の分析をした。

化学分析はメノウ乳鉢で粉砕したのち、500Kgの荷重で板状の試料としのちに試料表面をコーテングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1－2　X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。

測定には日本電子製JDX－8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target：Cu、Filter：Ni、Voltage：40kV、Current：30mA、ステップ角度：0.02°　計数時間：0.5秒。

1－3　化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧：15kV、分析法：スプリント法、分析倍率：200倍、分析有効時間：100秒、分析指定元素10元素で行った。

2　X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第1表胎土性状表に示す通りである。

第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

2－1　組成分類

1）Mont－Mica－Hb三角ダイヤグラム

第1図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの3成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト（Mont）、雲母類（Mica）、角閃石（Hb）のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（%）で表示する。

モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb*100でパーセントとして求め、同様にMica、Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1～4はMont、Mica、Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2）　Mont－Ch、Mica－Hb菱形ダイヤグラム

第2図に示すように菱形ダイヤグラムを1～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト（Mont）、雲母類（Mica）、角閃石（Hb）、緑泥石（Ch）の内、ａ）３成分以上含まれない、ｂ）Mont、Chの２成分が含まれない、ｃ）Mica、Hbの２成分が含まれない、の３例がある。

菱形ダダイヤグラムはMont-Ch、Mica-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch、Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica、Hb、Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある１～７はMont、Mica、Hb、Chの４成分を含み、各辺はMont、Mica、Hb、Chのうち３成分、各頂点は２成分を含んでいることを示す。ｄ）Ch １成分のみのものは記載不能とした。

位置分類についての基本原則は第２図に示すとおりである。

３）化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100%になる）で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO_2-Al_2O_3図、Fe_2O_3-TiO_2図、K_2O-CaO図の各図を作成した。これらの図をもとに、元素の面から分類した。

３　X線回折試験結果

３－１　タイプ分類

第１表胎土性状表には杉の堂遺跡より出土した土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料が記載してある。

Aタイプ：Hb １成分を含み、Mont、Mica、Chの３成分に欠ける。

Bタイプ：Ch １成分を含み、Mont、Mica、Hbの３成分に欠ける。（Feタイプ）

Cタイプ：Mont、Mica、Hb、Chの４成分にかける。

Dタイプ：Ch １成分を含み、Mont、Mica、Hbの３成分に欠ける。（Mgタイプ）

第１表胎土性状表に示すように、土器内付着顔料の赤色試料はX線回折チャートにみられるように検出ピークは赤鉄鉱（Hem）だけで、赤鉄鉱（Hem）の検出強度が高く、664（Ｉ）の値を示し、杉の堂－１、３の土壌試料とは明らかに検出強度が異なる。土器表面に付着している赤色顔料は薄く、検出されるほどではない。土壌サンプルは赤鉄鉱（Hem）検出強度が低く土器内付着顔料とは関連性が低い。（赤鉄鉱（Hem）は粉末化したものが赤色を示し、ベンガラと呼ばれている。土壌サンプルの赤鉄鉱（Hem）は自然界のもので、これらを生成して純度の高い赤鉄鉱（Hemベンガラ）を作っているとは考えられない。）

３－２　石英（Qt）－斜長石（Ｐ１）の相関について

第５図Qt-Pl図に示すようにQtの強度領域により３グループと“その他”に分類された。

１）土壌サンプルはQtが1600～3500、Plが400～1600の領域に分布する。

２）土器表面顔料はQtが400～700、Plが0～300の領域に分布する。

３）土器内付着顔料はQtが336、Plが69に分布する。

土壌サンプル、土器表面顔料、土器内付着顔料は各々異なる領域にあり、異質である。

４　化学分析結果

第２表化学分析表には杉の堂遺跡より出土した土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料が記載してある。分析結果に基づいて第６図SiO_2-Al_2O_3図、第７図Fe_2O_3-TiO_2図、第８図K_2O-CaO図

を作成した。

4－1　SiO_2－Al_2O_3の相関について

第6図SiO_2－Al_2O_3図に示すように杉の堂遺跡より出土した土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料は異なる領域にある。

1）土壌サンプルはSiO_2が52～56%、Al_2O_3が15～19%の領域に分布する。

2）土器表面顔料はSiO_2が16～56%、Al_2O_3が3～19%の領域に分布する。

3）土器内付着顔料はSiO_2が16.26、Al_2O_3が3.39%に分布する。

土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料は異なる領域にあり、関連性は薄い。

4－2　Fe_2O_3－TiO_2の相関について

第7図Fe_2O_3－TiO_2図に示すように、杉の堂遺跡より出土した土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料は3タイプに分類した。

1）土壌サンプルはFe_2O_3が17～21%、TiO_2が0.6～1.6%の領域に分布する。

2）土器表面顔料はFe_2O_3が19～36%、TiO_2が2.2～2.9%の領域に分布する。

3）土器内付着顔料はFe_2O_3が76.15%、TiO_2が0.23%の領域に分布する。

土器内付着顔料の赤鉄鉱（Hemベンガラ）はFe_2O_3が76.15%と高く、土壌サンプルとは重量％が異なり、関連性はない。土器表面顔料のX線回折試験では赤鉄鉱（ベンガラ）が検出されていないのは表面に付着した顔料が薄いために検出されなかったもので､その色調はベンガラであることが分かり、関連性が示唆される。

4－3　K_2O－CaOの相関について

第8図K_2O－CaO図に示すように杉の堂遺跡より出土した土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料は3タイプに分類された。

1）土壌サンプルはK_2Oが2.3～2.7%、CaOが1.0～5.4%の領域に分布する。

2）土器表面顔料はK_2Oが1.9～3.7%、CaOが0.5～1.0%の領域に分布する。

3）土器内付着顔料はK_2Oが0.3%、CaOが0.4%の領域に分布する。

土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料は異なる領域にあり、関連性は薄い。

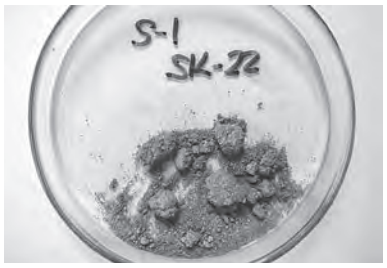
5　ま　と　め

第1表胎土性状表と第2表化学分析表に示すように杉の堂遺跡より出土した土壌サンプル、土器内付着顔料、土器表面顔料を分類した。

1）第1表胎土性状表に示すように、土器胎土はA～Dの4タイプに分類された。土器内付着顔料は赤鉄鉱（Hemベンガラ）の強度が高く、Qt とPlの検出強度が低く、純度の高い赤鉄鉱（Hemベンガラ）試料である。第2表化学分析表に示すように、土器内付着顔料はFe_2O_3の重量％（Wt%）76.15%と高く、X線回折試験結果と同様に純度が高いことがわかる。土器内付着顔料の赤色試料はX線回折チャートにみられるように検出ピークは赤鉄鉱（Hem）だけで、赤鉄鉱（Hem）の検出強度が高く、664（Ⅰ）の値を示し、純度が高いことがわかる。

2）第1表胎土性状表と第2表化学分析表に示すように、土壌サンプルの赤鉄鉱（Hemベンガラ）の検出強度は低く、土器内付着顔料の純度の高い赤鉄鉱（Hemベンガラ）とは関連性がない。

3）S－6の土器付着顔料は第2表化学分析表にみられるように、Fe_2O_3の重量％（Wt%）は35.65%（Wt%）と通常の土器胎土の化学分析値よりは明らかに高く、色調も赤色で土器内付着顔料の赤鉄鉱（Hemベンガラ）を薄めて塗布していると推察される。

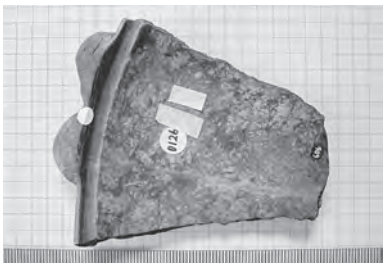


杉の堂－ 1

杉の堂－ 2

杉の堂－ 3

杉の堂－ 4


杉の堂－ 5

杉の堂－ 6

杉の堂遺跡・分析資料写真

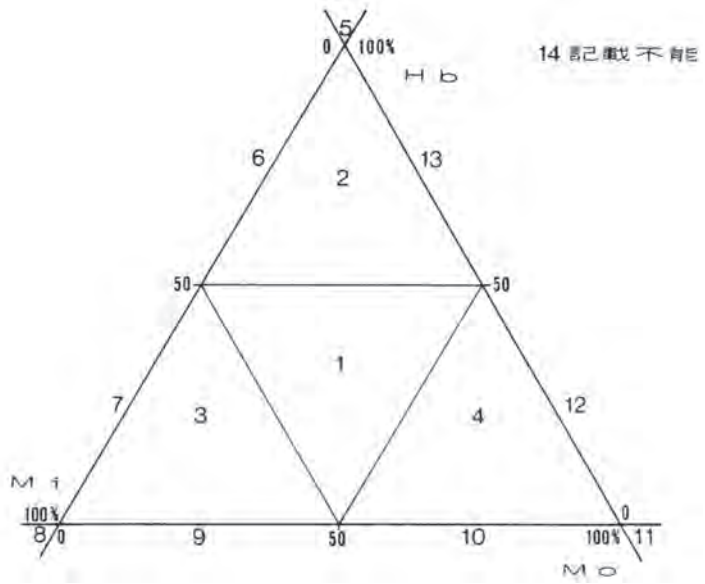
第１表　胎土性状表

試料No.	タイプ分類	組成分類		粘鉱物および造岩鉱物												備考
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mull	K-fels	Hal	Hem	Au	分析試料
杉の堂−1	A	5	20			93	169	72	3193	1536					102		SK22土壌サンプル
杉の堂−2	B	15	20				121	48	2575	724							SK49土壌サンプル
杉の堂−3	B	15	20				142		1918	649					94		SK67土壌サンプル
杉の堂−4	C	14	20						336	69					664		a530土器内付着顔料
杉の堂−5	D	16	20					640	772	186							a76浅鉢
杉の堂−6	D	16	20					253	414	100							a145浅鉢

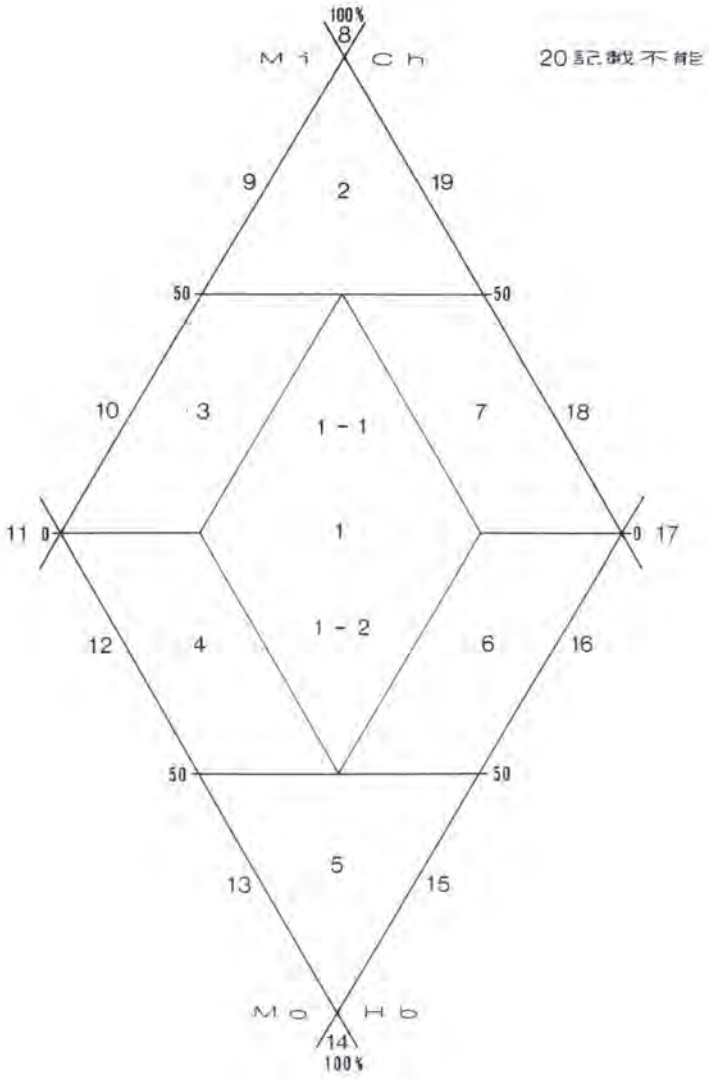
Mont：モンモリロナイト　Mica：雲母類　Hb：角閃石　Ch：緑泥石（Ch：Fe 一次反射、Ch：Mg 二次反射）　Qt：石英　Pl：斜長石
Crist：クリストバライト　Mullite：ムライト　K-fels：カリ長石　Halloy：ハロイサイト　Kaol：カオリナイト　Pyrite：黄鉄鉱
Au：普通輝石　Py：紫蘇輝石　Hem：赤鉄鉱

第２表　化学分析表

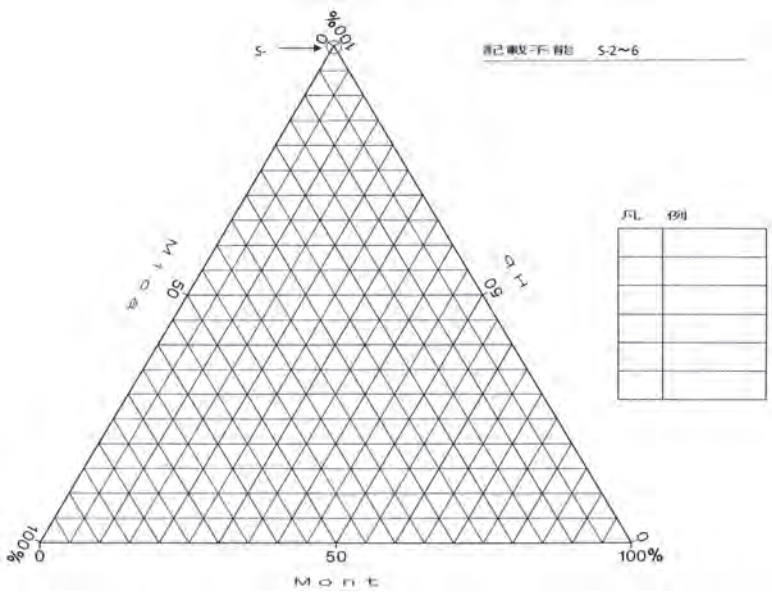
試料名	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	P_2O_5	Total	分析試料
杉の堂−1	0.92	0.00	18.32	54.40	2.35	1.22	0.96	1.04	20.80	0.00	100.01	SK22土壌サンプル
杉の堂−2	1.53	0.00	15.74	55.61	2.52	5.34	0.67	0.57	18.02	0.00	100.00	SK49土壌サンプル
杉の堂−3	0.68	0.00	15.41	55.80	2.65	3.55	0.75	3.56	17.60	0.00	100.00	SK67土壌サンプル
杉の堂−4	0.41	0.00	3.39	16.26	0.30	0.40	0.23	2.87	76.15	0.00	100.01	a530土器内付着顔料
杉の堂−5	0.44	0.00	18.77	55.05	2.10	1.58	2.30	0.57	19.18	0.00	99.99	a76浅鉢
杉の堂−6	0.77	0.00	18.21	33.72	0.97	3.89	2.87	1.79	35.65	2.12	99.99	a145浅鉢



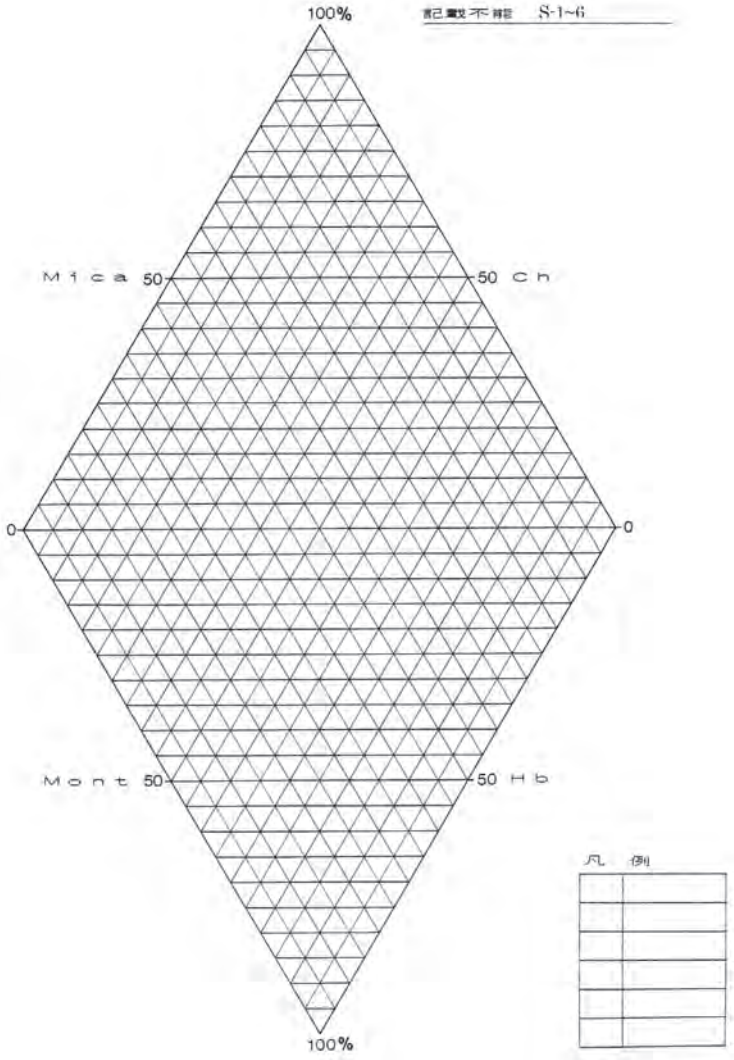
第１図　三角ダイヤグラム位置分類図



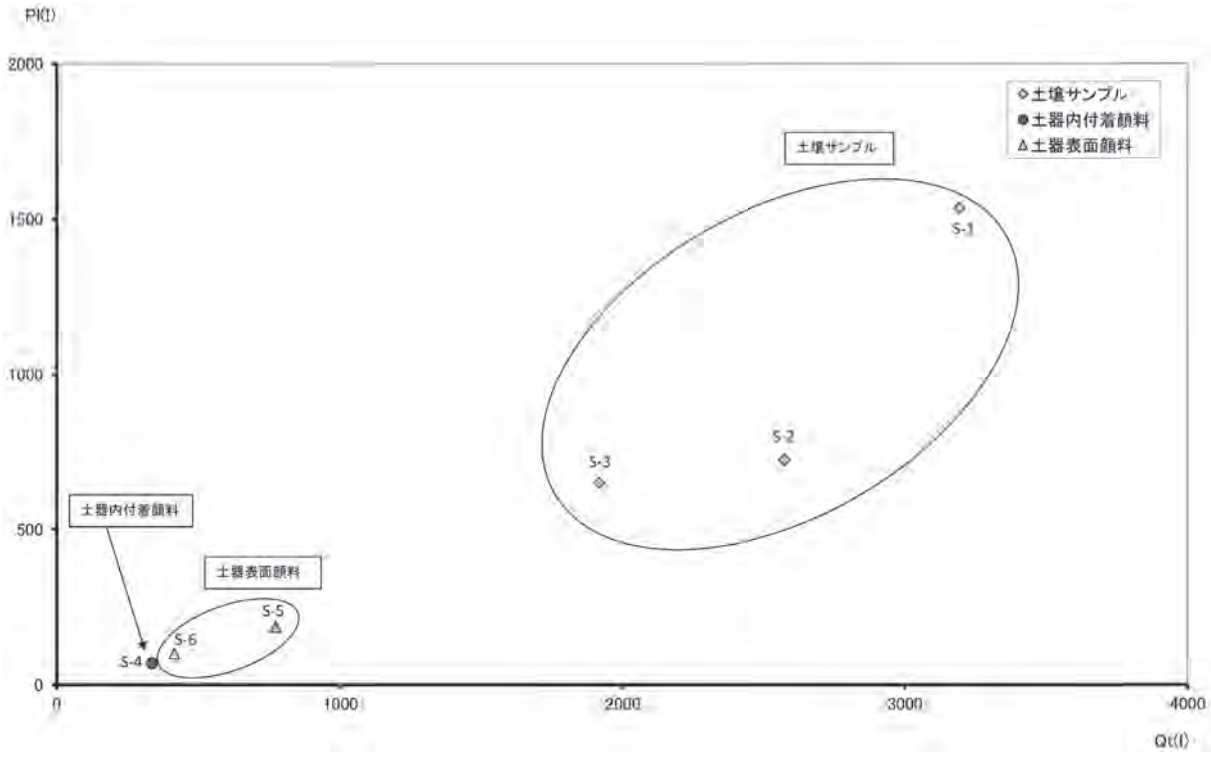
第２図　菱形ダイヤグラム位置分類図



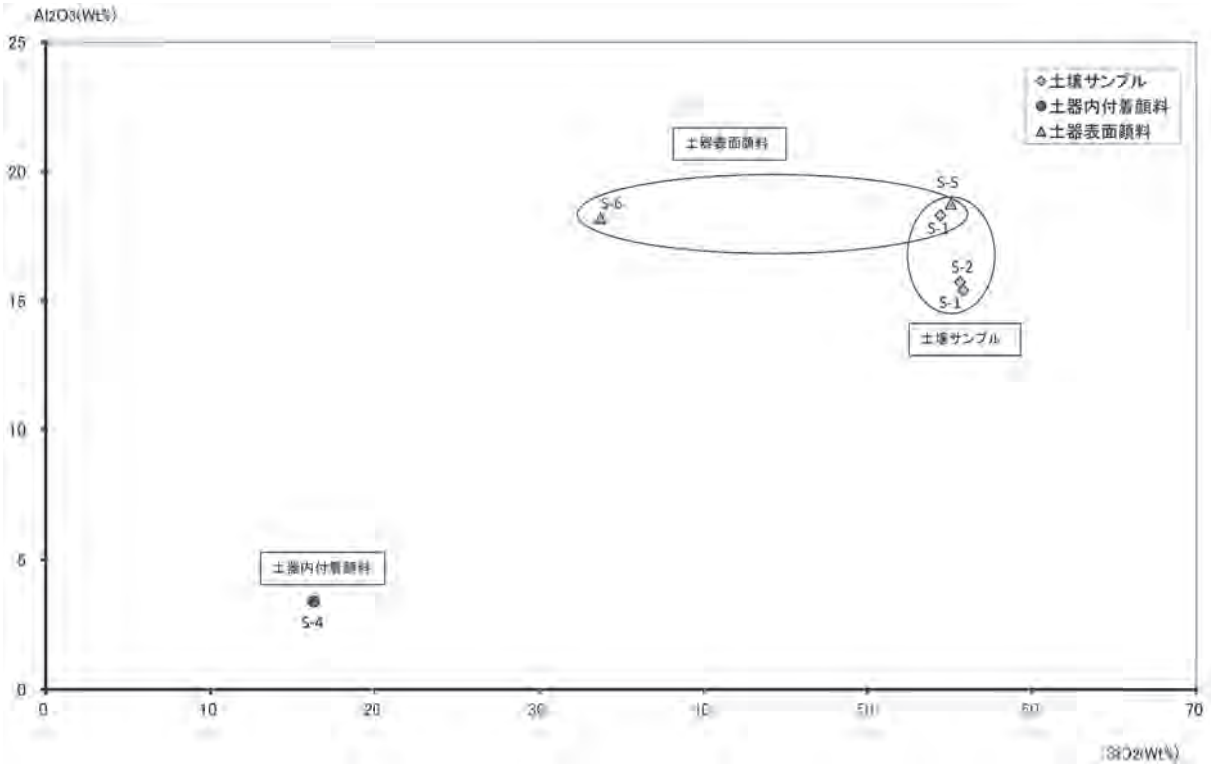
第３図　Mont－Mica－Hb三角ダイヤグラム



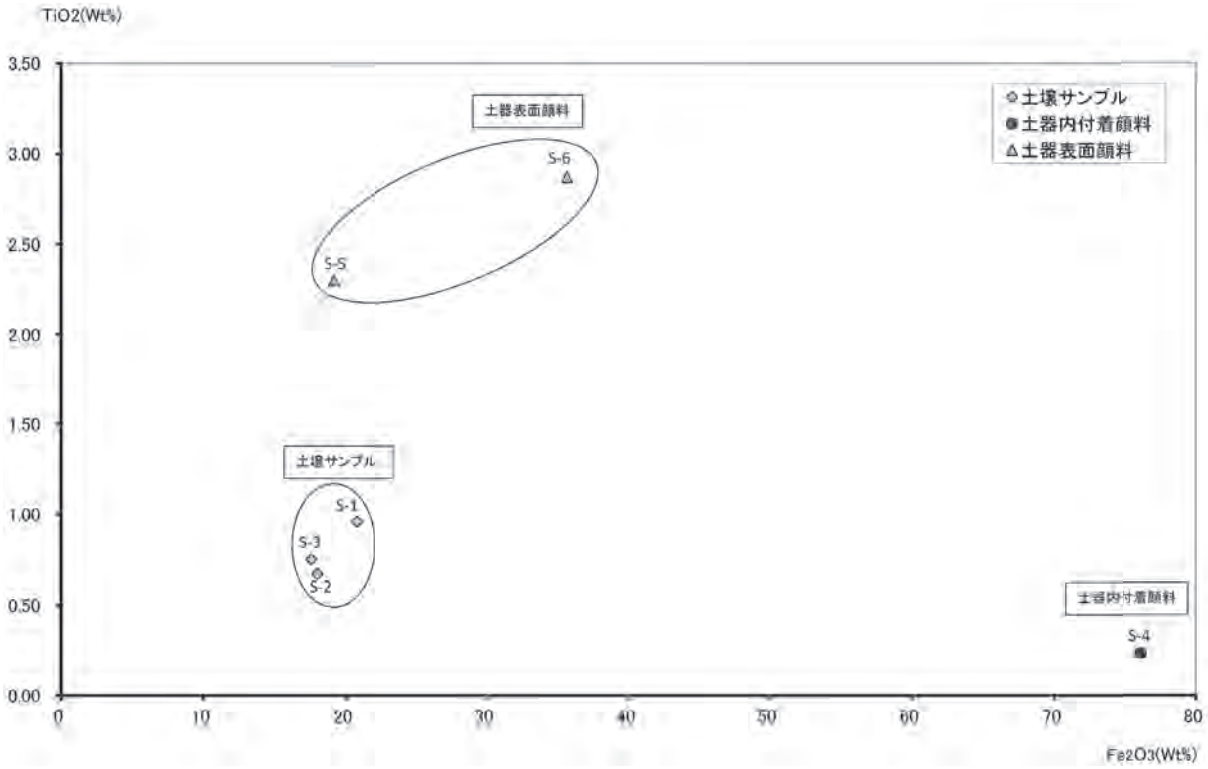
第４図　Mont－Ch、Mica-Hb菱形ダイヤグラム



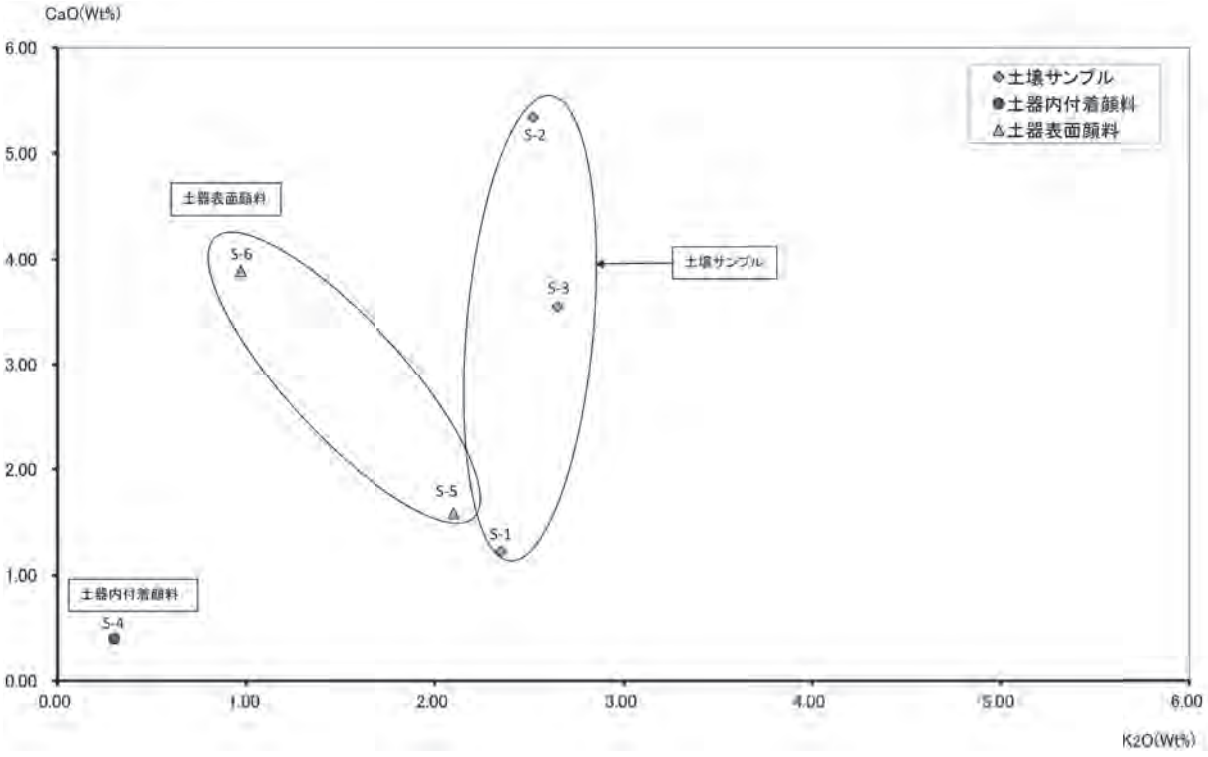
第５図　Qt－PI図



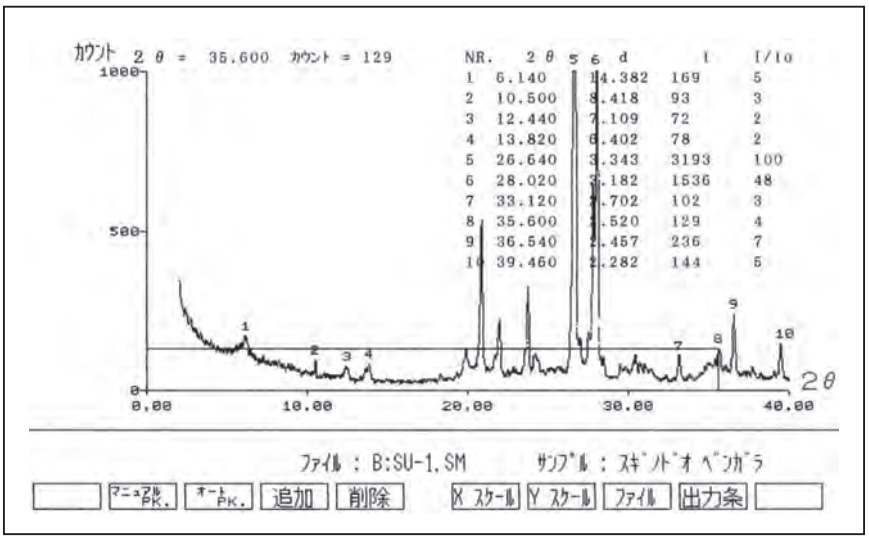
第６図　SiO_2－Al_2O_3図



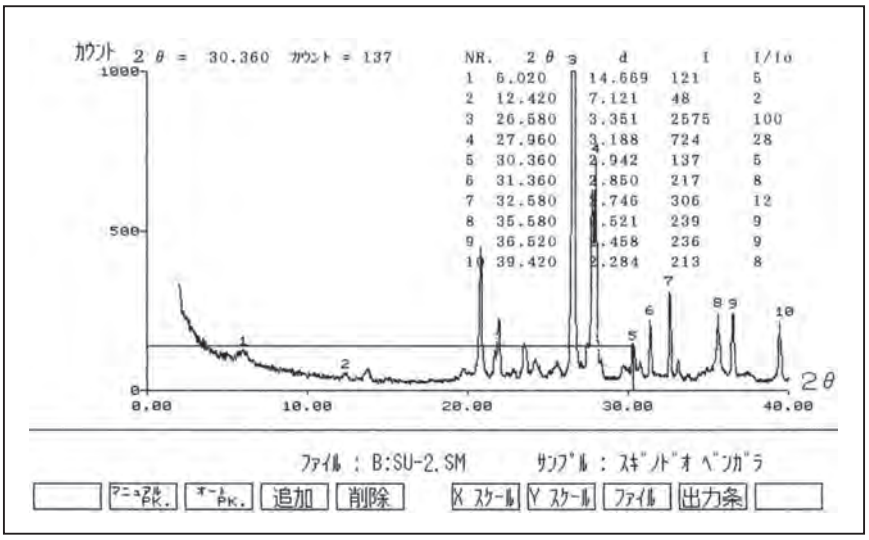
第7図　Fe_2O_3－TiO_2図



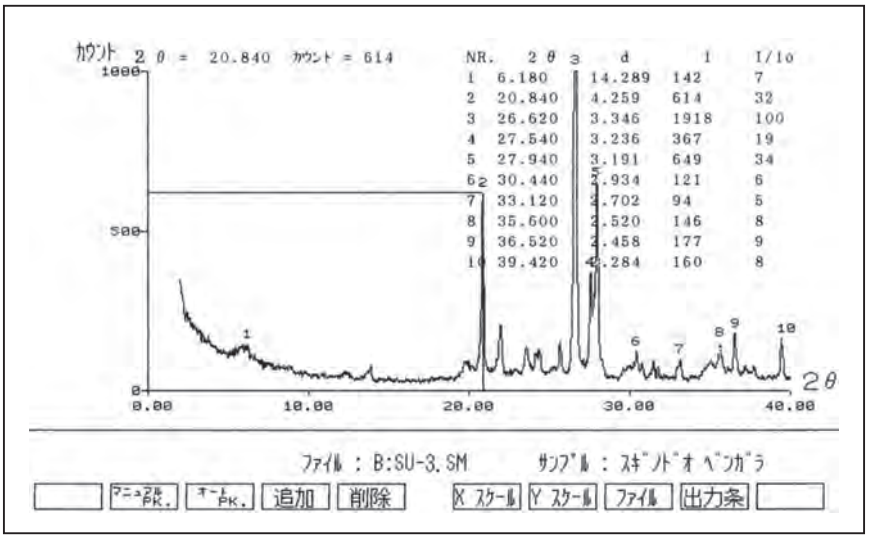
第8図　K_2O－CaO図



杉の堂－１

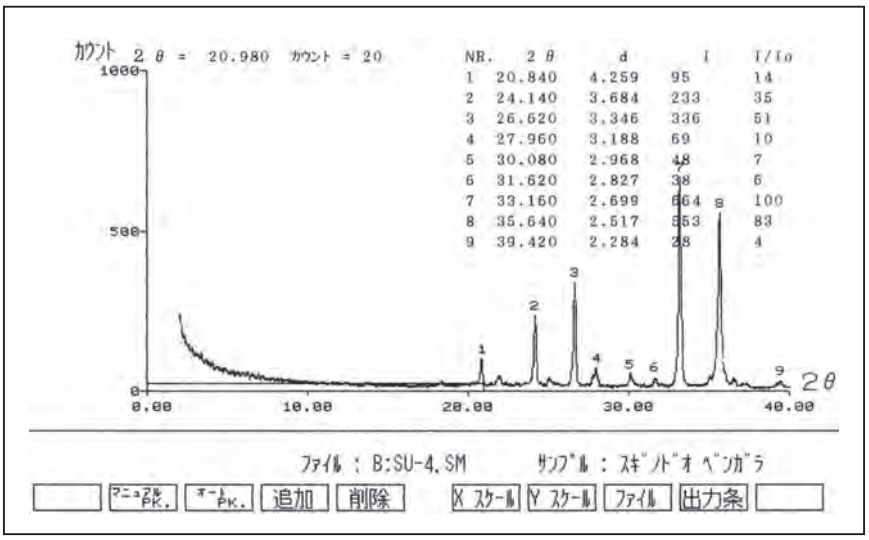


杉の堂－２

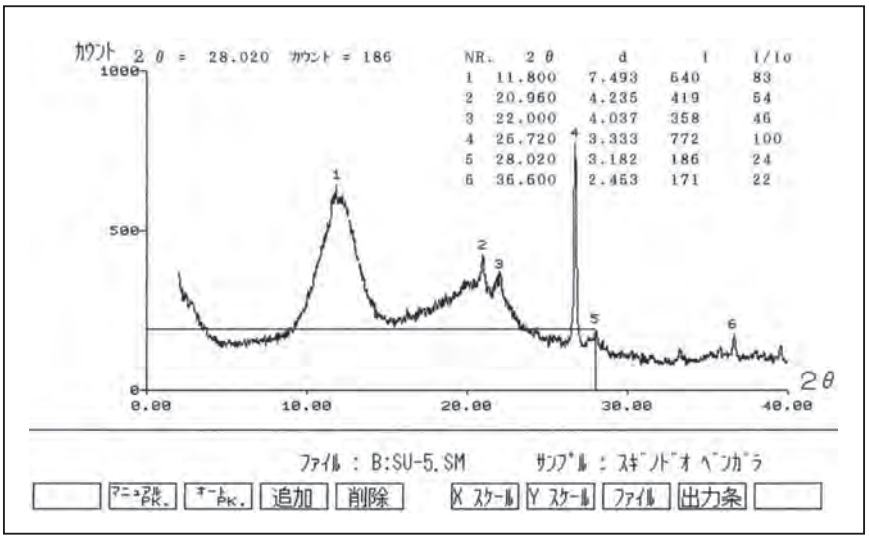


杉の堂－３

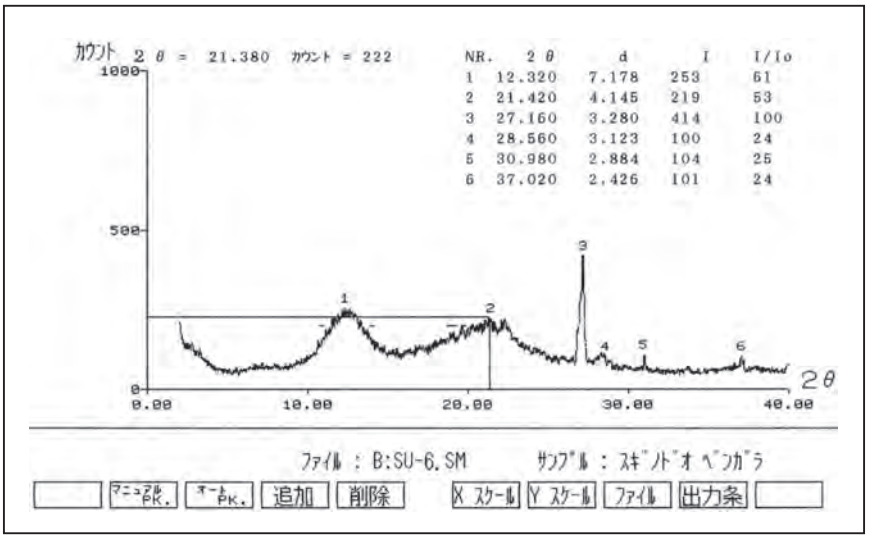
X線回折試験チャート（１）



杉の堂－４



杉の堂－５



杉の堂－６

X線回折試験チャート（２）

試料名：suginodou-1

測定日時：;8年08月30日　19時10分24秒
分析日時：;8年08月30日　19時13分41秒

--- 測定－ジオメトリ　パラメータ　---

加速電圧　：　15.00 kV　取り出し角度　：　32.01 °
経過時間　：　131.99 秒　有効時間　：　100.00 秒

--- 分析　結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.68	0.66	Na2O	0.92	0.0827
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	9.69	8.00	Al2O3	18.32	1.9330
Si	K	25.43	20.15	SiO2	54.40	5.4733
P	K	0.00	0.00	P2O5	0.00	0.0000
K	K	1.95	1.11	K2O	2.35	0.5023
Ca	K	0.87	0.48	CaO	1.22	0.2354
Ti	K	0.57	0.27	TiO2	0.96	0.1471
Mn	K	0.80	0.33	MnO	1.04	0.2021
Fe	K	14.55	5.80	Fe2O3	20.80	3.7302
O	-	45.45	63.21			------
合計		100.00	100.00		100.00	

杉の堂－１

試料名：suginodou-2

測定日時：;8年08月30日　19時17分22秒
分析日時：;8年08月30日　19時20分45秒

--- 測定－ジオメトリ　パラメータ　---

加速電圧　：　15.00 kV　取り出し角度　：　32.01 °
経過時間　：　133.11 秒　有効時間　：　100.00 秒

--- 分析　結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	1.14	1.10	Na2O	1.53	0.1388
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	8.33	6.87	Al2O3	15.74	1.6543
Si	K	25.99	20.57	SiO2	55.61	5.6313
P	K	0.00	0.00	P2O5	0.00	0.0000
K	K	2.09	1.19	K2O	2.52	0.5366
Ca	K	3.82	2.12	CaO	5.34	1.0207
Ti	K	0.40	0.19	TiO2	0.67	0.1002
Mn	K	0.44	0.18	MnO	0.57	0.1099
Fe	K	12.60	5.02	Fe2O3	18.02	3.1895
O	-	45.19	62.78			------
合計		100.00	100.00		100.00	

杉の堂－２

試料名：suginodou-3

測定日時：;8年08月30日　19時23分48秒
分析日時：;8年08月30日　19時26分12秒

--- 測定－ジオメトリ　パラメータ　---

加速電圧　：　15.00 kV　取り出し角度　：　32.01 °
経過時間　：　129.87 秒　有効時間　：　100.00 秒

--- 分析　結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.50	0.49	Na2O	0.68	0.0595
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	8.16	6.77	Al2O3	15.41	1.5969
Si	K	26.08	20.80	SiO2	55.80	5.5893
P	K	0.00	0.00	P2O5	0.00	0.0000
K	K	2.20	1.26	K2O	2.65	0.5578
Ca	K	2.54	1.42	CaO	3.55	0.6724
Ti	K	0.45	0.21	TiO2	0.75	0.1132
Mn	K	2.76	1.12	MnO	3.56	0.6792
Fe	K	12.31	4.93	Fe2O3	17.60	3.0910
O	-	45.01	62.99			------
合計		100.00	100.00		100.00	

杉の堂－３

化学分析表（１）

試料名：suginodou-4

測定日時：;8年 08月 30日　19時 30分 28秒
分析日時：;8年 08月 30日　19時 33分 01秒

--- 測定－ジオメトリ　パラメータ　---

加速電圧　：　15.00 kV　取り出し角度　：　32.01 °
経過時間　：　133.95 秒　有効時間　：　100.00 秒

--- 分析　結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.30	0.38	Na2O	0.41	0.0308
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	1.79	1.90	Al2O3	3.39	0.3539
Si	K	7.60	7.74	SiO2	16.26	1.9506
P	K	0.00	0.00	P2O5	0.00	0.0000
K	K	0.25	0.18	K2O	0.30	0.0890
Ca	K	0.29	0.20	CaO	0.40	0.1098
Ti	K	0.14	0.08	TiO2	0.23	0.0517
Mn	K	2.22	1.16	MnO	2.87	0.7726
Fe	K	53.26	27.28	Fe2O3	76.15	18.9159
O	-	34.15	61.07			
合計		100.00	100.00		100.00	

杉の堂－ 4

試料名：suginodou-5

測定日時：;8年 08月 30日　19時 44分 45秒
分析日時：;8年 08月 30日　19時 47分 14秒

--- 測定－ジオメトリ　パラメータ　---

加速電圧　：　15.00 kV　取り出し角度　：　32.01 °
経過時間　：　135.95 秒　有効時間　：　100.00 秒

--- 分析　結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.33	0.32	Na2O	0.44	0.0388
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	9.93	8.15	Al2O3	18.77	1.9174
Si	K	25.73	20.28	SiO2	55.05	5.3314
P	K	0.00	0.00	P2O5	0.00	0.0000
K	K	1.74	0.99	K2O	2.10	0.4314
Ca	K	1.13	0.62	CaO	1.58	0.2933
Ti	K	1.38	0.64	TiO2	2.30	0.3887
Mn	K	0.44	0.18	MnO	0.57	0.1066
Fe	K	13.41	5.32	Fe2O3	19.18	3.2913
O	-	45.89	63.50			
合計		100.00	100.00		100.00	

杉の堂－ 5

試料名：suginodou-6

測定日時：;8年 08月 30日　19時 56分 50秒
分析日時：;8年 08月 30日　19時 53分 06秒

--- 測定－ジオメトリ　パラメータ　---

加速電圧　：　15.00 kV　取り出し角度　：　32.01 °
経過時間　：　124.06 秒　有効時間　：　100.00 秒

--- 分析　結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.57	0.60	Na2O	0.77	0.0351
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	9.63	8.58	Al2O3	18.21	1.0346
Si	K	15.76	13.48	SiO2	33.72	1.8840
P	K	0.92	0.72	P2O5	2.12	0.1076
K	K	0.81	0.50	K2O	0.97	0.1250
Ca	K	2.78	1.67	CaO	3.89	0.4519
Ti	K	1.72	0.86	TiO2	2.87	0.2643
Mn	K	1.39	0.61	MnO	1.79	0.2068
Fe	K	24.94	10.73	Fe2O3	35.65	3.7890
O	-	41.47	62.26			
合計		100.00	100.00		100.00	

杉の堂－6

化学分析表（2）

Ⅵ　総　　括

1　縄文～弥生時代

（1）本次調査区の成果概要

本次調査区は、北上川西岸の河岸段丘上に位置し、微地形では中央部の標高がやや高く、東側は北上川に近づくにつれ低くなっていく。

調査区西部は、平面が小判形で底面に赤色顔料の散布された土坑墓が密集する墓域がある。中央部北端には焼土遺構が集中し、その東側は遺構のない空白域となる。これらを挟むようにフラスコ状土坑が中央～東部（Eグリッド内）にかけて分布し貯蔵域が広がる。東部には竪穴建物と掘立柱建物からなる居住域があり、これに土坑墓が数基重なる。中央部から東部にかけて厚く堆積した遺物包含層からは、土器・石器が大量に出土した。本次調査区東端は耕作・宅地造成によって攪乱されていた。

土器は、縄文時代早期後葉・中期中葉・晩期～弥生時代初頭・弥生時代中期のものが出土しているが、その大半が晩期に属し、その中でも晩期の大洞Ｂ～ＢＣ式、大洞Ｃ2～Ａ式の出土量が多い。

調査区西～中央部に分布する遺構は晩期前半、調査区東部は晩期後半を主体とする。遺跡内の「場」の利用方法が時期によって異なるのであろう。時期が新しくなるにつれ、遺構の構築場所が北上川寄り、すなわち東に移動していく傾向にある。過去の調査報告を参照すると、本遺跡は北上川河岸段丘の崖線上を中心とした大洞Ｃ式以降隆盛する集落と言えるが、それより古い時期にあたる大洞Ｂ～ＢＣ式期の居住域は、崖線上ではなく未調査地区の多い本次調査区の西側かあるいは北側などに求められる。

（2）遺　　構

竪穴建物

縄文時代晩期後半（Ｃ2～Ａ式）の竪穴建物は平面が円形で、建て替えがほぼ同地点で行われている。SI08a・SI08b・SI14は床面中央に円形の石囲炉を伴うものであった。SI08aよりも新しいと考えられるSI13は、火災建物で地床炉を伴う。SI13内出土土器のなかには意図的に伏せられた状態のものもあることから、失火原因が不慮の事故とは限らず、事前に準備された意図的な付火の可能性も考えられる。

縄文中期のSI15は方形の石囲炉を伴う。県内の中期建物の規模からするとSI15は小型に分類される。

掘立柱建物

縄文晩期後半の掘立柱建物は1×2間が1棟、1×1間が4棟確認された。掘立柱建物の用途は判然としないが竪穴建物とは異なるものと想定される。倉庫であれば、一般の初等教育用教科書に掲載されているような弥生時代の高床式倉庫のようなイメージである。また秋田県大湯環状列石例にあるように、墓域を囲むように掘立柱建物が配置される事例があり殯小屋とする説が存在するが、本次調査区の遺構配置関係からは判断しかねる。掘立柱建物の柱間寸法は大まかに、1間260～280cmと1間350～400cmの2種がある。1×2間のSB01の廃絶後にはSI13がその上位に構築され、SB02～04は重複する。建て替えが頻繁に行われた結果と考えられる。

第206図　時期別遺構分布図（縄文～弥生）

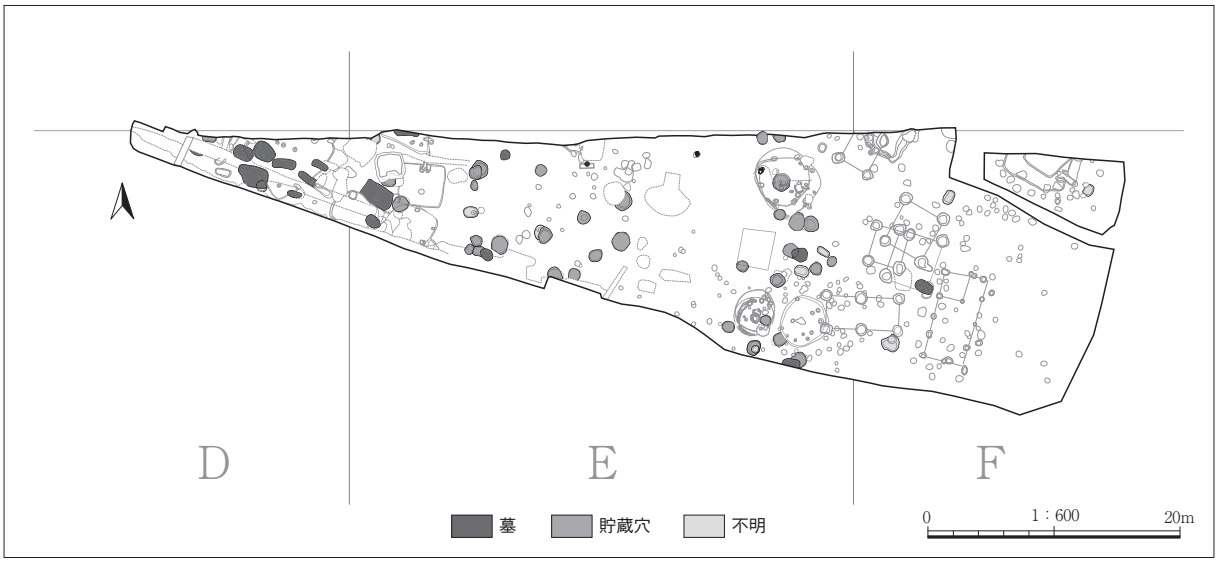
貯蔵穴

貯蔵穴と推定される土坑は36基確認された。うち３基は土坑墓として転用されている。貯蔵穴は本次調査区の中央部～東部西端、Ｅグリッド内に集中している。E7列付近に空白域を設け、東西に分かれるような分布域を示す。

県内の調査事例ではフラスコ状土坑が縄文中期に多く、晩期で纏まりを持つ遺跡は少ない。野外調査時も試掘段階で中期土器片が出土していたことから、フラスコ状土坑の多くが中期に帰属すると考え調査を進めた。しかし、本次調査区のフラスコ状土坑の底面付近～堆積土下部から晩期土器が出土する例が多く､晩期の確実な検出例となった。特に晩期前葉（B ～ BC式期）の土器を伴うことが多く、貯蔵穴群の主体時期と判断される。

土坑墓・貯蔵穴転用墓・土器棺墓

形態として、底面に赤色顔料が散布されている小判形の土坑墓、貯蔵施設とされるフラスコ状土坑



第207図　土坑分布図

第57表　土坑一覧

遺構名	グリッド	性格	時期詳細	遺構名	グリッド	性格	時期詳細	遺構名	グリッド	性格	時期詳細
SK01	E19	貯蔵穴	晩期前葉	SK22	D09	墓	晩期中葉	SK42	E29	貯蔵穴	晩期前～中葉
SK02	E20	貯蔵穴	晩期前葉	SK23	E01	不明	縄文	SK43	E11	貯蔵穴	晩期前葉
SK03	D08	墓	晩期	SK24	E26	貯蔵穴	晩期前葉	SK44	E28	貯蔵穴	晩期前葉
SK04	E25	貯蔵穴？	晩期	SK25	D09	墓	晩期	SK45	E38	貯蔵穴？	晩期前葉
SK05	E23	貯蔵穴？	晩期	SK26	D10	墓？	晩期	SK47	E19	貯蔵穴？	晩期
SK06	E23	貯蔵穴？	晩期	SK27	D19	墓？	晩期	SK49	F32	墓	晩期後葉
SK07	E23	貯蔵穴？	晩期	SK28	E11	墓	晩期	SK54	F12	不明	－
SK08	E23	墓(貯蔵穴転用)	晩期	SK29	E11	墓	晩期	SK57	E11	貯蔵穴？	縄文
SK09	E13	不明	晩期	SK30	E49	貯蔵穴？	晩期前葉	SK59	E29	不明	晩期後葉
SK10	E13	貯蔵穴？	晩期	SK31	E04	貯蔵穴	晩期	SK60	E30	貯蔵穴	縄文
SK11	E24	貯蔵穴	晩期前～中葉	SK32	E25	墓（貯蔵穴転用）	晩期前葉	SK61	E14	不明	縄文
SK12	D19	不明	晩期	SK33	E25	貯蔵穴	晩期	SK62	E15	貯蔵穴？	縄文
SK13	E23	貯蔵穴	晩期前葉	SK34	F41	不明	弥生中期	SK65	E30	貯蔵穴？	縄文
SK14	D09	墓？	晩期	SK35	E49	不明	縄文	SK67	E49	墓	晩期後葉～弥生初
SK15	D08	貯蔵穴？	晩期	SK36	E09	貯蔵穴？	晩期	SK69	E19	貯蔵穴？	縄文
SK16	D10	墓	晩期	SK37	E09	貯蔵穴	晩期	SK70	E49	貯蔵穴？	晩期前～中葉
SK17	E03	貯蔵穴？	晩期	SK38	E29	貯蔵穴？	晩期前葉	SK71	E49	貯蔵穴？	晩期中葉
SK18	E03	貯蔵穴	晩期前～中葉	SK39	E16	貯蔵穴	晩期前葉	SK72	F15	不明	－
SK19	E04	墓(貯蔵穴転用)	晩期前葉	SK40	E29	墓？	晩期後葉～弥生初	SK73	E39	貯蔵穴？	縄文
SK20	D08	墓？	晩期	SK41	E30	不明	晩期後葉	SK74	E02	墓	晩期

の転用墓、粗製の深鉢を棺とした土器棺墓がある。検出数は、土坑墓が14基、転用墓３基、土器棺墓１基である。

土坑墓は本次調査区西部に11基纏まっている。SK22内で全面赤彩された浅鉢（a177）が１点出土しており晩期前半に帰属する可能性が高い。その他の土坑墓は堆積土中に遺物をほとんど含まないため個々の帰属時期は決め難いが、密集するものの互いに重複しないことから、SK22と近い時期のものと推測される。一方で東部には第６次調査で検出されたSK49も含め、大洞A′式期～弥生時代初頭の土坑墓が３基ある。

これら土坑墓の規模は一定しないが、小判形平面の長軸が北西－南東軸上（N-46 ～ 87°-W）にある特徴は、集落内での何らかの規制の存在を物語る。墓の配置については信仰対象の山の方向に頭部を向けるなどの説があるが、これが本遺跡で成立するかは周辺地区の調査進展を待ちたい。また西部の土坑墓と貯蔵穴と主体時期が同じであれば、互いに分布域が重ならないことから、墓域と貯蔵域の分離が窺える。

フラスコ状土坑転用墓は、SK19内で略完形の注口土器（a174）に蓋をした事例や、SK32内で舟形土製品（d26）が出土する例がそれである。西部墓域のSK22と同様晩期前半に位置づけられるが、転用墓から出土した土器の方が若干古い様相を示す。

土器棺墓は、大船渡市大洞貝塚出土例などから主に子供の骨を収めたものではないかと考えられてきた。本遺跡のSR04出土人骨は、若い成人の特徴があり、土器棺被葬者が幼児に限定されるものではないことが判明した。

焼土遺構

焼土遺構SN01 ～ 06からは大量の植物遺体と動物骨が検出された。植物遺体はオニグルミ主体である。動物骨では哺乳類の四肢骨、ニホンジカ、ヘビ、カエル、コイ科魚骨、ギバチが検出された。それらは被熱しているものも多い。食材の存在から、これら焼土遺構は調理場跡と考えられる。大型焼土SN01には石棒が据えられるように置かれていたが、この石棒（e168）は被熱痕跡があった。石棒の設置が調理場廃絶に伴う奉納的意味合いをもつ祭祀痕跡かどうかは判断しがたいが、焼土遺構群とその周辺からは、精製浅鉢・石棒・円板状石器・土製円板がまとまって出土しており、竪穴建物に伴う生活用具の組成とは異なることは注目すべき現象である。微地形で見ると、焼土遺構群は本次調査区内で最も標高の高い開けた場所にあることと、その規模から、集落内広場における、調理・共同飲食の場の痕跡と想定される。

焼土遺構内からのコイ科魚骨及びギバチの検出は貴重な発見である。これにより生業内に河川漁撈が取り入れられていることが判断できる。この解釈を支持する資料として、フラスコ状土坑転用墓から舟形土製品（d26）が出土しており、和船の形態が表現されている。沈線文様による舟底の表現（板材を表現か？）は、縄文後期の北海道函館市石倉貝塚出土の舟形土製品にも描かれており、比較資料としても貴重な発見となった。なお、本遺跡38次調査でも大型舟形土製品が出土している。以上のことから、本遺跡と北上川との密接な関係性の窺われる資料が蓄積されたと言える。

（３）出土遺物と包含層の形成について

本次調査区で出土した縄文～弥生時代の遺物は、土器の総重量955kg、土製品105点（粘土塊を除く）、石器類3,936点（剥片2,875点を含む）、炭化種実、骨類である。

土器は、縄文時代早期後葉、中期中葉、晩期～弥生時代初頭、弥生時代中期のものが出土している。早期後葉の土器は細隆起線文を持つ槻木１式段階のもので、小片が２点晩期の土坑堆積土中に含まれ

ていた。晩期の土器は、大洞BからA′式期まで途切れることなく出土しており、出土総量のほとんどを占める。特に大洞B ～ BC期と大洞C2 ～ A式期に遺物量が増え、両者では後者の方がさらに出土量が多い。

これらの遺物は、総量のうち約９割が遺構外、遺物包含層より出土している。縄文時代晩期～弥生時代の包含層は基本土層Ⅱ層下部～Ⅲ層、調査区中央～東部に厚く堆積する。分布密度は高く、畑耕作による削平を受けているものの層厚30 ～ 70㎝を有する。

包含層の形成を時期別にみていくと晩期前半はEグリッド内、後半はE・Fグリッド境界付近、弥生時代以降はFグリッドと、その形成範囲が時代を追うごとに東側、北上川寄りへと移っていく。これに既述の遺構分布を重ねていくと､各時期の遺構分布と包含層の形成範囲は概ね一致する。つまり、本次調査区の遺物包含層は、特定の廃棄場に持っていくことで形成されたものではなく、遺構周辺に廃棄物を捨てて形成されたと考えられる。そのため、各遺構周辺に比較的厚めの包含層が形成されたと想定される。

２　奈良～平安時代

（１）奈良時代の遺構と遺物

竪穴建物SI03・SI05・SI06の３棟が該当する。本県の奈良時代竪穴建物の多くは、北～西壁のほぼ中央に長煙道カマドが設置される。SI06はその特徴に合致する。また、SI03・SI05はカマドが設置されていないか攪乱により消失したと考えられる検出状況であった。SI03の遺物は坏類が重なった状態で出土し、貯蔵穴状の土坑（K01）からも多数の土器が出土した。底面上に若干の炭化物が検出され､火災建物の可能性を考慮したが､判断に至らなかった。SI05は壁外柱穴が伴うか判断できなかったが、床面に至るステップ状の昇降施設があった。地下室とするには浅すぎるため何らかの上屋があると想定される。そのため方形土坑ではなく、竪穴建物と捉えて報告することとした。床面中央には土師器壺・甕などの生活道具のほか、拳大礫が散乱していた。

遺物は土師器が出土している。当地域の奈良時代前半の土器様相は、平底もしくは平底風有段坏や頸部有段の甕が主体となり、わずかに丸底坏が伴うもので、それが後半になると有段部が顕著でない平底・平底風坏と甕が主体となる。SI06出土資料が前者、SI03・SI05出土資料が後者の特徴を有し、８世紀中葉～後半と考えられる。本遺跡の奈良時代後半の集落は、過去の調査で検出された火災建物の存在から、789年（延暦８年）の巣伏の戦いで被害にあった可能性が指摘されている。本次調査区では明確な火災建物が存在しないため、その検証には至らなかった。巣伏の戦いに限らず、奈良時代後半の当地域は情勢不安定なため、８世紀後半～ 802年（延暦21年）の阿弖流為・母礼の降伏までの期間は火災や破壊された建物の存在を否定できない。今後の更なる調査によって、そのような被災痕跡の有無の議論が深まることを期待する。

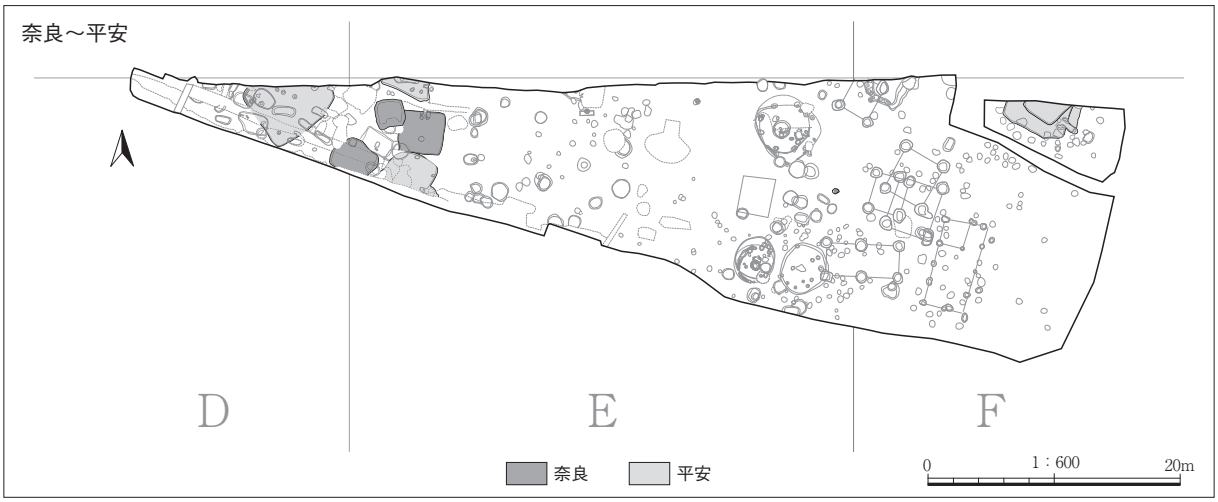
特徴的な資料としては、遺構外から赤彩土器の胴部片が出土している。奈良時代の赤彩土器は彩色文様を有するものが含まれ「蝦夷の儀器」とも目されている。近年東北北部の古代赤彩土器の再集成が行われており、それによれば奈良時代後半以降の赤色文様のある土器は、北上川河道に近接した地域に分布するとされ、胆沢地域でも本遺跡、佐野原遺跡、北鵜ノ木遺跡などで出土している。

（２）平安時代の遺構と遺物

竪穴建物SI01・SI02・SI04・SI7a・SI7b・SI10の６棟が該当する。本県の平安時代竪穴建物の多くは、東～南壁に長煙道カマドが設置される。SI01・SI02・SI04・SI7a・SI7bはその特徴に合致する。カマド燃焼部はすべて崩落しており、中でもSI04は袖石を抜き取って完全に破壊されていた。また、SI01・SI07a・SI07bのカマドの残存状態が悪く判断しがたいが、その残存状態から同様の破壊が行われたと考えられる。奈良時代までのカマド廃絶祭祀はカマド内に使用した土師器を再設置するもの、祭祀用の土製品を置くもの等の事例が散見され、遺棄されて自然崩落により燃焼部の天井が落ちた状態のものが多い。しかし、平安時代のカマド廃絶祭祀は、燃焼部を完全に取り去るものが多い。本次調査区においても、平安時代のカマドは、それらの特徴を有する。

出土遺物は、緑釉陶器・須恵器・土師器・鉄製品が出土している。これらが纏まりをもっているのが、SI01・SI02であり、この２棟は同時期に位置づけられる。緑釉陶器は高台部の形状によって時期が判断できるが、SI02出土の緑釉陶器埦（c1）は、愛知県猿投窯産で９世紀前葉の黒笹－14号窯式と９世紀後半の黒笹－90号窯式の中間的形状である。したがって、大まかにはSI02の年代を９世紀中葉と捉えた。緑釉陶器埦は輪花文が描かれており、同文様の皿が宮城県多賀城跡や奥州市胆沢地区石田Ⅰ・Ⅱ遺跡でも出土している。緑釉陶器は当時の高級品で、奥州市内では胆沢城跡とその周辺の拠点的集落や寺院からも出土している。

他に墨書土器がSI01・02に纏まりを持つ。SI01からは、「寛」が３点、SI02からは「寺」１点、「舘」・「館」計３点が出土した。また、刻書で「西」がSI02から１点出土している。２棟間で共通した文字がないことも特徴である。「寛」は北上川沿いの集落遺跡でも出土しており注目される。「やすらぐ」「くつろぐ」場所を示す可能性があり仏教的用語と考えられるが、詳細は不明である。「寺」は寺院か寺院付属施設であることを示す可能性があり、奥州市内では胆沢扇状地の拠点的集落の中半入遺跡で出土した。「舘」は非常に珍しい。東北地方では秋田県秋田城跡・同県払田柵跡・宮城県多賀城跡・同県東山遺跡など、官衙での出土が報告されている。「舘」の事例に着目した研究（田中2006）によれば、国司等の有力官人が管轄領内を廻るときに宿泊する私的な建物の可能性があるという。９世紀中葉以降の有力者の邸宅は掘立柱建物が多いので、これらの墨書土器が出土したSI01・02竪穴建物は、居宅に付属する建物の可能性も考えられる。現段階では本遺跡に有力官人の居宅があったか定かではないが、隣接地区を調査するときは、今回の成果を念頭に置いて母屋となる掘立柱建物跡が検出されるか検討が必要であろう。



第208図　時期別遺構分布図（奈良・平安）

引用・参考文献

【発掘調査報告書等】
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000『川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書』317集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『河崎の柵擬定地発掘調査報告書』274集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『大橋遺跡発掘調査報告書』481集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006『金附遺跡発掘調査報告書』482集
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2010『雨滝遺跡発掘調査報告書』562集
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2015『石田Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』632集
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2016『千苅遺跡発掘調査報告書』第652集
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017『中村遺跡発掘調査報告書』第671集
【論文・研究報告】
伊藤博幸 2010「コラム　土器の年代決定」『東北の古代遺跡 －城柵・官衙と寺院－』 高志書院
伊藤博幸 2016「熊谷公男・樋口知志・鈴木拓也・伊藤博幸・八木光則　座談会　アテルイの歴史像」『アテルイと東北古史』 高志書院
稲野彰子 1987「岩版・土版の懸垂孔について」『北上市立博物館研究報告』第６号　北上市立博物館
金子昭彦 1991「大洞Ｂ2式の磨消縄文について（上）－東北地方北部を中心として－」『紀要』ＸＩ　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦 1992「大洞Ｂ2式の磨消縄文について（中）－東北地方北部を中心として－」『紀要』ＸⅡ　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦 1993「大洞Ｂ2式の磨消縄文について（下）－東北地方北部を中心として－」『紀要』ＸⅢ　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
金子昭彦 1995「岩手県上鷹生遺跡における土器口縁部の突起－大洞式前半の突起の事例研究－」『紀要』ＸＶ　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
小林圭一 2003「東北北半における縄文晩期前葉の注口土器」『研究紀要』創刊号　（財）山形県埋蔵文化財センター
小林圭一 2004「岩手県安代町曲田Ⅰ遺跡出土の晩期縄文土器（前編）－ＥⅢ－011住居跡出土遺跡の再検討－」『研究紀要』第２号　（財）山形県埋蔵文化財センター
小林圭一 2005「岩手県安代町曲田Ⅰ遺跡出土の晩期縄文土器（後編）－ＥⅢ－011住居跡出土遺跡の再検討－」『研究紀要』３号　（財）山形県埋蔵文化財センター
小林圭一 2006「山形県天童市宮田遺跡から採集された縄文時代晩期前葉の注口土器」『研究紀要』第４号　（財）山形県埋蔵文化財センター
小林圭一 2008「大洞BC式に固有の入組三叉文高坏について」『研究紀要』第５号　（財）山形県埋蔵文化財センター
杉本　良 1998「岩手県北上盆地における蝦夷（エミシ）集団の動態」『考古学研究』45－１　考古学研究会
杉本　良 2001「赤彩球胴甕再考（１）『北上市立博物館研究報告』13号　北上市立博物館
杉本　良 2002「赤彩球胴甕再考（２）―分布とその傾向（和賀川流域編）―」『北上市立埋蔵文化財センター紀要』２　北上市立埋蔵文化財センター
杉本　良 2017「赤彩球胴甕とは何か」『 「俘囚・夷俘」とよばれたエミシの移配と東国社会』帝京大学文化財研究所・山梨考古学協会
高瀬克範 2000「東北地方における弥生土器の形成過程」『国立歴史民俗博物館研究報告』第83集
高橋静歩 2007「東北地方北部の赤彩土師器から蝦夷集団の動向を探る」『岩手考古学』19　岩手考古学会
高橋千晶 2007「第Ⅱ章　東北・北海道における６～８世紀の土器変遷と地域の相互関係　vii.岩手県南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）研究成果報告書
高橋龍三郎 1993「大洞Ｃ２式土器細分のための諸課題」『先史考古学研究』第４号　阿佐ヶ谷先史学研究会
田中広明 2006『国司の館　―古代の地方官人たち―』 学生社
西澤正晴 2002「第５章 第２節（４）鉄製品」『島田Ⅱ遺跡第２～４次発掘調査報告書』第450集（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
藤沼邦彦・関根達人 2008「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『総覧 縄文土器』
藤村東男 1987「岩手県九年橋遺跡出土の深鉢形土器について」『萌木22』

星雅之・佐藤里恵　2011「縄文時代早期後葉槻木１式とムシリ1式について ―岩手県内の事例を中心に―」『紀要』30（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
丸山直美 2017「Ｖ１ (1)古代の遺物」『中村遺跡発掘調査報告書』第671集（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
八木光則 2014「９～11世紀の土器編年構築と竪穴建物跡等集成からみた各地区の特質　9.胆沢・江刺・磐井地区」『９～11世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質から見た、北東北世界の実態的研究』 2011～2013年度明治大学大久保忠和考古学振興基金奨励研究研究成果報告書
山内清男 1930「所謂亀ケ岡式土器の分布と縄文式土器の終末」『考古学』第１巻 第３号　東京考古学会
米田寛・高橋静歩・河本純一・佐々木あゆみ・酒井野々子　2017「岩手県における古墳時代～平安時代の赤彩土器研究（１）―石田Ⅰ・Ⅱ遺跡、古舘Ⅱ遺跡、千苅遺跡資料を中心に―」『紀要』36（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
米田寛・高橋静歩・河本純一　2018「岩手県における古墳時代～平安時代の赤彩土器研究（２）―東北地方北部の赤彩土器を探る―」『紀要』37（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
米田寛・高橋静歩　2018「岩手県における古墳時代～平安時代の赤彩土器について」『第81回蝦夷研究会発表資料』蝦夷研究会
米田寛・高橋静歩・河本純一　2019「岩手県における古墳時代～平安時代の赤彩土器研究（３）」『紀要』38（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター